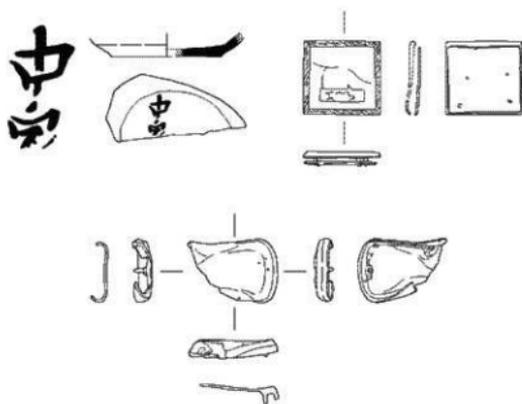


うま こし い せき  
馬 越 遺 跡 III

— 県営吉津川地区ほ場整備事業及び送ガス管移設工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書 —



2010

新潟県加茂市教育委員会

うま　こし　い　せき  
馬　越　遺　跡　Ⅲ

— 県営吉津川地区ほ場整備事業及び送ガス管移設工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2010

新潟県加茂市教育委員会



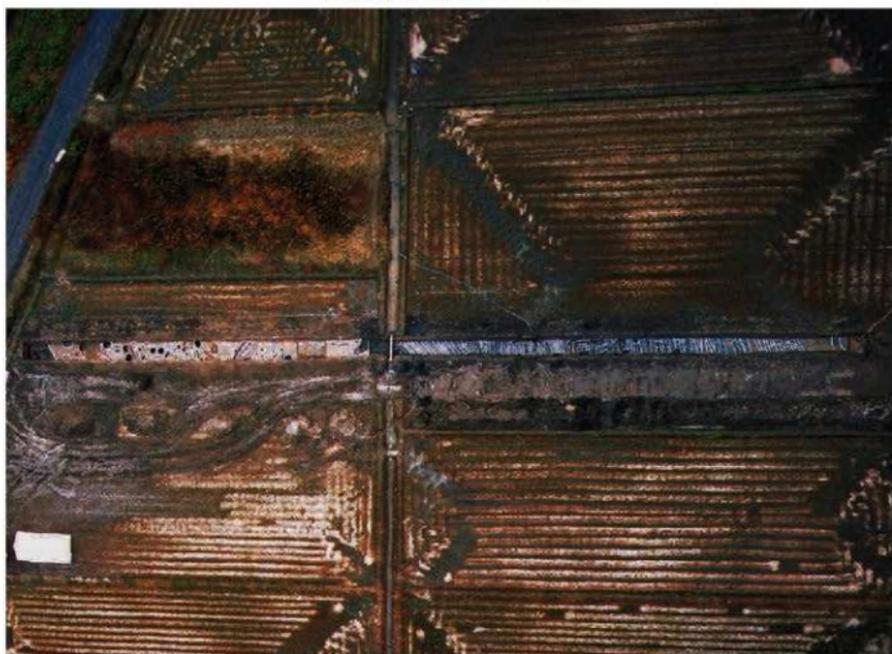
馬越道路遠景 空中写真（西から）



馬越道路遠景 空中写真（南西から）



C区 (2005年) 全景 空中写真 (西から)



C区 (2005年) 全景 空中写真 (北から)



D区 全景 空中写真 (西から)



J・K区 全景 空中写真 (南西から)



A区 河川1・2 遺物出土状況(南から)



C区下層 断面(北西から)



C区上層 SE2 木16出土状況(北から)



C区下層 SE7 断面(南から)



C区下層 SE14 断面(南から)



F区 SD10 木5出土状況(南から)



I区 SB1 全景(西から)



I区 SB1-3 (SP50) 断面(南から)



J区 SEB7 断面(東から)



J区 SD71 遺物出土状況(南東から)



「若」(474)・「中家」(457) 墨書土器



鈔等金具(1・2)

## 序

平成8年から平成18年にかけて、一般国道403号線道路改良事業と吉津川地区  
県営ほ場整備事業に係わり、馬越遺跡の確認調査と本調査が実施されてきました。そ  
の成果につきましては適宜報告書にまとめられているところであります。

馬越遺跡は、古墳時代からの活動痕跡が確認され、奈良・平安時代を主体時期とし  
た遺跡と位置付けられています。その河川跡や建物跡の調査から、奈良時代の集落跡  
であることが一層明らかになってまいりました。

加茂市域は「青海郷」の有力な比定地とされていることは周知の通りですが、長岡  
市の八幡林遺跡から出土した木簡から「高志君大虫」と「青海郷」の名前が発見され、  
一躍脚光を浴びました。近年は遺跡分布状況も変化し、遺跡の内容も各地でかなり蓄  
積されつつあることから、「青海郷」についての新しい視点もこれから見えてくるの  
ではないでしょうか。

今回の発掘調査では、新たに「中家」墨書土器や「帯金具」など、貴重な遺物が出  
土しました。また、これまでにおける加茂市内の中世の遺跡は、発掘調査の事例がご  
く限られたものでしたが今回の一連の調査により、中世史の解明にとっても貴重な資  
料を多数得ることができました。

本書が当地域の学習、研究資料として多くの皆様に活用され、埋蔵文化財に対する  
理解と保存意識の高揚のために役立つことができれば幸いです。

最後に、発掘調査に対してご指導とご協力を頂いた新潟県教育庁文化行政課、並び  
に発掘調査と整理作業に参加された地元の方々、また、発掘調査から本報告書刊行に  
至るまで各段のご配慮を賜った新潟県三条地域振興局農業振興部、石油資源開発株式  
会社長岡鉱業所に対して厚くお礼申し上げます。

平成22年3月

加茂市教育委員会

教育長 井上信二

## 例 言

- 1 本書は新潟県加茂市大字下条字馬越地区内に所在する馬越遺跡の発掘調査報告書である。報告書名は、同一遺跡の発掘調査報告書であることから、『馬越遺跡』（2005年刊行）、『馬越遺跡Ⅱ』（2009年刊行）に続く『馬越遺跡Ⅲ』とした。
- 2 調査は県営吉津川地区ほ場整備事業及び送ガス管移設工事に伴い、加茂市が新潟県及び石油資源開発（株）長岡鉱業所から委託を受け、加茂市教育委員会が平成17年9月29日～平成17年11月14日と平成18年8月7日～平成18年11月17日にかけて実施したものである。調査面積は約3,615㎡である。
- 3 調査に要した経費は、平成17年度は90%を事業主体である新潟県（担当 三条地域振興局）が負担し、工事費の農家負担分である10%を文化財保護担当部局としての加茂市が、50%は文化庁、15%は新潟県から補助金の交付を受けて支出した。平成18年度から平成21年度は、新潟県および石油資源開発（株）長岡鉱業所それぞれが全体工事面積に占める各自工事分の責任面積から負担割合を決め、平成18年度が調査に要した経費の11.9%、平成19～21年度が10.3%を石油資源開発（株）長岡鉱業所が負担し、それを差し引いた経費を平成17年度同様の負担区分により支出した。
- 4 平成17・18年度に発掘調査を、平成17～21年度にかけて整理作業及び報告書作成を行った。発掘調査と整理作業の体制は第三章に記した。
- 5 調査記録図面・写真類、出土遺物は一括して加茂市教育委員会が保管している。遺物の注記記号は「UK」とし、出土区・出土遺構及び位置・取り上げ日などを記した。
- 6 本書で示す方位は全て真北である。
- 7 挿図に使用した既存図面については、その出典を記した。
- 8 本書に掲載した遺物は種別毎に通し番号を付し、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて同一としている。
- 9 写真図版1上段の空中写真は（財）日本地図センター発行で、建設省国土地理院が昭和40年10月に撮影したものを使用した。縮尺は約1/20,000である。巻頭図版1及び写真図版1下段の空中写真は平成10・11年度に朝日航洋（株）が撮影したものを使用した。
- 10 引用・参考文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕で文中に示し、巻末に一括して掲載している。ただし、第六章自然科学分析は引用文献を節毎の末尾にそれぞれ記した。
- 11 本報告書の編集・執筆は全て伊藤秀が行ったが、第六章については、ハリノ・サーヴェイ（株）と漆器文化財科学研究所四柳嘉章氏に資料を委託し、同社及び四柳氏より原稿を頂いた。
- 12 本報告書掲載遺物のうち、土器、石製品、土製品、木製品、金属製品の一部についての実測作業は（株）セビアス及び（株）イビソク、遺構観察表作成の一部については（株）イビソク、遺物写真撮影は（株）セビアスに委託した。写真図版83の金属製品X線写真は（株）吉田生物研究所、木簡赤外線写真は田中一徳氏（当時新潟県埋蔵文化財調査事業団）が撮影した。
- 13 金属製品及び木製品の一部について、遺物保存処理を（株）吉田生物研究所に委託した。
- 14 挿図、遺構図版、遺物図版の製図、図面図版・写真図版の版組み及び全体のデジタル編集・データ化は、（株）セビアスに委託した。
- 15 須恵器の産地、須恵器・土師器の年代については春日真実氏（新潟県埋蔵文化財調査事業団）、木簡及び墨書土器については田中一徳氏からご指導・教示を頂いた。
- 16 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の諸氏から多大な御教示・御協力を賜った。厚く御礼申し上げる次第である。（敬称省略・五十音順、機関などは順不同）  
相沢 央・青山誠八・安藤正美・池野芳男・小熊博史・尾崎高宏・春日真実・鹿取 渉・金子拓男・桑原正史  
小林昌二・坂井秀弥・坂上有紀・桜岡正信・笹澤正史・関 正平・高花宏之・田中一徳・田中 靖・田村浩司  
立木宏明・福田仁史・水澤幸一・宮田志保・四柳嘉章  
石油資源開発（株）長岡鉱業所・（株）ジャベックスパイプライン・社団法人加茂市シルバー人材センター  
（株）渡辺建材・（株）涌井建設工業・（株）涌井組・（株）イビソク・（株）セビアス・加茂市農林課・三条土地改良区  
新潟県三条地域振興局・新潟県教育庁文化行政課・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・加茂市文化財調査審議会

# 目 次

## 第I章 序 説

- 1 馬越遺跡の発見と既往の調査について……………1
- 2 調査に至る経緯……………1

## 第II章 遺跡の位置と歴史的環境

- 1 馬越遺跡の地理的環境……………6
- 2 馬越遺跡周辺の古墳時代～古代遺跡……………9

## 第III章 発掘調査の概要

- 1 確認調査の概要……………14
- 2 発掘調査方法とグリッドの設定……………15
- 3 発掘調査・整理作業の経過……………18
  - A 発掘調査の経過……………18
  - B 整理作業の経過……………21
- 4 発掘調査・整理作業の体制……………21
- 5 遺跡の概要……………24
- 6 地形と基本土層……………24

## 第IV章 遺 構

- 1 遺構の概要……………27
- 2 記述の方法と遺構の分類……………27
  - A 掘立柱建物跡……………28
  - B 井戸・土坑・不明遺構・ピット……………28
  - C 溝・河川（自然流路）……………29
- 3 A区の遺構……………29
  - A A区の概要……………29
  - B A区遺構各説……………29
    - 1) 溝 (SD)……………29
    - 2) 河 川……………30
- 4 B区の遺構……………30
  - A B区の概要……………30
  - B B区遺構各説……………30
    - 1) 土 坑 (SK)……………30
    - 2) 溝 (SD)……………30
    - 3) ピ ッ ト (SP)……………31
    - 4) 河 川……………32
- 5 C区上層の遺構……………32
  - A C区上層の概要……………32
  - B C区上層遺構各説……………32
    - 1) 井 戸 (SE)……………32
    - 2) 土 坑 (SK)……………33
    - 3) 不明遺構 (SX)……………33
    - 4) 溝 (SD)……………33

5) ビット (SP) .....	34	6) 河 川 .....	34
6 C区下層の遺構 .....	35		
A C区下層の概要 .....	35		
B C区(2005年)下層遺構各説 .....	35		
1) 井 戸 (SE) .....	35	2) 土 坑 (SK) .....	35
3) 溝 (SD) .....	36	4) ビット (SP) .....	37
C C区(2006年)下層遺構各説 .....	37		
1) 井 戸 (SE) .....	37	2) 土 坑 (SK) .....	38
3) 溝 (SD) .....	38	4) ビット (SP) .....	38
7 D区の遺構 .....	38		
A D区の概要 .....	38		
B D区遺構各説 .....	38		
1) 土 坑 (SK) .....	38	2) 溝 (SD) .....	38
3) ビット (SP) .....	39		
8 E区上層の遺構 .....	39		
A E区上層の概要 .....	39		
B E区上層遺構各説 .....	40		
1) 井 戸 (SE) .....	40	2) ビット (SP) .....	40
9 E区下層の遺構 .....	40		
A E区下層の概要 .....	40		
B E区下層遺構各説 .....	40		
1) 土 坑 (SK) .....	40	2) 溝 (SD) .....	40
3) 河 川 .....	40		
10 F区の遺構 .....	41		
A F区の概要 .....	41		
B F区遺構各説 .....	41		
1) 土 坑 (SK) .....	41	2) 溝 (SD) .....	41
3) ビット (SP) .....	42	4) 河 川 .....	42
11 G区の遺構 .....	43		
A G区の概要 .....	43		
B G区遺構各説 .....	43		
1) 溝 (SD) .....	43	2) 河 川 .....	43
12 H区の遺構 .....	44		
A H区の概要 .....	44		
B H区遺構各説 .....	44		
1) 土 坑 (SK) .....	44	2) 河 川 .....	44
13 I区の遺構 .....	45		
A I区の概要 .....	45		
B I区遺構各説 .....	45		
1) 掘立柱建物跡 (SB) .....	45	2) 土 坑 (SK) .....	45
3) 不明遺構 (SX) .....	45	4) 溝 (SD) .....	45
14 J区の遺構 .....	46		
A J区の概要 .....	46		
B J区遺構各説 .....	46		
1) 井 戸 (SE) .....	46	2) 土 坑 (SK) .....	46
3) 溝 (SD) .....	47	4) ビット (SP) .....	47
15 K区の遺構 .....	47		
A K区の概要 .....	47		

B K区遺構各説	48		
1) 土坑 (SK)	48	2) 溝 (SD)	49
3) ビット (SP)	50		
16 その他			50

## 第V章 遺物

1 遺物の概要	51		
2 古墳時代の土器	51		
A 記述の方法	51		
B 土器の器種分類	51		
C 遺物各説	53		
1) A区出土土器	53	2) B区出土土器	54
3) G区出土土器	55	4) H区出土土器	55
5) J区出土土器	55	6) 立会い調査出土土器	55
3 奈良・平安時代の土器	55		
A 記述の方法	56		
B 土器の器種分類	59		
1) 灰胎・緑釉陶器	59	2) 須恵器	59
3) 土師器	60	4) 黒色土器	62
C 遺物各説	64		
1) A区出土土器	64	2) B区出土土器	64
3) C区上層出土土器	66	4) C区(2005年)下層出土土器	66
5) C区(2006年)下層出土土器	68	6) D区出土土器	69
7) E区下層出土土器	70	8) F区出土土器	72
9) G区出土土器	72	10) I区出土土器	73
11) J区出土土器	73	12) K区出土土器	76
13) 立会い調査出土土器	78		
4 鎌倉・室町時代の土器	79		
1) B区出土土器	79	2) C区上層出土土器	79
3) E区下層出土土器	80	4) F区出土土器	80
5) K区出土土器	81	6) 立会い調査出土土器	81
5 土製品	81		
6 金属製品	81		
7 石製品	82		
8 木製品	82		
9 自然遺体	86		

## 第VI章 自然科学分析

1 馬越遺跡の自然科学分析の概要	87		
2 分析結果	87		
A 平成18年度馬越遺跡の自然科学分析	87		
1) はじめに	87	2) 骨同定	87
B 平成19年度馬越遺跡の自然科学分析	90		
1) はじめに	90	2) 花粉分析・植物珪酸体分析	90
3) 植物遺体	94	4) 木材利用	95

C 平成 20 年度馬越遺跡の自然科学分析	100
1) はじめに	100
2) 木製品の樹種	100
3) 骨 同 定	105
D 加茂市馬越遺跡出土漆器（平成 18 年度）の科学分析	108
1) 分析の方法	108
2) 分析結果	108
3) 小 結	116

## 第七章 ま と め

1 井戸跡について	121
2 土 器	127
A 古墳時代中期の土器について	127
B 平安時代の土器について	128
C 胎土 E 群須恵器について	134
3 主要墨書土器などから見た馬越遺跡について	136
《要 約》	139
《引用・参考文献》	140
《別 表》	144
1 遺構観察表	144
2 主要遺構出土土器器種構成率	164
3 土器観察表	165
4 土製品観察表	177
5 金属製品観察表	178
6 石製品観察表	178
7 木製品観察表	178

## 挿 図 目 次

第 1 図 馬越遺跡既往調査区 (S=1:4,000)	2	第 15 図 包含層のグリッド別土器出土重量分布図 (2)	(S=1:1000)	58
第 2 図 調査区域按分平面・断面図	4	第 16 図 馬越遺跡古代土器器種分類図 (1) (S=1:6)		61
第 3 図 馬越遺跡の位置図 (S=1:50,000)	7	第 17 図 馬越遺跡古代土器器種分類図 (2) (S=1:6)		63
第 4 図 馬越遺跡周辺の地形分類図 (S=1:50,000)	7	第 18 図 馬越遺跡古代土器器種分類図 (3) (S=1:6)		64
第 5 図 馬越遺跡周辺の旧地形図 (S=1:30,000)	8	第 19 図 馬の骨格		88
第 6 図 馬越遺跡周辺の古墳時代～古代遺跡分布図 (S=1:30,000)	10	第 20 図 馬の上顎骨・下顎骨の概念図		88
第 7 図 馬越遺跡と八幡林官街遺跡位置図 (S=1:300,000)	13	第 21 図 骨		89
第 8 図 馬越遺跡確認調査トレンチ及び立会い調査区位置図 (S=1:4,000)	14	第 22 図 花粉化石群集の層位分布		92
第 9 図 馬越遺跡グリッド設定図 (S=1:2,500)	16	第 23 図 植物珪酸体群集の層位分布		92
第 10 図 地形と旧河川跡 (S=1:2,500)	26	第 24 図 花粉化石・植物珪酸体・木材 (1)		99
第 11 図 遺構の形状分類模式図	28	第 25 図 木材 (2)		100
第 12 図 馬越遺跡 I 区 SB4 平面図	48	第 26 図 木材・骨		107
第 13 図 馬越遺跡古式土器器種分類図 (S=1:6)	54	第 27 図 赤外線吸収スペクトル		113
第 14 図 包含層のグリッド別土器出土重量分布図 (1) (S=1:1000)	57	第 28 図 蛍光 X 線スペクトル (1)		114
		第 29 図 蛍光 X 線スペクトル (2)		115
		第 30 図 分析漆器実測図		115
		第 31 図 漆器塗膜層断面の顕微鏡写真 (1)		118
		第 32 図 漆器塗膜層断面の顕微鏡写真 (2)		119

第33図	漆器塗膜断面の顕微鏡写真(3) ……120
第34図	井戸(古代)の計測値 ……121
第35図	馬越遺跡の井戸と出土遺物(古代) ……123
第36図	井戸(中世)の計測値 ……125
第37図	馬越遺跡の井戸と出土遺物(中世) ……126
第38図	A区河川1・2出土土器組成図 ……127
第39図	主要遺構毎の器種別構成比率図 ……129
第40図	主要遺構毎の全体の種類別構成比率図 ……………130

第41図	主要遺構毎の機能別構成比率図 ……131
第42図	主要遺構毎の食器具の種類別構成比率図 ……………132
第43図	土師器食器具の法量分布図 ……133
第44図	頸城郡産と推測される須志器 ……135
第45図	時期毎の主要土器・ヘラ書き土器と帯金具・ 分銅・木簡 ……137
第46図	主要特殊遺物出土分布図 ……138

## 表 目 次

第1表	馬越遺跡調査履歴一覧表 ……1
第2表	馬越遺跡周辺の古墳時代～古代遺跡一覧表 ……………11
第3表	調査区の概要 ……15
第4表	各区の主なグリッド杭の座標一覧表 ……17
第5表	各区の遺構一覧表 ……27
第6表	調査区及び器種別出土総数一覧表 ……52
第7表	骨同定結果 ……88
第8表	花粉分析結果 ……91
第9表	植物珪酸体分析結果 ……92

第10表	灰像分析結果 ……95
第11表	樹種同定結果 ……96
第12表	時期別種類構成 ……97
第13表	樹種同定結果 ……104
第14表	器種別種類構成(1) ……104
第15表	器種別種類構成(2) ……104
第16表	井戸(古代)の分類 ……121
第17表	馬越遺跡の井戸(古代) ……122
第18表	井戸(中世)の分類 ……125
第19表	馬越遺跡の井戸(中世) ……125

## 図 版 目 次

### 【巻頭図版】

巻頭図版1	遺跡遠景
巻頭図版2	調査区全景(1)
巻頭図版3	調査区全景(2)
巻頭図版4	個別遺構(1)
巻頭図版5	個別遺構(2)
巻頭図版6	出土遺物

### 【図版目次】

図版 1	馬越遺跡調査区位置図(1:2,500)
図版 2	A区 遺構平面図(1:200・1:100)
図版 3	A区 遺構個別実測図1
図版 4	A区 遺構個別実測図2
図版 5	B区 遺構平面図(1:250・1:80)
図版 6	B区 遺構個別実測図1
図版 7	B区 遺構個別実測図2
図版 8	C区上層 遺構平面図(1:150・1:80)
図版 9	C区上層 遺構個別実測図1
図版 10	C区上層 遺構個別実測図2
図版 11	C区上層 遺構個別実測図3
図版 12	C区上層 遺構個別実測図4
図版 13	C区下層 遺構平面図(1:250・1:100)
図版 14	C区下層(2005年調査区)遺構個別実測図1
図版 15	C区下層(2005年調査区)遺構個別実測図2
図版 16	C区下層(2005年調査区)遺構個別実測図3

図版 17	C区下層(2006年調査区)遺構個別実測図4
図版 18	D区 遺構平面図(1:400・1:100)
図版 19	D区 遺構個別実測図1
図版 20	D区 遺構個別実測図2
図版 21	E区上層 遺構平面図(1:80)・遺構個別実測図
図版 22	E区下層 遺構平面図(1:250・1:100)
図版 23	E区下層 遺構個別実測図1
図版 24	E区下層 遺構個別実測図2
図版 25	F区 遺構平面図1(1:500・1:100)
図版 26	F区 遺構平面図2(1:100)
図版 27	F区 遺構個別実測図1
図版 28	F区 遺構個別実測図2
図版 29	F区 遺構個別実測図3
図版 30	G区 遺構平面図(1:400・1:100)
図版 31	G区 遺構個別実測図1
図版 32	G区 遺構個別実測図2
図版 33	H区 遺構平面図(1:250・1:100)
図版 34	H区 遺構個別実測図
図版 35	I区 遺構平面図(1:200・1:100)
図版 36	I区 遺構平面図2(1:100)・I区 遺構個別 実測図1
図版 37	I区 遺構個別実測図2
図版 38	J区・K区 遺構平面図(1:500・1:250)
図版 39	J区 遺構平面図(1:100)

図版 40 J区 遺構個別実測図 1  
 図版 41 J区 遺構個別実測図 2  
 図版 42 J区 遺構個別実測図 3  
 図版 43 K区 遺構平面図 1 (1:100)  
 図版 44 K区 遺構平面図 2 (1:100)・K区 遺構個別実測図 1  
 図版 45 K区 遺構個別実測図 2  
 図版 46 K区 遺構個別実測図 3  
 図版 47 K区 遺構個別実測図 4  
 図版 48 出土遺物 1 A区 (1)  
 図版 49 出土遺物 2 A区 (2)  
 図版 50 出土遺物 3 B区 (1)  
 図版 51 出土遺物 4 B区 (2)  
 図版 52 出土遺物 5 B区 (3)  
 図版 53 出土遺物 6 C区 (2005年) 上層  
 図版 54 出土遺物 7 C区 (2005年) 下層 (1)  
 図版 55 出土遺物 8 C区 (2005年) 下層 (2)  
 図版 56 出土遺物 9 C区 (2005年) 下層 (3)・C区 (2006年) 下層 (1)  
 図版 57 出土遺物 10 C区 (2006年) 下層 (2)・D区 (1)  
 図版 58 出土遺物 11 D区 (2)  
 図版 59 出土遺物 12 E区下層 (1)  
 図版 60 出土遺物 13 E区下層 (2)  
 図版 61 出土遺物 14 E区下層 (3)・F区 (1)  
 図版 62 出土遺物 15 F区 (2)・G区  
 図版 63 出土遺物 16 H区・I区  
 図版 64 出土遺物 17 J区 (1)  
 図版 65 出土遺物 18 J区 (2)  
 図版 66 出土遺物 19 J区 (3)  
 図版 67 出土遺物 20 K区 (1)  
 図版 68 出土遺物 21 K区 (2)  
 図版 69 出土遺物 22 K区 (3)  
 図版 70 出土遺物 23 K区 (4)  
 図版 71 出土遺物 24 立会い (1)  
 図版 72 出土遺物 25 立会い (2)  
 図版 73 出土遺物 26 土製品・金属製品 (1)  
 図版 74 出土遺物 27 金属製品 (2)・石製品 (1)  
 図版 75 出土遺物 28 石製品 (2)・木製品 (1)  
 図版 76 出土遺物 29 木製品 (2)  
 図版 77 出土遺物 30 木製品 (3)  
 図版 78 出土遺物 31 木製品 (4)  
 図版 79 出土遺物 32 木製品 (5)  
 図版 80 出土遺物 33 木製品 (6)  
 図版 81 出土遺物 34 木製品 (7)  
 図版 82 出土遺物 35 木製品 (8)  
 図版 83 出土遺物 36 木製品 (9)  
 図版 84 出土遺物 37 木製品 (10)  
 図版 85 出土遺物 38 木製品 (11)

#### 【写真図版目次】

写真図版 1 馬越遺跡周辺空中写真  
 写真図版 2 A区 調査区全景ほか  
 写真図版 3 A区 基本土層・溝・河川 (1)  
 写真図版 4 A区 河川 (2)  
 写真図版 5 B区 調査区全景ほか  
 写真図版 6 B区 基本土層・溝  
 写真図版 7 B区 ビット・河川  
 写真図版 8 C区 (2005年) 調査風景ほか  
 写真図版 9 C区 (2005年) 上層 調査区全景 (1)  
 写真図版 10 C区 (2005年) 上層 調査区全景 (2)・井戸 (1)  
 写真図版 11 C区 (2005年) 上層 井戸 (2)  
 写真図版 12 C区 (2005年) 上層 井戸 (3)・土坑・不明遺構 (1)  
 写真図版 13 C区 (2005年) 上層 不明遺構 (2)・溝・ビット・河川  
 写真図版 14 C区 (2005年) 下層 調査区全景  
 写真図版 15 C区 (2005年) 下層 井戸・土坑  
 写真図版 16 C区 (2005年) 下層 溝・ビット  
 写真図版 17 C区 (2006年) 下層 調査区全景 (1)ほか  
 写真図版 18 C区 (2006年) 下層 調査区全景 (2)  
 写真図版 19 C区 (2006年) 下層 井戸・溝・ビット  
 写真図版 20 D区 調査区全景 (1)ほか  
 写真図版 21 D区 調査区全景 (2)  
 写真図版 22 D区 調査区全景 (3)ほか  
 写真図版 23 D区 土坑・溝・ビット  
 写真図版 24 E区上層 調査区全景ほか  
 写真図版 25 E区上層 ビット 下層 調査区全景ほか  
 写真図版 26 F区 調査区全景ほか  
 写真図版 27 F区 土坑・溝 (1)  
 写真図版 28 F区 溝 (2)・ビット・河川  
 写真図版 29 G区 調査区全景ほか  
 写真図版 30 G区 河川  
 写真図版 31 H区 調査区全景ほか  
 写真図版 32 I区 調査区全景ほか  
 写真図版 33 I区 掘立柱建物跡ほか  
 写真図版 34 J区 調査区全景 (1)ほか  
 写真図版 35 J・K区 調査区全景 (2)  
 写真図版 36 J区 井戸・土坑 (1)ほか  
 写真図版 37 J区 土坑 (2)・溝 (1)  
 写真図版 38 J区 溝 (2)・ビット  
 写真図版 39 K区 調査風景ほか  
 写真図版 40 K区 調査区全景 (1)  
 写真図版 41 K区 調査区全景 (2)  
 写真図版 42 K区 土坑 (1)ほか  
 写真図版 43 K区 土坑 (2)・溝・ビット  
 写真図版 44 出土遺物 1 A区出土土器 (1)

- 写真図版 45 出土遺物 2 A区出土土器 (2)
- 写真図版 46 出土遺物 3 A区出土土器 (3)・B区出土土器 (1)
- 写真図版 47 出土遺物 4 B区出土土器 (2)
- 写真図版 48 出土遺物 5 B区出土土器 (3)
- 写真図版 49 出土遺物 6 B区出土土器 (4)・C区上層出土土器
- 写真図版 50 出土遺物 7 C区下層出土土器 (1)
- 写真図版 51 出土遺物 8 C区下層出土土器 (2)
- 写真図版 52 出土遺物 9 C区下層出土土器 (3)
- 写真図版 53 出土遺物 10 C区下層出土土器 (4)・D区出土土器 (1)
- 写真図版 54 出土遺物 11 D区出土土器 (2)
- 写真図版 55 出土遺物 12 D区出土土器 (3)・E区出土土器 (1)
- 写真図版 56 出土遺物 13 E区出土土器 (2)
- 写真図版 57 出土遺物 14 E区出土土器 (3)
- 写真図版 58 出土遺物 15 E区出土土器 (4)・F区出土土器 (1)
- 写真図版 59 出土遺物 16 F区出土土器 (2)・G区出土土器
- 写真図版 60 出土遺物 17 H区出土土器・I区出土土器 (1)
- 写真図版 61 出土遺物 18 I区出土土器 (2)・J区出土土器 (1)
- 写真図版 62 出土遺物 19 J区出土土器 (2)
- 写真図版 63 出土遺物 20 J区出土土器 (3)
- 写真図版 64 出土遺物 21 J区出土土器 (4)
- 写真図版 65 出土遺物 22 K区出土土器 (1)
- 写真図版 66 出土遺物 23 K区出土土器 (2)
- 写真図版 67 出土遺物 24 K区出土土器 (3)
- 写真図版 68 出土遺物 25 K区出土土器 (4)
- 写真図版 69 出土遺物 26 K区出土土器 (5)
- 写真図版 70 出土遺物 27 K区出土土器 (6)・立会い出土土器 (1)
- 写真図版 71 出土遺物 28 立会い出土土器 (2)
- 写真図版 72 出土遺物 29 立会い出土土器 (3)・土製品・金属製品 (1)
- 写真図版 73 出土遺物 30 金属製品 (2)・石製品 (1)
- 写真図版 74 出土遺物 31 石製品 (2)・木製品 (1)
- 写真図版 75 出土遺物 32 木製品 (2)
- 写真図版 76 出土遺物 33 木製品 (3)
- 写真図版 77 出土遺物 34 木製品 (4)
- 写真図版 78 出土遺物 35 木製品 (5)
- 写真図版 79 出土遺物 36 木製品 (6)
- 写真図版 80 出土遺物 37 木製品 (7)
- 写真図版 81 出土遺物 38 木製品 (8)
- 写真図版 82 出土遺物 39 木製品 (9)
- 写真図版 83 出土遺物 40 金属製品X線写真・木簡  
赤外線写真 墨書土器

# 第 I 章 序 説

## 1 馬越遺跡の発見と既往の調査について (第 1 図・第 1 表)

馬越遺跡の発見、周知化は、平成 7 年に新潟県教育委員会主催による詳細分布調査により成された。これ以後、平成 8 年から平成 18 年にかけて一般国道 403 号線道路改良事業と吉津川地区県営ほ場整備事業に係わり確認調査と本調査が実施されてきた。既にその成果については報告書が刊行され、本遺跡が古代青海郷の加茂市域を代表する重要な遺跡であることが判明している。

一般国道 403 号線道路改良事業地内においては、平成 8 年、9 年、16 年の 3 度にわたる合計 130 トレンチ、約 544m<sup>2</sup> の確認調査を踏まえ、平成 10 年、11 年、18 年に合計約 14,617m<sup>2</sup> の本発掘調査が行われた。報告書は平成 17 年、21 年に刊行されている [伊藤 2005a・2009]。吉津川地区県営ほ場整備事業地内においては、平成 10 年、12 年、15 年の 3 度にわたる合計 82 トレンチ、約 559m<sup>2</sup> の試掘・確認調査を踏まえ、平成 17 年、18 年に合計約 3,615m<sup>2</sup> の本発掘調査が行われた。

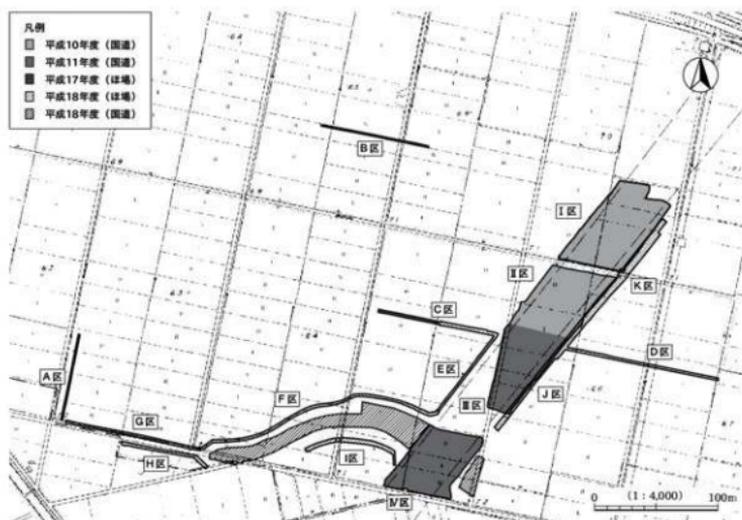
これらの調査により、馬越遺跡の推定範囲は拡大し、現在の遺跡推定範囲は約 18 万 m<sup>2</sup> に達している。各調査面積合計は約 20,000m<sup>2</sup> で、遺跡推定面積の約 11%程度、発掘調査が行なわれたことになる。

調査年次	調査種別	調査原因	調査主体	調査支援業者	調査区	調査面積	文献
平成 7 年 (1995)	分布調査	新潟県詳細分布調査	新潟県教育委員会				
平成 8 年 (1996) 6.13 ~ 6.20	確認調査	国道 403 号線道路改良工事	加茂市教育委員会			280mf	伊藤 1997
平成 9 年 (1997) 4.22 ~ 4.25	確認調査	国道 403 号線道路改良工事	加茂市教育委員会			210mf	伊藤 1998
平成 10 年 (1998) 7.14 ~ 12.10	本発掘調査	国道 403 号線道路改良工事	加茂市教育委員会		I・II 区	6,466mf	伊藤 2005a
平成 10 年 (1998) 9.29 ~ 10.1	確認調査	吉津川地区県営ほ場整備事業	加茂市教育委員会			70mf	伊藤 1999
平成 11 年 (1999) 8.31 ~ 12.17	本発掘調査	国道 403 号線道路改良工事	加茂市教育委員会		III・IV 区	5,248mf	伊藤 2005a
平成 12 年 (2000) 10.19 ~ 11.15	確認調査	吉津川地区県営ほ場整備事業	加茂市教育委員会			180mf	伊藤 2001a
平成 15 年 (2003) 10.10 ~ 10.28	確認調査	吉津川地区県営ほ場整備事業	加茂市教育委員会			309mf	伊藤 2005b
平成 16 年 (2004) 6.9 ~ 6.10	確認調査	国道 403 号線道路改良工事	加茂市教育委員会			54mf	伊藤・立本ほか 2006
平成 17 年 (2005) 9.29 ~ 11.14	本発掘調査	吉津川地区県営ほ場整備事業	加茂市教育委員会	(株) イビソク	A ~ C 区	478mf	本書
平成 18 年 (2006) 8.7 ~ 11.17	本発掘調査	吉津川地区県営ほ場整備事業・送ガス管移設工事	加茂市教育委員会	(株) イビソク	C ~ K 区	3,137mf	本書
平成 18 年 (2006) 8.28 ~ 11.14	本発掘調査	国道 403 号交通連携事業	加茂市教育委員会	(有) 山武者古学研究所		2,903mf	伊藤 2009

第 1 表 馬越遺跡調査履歴一覧表

## 2 調査に至る経緯

吉津川地区県営ほ場整備事業 事業者の調査によれば、本区域は用水不足、漏水被害が発生し、道路も狭く大型機械の利用が困難であることから、区画は 100a 割を基本とし、用水はパイプ灌漑方式、排水はブリューム、暗渠排水を施工し、生産性の高い圃場とし、農業経営の安定化を目的とするとされた。加茂市下条地区 (全工事面積の約 60% を占める) を含んだ本事業については、平成 9 年にその計画が知られると



第1図 馬越遺跡既往調査区 (S-1:4,000)  
(加茂市 平成4年修正「加茂市街図その11」S-1:2,500縮図)

ころとなり、平成10年から正式に、事業主体者である三条農地事務所（当時の名称、現在は改組され、三条地域振興局農業振興部、以下、振興局）、三条土地改良区、三条市教育委員会、県教育庁文化行政課（以下、県教委）、加茂市教育委員会（以下、市教委）で協議を開始した。工事区域内で確認され、試掘・確認調査の対象となった遺跡は、稲荷浦遺跡、横土居遺跡、西吉津川遺跡、鬼倉遺跡、馬越遺跡、新堀遺跡、太田遺跡（平成14年度周知化、後に荒又遺跡と分離独立）、山通遺跡の8遺跡と三条市との市域境に存在する新田川遺跡、吉津川遺跡、安曲遺跡、中谷地遺跡の各周辺地である。

試掘・確認調査は、平成7年に周知化された遺跡と範囲を基準に計画された。平成10年度には、工業団地及び知的障害者援護施設建設予定地が計画された創設非農用地を対象とした馬越遺跡と鬼倉遺跡の確認調査が行われた。平成11年度には稲荷浦遺跡、横土居遺跡、西吉津川遺跡を対象とした確認調査を実施した。調査は周辺の調査成果などから、面工事では遺物包含層まで掘削が及ばないことが想定され、深く掘削工事が行われる主線排水路法線部分のみが対象となった。一部中世の遺物が出土したが、遺構に伴わないことなどから、確認調査後の取扱いは工事立会い調査とした。平成12年度には馬越遺跡、新堀遺跡、山通遺跡、新田川遺跡周辺地、吉津川遺跡周辺地、中谷地遺跡周辺地、安曲遺跡周辺地を対象とした試掘・確認調査を行った。新堀遺跡、山通遺跡、新田川遺跡周辺地、中谷地遺跡周辺地からは遺跡は確認されず、吉津川遺跡周辺地からは古代の墨書土器が出土したが、遺構に伴わないことなどから工事立会い調査とした。安曲遺跡周辺地からは古代の遺構、遺物が確認され、本調査対象区域（後に荒又遺跡）となることが判明した。馬越遺跡では、広範囲で古代～中世の遺構、遺物が確認され、遺跡の範囲も当初より拡大することが明らかとなった。確認調査対象区域のA地区（本調査I区）、B地区（本調査C区）、C地区（本調査D区）、D地区（工事立会い区域）で本調査対象区域となることが判明した。なお、B地区において

浅い層位に中世の遺構、遺物が残存することが確認され、面整備工事により、掘削される恐れが生じた。この時点で工事内容との調整を行い、本調査必要面積を決めるところであったが、引き続き面整備区域を対象とした確認調査が必要となり、平成 15 年度に太田遺跡とともに追加の確認調査を実施した。

市教委は、試掘・確認調査の結果を県教委及び振興局に報告し、関係諸機関と馬越遺跡、太田遺跡、荒又遺跡地内の取扱いについて調整、協議を重ねた。平成 13 年度に実施設計が策定され、平成 14 年度から面工事に着手していたが、平成 16 年度に、市教委と振興局は県教委の助言を頂きながら、面整備区域の切土を少なくし、盛土工法で本調査面積を減じる手法が取れないか、協議を重ねた。その結果、基本的に遺物包含層までの保護層厚を 30cm 前後確保可能な盛土工法を主体的に採択し、遺跡調査は排水路、用水パイプライン布設工事部分のみを対象とすることで合意に達した。市教委は工事内容と遺跡の内容を勘案し、全体の必要調査面積と調査費について、振興局に伝え、本調査に向けた協議を重ねた。本調査は工事の年次計画に沿う形で工事に先立つ期間で計画された。当初、平成 16 年度内に馬越遺跡の一部（本調査 C 区・H 区・I 区約 803m<sup>2</sup>）について発掘調査を実施する計画であったが、工事費削減の影響で、平成 17 年度から調査を開始することに計画が変更された。

平成 17 年度に入り、平成 17 年 5 月 17 日付け三農地第 141 号で馬越遺跡 A 区・B 区・C 区約 629m<sup>2</sup> についての埋蔵文化財発掘調査・整理作業についての依頼文が市教委に提出された。これを受けて市教委は平成 17 年 8 月 12 日付け民資 109 号で馬越遺跡発掘調査計画書を振興局に提出した。その後、平成 17 年 8 月 25 日に農業基盤整備事業実施地区内埋蔵文化財包蔵地発掘調査費用負担契約書を締結し、調査の準備に入った。調査中、C 区において予想以上の遺構が確認され、当初予定した期間及び予算内において終了させることが不可能と判断されたことから、振興局の了解を得て、C 区下層の一部を平成 18 年度の調査に送ることとした。

なお、この間の文書事務などについては以下のとおりである。文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘の通知については平成 17 年 4 月 11 日付け三農地第 48 号にて、県教育委員会教育長宛に行われた。県教委からは平成 17 年 4 月 20 日付け教文第 101 号にて発掘調査実施の通知文が出された。これを受けて、市教委は平成 17 年 9 月 28 日付け民資第 133 号で文化財保護法第 99 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を県教育委員会教育長宛に行った。

平成 18 年度に入り、平成 18 年 4 月 7 日付け三振農第 24 号で馬越遺跡 C～K 区約 2,552m<sup>2</sup> についての埋蔵文化財発掘調査・整理作業についての依頼文が市教委に提出された。これを受けて市教委は平成 18 年 4 月 13 日付け民資 55 号で馬越遺跡発掘調査計画書を振興局に提出した。しかし、その後石油資源開発株式会社長岡鉱業所（以下、石油資源開発）による送ガス管移設工事に伴う用水パイプラインに並行する掘削工事が明らかとなり、振興局も含め協議した結果、一旦は増加した調査費用についてもほ場整備事業の関連でもあることから農地部局の経費負担行為の中で行うこととなった。市教委は平成 18 年 7 月の加茂市議会 7 月臨時会に増額分の調査費を補正予算として計上して、承認を得た。市教委は再度、平成 18 年 7 月 18 日付け民資 141 号で馬越遺跡発掘調査変更計画書を振興局に提出した。

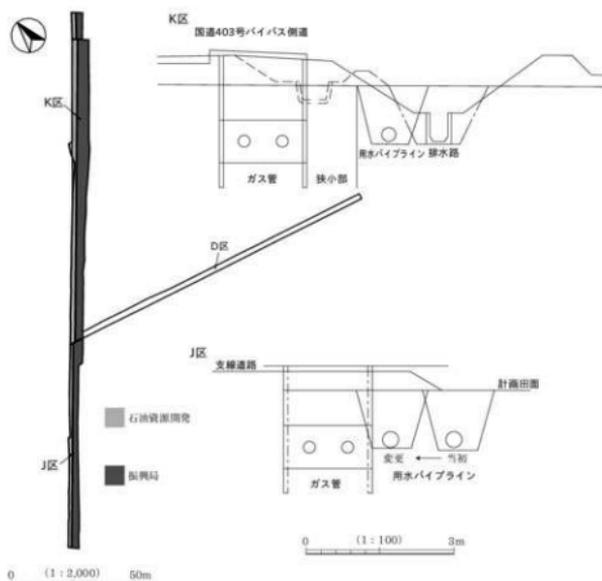
この間の文書事務などについては以下のとおりである。文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘の通知については平成 18 年 4 月 17 日付け三振農第 87 号及び平成 18 年 6 月 30 日付け三振農第 322 号にて、県教育委員会教育長宛に行われた。県教委からは平成 18 年 5 月 8 日付け教文第 172 号及び平成 18 年 7 月 11 日付け教文第 525 号にて発掘調査実施の通知文が出された。これを受けて、市教委は平成 18 年 8 月 7 日付け民資第 147 号で文化財保護法第 99 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘調査の

報告を県教育委員会教育長宛に行った。

その後、平成18年4月27日付け農業基盤整備事業実施地区内埋蔵文化財包蔵地発掘調査費用負担契約書及び平成18年8月9日付け埋蔵文化財包蔵地発掘調査費用の負担に係る変更契約書を締結し、調査の準備を開始した。最終的な精算は、後に石油資源開発が負担することになったこともあり、平成19年2月13日付け埋蔵文化財包蔵地発掘調査費用の負担に係る変更契約書を締結した。

**送ガス管移設工事** 本工事は石油資源開発が、国道403号線バイパス建設工事及びほ場整備事業に伴う見附～二本木送ガス管と見附～下条川送ガス管を部分的に既設管を廃棄し、バイパスに沿う位置（J区・K区）に新設して、切替を行うものである。これにより、J区では用水パイプラインと送ガス管、K区では用水パイプライン、小排水路と送ガス管、送ガス管単独の工事区域が設定されることとなった。

本工事について市教委と協議が開始された時期は、工期も押し迫った平成18年4月であり、全く想定外の事であった。工事内容と『新潟県における発掘調査等の要否の判断基準』とを照合すると、場所により掘削幅が1m未満で、立会い調査で対応できる場所もあったが、加茂市域のほとんどで新設管2本が並行して布設される計画で、掘削幅も1.8～2.4mの規模であった。市教委は県教委の助言を頂きながら、なんとか立会い調査に出来ないか模索したが、本発掘調査を回避できる状況でないことは明らかであった。さらに、ガス管の布設箇所がほ場整備事業の用水パイプラインと隣接しており、ガス管と用水パイプラインの中間区域が判断基準で示されたところの狭小部に該当し、合わせて本調査対象区域になることが判明した。できるだけ本調査対象面積を減らすため、振興局、石油資源開発、双方にそれぞれの管の間隔を狭



第2図 調査区域按分平面・断面図

めることが可能か否か検討をお願いした。ガス管の移動はガス関連法の関係や管が特注品であることなどから不可能であったが、用水パイプラインの位置を若干変更することが可能であった。そして、両方の工事区域を同時に発掘調査する方向で準備を進めた。7月に市教委、振興局、ほ場整備施工業者、送ガス管移設工事業者で工程会議を行い、ほ場及びガス管移設工事予定に沿った調査工程を考えることとした。J・K区は9月から開始し、一部土の掘削工事をガス管移設工事業者が先に行うことなどが協議、確認された。

さて、増高した調査経費について、振興局と石油資源開発は協議し、送ガス管工事用地が土木管轄用地内であり、ほ場の用地内ではないことから、石油資源開発が負担することになった。その際、第2図のとおり、各自工事分はそれぞれの負担、狭小部は均等割りとする事で合意した。よって、調査終了後に実測面積で両者の責任面積を算出し、全体面積から割合を求め、それぞれの経費負担率とすることとし、報告書刊行までの整理作業期間についても、それぞれと年度毎に契約し、負担率に基づいて、精算払いとすることとした。これらの合意内容を基に振興局、石油資源開発、加茂市の三者は協定書を締結した。当初計画時点では負担区分が平成18年度振興局82.2% (2,612m<sup>2</sup>)、石油資源開発17.8% (566m<sup>2</sup>)、平成19・20年度振興局84.5% (3,090m<sup>2</sup>)、石油資源開発15.5% (566m<sup>2</sup>)の内容で平成18年10月25日付け馬越遺跡発掘調査に関する協定書、調査面積が確定した後の負担区分が平成18年度振興局88.1% (2,764m<sup>2</sup>)、石油資源開発11.9% (373m<sup>2</sup>)、平成19・20年度振興局89.7% (3,242m<sup>2</sup>)、石油資源開発10.3% (373m<sup>2</sup>)の内容で平成19年2月13日付け馬越遺跡発掘調査に関する変更協定書を締結した。平成18年度馬越遺跡発掘調査委託契約書は平成18年10月27日に締結した。さらに、整理作業についても当初平成20年度に完了させる見込みであったが、平成21年度末までの延長をご理解頂き、調査費の増額と合わせた内容で平成20年2月4日付け馬越遺跡発掘調査に関する変更協定書を再度締結した。

なお、文書事務などについては以下のとおりである。文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出については平成18年9月29日付けにて、県教育委員会教育長宛に行われた。県教委からは平成18年10月20日付け教文第904号にて発掘調査実施の通知文が出された。

複数年度にまたがる一連の発掘調査事業に対して格別なるご理解とご配慮を賜った新潟県及び振興局、そして石油資源開発に対し、厚く御礼申し上げる次第である。

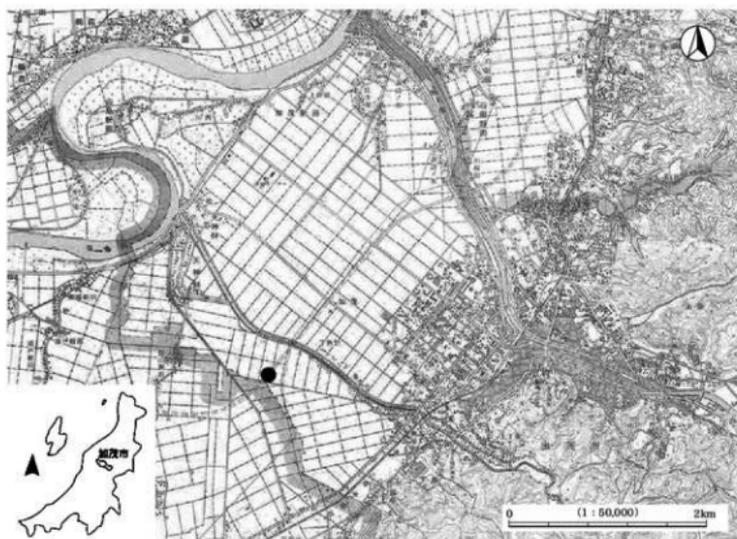
## 第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史的環境

### 1 馬越遺跡の地理的環境 (第3～5図)

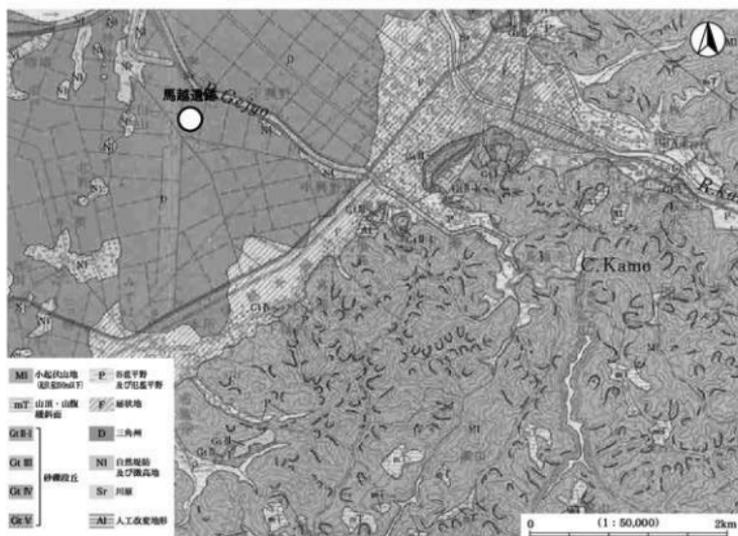
加茂市の市域は、東西に細長い形状で、東西方向約17.08km、南北方向約7.76kmで面積約133.68km<sup>2</sup>を測る。新潟県のほぼ中央部に位置し、中越地方に属する。県庁所在地である新潟市まで北方面に約30km、長岡市までが南西方面約40km程の距離である。周辺自治体では合併が進み、北西部で新潟市(旧白根市)、北部で田上町、北東部で五泉市(旧村松町)、西～南部で三条市(旧三条市、旧下田村)と市域を接する。加茂町は昭和29年3月、下条村を合併し、市制を施行した。同年11月に七谷村、30年11月に須田村を合併し、概ね現在の加茂市の姿が形成された。現在の加茂市の人口は約31,600人を数える。加茂川上流部から七谷、加茂、下条、須田の4地区に区分けされ、地区別面積比率はそれぞれ、七谷が60.6%、加茂が20.9%、下条が12.8%、須田が5.7%である。加茂市の気象概況は平成16～20年の3カ年の各平均で気温12.9～13.9℃、降水量1,853.0～2,281.5mm、降雪量72～493cmである[加茂市2009]。特産品として、往時は全国生産量の約7割を占めた「加茂桐箆笥」は、昭和51年には通商産業大臣より伝統工芸品の指定を受けている。

加茂市は古くから清流加茂川が三方を山野に囲まれた風光明媚な景観を育み、市街地を縦貫して信濃川に注ぐ様や京都賀茂別雷神神社と賀茂御祖神社の分霊が賀茂神社の神領として遷祀されていることなどに由来し、「北越の小京都」と呼ばれる。市域最南東部に位置する標高約1,293mを測る粟ヶ岳(県立自然公園)を水源とする加茂川は市域を東西に二分する形で縦貫し流れる。上流部の七谷地区で小俣川(延長約1.3km)・小乙川(延長約2.0km)・高柳川(延長約3.5km)・大谷川(延長約3.4km)・西山川(延長約4.6km)などの支流を合し、谷底平野と市街地を縦貫し、流域延長約17.7kmで市域北西部に位置する信濃川に注ぐ。地勢はほとんどが山地、丘陵で占められる。東部地区に粟ヶ岳、権の神岳(標高約1,122m)、堂の窪山(標高約1,088m)、白山(標高約1,012m)などの標高1,000m級の山地がそびえ立ち、緩やかに高度を下げながら、七谷地区において山間地が展開する。加茂川流域及び支流域沿いには小規模ながら段丘地形が形成され、旧石器時代～縄文時代の遺跡が多数確認されている。七谷地区を抜けた市域中央部付近の丘陵は新潟平野南東部の東山丘陵の一角を占め、加茂川がこの東山丘陵を抜け出る周辺に小規模ながら展開する扇状地形に現在の市街地が重なる。その北西部、信濃川に向かい低平な沖積地が展開する。加茂川とほぼ平行するように流れる信濃川支流の下条川は、高館山背後の沢から源を発し、丘陵地を開析し、全長約10.6kmで大字天神林地区内において信濃川に注ぐ。古くは加茂川と合流していたとされるが、現在の両河川間の距離は約1.5～3.0km程を測る。下条川による扇状地形は未発達で、兩岸の自然堤防地形も比較的未発達である。馬越遺跡は下条川左岸域の沖積低地部、加茂市大字下条馬越地区内に広く展開する。東山丘陵部から北西方向に約2km離れた、現況水田地帯に立地し、現地表面の標高は約6～7m、遺構確認面が標高約5.0～5.5mとなる。

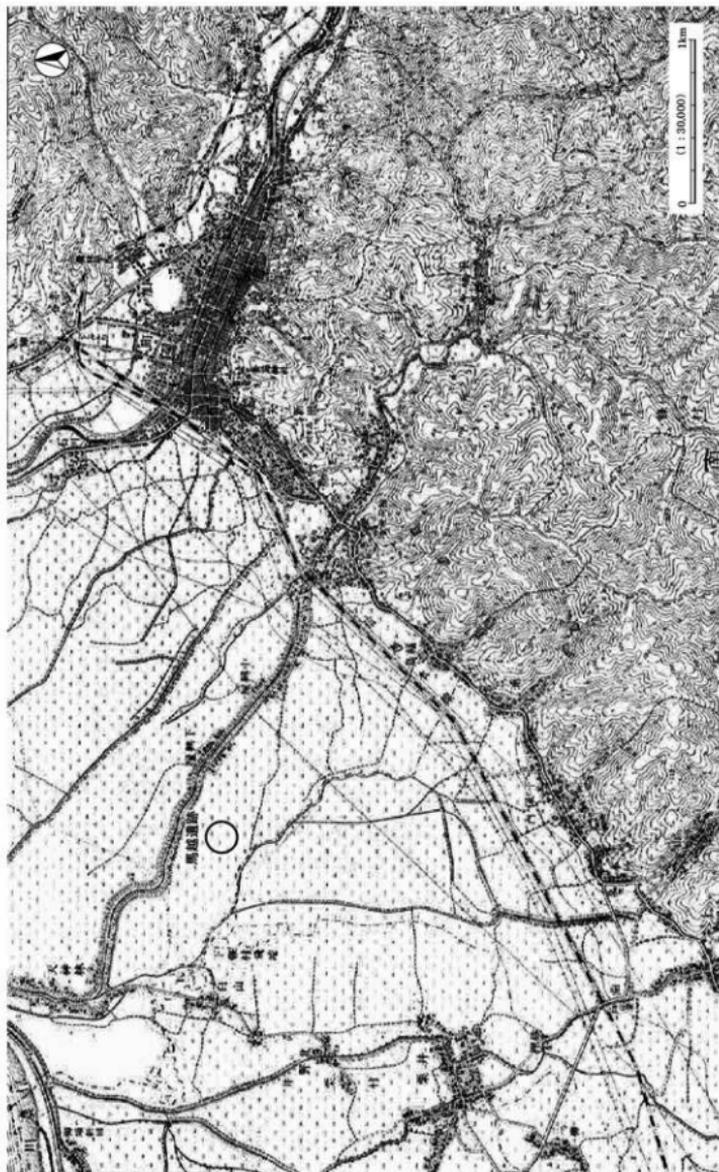
珪藻化石分析からは、平安時代の遺物包含層は止水性種、好汚濁性種などが多産することなどから、遺構は洪水の影響を受けた後に構築され、その後水位が上昇して潟湖となり、遺構が埋没したと推測されている。また、花粉分析からの考察では、ハンノキ属の花粉化石が特徴的であることから遺跡周辺は湿地林



第3図 馬越道跡の位置図 (S = 1:50,000)  
 (国土地理院 平成8年発行「加茂市全図」 1:25,000原図)



第4図 馬越道跡周辺の地形分類図 (S = 1:50,000)  
 (新海保「土地分類基本調査 加茂」1984年 1:50,000原図)



新 5 図 馬越道跡周辺の地形図 (S = 1:30,000)  
(大日本帝国陸海軍編纂部 昭和 8 年発行 昭和 44 年補正 昭和 6 年重訂補正測図 加茂; 1:25,000 縮尺)

を形成していたとされる。

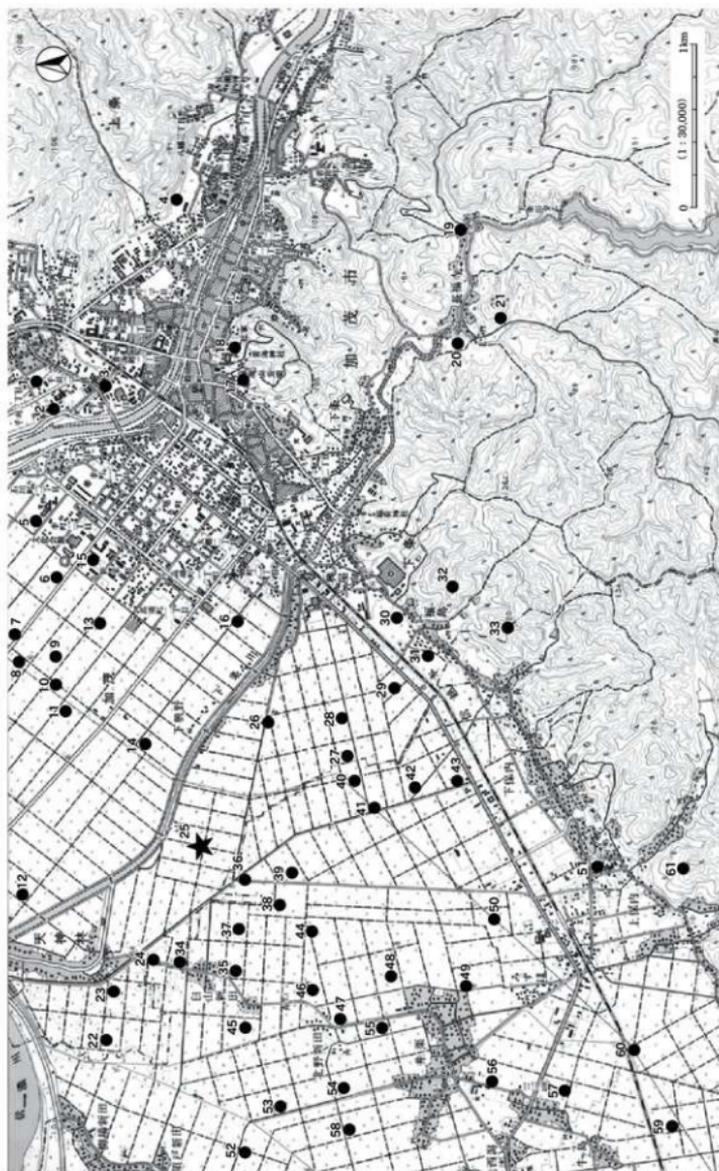
## 2 馬越遺跡周辺の古墳時代～古代遺跡 (第6・7図)

馬越遺跡は古墳時代中期からの活動痕跡が確認され、奈良・平安時代を主体時期とした遺跡である。その後、層位を異にして中世の集落が営まれる。旧石器時代～中世の加茂市内及び周辺の遺跡分布については、『馬越遺跡Ⅱ』で詳しく記したので、ここではできるだけ重複を避け、馬越遺跡周辺の古墳時代～古代を中心とした遺跡の分布について概観したい。第6図には本遺跡周辺の古墳～奈良・平安時代遺跡分布を示す。地形的には西部を信濃川中～下流域に区切られ、東部に向かい沖積地と扇状地、東山丘陵緑辺の緩傾斜地、東山丘陵と推移する。行政区域では加茂市と三条市の一部が該当している。

**古墳時代の遺跡** 古墳時代前期になると沖積低地に多くの集落遺跡が確認され、積極的に開発を進めた様相が窺える。丘陵部から1～2km程離れ、加茂川と下条川に囲まれた区域と下条川左岸で三条市の現集落域の後背湿地部に集中する。古墳前期の調査事例としては、土器溜まり、土坑などが検出された釜淵遺跡(15)、根絡み構造の柱根を持つ特殊な建物跡と土器や木製品が多量に廃棄された旧河道が検出され、祭祀に関連した遺跡と考えられる丸湯遺跡(8)[伊藤・平岡ほか2000]、灌漑水路が検出された新通遺跡(10)、集落の中心的な施設である周溝を持つ平地式住居などが約30cmの間層をさきみ3面(上面・中間・下面)で検出されるなど、集落の中心部が調査された吉津川遺跡(39)[田村2004]がある。この他に前期の土器が出土、採集された遺跡は、石川遺跡(5)[伊藤1996]、馬寄遺跡(6)[伊藤1997]、鬼倉遺跡(14)[伊藤2001b]、中沢遺跡(16)[伊藤2000b・2005b]、荒又遺跡(27)[伊藤2008a]、川東遺跡(38)[三条市歴史民俗産業資料館2005]、石川遺跡(51)[中島1981a]、水戸川遺跡(60)[渡邊2006]などがある。古墳中期の調査事例は馬越遺跡(25)[伊藤2005b・本書]、平地式住居の存在が推測される谷内遺跡(44)[三条市歴史民俗産業資料館2004]、藤ノ木遺跡(46)[三条市歴史民俗産業資料館2004]がある。他に中期の土器が出土、採集された遺跡は鬼倉遺跡、中沢遺跡、新田川遺跡(36)[中島1981b]などである。古墳後期では千刈遺跡(3)[中島・駒形・八百枝1973]、釜淵遺跡から多量に土器が出土している。他に後期の土器が出土、採集された遺跡は馬越遺跡、白山B遺跡(35)[中島1981b]などがある。

このように、馬越遺跡周辺域の沖積地においては、古墳時代前期集落の密集地帯であり、早くから開発が進められた地域であることが理解される。また、これまで、古墳中期の様相は明確でなかったが、近年は資料が増加し、土器、集落変遷が追える可能性がある。馬越遺跡、谷内遺跡、藤ノ木遺跡は前期集落とは重ならず、新規に成立し、短期に廃絶、移動した集落であった可能性が高い。前期～中期にかけて盛行した下条川左岸地域であるが、後期になると確認された遺跡は極めて少ない状況となる。

これら集落遺跡を母体として構築されたと思われる古墳が丘陵上に確認されている。加茂市の下条地区の丘陵上に福島古墳群(32)と宮ノ浦古墳(通称熊野山)(33)が確認されており[関1986・伊藤2003]、平成15～16年に測量と確認調査が行なわれた。ともに眺望に優れた場所を選地し、眼下に沖積地を見下ろす。福島古墳群は5基(1号～5号)からなる。宮ノ浦古墳は福島古墳群と谷ひとつ隔てた丘陵最高所に単独で立地する。確認調査では弥生後期の土器が出土しており、古墳構築前にいわゆる高地性集落が営まれた可能性を示唆する。いずれも10～20m前後の円墳である。立地環境や形態から前期古墳と考えられる。宮ノ浦古墳から南東方約1.8kmの丘陵上には保内三王山古墳群(61)[甘粕・荒木ほか1989]が立地する。古墳群は17基で構成され、4号墳(前方後方墳)→11号墳(造出付円墳)→1号墳(前



第6図 馬越道跡周辺の古墳時代～古代遺跡分布図 (S=1:30,000)  
 (国土院提供、平成2年発行「加茂」1:25,000原図)

方後円墳)が前期古墳で、5号墳(円墳)→12号墳(方墳)が後期の構築と考えられている。前期古墳の盛行は平野部の集落の密度からも首肯されるが、後期古墳に対応する集落の確認が今後の課題となる。

**古代の遺跡** 集落遺跡は、田上町～三条市にかけての沖積地内において、微高地や自然堤防上を中心に多数の遺跡が確認されている。加茂川流域沿いでは市街地から約4km上流部までは少数の古代の遺跡が確認されるが、より上流部の七谷地区では全く確認されていない【伊藤2000a】。全体的に7～8世紀前半頃の様相は不明で、8世紀後半～9世紀頃からの遺跡数が多くなる。明確に7世紀代の土器が出土した遺跡は、かえりを持つ須置器杯蓋が採集されている井栗乙郷遺跡(55)【中島1981b】があるに過ぎない。

加茂川と下条川に挟まれた区域では、鬼倉遺跡(14)と中沢遺跡(16)が発掘調査されている。鬼倉遺跡は、加茂市における古代遺跡調査の初例である。平成9年に国道403号線バイパス工事に伴い発掘調査が行われ、塚状遺構を伴う河川跡を中心に掘立柱建物跡4棟、土坑などが検出された。特筆される遺物は、和同開珎・神功開寶・土製獸脚・石帯・漆付着土器や「吉人」・「泰女」・「是人」などの人名、「千」を含む約120点程の文字資料である。「是人」は馬越遺跡と共通する墨書である。9世紀前半を中心とし、平野の開発を主導した有力者が関与した新興の集落遺跡と考えられる【伊藤2001b・2002】。中沢遺跡では道路建設や民間開発に関係し、平成11～13年に発掘調査が行われている。8世紀後半～9世紀前半を中心とし、柱掘り方が方形を呈する大型の掘立柱建物跡、井戸が確認されている。「吉永」、「他田」などと記された墨書土器、漆付着土器が数点出土している【伊藤2005b・2008b】。鬼倉遺跡との距離は約1kmであり、ともに下条川右岸で河川に近い場所に立地する。この他では、確認調査であるが、馬寄遺跡(6)から詳細不明ながら付札木簡1点が出土している【伊藤1997】。現在の青海神社境内地に所在する青海神社遺跡(18)からは、12世紀頃の柱状高台皿などが出土している【坂井1994・伊藤2001d】。

下条川左岸～三条市域にかけても多数の遺跡が確認されている。平成19年にほ場整備事業に伴い荒又遺跡(27)、太田遺跡(28)が発掘調査され、後者からは「良か」と記された墨書土器や炭化米、ガラ

番号	遺跡名	市町村	時代	備考	番号	遺跡名	市町村	時代	備考
1	千代北遺跡	加茂市	縄文・奈良・平安		32	加茂古墳群	加茂市	古墳	
2	陣ヶ崎遺跡	加茂市	縄文・奈良・平安		33	野ノ宮古墳	加茂市	古墳	
3	千代遺跡	加茂市	古墳～中世		34	石山A遺跡	三条市	古墳～中世	
4	藤台遺跡	加茂市	古墳～中世		35	石山B遺跡	三条市	古墳～中世	長輪陶器、墨書土器
5	石川遺跡	加茂市	古墳～中世		36	藤田遺跡	三条市	古墳・古代	埴師冠
6	馬寄遺跡	加茂市	古墳・古代	付札木簡	37	中沢遺跡	三条市	古墳・古代	
7	舟ノ遺跡	加茂市	古墳～中世		38	河原遺跡	三条市	古墳～中世	
8	丸山遺跡	加茂市	古墳		39	津川遺跡	三条市	古墳・平安	緑釉陶器、墨書土器
9	五反田遺跡	加茂市	古代～中世		40	宮本遺跡	三条市	平安	木彫仏、墨書土器
10	前通遺跡	加茂市	古墳・古代		41	六反田遺跡	三条市	平安	
11	八反田遺跡	加茂市	古代～中世		42	中谷内遺跡	三条市	平安	
12	堀原遺跡	加茂市	古代		43	石山遺跡	三条市	平安～中世	
13	朝日山遺跡	加茂市	古代～中世		44	西内遺跡	三条市	古墳～中世	
14	鬼舟遺跡	加茂市	古墳・古代	墨書土器、石帯、鏡貨	45	御田遺跡	三条市	古墳～中世	
15	岩倉遺跡	加茂市	古墳～中世		46	藤ノ木遺跡	三条市	平安～中世	倉庫(瓦地蔵)
16	中沢遺跡	加茂市	奈良～室町	大型建物、墨書土器	47	松久保遺跡	三条市	平安	
17	宮山長船神社遺跡	加茂市	古代～中世		48	御田遺跡	三条市	鎌倉～平安	
18	青海神社遺跡	加茂市	古代～中世	柱状高台皿	49	東近寺遺跡	三条市	平安～中世	墨書土器
19	尾ノ遺跡	加茂市	縄文・古代～中世		50	野ノ宮遺跡	三条市	平安	緑釉、長輪陶器、墨書土器
20	天神口遺跡	加茂市	縄文～中世		51	石川遺跡	三条市	鎌倉～中世	
21	長尾寺跡	加茂市	古代～中世		52	石山遺跡	三条市	平安	
22	朝日山遺跡	加茂市	古代		53	御田遺跡	三条市	平安	
23	藤ノ宮遺跡	加茂市	古代		54	御田遺跡	三条市	平安	
24	高津川遺跡	加茂市	古代～中世		55	日暮乙郷遺跡	三条市	奈良	
25	堀原遺跡	加茂市	古墳～中世	赤漆	56	国分寺中ノ宮遺跡	三条市	古墳～中世	
26	前通遺跡	加茂市	古代		57	津毛年回遺跡	三条市	平安	
27	荒又遺跡	加茂市	古墳・古代		58	堀川遺跡	三条市	平安～中世	
28	太田遺跡	加茂市	平安	炭化米、ガラス瓦、墨書土器	59	石山遺跡	三条市	平安	緑釉、長輪陶器、墨書土器、石帯
29	山道遺跡	加茂市	古代		60	水戸遺跡	三条市	古墳	
30	花立遺跡	加茂市	縄文・古代		61	保内三山古墳群	三条市	古墳	
31	堀原遺跡	加茂市	縄文・古代						

第2表 馬越遺跡周辺の古墳時代～古代遺跡一覧表

ス丸玉1点などが出土している〔伊藤 2005b・2008a〕。馬越遺跡との距離は約1kmである。吉津川遺跡(39)周辺地からも鬼倉遺跡に見られたような墨書土器が出土している〔伊藤 2001a〕。三条市域では、加茂市に近い区域で古代の遺跡発掘調査が進展している。白山B遺跡(35)は平成15年にほ場整備事業に伴い発掘調査が行われ、9世紀中～後半を主体とした集落跡で掘立柱建物跡2棟、井戸などが確認された。出土遺物では灰輪陶器、「釜田」と記された墨書土器が目目される〔田中<sup>ほか</sup>2006〕。新田川遺跡(36)は平成14年に国道403号線バイパス工事に伴い発掘調査され、奈良時代の三方を溝で囲まれた掘立柱建物跡、井戸、欵状遺構などが同時期でひとつの宅地の景観として良好な状態で確認された。高貴な人物の存在を伺わせる漆紗冠が出土している〔三条市歴史民俗産業資料館 2007〕。馬越遺跡IV区及び「三宅」墨書土器出土地点に隣接しており、その関連性が極めて注目される。吉津川遺跡(39)は過去に、緑輪陶器の出土が報告されていた〔中島 1981b〕が、平成13～15年に発掘調査され、3間×5間の大型掘立柱建物跡や井戸、畑跡など平安時代の集落が確認されている。「井」墨書土器や漆付着土器が出土している〔三条市歴史民俗産業資料館 2007〕。安曲遺跡(40)は荒又遺跡と同一の遺跡と考えられるが、木棺墓1基が検出されている〔三条市歴史民俗産業資料館 2007〕。良好に遺存し、木製枠の大きさが長さ約185cm、幅約45cm、深さ約30cm、板の厚さは約2cmとされる。馬越遺跡で確認された木棺墓の規模に近似する点は注目される。藤ノ木遺跡(46)は、平成15年調査区域から、古代の3間×3間、方6.3m前後の正方形の総柱建物跡が1棟検出された。40cm前後の太い柱を用いて、茂地業と呼ばれる部材を組み合わせた沈下防止策が施され、倉跡と考えられている〔田村 2004〕。来迎寺遺跡(49)は、平成8・9年に発掘調査が行われ、9世紀後半頃の一般農村集落跡と見られている。「山」、「陶」などの墨書土器が出土している〔金子・田村 1997、金子 1998〕。坪ノ尾遺跡(50)は、平成9年に発掘調査され、灰輪・緑輪陶器を含む10世紀前半頃の有力者の集落跡と考えられている〔金子・田村<sup>ほか</sup>2000〕。合屋遺跡(59)からは、礎板を持つ大型の掘立柱建物跡が検出され、有力者の存在が推測されている。石帯や緑輪陶器が出土している〔金子・田村<sup>ほか</sup>2000〕。以上、馬越遺跡を中心として見れば、調査された遺跡は田上町域を除き、ほとんどが1～2km圏内に収まり、多彩な遺跡が調査されている。古代の遺跡が密集する状況は、近接したエリアに複数の郷比定地を有する本地域の特徴と調和的である。しかしながら、馬越遺跡と新田川遺跡の一部は同一遺跡として把握できる可能性が高いことから、単純に現市町村境で青海郷と井栗郷の郷域の線引きは出来ない。地形的にも明確な区分は不可能で、郷域が入り組んだ状況も想定される。また、田上町域においては、奈良時代の集落跡が確認され、「酒人」、「鳥村」などの墨書土器が出土した向田遺跡〔稻森 1997〕、木簡が出土した大坪遺跡〔田畑 1997〕、面積約220m<sup>2</sup>以上の掘立柱建物跡が検出された道下遺跡〔田畑 1994〕が注目される。特に道下遺跡は10世紀前半の良好な土師器食膳具や小型の硯、「王」墨書土器などが出土し、加茂川右岸地域の富豪層の存在が推測される。丘陵部には、須臾器短頸壺に約150枚以上と推定される和同開珎が入れられた茗ヶ谷遺跡が存在し、相当な在地有力者が存在したことが窺える。なお、須臾器窯跡は加茂、三条近辺には今のところ未確認であり、8世紀には新津丘陵窯跡群から、9世紀に入り佐渡小泊窯跡〔川村<sup>ほか</sup>2005〕から供給されたことが知られる。

古代蒲原郡青海郷 加茂市域は10世紀に成立した『和名類聚抄』に見える古代蒲原郡に設置された「日置・板井・勇礼・青海・小伏」の5郷のうち、「青海郷」の有力な比定地とされていることは周知の事実である。平成2年、長岡市(旧三島郡和鳥村)八幡林官衙遺跡A地区出土の第1号木簡に記された「青海郷ノ事高志君大虫」は加茂市近辺に居住した人物と推測される。八幡林官衙遺跡は、馬越遺跡周辺から南西方向約25kmの距離に位置する(第7図)。

加茂市域を「青海郷」とする根拠は大きくは二つある。ひとつは『吾妻鏡』文治2（1186）年3月12日条にみえる蒲原郡の荘園の中で、高松院御領として、12世紀半ばの鳥羽院政期に成立したと考えられる「青海荘」が「青海郷」の郷名を継承したと考えられることである〔田村1993ほか〕。「青海荘」は文和4（1355）年4月29日条「羽黒義成軍忠状」に「青海荘賀茂口於陣峰」と記され、現在の加茂川右岸、田上町近くの陣ヶ峰の字名にあてられている。また、15世紀末頃とやや時代の下る資料である「蒲原郡段銭帳」に、青海荘内の地名として、「上条・井栗条・坂田条・下条・河骨川条・糞口条・山之内条・小吉之条」などが見え、加茂市を中心に、田上町、旧白根市、三条市、旧中之口村の一部が荘域と推測されている。「青海荘」の荘域＝「青海郷」の郷域とはならないとしても、「青海郷」を加茂に比定する有力な根拠とされている。もうひとつは、『延喜式神明帳』に記載された青海神社の存在である。青海神社は青海首一族が、神亀3（726）年に祖神権根津彦命と大國魂命を祭り創建されたと伝わる。青海が郷名及び荘名と一致することから有力な根拠となっている。ちなみに、「勇礼郷」は三条市井栗地区、「小伏郷」は三条市上保内地区に比定する考えがあり、三条市～加茂市近辺にかけて蒲原郡5郷のうち3郷が近接して設けられていた可能性がある。延喜式内社も青海神社の他に伊久礼神社、小布施神社が現存する神社にそれぞれ比定される見解がある。

金子拓男氏はこれらの郷域について、遺跡分布や地理的条件、郷の記載順序などから推定した〔金子1983〕。それによれば、青海郷域は信濃川以東の加茂・田上地区、新津周辺、能代川左岸地域であるという。この方法論は木村宗文氏にも採用され、特に古墳の存在に注目されている〔木村1988〕。その後も木村氏は、遺跡から高志君大虫の居住域についても田上町茗ヶ谷から加茂山付近に想定された〔木村1991〕。しかし、近年、遺跡分布状況も変化し、遺跡の内容も各地区でかなり蓄積されつつあることから、郷について、再検討の時期に来ているように思われる。いずれにしろ古代の遺跡が密集する区域であることから、集落数が多く、人口密度が高いことは間違いないところであろう。金子氏、木村氏の遺跡の分布から郷を考える方法論を念頭に馬越遺跡周辺域の古代遺跡について考える必要がある。

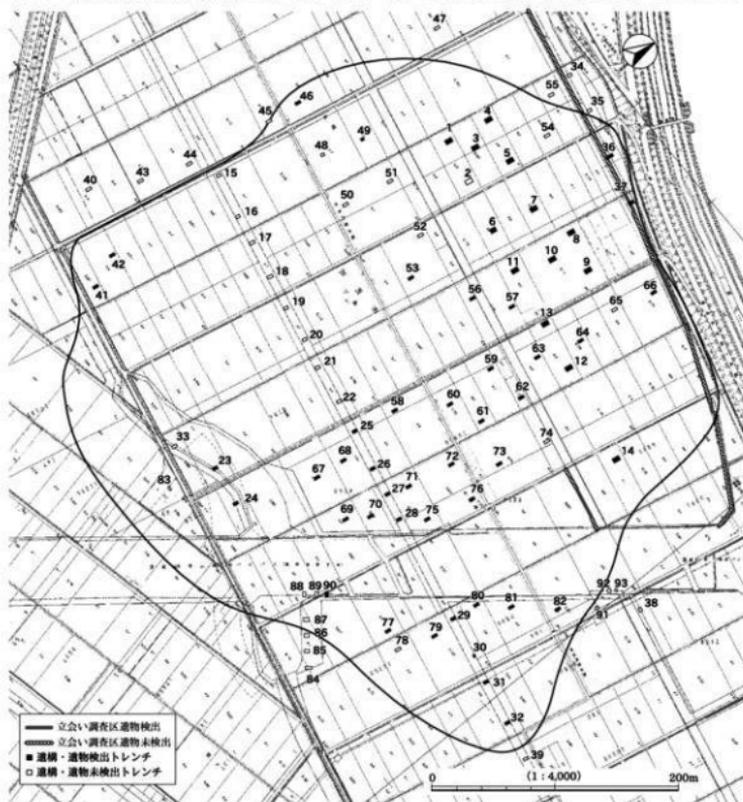


第7図 馬越遺跡と八幡林宮遺跡位置図 (S=1:300,000)  
 (国土地理院 平成8年発行 [新編]・[長編] 1:300,000原図)

### 第三章 発掘調査の概要

#### 1 確認調査の概要 (第8図)

吉津川地区ほ場整備事業に係る確認調査は、事業計画との関係から、平成10年、12年、15年の3次にわたり行われた。平成10年の調査は、工業団地造成予定地を対象にし、14トレンチ(1~14)、約70m<sup>2</sup>が調査され、ほぼ全域から古代の遺構、遺物が確認され、一部中世の遺物も出土した。遺物の中では墨書土器2点、灰軸陶器1点が注目される〔伊藤1999〕。今回報告のB区と近接した区域である。平成12年には、排水路部分を対象とし、25トレンチ(15~39)、約180m<sup>2</sup>が調査された。今回報告のC



第8図 馬越遺跡確認調査トレンチ及び立会い調査区位置図 (S=1:4,000)  
(伊藤1999・2001a・2005bから転載・加筆して作成)

区、D区、I区、立会い調査区が相当する。古代～中世の遺構、遺物が確認され、C区においては中世、古代と2面の調査が必要であることが判明した〔伊藤2001a〕。平成15年には面整備工事区域を対象にし、43トレンチ(40～82)、約309m<sup>2</sup>が調査された。古墳時代中期、古代、中世と幅広い時期の遺構、遺物が確認され、馬越遺跡の拡がりや多彩な内容が明らかとなった。「大」、「若」墨書土器や漆付着土器、武蔵型甕など貴重な遺物が出土した〔伊藤2005b〕。そして、この調査成果や周辺部の状況などから、A区、E区、F区、G区、H区、J区、K区の本調査実施の判断を下した。

なお、83～93の11トレンチ約106m<sup>2</sup>(本調査面積に含まれている)は、平成18年度に本調査範囲を限定するために、本調査と並行して行ったものである。J区の90トレンチから中世の漆器が出土した。また、排水路延長約450m間・パイプライン延長50m間について、平成18年4月上旬と8月下旬を中心に工事立会いを行い、多くの遺物が出土した。

## 2 発掘調査方法とグリッドの設定(第9図、第3・4表)

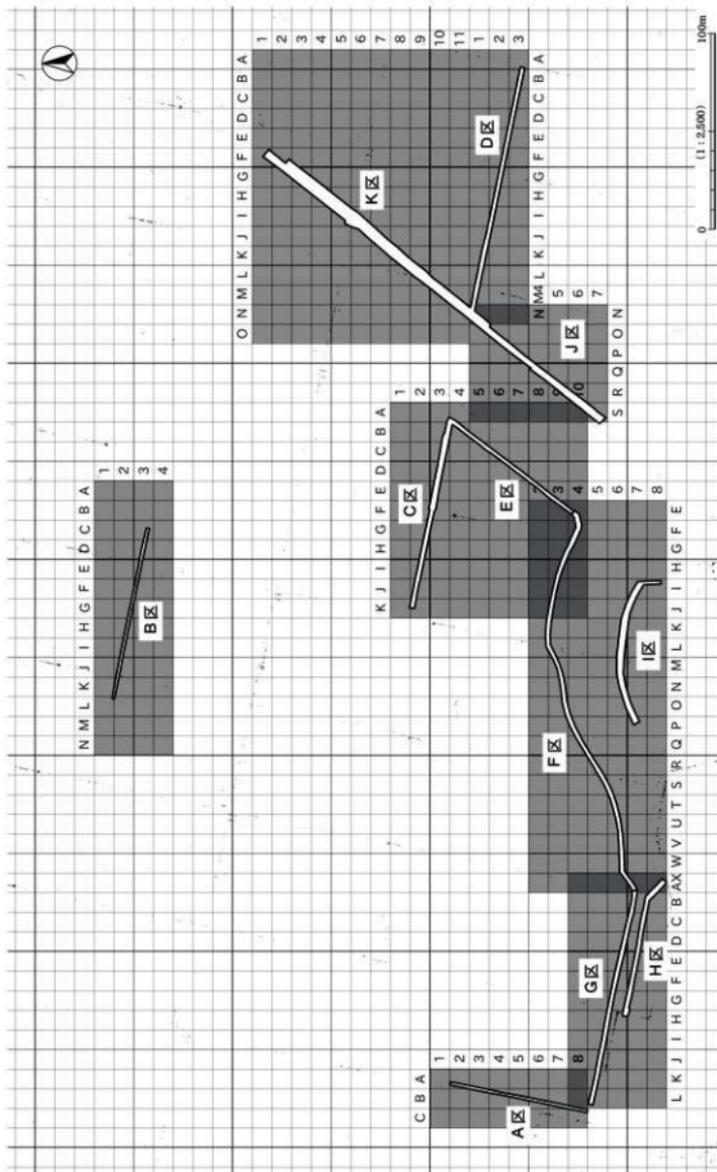
確認調査の結果や周辺部の調査状況も参考とし、A～K区の本調査区を設定した。年次別工事計画との調整を図り、平成17年度にA区・B区・C区、平成18年度にD区・E区・F区・G区・H区・I区・J区・K区を対象とし、2カ年度をかけて実施した。第1章にも記したが、C区下層面の一部が17年度調査から18年度調査に変更になった。各区を合計した調査面積は、上端面積約3,615m<sup>2</sup>、下端面積約2,364m<sup>2</sup>である。

**表土剥ぎ** 遺物の出土に注意を払いながら、0.25～0.4m<sup>3</sup>のバックホーにて遺物包含層上まで掘削

区	層	調査面積(m <sup>2</sup> )		主な時代	出土遺物(層)		調査年度
		上端面積	下端面積		土器	木製品など	
A		107	92	古墳中期	3	1	平成17年度
B		124	107	平安	7	2	
C	2005年上層	111	94	中世	1	5	
	2005年下層	136	104	平安	7	1	
	2006年下層	169	77	平安	1	3	
D		290	153	平安	4	2	平成18年度
E	上層	51	39	中世	0	0	
	下層	107	78	平安	7	1	
F		495	287	奈良～中世	2	2	
G		264	160	古墳中期・奈良	1	1	
H		187	104	古墳中期・奈良	2	1	
I		287	172	奈良	2	5	
J		419	302	奈良・平安	6	7	
K		818	595	奈良・平安	7	8	
立会い調査区				平安	7	1	
合計		3,615	2,364		57	40	

を行う。掘削土はそれぞれ点圧しながら固めて、横置きとした。各調査区の進捗状況を見ながら、適宜先行して次の調査区へ入った。17年度、18年度ともに重機2台で進めた。重機の先には民間調査員及び調査補助員2ないし3名を配置し、包含層出土遺物について小破片については、出土地点を配慮しながら、ビニール袋につめた後その場におき、概ね地山面直上まで掘削を行った。これらの遺物についてはグリッド杭打設後、小グリッド単位で取り上げた。ただし、遺物が密集した地点や完形に近いもの、特殊遺物などについてはトータルステーションにより出土地点を記録し、取り上げた。その際、何点かの遺物については出土状況写真を撮影した。表土剥ぎと並行し、調査区の漏水を防ぐためそれぞれの調査区の周囲に、ホソを使い人力にて幅約20cm前後、深さ約20cmの土側溝を掘削した。隅部に集水枘を設け、2時の電動ポンプで24時間の強制排水を行った。なお、調査区は幅が狭く、深度も1mを超えるとことも多く、安全勾配を取りにくい状況から、各区、特にA区、B区にて壁面の崩落が顕著であった。その際には適宜、両側壁面に簡易の合板を短管で止める形で処置した。

**遺構確認と遺構発掘** 表土剥ぎ終了後、人力にてミニジョレンを主に用いて精査を繰り返し、遺構の平面プランの確認を行った。確認した土坑やピットなどはすべて半截、溝は数カ所に土層観察のための畔を



第9図 発掘調査グリッド設定図 (S=1:2,500)  
(加賀市 平成4年発行「加賀市田原町の11」 S=1:2,500参照)

のこして、覆土の観察と断面実測を行ってから発掘した。排土については、調査区の狭さと深さのため、1人手間では容易に上に搬出できないことから、適宜作業員を配置し、バケツなどで土をリレー方式で排出した。また、遺構内から良好な形で出土した遺物については平面位置を記録した後に、取り上げた。なお、遺構番号は平成17年度については、種別毎に各区で通し番号を付けた。種別については整理・報告の段階で変更したものがあつた。平成18年度については、各区毎に、種別関係なくすべて連続する通し番号を付した。

**実測・写真** 遺構断面図及び基本土層柱状図は1/10・1/20、遺跡全体図及び遺構平面図は調査支援会社に委託し、簡易遺り方及びトータルステーションにより作成した。遺構詳細図を1/10で作成したものもある。なお、遺構番号メモなどのため、遺構配置模式図を適宜作成した。調査状況、遺物出土状況、遺構断面、遺構発掘写真撮影は適宜行つた。カメラは35mm版を用い、カラーネガとカラーリバーサルフィルムを必要に応じて併用した。全景写真については、6×7判を適宜使用した。また、全景空中写真撮影はラジコンヘリコプターを使い、平成17年度にC区1回、平成18年度にC区、D区、J・K区各1回の合計4回撮影している。

**グリッドの設定** 各調査区域全域をカバーするように、国土地理院の第Ⅷ系座標軸を使用し、真北を基準に10m方眼を設定した。この10m方眼を大グリッドとし、北東隅の杭を基点とし、東から西にかけて大文字のアルファベットA～X、北から南にかけて算用数字の1～5などとした。両者を組み合わせ「A3」・「D5」とし、大グリッドをさらに2m方眼の小グリッドを設定し、北東隅上から1～25に分割した。「A3-1」・「D5-25」などと呼んだ。レベルは基準点及び適宜各グリッド杭上にもとめ、実測作業に近い杭高を適宜利用した。基準杭、グリッド杭の打設は調査支援会社に委託した。各区の主なグリッド杭のX座標、Y座標、緯度、経度は第4表のとおりである。座標北は真北に対し、0度22分55秒東偏し、磁北は真北に対し7度50分00秒西偏する。

調査区	グリッド杭	座 標		緯 度	経 度	調査年度
		X座標	Y座標			
A	B4	184070.000	45730.000	37°39'27"	70918	139°01'05" 88258
	C7	184040.000	45720.000	37°39'26"	73783	139°01'05" 46781
	C9	184020.000	45720.000	37°39'26"	08909	139°01'05" 46330
	B4	184240.000	46030.000	37°39'33"	16953	139°01'18" 16135
B	G3	184250.000	45980.000	37°39'33"	50292	139°01'16" 12355
	K2	184260.000	45940.000	37°39'33"	83450	139°01'14" 49375
	C4	184090.000	46060.000	37°39'28"	29853	139°01'19" 35132
C	G3	184100.000	46020.000	37°39'28"	63012	139°01'17" 72156
	K2	184110.000	45980.000	37°39'28"	96171	139°01'16" 09180
	D3	184060.000	46230.000	37°39'27"	29466	139°01'26" 28060
D	K2	184070.000	46160.000	37°39'27"	63171	139°01'23" 42884
	N1	184080.000	46130.000	37°39'27"	96151	139°01'22" 20510
	C5	184080.000	46060.000	37°39'27"	97416	139°01'19" 34905
E	D7	184060.000	46050.000	37°39'27"	32722	139°01'18" 93650
	F9	184040.000	46030.000	37°39'26"	68208	139°01'18" 11595
	F4	184030.000	46020.000	37°39'26"	35952	139°01'17" 70568
F	S5	184030.000	45880.000	37°39'26"	05856	139°01'12" 39936
	X7	184000.000	45840.000	37°39'25"	41881	139°01'10" 35483
	B4	184000.000	45830.000	37°39'25"	42061	139°01'09" 94682
G	G3	184010.000	45780.000	37°39'25"	75396	139°01'07" 90907
	L2	184020.000	45730.000	37°39'26"	08730	139°01'05" 87130
	B5	183990.000	45830.000	37°39'25"	09623	139°01'09" 94456
H	D5	183990.000	45810.000	37°39'25"	09982	139°01'09" 12856
	B4	184000.000	45770.000	37°39'25"	43138	139°01'07" 49981
I	J7	184000.000	45980.000	37°39'25"	39361	139°01'16" 06686
	L7	184000.000	45960.000	37°39'25"	39723	139°01'15" 25086
	P7	184000.000	45920.000	37°39'25"	40442	139°01'13" 61885
	O1	184080.000	46120.000	37°39'27"	96332	139°01'21" 79709
J	P3	184060.000	46110.000	37°39'27"	31638	139°01'21" 38454
	S7	184020.000	46080.000	37°39'26"	02431	139°01'20" 15143
	G2	184180.000	46200.000	37°39'31"	19256	139°01'25" 08392
K	J7	184130.000	46170.000	37°39'29"	57613	139°01'23" 84850
	N11	184090.000	46130.000	37°39'28"	28588	139°01'22" 20737

第4表 各区の主なグリッド杭の座標一覧表

### 3 発掘調査・整理作業の経過

#### A 発掘調査の経過

本調査はほ場整備事業計画にあわせ、2カ年度に渡って行われた。基本的な調査体制は平成17年度が発掘調査員1名、副調査員1名、調査補助員1名、現場世話人2名、そして測量委託と合わせた発掘調査支援業務として調査員1名、調査員1名、作業員（加茂市シルバー人材センター会員）は2班20名体制、平成18年度が発掘調査員1名、調査補助員3名、現場世話人2名、そして測量委託と合わせた発掘調査支援業務として調査員2名、調査員2名、作業員（加茂市シルバー人材センター会員）は2班30名体制で行った。調査期間は平成17年度（A区・B区・C区上層・C区下層の一部）が平成17年9月29日～11月14日までで、実働日30日間、延べ作業員数371名、平成18年度（C区下層の一部・D区・E区・F区・G区・H区・I区・J区・K区）が平成18年8月7日～11月17日までで、実働日70日間、延べ作業員数1,237.5名であった。平成17年、18年合計で実働日100日間、延べ作業員数1,608.5名となる。以下、調査日誌を参照に各年度毎の作業経過などについて記す。

##### 平成17年度調査（A区・B区・C区上層・C区下層の一部）

9月28日（水）～10月3日（月） 重機搬入、仮設トイレ設置、発電機搬入、現場事務所（仮設ハウス）設置と内装工事、器材収納庫設置、安全施設設置、器材搬入などの発掘調査事前準備を行う。

9月29日（木）・30日（金） A区表土剥ぎ。重機0.4m<sup>3</sup>級1台と0.25m<sup>3</sup>級1台で南～北部に向かう形で掘削する。散発的に古式土師器が出土し、遺構も溝が数条確認できる。なお、一部で壁面が崩落する危険が生じ、合板（短管止め）を設置した。

9月30日（金）～10月6日（木） B区表土剥ぎ。重機0.4m<sup>3</sup>級1台と0.25m<sup>3</sup>級1台で西～東部に向かう形で掘削する。当初の調査予定区域の中で、西端部延長約19m間、東端部延長約18m間は遺構、遺物ともに全く認められず、壁面崩落の危険性が高いことから、確認状況を写真撮影し、直後に埋め戻した。また、現表土下約50cmから古代の遺物出土する層位があり、遺物を採集しながら、遺構確認面近くまでの掘削を行った。

10月5日（水） 本日より作業員20名投入する。シルバー局長挨拶、諸連絡の後、A区とB区に班別に分かれ作業を開始する。各区に休息用のパイプ TENT 設置。

10月5日（水）～7日（金） A区下層周囲にホソで排水溝を設け、2個所に集水場を設け2時の水中ポンプで常時強制排水を行った。なお、排水については発電機を電源としたが、天気及び作業状況を勘案し、時に24時間の強制排水も行った。遺構確認及び遺構発掘を行う。自然流路から多量の古式土師器を検出する。特に自然流路における遺物出土状況及び土層断面の確認に重点をおいて進める。

10月8日（土） A区グリッド杭の打設。

10月5日（水）～14日（金） B区下層周囲にホソで排水溝を設けながら、遺構確認を行う。全体的に壁面の崩落が著しく、合板による土留め工事を随時行う。確認した遺構から発掘を行う。遺物の取上げを平板測量にて行う。

10月11日（火） 本日より、発掘調査支援業者より調査担当及び調査員が配置される。

10月11日（火）～13日（木） A区自然流路における遺物出土状況写真撮影、土層断面実測及び遺物出土地点の測量と取り上げ作業を行う。トータルステーションによる全体平面図作成作業。12日（水）

加茂市文化財調査審議会委員 関 正平氏来跡。

10月12日(水) C区上層面表土剥ぎ。重機0.4m<sup>3</sup>級1台で東～西部に向かう形で掘削する。土坑(後に井戸と判明)、溝など確認する。

10月14日(金) A区遺構全体の清掃、水抜きとホワイツスプレーによるマーキングを行い、発掘写真撮影、基本土層の土壌サンプリングを行う。調査完了とし、器材を撤収する。

10月17日(月)～20日(木) B区、C区上層面遺構確認と発掘作業を行う。溝などが多く、土層断面は壁面で確認し、実測する。調査区域幅が狭く、遺構の切り合い関係の把握が難しい。20日(木)礎板を持つ柱根(SP4)の検出。発掘写真撮影を行う。18日(火) 若宮中学校先生1名、生徒2名来跡。C区上層面SP19から古銭出土。井戸から漆器や箸状木製品などが出土する。井戸の調査に手間がかかる。

10月18日(火)～20日(木) C区下層面表土剥ぎ。重機0.4m<sup>3</sup>級1台で西～東部に向かう形で掘削する。確認調査トレンチ部分が埋め戻しの川砂で崩落する危険性があり、軽量矢板を打設する。ホソで排水溝を設ける。黒色土から多量の遺物が出土する。

10月21日(金)～25日(火) B区遺構平面図の作成と補足調査。基本土層の土壌サンプリングを行う。調査完了とし、器材を撤収する。C区下層面一旦遺構確認を開始するも、掘り下げ不足が明確となり、再度重機により掘削を行う。24日(月) C区上層面前日からの降雨で、調査区が水没。排水作業に時間がかかる。

10月25日(火)～28日(金) C区上層面井戸を中心に調査を進める。遺物出土状況の写真撮影と平面図作成を併行させ、調査を行う。合わせて、細かいピットなどの確認作業を行う。25日(火) 全景の斜め写真の撮影。28日(金) SX1の底面でSE3が確認され、発掘する。「南」と読める木簡出土する。平面図の作成。

10月26日(水)～11月7日(月) C区下層面遺構確認と発掘作業を進める。南北方向に延びる鉄製の溝が多数確認される。壁面にて土層断面の確認と実測作業を行う。遺構内の遺物出土位置を記録して取上げ。遺構確認の精査を繰り返し行う。断面及び平面図作成。C区上層面 再度、遺構精査と発掘。井戸の発掘を進める。31日(月) 雨で作業中止。1日(火) 関 正平氏来跡。

11月8日(火) C区 午前、遺構の清掃とホワイツスプレーによるマーキングを行い、ラジコンヘリによる空中写真撮影を行う。午後から雨のため作業中止。

11月10日(木)～14日(月) C区上層面井戸の発掘写真撮影及び補足調査。平面図作成を行う。C区下層面各遺構の補足調査、排土からの遺物採集作業、平面図作成作業を行う。11日(金) SD18・22付近を再度重機により掘り下げ、下層の遺構の調査を行う。確認された溝と重複するものも含め、溝が10条確認される。発掘し、平面図を作成した。器材を撤収する。

平成18年度調査 (C区下層の一部・D区・E区・F区・G区・H区・I区・J区・K区)

8月7日(月)～9日(水) C区下層及びD区の表土剥ぎ。それぞれ重機0.4m<sup>3</sup>級1台で、西～東部へ向かう形で掘削する。

8月8日(火)～10日(木) E区表土剥ぎ。上層にて中世の遺構面を確認する。

8月8日(火)～11日(金) 安全施設搬入、設置を行う。8月14日(月)～16日(水) お盆休み。

8月17日(木)～21日(月) 先行して作業員3名投入し、C区・D区の排水溝の掘削を行う。基準点、水準点設置作業。

8月22日(火) 本日より作業員28名投入する。シルバー局長挨拶、諸連絡の後、E区上層面から遺

構構確認作業を開始する。休息用のパイプテント設置。

8月23日(水)～25日(金) C区下層面、E区上・下層面の遺構確認、遺構発掘作業を行う。24日(木) E区上層面SE15完掘、古銭(金8)出土。25日(金) C区下層面SE14から木簡(木1)出土。E区上層完掘、平面図作成。

8月28日(月)～31日(木) D区遺構確認、遺構発掘作業。E区上層面を重機にて掘削。29日(火) 加茂市教育研究会の先生方現場見学。30日(水) 雨で作業中止。

9月1日(金) 午前、C区下層面の空中写真撮影1。空撮後、0.25m<sup>3</sup>のバックホーにて河川跡を掘削し、遺物の回収を行う。県文化行政課尾崎高宏氏現地指導。郷土史家青山誠八氏来跡。

9月1日(金)～2日(土) C区下層面の平面図作成。

9月2日(土) J区4トレンチの確認調査を行い、本調査対象面積の調整を図る。

9月4日(月)～6日(水) E区下層面、D区の遺構確認、遺構発掘作業。J区盛土除去作業。6日(水) E区下層面の完掘写真撮影。

9月7日(木) J区3トレンチの確認調査を行いながら、表土剥ぎを進める。

9月8日(金)～11日(月) D区の遺構確認、遺構発掘作業。E区下層面の平面図作成。J区表土剥ぎ。8日(金) D区SK80から巡方(金1)出土。

9月12日(火)・13日(水) 雨で作業員の作業中止し、J区の表土剥ぎを行う。

9月14日(木)～20日(水) D区の遺構確認、遺構発掘作業。J区表土剥ぎ及び遺構確認、遺構発掘作業。K区表土剥ぎ。

9月20日(水) 午前、D区の空中写真撮影2。

9月21日(木)～22日(金) D区の平面図作成。J区遺構発掘作業。K区表土剥ぎ。K区最北部に試掘坑を設け、遺跡の拡がりを確認する。22日(金) J区 SD67から刀子(金5)出土。若宮中学校1年生2名体験発掘。

9月25日(月)～30日(土) J区の遺構確認、遺構発掘、平面図作成作業。K区表土剥ぎと遺構確認作業。27日(水) K区グリッド杭打設。

10月2日(月) 雨で作業員の作業中止し、G区の表土剥ぎを行う。

10月3日(火)～5日(木) J区、K区の遺構確認、遺構発掘作業。

10月4日(水) J・K区の空中写真撮影3。

10月6日(金)・7日(土) 雨で作業員の作業中止し、G区の表土剥ぎを行う。

10月10日(火)～12日(木) J区の平面図作成。K区遺構確認、発掘作業。10日(火) 加茂市文化財調査審議委員会視察。

10月13日(金)～17日(火) K区遺構確認、発掘、平面図作成作業。G区遺構確認、発掘作業。H区表土剥ぎを行う。

10月18日(水)～23日(月) K区遺構確認、発掘、平面図作成作業。G区遺構確認、発掘作業。完掘写真撮影。H区遺構確認、発掘作業。18日(水)からF区表土剥ぎを行う。19日(木) 須恵器無台杯墨書土器「若」(474)出土。

10月21日(土) K区の空中写真撮影4。F区、G区遺構確認、発掘作業。

10月24日(火) 雨で作業員の作業中止し、F区の表土剥ぎを行う。K区平面図作成作業。

10月25日(水) F区表土剥ぎ。遺構発掘。G区、H区遺構確認、発掘作業。

10月26日(木)～30日(月) G区、H区平面図作成と完掘写真撮影。F区の表土剥ぎ完了し、遺構確認作業を行う。I区表土剥ぎ。

10月31日(火)～11月1日(水) F区、I区遺構確認、発掘作業。

11月2日(木)～4日(土) K区の中谷地排水路部分の表土剥ぎと遺構確認、発掘作業。F区遺構確認作業。

11月6日(月) F区河川22の発掘作業。I区SB1などの遺構発掘。

11月7日(火) 雨で作業員の作業中止。

11月8日(水)～10日(金) F区平面図作成と完掘写真撮影。I区遺構確認、発掘作業、完掘写真撮影、平面図作成作業。一部器材撤収。

11月13日(月)～17日(金) F区、I区土層断面精査。取上げ遺物の調査。断面図面確認。器材撤収。

## B 整理作業の経過

平成17年度 11月～3月 加茂市民俗資料館内(以下、資料館)にて遺物水洗い、注記作業を行う。

平成18年度 7月～3月 17年度出土遺物について、計量、接合・復元、分類、選別、実測作業を行う。木製品、石製品については写真実測、土器のトレース業務を業者委託し、校正作業を行った。18年度出土遺物については、現場プレハブ内及び資料館にて遺物水洗い、注記作業を行う。また、18年度調査区について、全景俯瞰写真の合成作成業務を行った。自然科学分析は獣骨の同定を実施した。なお、木製品2点(木16・20)の補強修復作業を専門業者に委託して実施した。

平成19年度 6月～3月 18年度出土遺物について、計量、接合・復元、分類、選別、実測作業を行う。木製品、金属製品、石製品、土製品についての写真実測、土器のトレース業務を業者委託し、校正作業を行った。自然科学分析は木製品の樹種同定、土壌分析について実施した。なお、木製品8点(木1・2・4・5・6・7・8・14)、金属製品2点(金2・4)の補強修復作業を専門業者に委託して実施した。

平成20年度 6月～3月 18年度出土遺物について、計量、接合・復元、分類、選別、実測作業を行う。土器のトレース、写真撮影、主に遺構図版、写真図版の編集、遺構観察表作成などの整理調査支援、遺跡全体図面作成業務を業者委託し、校正作業を行った。自然科学分析は木製品の樹種同定及び漆器について実施した。なお、木製品16点(木15・17・18・19・21・22・23・25・26・53・54・55・56・57・58・60)、金属製品1点(金1)の補強修復作業を専門業者に委託して実施した。

平成21年度 6月～3月 主に遺物写真、遺物図版の編集、原稿執筆作業を行い、報告書刊行を行った。あわせて報告遺物の収納作業を行った。なお、木製品2点(木1・2)、金属製品2点(金3・5)の補強修復作業を専門業者に委託して実施した。

## 4 発掘調査・整理作業の体制

加茂市の調査担当者が1名という現状の中で、平成17年度の発掘調査においては、距離のある調査区が複数並ぶこと、平成18年度の発掘調査においては、同時期に一般国道403号交通連携事業に伴う馬越遺跡発掘調査が同時進行で行わなければならない状況などから、民間委託を行う必然性が生じたのである。ただし、全委託ではなく、市担当者がかけもちながら、常に現場に常駐し、指示・監督する形態で行う発掘調査支援業務とした。なお、支援業務の内容は、第1には現場作業の全体的な掌握を行うことができる発掘調査担当者(平成17年度1名 平成18年度2名)とその補佐を行い、作業員の指揮監督を行

#### 4 発掘調査・整理作業の体制

うことができる調査員（平成17年度1名、平成18年度2名）を常駐させる形での派遣業務が主たるものである。第2には基準点測量、グリッド杭打設などの基本測量業務、遺構平面図作成などの測量作業の委託である。第3には完掘後の空中写真撮影の委託である。また、事業者への説明として、一時的に増加した埋蔵文化財行政の一部である発掘調査に対応するために専門職員の増員を図ることが不可能なこと、新潟県内における民間調査組織の導入の進捗状況などから、発掘調査に対応するための民間委託を行う環境が整いつつあることを挙げた。さらには、加茂市においても、類似した状況から平成10年度にすでに民間調査会社への発掘調査委託を実施している。業者の選定にあたっては、県内における調査実績などを考慮し、6社に対し、見積り依頼を行い、総合計額の最低価格を提示した会社と随意の委託契約を締結した。平成17、18年度ともに発掘調査支援業務は（株）イビソクに委託して実施した。

加茂市は副調査員（平成17年度1名）、調査補助員（平成17年度1名、平成18年度3名）を日々雇用として採用し、主に遺構断面実測や遺物取上げなどに従事した。作業員は、加茂市が社団法人加茂市シルバー人材センターに委託し、概ね平成17年度が20名、平成18年度が30名体制で開始した。なお、平成18年度には作業員の安全確保や駐車場スペースの関係などから、（株）渡辺建材にマイクロバス2台による送迎をお願いした。

発掘現場作業全般の労務・安全管理等の業務については、市内建設業者A級13社による見積り合わせにより、平成17年度、18年度ともに（株）渡辺建材と賃貸借業務契約を締結してお願いした。主な業務内容は、安全衛生等の諸法令の有資格者を現場世話人として常駐させること、重機による表土掘削、作業員の送迎、安全施設設置・撤去作業（平成18年度のみ）などである。また、同様の方法で平成17年度が（株）涌井建設工業、平成18年度が（株）涌井組と賃貸借業務契約を締結して、発掘調査に関係した施設の設置・撤去及び機械・器具等を賃借した。主なものは、調査事務所（内部備品類含む）、器材収納庫、仮設トイレ、水中ポンプ、仮設電気・水道の設置・撤去（平成18年度のみ）などである。

このように発掘調査業務の専門的業務については、平成17・18年度ともに（株）イビソク、作業員は社団法人加茂市シルバー人材センターとそれぞれ委託契約、労務・安全管理業務は平成17・18年度ともに（株）渡辺建材、施設の設置・撤去及び機械・器具等の調達については平成17年度が（株）涌井建設工業、平成18年度が（株）涌井組とそれぞれ賃貸借業務契約を締結して、調査体制を整えた。

整理作業については、加茂市が整理作業員2～4名を日々雇用として採用し、加茂市民俗資料館内において調査担当の指示のもと、作業を進めた。木製品などの写真実測、遺物のデジタルトレース、遺物写真撮影や報告書編集業務については（株）セビアスに委託して、作業の効率化を行った。

年度毎の体制は以下のとおりである。

#### 【平成17年度】発掘調査 A～C区

調査主体	加茂市教育委員会（教育長 井上信二）		
事務局	中滝孝明（社会教育課長）・相田喜一郎（同参事）・石井美代子（同主査）		
調査担当	伊藤秀和（社会教育課係長）	副調査員	山田 昇（日々雇用職員）
調査補助員	鈴木 進（日々雇用職員）		
調査支援業者	株式会社イビソク（調査担当 熊谷洋一）	調査員	瀬戸かな子・熊谷文子）
現場世話人	番場 崇・森山大樹（株式会社渡辺建材）		
現場作業員	荒井新吉・飯岡 健・薄木善勝・大橋宏治・小川啓一・小柳正樹・金子 登		

桑原政治・玄間圭六・杉山忠男・鈴木定二・関 昭策・高野正夫・千葉泰行・  
土田 實・鶴巻英一・長沢孝作・早川栄八・鷲尾弘一・渡辺英子・渡辺ヨキノ  
(社団法人加茂市シルバー人材センター会員)

整理作業員 前崎朋子(日々雇用職員)

**【平成18年度】発掘調査 C～K区**

調査主体 加茂市教育委員会(教育長 井上信二)

事務局 中滝孝明(社会教育課長)・相田喜一郎(同参事)・石井美代子(同主査)

調査担当 伊藤秀和(社会教育課係長)

調査補助員 泉田智子・風間 亮・鈴木 進(日々雇用職員)

調査支援業者 株式会社イビソク(調査担当 松田 繁・田中俊輔 調査員 五十嵐一樹・小林成光・牧野耕作・  
三本俊輔・山田 昇)

現場世話人 小林善司・森山大樹(株式会社渡辺建材)

現場作業員 相田英市・青柳秋雄・阿部勝平・五十嵐国男・梅田 栄・梅田常世・大橋宏二・小川啓一・  
小野栄子・小柳サク・小柳正樹・桑原政治・桑原 守・小池 登・小林正明・駒形邦清・  
酒井昭代・板井三代吉・茂野鑑治・鈴木定二・高橋キク・高橋助郎・高橋 武・田中忠男・  
千葉泰行・土田 實・坪谷弘三郎・戸石善雄・長沢孝作・中村フミエ・中村良八・番場  
多越・山崎延光・横山勝三・吉田 博・渡辺倉二(社団法人加茂市シルバー人材センター会員)

整理作業員 池田智枝・櫻井恵美子・高橋雅子・前崎朋子(日々雇用職員)

**【平成19年度】整理作業**

調査主体 加茂市教育委員会(教育長 井上信二)

事務局 中滝孝明(社会教育課長)・相田喜一郎(同参事)・石井美代子(同主査)

整理担当 伊藤秀和(社会教育課係長)

整理作業員 池田智枝・泉田智子・櫻井恵美子・前崎朋子(日々雇用職員)

整理作業協力者 鈴木 進・高橋雅子・山田 昇(日々雇用職員)

**【平成20年度】整理作業**

調査主体 加茂市教育委員会(教育長 井上 信二)

事務局 中滝孝明(社会教育課長)・相田喜一郎(同参事)・石井美代子(同主査)

整理担当 伊藤秀和(社会教育課係長)

整理作業員 櫻井恵美子・前崎朋子(日々雇用職員)

整理作業協力者 池田智枝・泉田智子・高橋雅子・山田 昇(日々雇用職員)

整理調査支援業者 株式会社イビソク(調査担当 小林成光 調査員 小林理恵)

**【平成21年度】整理作業・報告書刊行**

調査主体 加茂市教育委員会(教育長 井上信二)

事務局 中滝孝明(社会教育課長 平成21年10月31日まで)・齋藤 淳(社会教育課長 平成21年

11月1日～)・樋口恒志(同参事 平成21年10月31日まで)・石井美代子(同主査)

整理担当 伊藤秀和(社会教育課係長)

整理作業員 泉田智子・櫻井恵美子・高橋雅子・前崎朋子(日々雇用職員)

## 5 遺跡の概要

馬越遺跡は既往の調査成果から、散発的に古墳前期の古式土師器も出土しているが、明確な遺構が構築され、定量の出土遺物が見られる時期は古墳中期である。その後、ごく少量であるが古墳後期の土器も出土しているが、出土土器の年代観から概ね8世紀中頃～10世紀中頃までの約200年間、奈良・平安時代に最も盛行する遺跡である。そして、一旦無人化した本地域には、13世紀頃の鎌倉時代に再び集落が形成されることが判明している。

今回報告するA～J調査区は幅が狭く、遺構の全貌を把握できたところは少ないが、夥しい遺構が確認され、多彩な内容の遺物が出土している。各区毎に概要を記す。

A区は、遺跡推定範囲の西端部にあたる。古代の遺物は少量であったが、古墳中期の良好な土器が自然流路からまとまって出土した。B区では、平安時代の礎板を持つ柱穴や河川跡が確認され、緑軸陶器が出土した。C区では、上層面に井戸を中心とした鎌倉時代の集落跡が検出され、漆器などの良好な木製品が出土した。下層面では平安時代の畝状遺構や井戸などが検出され、井戸からは木簡が出土した。D区では、溝を中心とした疎な遺構であるが、調査区東端部に近い土坑から羽口や鈎帯金具が出土した。E区でも、上層面でC区の繋がりで見られる鎌倉時代の集落の一部が確認された。下層面では遺構は疎であるが、多量の土器が出土し、金属製品の鉄斧などが出土した。F区では古代～中世の遺構、遺物が見られた。調査区の大半は、河川跡で占められる。この河川は国道バイパス取付道路の調査区で検出された河川3と同一である。溝からほぼ完全な状態で榎が出土した。G区、H区は溝や流路で占められ、古墳時代中期～中世の遺物が出土している。I区は奈良時代の遺構、遺物が中心である。大型の建物跡の一部が確認されている。J・K区は国道403号線バイパス法線調査区のI・II・III区の東端に沿う調査区であり、その際確認された遺構と同じと見られる溝などが、多数出土した。畜串を多数出土した井戸や土坑から鈎帯金具が出土するなど注目される。また、何らかの施設を考えた「中家」墨書土器などがある。

以上のように、今回の調査区からは断片的ではあるが、遺跡の出現から消滅にいたる過程が垣間見れたと言える。加茂周辺では希薄であった古墳中期の資料、荘園・官衙関連遺跡としての地域を代表する豊富な奈良・平安時代の遺構・遺物、中世前期の集落など多彩な内容を持つ遺跡であることが鮮明となった。

## 6 地形と基本土層 (第10図、図版3・6・14・17・19・21・23・27・31・34・36・40・44)

馬越遺跡地内の現況はほぼ平坦な水田地帯で、現水田面の標高は約6～7m前後である。現況地形分類では、本区域は低地の三角州に分類される[鈴木1984]。しかし、これまでの調査から各所で、遺構確認面(地山)の起伏が認められ、一面平らではなく、微高地と微低地が入り組んだ地形であることが明らかとなっている。第10図は、道路工事区域の調査区での代表する等高線と各所で確認された河川跡などを記入したものである。I～IV区での遺構確認面標高5.5m前後をピークに東西方向に向かい高さを減じる様相が窺える。

各区での遺構確認面標高を見ると、A区、G区、H区、I区では標高約5.0m前後で、本線IV区から標高を減じながら、遺構が展開した取付道路部分と比べて大きな変化はないようである。しかし、F区では標高約5.0～5.4m前後と一部周辺より安定した場所が展開するようである。C区、E区上層面では標高約5.6～5.7m前後で中世の遺構が確認される。下層面では標高約4.9～5.2m前後となり、やや起伏を持つ場所と見られる。B区はやや離れた区域であるが、遺構確認面標高は約5.0～5.3mで起伏を持ちながらも安定した場所であったと見られる。D区、J区、K区の一部では標高約4.8～5.1m前後で、やはり道路本線部分からは、標高を減じて展開している。K区付近では南北方向に伸びる微高地があり、道路本線部分と同じく北東部に向かい標高を減じている。このように、古墳～古代の遺構確認面は道路本線部分を頂きとして、その周辺部は標高を減じて展開する。

基本土層堆積については、調査区が細長いトレンチであることからいずれかの遺構の土層断面に関連し確認している。なお、個々の土層の認識及び注記については、年度毎に観察者が異なり、表記内容も若干違う箇所も存在するが、極力そのままとし、各区毎については担当者で調整した。ご寛容願いたい。

A区では大きく6層に大別され、地点により8層に細分される。IV層、V層に腐植物を多く含み、その下層のVI層がオリブ黒色土で遺物包含層となる。B区では大きく5層に大別され、地点により11層に細分される。III層に腐植物を多く含み、その下層のV層がオリブ黒色粘質土で遺物包含層となる。C区(2005調査区)では大きく9層に大別され、地点により19層に細分される。上層面においてはI層耕作土下に灰色粘質土が堆積し、V層の遺構確認面も灰白色土である。I層直下で遺構が確認できる地点がある。中世の遺構はFグリッドより西方では検出できない。そして約40cm程の間層を挟み、古代の遺構確認面が確認される。VII層が遺物包含層である。その下層のVIII層、IX層にも遺物が含まれることから、時期差を持つ複数の包含層が存在した可能性が高い。遺構が比較的希薄となるC区(2006調査区)では、大きく6層に大別され、地点により10層に細分される。D区では大きく13層に大別される。V～VII層が腐植物を多量に含む層で、X層、XI層が遺物包含層である。E区上層面の状況はC区とほぼ同じである。約70cmの間層を挟み、古代の遺構確認面が確認される。E区では大きく9層に大別され、12層に細分される。腐植物を多量に含むVI層を挟んで下位に、遺物包含層であるIX層が存在する。

F区では大きく11層に大別され、14層に細分される。腐植物を多量に含むIV層、VI層下位に、X層、XI a層の遺物包含層が確認される。F区では地点により、腐植物層より上位で確認できる遺構もあり、出土遺物からも中世の生活面の存在が推測される。G区では大きく5層に大別され、9層に細分される。III層、IV層に腐植物が多量に含まれる。遺物包含層は明確ではない。H区では大きく10層に大別され、11層に細分される。腐植物層はそれほど顕著ではなく、遺物包含層も不明確である。I区では大きく9層に大別され、18層に細分される。III、V～VII層と腐植物を多量に含む層が複数堆積し、その下位にIX層の遺物包含層が存在する。J区では大きく6層に大別され、7層に細分される。V層に腐植物を含み、その下位にVI層の遺物包含層が存在する。K区では、最北西端部で11層に大別される。砂質土、腐植物層が顕著で、河川との関係が窺える。その下位にXI層の遺物包含層が存在する。

各区とも自然流路や河川跡が存在し、氾濫などの影響を受けた腐植物層の堆積が顕著であるが、かつて本線部分の基本土層⑦VII層の腐植物層において放射性炭素年代測定を実施したところ、年代値は概ね9世紀頃とされており、A区は検討を要するが、他の区はその腐植物層を古代に堆積した鍵層として、出土遺物の年代観も含めて、慎重な検討が必要である。



第10図 地形と旧河川跡 (S = 1:2,500)  
 (建設省「平成4年修正」国土利用図案の11) S = 1:2,500 参照)

## 第IV章 遺 構

### 1 遺構の概要

遺構は各区毎で粗密の差はあるが、全調査区で確認された。A区では古墳時代中期、C区、E区、F区で中世の遺構が見られたが、他は奈良・平安時代を中心とする。調査区の形状から、柱根を伴うピットが確認されても、建物跡の認定は出来ないものがいくつかある。I区で掘立柱建物跡1棟を推定したにとどまる。各区の種類毎の遺構数を第5表に示した。全体では井戸11基、土坑183基、不明遺構1基、溝410条、ピット516基、河川・自然流路13条が検出されている。

遺跡推定範囲の西端に位置するA区では古墳時代中期の自然流路が確認され、近接するG区、H区でも同時期の土器が出土する自然流路がある。B区では平安時代の自然流路が確認され、東側に多彩な遺構が存在する。C区・E区上層面では井戸を中心に多数のピットが検出された。C区下層面からは多数の同一方向に伸びる溝が確認され、畝状遺構と判断されるが、国道403線バイパス道路工事地内のⅡ・Ⅲ区で確認されたまとまりと関連を持つものと見られる。D区は比較的遺構は疎らだが、やはり畝状遺構と見られる溝を中心とする遺構が確認された。E区下層面、F区、G区、H区は遺構密度が低く、河川跡や大きな溝などが中心を占める。I区は掘立柱建物跡1棟が確認されている。J区、K区は遺構が密集する。J区では同一方向に伸びる溝を中心とし、先のⅡ・Ⅲ区で確認された溝と同一遺構が存在する。K区も同じく、I区・Ⅱ区と同一の遺構が確認される。

区 種類	A	B	C上	C(2005) 下	C(2006) 下	D	E上	EF	F	G	H	I	J	K	合計
井戸			7	1	1		1						1		11
土坑		5	7	8	2	9		7	14		8	24	21	78	183
不明												1			1
ピット	12	26	183	12	5	44	27	3	49	6	1	30	32	86	516
溝	6	28	7	71	18	55	3	11	39	17	4	15	58	78	410
河川・流路	2	1	1		1				1	4	3				13
合計	20	60	205	92	27	108	31	21	103	27	16	70	112	242	1,134

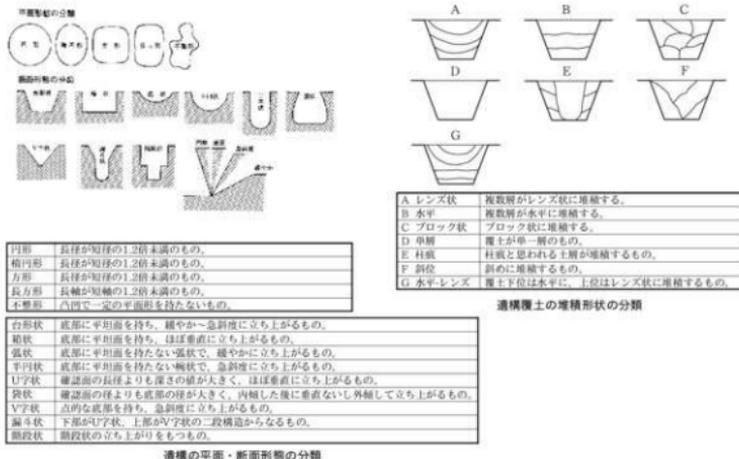
第5表 各区の遺構一覧表

### 2 記述の方法と遺構の分類 (第11図)

各節においては掘立柱建物跡、井戸、土坑、不明遺構、溝、ピット、河川の順番で特徴的なものや遺物出土の有無を基準に選別した遺構について記述を行い、すべてに対しては詳述しない。個々については遺構観察表に記載した。取り上げる遺構数は全遺構総数の約1割に過ぎない。

平成17年度調査区域であるA～C区の一部については各遺構の番号は現場で種別毎、検出順に通し番号で付けている。本報告書では、整理段階で種別や番号を変更したものがあ。平成18年度調査区域であるC～K区については種別に関係なく調査現場で、検出順に通し番号を付し、その通し番号を活かし、番号の前に遺構種類の略称を付している。ピットについては、遺構平面図では略称(SP)を省き、通し番

## 2 記述の方法と遺構の分類



第11図 遺構の形状分類模式図（荒川ほか[2006]から転載）

号のみを記している。掘立柱建物跡をSB、井戸をSE、土坑をSK、不明遺構をSX、溝をSD、ピットをSPの略号、河川（自然流路含む）はそのまの用語を用いた。なお、遺構の平面形、断面形、堆積状況に関しては大坪遺跡〔荒川ほか2006〕の分類を参考にした。重複する遺構に対しては、新旧関係が明確な場合には「旧（切られる）→新（切る）」と表現している。

個々の遺構の説明にあたり、作成した遺構図面は各区毎に異なるが、1:150、1:200、1:250、1:300、1:400、1:500の遺構全体配置図、1:80、1:100、1:250の分割平面図及び遺構個々の図面である。遺構個々の図面は、基本土層断面図を1:40、1:80、掘立柱建物平面図を1:80、柱穴断面を1:40、井戸・土坑平面図を1:20、1:40、断面図を1:40、溝平面、断面図を1:40、1:50、1:60、1:80、ピット平面、断面図を1:40、河川平面図及び遺物出土状況図を1:100、断面図を1:40、1:60、1:100とした。各個別図の中で遺物の出土位置が明らかなものについては、●で記し、遺物実測図を配置したものがある。写真図版に関しては選択的に使用した。

### A 掘立柱建物跡

柱穴が一定の間隔で並ぶことや柱根の存在などから掘立柱建物跡を認定した。確認できたものはI区で僅か1棟のみであったが、柱根の存在などから、B・C・D・E、F・J・K区での存在が推測される。

記述にあたり、主軸方位は柱列主軸の方向で表し、北を中心に東西に偏する角度、 $N - 10^{\circ} - W$ などとした。また、柱穴については建物毎に通し番号を付した。それぞれの平面形及び深さの数値については最大値をとった。深さは遺構確認面からのものである。

### B 井戸・土坑・不明遺構・ピット

記述にあたり、規模を示す際は長軸が平面形の最大径、短軸が長軸と直交する部位で最長部を計測して

いる。深さは遺構確認面からのものである。土坑とピットの分類については、覆土の堆積状況や規模及び深度などから判断した。

### C 溝・河川（自然流路）

記述にあたり、幅は最大幅と最小幅を計測した。深さは遺構確認面からのものである。走向する方向には方位を使用した。

## 3 A 区の遺構

### A A 区の概要

A 区は遺跡推定範囲の西端部に位置する。遺構は疎らで、溝、ピット、自然流路が確認された。溝、自然流路の走向方向はSD5を除き、ほぼ北西～南東方向に伸びる。ピットはB7グリッドにまともり、径20cm前後と規模の小さいものである。古代の遺物は少量で、古墳時代中期の古式土師器が自然流路からまとめて出土した。

### B A 区遺構各説

#### 1) 溝 (SD)

##### SD1 1号溝 (図版2・3、写真図版3)

調査区最北端部のA3～B3グリッドに位置し、主軸方位N-43°-W、北西～南東方向に走向する遺構である。幅は28～44cmで、深さ10cmである。覆土は2層に分かれ、レンズ状に堆積する。断面形は弧状である。SD2の覆土3層を切り、底面標高も他より高い位置にあることや須恵器長頸瓶、土師器無台椀・長甕が出土したことから、平安時代の遺構と考えられる。

##### SD2 2号溝 (図版2・3、写真図版3)

A3～B3グリッドに位置し、主軸方位N-56°-W、北西～南東方向に走向する遺構である。幅は確認面で90～126cmであるが、覆土3層も含めると幅約3mとなる。覆土は3層に分かれ、腐植物を含んだ黒色土がレンズ状に堆積する。深さは15cm程であるが、中央部に幅約30cm、深さ15cmの単層の溝を持つ。3層上部からの深さは49cmである。出土遺物は古式土師器高杯・甕、須恵器無台杯・甕が見られ、古墳時代～平安時代の遺構と考えられる。

##### SD3 3号溝 (図版2・3、写真図版3)

B7グリッドに位置し、主軸方位N-22°-W、北西～南東方向に走向する遺構である。幅は116～132cm、深さ11cmである。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物はない。

##### SD5 5号溝 (図版2・3、写真図版3)

調査区最南端部のB8～C8グリッドに位置し、主軸方位N-66°-E、西～東方向に走向する遺構である。幅は20～28cmで、深さ8cmである。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物はない。

##### SD6 6号溝 (図版2・3、写真図版3)

B5グリッドに位置し、主軸方位N-53°-W、北西～南東方向に走向する遺構である。幅は158cmで、深さ9cmである。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物は古式土師器甕1個体が出土した。古墳時代中期の遺構である。

## 2) 河 川

### 河川1・2 (図版2・4、写真図版3・4)

B3～B4グリッドに位置する、北西～南東方向に走向する自然流路である。土層断面からは、SX2がSX1を切る状況が観察されたが、土質や出土遺物の時期などで明確に区分できないことから、一連の遺構とした。SX1、SX2あわせて幅は約6.6m、確認面からの深さは28～42cmである。覆土は斜位及びレンズ状に、腐植物を多量に含んだ粘質土が堆積する。覆土の上部も腐植物層が顕著であり、埋没後も窪地状であったことが推測される。覆土中には流木も見られる。断面形は弧状である。出土遺物は古式土師器がまとまって出土した。流路のほぼ中央部に集中する。古代の遺物は見られない。土器は古墳時代中期のもので、高杯・甕を中心に一括性の高い土器群と考えられる。他に板状及び棒状の木製品が数点出土した。

### 河川3 (図版2・3、写真図版4)

B5～B6グリッドに位置する、北西～南東方向に走向する自然流路である。幅は約5.6m、確認面からの深さは10～18cmである。覆土は単層で、灰色粘質土が堆積する。断面形は弧状である。出土遺物はない。走向方向や周辺の出土遺物の様相から古墳時代中期の遺構と考えられる。

## 4 B区の遺構

### A B区の概要

B区は国道403号線バイパス調査区域から北西方向に約150m離れた地点にある。遺構は南北方向に伸びる溝が中心で、他に土坑、ピット、河川(自然流路)が確認された。ピットには柱根や礎板を持つものがあり、掘立柱建物跡が周辺に展開することが推測される。調査区西側には遺構の空白域が存在する。包含層から中世の遺物が少量出土しているが、ほとんどが平安時代の遺構である。

### B B区遺構各説

#### 1) 土 坑 (SK)

##### SK3 3号土坑 (図版5)

E3グリッドに位置し、南側をSD12に切れ、SP14を切る。SP14<SK3<SD12の新旧関係がある。平面形は方形を呈し、深さ15cmである。覆土は黒色土が水平に堆積し、断面形は弧状である。出土遺物は須恵器甕、土師器無台碗・小甕がある。

##### SK4 4号土坑 (図版5)

D3グリッドに位置し、南側は調査区域外に拡がる。平面形は円形を呈し、深さ7cmである。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物は須恵器無台杯、土師器長甕がある。須恵器無台杯は、約2m離れた地点から出土した破片と接合している。図示した土器は、V<sub>2</sub>期と考えられる。

#### 2) 溝 (SD)

##### SD1 1号溝 (図版5・6、写真図版6)

G2グリッドに位置し、SD20を切る。主軸方位N-3°-E、南～北に走向する遺構である。幅は50～65cmで、深さ10cmである。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物はない。

**SD2 2号溝** (図版5・6、写真図版6)

G2グリッドに位置し、SD14、SD20を切る。SD1とは約1mの間隔にある。主軸方位N-11°-E、南へ北に走向する遺構である。幅は110～130cmで、深さ16cmである。覆土は単層で、断面形は台形状である。出土遺物は比較的多く、須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗がある。図示した土器はV<sub>2</sub>～VI期と見られる。

**SD3 3号溝** (図版5・6、写真図版6)

J2グリッドに位置する。主軸方位N-9°-E、南へ北に走向する遺構である。幅は93～100cmで、深さ19cmである。規模などSD2と類似する。覆土は単層で、断面形は台形状である。出土遺物は覆土上面に多く、須恵器有台杯・無台杯・甕、土師器無台碗・長甕、黒色土器無台碗がある。図示した土器はVII期と見られる。

**SD4 4号溝** (図版5・6、写真図版6)

J2グリッドに位置し、SD3とは約1mの間隔にある。主軸方位N-2°-W、南へ北に走向する遺構である。幅は126～135cmで、深さ14cmである。覆土は単層で、断面形は台形状である。出土遺物は多く、緑軸陶器無台碗、須恵器無台杯・小型瓶、土師器無台杯・無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器有台碗・無台碗がある。また、底面近くから板状木製品とそこに付着した獣骨(ウマ)が出土した。図示した土器はVI<sub>1</sub>期と見られる。

**SD5 5号溝** (図版5、写真図版6)

調査区最西端部でJ2グリッドに位置し、SD4と隣接する。主軸方位N-22°-E、南へ北に走向する遺構である。幅は98～124cmで、深さ25cmである。覆土は単層で、断面形は台形状である。出土遺物は多く、須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗がある。

**SD12 12号溝** (図版5・6、写真図版6)

E3グリッドに位置し、SK3、SP14を切る。主軸方位N-65°-E、北東へ南西に走向する遺構である。幅は70～100cmで、深さ17cmである。覆土は5層に分層され、レンズ状に堆積する。断面観察から何回か掘り直した状況が推測される。断面形は弧状である。出土遺物は多く、須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、板状及び椀などの木製品がある。椀は約80cm程が下端部から地中に突き刺さった状態で検出された。

**SD18 18号溝** (図版5・7、写真図版6)

調査区最東端部でC3グリッドに位置する。主軸方位N-4°-E、南へ北に走向する遺構である。幅は226cmで、深さ20cmである。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕、中世土師器がある。

**3) ビ ッ ト (SP)****SP4 4号ビット** (図版5・7、写真図版7)

F3グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、規模は(25)×24cm、深さ20cmである。覆土は2層に分層され、レンズ状に堆積し、長さ24cm、径12cmの柱根が遺存した。柱根の下部に幅15cm前後のミカン削材2点が設置され、礎板と考えられる。また、柱根の下部側面にも2点のミカン削材が出土した。樹種はすべてクリである。出土遺物はない。

**SP6 6号ビット** (図版5、写真図版7)

D3グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、規模は30×30cm、深さ47cmである。断面形はU字状である。長さ30cm、径9.5cmの柱根が遺存した。樹種はヤナギ属である。出土遺物はない。

#### 4) 河 川

##### 河川1 (図版5・7, 写真図版7)

H2～12～J2グリッドに位置する。主軸方位N-17°-E、南～北に走向する自然流路である。幅は確認面で約12mを測る。覆土は単層で、灰色粘質土が堆積する。深さは確認面から20cm程である。遺物は、土器、木製品などがほぼ全域からまばらに出土している。出土遺物は須恵器有台杯・無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器有台皿・無台碗、木製品(工具・用途不明)、獣骨(ウマ)がある。獣骨(ウマ)は西側の肩付近から出土した。図示した土器はV<sub>2</sub>～VI<sub>2-3</sub>期と見られる。

## 5 C区上層の遺構

### A C区上層の概要

C区はバイパス本線のⅢ区に取り付く位置にある。遺構は密で、井戸7基を中心に、多数のピットが確認された。井戸は全て円形素掘りである。井戸からは木製品が多く出土した。全体的に土器類の出土量は少なく、珠洲焼を中心とする。13世紀後半頃の集落域の中心部分に相当するものと見られる。E区上層と一連と見られる。

### B C区上層遺構各説

#### 1) 井 戸 (SE)

##### SE1 1号井戸 (図版8・9, 写真図版10)

河川1に近接したB3～B4グリッドに位置する。南半分は調査区域外に拡がる。深さは確認面から97cmである。覆土は腐植物や炭化物を含んだ灰色土がブロック状に堆積し、断面形は台形である。出土遺物は少なく、底面近くから珠洲焼播鉢が出土したのみである。他に用途不明の木材が1点ある。

##### SE2 2号井戸 (図版8・9, 写真図版10)

C3グリッドに位置する。SE1の4m西方にある。南半分は調査区域外に拡がる。SP63・86を切る。平面形は約1m四方の方形で、深さは確認面から82cmである。覆土は5層以下に腐植物や炭化物を多量に含んだ灰色粘質土がレンズ状に堆積し、断面形は箱状である。出土遺物は少ないが、6層上面からほぼ完形の漆器碗が出土している。他に珠洲焼甕、箸状木製品(2本)、用途不明の木材(2点)などがある。

##### SE3 3号井戸 (図版8・9, 写真図版10・11)

C3グリッドに位置する。SE2から2m北西方にある。北側の一部が調査区域外に拡がる。SX1に切られる。平面形は82cm四方の方形で、深さは確認面から91cmである。覆土は5層以下に腐植物や炭化物を多量に含んだオリーブ黒色土がほぼ水平に堆積し、断面形は箱状を呈する。遺物は、木筒、櫛、下駄、曲物、箸状(21本)、両端が炭化した付け木状などの木製品が6層以下から出土した。土器は中世土師器が少量ある。

##### SE4 4号井戸 (図版8・9, 写真図版11)

C3グリッドに位置する。SE3から2m西方にある。SE5と隣接する。平面形は径72cmの円形で、

深さは確認面から115cmである。覆土は腐植物や炭化物を含んだ灰色粘質土やオリーブ黒色土がほぼ水平に堆積し、断面形は箱状を呈する。出土遺物は5層から漆器椀、6層から曲物、5・6層から箸状木製品(26本)が出土した。他に板状木製品もある。

#### SE5 5号井戸 (図版8・10、写真図版11・12)

C3グリッドに位置する。SE4と隣接する。平面形は径77cmの円形で、深さは確認面から116cmである。規模、形状ともにSE4と類似する。覆土は腐植物や炭化物を含んだ灰白色粘質土やオリーブ灰色土がほぼ水平に堆積し、断面形は箱状を呈する。出土遺物は木製品が比較的多く出土した。2層から中世土師器、5層から箸状(27本)、板状、棒状木製品や曲物、8層から漆器鉢が出土している。漆器鉢は底部を下にした横位で出土している。他にも漆器小皿が層位不明(下層と注記があり、8層付近の可能性が高い)であるが、出土している。古代の土器が少量混入する。

#### SE6 6号井戸 (図版8・10、写真図版12)

D3グリッドに位置する。SE5から4m西方にある。南側の一部が調査区域外に広がる。平面形は楕円形で、96×74cm、深さは確認面から119cmである。中位ほどから板状木製品が正位に配される。また、その下層からは漆器片が出土している。古代の土器が少量混入する。

#### SE7 7号井戸 (図版8・10、写真図版12)

E3グリッドに位置する。SE6からは約10m西方にある。北側の一部が調査区域外に広がる。SP83を切る。平面形は約90cm四方の方形と見られ、深さは確認面から105cmである。覆土は腐植物や炭化物を含んだ灰色粘質土やオリーブ黒色土がブロック状に堆積し、断面形は箱状を呈する。遺物は確認面から浅い、2・3層から珠洲焼播鉢、甕及び石製品の砥石が出土した。古代の遺物も少量混入する。

## 2) 土坑(SK)

#### SK3 3号土坑 (図版8・11、写真図版12)

C3～D3グリッドに位置する。南側半分が調査区域外に広がる。SD7、SP12などに切られる。平面形は不整形で、深さは確認面から19cmである。覆土はオリーブ黒色土などがレンズ状に堆積し、断面形は弧状を呈する。出土遺物はない。

#### SK4 4号土坑 (図版8・11)

D3グリッドに位置する。北側の一部が調査区域外に広がる。平面形は楕円形と見られ、深さは確認面から37cmである。覆土は炭化物を含んだ灰色粘質土やオリーブ黒色土がレンズ状に堆積し、断面形は半円状である。珠洲焼甕が出土している。

## 3) 不明遺構(SX)

#### SX1 1号不明遺構 (図版8・11、写真図版12・13)

C3グリッドに位置する。南側の一部が調査区域外に広がる。SE3、SP64などを切る。長方形の竪穴状の遺構である。現状で長軸(220)×短軸(170)cm、深さは確認面から15cmである。覆土は斜位に堆積し、断面形は台形状である。珠洲焼甕及び古代の土器が少量出土している。

## 4) 溝(SD)

#### SD2 2号溝 (図版8・11)

D3グリッドに位置する。SK5に切られる。長さ307cm、幅が52～64cm、深さ12cmを測る。主軸は東西方向で、 $N-80^{\circ}-E$ である。覆土は単層で、灰白色粘質土が堆積する。断面は弧状を呈する。遺物は出土していない。

#### SD3 3号溝 (図版8・11、写真図版13)

D3グリッドに位置する。SD4と並列するが、断面観察からSD4を切る。幅が40～50cm、深さ36cmを測る。主軸は $N-44^{\circ}-E$ である。覆土はほぼ水平で、灰色粘質土が堆積する。断面は半円状を呈する。遺物は出土していない。

#### SD4 4号溝 (図版8・11、写真図版13)

D3グリッドに位置する。SD3と並列するが、断面観察からSD3に切られる。幅が40～50cm、深さ24cmを測る。主軸は $N-50^{\circ}-E$ である。覆土は、灰色粘質土がレンズ状に堆積する。断面は弧状を呈する。珠洲焼埴鉢と古代の遺物が少量出土している。

#### SD6 6号溝 (図版8・12、写真図版13)

調査区最西端部のF3グリッドに位置する。南側の一部を欠く。幅が93～150cm、深さ25cmを測る。主軸は $N-68^{\circ}-E$ である。覆土は、炭化物を含む灰色粘質土、黒色土がレンズ状に堆積する。断面は半円状を呈する。遺物は珠洲焼埴鉢、石製品(磁石)が1層から出土している。

### 5) ビ ッ ト (SP)

#### SP1 1号ビット (図版8・12)

C3グリッドに位置する。SP17を切る。円形を呈し、規模は42×38cm、深さ39cmを測る。覆土は6層に分層され、ブロック状に堆積する。断面形はU字状である。出土遺物はない。

#### SP3 3号ビット (図版8・12)

C3グリッドに位置する。SP2を切る。楕円形を呈し、規模は37×30cm、深さ30cmを測る。覆土は4層に分層され、斜位に堆積する。断面形はV字状である。出土遺物はない。

#### SP19 19号ビット (図版8・12、写真図版13)

D3グリッドに位置する。円形を呈し、規模は35×34cm、深さ7cmを測る。覆土は単層で、断面形は弧状である。古銭が1点出土した。

### 6) 河 川

#### 河川1 (図版8・12、写真図版13)

確認された流路は、B3～B4グリッドにかけて、南北方向に走向する片岸の一部分である。位置関係からバイパス本線のⅢ区で確認された河川1と同一と考えられる。確認面から深さ約90cmで調査は中止した。C区(2006年)・E区下層面で確認された河川23と同じものと見られる。覆土は腐植物を含んだ緑灰色砂質土がレンズ状に堆積する。流木も含まれる。断面形は台形状に近い。出土遺物は少ない。珠洲焼埴鉢、須恵器甕がある。

## 6 C区下層の遺構

### A C区下層の概要

C区下層では、約70m幅で主軸方向から2グループに大別可能な溝が約90条も確認された。群としては不明なところもあるが、規模や形状から畝状遺構と考えられる。溝は密集するが、同一方向での切り合い関係は少ない。他に井戸が2基、土坑、ピット、河川（自然流路）が確認された。柱根を持つ柱穴も数基見られ、掘立柱建物跡の存在も推測される。また、H2～12グリッド周辺では、最下層としたもう1層の遺構確認面が存在し、同様の溝が見られる。

### B C区（2005年）下層遺構各説

#### 1) 井 戸 (SE)

##### SE7 7号井戸（図版13・14、写真図版15）

F3グリッドに位置する。SE14とは約3mの距離にある。北半分が調査区域外に広がる。やや遺構が希薄なエリアに存在する。平面形は楕円形で、現状で長軸140cm、確認面から深さ76cmである。覆土は腐植物や炭化物を含んだオリーブ黒色、黒色シルト質土がレンズ状に堆積し、断面形は半円状を呈する。遺物は多く、須恵器長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が出土した。また、底面から板状木製品が出土している。図示した土器から、Ⅶ<sub>1</sub>期頃と考えられる。

#### 2) 土 坑 (SK)

##### SK1 1号土坑（図版13・14、写真図版15）

I2グリッドに位置する。SD52・53・55などを切る。北半分が調査区域外に広がる。溝の密集する区域にある。平面形は楕円形で、現状で長軸92cm、確認面からの深さ100cmである。断面形はU字状である。中位よりやや下部、西壁よりから完形に近い土師器無台碗が出土した。他に須恵器甕、黒色土器無台碗が出土しており、Ⅶ<sub>1</sub>期と見られる。

##### SK2 2号土坑（図版13・14、写真図版15）

I2グリッドに位置する。SD18を切る。平面形は楕円形で、規模は70×56cm、深さは18cmである。覆土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。断面形は弧状を呈する。出土遺物は須恵器無台杯、土師器無台碗・小甕がある。Ⅶ<sub>1</sub>期と見られる。

##### SK3 3号土坑（図版13・14・15、写真図版15）

I2グリッドに位置する。SD54を切る。南側の一部が調査区域外に広がる。平面形は楕円形で、規模は現状で(70)×(70)cm、深さは14cmである。覆土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。断面形は弧状を呈する。出土遺物は須恵器甕、土師器無台碗・長甕・小甕・鉢、黒色土器無台碗がある。Ⅶ<sub>1</sub>期と見られる。

##### SK4 4号土坑（図版13・14、写真図版15）

I2グリッドに位置する。SD49を切る。平面形は楕円形で、規模は78×60cm、深さは25cmである。覆土は5層に分層され、レンズ状に堆積する。断面形は半円状を呈する。確認面から3層にかけて斜位に、長さ40cm、幅15cm程の板状の材が見られる。出土遺物は少なく、土師器長甕がある。

**SK6 6号土坑** (図版13・14)

H2～12グリッドに位置する。SD19を切り、SD29に切られる。北側の一部が調査区域外に広がる。規模は現状で(70)×(50)cm、深さは36cmである。覆土は6層に分層され、オリーブ黒色土を主体にレンズ状に堆積する。断面形は半円状を呈する。出土遺物は土師器無台碗・長甕がある。SD19出土遺物がVI<sub>2-3</sub>期と見られることから、本遺構の時期はVII<sub>1</sub>期頃であろう。

**SK8 8号土坑** (図版13・16、写真図版15)

G2～G3グリッドに位置する。SD40を切り、SD41に切られる。南側の一部が調査区域外に広がる。規模は現状で(92)×(76)cm、深さは22cmである。覆土は3層に分層され、黒色シルト質を主体にレンズ状に堆積する。断面形は台形状を呈する。出土遺物は土師器無台碗・長甕・小甕、両面黒色土器無台碗、木製品(祭祀具)がある。VII<sub>1</sub>期と見られる。

## 3) 溝(SD)

**SD2・4・5・6・7・8 2・4・5・6・7・8号溝** (図版13・15、写真図版16)

調査区最西部のJ2グリッドに位置する。SD7を除き、SD3に切られる。4m幅に溝間隔約50cmで、6条の溝が、主軸方位N-5°-18°-Wにまとまる。各溝の幅は20～40cm前後、確認面からの深さ12～26cmである。覆土は灰色シルト質土が単層、水平、レンズ状に堆積する。断面形は台形状、半円状、弧状と多様であるが、各溝のまとまりから畝状遺構の一環として把握できる。出土遺物は少なく、SD4から土師器無台碗が出土したのみである。なお、SD5、SD6の覆土及びその上層堆積土を対象に、花粉分析・植物珪酸体分析を実施し、栽培種のイネ属が検出されている。

**SD19 19号溝** (図版13・14・15)

H2～12グリッドに位置する。SK6に切られる。幅30～92cm、深さは25cmである。主軸方位は、N-6°-Eである。覆土は単層で、黒色土が堆積する。断面形は台形状である。出土遺物は多く、須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕・瓶、両面黒色土器無台碗がある。図示した土器からVI<sub>2-3</sub>期と考えられる。

**SD21 21号溝** (図版13・15)

H2グリッドに位置する。SD22、SD23に切られる。長軸418cm、幅44～70cm、深さは32cmである。主軸方位はN-81°-Wで、数少ない東西方向を指向する溝である。覆土は黒色土がレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は多く、須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋・瓶、黒色土器無台碗がある。

**SD22 22号溝** (図版13・15、写真図版16)

H2グリッドに位置する。SD21、SD37を切る。幅56～80cm、深さは21cmである。主軸方位はN-7°-Eで、SD19、SD23などと同じ方向である。覆土は3層に分層され、灰色シルト質土がレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は多く、須恵器無台杯・横瓶、土師器無台碗・長甕・小甕・瓶、黒色土器無台碗がある。図示した土器からVI<sub>2-3</sub>期と考えられる。

**SD23 23号溝** (図版13・15)

H2グリッドに位置する。SD21、SD37を切る。幅80～118cm、深さは47cmである。主軸方位はN-10°-Eである。覆土は6層に分層され、1～3層に黒色、4～6層に灰色シルト質土がレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は多く、須恵器甕、土師器無台碗・長甕・小甕・瓶、黒色

土器無台碗がある。

**SD24 24号溝** (図版13・15, 写真図版16)

H2グリッドに位置する。幅110～130cm、深さは21cmである。主軸方位はN-2°-Eである。中央部に一段下がる幅20cm前後の溝が設けられる。覆土は単層で、灰オリーブ色粘質土が堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は多く、須恵器長頸瓶、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋・甌、黒色土器無台碗、両面黒色土器無台碗がある。図示した土器からVI<sub>2</sub>・3期と考えられる。

**SD25 25号溝** (図版13・16)

H2グリッドに位置する。SK5、SD26に切られる。深さは32cmである。主軸方位はN-6°-Wである。覆土はブロック状に堆積し、何度かの改修が推測される。断面形は弧状である。出土遺物は、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋がある。図示した土器からVII期と考えられる。

**SD34 34号溝** (図版13・16, 写真図版16)

G2グリッドに位置する。幅44～50cm、深さは23cmである。主軸方位はN-5°-Eである。覆土はオリーブ黒色粘質土がレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は、土師器無台碗・長甕・鍋、黒色土器無台碗がある。図示した土器からVI<sub>2</sub>・3期と考えられる。

**SD36・39・42・43・44 36・39・42・43・44号溝** (図版13・15, 写真図版16)

G2・3～F2・3グリッドに位置する。5条の溝が、4.5m幅に溝間隔約40～80cm、主軸方位N-26～33°-Wにまよる。各溝の幅は20～40cm前後、確認面からの深さ15～24cmである。覆土は灰色粘質土が単層、水平、レンズ状に堆積する。断面形は台形状、U字状である。畝状遺構の一群と考えられる。各溝から須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕が出土している。2006年調査区の溝の切り合い関係を考慮するとSD2・4・5・6・7・8の一群より古いことが推測される。また、同様の畝状遺構として、G2グリッドのSD32周辺にも一群が把握できる可能性がある。

**SD41 41号溝** (図版13・16, 写真図版16)

G2～G3グリッドに位置する。SK8、SD35、SD65を切る。幅58～102cm、深さは27cmである。主軸方位はN-39°-Eである。覆土は暗灰色シルト質土がブロック状に堆積する。断面形は台形状である。出土遺物は多く、須恵器甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗がある。図示した土器からはVI<sub>1</sub>期と考えられるが、遺構の切り合い関係の前後関係と遺物の年代観とは一致していない。

#### 4) ビ ッ ト (SP)

**SP3 3号ビット** (図版13・16, 写真図版16)

G2グリッドに位置する。円形を呈し、規模は30×28cm、深さ67cmを測る。断面形はU字状である。径12cmの柱根が遺存した。樹種はハンノキ属ハンノキ亜属である。他の出土遺物はない。

### C C区 (2006年) 下層遺構各説

#### 1) 井 戸 (SE)

**SE14 14号井戸** (図版13・17, 写真図版19)

E3～F3グリッドに位置する。SE7とは約3mの距離にある。北半分が調査区域外に拡がる。平面形は楕円形で、現状で長軸200cm、確認面から深さ95cmである。覆土は腐植物を多量に含んだ黒色、灰白色粘質土がレンズ状に堆積し、断面形は半円状を呈する。遺物は多く、須恵器無台杯・甕、土師

器無台碗・長甕、黒色土器無台碗が出土した。また、3層の黒色粘質土から木簡を始め、木製品が出土した。図示した土器から、VI<sub>2-3</sub>期と考えられる。木簡に見える「元慶」年間の年代観と大きな矛盾はない。

## 2) 土 坑 (SK)

### SK18 18号土坑 (図版13・17)

D3グリッドに位置する。SD19を切る。平面形は楕円形で、規模は76×62cm、深さは38cmである。覆土は5層に分層され、黒褐色粘質土が水平に堆積する。断面形は半円状を呈する。出土遺物はない。

## 3) 溝 (SD)

### SD2・3・4・5・8・10・12・15・16 2・3・4・5・8・10・12・15・16号溝 (図版13・17、写真図版19)

D3～E3グリッドに位置する。10m幅に溝間隔約100～150cmで、9条の溝が、主軸方位N7°～16°-Wにまとまる。各溝の幅は20～60cm前後、確認面からの深さ9～26cmである。覆土は単層で、断面形は半円状である。各溝のまとまりから畝状遺構の一群として把握できる。SD2がより西に主軸を向けるSD1を切る。出土遺物は各溝から須恵器長頸瓶・横瓶、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗が出土している。

## 4) ビ ッ ト (SP)

### SP22 22号ビット (図版13・17、写真図版19)

F3グリッドに位置する。円形を呈し、規模は34×32cm、深さ51cmを測る。断面形はU字状である。径19cmのは柱根が遺存した。樹種はヒノキである。土師器無台碗・長甕が出土している。

# 7 D区の遺構

## A D区の概要

D区は遺跡推定範囲の東限に位置する。G2～H2グリッドからは比較的疎らではあるが、南北方向を指向する溝群を中心に検出されている。規模や形状から畝状遺構と考えられる。他に土坑、ビットが確認された。柱根を持つ柱穴も数基見られ、掘立柱建物跡の存在も推測される。

## B D区遺構各説

### 1) 土 坑 (SK)

#### SK80 80号土坑 (図版18・19、写真図版23)

調査区の東端部に近い、C3～D3グリッドに位置する。南側の一部が調査区域外に拡がる。平面形は楕円形で、規模は164×124cm、確認面からの深さは56cmである。覆土は7層に分層され、炭化物を含んだ灰色粘質土を中心にレンズ状に堆積する。断面形は半円状を呈する。出土遺物は多く、須恵器有台杯・無台杯・長頸瓶、土師器無台碗・長甕・小甕の土器類の他、鈔帯金具や羽口も出土した。図示した土器から、VI<sub>2-3</sub>期と考えられる。

## 2) 溝 (SD)

## SD1 1号溝 (図版18・19、写真図版22・23)

M1グリッドに位置する。断面観察からはSD77を切る。幅130～160cm、深さは32cmである。主軸方位はN-10°-Wである。覆土は暗灰色粘質土がレンズ状に堆積する。断面形は台形状である。出土遺物は多く、須恵器甕、土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀がある。確認面からほぼ完形の土師器無台椀が出土した。図示した土器からはVI<sub>2-3</sub>期と考えられる。

## SD77 77号溝 (図版18・19、写真図版22・23)

M1グリッドに位置する。断面観察からはSD1に切られる。幅48～86cm、深さは47cmである。主軸方位はN-14°-Wである。覆土は灰色粘質土がレンズ状に堆積する。最下層の一部に黒色腐植物層が堆積し、柱根、棒状木製品などが出土した。断面形は台形状である。出土遺物は、土師器無台椀・長甕がある。図示した土器からはVI<sub>2-3</sub>期と考えられる。

## SD85 85号溝 (図版18・20、写真図版23)

調査区最東部のB3グリッドに位置する。幅50～150cm、深さは24cmである。主軸方位はN-9°-Eで、蛇行する。覆土は灰黄褐色粘質土がレンズ状に堆積する。断面形は台形状である。出土遺物は少なく、土師器小甕がある。

## SD106 106号溝 (図版18・20)

E2～E3グリッドに位置する。SD88、SD98に切られる。幅20～36cm、深さは9cmである。主軸方位はN-25°-Wである。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物は少なく、須恵器有台杯・甕がある。

## 3) ビ ッ ト (SP)

## SP29 29号ビット (図版18・20)

N1グリッドに位置する。北半分は土側溝により壊される。楕円形を呈し、規模は20×12cm、深さ17cmを測る。覆土は単層で、断面形は半円状である。径12cmの柱根が遺存した。樹種はヤナギ属である。他の出土遺物はない。

## SP112 112号ビット (図版18・19、写真図版23)

N1グリッドに位置する。北半分は土側溝により壊される。不整形を呈し、規模は70×42cm、深さ56cmを測る。覆土は単層で、断面形はU字状である。径11cmの柱根が遺存した。柱根は14°ほど東に傾く。樹種はコナラ属コナラ亜属コナラ節である。他に須恵器甕が出土した。

## 8 E区上層の遺構

## A E区上層の概要

E区上層は約25m間で検出された中世の遺構確認面である。バイパス本線のⅢ区に並行する位置にある。遺構は疎らで、遺構の重複はない。井戸1基の他、溝、ビットが確認された。ビットは平面形が方形のものが目立つ。土器類の出土遺物はなく、砥石や古銭が出土した。C区上層面と連続することから、13世紀後半頃の集落域の一部に位置付けられる。

## B E区上層遺構各説

### 1) 井戸 (SE)

#### SE15 15号井戸 (図版 21、写真図版 24)

C6～D6 グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径 74cm、確認面からの深さは 85cm である。覆土は 7 層に分層され、黄灰色と黒褐色粘質土がレンズ状に堆積する。底面中央に大きな石が 1 点見られた。7 層には有機質の植物遺体が特徴的であったことから、土壌の灰像分析を行った。イネ、チゴザサ、ヨシ、ススキ属の短細胞列が確認されている。断面形は箱状を呈する。出土遺物は板状木製品や柱根が出土した。

### 2) ビット (SP)

#### SP13 13号ビット (図版 21)

D7 グリッドに位置する。円形を呈し、規模は直径 32cm、深さ 53cm を測る。断面形は U 字状である。西側に浅い円形の掘り込みが見られる。底面に長さ 15～25cm、幅 5cm 前後の板材が 3 点確認され、礎板の可能性がある。出土遺物はない。

## 9 E区下層の遺構

### A E区下層の概要

E区下層では包含層から多量の土器が出土したが、確認された遺構は少ない。北東部では C区で確認された河川と一連の河川が見られ、その周辺は遺構が確認されない。不規則な配置での溝を中心に、土坑、ビットが確認された。

### B E区下層遺構各説

#### 1) 土坑 (SK)

##### SK4 4号土坑 (図版 22・23、写真図版 25)

E8～E9 グリッドに位置する。南側の一部が調査区域外に拡がる。現状で規模は (112) × (84) cm、確認面からの深さは 30cm である。覆土は場所により 9 層に分層され、炭化物を含んだ黒色粘質土を中心にレンズ状に堆積する。断面形は弧状を呈する。出土遺物は、須恵器無台杯、土師器無台碗・小甕がある。

#### 2) 溝 (SD)

##### SD18 18号溝 (図版 22・24、写真図版 25)

D7 グリッドに位置する。幅 150～200cm、深さは 15cm である。主軸方位は N-38°-E である。覆土は 3 層に分層され、黒褐色粘質土などが堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、土師器無台碗・長甕・小甕がある。図示した土器から VI<sub>2-3</sub> 期と考えられる。

#### 3) 河川

##### 河川 23 (図版 22・24、写真図版 25)

C区～E区にかけて、A3・4～B3・4 グリッドで確認された。南北方向に走向する片岸の一部分であ

る。位置関係からバイパス本線のⅢ区で確認された河川1と同一と考えられる。幅は現況で8m以上あり、10mを超える川幅が推測される。覆土は腐植物を多く含んだ暗灰黄色粘質土がレンズ状に堆積する。出土遺物は、須恵器有台杯・無台杯、土師器無台碗、下駄や箸状木製品が出土した。図示した土器は、本遺跡では古手の時期で、Ⅲ～Ⅳ期のものである。

## 10 F区の遺構

### A F区の概要

F区は東西方向に蛇行しながら伸びる調査区で、国道403号線バイパス取付道路調査区から約5mの距離で北側に沿う。東側でE区、西側でG区と接続する。ほぼ中央部約50m間は河川跡で占められ、その兩岸に古代の遺構が展開する。遺構の密度は濃くない。不規則な配列を示す溝が多く、ピットの配列、形状から挿立柱建物跡の存在も考えられる。また、U6～W6グリッドにかけて、遺構確認面が一段高く、土質や珠洲焼が出土したことなどから、中世の遺構である可能性が高い。

### B F区遺構各説

#### 1) 土 坑 (SK)

##### SK11 11号土坑 (図版25・27、写真図版27)

調査区の西端部に近い、X6グリッドに位置する。東側の一部がSD10に切られる。平面形は楕円形で、規模は128×88cm、確認面からの深さは80cmである。覆土は13層に分層され、黒褐色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形はU字状を呈する。出土遺物はない。

#### 2) 溝 (SD)

##### SD5 5号溝 (図版25・27、写真図版27)

U6～V6グリッドに位置する。周辺より一段高い区域である。幅70～114cm、深さは20cmである。主軸方位はN-65°-Eである。覆土は単層で、腐植物を含んだ褐灰色粘質土が堆積する。断面形は半円状である。底面中央部で同じ方向に伸びる、幅30～40cm、深さ20cmの溝が確認された。出土遺物は、須恵器杯蓋・小型壺・甕、土師器無台碗・長甕がある。出土した遺物は古代のものばかりであるが、遺構確認面の高さなどから中世の遺構と考えられる。古代の土器は底面に確認された幅狭の溝に伴うものであろう。

##### SD9 9号溝 (図版25・27、写真図版27)

調査区西端部のX6～X7グリッドに位置する。幅118～148cm、深さは44cmである。主軸方位はN-65°-Wである。覆土は4層に分かれ、黒褐色と灰色粘質土の混合層がレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕がある。

##### SD10 10号溝 (図版25・27、写真図版27)

W6～X6グリッドに位置する。SK11を切る。幅440cm、深さは40cmである。主軸方位はN-4°-Wである。覆土は4層に分かれ、黄灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は台形状である。土器は全く出土せず、木製品の榫が出土したのみである。榫は中央やや東寄りのところから主軸方向に直交する形で出土し、榫の柄の中ほどには直交する形で木材が枕木状に置かれる。通水量はそれ程でもなく、

貯木や流出防止の工と考えられる。土層などから中世の遺構と考えられる。

**SD14 14号溝** (図版25・27, 写真図版26)

U6グリッドに位置する。SP42を切る。幅20～38cm、深さは27cmである。主軸方位はN-60°-Eで、SD5とほぼ同じである。覆土は5層に分かれ、腐植物を含んだ黒褐色土などがブロック状に堆積する。断面形は半円状である。古代の遺物包含層を切って構築されている。出土遺物は珠洲焼甕があり、中世の遺構と考えられる。

**SD74 74号溝** (図版26・28, 写真図版28)

調査区最東端部のE4グリッドに位置する。断面からはSD76を切る。深さは32cmである。主軸方位はN-87°-Eである。覆土は5層に分かれ、黄灰色粘質土がレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は少なく、須恵器無台杯がある。

**SD76 76号溝** (図版26・28, 写真図版28)

E4～G4グリッドに蛇行しながら位置する。断面からはSD74に切られる。幅は170～250cm、深さは10～17cmである。覆土は3層に分かれ、黄灰色粘質土がレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は少なく、須恵器長頸瓶、土師器長甕がある。

**SD79 79号溝** (図版26・28, 写真図版28)

G3～G4グリッドに位置する。幅は150～168cm、深さは49cmである。主軸方位はN-22°-Eである。覆土は7層に分かれ、黄灰色粘質土などがブロック状に堆積する。断面形は台形状である。出土遺物は少なく、土師器長甕がある。

**SD90 90号溝** (図版26・28, 写真図版28)

S5～S6グリッドに位置する。幅は250～310cm、深さは23cmである。主軸方位はN-25°-Wである。覆土は単層で、オリブ灰色粘質土が堆積する。断面形は台形状である。出土遺物は少なく、土師器無台碗・小甕がある。

### 3) ビ ッ ト (SP)

**SP48 48号ビット** (図版26・29, 写真図版28)

I3グリッドに位置する。楕円形を呈し、規模は30×16cm、深さ39cmを測る。断面形はU字状である。覆土は4層に分かれ、柱痕を留める。中位から下位に長さ約20cm、径10cmの柱根が遺存する。出土遺物はない。

**SP64 64号ビット** (図版26・29, 写真図版28)

J3グリッドに位置する。方形を呈し、規模は30×26cm、深さ13cmを測る。断面形は半円状である。覆土は2層に分かれ、柱痕を留める。出土遺物はない。

### 4) 河 川

**河川20** (図版25・26・29, 写真図版28)

M3～P3, O4～Q4, Q5グリッドにかけて確認された。本河川は国道403号線バイパス取付道路調査区で確認された河川3及び河川108と連結する同一河川の一部分である。西側では流木も確認される。覆土は腐植物を多量に含む土層である。出土遺物は少なく、土師器長甕がある。

## 11 G 区の遺構

### A G 区の概要

G区は東西方向に伸びる調査区で、東側でF区と接続する。西側約3mにA区があり、遺跡の内容もA区と類似する。また、南側5mの距離で、H区がある。遺構は疎らで、南北方向に伸びる溝や河川跡が中心となる。古墳時代中期～平安時代の遺構、遺物が見られる。

### B G 区遺構各説

#### 1) 溝 (SD)

##### SD11 11号溝 (図版30・31、写真図版29)

E3グリッドに位置する。幅は80～142cm、深さは23cmである。主軸方位はN-22°-Eである。覆土は2層に分かれ、レンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物はない。

#### 2) 河 川

##### 河川5 (図版30・31、写真図版29・30)

J2～K2グリッドにかけて確認された。主軸方位N-4°-W、南～北に走向する自然流路である。幅は550cm、深さ24cmである。覆土は腐植物を含んだ褐灰色粘質土が堆積する。断面形は弧状である。出土遺物はない。

##### 河川9 (図版30・32、写真図版30)

F3～G3グリッドにかけて確認された。主軸方位N-29°-E、南～北に走向する自然流路である。西側を河川10に切られる。現状で幅は約15m、深さ約1.5mである。流木も多く見られた。覆土は腐植物を含んだ黄灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。東側はIIb層から掘り込まれた12～15層を覆土とする溝が確認される。中世以降の掘削と見られる。出土遺物は比較的多く、古式土師器高杯・壺・甕、須恵器杯蓋・有台杯・無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕が出土している。出土状況に違いはあるが、古式土師器が比較的多く出土する点は、A区河川1・2との関係が考慮される。

##### 河川10 (図版30・32、写真図版30)

G3～H3グリッドにかけて確認された。主軸方位N-33°-E、南～北に走向する自然流路である。河川9を切る。現状で幅は約4.5m、深さ約82cmである。覆土は腐植物を含んだ黄灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、古式土師器甕、須恵器鉢・横瓶、土師器小甕、木製品の下駄などが出土している。

##### 河川26 (図版30・32、写真図版30)

D3～E3グリッドにかけて確認された。主軸方位N-14°-E、南～北に走向する自然流路である。底面ほぼ中央部にSD21がある。現状で幅は約9.9m、深さ約48cmである。覆土は明青灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物はない。

## 12 H区の遺構

### A H区の概要

H区は東西方向に伸びる調査区で、北側5mの距離で、G区がある。遺構は疎らで、南北方向に伸びる河川跡が中心となる。G区の河川跡と一連のものが確認された。古墳時代中期～平安時代の遺物が見られるが、極めて少ない。

### B H区遺構各説

#### 1) 土 坑 (SK)

##### SK12 12号土坑 (図版33・34, 写真図版31)

調査区の西端部、H3グリッドに位置する。河川1の底面で確認された。平面形は楕円形で、規模は現状で(138)×108cm、確認面からの深さは46cmである。覆土は3層に分層され、褐灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状を呈する。出土遺物はない。

##### SK17 17号土坑 (図版33・34)

E4～F4グリッドに位置する。河川2の底面で確認され、河川2の一部に切られる。平面形は長方形に近く、規模は現状で(124)×94cm、確認面からの深さは40cmである。覆土は5層に分層され、褐灰色粘質土などが水平に堆積する。断面形は弧状を呈する。出土遺物はない。

#### 2) 河 川

##### 河川1 (図版33・34, 写真図版31)

調査区の西端部、G3、H3、H4グリッドに位置する。主軸方位N-45°-E、南～北に走向する自然流路である。確認面からの深さ138cmである。覆土は腐植物を多量に含んだ灰黄褐色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は少なく、土師器長囊のみである。なお、走向方向や土層からG区河川10と連結する可能性が高い。

##### 河川2 (図版33・34, 写真図版31)

E4～F4グリッドに位置する。主軸方位N-8°-E、南～北に走向する自然流路である。最終的な幅は約8m、確認面からの深さ50～88cmである。土層断面から時期が異なる河川が重なることが理解される。覆土6、7層が古く、それを切る8～14層が新しい流路である。8～14層の流路も8～11層が古く、12～14層が新しい流路である。8～14層の流路は中世以降の河川であろう。覆土は腐植物を含んだ灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、古式土師器高杯、須恵器甕、土師器長囊がある。なお、走向方向や土層からG区河川9と連結する可能性が高い。

##### 河川5 (図版33・34, 写真図版31)

調査区の東端部、A5グリッドに位置する。主軸方位N-85°-E、南西～北東方向に走向する自然流路である。確認面からの深さ30cmである。覆土は単層で、黄灰色粘質土が堆積する。断面形は弧状である。出土遺物はない。

## 13 I区の遺構

### A I区の概要

I区は東西方向に伸びる調査区で、国道403号線バイパス取付道路調査区から南へ約10mの位置にある。遺構は部分的に集中する区域もあるが、総じて密度は低い。部分的ではあるが、掘立柱建物跡1棟の存在を推測させる柱列が1基確認された。その他、溝は少なく、土坑、ピットが中心である。また、古代の遺構及び遺物包含層を切る地震による液状化現象の痕跡（噴砂）が顕著に見られた。

### B I区遺構各説

#### 1) 掘立柱建物跡 (SB)

##### SB1 1号掘立柱建物跡 (図版35・36、写真図版33)

J6～J7グリッドに位置する。東西方向の2間分(3.7m)、3基の柱穴を確認した。周辺の遺構分布状況から、建物主軸方向は南北に向け、北側に建物跡が展開するものと見られる。3基確認された柱穴には全て柱根が遺存する。柱穴掘り方確認面よりも、柱根の頭が上部に出る。柱穴が調査区壁面にかかることなどから、きちんと柱穴掘り方を確認できていないが、平面形はすべて円形と見られる。掘り方規模は70～80cm、深さは75～102cmである。覆土は柱痕が確認でき、灰白色砂質土などが堆積する。断面形はすべてU字状を呈する。柱根径は22～25cmと太い。遺存長は約110～150cm前後である。柱根はSP29が北に4°、SP30が西に16°、SP50が西に3°傾いている。なお、樹種同定から全てクリを使用していることが確認された。柱穴からの出土遺物は少なく、SP29とSP50から土師器小甕の小片が出土したのみである。

#### 2) 土 坑 (SK)

##### SK34 34号土坑 (図版36・37、写真図版33)

調査区の東端部、I8グリッドに位置する。西側の一部は調査区域外に拡がる。平面形は楕円形と見られ、規模は現状で(128)×(64)cm、確認面からの深さは24cmである。覆土は単層で、断面形は台形状を呈する。出土遺物は少なく、土師器長甕・小甕がある。

#### 3) 不明遺構 (SX)

##### SX60 61号不明遺構 (図版35・37)

O6～O7グリッドに位置する。北側の一部は調査区域外に拡がる。平面形は不整形で、規模は現状で(210)×(112)cm、確認面からの深さは18cmである。覆土は単層で、断面形は弧状を呈する。出土遺物は、須恵器杯蓋・有台杯・長頸瓶・甕、土師器長甕・小甕がある。東西方向に伸びる噴砂に切られる。

#### 4) 溝 (SD)

##### SD58 58号溝 (図版35・37)

N6～O6グリッドに位置する。幅は194～216cm、深さは12cmである。主軸方位はN-24°-

Wである。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕がある。東西方向に伸びる噴砂に切られる。

## 14 J区の遺構

### A J区の概要

J区はバイパス本線のⅢ区南東部に連続した調査区で、D区との連結部までとした。南側に7カ所の確認調査トレンチを設けながら、調査範囲を決めた。7トレンチや溝から中世の遺物が出土したが、J区の主体は本線のⅢ区同様に古代である。概ね南北方向の溝を中心に井戸、土坑、ピットなど多数の遺構が確認された。

### B J区遺構各説

#### 1) 井戸 (SE)

##### SE87 87号井戸 (図版38～40, 写真図版36)

調査区の最北東部でD区との連結部に近いN1グリッドに位置する。西半分が調査区域外に広がる。平面形は楕円形で、現状で長軸228cm、確認面から深さ111cmである。覆土は10層に分層され、炭化物を多量に含んだ黒色土、灰黄色砂質土がレンズ状に堆積し、断面形は半円状を呈する。遺物はそれ程多くなく、土器類は須恵器甕、土師器無台碗のみである。しかし、覆土7層以下の土層から木製品の齧申が5点出土している。出土状態が確認できたものは横位の状態で出土した。図示した土器からは、Ⅶ1期と考えられる。

#### 2) 土坑 (SK)

##### SK15 15号土坑 (図版38～40, 写真図版36)

R6グリッドに位置する。SK95、SD99を切る。平面形は不整形であるが長方形を呈し、主軸方位をN-65°-Eと東西方向に向ける。長軸の長さ270cm、幅100～116cm、深さは38cmである。覆土は4層に分層され、黒色粘質土を中心にレンズ状に堆積する。断面形は半円状を呈する。1、2層を中心に多量の土器片が出土した。出土遺物は、須恵器有台碗・無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、両面黒色土器無台碗がある。図示した土器からは、Ⅶ1期と考えられる。

##### SK29 29号土坑 (図版38～40, 写真図版37)

Q4～Q5グリッドに位置する。SD30を切る。平面形は円形で、規模は82×72cm、深さは15cmである。覆土は3層に分層され、黒褐色粘質土を中心にレンズ状に堆積する。断面形は弧状を呈する。出土遺物は多く、須恵器有台碗・無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、両面黒色土器無台碗がある。図示した土器からは、Ⅵ2・3期と考えられる。

##### SK90 90号土坑 (図版38・39・41, 写真図版37)

N1グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸の長さ108cm、幅68cm、深さは14cmである。覆土は2層に分層され、腐植物を含んだ黒褐色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状を呈する。出土遺物は少なく、土師器無台碗がある。

## 3) 溝 (SD)

## SD20 20号溝 (図版38・39・41, 写真図版37)

Q5～R5グリッドに位置する。主軸方位はN-52°-Eで、北東～南西方向に伸びる。SD72など北西～南東方向に伸びる数条の溝やSD27、SK23などを切り、南北方向に伸びるSD30、SD75やSD25に切られる。幅52～64cm、深さは22cmである。覆土は3層に分かれ、黄灰色粘質土がレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は土師器無台杯・無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、土製品(笠状)がある。図示した土器からは、一部古い土器も混入するがVI期主体と考えられる。

## SD67 67号溝 (図版38・39・41, 写真図版37)

P3グリッドに位置する。主軸方位はN-74°-Wで、北西～南東方向に伸びる。SD65など南北方向に伸びる数条の溝を切る。土層断面からは2条の溝が合流した形が窺えるが、合わせた幅458～585cm、深さは57～62cmである。覆土は30層に分かれ、暗灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。一部に流木などが見られる。断面形は弧状である。出土遺物は須恵器無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、金属製品(刀子)、木製品(漆器・弓)がある。出土遺物は古代が中心であるが、漆器は中世である。本遺構はバイパス本線Ⅲ区河川1と連結するものと見られ、河川1からは中世の遺物が出土していることから、本遺構も中世の所産と考えられる。

## SD71 71号溝 (図版38・39・42, 写真図版37)

O2グリッドに位置する。主軸方位はN-21°-Wで、南北方向に伸びる。幅74～126cm、深さは26cmである。覆土は2層に分かれ、黄灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。遺物は主に2層から出土し、須恵器長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・鉢がある。図示した土器からは、VII期と考えられる。

## 4) ビ ッ ト (SP)

## SP85 85号ビット (図版38・39・42, 写真図版38)

O1グリッドに位置する。楕円形を呈し、規模は58×36cm、深さ27cmを測る。断面形は箱状である。覆土は3層に分かれ、柱痕を留める。出土遺物はない。

## SP102 102号ビット (図版38・39・42)

O2グリッドに位置する。西半分は土側溝により切られる。楕円形を呈し、長軸の規模は32cm、深さ35cmを測る。覆土は単層で、断面形はU字状である。柱根が遺存する。土坑(番号なし)の覆土である2、3層を切る。3層から土師器長甕の大型破片が出土している。

## SP103 103号ビット (図版38・39・42, 写真図版38)

O1グリッドに位置する。楕円形を呈し、規模は20×14cm、深さ41cmを測る。覆土は単層で、断面形はU字状である。柱根が遺存する。樹種はクリである。

## 15 K区の遺構

## A K区の概要

K区はバイパス本線のⅠ・Ⅱ区南東部に連続した調査区で、J区とはD区との連結部から区別した。南

北方向の溝、土坑、ピットなど多数の遺構が確認された。中央部付近に遺構の空白域が存在するが、本線Ⅱ区から連続した同様の遺構が確認される状況である。

## B K区遺構各説

### 1) 土 坑 (SK)

#### SK1 1号土坑 (図版43・44, 写真図版42)

M11グリッドに位置する。一部は土側溝により切られる。平面形は楕円形であるが、規模は56×52cm、深さ12cmを測る。断面形は台形状である。確認面上に須恵器長頸瓶の大型の底部片が、底部を上に向けた形で出土した。他の出土遺物は須恵器甕、土師器無台碗・長甕がある。図示した土器からは、VI<sub>2-3</sub>期と考えられる。

#### SK19 19号土坑 (図版43・44, 写真図版42)

M10グリッドに位置する。SD21、SD60を切る。平面形は円形で、規模は90×86cm、深さ13cmを測る。断面形は台形状である。出土遺物は多く、須恵器長頸瓶、土師器無台碗・長甕・小甕、木製品(板状)がある。また、大きな礫も混入した。図示した土器からは、VI<sub>2-3</sub>～VII<sub>1</sub>期と考えられる。

#### SK74 74号土坑 (図版43・44, 写真図版42)

H6～16グリッドに位置する。東半部は調査区域外に拡がる。平面形は楕円形と見られ、現状で規模は(202)×70cm、深さ64cmを測る。覆土は13層に分層され、上部に2層の黒色腐植物層が堆積する。他も炭化物などを含んだ暗灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。7層から完形の土師器無台皿が正位で出土した。他の出土遺物は、須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕がある。図示した土器からは、VI<sub>2-3</sub>期と考えられる。

#### SK75 75号土坑 (図版43・44)

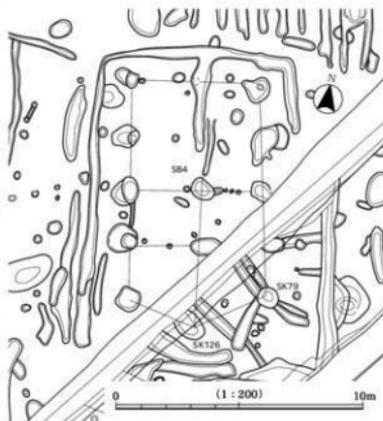
H4グリッドに位置する。東半部は調査区域外に拡がる。SD87に切られる。現状規模は(254)×(102)cm、深さ19cmを測る。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗がある。

#### SK77 77号土坑 (図版44・45, 写真図版43)

G4グリッドに位置する。SD98・99を切る。平面形は円形で、規模は152×144cm、深さ25cmを測る。覆土は6層に分層され、暗灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器杯蓋・無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕がある。図示した土器からは、VI<sub>2-3</sub>期と考えられる。

#### SK79 79号土坑 (図版43・45)

H4グリッドに位置する。SD123、SD124を切る。平面形は円形で、規模は86×80cm、深さ53cmを測る。覆土は8層に分層され、黒褐色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は、須恵器無台杯・甕、土



第12図 馬越遺跡Ⅰ区 SB4平面図

師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、土製品がある。なお、本遺構は土坑としたが、位置、形状、規模などを考慮するとバイパス本線Ⅰ区で確認されたSB4の南東端部を構成する柱穴と見られる(第12図)。後記するSK126も同様の可能性がある。これによりSB4の規模が確定したと見られるが、規模などの変更はない。

#### SK88 88号土坑(図版44・45)

G3グリッドに位置する。東半部は調査区域外に拡がる。平面形は楕円形で、現状規模は(138)×118cm、深さ15cmを測る。覆土は2層に分層され、暗灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器無台杯、土師器無台碗・小甕がある。

#### SK126 126号土坑(図版43・45)

H4グリッドに位置する。SK79とは3.5mの距離にある。西半部は調査区域外に拡がる。平面形は楕円形を呈し、現状規模は(120)×96cm、深さ40cmを測る。覆土は6層に分層され、灰黄色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器無台杯・甕、土師器長甕がある。図示した土器からは、V<sub>2</sub>期と考えられる。なお、本遺構は土坑としたが、位置、形状、規模などを考慮するとバイパス本線Ⅰ区で確認されたSB4の柱穴のひとつと考えられる。

#### SK181 181号土坑(図版43・45)

H4グリッドに位置する。SK173、SK200を切り、SD76に切られる。SD76>SK181>SK173>SK200の新旧関係がある。現状規模は(212)×(66)cm、深さ28cmを測る。覆土は2層に分層され、炭化物を含む暗灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、土師器無台碗・長甕がある。

#### SK190 190号土坑(図版44・46、写真図版43)

G3グリッドに位置する。平面形は不整形を呈し、規模は86×70cm、深さ6cmを測る。底面は西側に向かい傾斜する。北西端底面から鈎帯金具が1点出土した。他の出土遺物は土師器小甕がある。

## 2) 溝(SD)

#### SD47 47号溝(図版43・46)

N11グリッドに位置する。SD46と並列し、SD7、SK34を切る。幅は38～92cm、深さは29cmである。主軸方位はN-20°-Wである。覆土は2層に分かれ、レンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は比較的多く、須恵器無台杯・長頸瓶、土師器無台碗・長甕・小甕がある。「中家」墨書土器が出土している。図示した土器からは、VI<sub>2-3</sub>期と考えられる。

#### SD51 51号溝(図版43・46、写真図版43)

J6～J7グリッドに位置する。幅は156～220cm、深さは21cmである。主軸方位はN-7°-Wである。覆土は3層に分かれ、黄灰色粘質土がレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器無台杯・長頸瓶、土師器長甕がある。図示した土器からは、V<sub>2</sub>～VI期頃と考えられる。

#### SD76 76号溝(図版44・46)

H4グリッドに位置する。SK181、SK201、SD108、SD115を切る。幅は50～86cm、深さは45cmである。主軸方位はN-9°-Wである。覆土は5～8層に分かれ、黄灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は多く、須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、土製品(土器片皿盤)がある。図示した土器からは、V<sub>2</sub>～VI<sub>2-3</sub>期の幅を持つと考えられる。

**SD90 90号溝** (図版44・46)

G3グリッドに位置する。SK89、SK116に切られる。幅は30～60cm、深さは17cmである。主軸方位はN-12°-Wである。覆土は2層に分かれ、レンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は、須恵器無台杯、土師器無台椀・長甕・小甕・鍋がある。図示した土器からは、VI<sub>2・3</sub>～VII<sub>1</sub>期頃と考えられる。

**SD193 193号溝** (図版44・47、写真図版43)

G3グリッドに位置する。SK170に切られる。幅は32～52cm、深さは12～15cmである。主軸方位はN-4°-Wである。出土遺物は、「若」の墨書を持つ須恵器無台杯、長頸瓶がある。図示した土器からは、VI<sub>2・3</sub>期頃と考えられる。

## 3) ピ ッ ト (SP)

**SP20 20号ピット** (図版43・47)

M10グリッドに位置する。楕円形を呈し、規模は44×32cm、深さ34cmを測る。覆土は単層で、断面形は半円状である。柱根が遺存する。樹種はカツラである。出土遺物はない。

**SP32 32号ピット** (図版47、写真図版43)

M10～M11グリッドに位置する。楕円形を呈し、規模は48×34cm、深さ64cmを測る。覆土は単層で、断面形はU字状である。柱根が遺存する。柱根は東に21°傾く。樹種はクリである。出土遺物はない。

**SP61 61号ピット** (図版43・47、写真図版43)

M11グリッドに位置する。SD63に切られる。現状規模は(36)×(16)cm、深さ50cmを測る。覆土は単層で、断面形はU字状である。柱根が遺存する。樹種はクリである。出土遺物はない。

## 16 その他

## 噴砂

既往の調査区からも、強い地震により発生した液状化現象を起因とする噴砂の痕跡が多数確認されており、ほとんどが遺構埋没後に発生した地震による現象と想定されている。今回の調査で確認されたのはE区下層、F区、I区からである。

E区下層基本土層2断面では、地山を切り裂き、古代の遺構に覆われる形の砂脈が確認される。古代以前の地震によるものと推測される。F区ではSD76の覆土を砂脈が切ることから遺構埋没後の地震が想定される。I区では平面上でも非常に顕著に砂脈が確認できる。概ね東西方向の砂脈が主体で、主軸方位N-80°-87°-W、N-88°-Eのもと、少ないが南北方向で主軸方位N-40°-Wのものが見られる。取付道路の調査区で確認された方位とほぼ同様である。砂脈の規模は幅10～30cm前後のものが主体であるが、幅70cmに及ぶ大きなものも見られる。長さは途切れながら9m以上のものもある。各砂脈は古代の溝や土坑を切っており、古代以降の地震によるものと推測される。

# 第V章 遺 物

## 1 遺物の概要

出土遺物の総量は、整理、分類前で平箱(44.5×32.5×16cm内測)換算で97箱を数える。内訳は、土器57箱、土製品・石製品・金属製品で2箱、木製品38箱である。8世紀中頃～10世紀前半頃の古代の土器が中心で、他には古墳時代中期及び中世の遺物が出土している。主体時期である古代に限れば、土師器を主体とし、須臾器、黒色土器及び少量の施軸陶器が出土している。古墳時代中期の土器はA区、G区から主体的に出土し、B区、H区、J区からも散発的に出土している。中世の遺物はC区上層から主体的に出土し、B区、E区上層、F区、J区、K区から少量出している。土器以外では、円筒形・土鍾・土器片円盤などの土製品、鈔帯・鉄斧・刀子・鉄貨などの金属製品、砥石などの石製品、木簡・下駄・櫛・漆器・櫛・斎串・曲物などの木製品が井戸や溝跡から出している。

以下、出土遺物の説明にあたり、古墳時代、奈良・平安時代、鎌倉・室町時代に分けて記述する。古墳時代、奈良・平安時代の遺物については、器種分類を行い、遺構出土土器、包含層出土土器の順に記述する。遺構出土土器については、遺構別の番号順に行う。包含層出土土器は器種分類毎に行う。土製品、金属製品、石製品、木製品も種別毎に説明を行う。

## 2 古墳時代の土器

古墳時代の古式土師器は、A区からまとまって出た。次いでA区に近いG区から多く出している。A区の河川1・2からは総重量11,807.7g、総点数603点の古式土師器が出土し、古式土師器全体重量16,467.8gの約72%、全体総点数952点の約63%を占める。G区でも河川9から比較的多く出たし、溝や河川といった水に関係した遺構から多く出する傾向がある。古墳時代の遺構、遺物は遺跡推定範囲の南西部に限定される。年代もほぼすべて古墳時代中期と見られる。他はB区及びJ区の包含層から古墳時代後期の土器が少量出している。

### A 記述の方法

最初に土器の器種分類を行い、各区毎に遺構別、包含層出土順に記述する。成形・調整技法の表現は以下のように区分した。

①指などにより器面をなでたものを「ナデ」とした。②ヘラ状の工具を使い器面を磨いたものを「ミガキ」とした。③櫛歯状工具を使い器面を調整したものを「ハケメ」とした。④板状の工具を使い器面を削ったものを「ケズリ」とした。

### B 土器の器種分類(第15図)

器種は高杯、壺、甕、小型甕、有孔鉢がある。

高杯 完形品は少ない。杯部と脚部の形態により分類し、両者を組み合わせて表記した。杯部は、屈曲

区	点式土器類			鳥形土器類			点式土器類			高砂焼			中野陶器類			合 計									
	数量(個)	1(個)あたりの重量(g)	総重量(g)	数量(個)	1(個)あたりの重量(g)	総重量(g)	数量(個)	1(個)あたりの重量(g)	総重量(g)	数量(個)	1(個)あたりの重量(g)	総重量(g)	数量(個)	1(個)あたりの重量(g)	総重量(g)	数量(個)	1(個)あたりの重量(g)	総重量(g)							
A区	埴輪(1)	11,907.7	603	7,232.7												11,907.7	603	7,232.7							
	埴輪(2)	1,733.7	37	1,044												1,733.7	37	1,044							
	合 計	13,641.4	640	8,276.7												13,641.4	640	8,276.7							
B区	埴輪(1)			792.7	79	2,55	56.5	6	0.22	899.1	17	0.19													
	埴輪(2)	15.2	2	0.14	37.4	3	10.94	1,956	35.94	977.7	173	2.29	7,728.7	170	3.28										
	合 計	15.2	2	0.14	45.2	3	12,986.6	2,207	33.34	1,224.5	206	2.65	8,278.2	237	4.96										
C区 (土器)	埴輪(1)			81.5	12	0.16																			
	埴輪(2)			25.9	2																				
	合 計			107.4	14	0.16																			
D区 (竹器)	埴輪(1)	8,560.2	1,246	23,306	313.9	56	1,720	1,656.6	50	0.61						10,988.7	1,346	26,211							
	埴輪(2)	8,000.9	1,166	47,396	373.0	46	6,668	7,748.5	70	0.83						16,188.1	1,272	49,138							
	合 計	16,561.1	2,412	70,702	786.9	96	2,388	2,405.1	120	1.44						30,766.8	2,618	75,349							
E区	埴輪(1)	1,766.5	204	4,105	2.2	1	0.08	552.8	22	0.45						2,333.2	227	4,658							
	埴輪(2)	2,879.6	319	376	29.6	6	0.11	3,107.9	97	1.03						6,013.7	421	4,988							
	合 計	4,646.1	523	7,862	30.8	6	0.19	3,609.3	119	1.48						8,337.0	648	9,633							
F区 (竹器)	埴輪(1)	19.1	2	11,527.6	1,765	35.77	1,263.5	194	3.44	1,106.2	151	1.28				18,110.3	2,110	40,653							
	埴輪(2)			12,121.6	1,816	37.13	1,282.7	201	3.69	8,426.2	161	1.44				19,691.0	2,182	42,235							
	合 計			23,649.2	3,581	73.90	2,546.2	395	7.13	1,932.4	312	2.72				37,801.3	4,292	82,888							
G区	埴輪(1)	1,619.6	179	1.81	46.2	6	0.13	2,653.0	52	0.56						1,831.6	190	1,115							
	埴輪(2)	2,399.9	251	2,300	46.2	6	0.13	2,633.5	67	1.01						3,912.0	240	2,288							
	合 計	4,019.5	430	4,111	92.4	12	0.26	5,286.5	119	1.57						5,743.6	330	3,443							
H区	埴輪(1)	2,332.2	225	1,403												2,602.5	165	1,627							
	埴輪(2)	4.6	1													979.3	91	946							
	合 計	2,336.8	226	1,403												3,381.8	256	2,573							
I区	埴輪(1)	1,082	28	0.05												303.8	44	0.13							
	埴輪(2)	201.9	29	0.06												299.1	32	0.11							
	合 計	1,283.9	57	0.11												602.9	76	0.24							
J区	埴輪(1)			4,130.9	574	4.27										6,971.4	776	7.58							
	埴輪(2)			4,993.3	656	4.66										11,059.6	1,122	12.54							
	合 計			9,124.2	1,230	8.93										18,111.0	1,898	20.12							
K区	埴輪(1)	22.6	1	4.0	1	8,827.2	1,069	12.43	182.1	31	0.30	1,176.6	52	0.97		16,514.5	1,184	13.70							
	埴輪(2)	22.6	1	4.0	1	16,884.1	2,116	23.70	312.1	53	0.60	2,806.3	110	1.94		22,711.3	2,275	262.4							
	合 計	45.2	2	8.0	2	35,711.3	4,185	46.13	1,494.7	84	1.47	4,982.9	162	2.91		39,225.8	3,459	406.1							
L区	埴輪(1)			22,163.2	1,032	15.30	469.9	53	2.59	3,162.2	259	8.69				24,934.6	1,405	35.70							
	埴輪(2)			22,287.1	2,115	29.70	643.0	74	3.01	1,273.8	529	17.00				37,241.2	2,719	48.70							
	合 計			44,450.3	4,147	45.00	1,112.9	127	5.70	4,436.0	788	24.69				62,175.8	4,124	84.40							
総計	16,467.6	952	9,827	68.4	7	95,945.6	12,272	210.64	4,205.2	626	11.47	44,064.2	1,479	32.34	2.6	1	2,865.7	35	0.53	199.4	7	0.46	162,660.0	15,391	2,951.0

表6 調査区及び器別出土総数一覽表

するA類、内湾するB類、口縁部が外反するC類に大別される。A類は、杯部の下半部で段を持つものをA1類、杯部の中ほどに明瞭な稜を持つものをA2類とした。C類は、杯部が直線的に伸びるものをC1類、杯部が内湾するものをC2類とした。脚部は、いわゆる「畿内系」の屈折脚をⅠ類、「ハ」の字状に開脚するものをⅡ類とした。Ⅱ類は、中ほどで少し屈折するⅡ1類、「ハ」の字状に外反するⅡ2類とした。

**壺** 比較的大型であるが、点数は少ない。いずれも二重口縁であるが、口縁部の形態で分類した。大別として二重口縁のものをA類とし、内湾するA1類、中ほどで括れ外反するA2類とした。

**甕** 基本的にすべて口縁部が「く」の字状に外反するものである。その中で、口縁部がやや長く、直線的に伸びるものをA類、口縁部がやや短く屈曲するものをB類とした。A類は、口径20cmを超えるものをA1類、口径20cm以下のものをA2類とした。B類は、口径20cm前後のものをB1類、口径20cm以下のものをB2類とした。なお、壺・甕類の底部資料については、底部中央が凹むA類、底部全体が上げ底状のB類、平底のC類に分類した。C類は底径6cm前後のC1類と3～4cm前後のC2類とした。

**小型壺** 口径13cm、器高14cm前後で、口縁部が直線的に伸びる器形である。外面はケズリ調整痕が見られる。

**有孔鉢** 1点のみ出土した。内外面ともハケメ調整痕が見られる。

## C 遺物各説

### 1) A区出土土器

#### a 遺構出土土器

SD6 6号溝 (図版48 4、写真図版44)

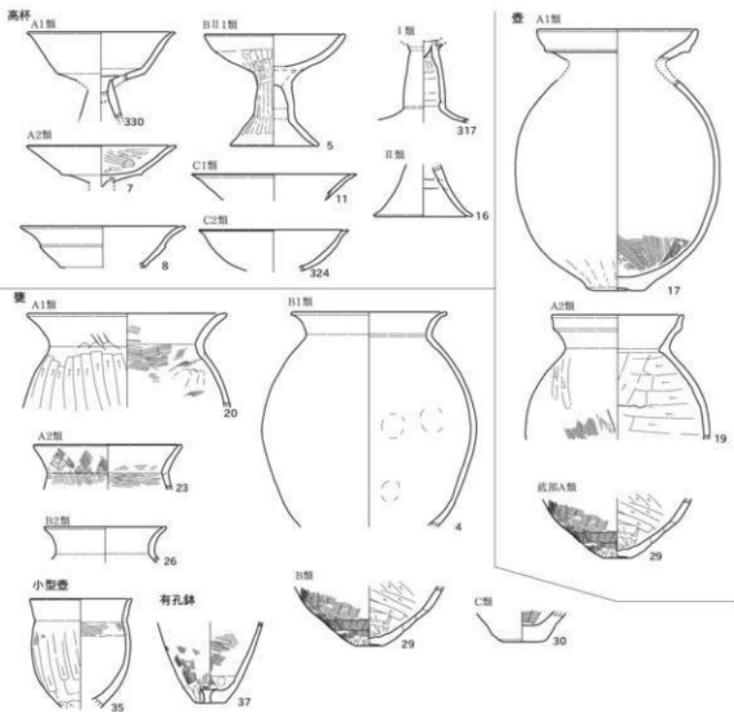
4はB1類の甕である。倒卵形を呈した体部中位に最大径を持ち、底部を欠く。内外面とも磨耗により不明瞭であるが、ナデが施される。

河川1・2 (図版48 5～37、写真図版44～46)

5～16は高杯である。5はBⅡ1類の完形品である。内湾する肉厚の杯部にやや長めの脚部が付く。杯部、脚部ともに外面は縦方向のミガキ、内面はナデが施される。6はB類の杯部片である。口縁端部がやや外反する。外面は縦方向のミガキ、内面は底面にまでハケメが施されている。5・6は胎土が類似する。7はA1類の杯部片である。内面はミガキ、ナデが施される。8・9はA2類の杯部片である。7と9は色調が橙色で類似する。10～12はC1類の杯部片である。13～16は脚部である。13・14はⅠ類である。13は中ほどが膨らむ器形である。外面は縦方向のミガキが施される。内面には多段の粘土継接合痕を明瞭に残す。焼成良好である。14は外面に縦方向のミガキ、裾部内面にハケメが施される。15・16はⅡ2類である。全体的に胎土、調整ともに粗いものが多い。

17～19は二重口縁の壺である。17は中央がやや凹む底部から卵形の体部が付く。体部の器壁はやや薄い。口縁部はやや厚手で内湾するA1類である。磨耗のため、調整は不明瞭であるが、体部下半にハケメが見られる。胎土、調整ともに粗い。18・19はA2類である。18は胎土、調整ともに粗い。19は外面にハケメと縦方向、内面は横方向のケズリが施される。

20～27は甕の口縁～体部片である。口縁部は「く」の字状に外反し、端部は丸くおさめられる。20～22は口径20～25cm前後のA1類である。20は体部外面に縦方向のケズリ、内面はハケメが施される。21・22は内外面ともにハケメが見られる。ハケメは粗い。20・22の内面には指ナデ痕が見られる。胎土、



第13図 馬越遺跡古式土師器器種分類図 (S-1.6)

調整ともに粗いが、焼成は比較的良好。23は口径18cmとやや小型のA2類である。口縁部の外反度が緩やかである。外面には斜方向、内面には横方向のハケメが施される。24～27はB類である。24・25は口径20cm前後のB1類、26・27は口径15cm前後のB2類である。24・26は胎土が粗い。

28～34は壺・甕の底部片である。28はA類で、内外面ともにケズリが施されている。29はB類で、体部外面にはランダムなハケメとケズリ、内面はケズリが施される。外面にはススが付着する。30・31はC1類で、厚みがある。32はA類、33・34はC2類である。

35・36は小型甕である。ともに口縁部が直線的に伸び、外面は縦方向のケズリが施される。

37は有孔鉢である。平底の底部に直径1.0cmの孔を穿つ。内外面ハケメが施される。

## 2) B区出土土器

### a 包含層出土土器 (図版51 71、写真図版48)

71は杯である。口縁部中位で括れ、外反する。古墳時代後期と見られる。

## 3) G区出土土器

## a 遺構出土土器

河川9 (図版62 315～318、写真図版59)

315～317は高杯である。315は脚部でⅡ2類、316は杯部でC1類、317は脚部でⅠ類である。315・317ともに胎土が粗い。318は甕でB2類である。端部にやや面を持つ。

## b 包含層出土土器 (図版62 324～326、写真図版59)

324～326は高杯である。324はC2類、325はA1類の杯部である。326は脚部でⅡ2類である。324は胎土が粗い。

## 4) H区出土土器

## a 包含層出土土器 (図版63 330、写真図版60)

330は高杯である。やや深身の杯部を持つA1類である。

## 5) J区出土土器

## a 包含層出土土器 (図版66 420、写真図版64)

420は高杯脚部である。短脚で、「ハ」の字に開脚する。古墳時代後期のものと見られる。

## 6) 立会い調査出土土器 (図版71 524、写真図版70)

524は甕の底部片である。底部外面にまでランダムなハケメが施される。古墳時代中期であろう。

## 3 奈良・平安時代の土器

古代の遺物は、土師器を主体とし、須恵器・黒色土器と少量の施軸陶器が出土した。各区合計の総重量比率では、土師器66.3%(95,045.8g)、須恵器30.7%(44,064.2g)、黒色土器2.9%(4,206.2g)、施軸陶器0.1%(68.4g)である。総点数比率では、土師器85.2%(12,272点)、須恵器10.3%(1,479点)、黒色土器4.4%(638点)、施軸陶器0.1%(7点)である。口残値の比率は総点数比とほぼ同じである。

B区の全体出土土器重量は23,507.7gで、機能別の比率内訳は食膳具が44.6%、煮炊具が20.0%、貯蔵具が35.4%で、食膳具は、施軸陶器20.2g(0.2%)、土師器8,256.5g(78.8%)、黒色土器1,224.5g(11.7%)、須恵器977.8g(9.3%)と、土師器食膳具が8割近くを占める。点数比では、機能別の比率内訳は食膳具が69.4%、煮炊具が25.6%、貯蔵具が5.0%で、食膳具は、施軸陶器3点(0.1%)、土師器1,602点(83.8%)、黒色土器208点(10.9%)、須恵器99点(5.2%)となる。C区の全体出土土器重量は21,089.7gで、機能別の比率内訳は食膳具が49.3%、煮炊具が35.0%、貯蔵具が15.7%で、食膳具は、土師器9,323.7g(89.8%)、黒色土器686.9g(6.6%)、須恵器377.2g(3.6%)と、土師器食膳具が9割を占める。点数比では、機能別の比率内訳は食膳具が68.2%、煮炊具が28.3%、貯蔵具が3.5%で、食膳具は、土師器1,676点(93.1%)、黒色土器90点(5.0%)、須恵器35点(1.9%)となる。D区の全体出土土器重量は8,337gで、機能別の比率内訳は食膳具が20.3%、煮炊具が44.0%、貯蔵具が35.7%で、食膳具は、土師器975g(57.6%)、

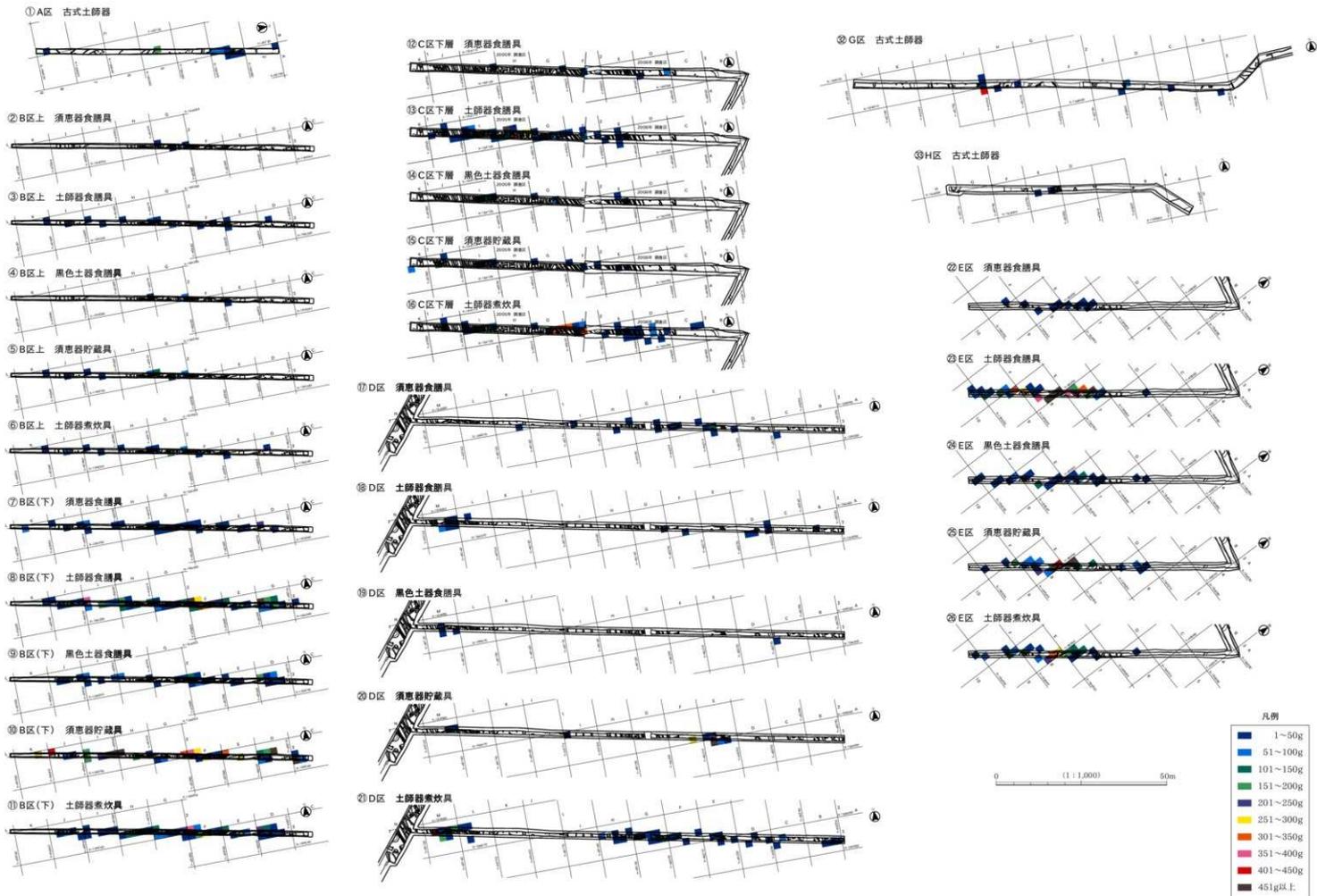
黒色土器 30.8g (1.8%)、須恵器 688.6g (40.6%)と、須恵器が4割を占める。点数比では、機能別の比率内訳は食膳具が29.3%、煮炊具が59.7%、貯蔵具が11.0%で、食膳具は、土師器 136点 (71.6%)、黒色土器 6点 (3.1%)、須恵器 48点 (25.3%)となる。E区の全体出土土器重量は18,828.5gで、機能別の比率内訳は食膳具が57.3%、煮炊具が16.0%、貯蔵具が26.7%で、食膳具は、土師器 9,114.9g (84.4%)、黒色土器 1,262.7g (11.7%)、須恵器 422.3g (3.9%)と、やはり土師器食膳具が8割以上を占める。点数比では、機能別の比率内訳は食膳具が84.7%、煮炊具が9.4%、貯蔵具が5.9%で、食膳具は、土師器 1,611点 (87.2%)、黒色土器 201点 (10.9%)、須恵器 35点 (1.9%)となる。I区の全体出土土器重量は6,971.4gで、機能別の比率内訳は食膳具が20.8%、煮炊具が64.1%、貯蔵具が15.1%で、食膳具は、土師器 522.8g (36.1%)、須恵器 925.2g (63.9%)と、須恵器食膳具が6割以上を占める。点数比では、機能別の比率内訳は食膳具が18.6%、煮炊具が78.0%、貯蔵具が3.4%で、食膳具は、土師器 80点 (55.6%)、須恵器 64点 (44.4%)となる。J区の全体出土土器重量は21,348.5gで、機能別の比率内訳は食膳具が22.3%、煮炊具が68.5%、貯蔵具が9.2%で、食膳具は、施釉陶器 4.0g (0.1%)、土師器 3,909.9g (82.1%)、黒色土器 312.1g (6.6%)、須恵器 533.8g (11.2%)と、土師器食膳具が8割以上を占める。点数比では、機能別の比率内訳は食膳具が33.4%、煮炊具が64.3%、貯蔵具が2.3%で、食膳具は、施釉陶器 1点 (0.1%)、土師器 646点 (85.0%)、黒色土器 53点 (7.0%)、須恵器 60点 (7.9%)となる。K区の全体出土土器重量は37,201.9gで、機能別の比率内訳は食膳具が22.3%、煮炊具が47.3%、貯蔵具が30.4%で、食膳具は、土師器 4,706.9g (56.6%)、黒色土器 643g (7.7%)、須恵器 2,971.9g (35.7%)と、須恵器食膳具が4割近くを占める。点数比では、機能別の比率内訳は食膳具が40.5%、煮炊具が53.3%、貯蔵具が6.2%で、食膳具は、土師器 667点 (60.6%)、黒色土器 74点 (6.7%)、須恵器 360点 (32.7%)となる。A・F・G・H区は出土量が少なく、検討していない。重量比率から見ると、食膳具が卓越するB・C・E区と煮炊具が卓越するD・I・J・K区に大別される。また、食膳具の内訳を見ると、土師器が8割近くを占めるB・C・E・J区、土師器が6割、須恵器が4割を占めるD・K区、土師器が4割、須恵器が6割を占めるI区に大別される。この傾向は各区での主体的時期差の反映と考えられる。

包含層の各区毎のグリッド別出土重量分布図を第13・14図に示した。B区上層からは散発的に出土するが、下層はほぼ全域から出土する。C区下層では食膳具、貯蔵具は2005年調査区に偏って見られる。土師器食膳具はH2グリッドに多く見られる。煮炊具はより広範囲から出土する。D区では食膳具、貯蔵具ともに限定的な出土状況であるが、煮炊具はやや広範囲から出土する。E区では遺構が集中する調査区中央～南西部分に集中する。F区では須恵器、黒色土器食膳具は出土する区域が限定されるが、土師器食膳具、貯蔵具、煮炊具は広範囲から出土する傾向にある。I区では食膳具、貯蔵具は散発的な出土状況であるが、煮炊具は一部に集中地点があるがほぼ全域から出土する。J・K区では、遺構の空白地帯を除き、ほぼ全域から出土している。食膳具に際立った集中出土区域は見られない。貯蔵具は散発的な出土状況で、煮炊具は広範囲から出土するが、いくつかの集中区域を持つ状況である。E区を除き、いずれの区も遺構の分布密度と出土状況の関係に大きな矛盾は見えない。

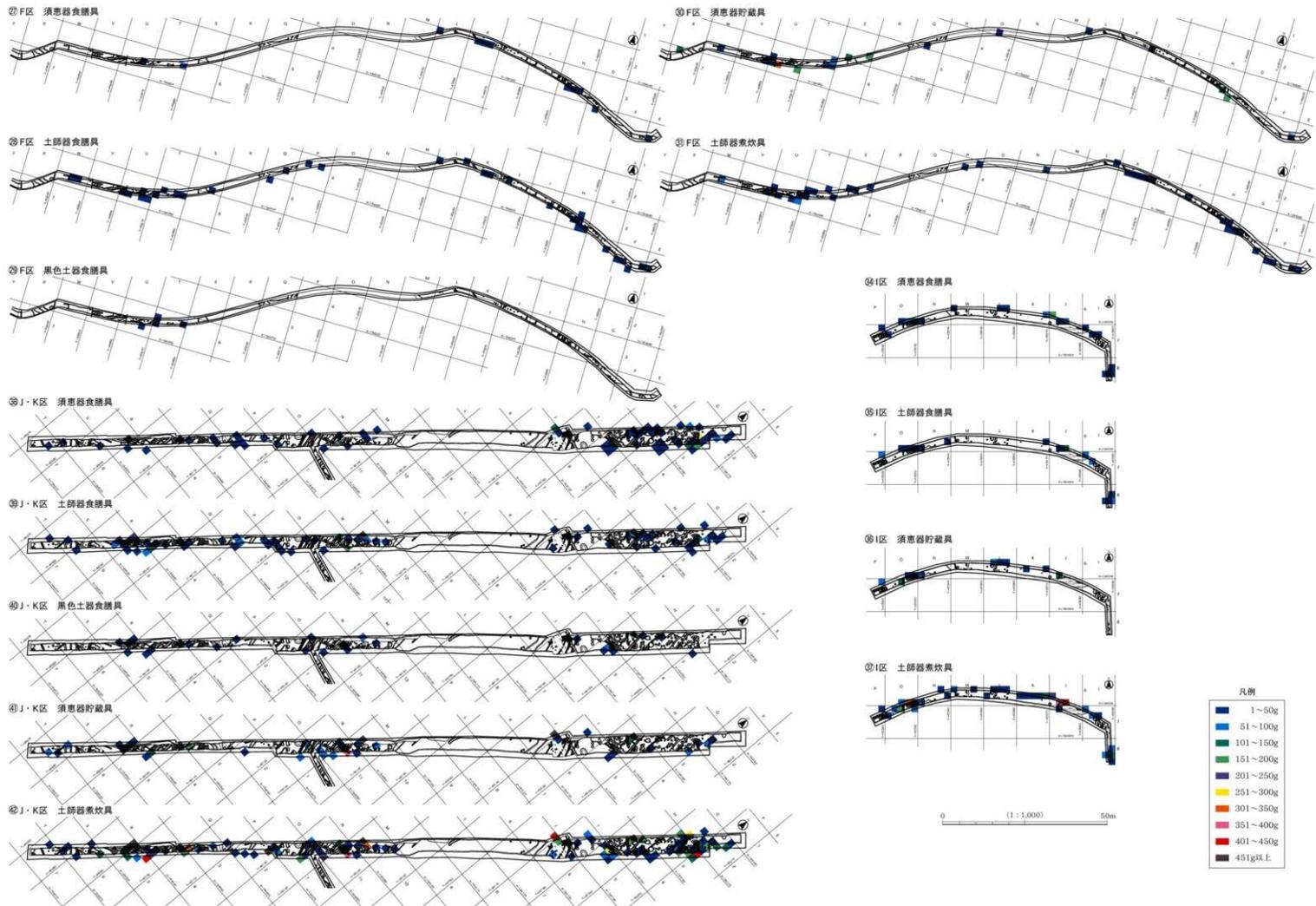
出土した奈良・平安時代の土器の年代は8世紀中頃～10世紀前半にまたがり、9世紀後半～10世紀前半頃を主体とする。

## A 記述の方法

最初に出土資料全体の分類を行い、次に各区毎の遺構別、包含層出土土器について記す。遺構の順序は「第



第14図 包含層のグリッド別土器出土重量分布図(1)(S=1:1,000)



第15図 包含層のグリッド別土器出土土重量分布図(2)(S=1:1,000)

IV章「遺構」に準じている。主に特徴的な土器について記述し、他については巻末の遺物観察表を参照願いたい。調整技法の表現については、次のとおりとした。

①ロクロ・回転台を利用した撫で・削り・ハケ目をそれぞれ「ロクロナデ」・「ロクロケズリ」・「カキメ」とした。②ロクロ・回転台を利用しない撫で・削り・ミガキ・ハケ目をそれぞれ「ナデ」・「ヘラケズリ」・「ヘラミガキ」・「ハケメ」とした。③貯蔵具・煮炊具などの外面に見られる印板工具を用いた成形痕を「タタキメ」、内面の当て具工具を用いた成形痕を「当て具痕」とした。

須恵器胎土の特徴から、次のとおり分類し、産地を推測した。分類にあたり『吉田町史』[春日2000]を参考とした。なお、土師器の胎土については分類していない。

**A群** 阿賀北地域の窯跡群。胎土に石英・長石・雲母など花崗岩起源の大型の鉱物を多量に含み、器面が粗い胎土のもの。笹神丘陵の五頭山麓窯跡群を中心とする。本遺跡からの直線距離は約32kmである。

**B群** 佐渡小泊窯跡群。胎土に白色小粒子を多く含み、器面がなめらかなもの。器面に黒色の斑点や吹出しが見られる。本遺跡からの直線距離は約67kmで、最も遠いところにある。

**C群** 新津丘陵窯跡群。胎土に小型の石英・長石を比較的多く含み、器面がなめらかで粘土質の強い胎土のもの。本遺跡からの直線距離は約17kmで、現在のところ最も近い窯跡である。

**D群** 西古志窯跡群。胎土の粒子は砂質が強く、海綿骨針を含むものが多い。本遺跡からの直線距離は約27kmである。

**E群** A～D群以外のもので、C群に類似するが、器形などを考慮し、高田平野西部丘陵産と推定されるものである。

なお、時期区分については、『新潟県の考古学』における春日真実氏の編年[春日1999]を基準とし、その後の春日氏の論考[春日2005<sup>ほか</sup>]も参考にした。

## B 土器の器種分類

### 1) 灰軸・緑軸陶器 (第16図)

出土点数は僅かである。灰軸陶器を4点、緑軸陶器を1点図示した。灰軸陶器の器種は長頸瓶、小瓶がある。皿類も見られるが、小片のため図示していない。緑軸陶器は碗がある。

### 2) 須 恵 器 (第16図)

食膳具と貯蔵具に大別される。食膳具は杯蓋・有台杯・無台杯・有台碗・無台碗が、貯蔵具には小型壺・広口壺・小型瓶・長頸瓶・横瓶・甕がある。

**杯蓋** 全体的に出土量は少ない。つまみと端部の形態から細分した。A類はつまみがボタン状を呈し中央部がほぼ平らなもの、B類はつまみが擬宝珠形を呈し中央部が盛り上がるもの、C類はつまみがボタン状を呈し中央部が凹むものとした。また、端部の形態からは、1類が端部断面を長く屈曲させ、断面三角形になるもの、2類が端部を丸くおさめるもの、3類が端部断面を短く屈曲させ、先端が丸まるものとした。口径は13.0～17.2cmのものが見られるが、口径約17cm以上のものを1類、15～17cm前後のものをⅡ類、13～14cmのものをⅢ類とした。なお、内面に墨痕があり、転用痕と見られるものが2点確認される。

**有台杯** 杯のうち、高台を持つもの。身の形態により細分した。出土数が少ないため、法量による細分はしていない。A類・B類は身が浅く、C類・D類・E類は身が深いものである。概ね器高5cm以下をA類、

B類、5cm以上をC類、D類とした。E類は出土点数は極めて少ないが、体部が鋭角に立ち上がる特徴的な器形で頸城地方の窯跡産と見られるものである。

**無台杯** 杯のうち、高台を持たないもの。産地を推測する胎土別に、体部の立ち上がりの形態、器高指数から細分した。体部が内湾して立ち上がるものをA類、直線的に立ち上がるものをB類、内湾気味に立ち上がり端部で外反するものをC類とした。器高指数からは19～22の1類、23～24の2類、25～28の3類、29～31の4類に分類される。口径からは14cm以上をI類、13cm以上～14cm未満をII類、12cm以上～13cm未満をIII類、12cm未満をIV類とした。

**有台碗** 定量見られる。時期がⅦ期に限定され、全て胎土B群である。体部はやや内湾しながら立ち上がる。

**無台碗** 身が深く、体部は直線的に伸び口縁部がやや外反する。出土点数は少ない。

**広口壺** 体部資料が1点のみ確認された。体部が大きく屈曲する。いわゆる肩衝壺である。

**小型壺** 下半部のみ1点出土した。いわゆる平城京分類壺Gであり、県内の出土例は少ない。

**小型瓶** 長い頸部を持つ小型の瓶類。出土点数は少ない。

**長頸瓶** 長い頸部を持つ瓶類。完形を知れるものはないが、定量出土している。口縁部及び底部形態により分類可能である。口縁部では中位が凹むもの、端部が下方につままれるものがある。底部では高台がしっかりしたもの、やや細いもの、内端接地するものなどがある。

**横瓶** 依形の体部を持つ。出土点数は非常に少なく、完形を知れるものはない。胎土C群が主体的である。

**壺** 口縁の形態で分類した。大きく外反するA類、「く」の字状に外反し、口縁部が長いB類、「く」の字状に外反し、B類に比べ、頸部の括れ度が強く、口縁部が短いものをC類とした。端部の形態でさらに細分され、B類では端部を下方につままれるものを1類、端部の引き出しが弱く、丸くおさめものを2類とした。C類では端部が内傾し、面を持つものを1類、端部外面に面を持つものを2類とした。また、口径から、40cm以上をI類、30～35cmをII類、25～30cmをIII類、20～25cmをIV類とした。

### 3) 土 師 器 (第17・18図)

**無台杯** 須臾器無台杯と同じ形である。体部が内湾して立ちあがる。内外面赤彩される。

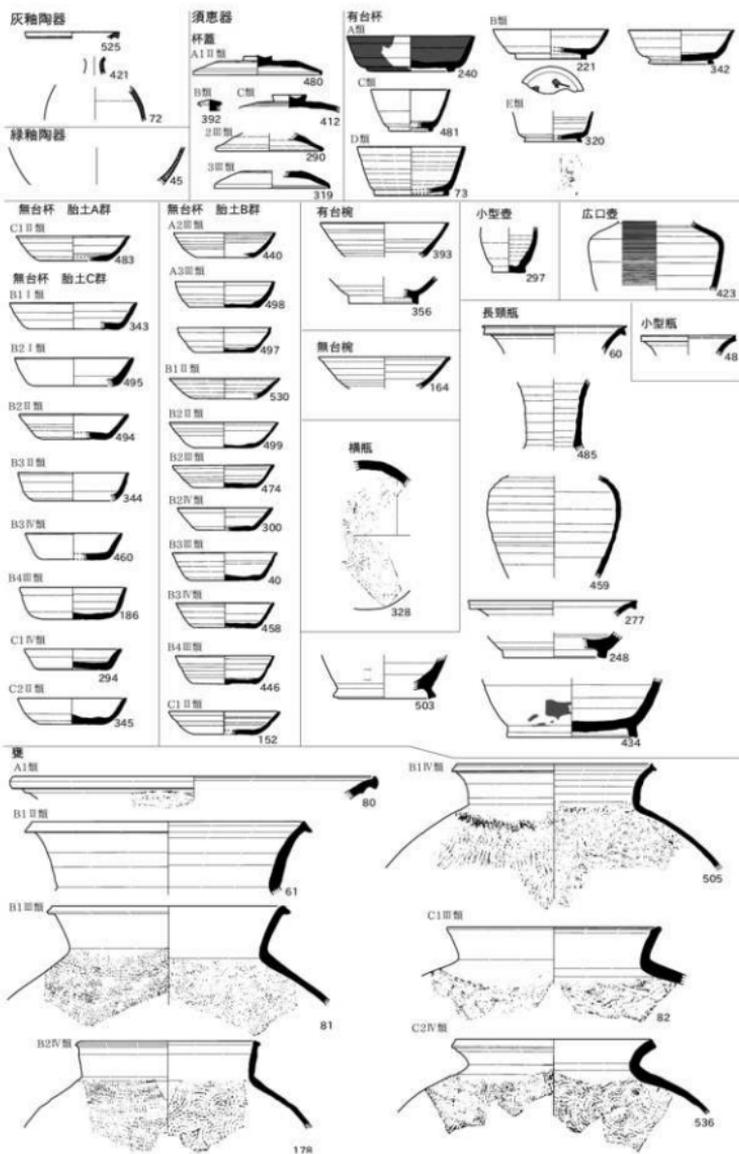
**無台碗** 底部は糸切り後無調整が大平である。体部の立ち上がりの形態、器高指数から細分した。体部が内湾して立ちあがるものをA類、直線的に立ち上がるものをB類、内湾気味に立ち上がり端部で外反するものをC類とした。器高指数からは27以下の1類、27～32の2類、33～36の3類、37～39の4類、40以上の5類がある。口径では20cm以上をI類、16cm以上～20cm未満をII類、14cm以上～16cm未満をIII類、12cm以上～14cm未満をIV類、12cm未満をV類とした。なお、底部、体部にロクロケズリ、ヘラミガキなどの再調整を施すものが少量見られる。

**片口付無台碗** 1点のみ確認された。大きな底部から体部が内湾して立ち上がり、口縁端部で外反する器形にヶ所に片口が付く。

**有台皿** 皿に張り付けの高台が付いたもの。1点のみ確認された。

**無台皿** 無台碗を平たくした形態で、体部が直線的に伸びるもの、端部が内傾するものがある。

**長盤** 非ロクロ成形のA類とロクロ成形のB類に大別される。A類は少ない。B類は主に口縁部の形態で細分した。1類は口縁端部が丸く取られるもの。2類は口縁端部がやや尖り気味に取られるもの。3類は口縁端部が上方にやや摘まれるもの。4類は口縁端部に面を持つもの。5類は口縁端部がやや下方



第16図 馬越遺跡古代土器器種分類図(1) (S-1-10)

に摘まれ面を持つもの。6類は口縁端部が上方に摘まれるもの。7類は口縁端部が上方内面に摘まれるもの。8類は器壁が厚手で、頸部の括れが弱く、口縁端部に面を持つもの。9類は頸部の括れが弱く、口縁端部が上下にやや摘まれ、面を持つもの。10類は口縁端部が凹みながら上方に摘まれるもの。11類は口縁端部がやや凹みながら大きく上方に摘まれるもの。12類は口縁端部に面を持ち、ハケメ調整が見られる、いわゆる西古志型である。13類は口縁端部が屈曲するもの。14類は口縁部が短く、端部が上方に摘まれるもの。15類は口縁端部が水平に面を持つものとした。これらの分類のうち、A類とB1～3類はⅣ期、B5・9・15類はⅦ期、他はⅤ～Ⅵ期を主体とする。

**小甕** 非ロクロ成形のA類とロクロ成形のB類に大別される。今回A類は確認されていない。B類は主に口縁部の形態で細分される。1類は頸部の括れが弱く、口縁端部が丸く取められるもの。最大径を口縁に持つ。2類が球形の体部から頸部の括れが弱く、口縁端部が丸く取められるもの。3類は「く」の字に外反した口縁部で、端部が丸く取められるもの。4類は「く」の字に外反した口縁部で、端部に緩やかな面を持つもの。5類は口縁部が内湾し、受口状を呈するもの。6類は口縁部が短く、括れも少なく、端部が上方に摘まれるもの。6類は頸部の括れがやや弱く、口縁部は丸く取められる。7類は口縁端部が短く上方に摘まれるもの。8類は口縁端部が上方に摘まれるもの。9類は口縁端部が短く、凹みながら上方に摘まれるもの。10類は口縁端部が内面側に摘まれるもの。11類は口縁部が内傾しながら立ち上がり、受口状を呈するもの。12類は口縁端部が下方に摘まれるもの。13類は口縁部がやや長く上方に摘まれ、端部がやや尖り気味に取められるものとした。

**鍋** 全形を窺えるものは少ないが、大半が丸底と思われる。主に口縁端部の形態で細分した。A類は端部がやや内傾し、面を持つもの。B類は端部が上に摘まれるもの。C類は端部が上に摘まれ、丸く取められるもの。D類は端部が下方に引き出され、面を持つもの。E類は口縁部の括れが少なく、端部が肥厚し丸く取められるもの。F類は端部に面を持つが、上下に引き出されるもの。G類は端部外面が凹みながら上に摘まれるものとした。

**甌** 単孔でつづぬける。内傾するもの、外反するものがある。

**鍋形鉢** 口縁部が短く屈曲し、受口状を呈する。

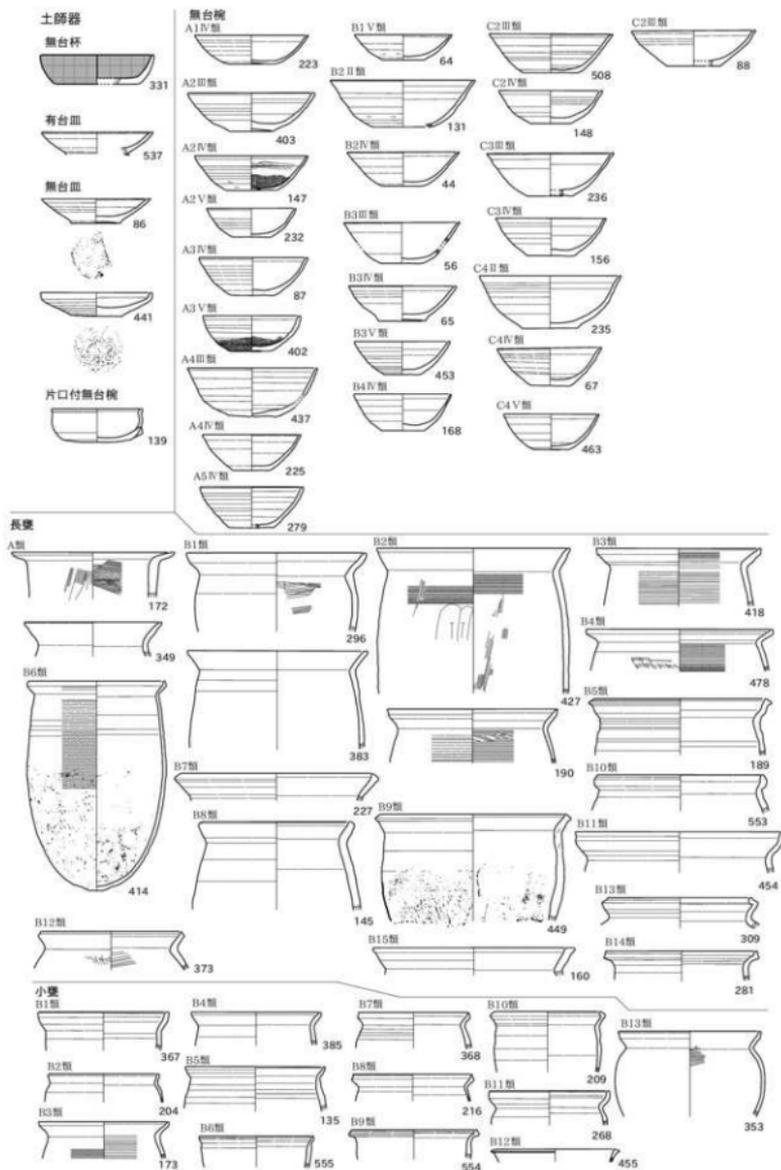
**有台鉢** 高台部分のみ確認された。

#### 4) 黒色土器 (第18図)

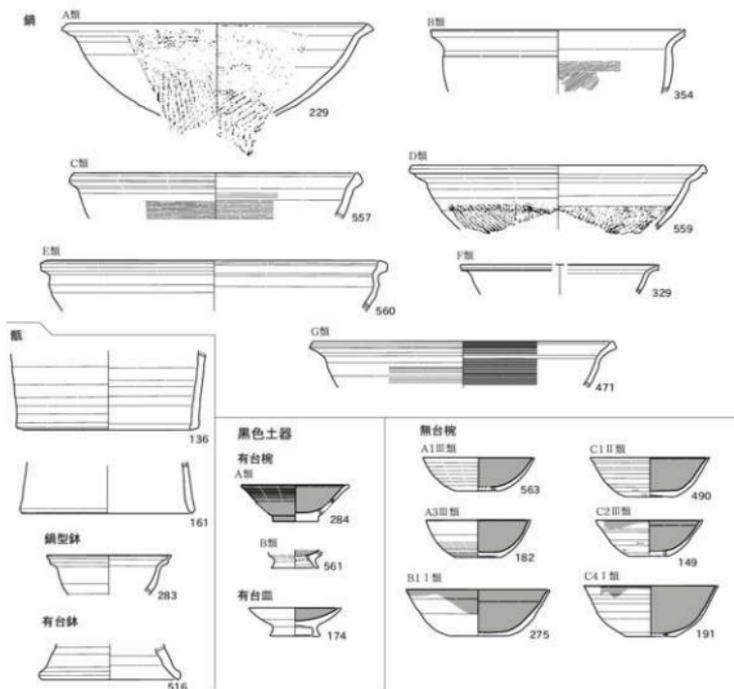
**有台椀** 高台のつくりで分類される。削りだされるものをA類、張り付けられるものをB類とした。A類は両面黒色処理される。

**無台椀** 底部はケズリ後無調整及びケズリ後ミガキのものがある。内面はミガキ、体部下半はケズリを施すものが多い。また、内面に暗文を施す特殊品も見られる。土師器無台椀と同様に、体部の立ち上がりの形態、器高指数から細分した。体部が内湾して立ちあがるものをA類、直線的に立ち上がるものをB類、内湾気味に立ち上がり端部で外反するものをC類とした。器高指数からは、31～33の1類、34～36の2類、37～39の3類がある。口径では、16cm～20cm未満をI類、14cm以上～16cm未満をII類、12cm以上～14cm未満をIII類とした。

**有台皿** 器高が低く、体部は内湾気味に立ち上がる。



第17圖 馬越遺跡古代土器器種分類圖(2) (S-1-10)



第18図 馬越遺跡古代土器種類分類図(3) (S-1-6)

## C 遺物各説

### 1) A区出土土器

#### a 遺構出土土器 (図版48 1~3, 写真図版44)

##### SD1 1号溝 (図版48 1, 写真図版48)

1は土師器長甕の体部片である。外面平行タタキメ、内面平行当て具痕が見られる。

##### SD2 2号溝 (図版48 2・3, 写真図版48)

2は薄手で小振りの須恵器無台杯である。B IV類で、胎土B群である。VI期に位置付けられる。3は須恵器甕の体部片である。外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕が見られる。胎土C群である。

### 2) B区出土土器

#### a 遺構出土土器 (図版50・51 38~70, 写真図版46・47)

##### SK2 2号土坑 (図版50 38, 写真図版46)

38は薄手の胎土B群の須恵器無台杯B III類である。端部内面がやや凹む。VI期に位置付けられる。

**SK3 3号土坑** (図版50 39, 写真図版46)

39はBⅡ類の土師器無台碗の口縁部片である。

**SK4 4号土坑** (図版50 40, 写真図版46)

40は胎土B群の須恵器無台杯BⅢ類である。包含層出土の破片と接合する。底部外面に回転方向左のヘラ切り痕を留める。V<sub>2</sub>期に位置付けられる。

**SD2 2号溝** (図版50 41・42, 写真図版46)

41は胎土B群の須恵器無台杯AⅡ類である。内外面に黒色の斑点が顕著である。42は土師器無台碗BⅢ類である。内面に漆が付着し、パレットとして使用されたと見られる。41はV<sub>2</sub>期、42はVI期に位置付けられる。

**SD3 3号溝** (図版50 43・44, 写真図版46)

43・44ともに土師器無台碗である。43はBⅢⅣ類、44はBⅡⅣ類である。ともに底部外面に回転方向右の糸切り痕を留める。VII<sub>1</sub>期に位置付けられる。

**SD4 4号溝** (図版50 45～51, 写真図版46・47)

45は緑釉陶器碗の体部片である。軟質のつくりや淡緑色の釉から京都産と推測される。46・47は胎土B群の須恵器無台杯で、それぞれBⅠ類、AⅢ類である。48は胎土B群の須恵器小型瓶で、長頸になるものと見られる。49は焼成良好なCⅣ類の土師器無台碗である。50は土師器鍋B類である。51は黒色土器有台碗の高台部で、端部は丸く内端接地する。外面には右回転のヘラ切り痕を留める。概ねVI<sub>1</sub>期に位置付けられる。

**SD5 5号溝** (図版50 52, 写真図版47)

52は土師器無台碗の底部片である。底部外面に墨書が見られる。VI期に位置付けられよう。

**SD9 9号溝** (図版50 53, 写真図版47)

53は土師器小壺である。B7類で、口縁部内面にタールが付着する。

**SD19 19号溝** (図版50 54, 写真図版47)

54は胎土B群の須恵器無台杯BⅢ類である。V期に位置付けられよう。

**SD20 20号溝** (図版50 55, 写真図版47)

55は胎土B群の須恵器無台杯BⅡ類である。V<sub>2</sub>期に位置付けられよう。

**SP7 7号ピット** (図版50 56・57, 写真図版47)

56・57は土師器無台碗である。56がBⅢ類、57がBⅣ類である。VI期に位置付けられよう。

**河川1** (図版50 51 58～70, 写真図版47)

58は胎土B群の須恵器有台杯である。やや長く、細い高台が付く。外面に自然釉が見られる。59は胎土B群の須恵器無台杯である。底部外面に回転方向左のヘラ切り痕を留める。60は胎土B群の須恵器長頸瓶口縁部である。先端部が細く、上方に摘み出される。61～63は須恵器甕である。61は口縁部で口径33.0cm、BⅠⅡ類である。62・63は体部片で、62が外面平行タタキメ、内面平行当て具痕、カキメ、63が外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。61・63が胎土B群、62が胎土C群である。64～69は土師器無台碗である。64は浅身のBⅠⅤ類で、体部下半～底部にかけて糸切り後、ロクロケズリを施す。65はBⅢⅣ類、66・68はCⅢⅣ類、67は深身でCⅣⅣ類、69はCⅣⅣ類である。糸切り痕から窺える回転方向は全て右である。70は黒色土器無台碗でCⅡⅢ類である。58・59・64などがV<sub>2</sub>期頃と見られる他は、VI<sub>2-3</sub>期に位置付けられよう。

**b 包含層出土土器** (図版 51・52 72～99, 写真図版 48・49)

72は灰軸陶器小瓶である。内外面にススが付着する。尾張の尾北窯産と推測される。73は胎土B群の須恵器有台杯で、深身のD類である。74～79は須恵器無台杯である。74はやや厚手のA3Ⅲ類である。底部外面に回転方向左のヘラ切り痕を留める。75はBⅢ類で、内外面に黒色の斑点が顕著である。76はAⅢ類である。77～79は底部片である。77は外面に回転方向右のヘラ切り痕を留める。また、内面に墨痕が見られ、転用視と考えられる。78は外面にタール、79は漆が付着する。74～76が胎土B群、77～79は胎土C群である。80～85は須恵器甕である。80は外面に櫛歯状工具による4条1単位の波状文が施されたAⅠ類である。81は口径29.4cmのB1Ⅲ類である。外面は格子タタキメ、内面は平行当て具痕を留める。また、内面に光沢のある漆様の付着物が見られる。82はC1Ⅲ類で、口縁部が内傾する。外面は平行タタキメ、内面は同心円当て具痕を留める。83～85は体部片で、83が外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕、84・85が外面平行タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。80・82・85が胎土A群、81・84が胎土B群、83が胎土C群である。86は土師器無台皿である。口縁部は外反する。87～96は土師器無台碗である。87はA3Ⅳ類、88は浅身のC2Ⅲ類で口縁部が強クナデられ、大きく外反する特徴的な器形である。89はC2Ⅳ類、90はC3Ⅳ類で、やや深身であるが口縁部のつくりが88に類似する。91はCⅣ類である。92は底部片で、外面に「大カ」墨書が見られる。内面には鉄分と見られる付着物がある。93～95は内面に漆が付着するもので、パレットとして使用されたと思われる。96は内面にススが付着する。糸切り痕から窺える回転方向は全て右である。97は土師器小甕B7類である。98は両面黒色土器無台碗CⅡ類である。外面に漆様の付着物がある。99は黒色土器無台碗である。いずれも体部～底部にかけてロクロケズリ痕を留める。須恵器については、77がⅣ期、73～76がⅤ期と見られるが、土師器の無台碗はほとんどがⅦⅠ期である。

3) C区上層出土土器

**a 遺構出土土器** (図版 53 114, 写真図版 49)

河川1 (図版 53 114, 写真図版 49)

114は須恵器甕体部片である。外面平行タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土C群である。外面や断面部に磨面があり、砥石として転用されたと思われる。

**b 包含層出土土器** (図版 53 116, 写真図版 49)

116は須恵器瓶類の底部片である。底部外面に回転糸切り痕を留める。胎土C群である。

4) C区 (2005年) 下層出土土器

**a 遺構出土土器** (図版 54・55 124～161, 写真図版 50～52)

SE7 7号井戸 (図版 54 124・125, 写真図版 50)

124は須恵器甕体部片である。外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土B群である。125は土師器無台碗である。C3Ⅳ類である。内外面にススが付着する。ⅦⅠ期に位置付けられよう。

SK1 1号土坑 (図版 54 126～128, 写真図版 50)

126～128は土師器無台碗である。126がB3Ⅳ類、127がC3Ⅳ類、128がCⅡ類である。糸切り

痕から窺える回転方向は全て右である。126 は内外面、128 は内面にタール、ススが付着する。Ⅶ<sub>1</sub>期に位置付けられよう。

**SK3 3号土坑** (図版54 129, 写真図版50)

129 は土師器無台椀で、底部が小さく、深身のC4Ⅳ類である。内面にススが付着する。Ⅶ<sub>1</sub>期に位置付けられよう。

**SK8 8号土坑** (図版54 130, 写真図版50)

130 は土師器無台椀である。B2Ⅳ類である。Ⅶ<sub>1</sub>期に位置付けられよう。

**SD19 19号溝** (図版54 131・132, 写真図版50)

131 は焼成良好な土師器無台椀である。比較的大振りなつくりのB2Ⅱ類である。体部下半～底部にかけて糸切り後、ロクロケズリを施す。黒色土器のつくりと同じである。132 は両面黒色土器無台椀の口縁部片である。BⅡ類である。概ねⅦ<sub>2・3</sub>期に位置付けられよう

**SD20 20号溝** (図版54 133, 写真図版50)

133 は須恵器甕である。焼成不良である。外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土B群である。

**SD21 21号溝** (図版54 134～136, 写真図版50)

134 は須恵器甕体部片である。外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土B群である。135 は土師器小甕で、B5類である。136 は土師器甕である。概ねⅦ<sub>1</sub>期に位置付けられよう

**SD22 22号溝** (図版54 137・138, 写真図版50)

137・138 は土師器無台椀である。137は大振りなAⅡ類で、内面全体にススが付着する。138はC2Ⅳ類である。口縁端部付近を強くナデる。底部外面には右回転の糸切り痕を留める。Ⅶ<sub>2・3</sub>期に位置付けられよう。

**SD24 24号溝** (図版54 139～143, 写真図版51)

139 は片口付無台椀である。大きな平底の底部から体部が内湾して立ち上がり、口縁部が短く外反する。体部下半部に片口を設ける。底部はロクロケズリのちナデが施される。内面の一部が黒色化していること、胎土や調整から黒色土器の可能性もある。140～142は土師器無台椀である。140はC3Ⅳ類、141・142がCⅣ類である。141・142は外面に沈線状のナデ痕を留める。143は黒色土器無台椀でCⅡ類である。全てⅦ<sub>2・3</sub>期に位置付けられよう。

**SD25 25号溝** (図版54 144, 写真図版51)

144 は土師器無台椀である。B3Ⅳ類で、内面にタールが付着する。Ⅶ<sub>1</sub>期に位置付けられよう。

**SD37 37号溝** (図版55 145, 写真図版51)

145 は土師器長甕である。厚手のつくりのB4類で、Ⅴ～Ⅶ<sub>1</sub>期頃であろう。

**SD41 41号溝** (図版55 146～148, 写真図版51)

146 は須恵器甕頸部～体部片である。外面平行タタキメとカキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土C群である。147・148は土師器無台椀である。147は焼成良好なA2Ⅳ類で、体部～底部外面はロクロケズリ、口縁部内面には横方向のミガキ痕を留める。内面にはタールが付着する。148はC2Ⅳ類である。底部外面には右回転の糸切り痕を留める。

**SD44 44号溝** (図版55 149, 写真図版51)

149 は黒色土器無台椀でC2Ⅲ類である。概ねⅦ<sub>1</sub>期に位置付けられよう。

**SD63 63号溝** (図版 55 150, 写真図版 51)

150は須恵器甕体部片である。外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土B群である。

**SD64 64号溝** (図版 55 151, 写真図版 51)

151は土師器小甕底部片である。底部外面には右回転の糸切り痕を留める。

**遺構間接合** (図版 55 152～162, 写真図版 51・52)

152はSD19とSD37から出土した須恵器無台杯である。体部が大きく開く胎土B群のC1Ⅱ類である。153はSD21とSD22から出土した須恵器無台杯である。胎土B群のBⅡ類である。154はSK9とSD24から出土した須恵器長頸瓶である。胎土C群である。外面にススが付着する。155はSD41とSD51から出土した須恵器甕体部片である。外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土B群である。156～159は土師器無台椀である。156はSK6とSD19から出土したC3Ⅳ類である。157はSD35とSD41から出土したC3Ⅳ類である。体部～底部外面はロクロケズリ、口縁部内面には横方向のミガキ痕を留め、内面の一部が黒色化している。158はSD24とSD44から出土したCⅣ類である。159はSK3とSD18から出土したCⅣ類で、口縁部が強くナデられ、大きく外反する。160はSD24とSD25から出土した土師器長甕で、B4類である。161・162は土師器甕である。「ハ」の字状に開き、端部にやや面を持つ。161はSD22とSD24、162はSD19・21・23・29から出土した。概ねVI<sub>2</sub>・3～VII<sub>1</sub>期に位置付けられよう。

**b 包含層出土土器** (図版 55・56 163～176, 写真図版 52・53)

163は須恵器有台杯の高台である。径が小さくやや長い高台である。胎土A群である。164は須恵器無台椀である。口端部で外反する。胎土B群である。165・166は須恵器甕である。165はBⅡⅠ類で、内外面に自然軸がかかる。胎土B群である。166は頸部～体部片で、外面平行タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土C群である。外面に自然軸がかかる。167は土師器有台椀の高台である。やや開いた長い高台である。168～171は土師器無台椀である。168がB4Ⅳ類、169・170がC3Ⅳ類、171がCⅣ類である。169・170の内面にはススが付着する。168～170の底部外面には回転糸切り痕を留めるが、全て回転方向は右である。172は非ロクロA類の土師器長甕である。外面は縦、内面は横方向の細かいハケメが施される。173は土師器小甕B3類である。174は黒色土器有台皿である。全体的に低平な器形で、短く踏ん張った高台に、直線的な体部が付く。175は黒色土器有台椀の高台である。176は黒色土器無台椀である。176は底部外面糸切り後、無調整のものである。163・172がIV<sub>1</sub>期、164・168～171・174～176がVII<sub>1</sub>期、他はV～VI期に位置付けられよう。

**c 出土地不明土器** (図版 56 177, 写真図版 52)

177は黒色土器無台椀、AⅡ類である。時期は概ねVI期に位置付けられよう。

**5) C区(2006年)下層出土土器**

**a 遺構出土土器** (図版 56 178～190, 写真図版 53)

**SE14 14号井戸** (図版 56 178～182, 写真図版 53)

178・179は須恵器甕である。178はB2Ⅳ類で、外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。179は体部片で、外面格子タタキメ、内面格子当て具痕を留める。内外面にススが付着する。ともに胎

土B群である。180・181は土師器無台椀である。180は焼成良好なB3Ⅳ類である。181は底部片で、回転方向右の糸切り痕を留める。182は黒色土器無台椀で、A3Ⅲ類である。内面に暗文を施す。暗文の一単位のループは切り合い関係から左回りで描かれたと見られる。概ねVI<sub>2-3</sub>期に位置付けられよう。

**SD2 2号溝** (図版56 183, 写真図版53)

183は土師器無台椀である。CⅣ類である。概ねVII<sub>1</sub>期に位置付けられよう。

**SD4 4号溝** (図版56 184, 写真図版53)

184は黒色土器無台椀である。CⅠ類である。概ねVI～VII期に位置付けられよう。

**SD12 12号溝** (図版56 185, 写真図版53)

185は須恵器横瓶である。外面カキメ、内面ハケメを留める。胎土C群である。

**b 包含層出土土器** (図版57 186～191, 写真図版53)

186は須恵器無台杯である。B4Ⅲ類で、底部外面にヘラ切り痕を留める。回転方向は右である。胎土C群である。187・188は土師器無台椀である。187がB2Ⅳ類、188がB3Ⅳ類である。187は内面にススが付着する。底部外面には糸切り痕を留めるが、回転方向は右である。189・190は土師器長甕である。189がB5類、190がB2類である。191は黒色土器無台椀で、C3Ⅰ類である。186・190がIV<sub>1</sub>期、189がVII<sub>1</sub>期、他は概ねVI<sub>2-3</sub>期に位置付けられよう。

**c 出土地不明土器** (図版57 192・193, 写真図版53)

192は土師器無台椀である。B2Ⅳ類である。内外面にススが付着する。193は土師器長甕B4類である。時期は概ねVI<sub>2-3</sub>～VII<sub>1</sub>期に位置付けられよう。

**6) D区出土土器**

**a 遺構出土土器** (図版57・58 194～220, 写真図版53・54)

**SK11 11号土坑** (図版57 194, 写真図版53)

194は須恵器無台杯である。薄手で、胎土B群である。VI<sub>2-3</sub>期頃であろう。

**SK80 80号土坑** (図版57 195～205, 写真図版53・54)

195は須恵器有台杯の高台部である。胎土B群である。底部外面に左回転のヘラ切り痕を留める。また、内外面に墨痕が見られ、転用説と考えられる。形状から意図的な打ち欠きが推測される。196は胎土B群の須恵器無台杯CⅡ類である。197～201は土師器無台椀である。197・198がBⅣ類、199・200がCⅣ類である。201は底部である。202・203は土師器長甕体部片である。外面には平行タタキメ、内面には平行当て具痕を留める。204・205は土師器小甕で、204がB2類、205がB10類である。概ねVI<sub>2-3</sub>期に位置付けられよう。

**SD1 1号溝** (図版57 206～210, 写真図版54)

206～208は土師器無台椀である。206・208がC3Ⅳ類、207がC2Ⅳ類である。208は口縁部が強くナデられ、大きく外反する。底部も外側に張り出す。209・210が土師器小甕で、209がB10類、210がB7類である。210は口縁部内面にタールが付着する。概ねVI<sub>2-3</sub>期に位置付けられよう。

**SD47 47号溝** (図版58 211, 写真図版54)

211は須恵器無台杯である。底部から比較的急角度で体部が立ち上がる。底部外面に太字の墨書がある。

胎土B群である。V<sub>2</sub>期であろう。

**SD53 53号溝** (図版 58 212, 写真図版 54)

212は須恵器無台杯である。BⅢ類で、胎土B群である。V<sub>2</sub>期であろう。

**SD61 61号溝** (図版 58 213, 写真図版 54)

213は須恵器無台杯である。B2Ⅲ類で、胎土B群である。底部外面に左回転のヘラ切り痕を留める。V<sub>2</sub>期であろう。

**SD77 77号溝** (図版 58 214, 写真図版 54)

214は土師器無台椀底部片である。内外面にススが付着する。概ねVI期頃であろう。

**SD83 83号溝** (図版 58 215, 写真図版 54)

215は土師器長養体部片である。外面には平行タタキメ、内面には平行当て具痕を留める。

**SD85 85号溝** (図版 58 216, 写真図版 54)

216は土師器小養で、B8類である。概ねV～VI期頃であろう。

**SD106 106号溝** (図版 58 217, 写真図版 54)

217は須恵器有台杯である。深身のD類で、胎土B群である。底部外面に墨書がある。V<sub>2</sub>期であろう。

**SP30 30号ビット** (図版 58 218, 写真図版 54)

218は土師器長養体部片である。外面には平行タタキメ、内面には平行当て具痕を留める。

**SP112 112号ビット** (図版 58 219, 写真図版 54)

219は須恵器養体部片である。外面には平行タタキメを留める。胎土A群である。

**遺構間接合** (図版 58 220, 写真図版 54)

220はSD77とSP30から出土した土師器長養で、B4類である。外面にタールが付着する。概ねVI<sub>2-3</sub>期頃であろう。

**b 包含層出土土器** (図版 58 221～229, 写真図版 54・55)

221は須恵器有台杯である。浅身のB類で、胎土B群である。底部外面に漆が付着する。222は須恵器養で、胎土C群である。外面に格子タタキメ、内面には同心円当て具痕を留める。223～226は土師器無台椀である。223はA1Ⅳ類、224はA2Ⅳ類、225はA4Ⅳ類である。224は口縁端部内外面にタールが付着し、灯明皿として使用されたと見られる。底部外面には糸切り痕を留めるが、全て回転方向は右である。227・228は土師器長養B7類である。229は土師器鍋である。A類で、外面には平行タタキメ、内面には格子当て具痕を留める。内外面にタールが付着する。221がV<sub>2</sub>期、他はVI～VII期に位置付けられよう。

**c 出土地不明土器** (図版 58 230, 写真図版 55)

230は厚手の須恵器無台杯底部片である。外面に付着物がある。胎土C群である。IV<sub>1</sub>期であろう。

**7) E区下層出土土器**

**a 遺構出土土器** (図版 59 231～241, 写真図版 55・56)

**SD1 1号溝** (図版 59 231, 写真図版 55)

231は須恵器無台杯底部片である。底部外面に墨書が見られる。胎土B群である。概ねVI期であろう。

**SD2 2号溝** (図版 59 232, 写真図版 55)

232は土師器無台碗である。A2 V類である。底部外面に右回転の糸切り痕を留める。VI<sub>2-3</sub>期であろう。

**SD7 7号溝** (図版 59 233, 写真図版 55)

233は須恵器甕口縁部片である。外面に波状文が描かれる。胎土C群である。

**SD11 11号溝** (図版 59 234, 写真図版 55)

234は土師器無台碗である。B IV類である。概ねVI期であろう。

**SD18 18号溝** (図版 59 235～239, 写真図版 55)

235・236は土師器無台碗である。235は大型で深身のC4 II類、236はC3 III類である。237～239は土師器小甕である。237はB6類で、口縁部内面にはタールが付着する。238・239は底部外面に右回転の糸切り痕を留める。238の内外面にはタールが付着する。概ねVI<sub>2-3</sub>期に位置付けられる。

**河川 23** (図版 59 240・241, 写真図版 56)

240は須恵器有台杯で、短い高台の付いたA類である。内外面に劣化した漆が付着している。241は厚手の須恵器無台杯底部片である。ともに胎土C群である。III～IV期頃のものであろう。

**b 包含層出土土器** (図版 59～61 242～275, 写真図版 57)

242は灰釉陶器小瓶である。尾張の尾北窯産と推測される。243～246は須恵器無台杯である。243がA II類、244がB III類、245がA IV類、246がB II類で、243～245が胎土B群、246が胎土C群である。247・248は須恵器長頸瓶である。全て胎土B群である。底部内面に自然軸が見られる。247の底部外面にロクロケズリ痕を留める。249は須恵器横瓶である。外面には平行タタキメ、カキメ、内面には同心円当て具痕を留める。内面にタールが付着する。胎土C群である。250～252は須恵器甕である。全て胎土B群である。外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。251・252は同一個体の可能性がある。253～264は土師器無台碗である。253はA3 IV類で、内面に漆が付着する。漆パレットとしての使用が考えられる。254はC2 III類で、体部外面に墨書「一」がある。255・256はC2 IV類で、内外面にススが付着する。257はC3 IV類で内面にスス、外面に漆が付着する。258はC2 IV類。259はC3 IV類で体部外面に墨痕がある。260～264はC II～IV類である。260の内外面は赤彩された可能性がある。265～267は土師器長甕である。265は厚手のB4類、266はB5類、267はB7類である。268～272は土師器小甕である。268はB11類、269はB10類、270はB4類である。271・272は底部である。273は土師器鉢である。D類で、外面に平行タタキメ痕を留める。274は黒色土器有台碗である。275は黒色土器無台碗である。275は大振りのB1 I類である。時期は270がIV期の他は、概ねVI<sub>2-3</sub>～VII<sub>1</sub>期に位置付けられる。

**c 出土地不明土器** (図版 61 277～287, 写真図版 58)

277・282は須恵器長頸瓶である。胎土B群である。279は土師器無台碗 A5 IV類である。280は黒色土器つくりの土師器無台碗底部片である。底部外面はロクロケズリ後ミガキである。内面に暗文を施す。暗文の一単位のループは切り合い関係から左回りで描かれたと見られる。281は土師器長甕 B14 類である。282は土師器小甕 B6 類である。283は土師器鉢である。口縁部が強クナデられ、凹みながら反する。新発田市坂ノ沢C遺跡で出土し、鍋形鉢とされた土器〔渡邊・田中2001〕と類似する。284は両面黒色土器有台碗で、ベタ高台である。285は両面黒色土器無台碗である。286・287は黒色土器無台碗である。286はC I類、287はC II類である。時期は概ねVI<sub>2-3</sub>～VII<sub>1</sub>期に位置付けられる。

### 8) F区出土土器

#### a 遺構出土土器 (図版 61 288・290～297、写真図版 58)

##### SD1 1号溝 (図版 61 288、写真図版 58)

288は土師器小甕B11類である。VI期頃であろう。

##### SD5 5号溝 (図版 61 290、写真図版 58)

290は須恵器杯蓋である。端部が退化したⅡⅢ類である。胎土B群である。VI<sub>2-3</sub>期頃であろう。

##### SD9 9号溝 (図版 61 291、写真図版 58)

291は須恵器長頸瓶である。胎土B群である。VI期頃であろう。

##### SD30 30号溝 (図版 61 293、写真図版 58)

293は須恵器無台杯である。AⅢ類、胎土B群である。VI期頃であろう。

##### SD74 74号溝 (図版 61 294、写真図版 58)

294は須恵器無台杯である。C1Ⅳ類で、胎土C群である。底部外面には右回転のヘラ切り痕を留める。やや小振りな点からIV<sub>2-3</sub>期頃であろう。

##### 河川 20 (図版 61 296、写真図版 58)

296は土師器長甕B1類である。内面ハケメ調整される。Ⅳ期に位置付けられる。

##### 遺構間接合 (図版 61 297、写真図版 58)

297は須恵器小型壺、平城京分類壺Gである。SD5とSD30から出土した。上半部を欠損する。焼成不良である。底部外面には回転系切り痕を留める。

#### b 包含層出土土器 (図版 61・62 298～311、写真図版 58・59)

298・299は須恵器有台杯である。298は内端接地する高台が外側に貼り付く。胎土C群である。299はやや内側に高台が貼り付く。胎土B群である。底部外面には左回転のヘラ切り痕と墨痕が見られ、転用碗と考えられる。300・301は須恵器無台杯である。300はB2Ⅳ類である。301は底部外面に墨書が見られる。ともに胎土B群である。302は胎土B群の須恵器長頸瓶である。303は胎土C群の須恵器横瓶である。304・305は須恵器甕である。304が胎土B群で、外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。305が胎土C群で、外面平行タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。306～308は土師器無台碗である。306はAⅢ類で、内外面ミガキ調整される。底部内面にタールが付着する。307はBⅢ類である。308は底部であるが、ほぼ底部中央に焼成前に円孔が穿たれる。309は土師器長甕B13類である。310は鉢の底部と見られる。311は黒色土器無台碗である。時期は298・303がⅣ期、299がV<sub>2</sub>期、他はVI<sub>2-3</sub>期頃であろう。

### 9) G区出土土器

#### a 遺構出土土器 (図版 62 319～323、写真図版 59)

##### 河川 9 (図版 62 319～323、写真図版 59)

319は胎土B群の須恵器杯蓋である。ⅢⅢ類である。320・321は須恵器有台杯である。320はやや底部外側に貼り付く高台から鋭角に体部が立ち上がる。頸城地方西側丘陵窯跡産の胎土E群である。底部外面にヘラ書きが見られる。321は胎土C群である。322・323は胎土C群の須恵器無台杯である。

321・322がⅣ<sub>1</sub>期、他は概ねⅤ期であろう。

**b 包含層出土土器** (図版 62 327～329、写真図版 59)

327は胎土B群の須恵器有台杯である。328は胎土C群の須恵器横版である。外面にカキメ、内面に同心円当て具痕を留める。329は土師器鍋で、F類である。概ねⅤ<sub>2</sub>期に位置付けられよう。

10) I区出土土器

**a 遺構出土土器** (図版 63 331～340、写真図版 60)

**SK25 25号土坑** (図版 63 331、写真図版 60)

331は土師器無台杯である。厚手のつくりで、内外面とも赤彩される。時期はⅣ<sub>1</sub>期であろう。

**IX60・61 60・61号不明遺構** (図版 63 332～334、写真図版 60)

332は胎土C群の須恵器杯蓋である。口径17.2cmと大きなI類である。333は胎土C群の須恵器有台杯である。334は胎土C群の須恵器甕である。時期はⅣ<sub>1</sub>期であろう。

**SD58・59 58・59号溝** (図版 63 335～339、写真図版 60)

335・336は胎土C群の須恵器無台杯である。335はBⅡ類である。336は底部外面に右回転のヘラ切り痕を留める。337は胎土B群の須恵器長頸瓶の頸部である。338・339は胎土C群の須恵器甕である。338は外面に他の須恵器片が接着する。時期は337がⅤ期、他はⅣ<sub>1</sub>期頃であろう。

**SP4 4号ピット** (図版 63 340、写真図版 60)

340は胎土C群の須恵器甕である。内面に同心円当て具痕を留める。

**b 包含層出土土器** (図版 63 341～354、写真図版 60・61)

341は胎土C群の須恵器杯蓋である。IⅡ類である。342は胎土C群の須恵器有台杯B類である。343～345は胎土C群の須恵器無台杯である。343がBⅠI類、344がBⅢⅡ類、345がCⅡⅡ類である。346は胎土C群の須恵器甕で、CⅡⅣ類である。347は胎土A群の須恵器甕で、焼成不良である。外面は平行タタキメ、内面は同心円当て具痕を留める。348は土師器無台杯である。底部外面には右回転のヘラ切り痕を留める。内面と底部外面の一部に漆が付着する。349は非ロクロA類の土師器長甕である。350は薄手のつくりの土師器長甕BⅠ類である。351～353は土師器小甕である。351・353はBⅢⅢ類、352はBⅢ類である。352は体部が球胴形を呈する。353は内面にハケメを留める。354は土師器鍋ⅢⅢ類である。内面にハケメ調整痕が見られる。これらの土器は全てⅣ<sub>1</sub>を中心としたⅣ期の幅の中に位置付けられるものである。

11) J区出土土器

**a 遺構出土土器** (図版 64 355～419、写真図版 61)

**SE87 87号井戸** (図版 64 355、写真図版 61)

355は土師器無台碗である。時期はⅦ<sub>1</sub>期と見られる。

**SK15 15号土坑** (図版 64 356～369、写真図版 61)

356・357は胎土B群の須恵器有台碗である。外端接地するやや長い高台を持つ。358は胎土B群の須恵器甕である。外面格子タタキメ、内面格子当て具痕を留める。359～366は土師器無台碗である。

359は小型で深身のA4Ⅳ類、360はCⅣ類、361はCⅢ類、362はAⅣ類、363はBⅣ類、364・365はCⅣ類、366は底部である。確認できる底部の回転糸切り痕は右回転である。359は糸切り後、一部ナデ消されている。367・368は土師器小甕で、367がB1類、368がB7類である。369は両面黒色土器無台碗である。CⅡ類である。時期はⅦ<sub>1</sub>期と考えられる。

**SK29 29号土坑** (図版64 370・371、写真図版61)

370は土師器長甕でB4類である。371は深身の黒色土器無台碗でAⅠ類である。内面に若干であるが暗文が見られる。時期はⅥ<sub>2-3</sub>期であろう。

**SD17 17号溝** (図版64 372、写真図版61)

372は土師器小甕である。B4類である。時期はⅣ期であろう。

**SD18 18号溝** (図版64 373、写真図版61)

373は土師器長甕である。B12類のいわゆる西古志型である。時期はⅣ～Ⅴ期であろう。

**SD20 20号溝** (図版64 374～378、写真図版61・62)

374は土師器無台碗CⅤ類である。375は土師器長甕の底～体部である。平底の底部から体部はあまり膨らまずに立ち上がる。外面には縦方向のヘラケズリ、内面は斜め方向のハケメ調整痕が見られる。376・377は土師器小甕である。376はB4類、377は底部片である。378は深身の黒色土器無台碗で、底部外面に墨書が見られる。375はⅣ期であるが、他は概ねⅥ期に位置付けられよう。

**SD25 25号溝** (図版64 379、写真図版62)

379は土師器小甕である。B7類である。時期はⅤ～Ⅵ期であろう。

**SD27 27号溝** (図版64・65 380～385、写真図版62)

380は胎土C群の須恵器無台杯である。381は土師器無台杯である。やや小振りである。382～384は土師器長甕で、383・384がB1類、382がB2類である。胎土が粗い。385が土師器小甕B4類である。時期はⅣ<sub>1</sub>期である。

**SD30 30号溝** (図版65 386・387、写真図版62)

386は胎土C群の須恵器無台杯で、BⅠ類である。387は土師器無台杯の底部である。底部外面に右回転のヘラ切り痕を留める。時期はⅣ<sub>1</sub>期である。

**SD31 31号溝** (図版65 388～391、写真図版62)

388は土師器無台碗で、CⅣ類である。389は土師器長甕の底部である。平底の底部で、内外面にハケメが見られる。390は土師器小甕の底部、391は土師器壺の底部と見られる。内面にハケメ痕を留める。時期はⅣ<sub>1</sub>期である。

**SD32 32号溝** (図版65 392・393、写真図版62)

392は胎土C群の須恵器杯蓋で、摘みB類である。393は胎土B群の須恵器有台碗である。時期はⅦ<sub>1</sub>期である。

**SD35 35号溝** (図版65 394、写真図版62)

394は胎土A群の須恵器甕で、外面格子タタキメ、内面平行当て具痕が見られる。

**SD42 42号溝** (図版65 395、写真図版62)

395は土師器無台碗の底部である。時期はⅦ<sub>1</sub>期であろう。

**SD44 44号溝** (図版65 396、写真図版62)

396は土師器無台碗の底部である。時期はⅦ<sub>1</sub>期であろう。

**SD56 56号溝** (図版 65 397, 写真図版 62)

397 は土師器無台碗の底部である。時期はⅦ<sub>1</sub>期であろう。

**SD63 63号溝** (図版 65 398, 写真図版 62)

398 は土師器無台碗、CⅣ類である。時期はⅥ<sub>2-3</sub>期であろう。

**SD67 67号溝** (図版 65 399～401, 写真図版 62)

399 は胎土A群の須恵器甕である。外面に平行タタキメ痕を留める。400 は土師器無台碗でCⅢ類である。401 は土師器長甕B3類である。時期は概ねⅥ<sub>2-3</sub>期であろう。

**SD71 71号溝** (図版 65 402～407, 写真図版 63)

402～406 は土師器無台碗である。402 はA3Ⅴ類, 403 はA2Ⅲ類, 404 はB4Ⅳ類, 405 はB2Ⅳ類, 406 はBⅢ類である。402・404 は内外面にスス、タールが付着する。404 は灯明皿として使用されたものであろう。407 は土師器鉢の底部である。内面にハケメ痕を留める。時期はⅦ<sub>1</sub>期に位置付けられよう。

**SD86 86号溝** (図版 65 408・409, 写真図版 63)

408 は胎土B群の須恵器無台杯、CⅠ類である。409 は黒色土器無台碗、CⅡ類である。概ねⅥ<sub>2-3</sub>期であろう。

**SP53 53号ピット** (図版 65 410・411, 写真図版 63)

410 は胎土B群の須恵器無台杯、AⅣ類である。411 は土師器無台碗の底部である。410 はⅤ期, 411 はⅦ<sub>1</sub>期であろう。

**SP101 101号ピット** (図版 65 412・413, 写真図版 63)

412 は胎土B群の須恵器杯蓋で、C類である。413 は胎土C群の須恵器甕である。外面平行タタキメ、内面平行当て具痕を留める。Ⅴ<sub>2</sub>期に位置付けられよう。

**SP102 102号ピット** (図版 66 414, 写真図版 63)

414 は土師器長甕B6類である。外面体部下半部は平行タタキメ、内面は当て具痕を留める。外面中位～上半部はカキメが顕著である。

**遺構間接合** (図版 66 415～419, 写真図版 64)

415 はSD31とSD32から出土した胎土B群の須恵器有台碗である。416・417 は土師器無台碗である。416 はSD20とSD30、417 はSK29とSD32から出土した。418・419 は土師器長甕である。418 はSK29とSD30から出土したB3類、419 はSK29・SD27・SD30から出土したB4類である。時期は415～417がⅦ<sub>1</sub>期、418・419は概ねⅤ期であろう。

**b 包含層出土土器** (図版 66 421～433, 写真図版 64)

421 は灰軸陶器の小瓶で、猿投の尾北窯産と見られる。422 は胎土B群の須恵器杯蓋で、ⅠⅡ類である。423 は胎土C群の須恵器広口壺である。肩部が鋭角に屈曲するいわゆる肩衝壺である。外面にはカキメ痕が顕著である。424 は胎土B群の須恵器長頸瓶である。425・426 は土師器無台碗である。425 内面にタールが付着する。426 は底部片で、外面にヘラ書きがある。427～432 は土師器長甕である。427・428 はB2類である。体部外面上半にはカキメ痕と中～下半部には縦方向のヘラケズリ痕、内面は上半にカキメ痕、中～下半部には斜方向のハケメ調整が見られる。外面にタールが付着する。429 はB3類、430 はB7類、431 はB6類、432 はB7類である。433 は黒色土器無台碗である。底部外面は糸切り後、無調整である。時期は427・428がⅣ<sub>1</sub>期、425がⅦ<sub>1</sub>期、他はⅤ～Ⅵ期であろう。

## 12) K区出土土器

### a 遺構出土土器 (図版 67 ~ 69 434 ~ 490, 写真図版 65 ~ 68)

#### SK1 1号土坑 (図版 67 434・435, 写真図版 65)

434・435は胎土B群の須恵器長頸瓶である。434は大型で、体部外面には漆が付着する。435は底部外面にスガが付着する。時期はVI<sub>2-3</sub>期であろう。

#### SK19 19号土坑 (図版 67 436 ~ 439, 写真図版 65)

436は胎土B群の須恵器長頸瓶である。437 ~ 439は土師器無台椀である。437はA4 III類、438はB III類、439は底部である。時期は概ねVI ~ VII期であろう。

#### SK74 74号土坑 (図版 67 440・441, 写真図版 65)

440は胎土B群の須恵器無台杯である。A2 III類である。441は土師器無台皿である。口縁端部が内傾する。新潟市(旧新津市)中谷地遺跡〔立木ほか1999〕に類例がある。時期はVI<sub>2-3</sub>期であろう。

#### SK77 77号土坑 (図版 67 442, 写真図版 65)

442は胎土B群の須恵器杯蓋である。C類である。内面に墨痕があり、よく磨れている。転用硯と見られる。時期はVI<sub>2-3</sub>期であろう。

#### SK81 81号土坑 (図版 67 443, 写真図版 65)

443は胎土B群の須恵器杯蓋である。2 II類である。内面に墨痕があり、よく磨れている。転用硯と見られる。口縁部に降灰が見られる。時期はV<sub>2</sub>期である。

#### SK110 110号土坑 (図版 67 444, 写真図版 65)

444は土師器小甕である。B11類で、内面にタールが付着する。時期はV ~ VI期であろう。

#### SK116 116号土坑 (図版 67 445, 写真図版 65)

445は胎土B群の須恵器杯蓋である。内面の一部に降灰が見られる。時期は概ねV期であろう。

#### SK126 126号土坑 (図版 67 446, 写真図版 65)

446は胎土B群の須恵器無台杯である。B4 III類である。時期はV<sub>2</sub>期である。

#### SK181 181号土坑 (図版 67 447, 写真図版 66)

447は土師器長甕である。B3類で、外面にタールが付着する。時期はV ~ VI期であろう。

#### SK185 185号土坑 (図版 67 448, 写真図版 66)

448は胎土B群の須恵器無台杯である。底部外面に墨痕が見られる。時期はVI期であろう。

#### SK204 204号土坑 (図版 67 449, 写真図版 66)

449は土師器長甕である。B9類で、外面に平行タキメ、内面に当て具痕を留める。外面には「×」のヘラ書きが見られる。内外面にタールが付着する。時期はVII期である。

#### SK241 241号土坑 (図版 67 450, 写真図版 66)

450は胎土B群の須恵器有台杯である。短い高台が貼り付く。時期は概ねV期であろう。

#### SD3 3号溝 (図版 67 451, 写真図版 66)

451は胎土B群で深身の須恵器有台杯である。D類であろう。時期は概ねV期であろう。

#### SD7 7号溝 (図版 67 452, 写真図版 66)

452は土師器小甕である。底部外面には回転糸切り痕を留める。外面にタールが付着する。

#### SD21 21号溝 (図版 67 453, 写真図版 66)

453 は土師器無台碗である。小振りのB3 V類である。時期は概ねVI期であろう。

**SD22 22号溝** (図版 67 454, 写真図版 66)

454 は土師器長甕である。大型のB11類である。時期は概ねVI期であろう。

**SD23 23号溝** (図版 67 455, 写真図版 66)

455 は土師器小甕である。B12類である。時期はVII期であろう。

**SD41 41号溝** (図版 67 456, 写真図版 66)

456 は土師器長甕である。B6類である。時期は概ねV期であろう。

**SD47 47号溝** (図版 67 457, 写真図版 66・83)

457 は胎土B群の須恵器無台杯である。底部外面左寄りに「中家」と墨書される。墨痕は薄い。時期はVI<sub>2・3</sub>期である。

**SD51 51号溝** (図版 68 458・459, 写真図版 66)

458 は須恵器無台杯である。胎土B群でB3 IV類である。底部外面には左回転のヘラ切り痕を留める。

459 は胎土B群の長頸瓶である。時期はV<sub>2</sub>期であろう。

**SD76 76号溝** (図版 68 460～465, 写真図版 66・67)

460・461 は須恵器無台杯である。460 は胎土C群、461 は胎土B群のB3 IV類である。462～465 は土師器無台碗である。462 はC2 IV類、463 はC4 V類、464 はC3 IV類、465 はC V類である。462の底部外面には「×」のヘラ書きがある。口縁内外面にスガが付着する。時期は460はV期、他はVI<sub>2・3</sub>期に位置付けられよう。

**SD87 87号溝** (図版 68 466, 写真図版 67)

466 は土師器小甕B7類である。

**SD90 90号溝** (図版 68 467～471, 写真図版 67)

467 は土師器無台碗である。A3 IV類である。468・469 は土師器長甕で、それぞれB3類、B5類である。

470 は土師器小甕B7類である。口縁内面にタールが付着する。471 は土師器鍋のG類である。内外面ともカキメが顕著である。内面にタールが付着する。時期は467がVII<sub>1</sub>期、他は概ねVI<sub>2・3</sub>期であろう。

**SD99 99号溝** (図版 68 472, 写真図版 67)

472 は土師器無台碗の底部で、丸底気味である。底部付近はヘラケズリされる。時期はIV<sub>1</sub>期であろう。

**SD186 186号溝** (図版 68 473, 写真図版 67)

473 は土師器小甕B7類である。

**SD193 193号溝** (図版 68 474・475, 写真図版 67・83)

474 は胎土B群の須恵器無台杯である。B2 III類である。底部外面左寄りに「若」と墨書される。墨痕は薄い。475 は胎土B群の須恵器長頸瓶である。内面に自然軸がかり、外面には付着物がある。時期はVI<sub>2・3</sub>期であろう。

**SD216 216号溝** (図版 68 476, 写真図版 68)

476 は土師器長甕B6類である。外面はナデ後ヘラケズリ調整痕を留める。時期はVI期であろう。

**SD223 223号溝** (図版 68 477, 写真図版 68)

477 は須恵器甕B1 III類である。胎土B群である。外面に格子タタキメ、内面に同心円当て具痕を留める。時期はV～VI期であろう。

**SD234 234号溝** (図版 68 478, 写真図版 68)

478は土師器長甕B4類である。外面はナデ後ハケメ調整痕を留める。時期はVI期であろう。

**SP8 8号ビット** (図版69・479、写真図版68)

479は土師器長甕B8類である。時期はVII期であろう。

**SP135 135号ビット** (図版69・480、写真図版68)

480は胎土B群の須恵器杯蓋である。A1Ⅱ類である。口縁端部に降灰がある。時期はV<sub>2</sub>期である。

**遺構間接合** (図版69・481～490、写真図版68)

481は胎土B群の須恵器有台杯C類である。SK120とSP135から出土した。482～484は須恵器無台杯である。482は胎土B群A3Ⅲ類でSK122とSD76から出土した。黒色吹き出し物が顕著である。483は胎土A群C1Ⅱ類でSK120とSK177から出土した。484は胎土A群でSK168とSP175から出土した。485は胎土B群の須恵器長頸瓶である。SK119とSK122から出土した。486はB2Ⅳ類の土師器無台碗である。SK122とSD76から出土した。487～489は土師器長甕である。487はB3類でSK66とSD51から出土した。488はB8類でSD21とSD22から出土した。489はB6類でSK120とSD179から出土した。490は黒色土器無台碗で、C1Ⅱ類である。底部外面に黒斑が見られる。SK110とSD115から出土した。時期は482・488がVII<sub>1</sub>期で他はV～VI期に位置付けられるであろう。

**b 包含層出土土器** (図版69・70・491～521、写真図版68～70)

491・492は須恵器有台杯である。491は低平な高台が付く。胎土C群と見られる。492は胎土E群で、底部外面に糸切り痕を留める。493～502は須恵器無台杯である。493～495は胎土C群で、493・494がB2Ⅱ類、495がB2Ⅰ類である。493は内外面に漆が付着する。495は酸化炎焼成である。496～502は胎土B群である。496～498はやや小振りで496がB3Ⅳ類、497がA3Ⅳ類、498がA3Ⅲ類である。499は薄手のB2Ⅱ類である。497・499は右、498は左回転のヘラ切り痕を底部外面に留める。499の底部外面には板状圧痕が顕著である。500は体部外面、501・502は底部外面に墨書が見られる。503は胎土D群の須恵器長頸瓶である。高台は内端接地する。504～506は須恵器甕である。504は胎土B群のB1Ⅲ類、505は胎土C群のB1Ⅳ類で体部外面に平行タタキメ、内面に同心円当て具痕を留める。506は胎土B群で外面に格子タタキメ、内面に同心円当て具痕を留める。507・508は土師器無台碗である。507がC3Ⅳ類、508がC2Ⅲ類である。509～511は土師器長甕である。509がB8類、510がB11類、511がB10類である。512～515は土師器鍋である。512がC類、513・514がA類、515がG類である。516は有台鉢の高台である。517～521は黒色土器無台碗である。518は底部外面に「×」のヘラ書きがある。519～521は暗文を持つ。520の暗文も左回りである。時期は491・493～495がⅣ期、492・496～498・501がⅤ期、513・514がⅥ期、他は概ねⅥ期頃に位置付けられよう。

**c 出土地不明土器** (図版70・522、写真図版70)

522は胎土B群の須恵器無台杯底部片である。意図的に円形に打ち欠いた可能性も考えられる。

**13) 立会い調査出土土器** (図版71・72・525～564、写真図版70～72)

525は灰軸陶器の長頸瓶口縁部である。猿投の尾北窯産と見られる。526は胎土B群の須恵器杯蓋の摘みでA類である。527・528は胎土B群の須恵器有台碗である。528は底部外面に墨痕が見られ、転

用碗と考えられる。529～534は胎土B群の須恵器無台杯である。529はB3Ⅲ類、530はB1Ⅱ類である。531は体部外面に「上」の字が横位に墨書される。532は底部内面、533・534は底部外面に墨書が見られる。535は胎土B群の須恵器長頸瓶である。536は胎土D群の須恵器甕である。C2Ⅳ類である。外面には平行タタキメ、内面は同心円当て具痕を留める。537は土師器有台皿である。538・539は土師器無台杯で、内外面赤彩される。540～547は土師器無台碗である。540はA2Ⅳ類、541はAⅣ類、542はC3Ⅳ類、543・545がCⅢ類、544・546・547がCⅣ類である。548～553は土師器長甕である。548・549はB1類、550・552はB3類、551はB4類、553はB10類である。554～556は土師器小甕である。554はB9類、555はB6類である。557～560は土師器鍋である。557・558がC類、559がD類、560がE類である。561は黒色土器有台碗である。562～564は黒色土器無台碗である。562はA3Ⅲ類、563はA1Ⅲ類、564はAⅢ類である。時期は538・539・548・549がⅣ期、526・529・531・550・551などがⅤ期、530・532・541～547・552～558・560・562～564などがⅥ期、527・528・537・540・559・561がⅦ期と考えられる。

## 4 鎌倉・室町時代の土器

鎌倉・室町時代の土器はB・C区上層、E・F・K区、立会い調査区から出土した。C区上層からは遺構に伴い、一定量出土しているが、他は散発的な出土状況である。分類などは行っていない。

### 1) B区出土土器

#### a 包含層出土土器 (図版 52 100～103, 写真図版 49)

100～102は珠洲焼甕で、外面に100と101が3cmで11条、102が15条と細かい平行タタキメが見られる。103は珠洲焼播鉢口縁部で、口縁端部は平坦で、内面に7条単位の卸し目を確認できる。100～102は吉岡編年〔吉岡 1994〕Ⅱ期で13世紀代、103はⅣ期で14世紀代と見られる。

### 2) C区上層出土土器

#### a 遺構出土土器 (図版 53 104～113・115, 写真図版 49)

##### SE1 1号井戸 (図版 53 104, 写真図版 49)

104は珠洲焼播鉢で、口縁端部はやや外傾する。内面に8条単位の卸し目を確認できる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

##### SE2 2号井戸 (図版 53 105, 写真図版 49)

105は珠洲焼甕で、外面に3cmで17条と細かい平行タタキメが見られる。吉岡編年Ⅲ期であろう。

##### SE5 5号井戸 (図版 53 106, 写真図版 49)

106は中世土師器皿である。内面に漆が付着する。時期は14世紀代であろう。

##### SE7 7号井戸 (図版 53 107・108, 写真図版 49)

107は珠洲焼甕で、外面に3cmで10条の平行タタキメが見られる。108は珠洲焼播鉢で、口縁端部は水平である。内面に5～8条単位の卸し目を確認できる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

##### SK2 2号土坑 (図版 53 109, 写真図版 49)

109は珠洲焼播鉢で、片口付きである。口縁端部は外傾する。内面に11条単位の卸し目を確認できる。

吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

**SK4 4号土坑** (図版 53 110, 写真図版 49)

110は珠洲焼甕で、外面に3cmで10条の平行タタキメが見られる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

**SX1 1号不明遺構** (図版 53 111, 写真図版 49)

111は珠洲焼甕で、外面に3cmで12条と細かい平行タタキメが見られる。破片割れ面が磨れており、砥石状に転用されたと考えられる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

**SD4 4号溝** (図版 53 112, 写真図版 49)

112は珠洲焼播鉢である。焼成不良である。内面に卸し目を確認できる。

**SD6 6号溝** (図版 53 113, 写真図版 49)

113は珠洲焼甕で、外面に3cmで10条の平行タタキメが見られる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

**河川1** (図版 53 115, 写真図版 49)

115は珠洲焼播鉢である。内面に卸し目、波文を確認できる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

**b 包含層出土土器** (図版 53 117～123, 写真図版 49)

117～119は珠洲焼甕である。117は口端部が方頭状を呈し、短く外反する。外面には3cmで10条の平行タタキメが見られる。118は3cmで9条、119は15条と細かい平行タタキメが見られる。120・121は珠洲焼播鉢である。120は口端部が外傾する。内面に11条単位の卸し目を確認できる。122・123は中世土師器皿である。122は体部が屈曲する。内面に漆が付着する。珠洲焼はすべて吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期で、土師器もほぼ同じ14世紀代と見られる。

3) E区下層出土土器

**a 包含層出土土器** (図版 61 276, 写真図版 57)

276は珠洲焼播鉢である。口端部が外傾する。内面に10条単位の卸し目を確認できる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

4) F区出土土器

**a 遺構出土土器** (図版 61 289・292・295, 写真図版 58)

**SD3 3号溝** (図版 61 289, 写真図版 58)

289は珠洲焼甕で、外面に3cmで15条と細かい平行タタキメが見られる。吉岡編年Ⅲ期であろう。

**SD14 14号溝** (図版 61 292, 写真図版 58)

292は珠洲焼甕で、外面に3cmで11条と細かい綾杉状タタキメが見られる。吉岡編年Ⅲ期であろう。

**SD109 109号溝** (図版 61 295, 写真図版 58)

295は珠洲焼甕で、外面に3cmで12条と細かい綾杉状タタキメが見られる。吉岡編年Ⅲ期であろう。

**b 包含層出土土器** (図版 62 312～314, 写真図版 59)

312～314は珠洲焼甕である。312は綾杉状タタキメ、313・314は3cmで12条、13条と細かい平行タタキメが見られる。吉岡編年Ⅲ期であろう。

## 5) K区出土土器

## a 出土地不明土器 (図版70 523、写真図版70)

523は珠洲焼埴鉢である。比較的密に卸し目が入る。吉岡編年Ⅳ期であろう。

## 6) 立会い調査出土土器 (図版72 565～568、写真図版72)

565は青磁有台碗の高台である。566・567は珠洲焼甕である。3cmで8条、9条の平行タタキメが見られる。568は珠洲焼埴鉢である。内面に8条単位の卸し目が確認できる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

## 5 土製品

## 円筒形土製品 (図版73 1、写真図版72)

1はE区下層の包含層から出土した。焼成良好な土器器質で筒抜けの円筒形である。有段状と見られる。口径は24.2cmである。口端部は水平である。外面にロクロナデ、内面上部に平行当て具痕が残る。時期は周辺の出土土器を考慮すると、Ⅵ～Ⅶ期と考えられる。

## 土器片円盤 (図版73 2～14、写真図版72)

須臾器喪体部片を利用したもので、13点出土した。2がK区SD76、3・4がB区包含層、他が立会い調査区からの出土である。2が長方形で、周囲に磨痕を持つが、他は打ち欠いた円形状を呈する。長さ1.9～3.6cmのものが見られ、2cm前後が多い。重さは6～14g前後である。

## 羽口 (図版73 15、写真図版72)

15はD区SK80から出土した。残存部で長さ13.7cm、幅8.3cm、重さ782.73g、外径が約7～8cm、内径約2.8～3.0cmである。先端に溶解部を持つ。砂粒を多く含んだ胎土である。

## 土錘 (図版73 16、写真図版72)

B区から1点出土した。土師質の細型管状土錘である。長さ3.3cm、幅1.3cm、重さ4.43g、孔径0.3cmである。粗い胎土である。

## かき状土製品 (図版73 17、写真図版72)

J区SD20から出土したかき状の土製品である。直径約5cmの円形のかき部から約2cm程のつまみ部が設けられる。ナデ痕が顕著である。重さは38.85gである。

## 6 金属製品

## 鈎帯金具 (図版73 1・2、写真図版72・83)

1はD区SK80から出土した完形の銅製巡方である。角部は面取りされる。長方形の垂孔を持つ。表金具と裏金具が表金具に鋳出された4カ所の鋲足により一体化されている。金具横幅3.0cm：垂孔の横幅1.8cmと金具縦幅3.1cm：垂孔の縦幅0.5cmとの比率分布から田中広明氏の垂孔分類の小孔で、第Ⅱ期に位置付けられ、8世紀第4四半期に出土の頂点があるとされる〔田中2003〕。SK80出土土器の年代は9世紀後半頃である。2はK区SK190から出土した銅製鈍尾と考えられる。一部欠損するがやや横長気味であり、現状で長さ3.6cm、幅2.6cmである。端部は弧状となる。鋲が1カ所鋳出されている。

幅：長さの比は約1：1.4程度となり、田中氏分類のC類と見られる。

釘 (図版73・3, 写真図版72・83)

3はD区の包含層から出土した。長さ7.1cmのやや湾曲した棒状の鉄製品で、上端部は方頭、下端部は尖る形状で、断面は方形である。釘と考えられる。

鉄斧 (図版73・4, 写真図版72・83)

4はE区下層の包含層から出土した鉄斧である。柄装着部が袋式になる。袋部分は長さ約4cm、幅約2.5cmを測る。片側がやや潰れる。袋部断面は歪んだ円形である。斧身平面形は無刃である。長さ6.9cm、刃部幅3.4cmを測る。

小刀 (図版73・5, 写真図版73・83)

5はJ区SD67から出土した完形品である。平棟造り、両開式で長さ27.9cm、幅2.2cm、厚さ4mm、重量62.67gである。刃部、鋒部ともに鋭い比較的確である。径3mmの目釘穴がある。

鉄滓 (図版73・6, 写真図版72)

6はK区SK81から出土した鉄滓である。椀形滓と見られる。

銭貨 (図版74・7～11, 写真図版73)

7はC区上層包含層出土の開元通寶(初鑄年621年)、8はE区上層包含層出土の祥符通寶(初鑄年1,009年)、9は立会い調査出土の至和元寶(初鑄年1,054年)の真書体、10はC区上層SP19出土の熙寧元寶(初鑄年1,068年)の真書体、11はF区SD5出土の元祐通寶(初鑄年1,086年)の篆書体である。

## 7 石製品

砥石 (図版74・75・1～16, 写真図版73・74)

16点出土した。1・6・11～13の5点がC区上層、E区上層の遺構から出土した中世に位置付けられるものである。他の11点は、B区、C区下層、E区下層、I区、K区の遺構、遺構外出土の古代のものである。使用石材は1が頁岩の可能性、2が安山岩、他は全て凝灰岩である。1は砥面が顕著ではない。長さ17.2cm、重量1,769.9gを測る。2は楕円形を呈し、砥面が4面あり、擦痕を留める。3は上面が弧状を呈し、砥面が3面あり、擦痕を留める。4は不整形で、全面に砥面または擦痕を留める。5～14は概ね長方形を呈する。5～11・13・14は4面、12は3面、15は2面に砥面または擦痕を留める。形状や大きさから2～15は、長さ10cm以上で、重量が500gを超えるA群(2・5)、長さ6～10cm前後で、重量が60g以上のB群(3・4・6～9)、長さ3～5cm前後、重量10～30g前後のC群(10～15)に大別される。16は灰黒色を呈し、一方に紐かけ状の突起部を設け、下端部が弧状を呈する。全面に部分的に砥面と擦痕を留める。長さ5.7cm、幅2.9cm、重量39.55gを測る。形状から携帯用の砥石の可能性がある。

磨石 (図版75・17, 写真図版74)

17はK区SD76から出土した。自然礫で、磨面は顕著ではない。全面に鉄分が付着している。

## 8 木製品

各区の河川やC区上層の井戸からを中心に、多種類の木製品が出土した。柱穴に伴う柱根もある。種

別分類及び型式分類においては特に断らない限り『木器集成図録—近畿古代篇—』[奈良国立文化財研究所 1985]を参考としている。

**木簡** (図版 75 1・2, 写真図版 74・83)

1 は C 区下層の SE14 から出土した。上下端、側面の一部を欠損し、型式は不明である。

〔慶か〕

・「元□

同日□□□□□□ [ ]」

・「 [ ]」

124 × (23) × 6mm

表面に二列の文字列、裏面には墨痕が確認される。墨痕は薄い。表面には削り痕が見られ、文字が消されている。樹種はスギである。本木簡が元慶年間(877～885年)に作成されたとすれば、共伴した土器群の年代観と調和的な成果となる。

2 は C 区上層の SE3 から出土した。下部を欠損し、型式は不明である。薄い板材である。表裏面に墨痕がある。

・「南 □

・「□□□

(51) × 13 × 3mm

南の一字しか読めないが、井戸から出土していることなどから、「南無大日如来」などの呪符が省略された可能性もあろう。時期は中世である。

**工具** (図版 75 3, 写真図版 74)

3 は B 区河川 1 から出土した。横断面が楔形をした組み合わせ式の木槌で、頭部分の可能性があろう。柄を挿入した 3.5 × 2.5cm の方形の孔があるが貫通しない。樹種はヒノキである。

**權** (図版 76 4・5, 写真図版 75)

4 は B 区 SD12 から地面に下端部から突き刺した状態で出土した。長さ 93.6cm 残存するが、水かき部分で、81.6cm を占める。水かきの中～下部位表裏両面に加工痕を明瞭に留め、断面が低い山形を呈する。先端部は V 字状で尖鋭に削り出される。樹種はスギである。5 は F 区 SD10 から出土したほぼ完形の權である。柄頭の有無は不明。全長は 128.5cm、水かき部の長さ 50.0cm、幅 20.0cm である。先端部は不均衝で緩やかな円形を呈する。また、裏面に横幅から約 40° の角度で、幅 2～4cm の溝が約 10cm 間隔で 2 条設けられている。水かきの技法状の工夫と見られる。樹種はモクレン属である。

**弓** (図版 76 6, 写真図版 75)

6 は J 区 SD67 から出土した長さ 47.6cm の完形の弓である。上下端部に柄穴状に長さ 1.6cm 前後の弓弦が作られている。約 45cm の弦を張ることができよう。図の上端腹側にも凸状に削りだされる部分がある。樹種はイヌガヤである。実用品か判断できないが、胎内市屋敷遺跡の A 調査区川跡などから弓形が出土しており、祭祀目的の可能性も指摘されている [水澤 2008]。

**櫛** (図版 76 7, 写真図版 74)

7 は C 区上層 SE3 から出土した中世の横櫛である。形は長方形で、肩部に丸みを持つ A II 形式と見られる。歯は 2cm あたり 24 本を挽き出す。樹種はイヌノキである。

**下駄** (図版 76・77 8～13, 写真図版 74・75)

8 は C 区下層河川 23 から出土した中世の差歯式の台部である。隅丸長方形の Ca 形式である。9～12 は G 区河川 10 から出土した。9・10 は連歯式である。9 は後歯を歯の内側にあげ、縦断面が台形状の歯で、

隅丸方形のCⅡa形式、10は前、後壺ともに歯の外側にあけたAⅡa形式である。9は薄い板状である。11は台部、12は歯部である。13はC区上層SE3から出土した中世の差歯式の歯部である。樹種は8がスギ、9がハリギリ、10～12がモクレン属である。

**挽物** (図版77・78 14～25、写真図版75・76)

14はK区SK74から出土した白木の有台皿である。厚みのあるベタ高台から体部が直線的に外反する。15はC区下層SD51から出土した、厚さ1～2mmと極めて薄いつくりの総黒色漆の口縁部が大きく外反する端反り椀と考えられる。16はC区上層SE2から出土した有台椀である。総黒色漆で内外面に赤漆の扇や鶴などの文様が描かれる。17はC区上層SE4から出土した皿である。総黒色漆。18はJ区の確認調査90トレンチから出土した有台椀である。総黒色漆。高台内側に0.5cmの溝が廻る。高台外面は露胎となる。19・20はJ区SD67から出土した有台椀で、内面赤色漆、外面黒色漆である。19・20は同一個体と見られる。21・22はC区上層SE5から出土したほぼ完形の皿と有台椀である。21・22ともに総黒色漆。22は厚手で低い高台に体部は内湾して立ち上がる。口唇部はほぼ平に作られる。23はH区河川2から出土した器種不明のものである。総黒色漆で、上端部は弧状になる。24は立会い調査区から出土した折敷である。総黒色漆。25はK区SP130から出土した鉢の口縁部片と考えられる。総黒色漆。樹種は14・17・19・24・25がケヤキ、15・16・18・21がブナ属、22がトチノキ、23がスギである。14・15・23～25が古代、他は中世のものと考えられる。

**円形曲物** (図版78 26～33、写真図版76・77)

26はK区の包含層から出土した曲物側板で、直径約29cmを測る。現状で椀の縁方は1列上内外6段廻りと見られる。内面には縦平行線のケビキが入る。内外面に漆が塗られる。27はC区上層SE4から出土した曲物側板で下端部が炭化する。内面にケビキが入る。28はC区下層SE7から出土した曲物側板である。直径0.4cmの結合又は補修孔が1ヵ所見られる。内面は縦平行線のケビキが入る。内面は炭化する。29はC区下層河川23から出土した曲物側板である。内外面が炭化している。30はC区上層SE5から出土した曲物底板で、推定直径は約49cmである。31はK区SK74から出土した推定直径約20cmの底板である。32はC区上層SE3から出土した直径10.0cmの底板で、0.4cmの孔がある。33はJ区SD67から出土した曲物底板で、推定直径は約16cmである。

**長方形曲物** (図版78 34、写真図版77)

34はJ区SD71から出土した。現在長11.1×5.9cm、側板と考えられる。直径0.3cmの円孔が1ヶ所認められる。内面は炭化している。

**栓?** (図版78 35、写真図版77)

35はC区下層SE14から出土した。丸棒状材の先端部約2cm程を加工し、尖らせている。現在長5.1cm、直径1.5cmを測る。

**箸** (図版78・79 36～52、写真図版77)

17点図示した。井戸及び河川跡から出土している。全て中世のものと考えられる。完形品は少ないが、長さ14.7～21.5cmを測り、20cm前後が多い。両口式である。36～39はC区上層SE3、40～46はC区上層SE4、47～51はC・E区の河川23・52はF区河川20から出土した。

**斎串** (図版79 53～60、写真図版77)

8点出土した。井戸を中心に溝、土坑から出土している。53～57はJ区SE87から層位は異なるが、まとめて出土したものである。53・56は完形であるが、他は一端を欠損している。53は32.8cmを

測る大型品である。上端は緩やかな圭頭状、下端は剣先状に仕上げる。左右4カ所に不規則で大きな切り欠きを入れる。55も同様の形態と見られる。D型式とした。54は下端部が剣先状となる。56は長さ14.6cmの小型品である。切り欠きは認められない。C1型式。57も同じであろう。58はJ区SK15から出土した、完形品で、長さ11.0cmのC1型式。59はC区下層SE14から出土した。上端が圭頭状のものである。薄い板である。60はK区SD93から出土した。不規則で大きな切り欠きが左右に見られ、55に類似しよう。時期は共伴した土器から53～58が10世紀前半、59が9世紀後半頃と考えられる。

**陽物形** (図版79 61、写真図版78)

61はC区下層SK8から出土した。丸木を半割した棒状材の片面を加工する。あまり、写実的ではない。何らかの祭祀具のひとつであろう。樹種はトネリコ属である。時期は共伴した土器から10世紀前半頃と考えられる。

**付け木** (図版79 62・63、写真図版78)

62・63は割材の一端または両端が焦げたものである。C区上層SE3から出土した。中世のものである。

**礎板・柱根・杭** (図版79～83 64～93、写真図版78～81)

64～68はすべてB区SP4から出土した。64～66は長さ18.4～23.4cm、幅11.7～15.1cmの方形または長方形を呈した礎板である。64・65が芯去ミカン割り材、66が芯去削り出し材である。66の樹種はクリである。67・68は径10cm前後の柱根である。67は先端がやや尖るように加工される。芯持丸木。68は芯去ミカン割り材である。67の樹種はクリ。69はB区SP6から出土した径9.7cmの芯持丸木の柱根である。樹種はヤナギ属である。70・71はC区上層SP83から出土した。径13～14cm前後で、それぞれ樹種がトネリコ属とスギと異なる。72はC区上層SP84から出土した径8.0cmの芯持丸木の柱根である。表面に樹皮を残す。樹種はヤナギ属である。73はC区下層SP3から出土した径15.6cmの芯持丸木の柱根である。表面に樹皮を残す。樹種はハンノキ属ハンノキ亜属である。74はC区下層SP5から出土した径9.5cmの芯持丸木の柱根である。樹種はヤナギ属である。75はC区下層SP22から出土した径18.9cmの芯持丸木の柱根である。樹種はヒノキである。柱底面から上に20cm程のところには2カ所、約4×5cmの長方形の櫛穴が作られる。縄かけ用であろう。76はC区下層F3-2グリッドから出土した径18.0cmの芯去ミカン割りの柱根で、樹種はスギである。77はD区SP29から出土した径11.8cmの芯持偏半割の柱根である。樹種はヤナギ属である。78はD区SD77から出土した径13.7cmの芯去削り出しの柱根である。樹種はスギである。79はD区SP112から出土した径11.6cmの芯持丸木の柱根である。先端が尖るように加工される。樹種はコナラ属コナラ亜属コナラ節である。80はE区上SE15から出土した径7.8cmの芯持丸木の柱根である。81はF区SP48から出土した径10.5cmの芯持丸木の柱根である。樹種はカツラである。82～85はI区SB1の柱根である。82・83はSP29から出土した同一の柱と見られる。径は20～22cm前後で、芯去削り出し材や芯持削り出し材を用いている。140cmを超える長さが遺存する。樹種はすべてクリである。86はJ区SP100から出土した径9.0cmの芯去削り出しの柱根である。残存長の1/2に加工痕が見られ、先端を著しく尖らせる。樹種はクリである。87はJ区SP101から出土した径12.4cmの芯去削り出しの柱根である。残存長の1/2強に加工痕が見られ、先端を著しく尖らせる。樹種はクリである。88はJ区SP103から出土した径10.8cmの芯去削り出しの柱根である。先端が尖るように加工される。樹種はクリである。89はK区SP20から出土した径8.6cmの芯持削り出し材の柱根である。樹種はカツラである。90はK区SP32から出土した径18.8cmの芯去削り出し材の柱根である。残存長の1/2程に加工痕が見られ、先端を尖ら

せる。樹種はクリである。91はK区SP61から出土した径12.1cmの芯持削り出し材の柱根である。樹種はクリである。92はK区SP62から出土した径9.0cmの芯持丸木の柱根である。先端部が少し加工され、一方が尖る。樹種はヤナギ属である。93は立会い調査区から出土した径16.0cmの芯去偏平削りの柱根である。時期は70～73が中世であるが他は大半が奈良・平安時代のものである。

**用途不明品** (図版83～85 94～117, 写真図版80～82)

94はC区上層SE5、95～97はC区上層SE6から出土した長方形の板材である。94・96・97の樹種はスギである。98はB区SD12から出土した不整長方形の板材である。99はB区SD4から出土し、側面に切り込みが入る。100はB区の包含層から出土した長さ100cmを超える板材材で、枘穴状の長方形の孔が見られる。99・100はともに何らかの部材の可能性がある。101はC区下層SD25から出土した棒状に近いものである。樹種はスギである。102はC区上層SE4から出土した薄い板材である。103はA区河川1・2から出土した長さ112.3cmを測る板材である。特に加工痕は認められない。104はB区河川1から出土した芯去削り出し材を用いた厚みのある木製品である。105はC区下層SE7から出土した長方形の板材である。樹種はコナラ属コナラ亜属クヌギ節である。106はJ区SE87から出土した細長い板材である。107はC区上層SE3から出土した板材である。下端部が斜めに切断され、上端部は炭化する。108はC区上層SE5から出土した細長い角棒状の木材である。下端部は炭化する。109はK区SK19から出土した断面三角形の長い木材である。110はK区の包含層から出土した長さ44.6cm、径1.8cmの棒状の木製品で、下端に向かい細くなる。111はA区河川2から出土した下端部が尖り、断面楕円形の棒状の木製品である。樹種はスギである。112はB区SD6から出土した角材状の木製品である。113はF区SD5から出土した角材状の木製品である。114・115はF区SD10から出土した芯持丸木、芯持偏平削材で杭状のものである。114は樹皮を残し、上下端部が炭化する。出土状況から、榧(5)に関連した用途が推測される。116・117はC区下層SE14から出土した角棒状のものである。これらのうち、103・111が古墳中期、94～97・102・107・108・114・115が中世、他が古代の所産と見られる。

## 9 自然遺体

### 動物遺体

B区SD4、河川1からは小片の獣骨がややまとまって出土した。SD4からは、出土した板材(木99)に付着する状態で確認された。分析の結果、ウマの下顎、中手、中心足根骨などに同定されている。また、I区P7-1グリッドからも獣骨片が1点出土し、人為的影響を受けた焼骨と推測された(第VI章参照)。

## 第VI章 自然科学分析

### 1 馬越遺跡の自然科学分析の概要

馬越遺跡ではこれまで、古環境変遷の推定及び栽培植物の検出を目的とした土壌の科学分析、用材の把握や年代を知るため、柱根や木製品の樹種同定及び年代測定、動物遺体（獣骨）の同定、木棺墓と推測される遺構の性格を推定するための土壌分析、貴重品である漆器・漆製品の科学分析を年度毎に実施し、極めて有意な情報をもたらされている。今回の調査にあっても既往の科学分析との関連や出土遺物の特徴を考慮し、下記の自然科学分析をそれぞれ専門会社、研究所に委託して行った。

平成18年度には、主にB区、古代の河川跡から出土した骨片を試料とした①骨同定、平成19年度にはC区下層、古代の竪状遺構の土壌を試料とした②花粉分析、③植物珪酸体分析とE区上層、中世の井戸の土壌を試料とした④灰像分析、各区の柱根を試料とした⑤樹種同定、平成20年度には各区から出土した木製品を試料とした⑥樹種同定、I区出土骨片を試料とした⑦骨同定、出土した古代～中世の漆器を試料とした⑧塗膜分析、⑨赤外分光分析、⑩蛍光X線分析をそれぞれ①～⑦はバリノ・サーヴェイ株式会社、⑧～⑩は漆器文化財科学研究所四柳嘉章氏に委託し、分析報告書を頂いた。⑤・⑥の一部の試料採取はバリノ・サーヴェイ株式会社、①～④、⑦の試料については教育委員会が採取したもの、⑧～⑩についてはそのまま送付した。なお、報告書掲載にあたっては、それぞれ了解を得て、編集している。

### 2 分析結果

#### A 平成18年度馬越遺跡の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

##### 1) はじめに

馬越遺跡は、新潟県加茂市に所在し、下条川左岸の自然堤防上に位置する。これまでの発掘調査により、奈良・平安時代（8世紀中頃～10世紀前半頃）の集落跡であり、掘立柱建物跡、井戸、溝（竪状遺構）などが検出されている。本遺跡では、これまでも自然科学分析を応用して、当時の生活に関する情報が得られている。今回は、発掘調査の段階で出土した獣骨類の種類を明らかにする。

##### 2) 骨同定

###### a 試料

試料は、遺物番号1（B区河川1 I2-10グリッド）・遺物番号2（B区河川1 No.10）・遺物番号3（B区SD4 木99の木材に付着）の骨、遺物番号4（C区上層SE5の8層出土）の、計4試料である。

遺物番号1・遺物番号2は、ともに古代の自然流路とされるB区河川1の流路埋植物上部から採取されたもので、1試料中に複数点の骨片が含まれる。遺物番号3の木材に付着していた骨は、B区SD4から出土しており、これも複数点の骨片がみられる。これらB区で出土した骨は、いずれもビビアナイト（藍

## 2 分析結果

鉄鉱)が析出し、地下水の影響を受けていたことが伺われる。

一方、C区上層SE5の8層で採取された試料は、黒褐色を呈し、長さ2.5cm、径0.5cm程度の大きさの遺物1点である。

### b 分析方法

試料中から土壌と骨を分離した後、骨片を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。なお、同定および解析には金子浩昌先生の協力を得た。なお、ウマの骨格各部の名称を第19図に、また歯牙の配列状況を第20図に示す。

### c 結果

結果を第7表に示す。確認された種類は1種類のみで、ウマ (*Equus caballus*) である。以下、試料ごとに結果を記す。

〈遺物番号1 B区河川1 I2-10 グリッド〉

右下顎第3後臼歯の破片で、一部下顎骨片がみられる。

〈遺物番号2 B区河川1 No.10〉

左下顎歯牙の破片で、一部下顎骨片がみられる。破損し、舌側の顎骨を残す。臼歯は複数点の臼歯が破片となっていたと思われる。

〈遺物番号3 B区SD4 木99の木材に付着していた骨〉

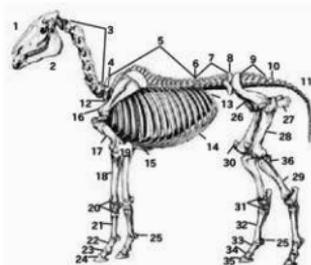
歯牙片、右中手骨の近位端、左中心足根骨片、四肢骨片、手根骨/足根骨片が確認される。ここには、こうした骨格がもともと残されていたものが破損して、骨端が残されたと思われる。

〈遺物番号4 C区上層 SE5 8層〉

管状の酸化鉄の塊、いわゆる高師小僧であり、骨でない。

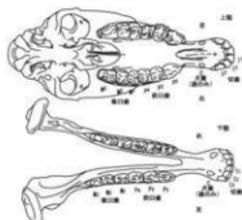
地区	グリッド	遺構	遺物番号	種類	部位	左	右	部分	数量	備考
B区	I2-10	河川1	1	ウマ	下顎第3後臼歯		右	破片	7	一部顎骨着
					歯牙			破片	9	
					不明			破片	15.6g	
			2	ウマ	下顎歯牙	左	破片	39	一部顎骨着	
					不明			破片	22.0g	顎骨片含む
					歯牙			破片	5	木99に付着
	J2-9	SD4	3	ウマ	中手骨		右	近位端	1	
					中心足根骨	左	破片	1		
					四肢骨			破片	14	
					手根骨/足根骨			破片	4	
				不明			破片	42.4g		
				土塊				14.1g		
C区	上層	SE5	4	その他	酸化鉄			1	8層	

第7表 骨同定結果



第19図 馬の骨格〔加藤・山内2003〕を改変)

1. 頭蓋骨
2. 頸椎
3. 胸椎
4. 腰椎
5. 尾椎
6. 肋骨
7. 肋骨
8. 肋骨
9. 肋骨
10. 肋骨
11. 肋骨
12. 肋骨
13. 肋骨
14. 肋骨
15. 肋骨
16. 肋骨
17. 肋骨
18. 肋骨
19. 肋骨
20. 肋骨
21. 肋骨
22. 肋骨
23. 肋骨
24. 肋骨
25. 肋骨
26. 肋骨
27. 肋骨
28. 肋骨
29. 肋骨
30. 肋骨
31. 肋骨
32. 肋骨
33. 肋骨
34. 肋骨
35. 肋骨
36. 肋骨

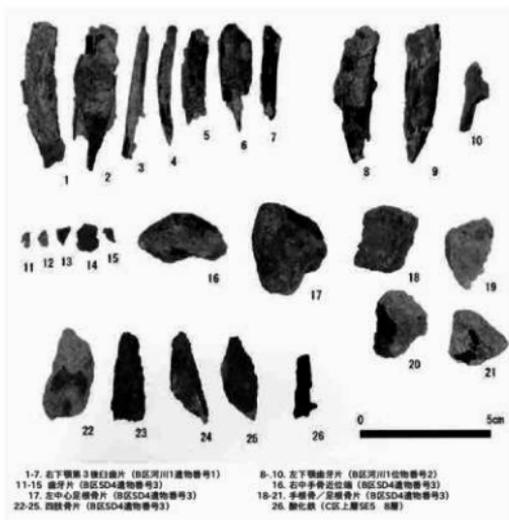


第20図 馬の上顎骨・下顎骨の概念図

## d 考 察

本遺跡で確認されたのはウマ遺骸であって、下顎骨、中手骨、中心足根骨などであった。下顎骨はかなり破損していたが、左右が揃う一個がもともとは埋存していたと思われる。臼歯は破損し、歯全高などを計測できなかったが、咬耗の進まない歯と思われ、5～6歳位の可能性がある。四肢骨から体高などの推定はできなかったが、中近世のウマは中形あるいは中小形馬が普通であり、本遺跡のウマも体高132cm前後であった可能性がある。

出土した獣骨は、ウマの遺骸であった。ウマは、5世紀中頃以降に普及したと考えられ、7・8世紀には他の動物に混じって、一般の集落からも出土するようになると思われる〔松井1991〕。本遺跡では、これまでもⅠ区SD10やⅢ区SP86でウマの歯牙が検出されており〔バリノ・サーヴェイ株式会社,2005〕、遺跡内においてウマが飼われていたことが推定された。今回の出土もそれを裏付けられるものであろう。ところで、ウマは、騎乗・荷役・農耕作業などに使役されるほか、祭祀の際の犠牲や、食肉や皮革製品・骨製品の原料、肥料としても利用された家畜などとされている〔久保・松井,1999〕。馬骨、特に頭骨が溝の脇・道路状遺構・土坑などで出土することは各地に類例があり、祭祀的目的とみられることが多い。今回の場合、古代の自然流路B区河川1では、同じ位置から左右の下顎歯牙片と顎骨片がみられることから左右下顎骨が揃って存在していたと推定され、祭祀・儀礼等に伴う可能性がある。一方、B区SD4は、歯牙片および四肢骨片がみられ、河川1と異なり、祭祀・儀礼以外の目的があった可能性がある。



第21図 骨

## 引用文献

- 加藤嘉太郎・山内昭二 2003 『新編 家畜比較解剖図説』上巻 p315 義賢堂  
 久保和士・松井 章 1999 『家畜その2-ウマ・ウシ、考古学と自然科学2 考古学と動物学』西本豊弘・松井章編 p169-208 同成社  
 松井 章 1991 『家畜と牧-馬の生産-』『古墳時代の研究4』生産と流通I p105-119 雄山閣出版  
 バリノ・サーヴェイ株式会社 2005 『平成13年度馬越遺跡の自然科学分析』『加茂市文化財調査報告14 馬越遺跡-国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書-』p124-129 加茂市教育委員会

## B 平成 19 年度馬越遺跡の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

### 1) はじめに

新潟県加茂市大字下条に所在する馬越遺跡は、信濃川支流である下条川左岸の沖積低地に立地している。これまでの発掘調査結果では、奈良・平安時代の掘立柱建物跡や井戸跡、土坑、畝状遺構等が検出されており、当該期の集落跡であることが明らかとされている。

本報告では、本遺跡の発掘調査成果から課題とされた、1) 古植生と植物利用、2) 井戸跡底部から出土した植物遺体、3) 木材利用の検証を目的として自然科学分析調査を実施する。

### 2) 花粉分析・植物珪酸体分析

#### a 試料

C 区下層で検出された畝状遺構は数条の並走する溝状遺構からなり、発掘調査所見から畑跡に伴うサク列と推定されている。試料は、畝状遺構の掘り込み面に相当する堆積物、畝状遺構埋土（覆土）、これらの上位に相当する堆積物等から土壌 17 点が採取されている。

分析試料は、分析目的及び各試料の観察結果から、溝状遺構埋土（7層 SD5、8層 SD6）、溝状遺構上位の堆積物（IX a 層・VI a 層）を選択・抽出している。7層 SD5 は、地山（明灰色シルト～極細粒）に由来すると考えられる偽礫が混じる黒灰色泥質土、8層 SD6 は炭化物や地山に由来すると考えられる偽礫が混じる暗灰色泥質土、IX a 層は青灰色シルトや明灰色極細粒砂等からなる偽礫が混じる暗灰色泥質土、VI a 層は管状酸化鉄が発達し、炭化物が混じる淡黒灰色泥質土である（図版 15 参照）。これらの試料を対象に、花粉分析・植物珪酸体分析を行う。

#### b 分析方法

##### 花粉分析

試料約 10g について、水酸化ナトリウムによる泥化、蒸餾水・重液（臭化亜鉛、比重 2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸 9：濃硫酸 1 の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

##### 植物珪酸体分析

湿重 5g 前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重 2.5）の順に物理・化学的処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュラックスで封入してプレパラートを作製する。

400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由

来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）、これらを含む珪化組織片を近藤（2004）の分類に基づいて同定し、計数する。

結果は、検出された分類群とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から栽培植物について検討するために、植物珪酸体群集の産状を図化した。その際、出現率は短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求めた。

## c 結 果

### 花粉分析

結果を第8表、第22図に示す。図表中で複数の種類を「-」で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。木本花粉総数が100個体未満の試料は、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるため、出現した種類を+で表示するに留めている。以下に、各試料の産状を示す。

#### (1) 7層SD5

本試料からは花粉化石がほとんど検出されず、定量解析に有効な個体数は得られなかった。検出された種類は、木本花粉ではモミ属、ツガ属、トウヒ属、マツ属、サワグルミ属が、草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、キク亜科が1～6個体検出されるのみであり、シダ類胞子の多産が認められた。

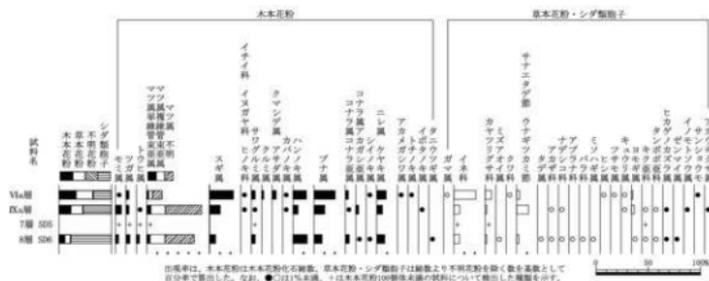
#### (2) 8層SD6・IXa層・VIa層

これらの試料からは、かろうじて定量解析が出来る程度の産出が認められた。花粉化石の保存状態はやや不良であり、花粉外膜が破損・溶解しているものが多く認められ、シダ類胞子が多産する。8層SD6・IXa層の花粉群集は類似し、木本花粉ではマツ属が多産し、モミ属、ツガ属、スギ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属等を伴うほか、8層SD6ではサワグルミ属等も認められる。草本花粉では、イネ科やカヤツリグサ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、ヨモギ属等が産出する。この他に、8層SD6からミズアオイ属（8層SD6）やアカウキクサ属（IXa層）等の水湿地の環境を示す分類群も検出される。

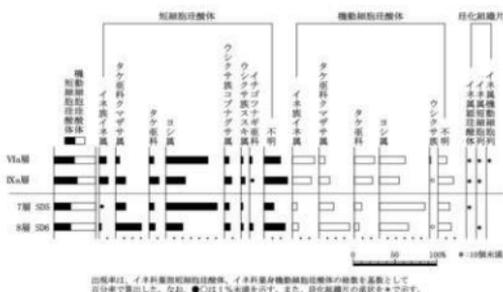
VIa層は下位堆積物試料と比較すると、草本花粉の割合が増加し、シダ類胞子の割合は減少する。検出される種類に大きな変化は認められない

種 類	試料	C区F層			
		VIa層	IXa層	7層SD5	8層SD6
木本花粉					
モミ属		1	6	2	3
ツガ属		3	3	1	4
トウヒ属		-	1	1	3
マツ属単葉管束亜属		2	4	-	3
マツ属複葉管束亜属		4	15	-	15
マツ属（不明）		10	37	6	29
スギ属		25	11	-	6
イネ科-イヌガヤ科-ヒノキ科		1	1	-	-
サワグルミ属		4	1	2	4
クルミ属		2	-	-	-
クマシロ属-アサダ属		4	-	-	-
カバノキ属		1	1	-	-
ハンノキ属		14	5	-	14
ブナ属		22	11	-	8
コナラ属コナラ亜属		3	1	-	4
コナラ属アカガシ亜属		-	3	-	1
シノキ属		1	-	-	1
ニレ属-ケヤキ属		10	6	-	8
アカガシ属		1	-	-	-
トチノキ属		1	-	-	-
イボタノキ属		-	1	-	-
タニウツギ属		-	-	-	1
草本花粉					
イネ科		2	-	-	-
カヤツリグサ科		70	26	6	51
ミズアオイ属		20	7	1	14
クワ科		-	-	-	1
サナエタデ節-ウナギツカミ節		1	-	-	-
タデ属		10	54	-	22
アカウキクサ科		-	-	-	2
ヤブシロ科		-	2	-	4
アブラナ科		-	4	-	1
バラ科		-	-	-	1
ミソハギ属		-	-	-	1
ヒシ属		1	-	-	-
フサモ属		1	-	-	-
キュウリ属		1	-	-	-
ヨモギ属		4	13	-	-
キク亜科		-	1	-	3
タンポポ科		-	1	-	1
不明花粉		3	3	2	6
シダ類胞子					
ヒカゲノカズラ属		-	1	-	1
ゼンマイ属		-	-	-	3
イノモトツウ属		-	1	-	-
ヤブシロウモ		2	-	-	-
アカウキクサ属		-	1	-	-
他のシダ類胞子		114	254	373	762
合 計					
木本花粉		109	107	12	104
草本花粉		110	109	8	110
不明花粉		3	3	2	6
シダ類胞子		116	257	373	766
総計（不明を除く）		339	473	393	980

第8表 花粉分析結果



第22図 花粉化石群集の層位分布



第23図 植物珪酸体群集の層位分布

が、木本花粉では、スギ属、ブナ属が多く産出し、ツガ属、マツ属、サワグルミ属、クマシデ属-アサダ属、ハンノキ属、コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属等を伴う。草本花粉では、イネ科が多産し、カヤツリグサ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、ヨモギ属等を伴う。この他に、ガマ属、ヒシ属、フサモ属、サンショウモ等の水湿地生植物に由来する花粉・胞子がわずかに認められる。また、IX a層およびVI a層からは、渡来種のキュウリ属に由来する花粉が検出される。

#### 植物珪酸体分析

結果を第9表、第23図に示す。各試料からは植物珪酸体が出検されるが、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められるなど、保存状態は不良である。以下に、各試料の産状を示す。

##### (1) 7層 SD5・8層 SD6

畝状遺構埋土（覆土）に相当する7層・8層からは、栽培植物のイネ属の葉部に形成される短細胞珪酸体や機能細胞珪酸体が認められ、SD5では殻殻に形成される珪酸体も認められる。また、SD6では、短細胞珪酸体に細胞列を呈する珪化組織片も認められる。なお、

種 類	試料番号	CIXF層			
		VIa層	IXa層	7層 SD5	8層 SD6
<b>イネ科葉部短細胞珪酸体</b>					
イネ属イネ属		11	14	1	3
タケ亜科クマザサ属		6	15	12	35
タケ亜科		7	15	6	8
ヨシ属		64	30	62	23
ウシクサ族コブナグサ属		7	11	6	8
ウシクサ族ススキ属		3	6	2	3
イネゴツナギ亜科		4	1	-	5
不明キビ科		15	24	7	25
不明ヒコバ属		5	1	2	1
不明ダンテチク型		5	11	3	3
<b>イネ科葉部機能細胞珪酸体</b>					
イネ属イネ属		35	23	8	12
タケ亜科クマザサ属		9	13	26	62
タケ亜科		32	22	13	9
ヨシ属		41	24	81	59
ウシクサ族		2	1	-	1
不明		14	19	21	27
<b>合 計</b>					
イネ科葉部短細胞珪酸体		127	128	101	114
イネ科葉部機能細胞珪酸体		133	102	149	170
総 計		260	230	250	284
<b>珪化組織片</b>					
イネ属珪酸体		7	2	1	-
イネ属短細胞列		6	7	-	3
イネ属機能細胞列		1	-	-	-

第9表 植物珪酸体分析結果

イネ属の出現率は上位堆積物 (IX a 層・VI a 層) よりも低率であり、イネ属以外の栽培植物は検出されない。

この他に検出された分類群では、クマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属やススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められる。SD5はヨシ属の産出が顕著であり、SD6はヨシ属やタケ亜科の産出が目立つ。

#### (2) IX a 層・VI a 層

これらの2試料からは、畝状遺構試料と同様の分類群が検出される。イネ属は、短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体、顕珪酸体が認められ、珪化組織片も検出される。また、イネ属の植物珪酸体中では、機動細胞珪酸体の出現率が高く、このほかの分類群と比較しても産出が顕著である。イネ属を除く分類群では、ヨシ属やタケ亜科の産出が目立つ。

### d 考 察

#### 古植生

花粉化石が検出された8層SD6、IX a 層、VI a 層の産出状況は、花粉外殻が破損・溶解しているものが多く、花粉化石の保存状態は不良であった。花粉やシダ類胞子の腐蝕に対する抵抗力は種類により異なり、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸蝕に対する抵抗力が高いとされている [中村 1967; 徳永・山内 1971; 三宅・中越 1998 *et al.*]。検出された花粉化石の保存状態やシダ類胞子の多産等を考慮すると、得られた花粉化石群集は経年変化による分解・消失の影響を受けていると推定される。このことから、分解に強い花粉が選択的に多く残され、当時の周辺植生を正確に反映していない可能性があり、本稿では、これらの点を考慮し考察を行う。

畝状遺構埋土 (8層SD6) 及び上位堆積物 (IX a 層) の花粉化石群集は類似し、木本類ではマツ属が多産したほか、モミ属、ツガ属、スギ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属等が検出された。草本類では、イネ科やカヤツリグサ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、ヨモギ属等が検出された。VI a 層では、木本類のスギ属、ハンノキ属、ブナ属、ニレ属-ケヤキ属が比較的多く、草本類は8層SD6、IX a 層と類似し、イネ科、カヤツリグサ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、ヨモギ属等が検出された。イネ科については、植物珪酸体の産状から、栽培種のイネ属をはじめとして、クマザサ属やヨシ属、コブナグサ属、ススキ属等の分類群が含まれていると考えられる。

なお、多産したマツ属には、ニヨウマツ類 (複維管束亜属) とゴヨウマツ類 (単維管束亜属) があるが、本分析結果ではニヨウマツ類の割合が高い。ニヨウマツ類は、明るく開けた場所であれば、土壤条件に関係なく生育可能な種類であることから、7・8層~IX a 層形成時には遺跡周辺の開けた場所に生育していたと推定される。落葉広葉樹のアカメガシワ属も陽地にいち早く進入する種類であることから、同様に生育していたと考えられる。草本類で認められた種類では、ヨモギ属やススキ属などは耐乾性が高く、人の影響を強く受けるような場所にも生育する種類が多いことから、遺跡内や周辺の開けた場所に生育していたと考えられ、多少湿り気のある場所には、シダ類のイノモトソウ属等が生育していた可能性がある。

後背丘陵や山地には、ブナ属、コナラ亜属等の落葉広葉樹が林分を形成し、部分的に針葉樹のモミ属、ツガ属等が分布していたと考えられる。ブナ属は、現在の日本海側で林分 (ブナ林) を形成するブナの可能性があり、コナラ亜属は、丘陵地などに二次林を形成するコナラや山地で林分を形成するミズナラ等が考えられる。植物珪酸体分析で検出されたクマザサ属には、これらの落葉広葉樹林の林床に生育する種類が含まれる。針葉樹のスギ属、落葉広葉樹のサワグルミ属やハンノキ属、ニレ属-ケヤキ属は、河畔林や

湿地林を構成する種類が含まれることから、遺跡周辺の河畔や低湿地、丘陵・山地内の沢沿い等で河畔林・湿地林を構成していたと推定される。この他に、常緑広葉樹のアカガシ亜属やシノキ属も検出されており、周辺域には、これらの分類群の生育も窺われる。流れの緩やかな水域には、水生植物のミズアオイ属、アカウキクサ属やイネ科のヨシ属等が生育していたと考えられる。

VI a 層では、マツ属の割合が減少し、スギ属、ブナ属等の増加が認められた。ただし、シダ類孢子の産状を考慮すると、この他の試料と比較して経年変化等の影響が少なく、相対的にマツ属の割合が低くなった可能性がある。木本類では、検出される分類群に大きな変化はみられないことから、周辺域は同様の植生であったと推定される。なお、8層 SD6・IX a 層で検出されなかったクルミ属、クマシデ属-アサダ属、トチノキ属は河畔林・溪谷林構成種であることから、ニレ属-ケヤキ属等と共に河畔林を構成していたことが推定される。また、水生植物のフサモ属、ヒシ属、サンショウモやイネ科のガマ属、ヨシ属は、遺跡周辺の低地や水湿地に生育していたと考えられる。これまでの分析調査では、本遺跡の II 区①の奈良・平安時代の堆積物の花粉化石群集が確認されており [バリノ・サーヴェイ株式会社 2005a]、その組成は本分析結果と調和的である。

#### 栽培植物

C 区下層面より検出された畑跡と推定される畝状遺構埋土の植物珪酸体分析結果では、栽培種のイネ属が検出された。一方、イネ属以外のイネ科栽培種（ムギ類・ヒエ・アワ・キビ等）は、畝状遺構埋土をはじめとして、IX a 層やVI a 層などの上位堆積物からも全く検出されなかった。イネ属の機動細胞珪酸体の出現率は、畝状遺構埋土では6%前後であったが、イネ属の産出が目立つIX a 層やVI a 層では約23%、約26%と高率となる傾向を示した。

現在の水田土壌に含まれる植物珪酸体の調査によれば、機動細胞珪酸体中のイネ属の割合は9%であるが、稲葉を堆肥として与えている水田では16%に上がるという結果が得られている [近藤 1988]。この調査例と比較すると、IX a 層やVI a 層のイネ属の出現率は現在の水田耕土と比較しても高く、さらに、湿潤な場所に生育するヨシ属の産出が目立つことや、水田雑草でもある水生植物の花粉も検出されたことなどを考慮すると、堆積環境や土地利用の変化といった可能性もある。この点については、発掘調査所見等と合わせて検討することが望まれる。

また、IX a 層・VI a 層からキュウリ属の花粉が検出された。キュウリ属は、野生種が日本に存在したとの説があるが、渡来した栽培種であるキュウリやメロン類も含まれる。これらの花粉や種子は弥生時代以降に多く検出される傾向にあり、IX a 層・VI a 層から検出されたキュウリ属花粉も栽培に由来する可能性がある。本遺跡では、栽培種としてイネ属の植物珪酸体、モモの核、ヒョウタン類の果皮、ソバ属の花粉が検出されている [バリノ・サーヴェイ株式会社 2005a] が、キュウリ属の栽培種に由来する種実等は検出されていない。そのため、キュウリ属の栽培や利用については、資料の蓄積を待って、改めて評価・検討することが望まれる。

### 3) 植物遺体

#### a 試料

試料は、E 区上層面から検出された井戸跡 (SE15) 底部 (7層) より採取された土壌である。井戸跡は、発掘調査所見から、鎌倉時代の遺構と推定されており、同遺構から採取された試料は、多量の植物遺体が混じる黒褐色砂質土である。植物遺体は、径5mm前後の中空の棒状を呈し、炭化した状態で塊状をなす。

本試料を対象に、灰像分析を実施する。

## b 分析方法

試料は、大部分が炭化し、灰像の観察が困難であった。ここでは、試料の状況を考慮し、過酸化水素水で漂白、灰化を行い、400倍の光学顕微鏡下で観察を行う。イネ科葉部（葉身と葉鞘）に由来した植物珪酸体を含む珪化組織片を近藤（2004）の分類に基づいて同定する。

## c 結果

結果を第10表に示す。植物遺体は、分析処理の行程で炭素を十分に除去できず、灰像の観察に至らない。なお、処理残渣内には珪化組織片が検出され、イネ属短細胞列、チゴザサ属短細胞列、ヨシ属短細胞列、ススキ属短細胞列が認められる。また、実体顕微鏡による植物遺体の横断面の観察では、不斉中心柱の組織構造が観察される。

種 類	E区上層 井戸跡 (SE15) 7層
イネ属短細胞列	+++
チゴザサ属短細胞列	+
ヨシ属短細胞列	+++
ススキ属短細胞列	+
炭化物片	+++

+++：非常に多い、++：多数あり

第10表 灰像分析結果

## d 考察

井戸跡 (SE15) 底部から検出された植物遺体は、灰像の観察に至らず種類を特定には至らなかったが、外観的な形状や横断面に不斉中心柱の構造を持つことから、植物遺体はイネ科の秆に由来すると考えられる。また、処理残渣内にはイネ属、チゴザサ属、ヨシ属、ススキ属の珪化組織片や炭化物が認められたことから、被熱を受け炭化、あるいは灰化した植物体由来の可能性がある。ただし、イネ属やチゴザサ属、ヨシ属、ススキ属等は前述した分析結果でも確認されていることから、土壌に含まれる植物珪酸体由来の可能性もある。

## 4) 木材利用

### a 試料

試料は、奈良～平安時代及び中世と考えられる柱根や礎板等 19点である。各試料の詳細は、結果とともに第5表に示す。

### b 分析方法

#### 樹種同定

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製する。切片は、ガム・クロラル（抱水クロラル・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。試料が広葉樹の場合には、独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを活用して同定を実施する。

同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。各樹種の木材組織は、林（1991）、伊東（1995・1996・1997・1998・1999）も参考にする。

## c 結果

結果を第 11 表に示す。柱材は、針葉樹 2 種類（スギ・ヒノキ）と広葉樹 6 種類（ヤナギ属・ハンノキ属・ハンノキ亜属・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・カツラ・トネリコ属）に同定された。C 区下層 SP5、C 区上層 SP83 の柱根は、道管を有することから広葉樹と判断され、SP83 については組織配列から環孔材と判断されるが、組織が収縮しているなど保存状態が悪く種類の同定には至らない。また、K 区 SP62 は、樹皮部分のみで木部細胞が観察できなかったことから、種類の同定には至らない。以下に、同定された各種類の解剖学的特徴等を記す。

調査年度	調査区	遺構名	報告番号	実測番号	種別	時期	樹種	備考
平成 17 年度	B	SP4	67	No.17	柱根	平安 (9 世紀～10 世紀)	クリ	
	B	SP4	66	No.11	礎板	平安 (9 世紀～10 世紀)	クリ	
	B	SP6	69	No.5	柱根	平安 (9 世紀～10 世紀)	ヤナギ属	
	C F	SP3	73	No.9	柱根	平安 (9 世紀～10 世紀)	ハンノキ属ハンノキ亜属	
	C F	SP5	74	No.6	柱根	平安 (9 世紀～10 世紀)	ヤナギ属	
	C J	SP83	70	No.18	柱根	山世	トネリコ属	
	C 上	SP83	71	No.19	柱根	中世	スギ	
平成 18 年度	C F	SP22	75		柱根	平安 (9 世紀～10 世紀)	ヒノキ	
	D	SP112	79		柱根	平安 (9 世紀～10 世紀)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
	F	SP48	81		柱根	平安 (9 世紀～10 世紀)	カツラ	
	I		SP29	82	柱根	奈良 (8 世紀)	クリ	
	I	SB1	SP30	84	柱根	奈良 (8 世紀)	クリ	
	I		SP50	85	柱根	奈良 (8 世紀)	クリ	
	J	SP103	86		柱根	平安 (9 世紀～10 世紀)	クリ	
	J	SP101	87		柱根	平安 (9 世紀～10 世紀)	クリ	
	J	SP102	88		柱根	平安 (9 世紀～10 世紀)	クリ	
	K	SP20	89		柱根	平安 (9 世紀～10 世紀)	カツラ	
	K	SP32	90		柱根	平安 (9 世紀～10 世紀)	クリ	
	K	SP61	91		柱根	平安 (9 世紀～10 世紀)	クリ	
	K	SP62	92		柱根	平安 (9 世紀～10 世紀)	ヤナギ属	

第 11 表 樹種同定結果

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2-4 個。放射組織は単列、1-10 細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1 分野に 1-3 個。放射組織は単列、1-15 細胞高。

・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または 2-3 個が複合して散在し、年輪界付近でやや径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15 細胞高。

・ハンノキ属ハンノキ亜属 (*Alnus* subgen. *Alnus*) カバノキ科

試料は収縮した痕跡がある。散孔材で、管孔は単独または 2-4 個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のもとと集合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Leptobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のもとと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔部は3-4列、孔部外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

なお、平成17年度のB区SP4遺物番号1(実No.17)の柱根は、木片に年輪界が認められず、また観察範囲も狭かった。クリとよく似た組織を有するコナラ節の可能性も残るため、クリ近似種とした。

・カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.) カツラ科カツラ属

散孔材で、管孔はほぼ単独で散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-30細胞高。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔部は1-2列、孔部外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-30細胞高。

## d 考 察

試料は、柱根19点、礎板1点からなり、奈良時代(8世紀)に比定される試料(3点)、平安時代(9~10世紀)に比定される試料(15点)、中世に比定される試料(2点)からなる。

各試料の所見及び分析結果に基づく時期別の種類構成(第12表)では、奈良時代の柱根3点と平安時代(9~10世紀)の試料14点のうち7点(柱根6点、礎板1点)はクリであったことから、クリを主体とした種類構成が窺われる。クリ以外の樹種では、平安時代の試料に、カツラ(2点)、ヤナギ属、ハンノキ亜属、コナラ節、ヒノキ(各1点)が認められた。

分類群\時期・面積	奈良		平安		中世	合計
	8世紀	9-10世紀	柱根	礎板		
針葉樹	-	-	-	-	-	-
スギ	-	-	-	-	1	1
ヒノキ	-	1	-	-	1	1
広葉樹	-	-	-	-	-	-
ヤナギ属	-	3	-	-	-	3
ハンノキ属ハンノキ亜属	-	1	-	-	-	1
コナラ属コナラ亜属コナラ節	-	1	-	-	-	1
クリ	3	6	1	-	-	10
カツラ	-	2	-	-	-	2
トネリコ属	-	-	-	-	1	1
合 計	3	14	1	2	2	20

1) クリ近似種はクリを含めて集計した。

第12表 時期別種類構成

各樹種の材質は、最も多く認められたクリは重硬で強度・耐朽性が高い材質を有し、ハンノキ亜属とコナラ節は比較的強度は高いが耐朽性はクリに比べ低い。また、ヒノキは木理が通直で割裂性・耐水性が高く、加工が容易といった材質を有し、カツラも木理が通直で加工が容易である。ヤナギ属は、加工は容易であるが、強度・保存性は低いといった特徴を示す。したがって、クリが多く利用された背景としては、柱等の樹種として適した材質を有することが考えられる。また、コナラ節やハンノキ亜属は強度が高いこと、ヒノキは耐水性が高いこと、カツラは比較的樹幹が真直で大径木となることや加工しやすい材質が利用された背景と考えられる。一方、ヤナギ属は、強度・保存性が低く、柱としては不適と推定され、前述した樹種と同様の用途であるが課題が残る。なお、ヒノキを除く樹種は、いずれも河畔林構成種、あるいは、河畔林構成種を含む分類群であり、花粉分析結果などから遺跡周辺で入手可能な木材であったと考えられる。

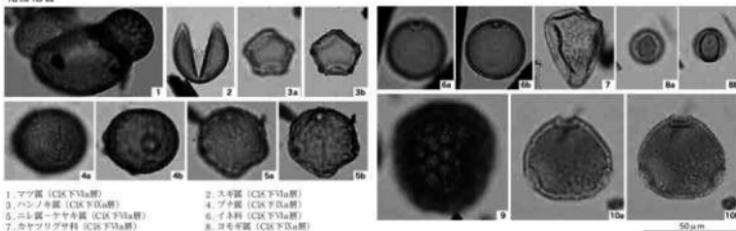
一方、中世の柱根2点は、スギとトネリコ属であった。少なくとも2種類の木材が利用されていたことが推定される。スギは、木理が通直で割裂性が高く、加工が容易で耐水性も有し、トネリコ属は、重硬で強度が高い材質を有する。いずれも低地で水分の多い土地を好む種類であり、遺跡周辺の低地に生育していた可能性がある。

馬越遺跡では、これまでにも8～10世紀の柱根等を対象とした分析調査が実施されている。これらの調査結果では、クリを主体として、オニグルミやヤナギ属、ハンノキ亜属、ケヤキ、アカメガシワ、カエデ属、トネリコ属の利用が確認されている〔バリノ・サーヴェイ株式会社2005b〕。クリを多用する傾向は、本分析結果と調和的であり、当該期の柱材にはクリが主体的に利用されていたことが示唆される。一方、ヤナギ属はIII区SB13の柱(4点)にも利用が認められ、クリを主体とする建物が存在する一方、柱材に不適なヤナギ属を主体とする建物の存在も窺われる。また、I区SB5,6では強度・保存性の低いアカメガシワがクリに混じって利用されており、柱材として不適と考えられる樹種が混在するといった特徴も指摘される。江添C遺跡(燕市)では、建物の規模が大きく、柱穴掘り方が方形となる建物は全てクリであるのに対し、柱間寸法が不揃いとなる建物では種類構成が雑多となる傾向(バリノ・サーヴェイ株式会社,2000)が認められている。上記したSB13は、同時期(10世紀初頭～中頃)のクリの柱材からなるSB8・SB9と対照的であり、江添C遺跡と同様に建物の規模や性格等の差異が木材利用に反映されている可能性がある。本分析試料については、遺構単位での樹種構成等の検討は行っていないため、今後、これらの調査所見を含め再検討する必要がある。

#### 引用文献

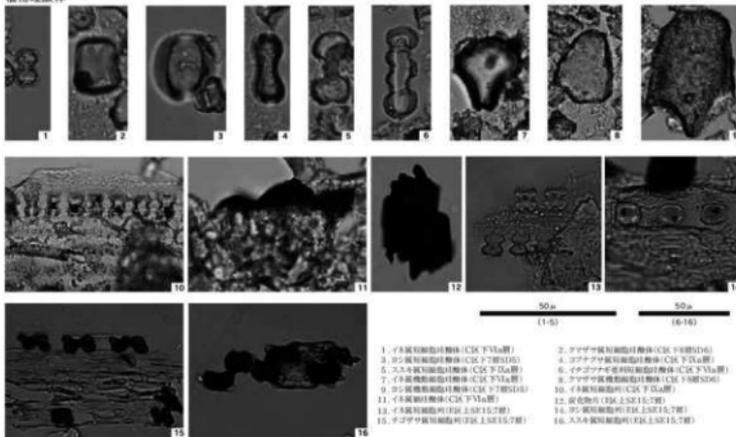
- 林 昭三 1991 『日本産木材 顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』31 p81-181 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』32 p66-176 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』33 p83-201 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』34 p30-166 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』35 p47-216 京都大学木質科学研究所
- 近藤 鎌三 1988 「十二遺跡土壌の植物球形体分析」『跡部屋遺跡群十二遺跡—長野県北佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書—』 p377-383 御代田町教育委員会
- 近藤鎌三 2004 『植物ケイ酸体研究』 p48, 46-64 ベドログスト
- 三宅 尚・中越 信和 1998 「森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態」『植生史研究』p6, 15-30
- 中村 純 1967 『花粉分析』 p232 古今書院。
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2000 「自然科学分析」『吉田町文化財調査報告書第5集 江添C遺跡—吉田町米納津地内国営排水水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』 p206-213 吉田町教育委員会・山武考古学研究所
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2005a 「平成11年度馬越遺跡の自然科学分析」『加茂市文化財調査報告(14) 馬越遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』 p103-123 加茂市教育委員会
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2005b 「平成13年度馬越遺跡の自然科学分析」『加茂市文化財調査報告(14) 馬越遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』 p124-129 加茂市教育委員会
- Richter H.G., Gasser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編) 2006 『針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』 p70 伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘(日本語版監修) 海青社 [Richter H.G., Gasser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification]
- 島地 謙・伊東隆夫 1982 『図説木材組織』 p176 地球社
- 徳永重元・山内輝子 1971 『花粉・胞子』『化石の研究法』 p50-73 共立出版株式会社
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 『広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』 p122 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修) 海青社 [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]

## 花粉化石



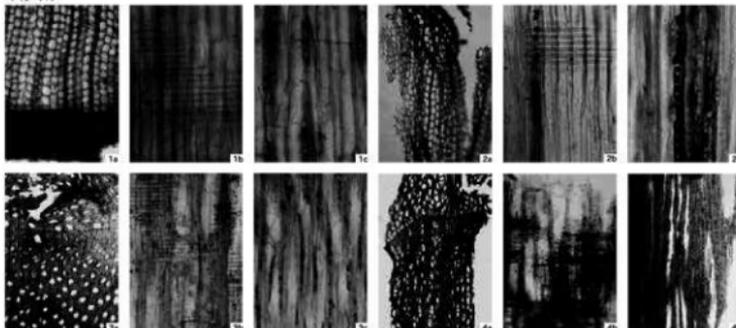
1. マツ属 (CIS F3/a群) 2. スギ属 (CIS F3/a群)  
 3. ハシノキ属 (CIS F3/a群) 4. ブナ属 (CIS F3/a群)  
 5. ニル属-ケヤキ属 (CIS F3/a群) 6. イナリ (CIS F3/a群)  
 7. カヤツリグサ科 北沢 F3/a群) 8. コモケ属 (CIS F3/a群)  
 9. ササニタゲ属-ウチキツギモ属 (CIS F3/a群) 10. キヌケ属 (CIS F3/a群)

## 植物珪酸体



1. イネ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群) 2. アザチ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群) (16)  
 3. シロアザチ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群) (16) 4. コナアザチ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群)  
 5. エノキ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群) 6. イナリ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群)  
 7. イネ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群) 8. アザチ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群)  
 9. シロアザチ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群) 10. イネ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群)  
 11. イネ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群) 12. 粟属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群)  
 13. イネ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群) 14. シロアザチ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群)  
 15. アザチ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群) 16. イネ属短細胞珪酸体 (CIS F3/a群)

## 木材 (1)

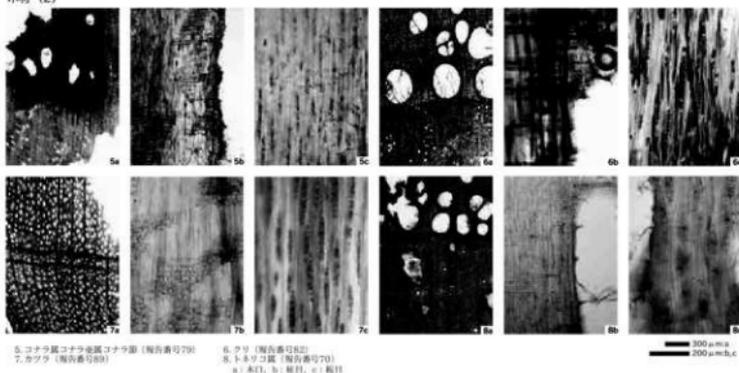


1. スギ (掲号番号71)  
 2. ヒノキ (掲号番号72)  
 3. ヤナギ (掲号番号73)  
 4. ハシノキ属ハシノキ属 (掲号番号73)  
 a: 軸心, b: 放射, c: 接合

100  $\mu$ m = 3-4a  
 100  $\mu$ m = 1-2a, 3-4b, c  
 100  $\mu$ m = 1-2b, c

第 24 図 花粉化石・植物珪酸体・木材 (1)

木材 (2)



第25図 木材 (2)

## C 平成20年度馬越遺跡の自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

### 1) はじめに

馬越遺跡は、新潟県加茂市下条に所在し、信濃川右岸、信濃川の支流である下条川左岸の沖積低地に立地している。本報告では、馬越遺跡のH17・18年度発掘調査で出土した木製品や骨片を対象に自然科学分析調査を実施し、木製品等の樹種や木材利用、骨片の種類や部位等を検討する。

### 2) 木製品の樹種

#### a 試料

試料は、H17年度発掘調査出土の木製品17点、H18年度調査発掘調査出土の木製品16点の計33点である。これらの木製品を対象に樹種同定を行う。各試料の詳細は、結果とともに第13表に示す。

#### b 分析方法

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を製作し、ガム・クロラール(泡水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを製作する。生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

木材組織の名称や特徴については、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考に、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995・1996・1997・1998・1999)を参考にする。

#### c 結果

結果を第13表に示す。木製品は、針葉樹3分類群(スギ・ヒノキ・イヌガヤ)と広葉樹9分類群(ヤナギ属・

ブナ属・コナラ属コナラ亜属クスギ節・ケヤキ・モクレン属・イスノキ・ハリギリ・トチノキ・トネリコ属)に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・イスガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch f.) イスガヤ科イスガヤ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に1～2個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

試料はいずれも収縮している。散孔材で、道管は単独または2～3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1～15細胞高。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、道管は単独または放射方向に2～3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・コナラ属コナラ亜属クスギ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*) ブナ科

試料は早材部の一部と晩材部で、年輪界が含まれていない。環孔材で、孔圏外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものど複合放射組織とがある。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～8細胞幅、1～50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・モクレン属 (*Magnolia*) モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では角張った楕円形～多角形、単独および2～4個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～40細胞高。

・イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.) マンサク科イスノキ属

散孔材で、道管は横断面で多角形、ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は、独立帯状または短接線状で、

放射方向にほぼ等間隔に配列する。

・ハリギリ (*Kalopanax pictus* (Thunb.) Nakai) ウコギ科ハリギリ属

環孔材で、孔部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋線状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性～同性、1～5細胞幅、1～30細胞高。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高で階層状に配列する。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔部は1～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1～3細胞幅、1～30細胞高。

#### d 考 察

今回分析調査を行った木製品33点は、古墳時代中期、平安時代、鎌倉時代、中世、時期不明に分けられ、器種は土木材や農具、武器、下駄、容器、祭祀具、建築部材等多岐に渡る。木製品からは、針葉樹3分類群(スギ・ヒノキ・イスガヤ)と広葉樹9分類群(ヤナギ属・ブナ属・コナラ属コナラ亜属クスギ節・ケヤキ・モクレン属・イスノキ・ハリギリ・トチノキ・トネリコ属)の計12分類群が確認された。各分類群の材質をみると、針葉樹のスギやヒノキは、木理が通直で割裂性が高く、加工が容易である。イスガヤは、重硬・強靱で強度が高く、加工はやや困難な部類である。広葉樹では、ブナ属やクスギ節、ケヤキ、イスノキ、トネリコ属は、重硬で強度が高く、ヤナギ属やハリギリ、モクレン属、トチノキはそれよりも強度が低い。このうち、ヤナギ属やトチノキは保存性が低いとされる。本分析結果に基づく木製品の時期別および器種別種類構成を第14・15表に示す。

古墳時代中期の木製品は、棒状品1点(H17年度:実24)であり、針葉樹のスギであった。馬越遺跡では、同時期の木製品の調査事例は少ないが、スギは古代の木製品でも棒状品や板状品に比較的好く利用されている樹種である[パリオ・サーヴェイ株式会社2005a・2005b・2005c]。

平安時代の木製品は、文房具(木簡)、土木材(土木具)、農具(農具)、武器(弓)、容器(漆器・桶・皿)、祭祀具(陶物形)、建築部材(柱根)、不明品(棒状・不明)からなる。木簡はスギであった。割裂性が高く板への加工が容易な樹種が選択・利用されたと推定される。土木具は、器種の詳細は不明であるが、針葉樹のヒノキであったことから加工性や耐水性を考慮した木材利用が推定される。農具も器種の詳細は不明であるが、針葉樹のスギであったことから強度よりも加工性を考慮した木材利用が推定される。

弓は、芯持丸木の素木弓であり、強靱なイスガヤが利用されている。本地域には基本種であるイスガヤは分布しておらず、多雪地域の変種とされるハイイスガヤが一般的であることから、ハイイスガヤが利用されたと考えられる。新潟県内における古代とされる素木弓は、一之口遺跡(上越市)や屋敷遺跡・蔵ノ坪遺跡(胎内市)、桃川遺跡群(村上市)より計5例出土しており、一之口遺跡でスギが1例確認されているほかは、全てイスガヤである[パリオ・サーヴェイ株式会社1994・2002・2003a;株式会社吉田生物研究所2004]。イスガヤの利用は、青田遺跡(新発田市)の縄文時代後・晩期の丸木弓や平田遺跡(佐

波市)の弥生時代中期の丸木弓等に確認されており〔松葉 2000; 鈴木<sup>ほか</sup>2004〕、古くから利用されていたことが推定される。本地域では、弓の調査事例が少ないが、本分析結果から他地域と同様にイヌガヤが利用されていたと考えられる。

容器は、漆器類と漆塗りが認められない椀・皿からなる。また、漆器類には、椀・皿のほか、板状を呈する試料が3点(報告番号23～25)確認された。漆器類のうち、板状木製品には針葉樹のスギ(1点)とケヤキ(2点)、椀・皿類にはケヤキとブナ属が認められた。ケヤキとブナ属は、共に漆器椀・皿の本地として一般的な種類であり、本遺跡でも利用されていたことが推定される。また、板状木製品からもケヤキが確認されており、椀・皿に由来する可能性と同様の木材利用を示す資料の可能性もある。一方、スギに同定された漆器は、小型の椀目板状で、2辺が曲線状となる。形状から、他の部材との組み合わせが推定され、容器以外の器種である可能性もある。

これまでの馬越遺跡における古代の椀や皿の調査結果では、ケヤキが多い傾向が認められている。今回の調査結果も調和しており、古代の漆器木地にケヤキを主とした木材利用が推定される。また、漆塗りが認められなかった椀・皿も漆器(椀・皿類)と同様の樹種(ケヤキ)・木取り(横木地椀目取)が確認されたことから、同様の木材選択・利用が推定される。

陽物形?は、半裁木を加工したものであり、トネリコ属であった。トネリコ属は、渓谷林・湿地林を構成するシオジやヤチダモが含まれ、馬越遺跡より検出された古代の立木にも認められている〔バリノ・サーヴェイ株式会社 2005a〕。また、隣接する太田遺跡における花粉群集においてもトネリコ属が確認されている(未公表資料)。このことから、本遺跡周辺の河畔・湿地に生育したトネリコ属を利用したことが推定される。

柱根は、スギ等の針葉樹とヤナギ属が認められた。保存性や耐水性が比較的高いスギが利用されている一方、保存性の低いヤナギ属の利用が看取される。馬越遺跡のこれまでの柱材の調査結果では、クリを主体としてアカメガシワやオニグルミ、カエデ属、ケヤキ、トネリコ属、ハンノキ亜属、ヤナギ属の利用が確認されており〔バリノ・サーヴェイ株式会社 2005b〕、広葉樹を主とする種類構成が示唆されている。本分析結果から、針葉樹材も利用されていたことが推定される。なお、馬越遺跡や同時期の遺跡における建物跡の柱材の調査結果から、建物跡の規模や構造と木材の材質(強度や保存性・耐水性)との関連性が示唆されているが、針葉樹材については調査事例が少なく、今後の検討課題である。

鎌倉時代の木製品は、容器(漆器)や服飾具(櫛)、建築部材(柱根、不明品(板状)、また、中世の木製品は、下駄(差歯下駄)、容器(漆器)と運搬具(櫛)からなる。漆器は、いずれも椀・皿類であり、木取り観察が可能であった試料はすべて横木地椀目取であった。漆器6点のうち3点がブナ属であり、この他にケヤキが2点とトチノキが1点と、ブナ属が多く利用される。木材利用の傾向は平安時代と同様であるが、これまでの馬越遺跡における漆器の調査結果から、古代に比べ中世において容器に利用される樹種が多様化し、ケヤキの利用が少なくなる傾向が確認されている。本分析結果は、この傾向と調和的である。櫛は横櫛であり、常緑広葉樹のイスノキであった。イスノキは、国産材の中でも最も重硬・緻密な材質を有する種類であり、櫛のような細かな加工には適材である。本遺跡では、古代の櫛にイスノキが確認されている〔バリノ・サーヴェイ株式会社 2005c〕。新潟県内では、八反田遺跡・用言寺遺跡・仲田遺跡(上越市)、住吉遺跡(新発田市)、城田遺跡・樋渡・堀下遺跡(村上市)等で中世の櫛(12例)の分析調査が行われており、全てイスノキに同定されている〔バリノ・サーヴェイ株式会社 2001c・2003b; 株式会社パレオ・ラボ 2002; 三村・植田 2003; 植田 2006; 株式会社古環境研究所 2006〕。イスノキは、暖温帯常緑広

2 分析結果

葉樹林の構成種で、本州では伊豆半島以西の太平洋側に分布しているが、日本海側には分布していない。このことから、これらのイスノキの櫛は、他地域から持ち込まれた可能性がある。

柱根は、ヤナギ属であった。本遺跡における過去の調査では、中世の柱材にスギとトネリコ属が確認されている。いずれも平安時代の柱材に認められた分類群であり、耐水性のあるスギや、強度の高いトネリコ属が利用される一方、保存性の低いヤナギ属が認められる点は類似する。平安時代と同様の木材利用が

調査年度	調査区	位置	遺構名	層位	報告番号	実測番号	年代	器種 / 類別	本取り	樹種
H17	F3-2		A区	河川2	111	実24	古墳時代中層	棒状		スギ
			B区	SD12	4	実7	平安時代	農具		スギ
			B区	河川1	3	実10	平安時代	土木具		ヒノキ
			C区上	SPR4	72	実23	鎌倉時代	柱根		ヤナギ属
			C区上	SE2	16		鎌倉時代	漆器		榎木地樋口取
			C区上	SE4	17		鎌倉時代	漆器		榎木地樋口取
			C区上	SE5	21		鎌倉時代	漆器		榎木地樋口取
			C区上	SE6	22	実37	鎌倉時代	漆器		トチノキ
			C区上	SE3	7	実36	鎌倉時代	櫛		イスノキ
			C区上	SE5	94	実27	鎌倉時代	板状		スギ
			C区上	SE6	96	実4・12	鎌倉時代	板状		スギ
			C区上	SE6	97	実3	鎌倉時代	板状	板目	スギ
			C区下		76	実2	平安時代	柱根		スギ
			C区下	SK8	61	実28	平安時代	不明(陶物形?)	半蔵木	トネリコ属
			C区下	SE7	105	実33	平安時代	不明		コナギ属コナギ属クヌギ属
			C区下	SD25	101	実25	平安時代	棒状		スギ
			C区下	SD51	15	実40	平安時代	漆器		榎木地
H18			C区下	河川23	8		中世	差南下駄(露部):白	榎目	スギ
			D区	SP29	77		平安時代	柱根		ヤナギ属
			D区	SD77	78		平安時代	柱根		スギ
			F区	SD10	5		中世?	櫛		モクレン属
			G区	河川10	12		中世?	差南下駄(露部):黄	板目	モクレン属
			G区	河川10	10			差南下駄	板目	モクレン属
			G区	河川10	9			差南下駄	榎目	ハリギリ
			G区	河川10	11			差南下駄:台	板目	モクレン属
			H区	河川2	23		平安時代	漆器(板状)	榎目	スギ
			J区	SD67	2期 19		中世	漆器		榎木地樋口取
			J区	90 トレンチ	18		中世	漆器		榎木地樋口取
			J区	SD67	6		平安時代	弓		芯持丸木
			K区	SP130	25		平安時代	漆器(板状)	榎目	ケヤキ
			K区	SK74	14		平安時代	櫛/皿		榎木地樋口取
			立会い		24		平安時代	漆器(板状)	榎目	ケヤキ
			C区下	SE14	1		平安時代	木皿	板目	スギ

第13表 樹種同定結果

分類群	古墳中層				平安時代						
	不明	文相具	土木具	農具	武器	容器	器座	建築	不明		
棒状		木皿	土木具	農具	弓	漆器	櫛/皿	陶物形?	柱根	棒状	不明
スギ	1			1		1			2	1	
ヒノキ			1								
イスガヤ					1						
ヤナギ属									1		
ブナ属(近似種含む)						1					
クヌギ節											1
ケヤキ						2	1				
モクレン属											
イスノキ											1
ハリギリ											
トチノキ								1			
トネリコ属											
合計	1	1	1	1	1	4	1	1	3	1	1

第14表 器種別種類構成(1)

分類群	鎌倉時代				中世			不明		合計
	容器	漆器	建築	不明	下駄	容器	器座	下駄		
棒状		櫛	柱根	板状	差南の白	漆器	櫛	差南の白	差南の白	
スギ				3	1					11
ヒノキ					1					1
イスガヤ			1							2
ヤナギ属						1				4
ブナ属(近似種含む)	2									1
クヌギ節										1
ケヤキ	2					1		1	1	5
モクレン属							1	1	1	4
イスノキ		1								1
ハリギリ									1	1
トチノキ										1
トネリコ属	1									1
合計	6	1	1	3	1	1	1	1	2	33

第15表 器種別種類構成(2)

継続していた可能性がある。

下駄は、露卯タイプの差歯下駄の台のみで、台表が柱目となる本取りであった。針葉樹のスギが利用されていたことから、加工性を考慮した木材利用が推定される。本遺跡では、過去の分析調査において古代の連歯下駄にクリが確認されている〔バリノ・サーヴェイ株式会社 2005c〕。また、本地域では、鬼倉遺跡や三角田遺跡（燕市）で古代の連歯下駄にヒノキやスギが確認されている〔バリノ・サーヴェイ株式会社 2001a・2001b〕が、差歯下駄の調査事例は確認できない。本分析結果から、おそらく連歯下駄と同様の樹種が利用されていたと推定される。

榧は、モクレン属であった。新潟県内では、中世の榧の調査事例がなく、木材利用状況は不明である。

時期不明の木製品は下駄である。下駄は、差歯下駄の台と歯、連歯下駄があり、差歯下駄の台と歯はいずれもモクレン属、連歯下駄はモクレン属とハリギリであった。下駄の台は、形態や部位に関わらずモクレン属が利用されており、連歯下駄ではモクレン属と共にハリギリも利用されていることから、少なくとも2種類が利用されていたことが推定される。

### 3) 骨 同 定

#### a 試 料

試料は、I区 P7-1 グリッドより出土した骨片1点（大きさ40mm × 18mm 程度）である。

#### b 分析 方法

試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。

#### c 結果および考察

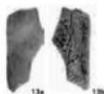
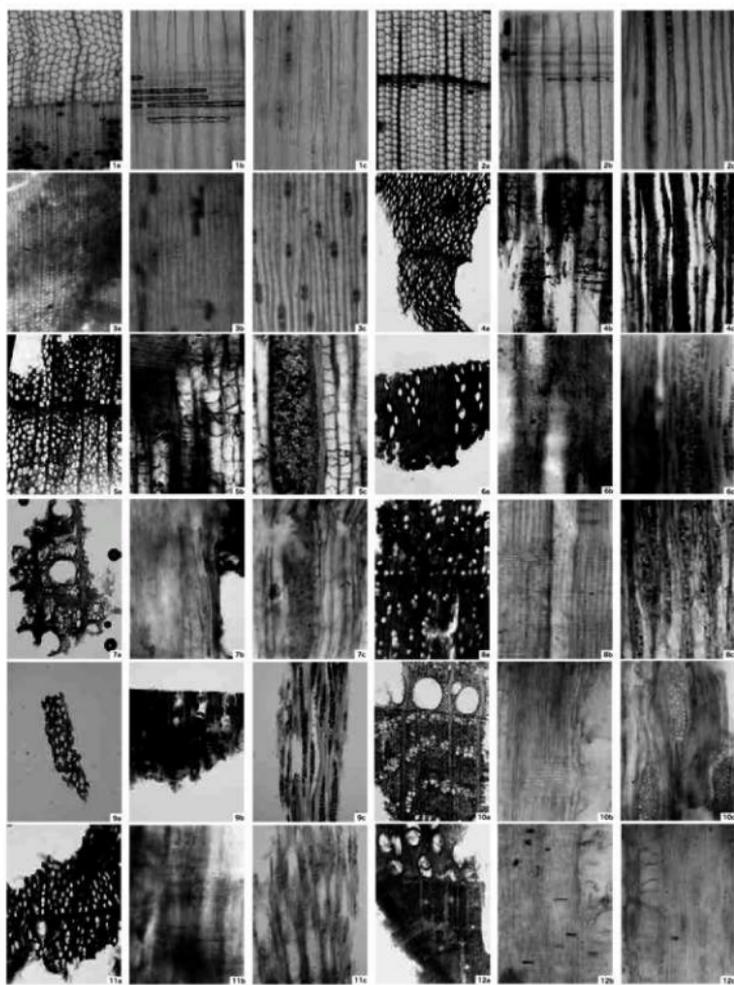
I区 P7-1 グリッドより出土した骨片は、獣類四肢骨片とみられる。白～白灰色を呈し、直接火を受けた焼骨と考えられ、何らかの人為的影響を受けたことが推定される。

#### 引用文献

- 林 昭三 1991 『日本産木材 顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』31 p81-181 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』32 p66-176 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』33 p83-201 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』34 p30-166 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』35 p47-216 京都大学木質科学研究所
- 株式会社古環境研究所 2006 『自然科学分析』『新潟県埋蔵文化財調査報告書第159集 北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅳ 用言寺遺跡Ⅰ』p53-62 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 株式会社パレオ・ラボ 2002 『木製品の樹種同定』『新潟県埋蔵文化財調査報告書第110集 北陸自動車道土越春日・木田地区発掘調査報告Ⅶ 八反田・高畑遺跡』p49-55 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 株式会社吉田生物研究所 2004 『屋敷遺跡出土木製品の樹種調査結果』『中条町埋蔵文化財調査報告書第31集 屋敷遺跡2次 県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅵ』p72 中条町教育委員会
- 松葉 孔子 2000 「平田遺跡出土木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第98集 県営ほ場整備事業関連発掘調査報告書 平田遺跡』p100-104 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 三村昌史・植田弥生 2003 「仲田遺跡出土木製品の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第128集 北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅱ 仲田遺跡』p35-41 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査

## 事業団

- バリノ・サーヴェイ株式会社 1994 「一之口遺跡東地区から出土した木質遺物の同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区(本文編)』p147-167 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2001a 「鬼倉遺跡出土遺物の自然科学分析」『加茂市文化財調査報告(13) 鬼倉遺跡 国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書』p144-158 加茂市教育委員会
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2001b 「三角田遺跡から出土した木材の樹種」『神林村埋蔵文化財調査報告書第1集 三角田遺跡 国営新荒井川排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』p45-49 燕市教育委員会
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2001c 「城田遺跡の自然科学分析」『神林村埋蔵文化財調査報告書第10集 城田遺跡(本文編)』p57-77 神林村教育委員会・山武考古学研究所
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2002 「蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集 蔵ノ坪遺跡 一般国道7号中条黒川バイパス関係発掘調査報告書』p45-59 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2003a 「桃川遺跡群の自然化学分析」『神林村埋蔵文化財調査報告書第19集 桃川遺跡群 石川遺跡・草田遺跡・桃川板碑・堤下瓦窯跡』p18-55 神林村教育委員会・山武考古学研究所
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2003b 「樋渡・堀下遺跡の自然化学分析」『神林村埋蔵文化財調査報告書第18集 樋渡遺跡・堀下遺跡』p13-22 神林村教育委員会・山武考古学研究所
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2005a 「平成11年度馬越遺跡樹種同定」『加茂市文化財調査報告(14) 馬越遺跡- 国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書-』p113-115 加茂市教育委員会
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2005b 「平成13年度馬越遺跡柱材等の樹種」『加茂市文化財調査報告(14) 馬越遺跡- 国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書-』p124-129 加茂市教育委員会
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2005c 「平成14年度馬越遺跡木製品の用材」『加茂市文化財調査報告(14) 馬越遺跡- 国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書-』p130-132 加茂市教育委員会
- Richter H.G., Grosser D., Heinzl I. and Gasson P.E. (編) 2006 『針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』p70 伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘(日本語版監修) 海青社 [Richter H.G., Grosser D., Heinzl I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification]
- 島地 謙・伊東 隆夫 1982 『図説木材組織』p176 地球社
- 鈴木三男・小川とみ・能城修一 2004 「青田遺跡出土木材の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ 青田遺跡 関連誌科学・写真図版編』p53-70 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 植田 弥生 2006 「出土木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第157集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告ⅩⅢ 住古遺跡』p75-82 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 『広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』p122 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修) 海青社 [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]



- 1. 五葉 (植物標本90)
- 2. シラカシ (植物標本91)
- 3. シラカシ (植物標本92)
- 4. ナナハダ (植物標本72)
- 5. シラカシ (植物標本93)
- 6. シラカシ (植物標本94)
- 7. シラカシ (植物標本95)
- 8. シラカシ (植物標本96)
- 9. シラカシ (植物標本97)
- 10. シラカシ (植物標本98)
- 11. シラカシ (植物標本99)
- 12. シラカシ (植物標本100)
- 13. シラカシ (植物標本101)
- 14. シラカシ (植物標本102)
- 15. シラカシ (植物標本103)
- 16. シラカシ (植物標本104)
- 17. シラカシ (植物標本105)
- 18. シラカシ (植物標本106)
- 19. シラカシ (植物標本107)
- 20. シラカシ (植物標本108)
- 21. シラカシ (植物標本109)
- 22. シラカシ (植物標本110)
- 23. シラカシ (植物標本111)
- 24. シラカシ (植物標本112)
- 25. シラカシ (植物標本113)
- 26. シラカシ (植物標本114)
- 27. シラカシ (植物標本115)
- 28. シラカシ (植物標本116)
- 29. シラカシ (植物標本117)
- 30. シラカシ (植物標本118)
- 31. シラカシ (植物標本119)
- 32. シラカシ (植物標本120)
- 33. シラカシ (植物標本121)
- 34. シラカシ (植物標本122)
- 35. シラカシ (植物標本123)
- 36. シラカシ (植物標本124)
- 37. シラカシ (植物標本125)
- 38. シラカシ (植物標本126)
- 39. シラカシ (植物標本127)
- 40. シラカシ (植物標本128)
- 41. シラカシ (植物標本129)
- 42. シラカシ (植物標本130)
- 43. シラカシ (植物標本131)
- 44. シラカシ (植物標本132)
- 45. シラカシ (植物標本133)
- 46. シラカシ (植物標本134)
- 47. シラカシ (植物標本135)
- 48. シラカシ (植物標本136)

第26図 木材・骨

## D 加茂市馬越遺跡出土漆器（平成18年度）の科学分析

漆器文化財科学研究所 四柳 嘉章

## 1) 分析の方法

漆製品はその品質の解明が、製作技術、用途、流通などの復元に大きな手がかりを与える。以下の分析方法を用いて、品質の解明をおこなった。

## a 塗膜構造分析（塗膜分析と略）

塗装工程や材料の解明。漆製品の内外面数箇所から数mmの塗膜片を採取し実体顕微鏡で観察した後、ポリエステル樹脂に包埋し、その断面を研磨（≒100～3000）のうえプレパラートに接着。さらに同工程で研磨を加え、金属・偏光顕微鏡で観察する方法。

## b 赤外分光分析

塗料及び膠着液（劑）の同定。塗膜分析では間接的であるため、赤外線（普通赤外波長2.5～25μm、波数4000～400cm<sup>-1</sup>）を固有の振動をしている分子（試料）に波長を連続的に変化させて照射して、分子構造を解析するフーリエ変換赤外分光法（FT-IR）を用いた。

## c 蛍光X線分析

赤色顔料の同定。試料にX線を当てると、元素特有のX線（特性X線ないし固有X線）が発生（放出）する。この波長と強度を測定することによって元素の定性や定量分析を行うエネルギー分散型蛍光X線分析を用いた。

## 2) 分析結果

## a 塗膜分析

塗膜分析を行った漆器は1資料につき、内外面複数の試料を作成し平均値を算出した。したがって必ずしも図版のスケールとは一致しない。木胎（木地）から塗装順に番号（①～）を付して説明する。「表層変質」とあるものは、酸化劣化防止層の形成を意味する。報告番号は加茂市教育委員会の整理番号。なお、本稿で用いる用語のうち、意味が曖昧で誤解をまねくものについては、以下のように規定して使用する。

## (1) 赤色漆

赤色の主な顔料である朱（HgS）やベンガラ（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）が未同定の場合には「赤色漆（未同定）」と最初に断つて使用し、同定済みは「赤色（朱）漆」「朱漆」「ベンガラ漆」などと表記する。よく使われる「赤漆」は「赤漆」（木地を蘇芳で染め透漆を施したもの）との混同をさけるために用いない。内外面とも赤色漆の場合は、未同定は「総赤色（未同定）漆」、同定済みの場合は「総赤色（朱）漆」、あるいは慣例による「総（惣）朱」「惣朱」「朱漆器」などを用いる。

## (2) 黒色漆と黒色系漆

上塗漆が黒色の場合、黒色顔料の有無によって2種類に分けられる。炭素粒子（油煙）や鉄系化合物粒子などの黒色顔料を含むものを「黒色漆」、黒色顔料を含まないものを「黒色系漆」として区別する。黒色系漆においては、黒色顔料を含まずとも漆自体の表層が茶黒色に変質し、さらに下地色を反射して肉眼では黒色に見える。筆者の調査では古代以来こうした方法が一般的と考えられるので、品質の判別や、材料科学の上からも両者の区別が必要である。未同定の場合、はじめに「黒色漆（未同定）」とことわる。

内外面とも黒色漆の場合は「総黒色漆」、同じく黒色系は「総黒色漆」（いわゆる「総黒」は両者を含む）、内面赤色外面黒色は「内赤外黒色漆」、同じく「内赤外黒色漆」とする。赤色顔料が同定されている場合は「内赤外黒色漆」あるいは「内赤（ベンガラ）外黒色漆」などと呼称する。

### (3) 下地の分類

一般の粗い鉱物粒子を用いたものは「地の粉漆下地」、珪藻土使用は「珪藻土漆下地」、より細かい砥の粉類似は「サビ（錆）漆下地」、膠使用は「地の粉またはサビ（錆）膠下地」、炭粉は漆を用いたものは「炭粉漆下地」、柿渋を用いたものは「炭粉渋下地」とする。炭粉粒子は下記のように3分類する。

- 細粒…破砕工程が中粒炭粉より細かく炭粉粒子は均一で、針葉樹などの木口組織を全くとどめないもの。  
 中粒…炭粉粒子は1～2 μm × 5～10 μm程度の針状粒子と長径5 μm前後の多角形粒子などからなり、針葉樹などの木口組織はごく一部にしか認められないもの。  
 粗粒…破砕工程が粗く針葉樹などの木口組織を各所にとどめるもの。炭粉粒子は不定形で各種形状のものを含み、長径30 μm前後の針状ないし棒状粒子を含むことが多い。

#### ◇ No.24 (第31図) 折敷(総黒色系、平安)

##### 器形・表面観察

厚さ4mmほどの針葉樹の柾目板を用いた折敷。内外面総黒色系漆塗り。

##### 塗膜分析

内外面(木地に漆が十分しみこんでいる—木固めの漆)①漆層。層厚74 μm前後。炭粉粒子は粗粒。②漆層。層厚15～36 μm。表層12 μmが変質。

#### ◇ No.22 (第31図) 椀(総黒色系、中世)

##### 器形・表面観察

まっすぐに立ち上がる厚手の総黒色系椀。口唇部はフラットで低い高台を有する。ヨコ木取り(板目)。

##### 塗膜分析

内外面①漆層。層厚40 μm前後。②漆層。層厚12 μm前後。表層7 μmが変質。③漆層。層厚15 μm前後。表層3 μm前後が変質。④漆層。層厚12 μm前後。表層3 μm前後が変質。⑤漆層。層厚7 μm前後。表層3 μm前後が変質。

#### ◇ No.16 (第31図) 椀(総黒色系、中世)

##### 器形・表面観察

斜上方に立ち上がるおおぶりな総黒色系椀。高台を欠くが内面まで黒色系漆が施されている。内外面に手刷れた朱漆絵による扇文の加飾がある。内面は全体に蝙蝠扇を描くが、その意匠が興味深い。扇の意匠は左右の親骨の先に土坡を描いて天・山・谷の弧線をつなぎ、扇面を片身替わりとする。左面は土坡に笹竹、右面は中骨の細線を引くが、要の部分も土坡にして、ここから中骨が四方に生える様に描いている。外面は対面に鶴を配している。ヨコ木取り(柾目)。

##### 塗膜分析

内外面①炭粉渋下地層。層厚29～74 μm。炭粉粒子は中粒。②漆層。層厚12 μm前後。③朱漆絵層。最大層厚10 μm。朱粒子は直径5 μm前後と1 μm以下の不定形粒子からなる。

#### ◇ No.17 (第31図) 皿(総黒色系、中世)

##### 器形・表面観察

内湾ぎみに立ち上がる総黒色系皿。全体に塗りは薄い。ヨコ木取り(柾目)。

#### 塗膜分析

内外面①炭粉漆層1層だけの塗り。層厚24~74 $\mu\text{m}$ 。炭粉は中粒~粗粒で、沈殿している。表層5 $\mu\text{m}$ 前後が変質。

◇No.15(第31図) 椀ないし皿(総黒色、平安)

#### 器形・表面観察

器厚わずか1mmの薄く硬い総黒色塗膜片。口縁部内面に稜を持って強く外反する、いわゆる端反口縁である。強い端反と薄さから見て、中国製陶磁器ないし佐波理(別に数%程度の錫と鉛を加えた合金)の椀や皿を写した漆器である。木胎はほとんど残っていないので木取りは不明。

#### 塗膜分析

口縁部内外面①布着せ層。タテ糸繊維束幅74 $\mu\text{m}$ 前後、ヨコ糸繊維束幅320×686 $\mu\text{m}$ 。断面形状は胡瓜形が多いことから苧麻の類が考えられる。②地の粉(鉱物粒子)漆下地層。層厚200~340 $\mu\text{m}$ 。地の粉は粘質で、石英・長石・有色鉱物からなる。③黒色漆層。層厚4~24 $\mu\text{m}$ 。分散密度の濃い黒色粒子で、0.5 $\mu\text{m}$ 以下の微粒子。楕円形粒子からみて油煙と判断される。④地の粉(鉱物粒子)漆下地層。層厚10~100 $\mu\text{m}$ 。地の粉は②層に同じ。⑤黒色漆層。層厚4~20 $\mu\text{m}$ 。分散密度の濃い黒色粒子で③層に同じ。⑥黒色漆層。層厚50~60 $\mu\text{m}$ 。黒色粒子は0.5 $\mu\text{m}$ 以下の微粒子であるが、分散密度は③や⑤層より粗い。

体部内面①地の粉(鉱物粒子)漆下地層。層厚196~300 $\mu\text{m}$ 。地の粉は口縁部外面に同じ。②地の粉(鉱物粒子)漆下地層。層厚147~245 $\mu\text{m}$ 。地の粉は口縁部外面に同じ。③層厚34~78 $\mu\text{m}$ 。黒色粒子は0.5 $\mu\text{m}$ 以下の微粒子であるが、分散密度は口縁部外面④層に同じ。

◇No.23(第32図) 器形不明(総黒色、平安)

#### 器形・表面観察

端部が弧状となる特殊な器形で、切断部分と接着痕がある。内外面黒色漆塗りで、塗膜は硬く光沢がある。

#### 塗膜分析

内外面①黒色漆下地層。層厚不詳。黒色顔料は長径0.5 $\mu\text{m}$ 以下の楕円形粒子で、形状から油煙と考えられる。②黒色漆層。層厚37 $\mu\text{m}$ 前後。黒色粒子は①層に同じ。分散は上層より粗い。③黒色漆層。層厚37 $\mu\text{m}$ 前後。黒色粒子は①層に同じ。分散は②層より密である。

◇No.19・20(第32図) 椀(内面赤色、中世)

#### 器形・表面観察

基筒底から斜上方にゆるやかに立ち上がる内面赤色、外面黒色系椀。外面の剥離が著しい。内面赤色のマンセル値は、7.5R 3.5/6(印度赤)。ヨコ木取り(柾目)。No.19・20は同一個体。

#### 塗膜分析

No.19 内面①炭粉漆下地層。層厚は110 $\mu\text{m}$ 前後。炭粉中粒。②漆層。層厚30 $\mu\text{m}$ 前後。③朱漆層。層厚17 $\mu\text{m}$ 前後。朱粒子は長径12 $\mu\text{m}$ のものも含んでいるが、大半は長径2~3 $\mu\text{m}$ と1 $\mu\text{m}$ 以下。

外面①炭粉漆下地層。層厚は不詳だが炭粉粒子(中粒)は沈殿。②漆層。層厚12 $\mu\text{m}$ 前後。③漆層。層厚20 $\mu\text{m}$ 前後。表層5 $\mu\text{m}$ 前後が変質。

No.20 内面①炭粉漆下地層。層厚24~69 $\mu\text{m}$ 。炭粉中粒。②漆層。層厚40 $\mu\text{m}$ 前後。③朱漆層。層厚17 $\mu\text{m}$ 前後。朱粒子は長径19 $\mu\text{m}$ のものも含んでいるが、大半は長径2~3 $\mu\text{m}$ と1 $\mu\text{m}$ 以下。

外面①炭粉漆下地層。層厚14～50  $\mu\text{m}$ 。炭粉中粒。②漆層。層厚20  $\mu\text{m}$ 前後。表層1～2  $\mu\text{m}$ が変質。  
③漆層。層厚16  $\mu\text{m}$ 前後。全体がやや変質。

\*②漆層を①炭粉漆下地層の分離とみることもできる。

◇ No.18 (第32図) 椀 (総黒色系、中世)

#### 器形・表面観察

やや厚手の高台から、ゆるやかに立ち上がる総黒色系椀。木地外面下半部にカンナ目が著しい。高台裏は露胎状態だが、元来は塗りが施されていた。高台に沿ったU字状削りは幅広。ヨコ木取り(柾目)。

#### 塗膜分析

内外面①炭粉漆下地層。層厚73～122  $\mu\text{m}$ 。炭粉は中粒。②漆層。層厚は薄く5～10  $\mu\text{m}$ 。

◇ No.25 (第33図) 鉢ないし大盤 (総黒色系、平安)

#### 器形・表面観察

鉢ないし大盤と考えられる口縁部片(総黒色系)。椀。ヨコ木取り(柾目)。

#### 塗膜分析

内面①地の粉(鉱物粒子)漆下地層。層厚150  $\mu\text{m}$ 前後。地の粉は石英・長石・有色鉱物からなるが、これに若干炭粉粒子が含まれている。②漆層。層厚24  $\mu\text{m}$ 前後。表層7  $\mu\text{m}$ が変質。

外面①地の粉(鉱物粒子)漆下地層。層厚5～245  $\mu\text{m}$ 。地の粉は内面に同じ。②漆層。層厚30  $\mu\text{m}$ 前後。表層15  $\mu\text{m}$ が変質。

◇ No.26 (第32図) 曲物 (総黒色系、平安)

#### 器形・表面観察

曲物(針葉樹の柾目材)の内外面に総黒系漆塗り。

#### 塗膜分析

内外面①漆層。層厚12  $\mu\text{m}$ 前後。

#### b 赤外分光分析

分光学(Spectroscopy)は「光と物質との相互作用によって生じる光の強度やエネルギー変化を調べる学問」<sup>1)</sup>と定義され、固有の振動をしている分子に波長を連続的に変化させて赤外線照射してゆくと、分子の固有振動と同じ周波数の赤外線が吸収され、分子構造に応じたスペクトルが得られる。このスペクトルから分子構造を解析する方法を赤外線吸収スペクトル法(Infrared Absorption Spectroscopy)という<sup>2)</sup>。

塗膜の分析にはフーリエ変換赤外分光法(Fourier Transform Infrared Spectroscopy FT-IR)を用いた。赤外光は近赤外(波数14000～4000 $\text{cm}^{-1}$ 、波長700nm～2.5  $\mu\text{m}$ )、普通赤外(波数4000～400 $\text{cm}^{-1}$ 、波長2.5～25  $\mu\text{m}$ )、遠赤外(波数400～10 $\text{cm}^{-1}$ 、波長25  $\mu\text{m}$ ～1mm)に分けられるが、ここでは普通赤外光を用いる。波数は1cm当たりの波の数で、振動数を光速で割ったものであり、波長の逆数である。

FT-IRは普通赤外の場合は波数4000～400 $\text{cm}^{-1}$ の光を2つの光束に分割し、1つは固定し(固定鏡、ミラー-A)、他方の光路長は可動ミラー(可動鏡、ミラー-B)を用いて変化させる。つまり干渉計から位相の異なる光が出るわけで、2つの光束間の距離が変化すると干渉の結果、加え合わさった部分と差し引かれた部分の系列が生ずることによって、強度の変化が起こる。すなわち干渉図形が得られる。フーリエ変換という数学的操作を行うと、干渉図形は時間領域から振動数領域のスペクトル点の1つに変換される。ピストンの長さを連続的に変化させ、ミラー-Bの位置を調節し、光束Bの光路を変化させる。この変化させた各点において、次々とフーリエ変換を行うと完全な赤外スペクトルが得られる<sup>3)</sup>。このようにして

得られたスペクトルをあらかじめ得られている基準のスペクトルと比較検討することによって、塗装液及び顔料の同定ができる。

分析用試料は1～2を採取しKBr(臭化カリウム)100mgとともにメノウ鉢で磨り潰して、これを錠剤成形器で加圧成形したものを用いた(錠剤法)。条件は分解能 $4\text{cm}^{-1}$ 、積算回数16、アボダイゼーション関数Cosine。こうして測定した赤外線吸収スペクトルを第9～11図に掲載した。縦軸は吸光度(Abs)、横軸は波数( $\text{cm}^{-1}$ )である(測定機器は日本分光製FT-IR420)。分析は下記の遺物について実施した。

第27図A(ノーマライズ)はNo.122(②、中世)・240(④、須恵器付着)・348(③、土師器パレット)・434(①、須恵器付着)の赤外線吸収スペクトル。①と②はゴム質の吸収が増大しているものの、漆塗膜の同定要素である、 $3422\text{cm}^{-1}$ (水酸基)、 $2925\text{cm}^{-1}$ (炭化水素の非対称伸縮振動)、 $2850\text{cm}^{-1}$ (炭化水素の対称伸縮振動)、 $1720\sim 1710\text{cm}^{-1}$ (カルボニル基)、 $1650\sim 1630\text{cm}^{-1}$ (糖タンパク)、 $1465\text{cm}^{-1}$ (活性メチレン基)、 $1280\sim 1270\text{cm}^{-1}$ (フェノール性OH)、 $1070\sim 1030\text{cm}^{-1}$ (ゴム質)の吸収が確認できる。③は第2図の事例と同じく劣化漆。④は即漆と同定しかねるものだが、劣化漆の可能性のある検討例として掲載した。

第27図B(ノーマライズ)はNo.106(①、土師器パレット)・259(③、土師器パレット)・A(④、土師器パレット)に、劣化漆の基準として、平成10・11年度出土の漆パレットNo.986(②、土師器)の赤外線吸収スペクトル。 $1465\text{cm}^{-1}\sim 1270\text{cm}^{-1}$ 付近の吸収がブロードになり、ゴム質の吸収が著しい。これも劣化漆塗膜の特徴といえる。

第27図C(ノーマライズ)は口縁の内外面にかけて、燈明のように部分的な煤の付着が認められたNo.404(①、土師器無台座)と荏胡麻油(②)の赤外線吸収スペクトル。以前の報告書では燈明油について取り上げてきたが、土師器や一部の須恵器口縁部に付着したタール状の光沢がある黒色付着物は、大半が『延喜式』に記載されている荏油(荏胡麻油)と考えられる。

### c 蛍光X線分析

蛍光X線分析は試料にX線を当てると、元素特有のX線(特性X線ないし固有X線)が発生(放出)する。この波長と強度を測定することによって元素の定性や定量分析を行う方法。

分析対象：漆器No.16・19・20の赤色顔料(第28・29図)

使用機器：PHILIPS/PW4025、エネルギー分散型蛍光X線分析装置。

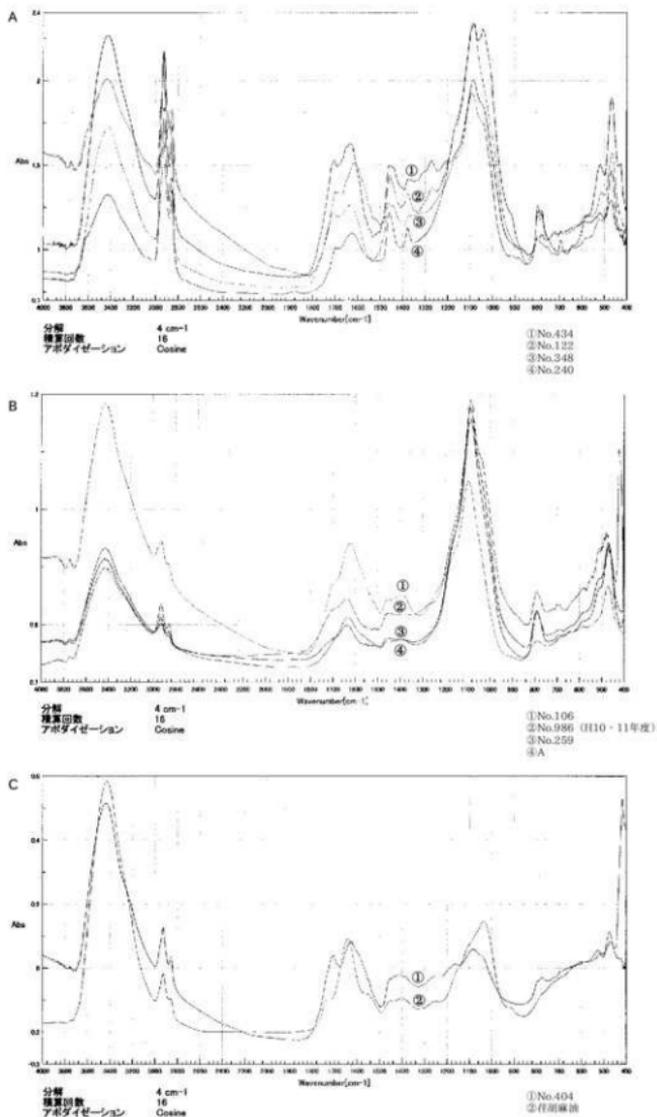
使用管球：RHターゲット9W。

検出器：高分解能電子冷却Si半導体検出器。

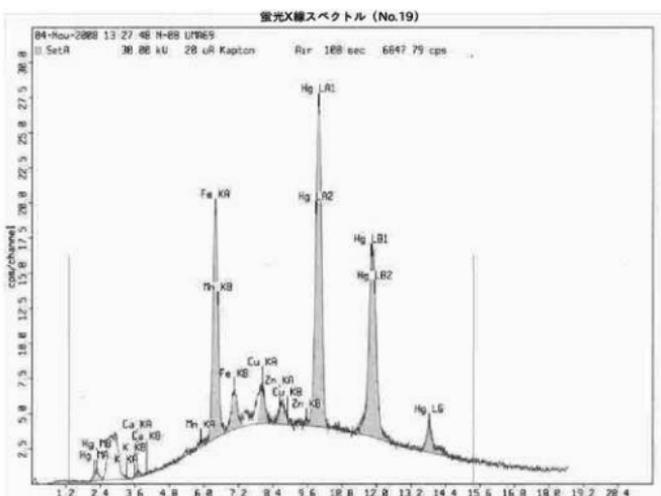
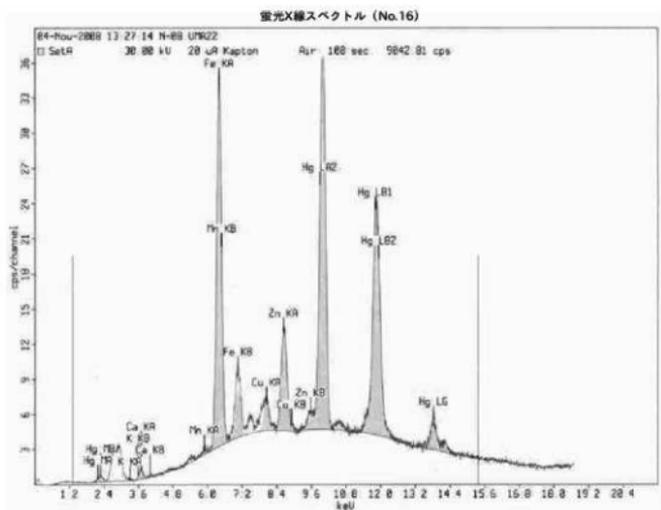
測定条件：30kV、20 $\mu$ A、フィルター Kapton、100sec。

測定室雰囲気：大気。測定部径は1mm。

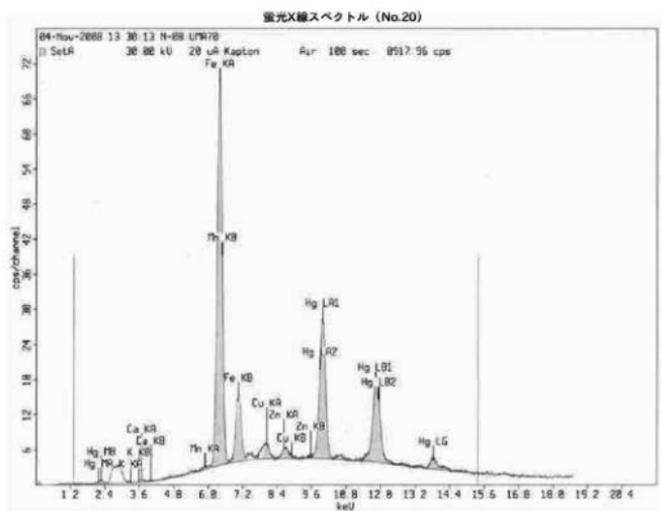
3点とも赤色顔料は朱(HgS)。励起条件を幅広く設定しているためエネルギーの弱い軽元素の感度は低く、全体に重元素であるFeの漆からのピークが強く出ている。



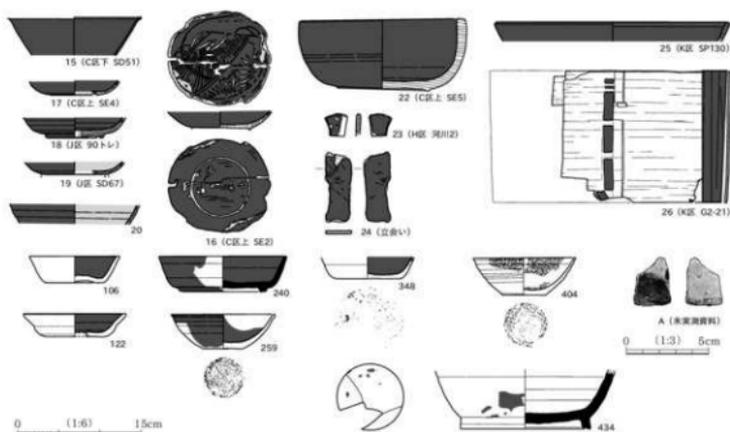
第 27 図 赤外線吸収スペクトル



第28図 蛍光X線スペクトル (1)



第29図 蛍光X線スペクトル (2)



第30図 分析漆器実測図

## 3) 小 結

新潟県加茂市馬越遺跡出土の漆器および関連遺物の分析結果を紹介してきたが、漆器の塗装工程について要点を整理し、若干の漆器考古学的考察を加えてまとめたい。

## a 古代漆器（平安期）

## No.24 折敷（総黒色系）

①漆層②漆層

## No.15 椀ないし皿（総黒色）

①布着せ層②地の粉（鈹物粒子）漆下地層③黒色漆層④地の粉（鈹物粒子）漆下地層⑤黒色漆層⑥黒色漆層

## No.25 鉢ないし大盤（総黒色系）

①地の粉（鈹物粒子）漆下地層②漆層

## No.26 曲物（総黒色系）

①漆層

No.15（椀ないし皿、総黒色漆）は、中国製陶磁器ないし佐波理写しと考えられるもので、布着せ+地の粉（鈹物）漆下地2層（二辺地）に、黒色顔料（油煙）を含む黒色漆2層を塗り重ねた上品である。地方出土例としては極めて重要な資料といえる。No.23（器形不明、総黒色漆）は黒色漆を下地から上塗り漆まで塗り重ねる珍しい例。

No.25（鉢ないし大盤、総黒色漆）は、下地の上は上塗り漆1層の簡素なものだが、下地の地の粉（鈹物粒子）に炭粉粒子が含まれる特徴的なもので、類例は極めて限られている。地の粉+炭粉漆下地の類例は、いまのところ長岡京左京四条二坊出土（8世紀末）の大鉢、官衙関連遺跡と推定される新潟県胎内市船戸川崎遺跡（8世紀後半～9世紀前半）の盤ないし高杯、石川県かほく市指江B遺跡の鉢、中世では広島県福山市草戸千軒町遺跡の存器といった程度である。これは中尊寺金色堂左右の須弥壇の螺鈿の隙間を埋めるため使用された「黒色漆地の粉」と呼ばれたものと同一と考えている。11世紀の平等院（京都府宇治市）では確實に使用されており、伝世品では鳳凰門文螺鈿唐櫃（東京国立博物館）、蒔絵箏（奈良泉春日大社）、沃懸地螺鈿毛抜形太刀（奈良泉春日大社）といった、平安時代第一級の漆器にも用いられている<sup>4)</sup>。

## b 中世漆器（13～14世紀か）

## No.22 椀（総黒色系）

①漆層②漆層③漆層④漆層⑤漆層

## No.16 椀（総黒色系）

①炭粉漆下地層②漆層。

## No.17 皿（総黒色系）

①炭粉漆層

## No.19・20 椀（内面赤色）

内面①炭粉漆下地層②漆層③朱漆層

外面①炭粉漆下地層②漆層③漆層

## No.18 椀（総黒色系）

①炭粉漆下地層②漆層

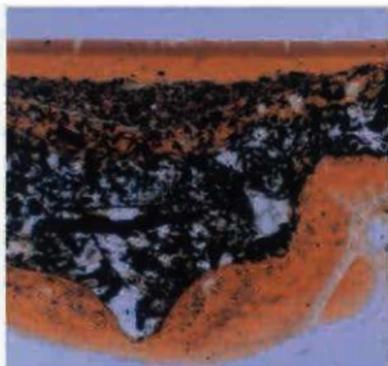
No.22 (機、総黒色系) は在地的な器形で、塗りも下地粉がなく漆5層となっている。No.17 (皿、総黒色系) は通有炭粉漆下地となるものだが、これだけで完了している珍しい例。洪下地漆器は No.16 (機、総黒色系) と 18 (機、総黒色系)。No.16 の朱漆絵による内面の扇文の意匠は左右の親骨の先に土坡を描いて天・山・谷の弧線をつなぎ、扇面を片身替わりとする。左面は土坡に笹竹、右面は中骨の細線を引くが、要の部分も土坡にして、ここから中骨が四方に生え出る様に描いている。こうした加飾は優れた意匠性を有する事例として高く評価できる。No.19・20 は内面朱漆塗りの漆下地漆器。椀筒底であるところからみて 14 世紀代の可能性がある。

以上、要点を整理して紹介してきたが、馬越遺跡の平成 18 年度調査では、平安時代の掘立柱建物跡、河川跡などが検出され、遺物では古代地方官人が所持する跨帯金具や「三宅」銘の墨書土器などが出土している<sup>5)</sup>。加えて中国製陶磁器ないし佐波理写しの漆器、漆パレット、燈明油付着土器の出土は官衙関連遺跡としての性格が濃厚といえよう。漆器の年代については平安期といっても時期差があると思われるので、伝世品を含むものとみるのか、今後の検討を待ちたい。なお、古代出土漆器と遺跡の性格については、先の報告書で取り上げたので参照いただければ幸いである<sup>6)</sup>。

末筆ながら本稿作成に当たっては、加茂市教育委員会伊藤秀和氏からなにかと便宜をはかっていただいた。厚く御礼申し上げる。

## 註

- 1) 尾崎幸洋 『分光学への招待』産業図書 1997
- 2) 山田富貴子 『赤外線吸収スペクトル法』『機器分析のてびき』化学同人 1988
- 3) SILVERSTEIN・WEBSTER、荒木峻・益子洋一郎ほか訳 『有機化合物のスペクトルによる同定法—MS、IR、NMR の併用 第 6 版』東京化学同人 1999
- 4) 四柳嘉章 『漆 I』法政大学出版局 2006
- 5) 伊藤秀和 『馬越遺跡の発掘調査速報』『加茂郷土誌』第 29 号 2007 ほか
- 6) 四柳嘉章 『新潟県加茂市馬越遺跡出土漆器の科学分析』『馬越遺跡—国道 403 号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告—』加茂市教育委員会 2005  
四柳嘉章 『新潟県加茂市馬越遺跡・太田遺跡出土漆器の科学分析』『加茂市文化財調査報告 (15) 加茂市内遺跡確認調査報告書』加茂市教育委員会 2005



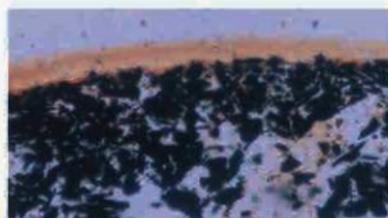
No.24 内面

×260



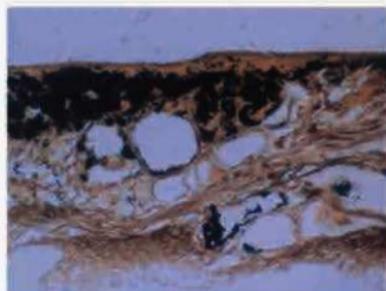
No.22 内面

×260



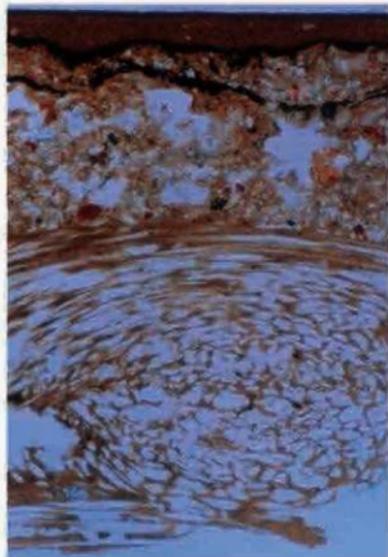
No.16 外面

×520



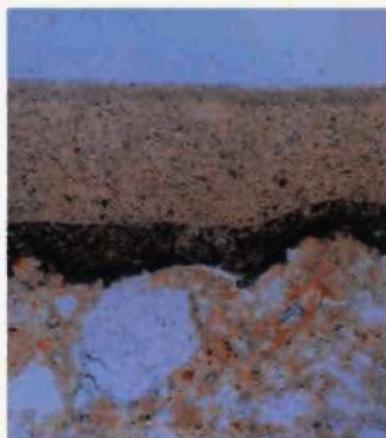
No.17 内面

×260



No.15 内面 (布着せ)

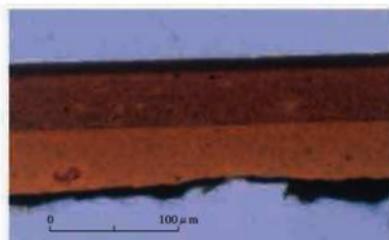
×130



No.15 内面 黒色塗層拡大

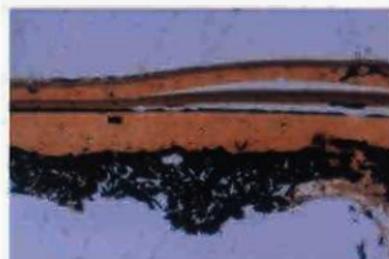
×520

第 31 図 漆器塗膜層断面の顕微鏡写真 (1)



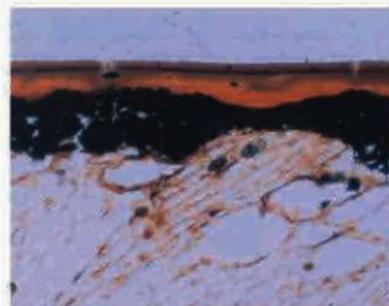
No.23 内面

×260



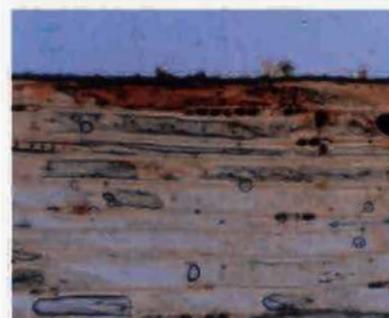
No.19 外面

×260



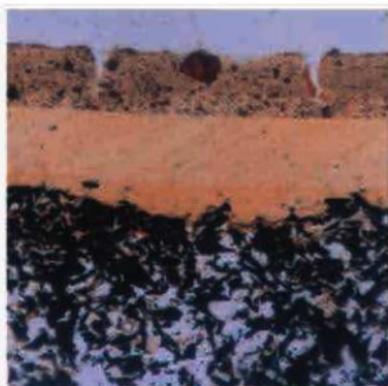
No.20 外面

×260



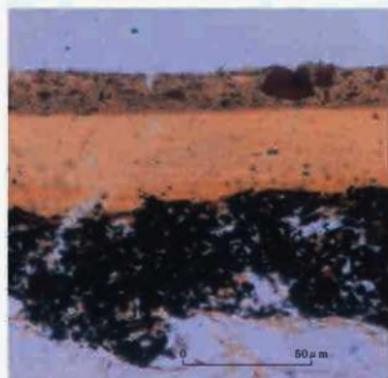
No.26 内面

×130



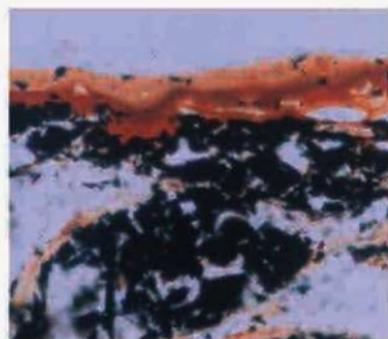
No.19 内面

×520



No.20 内面

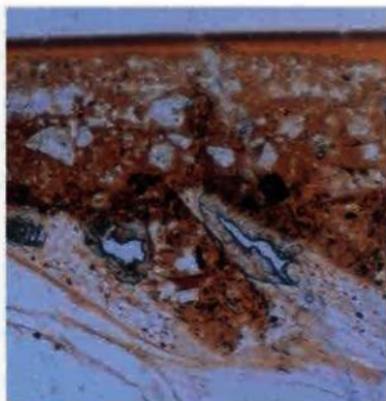
×520



No.18 内面

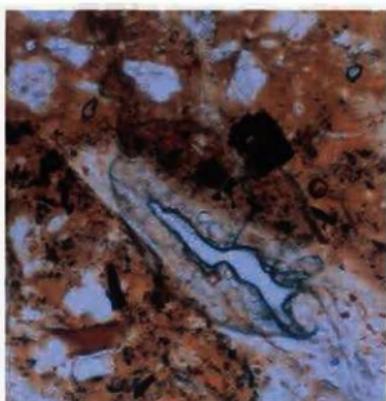
×520

第 32 図 漆器塗膜層断面の顕微鏡写真 (2)



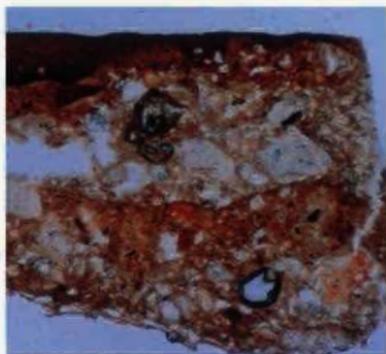
No.25 外面

×260



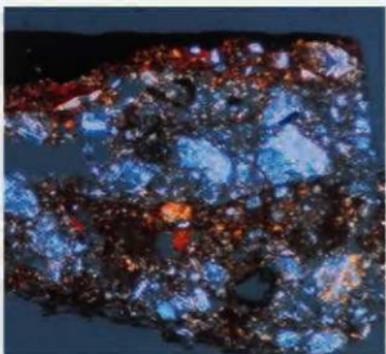
No.25 外面 (地の粉塗層に炭粉)

×520



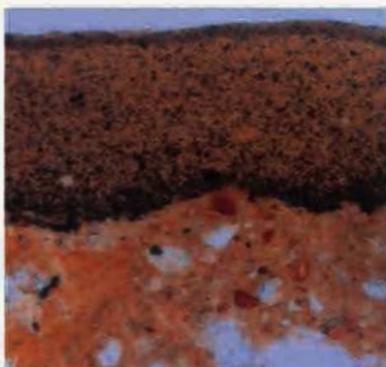
No.25 内面 (二辺地)

×130



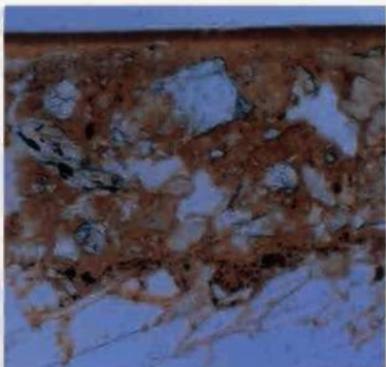
No.25 内面

(+ニコル) ×130



No.25 内面黒色塗層拡大

×520



No.25 内面 (下層に炭粉)

×260

第 33 図 漆器塗膜層断面の顕微鏡写真 (3)

## 第七章 ま と め

### 1 井戸跡について (第34～37図)

今回の調査では、古代はC区2基、J区1基の合計3基、中世はC区7基、E区1基の合計8基の井戸跡を確認している。国道バイパス本線の調査区域から古代の井戸跡が14基確認されており、馬越遺跡全体で、古代に限れば合計で17基、古代、中世の合計では25基となる。時期の不明瞭なもの、発掘していないもの、底面の調査について不十分であるなど多くの課題を含んでいるが、今後の比較検討のために総括的に再検討しておくたい。

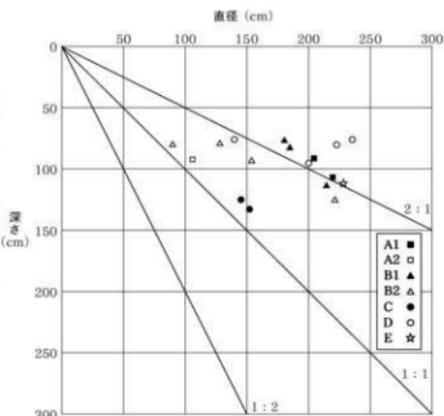
ところで、井戸をめぐっては様々な時点での祭具や祭祀行為が目ざされている。駒見和夫氏は新潟県内の地域的事例の検討から、3つの画期を指摘している〔駒見1992〕。それに従えば、第1の画期は完形の杯が祭祀に用いられるようになる律令体制に移行する7世紀前半頃、第2の画期は完形の杯を埋納する律令的祭祀形態が放棄され、陰陽道による呪術的な祭祀が井戸をめぐる祭祀で行なわれるようになる平安時代前期と後期の間、第3の画期は民衆生活への陰陽道の浸透によって行なわれた呪術的祭祀が急速に衰退する段階で、戦国時代の15世紀後半に求められるとしている。分析の視点は、出土遺物(祭具)の構成や位置(層位)、覆土(埋土)中で炭化物を含む層や黒色土系の土層の堆積状況などである。今回もその視点を継承しながら、各時期別に平面形と断面形からの分類を行い、各々の出土遺物と出土層位に留意しながら検討を加える。時期的に古代から中世へは連続していないが、一遺跡内でその推移を検討できる点は重要である。検討する25基はすべて駒見氏の示された、第1～第2と第2～第3の画期の中に位置付けられることになる。

古代の井戸 すべて素掘りの井戸である。平面・断面形及び第34図の直径と深さの計測から、第16表のとおり、A～Eの5類に大別した。

A類は断面形が箱状またはU字状のものとした。直径と深さの比率が2:1に近いA1類と1:1に近いA2類に分類した。B類は断面形が台形状のもの。直径が1.8～2.2m前後のB1類と0.9～1.5m前後のB2類に分類した。C類は断面形が漏斗状のもの。D類は断面形が半円状のもので、直径と深さの比率が2:1ないしはそれ以下に集中する。確認面

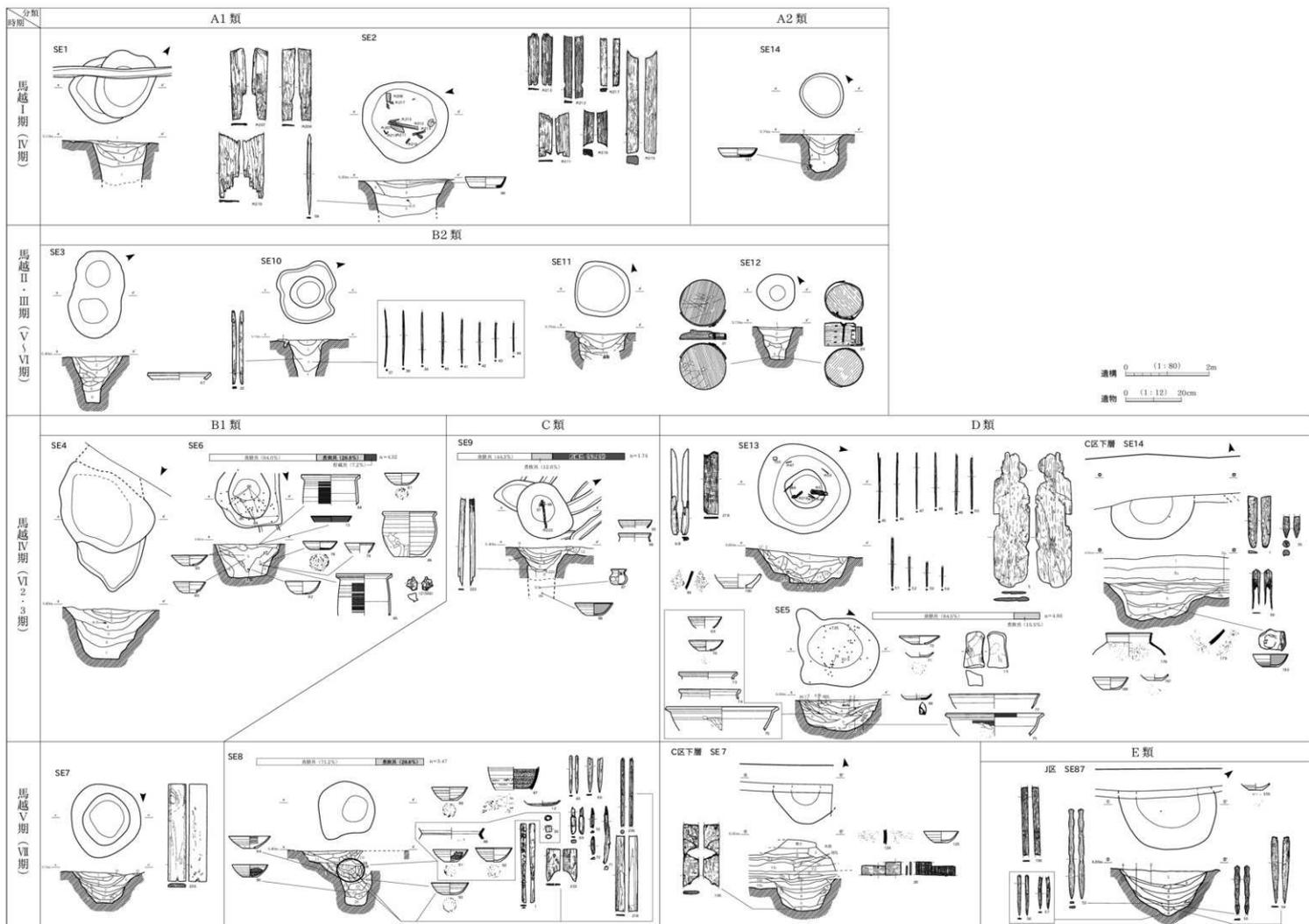
分類	平面形	断面形
A	円形・楕円形	箱状・U字状
B	楕円形	台形状
C	楕円形	漏斗状
D	円形・不整形	半円状
E	楕円形	V字状

第16表 井戸(古代)の分類



第34図 井戸(古代)の計測値





第35図 馬越遺跡の井戸と出土遺物(古代)

腐植物を含んだ土層が多い。出土遺物は中央部の中層に集中する。箸状 10 本、榎などの木製品が中心で、他に小刀がある。土器は少ない。SE5 は覆土中部に炭化物を多量に含んだ黒色土が堆積し、土器を多く出土した。墨書土器が 1 点見られる。大型破片は少ない。他に砥石、鉄洋、桃核、胡桃などが出土している。C 区下層 SE14 は覆土のほとんどが黒色腐植物層で占められる。出土遺物も土器、木簡、栓、斎串、棒状などの木製品が多く出土した。

馬越 V 期（Ⅶ 1 期：10 世紀前半頃）L 字状に配置された建物跡や特殊遺物などから富豪層の屋敷跡と推測される時期である。やはり多様な類型の井戸が確認される。B1 類の SE7 は覆土上部に腐植物層が見られる。出土遺物は土器が数点と用途不明の木製品が 1 点と少ない。C 類の SE8 は、覆土がブロック状に堆積し、上～中部にかけて腐植物層や黒色土層が顕著に見られる。出土遺物も多く、土師器無台碗内面にタールが付着したものや木簡、斎串、刀子形、付け木など祭祀に関係したと見られるものが多い。D 類の C 区下層 SE7 は C 区下層 SE14 と同じく覆土のほとんどが黒色腐植物層で占められる。出土遺物も比較的多く、大型破片は少ないが土器、曲物、底面からは板状木製品が出土している。E 類の J 区 SE87 は炭化物を多量に含んだ黒色土層が覆土中～下部にかけて堆積する。土器の出土は少なく、下部から大～小の斎串が 5 点出土した。

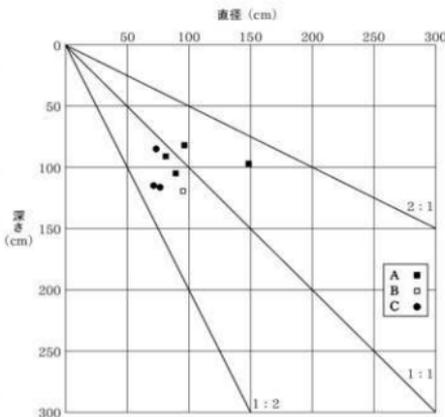
以上の状況を整理すると、馬越 I 期の井戸は、覆土上部に炭化物を混入し、下部に腐植物層が堆積する傾向があり、出土遺物は少ないながら、杯形土器や斎串、邪気を払うとされる桃核やヒョウタンなどから律令祭祀の一端を示す。馬越Ⅱ・Ⅲ期では覆土の堆積状況は I 期と共通する面も多いが、出土遺物に全く大型の土器片が見られず、SE10 から出土した箸状木製品や桃核などにのみ祭祀行為の残影を留める。馬越Ⅳ期になると形態も多様な井戸が出現し、腐植物層、黒色土層がより厚く顕著に堆積するようになる。出土遺物も多彩となり、土器を中心とする SE5・6 や木製品が中心となる SE13、土器、木製品ともに多い SE14 がある。木製祭祀具は馬越Ⅱ期と箸状木製品が共通する。斎串の代用であろうか、他は統一的な感じは見せない。馬越Ⅴ期では形態などは馬越Ⅳ期とほぼ同じであるが、新たに E 類が出現し、土器は食膳具がやや多くなる傾向にあり、木製祭祀具も斎串の出土が目立つようになる。

このことから、古代の井戸は形態及び祭祀具について、各時期を通して一律ではないことが、まず確認される。駒見氏が指摘された第 1～第 2 の画期間において、同一遺跡内においても様々な変化がある。大まかには、A1・2 類→B2 類→B1・C・D・E 類と変遷し、一部を除き馬越Ⅳ・Ⅴ期の B1・C・D 類に土器が多く出土する傾向がある。それは、杯・碗の食膳具が主体ではあるが限定されず、煮炊具、貯蔵具なども一定量を占めることが注意される。木製祭祀具においても、馬越Ⅰ期で見られた斎串は、馬越Ⅱ・Ⅲ期には出土がなく、箸状木製品が取って代わる。馬越Ⅳ期では C 区下層 SE14 に 1 点斎串状の木製品があるが、非常に薄手で斎串がどうかやや疑問が残る。そして、井戸祭祀に限れば、馬越Ⅴ期に再度、斎串が出現するという流れが想定できる。この変化を指標とすれば、I 期とⅡ・Ⅲ期の間、箸状木製品は共通するが、Ⅱ・Ⅲ期とⅣ期の間にそれぞれ画期が指摘できそうである。Ⅳ期とⅤ期は E 類と斎串の再登場を除けば、大きな変化はないものと考えたい。泉内の木製祭祀具を時期別の変遷を概観した長沼吉嗣氏によれば、9 世紀前半頃、斎串以外の出土数が減少する傾向にあることから、律令体制の弛緩と王朝国家体制への移行、集落再編との関連性を指摘されている [長沼 2008]。馬越遺跡の井戸から垣間見えた変遷の背景には、そうした社会体制の変質が影響を与えたことは間違いないであろう。しかし、当然のことながら、越後国全域で、齊一的に同様の変遷が見られるわけではなく、様々なバリエーションの中で、当遺跡の内容を理解し、他遺跡との比較、検討を進める必要があろう。

**中世の井戸** すべて素掘りの井戸である。主に平面形から、第18表のとおり、A～Cの3類に大別した。A類は平面形が方形、B類は楕円形、C類は円形とした。断面形はほとんどが箱状となる。直径1m未満のものが主体となり、古代の井戸より一回り小さくなる。第36図のとおり直径と深さの比率は1:1付近に集中する。深さも1m前後にまとまる。深さは古代の井戸と大差はないようである。覆土(埋土)は水平やブロック状に堆積するものが多く、人為的な埋め戻しが強く想定される。また、ほとんどが覆土中～下部に腐植物層が見られる。

第37図・第19表から各類の特徴を記す。A類は4基確認された。SE1の出土遺物は珠洲焼播鉢が底面付近から出土したのみである。SE2では中央付近で覆土中程からほぼ完形の漆器椀が出土した。他に箸状木製品が少量見られる。SE3は6・7層から多様な木製品が集中して出土した。SE7は覆土上部から珠洲焼、砥石などが出土した。木製品の出土はない。B類は1基のみである。SE6からは覆土中程から大きな板状の木製品がまとまって出土した。さらに下層から漆器片も出土している。C類は3基確認された。SE4は覆土下部から漆器、箸状などの木製品がまとまって出土した。SE5は覆土中程から曲物と板状、箸状木製品が、最下層からは漆器が出土した。SE15は覆土上部から砥石、中程から柱根、最下部からは礫、炭化・灰化した植物遺体が出土している。

以上のとおり、遺物の出土状況、内容からは決まったパターンは見出しがたいが、強いて言えば、土器類や石器の埋納は少ないが覆土上層から出土する例が見られること、漆器、箸状を主体とした木製品が覆土中程から下部にかけて見られることなどが指摘される。古代の井戸と比較すると、規模や形態のバリエーションが少なくなり、ある程度の規格性も窺える。覆土も水平堆積が顕著となり、出土遺物も土器類が極めて少なく、漆器や箸状木製品が中心となるなど、大きく様相を異にする。検討した中世の8基の井戸



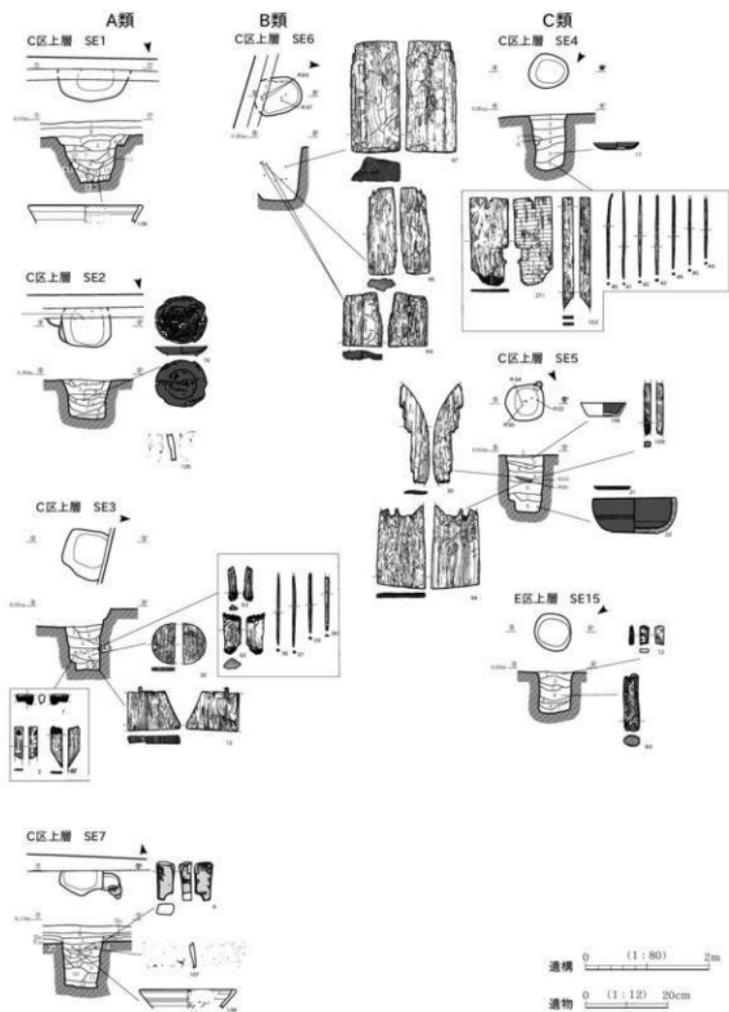
第36図 井戸(中世)の計測値

分類	平面形	断面形
A	方形	台形・箱状
B	楕円形	箱状
C	円形	箱状

第18表 井戸(中世)の分類

時期	調査区	遺構名	分類	平面形	断面形	覆土	出土遺物														備考						
							珠洲焼		木製品		漆器						種子										
							器	鉢	器	器	箸	漆	漆	漆	漆	漆	漆	漆	漆	漆							
中世	C区	SE1	A	方形	台形	ブロック状	○																				
	C区	SE2	A	方形	箱状	レンズ状	○					2															
	C区	SE3	A	方形	箱状	水平	○	○		21		○	○	○	○	○											
	C区	SE7	A	方形	箱状	ブロック状	○	○																			
	C区	SE6	B	楕円形	箱状																						
	C区	SE4	C	円形	箱状	水平					26						○										
	C区	SE5	C	円形	箱状	水平					27						○	○									
	E区	SE15	C	円形	箱状	レンズ状																			○		

第19表 馬越遺跡の井戸(中世)



第 37 図 馬越遺跡の井戸と出土遺物 (中図)

はほぼ13～14世紀頃の同時期ものであることから、細かな変遷は不明であるが、先の駒見氏の指摘された第2の画期以降の一例として逸脱しない内容であろう。なお、集落形態の変化に伴う、井戸の所有形態については調査面積の制約もあり、今後の課題としておきたい。

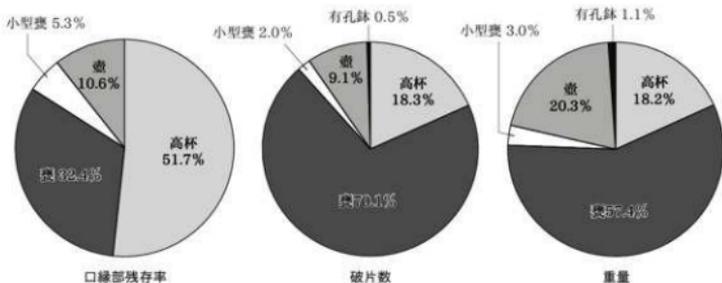
## 2 土 器

### A 古墳時代中期の土器について

ここでは、A区河川1・2から出土した土器を一括資料と考え、その編年の位置について比較検討したい。確認された器種は、高杯・壺・甕・小型甕・有孔鉢がある。第38図は口縁部残存率計測法〔宇野1992〕を用いた口縁値・破片数・重量から見た器種別構成比率である。口縁値から見た組成比は高杯が51.7%と半数以上を占め、次いで甕が32.4%、壺が10.6%、小型甕が5.3%となる。破片数、重量から見た組成比率は甕が多くを占める。高杯では段を持つ杯部や中膨らみの畿内系の屈折脚が指標となる。壺は退化した二重口縁で、甕などもつくりが雑なものが多い。壺、甕、小型甕にヘラケズリが多用される特徴がある。

近年の古墳時代土器編年のベースになっている代表的な研究は、川村浩司氏により上越市の関川下流右岸域を中心に組み立てられた1～16段階の編年案〔川村2000〕（以下、川村編年とする）がある。それに従えば、本遺構出土土器は器種組成や形態から「各種小型埴類が多数出現する段階」である9段階と資料が豊富ではないが「受部が内湾する小型器台の存在」する5～7段階の間、すなわち8段階に比定できる可能性が高い。ただし、器種組成から小型壺が欠けている点は相違する。これまでの新潟県での編年に対比すれば、川村編年8段階は聖籠町山三賀Ⅱ遺跡での坂井編年の古墳Ⅲ期〔坂井1989a〕、品田編年Ⅲ期1段階〔品田1992〕、上越市一之口遺跡での春日編年Ⅳ期〔春日1994〕に相当する。また、それぞれの編年の基軸とも言える石川県漆町遺跡での漆町編年12群〔田嶋1986〕に対比される。

県内の該時期の資料は、これまで多くはない状況であったが、近年増加傾向にある。近いところでは、新潟市沖ノ羽遺跡Ⅱ〔星野ほか1996〕、沖ノ羽遺跡Ⅳ〔立木ほか2008〕、舟戸遺跡〔川上1995〕と旧新潟市域でまとまった資料がある。8～9段階を中心とした土器と見られる。また、阿賀北地域ではあるが、胎内市反貫目遺跡土器集中区Ⅰ～Ⅲ〔寺崎・佐藤ほか2004〕、同じく胎内市六斗蒔遺跡〔岡安・大谷ほか2005〕にも同時期の土器が出土している。とくに、反貫目遺跡と六斗蒔遺跡では編年の位置について考察がなされ、両遺跡で屈折脚高杯A類が存在し、調整不良な点は共通するが他の高杯の器種や形態差、杯・



第38図 A区河川1・2出土土器組成図

碗類の有無を相違点とし、反貫目遺跡を8段階、六斗蒔遺跡を9段階としている。

このように各地で良好な資料が蓄積されつつある現状において、A区河川1・2出土土器は、蒲原地域、特に南部における古墳時代中期の一括性の高い土器群として位置付けておきたい。

## B 平安時代の土器について

馬越遺跡からは既往の調査により、奈良～平安時代の長期に渡る時期の土器が出土し、口縁部残存率計測法〔宇野 1992〕を用いて、主要遺構の構成比率の検討や器形、須恵器の産地などを考慮し、『新潟県の考古学』で春日真実氏によって整備された編年のⅣ～Ⅶ期〔春日 1999〕を基に、馬越Ⅰ～Ⅵ期を設定した〔伊藤 2005a・2009〕。今回の調査区から出土した土器は、遺構から一括性の高い状態で出土した土器群が少なく、法量を求められる資料も少ない。土器はこれまでと同様にⅣ～Ⅶ期にかけて出土しているが、比較的資料がまとまっているⅥ～Ⅶ期の土器群について検討を加えたい。

**器種別構成比率** B区SD4(Ⅵ1期)・C区下SE14・D区SK80・K区SK74(Ⅵ2・3期)・C区下SE7・J区SK15・J区SD71(Ⅶ1期)の器種別、全体の種類別、機能別、食膳具の種類別構成比率を口縁部残存率(口残値)・破片点数・重量から求めた構成比率図を示す(第39～42図)。

B区SD4の器種別では口残値から土師器無台碗(33.8%)・須恵器無台杯(30.1%)が全体の半数以上を占め、破片数からは土師器無台碗のみで半数近くを占める。機能別構成比率の口残値からは食膳具が73.5%、煮炊具が6.0%、貯蔵具が20.5%となる。破片数及び重量からも食膳具の占める割合はほぼ変わらない。全体の種類別で、口残値からは須恵器と土師器がそれぞれ50%と拮抗するが、破片数、重量からはともに黒色土器が一定量を占める。食膳具の種類別構成比率は、口残値からは土師器59.0%、須恵器41.0%と土師器が優位となる。破片数、重量からも土師器が優位を占めるが、黒色土器が一定量を占めている。

C区下SE14の器種別では口残値から土師器無台碗(57.9%)・黒色土器無台碗(21.0%)が大半を占め、破片数からは土師器甕類が多く、重量からは須恵器甕の割合が多い。機能別構成比率の口残値からは食膳具が88.7%、煮炊具が7.5%、貯蔵具が3.8%となる。破片数からは煮炊具、重量からは貯蔵具の割合が増加する。全体の種類別で、口残値からは土師器と黒色土器で80%以上を占め、須恵器は15%以下となる。破片数からは土師器、重量からは須恵器の割合が増加する。食膳具の種類別構成比率は、口残値からは土師器65.3%、黒色土器23.7%、須恵器11.0%と土師器、黒色土器が優位となる。破片数、重量からもほぼ同様の傾向を示す。

D区SK80の器種別では口残値から土師器無台碗(74.5%)が多数を占め、破片数・重量からは土師器甕類が多くなる。機能別構成比率の口残値からは食膳具が82.1%、煮炊具が17.9%となる。破片数・重量からは煮炊具の割合が増加する。全体の種類別で、口残値からは土師器が90%以上を占め、須恵器は10%以下となる。破片数もほぼ同じ割合である。重量からは須恵器が増加する。食膳具の種類別構成比率は、口残値からは土師器90.8%、須恵器9.2%と土師器が大半となる。破片数からもほぼ同じで、重量では須恵器が増加している。

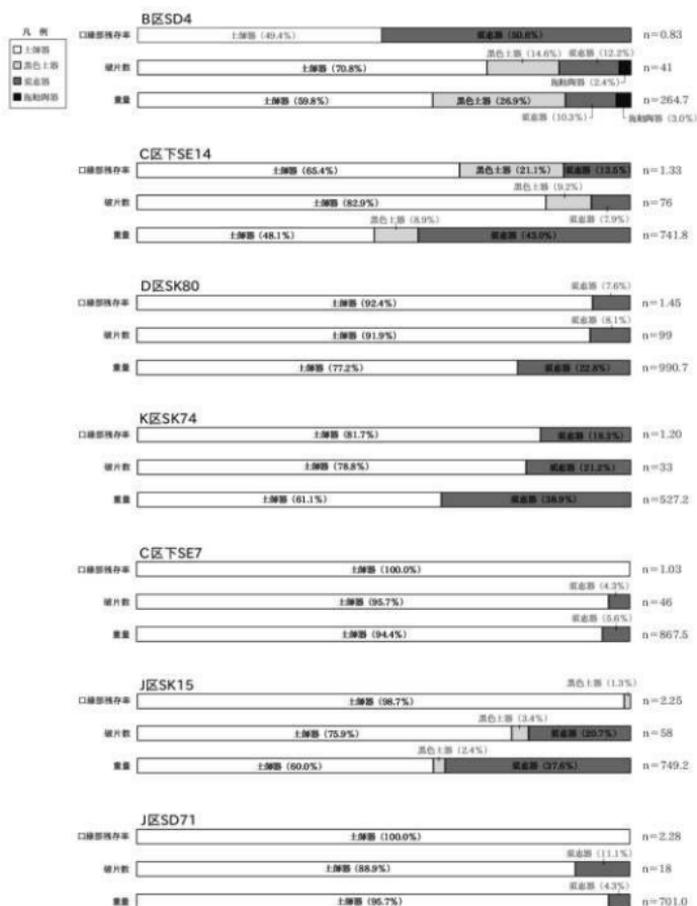
K区SK74の器種別では口残値から土師器無台皿(60.0%)、須恵器無台杯(18.3%)で全体の80%近くを占める。破片数からは土師器甕類が多く、重量からは須恵器甕の割合が多い。機能別構成比率はD区SK80とほぼ同様である。全体の種類別で、口残値からは土師器が81.7%、須恵器が18.3%となる。破片数もほぼ同じ割合である。重量からは須恵器が増加する。食膳具の種類別構成比率は、口残値からは土師器77.8%、須恵器22.2%となる。破片数では両者が逆転し、重量からは土師器が増加する。



C区下SE7の器種別では口残値から土師器無台椀(75.7%)、土師器長甕(24.3%)で全体を占める。破片数・重量からは土師器甕類が多くなる。機能別構成比率の口残値・重量からは食膳具が70%前後、煮炊具が25%前後となるが、破片数は両者が拮抗する。全体の種類別で、口残値からは土師器が100%で、破片数、重量からも土師器が90%以上を占める。食膳具の種類別構成比率は、口残値・破片数・重量ともに土師器が100%となる。

J区SK15の器種別では口残値から土師器無台椀(82.7%)、土師器小甕(14.7%)が大半を占める。破片数、

全体の種類別構成比率



第40図 主要遺構毎の全体の種類別構成比率図

重量からは須臾器が多くなる。機能別構成比率の口残値からは食膳具が84.0%、煮炊具が16.0%となる。破片数、重量からは煮炊具、貯蔵具の割合が増加する。全体の種類別で、口残値からは土師器が98.7%、黒色土器1.3%となる。破片数・重量では須臾器が増加する。食膳具の種類別構成比率は、口残値からは土師器が98.4%と大半を占め、破片数・重量からは須臾器が少量を占める。

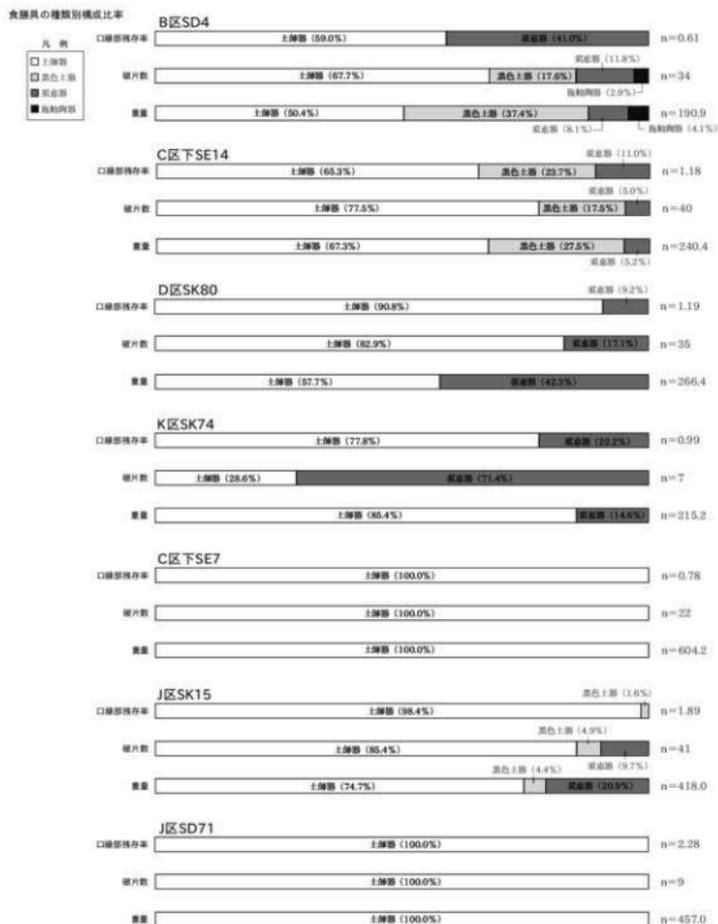
J区SD71の器種別では口残値から土師器無台椀が100%を占める。破片数・重量からは土師器長巻が多くなる。機能別構成比率の口残値からは食膳具が100%、破片数、重量からは煮炊具の割合が増加する。



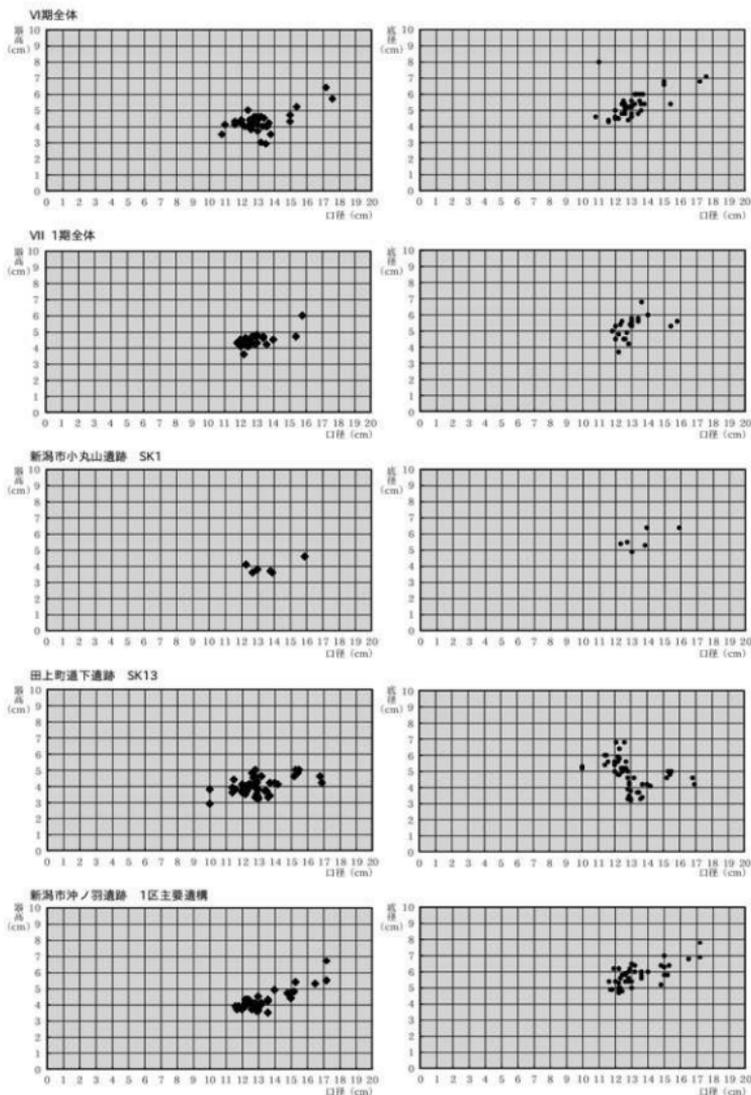
第 41 図 主要遺構毎の機能別構成比率図

全体の種類別で、口残値からは土師器が100%、破片数・重量では須恵器10%前後を占める。食器具の種類別構成比率は、口残値・破片数・重量ともに土師器が100%を占める。

口残値からの比率を中心に概観すれば、器種別では須恵器無台杯が一定量を占め、全体の種類別では須恵器と土師器がそれぞれ拮抗し、食器具の種類別構成比率からは土師器が6割、須恵器4割となるB区SD4のVI1期、各遺構によって黒色土器の組成に相違を見せるが、器種別では土師器無台碗、無台皿が増加し、須恵器無台杯が少なくなり、全体の種類別、食器具の種類別構成比率では土師器、黒色土器が増加し、須恵器が減少するC区下SE14、D区SK80、K区SK74のVI2-3期、器種別で土師器無台碗が



第42図 主要遺構毎の食器具の種類別構成比率図



第 43 図 土器器食道具の法量分布図

大半となり、須恵器無台杯などが見られなくなり、全体の種類別、食器の種類の構成比率ともほぼ土師器で占められるC区下SE7、J区SK15、J区SD71のⅦ<sub>1</sub>期へと変遷が窺える。これは、馬越遺跡でのこれまでの検討結果と矛盾しない比率を示している。

**器形・法量の検討** ここでは、上記した各遺構出土の土師器無台杯と合わせ、包含層出土資料も加えてⅥ期とⅦ期全体の法量分布図（第43図）を示す。

Ⅵ期では、器高指数21の無台皿（441）を除き、器高指数は23～40のものがあり、30・32・35の3種のまとまりを見せる。口径は11～17cm前後が見られるが、12～14cmのものが多い。器高は一部を除き、3～5cmの間にまとまる。底径指数は73の片口付無台碗（139）を除き、34～45のものがあり、37・38、40・41、44・45にまとまりを見せる。底径は一部を除き、4～6cm前後にまとまる。

Ⅶ<sub>1</sub>期では、器高指数は30～42のものがあり、33・37前後が多い。30以下のものは見られなくなる。口径は12～16cm前後が見られるが、Ⅵ期と同じく12～14cmのものが多い。器高は一部を除き、4～5cmの間にまとまる。Ⅵ期に比べ、一定の枠の中に収斂する傾向にある。底径指数は、30～50のものがあり、42～45にまとまりを見せる。底径は一部を除き、4～6cm前後にまとまる。

これらの指数などからすれば、Ⅵ期はⅦ期に比べ、法量分化が顕著であり、いくつかのタイプが見られるが、Ⅶ期にはまとまる傾向にある。また、Ⅵ期はⅦ期に比べ、器高指数の低いものが定量含まれ、Ⅶ期には器高がやや高くなる傾向がある。参考までに、Ⅶ<sub>1</sub>期の基準資料とされる新潟市小丸山遺跡SK1〔小池・本間1995〕と田上町道下遺跡SK13〔田畑1994〕、新潟市沖ノ羽遺跡1区主要遺構出土土器〔立木<sup>ほか</sup>2008〕についてそれぞれ法量分布図を作成した。馬越遺跡出土土器は、道下遺跡SK13に見える口径10cmと小型のものが見られないことや他遺跡よりも器高がやや高い点が相違する。

また、Ⅶ期になると土師器・黒色土器食器の作りが著しく粗雑になることが指摘〔春日1999〕され、新発田市の坂ノ沢C遺跡3期〔渡邊・田中2001〕、桑ノ口遺跡2期〔鶴巻・若林<sup>ほか</sup>2003〕、新潟市沖ノ羽遺跡〔立木<sup>ほか</sup>2008〕、長岡市下ノ西遺跡10期〔田中2003〕などでも同様の傾向が確認されている。馬越遺跡の資料についても、一部の資料については、器壁が厚いもの、ロクロナデによる凹凸や器形が歪むものなどが目立つようになることからすれば、同様の傾向にあることが首肯されよう。

## C 胎土E群須恵器について（第44図）

胎土E群の須恵器については、器形の特徴を考慮し、頸城郡の高田平野西部丘陵窯跡群と総称される地域に産地を求めたものである。加茂市内では馬越遺跡から2点〔本書〕、鬼倉遺跡から3点〔伊藤2001b〕の合計5点が頸城産の可能性が高いことを報告した。5点とも有台杯で、2～5は底部外面に糸切り痕を留める。1、4は底部から体部が鋭角に立ち上がる特徴を持つ。極めて少数ではあるが、他と異なる胎土や器形などから峻別されるものである。

第44図の6～15については、頸城郡以外の遺跡で、報告書で頸城産の可能性のあるものとして報告されたものや報告書の実測図から判断したものを含んでいる。かなり大雑把な提示であり、これ以外の遺跡からも出土している可能性が高い。6、7は見附市上田遺跡出土土器〔安藤2005〕である。ともに無台杯で底部外面に糸切り痕を留める。7は底部と体部の境が凹み、「二段底」〔小田<sup>ほか</sup>2006〕状となる。8は燕市江添E遺跡出土土器〔布施・平岡2000〕である。有台杯で、底部外面に糸切り痕を留める。9～11は新潟市釈迦堂遺跡出土土器〔江口<sup>ほか</sup>2000〕である。春日氏の論文中で、胎土C3群で頸城（四川左岸）産とされた〔春日2003b・2006〕。9、10は有台杯、11は無台杯である。11は底部外面に糸

切り痕を留め、底部と体部の境が凹み、7より明確な「二段底」となる。12は新潟市の場遺跡出土土器〔小池・藤塚1993〕である。有台杯で、底部から体部が鋭角に立ち上がり、底部外面には糸切り痕を留める。13・14は聖籠町山三賀Ⅱ遺跡出土土器〔坂井ほか1989〕である。13は有台杯で、底部から体部が鋭角に立ち上がり、底部外面には糸切りの可能性が示されている。14は無台杯で、底部外面に糸切り痕を留める。報告書では頸城末野窯の可能性も示されている。15は村上市三十刈・堂の下遺跡出土土器〔廣野1994〕である。有台杯で底部から体部が鋭角に立ち上がる器形である。

以上から、古志・蒲原・沼垂・岩船地域の遺跡から頸城郡産須恵器に類似した土器が出土する状況が窺える。器種は有台杯と無台杯に限定され、特に有台杯が多い。これは、特徴的かつ異質感を持ち、推測可能な器種が有台杯に多いことに起因するものであろう。時期はⅤ期を中心としている。なお、14は末野窯跡かとされる以外は、器形の特徴などから滝寺・大貫古窯跡群〔小田ほか2006・笹澤2003〕などを含む高田平野西部丘陵窯跡群産に類似するようである。この状況は、8世紀末に西部丘陵窯跡群での生産が活発となり、これ以降、頸城郡内の消費遺跡でも西部丘陵窯跡群産須恵器の流通が多くなる現象〔笹澤2002〕と関係する可能性がある。

これまで、頸城郡産須恵器の流通については、糸切りなどの技法が他郡の諸窯跡でも採用されていることや胎土からの分類も難しいことなどから、上記した資料が本当に頸城郡窯跡の資料かどうか確認がもてないこともあり、あまり積極的に取上げられることが少ない状況であった。しかし、馬越遺跡から見れば、特にⅤ期に食膳具に多量に流通した佐渡小泊窯跡産を別とすれば、他に新津丘陵窯跡、五頭山麓窯跡、西古志窯跡がほぼ同じような比率で組成に加わり、郡域を越えた須恵器の流入が確認される状況がある。ただ単に遺跡からの距離感で、頸城郡窯跡産の流入の可能性を無視してしまうことは、人・物の移動、交流について視野を狭めることになるのではないだろうか。まして、窯跡の基数から窺える生産体制の規模や膝下に推測される国府の所在を合わせ考えると、流通の実態やその背景にある問題を考えることは越後古代社会を検討する上で、重要と思われる。



第44図 頸城郡産と推測される須恵器

### 3 主要墨書土器などから見た馬越遺跡について (第45・46図)

馬越遺跡から出土した古代の文字資料の合計点数は、木簡3点、墨書土器81点、刻書・ヘラ書き33点である。ここでは、遺跡の性格を推測させるような主要墨書土器について時期別に見てゆく。

馬越Ⅰ期では、「三宅」墨書土器が目される。『統日本紀』延暦3年(784)に記された人物「三宅連笠雄麻呂」との関連も考慮されるが、多くは荘園関連の施設名を表すと考えられる。馬越遺跡は、成立当初から、荘園に関係した遺跡であったことが推測される。帯金具や石製分銅なども関連した遺物と見られる。他に「秋人」などの人名、物部氏の氏族名を表すと見られる「物」のヘラ書きが出土している。

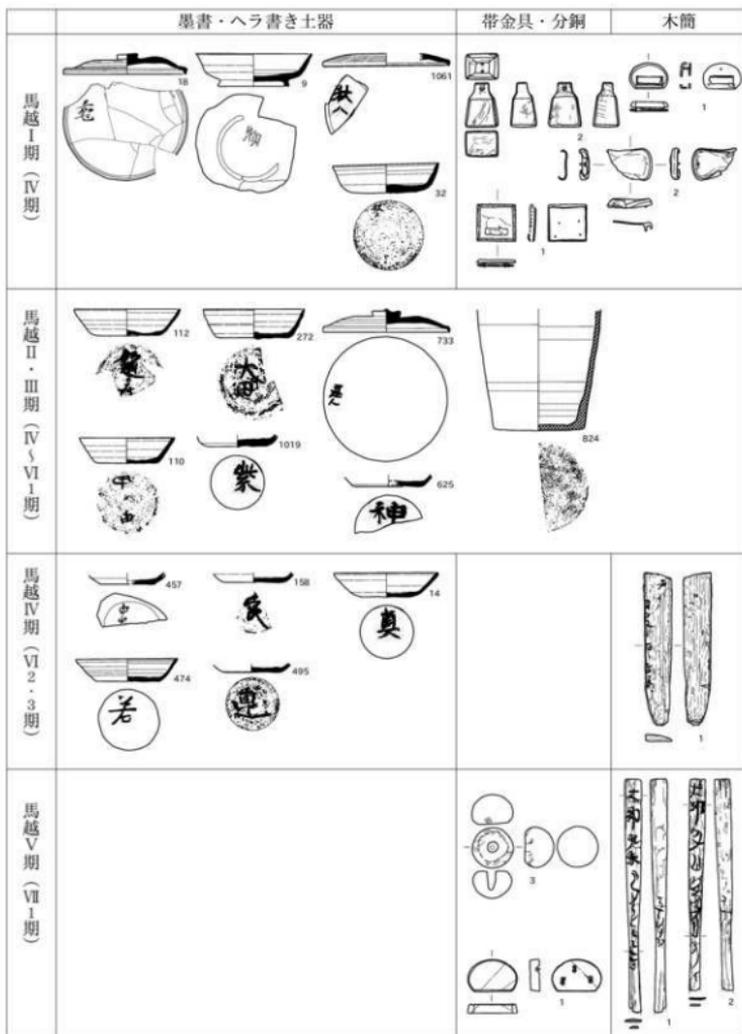
馬越Ⅱ・Ⅲ期になると、墨書土器が多く出土するようになるが、とりわけ「妙越庄」墨書土器が重要である。文献に記載された官大寺に施入された荘園とは異なる、初期荘園が存在した可能性を示唆する。「是人」の人名は、同時期の鬼倉遺跡からも出土しており、密接な関連が推測される。底部外面にその産地を示す「参河」とヘラ書きされた灰軸陶器も出土している。

馬越Ⅳ期では、「中家」墨書土器が目される。「家」は官衙関連遺跡や荘園などで、「東・西・南・北」の方位文字が記され、ある特定の建物を指す文字と考えられている。新潟県内では、これまで、施設名を記載したと見られる方位+「家」墨書土器としては、「東家」が上越市下新町遺跡、「西家」が新潟市小丸山遺跡、五泉市中田遺跡、「南家」・「北家」が長岡市八幡林遺跡で出土している[相沢2004・新潟墨書土器検討会2005]。「中家」は新潟県では初例となる。北陸地方では石川県寺家遺跡、戸水大西遺跡などから出土している[出越1998]。出越氏は石川県金沢市上荒屋遺跡の「東中家」、「東庄」墨書土器の検討から、「上荒屋遺跡から「庄」は一定の建物・土地を含んだ施設墨書であり、「中家」はそれに含まれる中心的な建物を指すと考えられる。」「[出越2006]としている。馬越Ⅱ・Ⅲ期の「妙越庄」と関わり、本遺跡の「中家」も中心的な建物を指す可能性が高いものと考えられる。出土地点から1番近い建物跡はSB11であるが、墨書土器の時期より古く、規模も小さい。調査区域外に存在する可能性もあるが、時期が同じで規模も大きなSB4(4間×2間、47.7m<sup>2</sup>)が候補のひとつとなる。「中家」墨書土器出土地点から約80mの距離があるが、建物西側に近接した土坑から「家」墨書土器が出土していることは注目される。

馬越Ⅴ期では、ほとんど墨書土器が見られなくなる。「丈部口家」、「丈部」と氏族名が記された木簡2点が注目される。また、権衡関連と見られる石製品や石製の丸柄などが出土しており、有力者の存在を推測させる。

このように、時期別に墨書土器を見ると、「三宅」→「妙越庄」→「中家」と遺跡の性格を推測させる文字が連続と出土している。石川県内の墨書土器の集成された成果によれば、横江庄遺跡、上荒屋遺跡、吉崎・次場遺跡と「家」と「宅」墨書が共存する点で共通する[中森・布尾・宮川・春田1998]。しかし、「三宅」、「庄」墨書が盛行する時期はほぼ同じながら、「家」墨書は石川県では馬越Ⅰ～Ⅱ期頃に多く、馬越遺跡よりも早い時期のものが主体となる点は異なる。

それにしても、石川県の荘園・官衙複合遺跡と類似した墨書土器の構成が見られることは、馬越遺跡が越後国蒲原郡を代表する荘園関連遺跡としての資質を埋蔵しているという評価・位置付けも許されるであろう。今後は共通の墨書土器を有する馬越Ⅱ期の鬼倉遺跡、馬越Ⅰ期の大型掘立柱建物跡が確認されている中沢遺跡、ガラス玉や炭化米などが出土した太田遺跡などの調査成果を検討し、馬越遺跡を核とした古代青海郷域の地域社会の動態を把握する必要がある。



第45図 時期毎の主要墨書・ヘラ書き土器と帯金具・分銅・木簡



第46图 主要特殊遺物出土分布图

## 要 約

- 1 馬越遺跡は新潟県加茂市大字下条字馬越甲 1763 ほかに所在する。
- 2 馬越遺跡は東山丘陵から約 2km 程離れた下条川左岸、標高約 6m の沖積低地に立地する。遺跡推定範囲は約 18 万 m<sup>2</sup> である。
- 3 馬越遺跡は平成 7 年の分布調査により発見され、これまでに国道 403 号線道路改良工事、交通連携事業に係わり、14,617m<sup>2</sup> の本調査が平成 10 年、平成 11 年、平成 18 年に行われている。今回の調査は県営古津川地区ほ場整備事業及び送ガス管移設工事に係わり、A～K 区の 11 調査区にまたがり、合計調査面積 3,615m<sup>2</sup> を対象に平成 17 年 9 月 29 日～11 月 14 日と平成 18 年 8 月 7 日～11 月 17 日に実施した緊急発掘調査である。
- 4 遺跡の現況は水田で、ところにより現地表面下約 30cm 程で中世の遺構・遺物が検出される。また、現地表面下約 1m 程で古墳時代中期～奈良・平安時代の遺構・遺物が検出された。
- 5 調査の結果、A 区の河川跡から古墳時代中期の土器が一括して出土した。C 区、E 区では 2 枚の生活面が確認され、上層面から鎌倉時代の集落跡が検出された。また、各区からは河川沿いに営まれた奈良・平安時代の大規模な集落跡の一部が検出された。土器の年代観から 8 世紀中頃～10 世紀前半頃までの約 200 年間営まれたと考えられる。
- 6 検出された遺構は、全体で掘立柱建物跡 1 棟、井戸 11 基、土坑 183 基、不明遺構 1 基、溝 410 条、ピット 516 基、河川・自然流路 13 条である。
- 7 井戸は古代が 3 基、中世が 8 基検出された。古代の井戸からは木簡や齋串など、中世の井戸からは漆器や箸などの多彩な木製品が出土しており、埋井の祭祀が推測される。
- 8 古墳時代中期の土器は、一括性が高く、加茂市周辺では希薄な時期の資料であり、貴重である。
- 9 古代の文字資料として、木簡 1 点、墨書土器 19 点、ヘラ書き土器 4 点が出土した。墨書では荘園の中心的施設との関連を示唆する「中家」が目玉される。
- 10 中国製陶磁器又は佐波理写しの漆器や鈔帯金具など、官衛の様相を示す稀少な遺物が出土している。
- 11 馬越遺跡は古墳時代中期頃には集落が営まれ、奈良時代の 8 世紀中頃以降に荘園・官衛関連遺跡として開発が進み、10 世紀前半頃までは古代蒲原郡青海郷における地域経営の拠点的な遺跡であった可能性が高い。その後、やや空白期をはさみ、鎌倉時代に再び開発立村される。

## 引用・参考文献

- ア 相沢 央 2004 『新潟県内出土土器土器の基礎的考察』『第9回新潟県土器検討会資料』新潟県土器検討会
- 甘粕 健・荒木勇次<sup>12a)</sup> 1989 『保内三王山古墳群 測量・発掘調査報告書』三糸市教育委員会
- 荒川隆史<sup>12a)</sup> 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書V 青田遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川隆史<sup>12a)</sup> 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第153集 一般国道49号安田バイパス関係発掘調査報告書I 大坪遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 安藤正美 2005 『見附市埋蔵文化財調査報告書第20 県営園場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II 上田遺跡』見附市教育委員会
- イ 飯坂盛泰<sup>12a)</sup> 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集 一般国道7号中条黒川バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- (社)石川県埋蔵文化財保存協会 1997 『石川県出土土器資料集成』
- 伊藤秀和 1996 『加茂市石川遺跡出土の線刻付き土師器について』『越佐補遺些』創刊号 越佐補遺些の会
- 伊藤秀和 1997 『加茂市文化財調査報告(7)平成8年度加茂市内遺跡確認調査報告書—丸湯遺跡 鬼倉遺跡 馬越遺跡 蚊口太遺跡 寺屋敷跡 馬寄遺跡—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 1998 『加茂市文化財調査報告(8)平成9年度加茂市内遺跡確認調査報告書—丸湯遺跡 新通遺跡 馬越遺跡 上條館跡 中沢遺跡 石川遺跡—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 1999 『加茂市文化財調査報告(9)平成10年度加茂市内遺跡確認調査報告書—たて原遺跡 蚊口太遺跡 草生津遺跡 伝涌泉寺跡遺跡 大塚遺跡 馬越遺跡 鬼倉遺跡—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2000a 『加茂川下流右岸域における奈良・平安時代の遺跡について—表探遺物の紹介から—』『加茂郷土誌』第22号 加茂郷土調査研究会
- 伊藤秀和 2000b 『加茂市文化財調査報告(11)平成11年度加茂市内遺跡確認調査報告書—たて原遺跡 古見遺跡 中沢遺跡 岩野原A遺跡 馬寄遺跡周辺地 山伏塚遺跡 舞台遺跡 横土居遺跡 稲荷浦遺跡 西吉津川遺跡 天神林地内—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2001a 『加茂市文化財調査報告(12)平成12年度加茂市内遺跡確認調査報告書—新田川遺跡周辺地 山通遺跡 中谷内遺跡周辺地 安曲遺跡周辺地 吉津川遺跡周辺地 新福遺跡 馬越遺跡—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2001b 『加茂市文化財調査報告(13)鬼倉遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2001c 『加茂市下条中沢遺跡発掘調査速報』『加茂郷土誌』第23号 加茂郷土調査研究会
- 伊藤秀和 2001d 『加茂市青海神社遺跡出土の柱状高台皿について』『越佐補遺些』第5号 越佐補遺些の会
- 伊藤秀和 2002 『鬼倉遺跡について(一)—沖積地に出現した古代の村—』『加茂郷土誌』第24号 加茂郷土調査研究会
- 伊藤秀和 2003 『加茂市における古墳時代の遺跡について宮ノ浦古墳・福島古墳群の歴史的環境を考える—』『加茂郷土誌』第25号 加茂郷土調査研究会
- 伊藤秀和 2005a 『加茂市文化財調査報告(14)馬越遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2005b 『加茂市文化財調査報告(15)平成15年度加茂市内遺跡確認調査報告書—西吉津川遺跡 馬越遺跡 太田遺跡 寺下遺跡 城下遺跡 伝下屋敷館跡 粥沢遺跡 中沢遺跡—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2008a 『荒又遺跡・太田遺跡発掘調査速報』『加茂郷土誌』第30号 加茂郷土調査研究会
- 伊藤秀和 2008b 『加茂市文化財調査報告(17)平成17年度 平成18年度 加茂市内遺跡確認調査報告書—丸湯遺跡 五反田地区 中沢遺跡 草生津遺跡—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2009 『加茂市文化財調査報告(18)馬越遺跡II—一般国道403号交通連携事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和・平岡和夫<sup>12a)</sup> 2000 『加茂市文化財調査報告(10)丸湯遺跡・新通遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』加茂市教育委員会・山武考古学研究所
- 伊藤秀和・立木宏明<sup>12a)</sup> 2006 『加茂市文化財調査報告(16)平成16年度加茂市内遺跡確認調査報告書—馬越遺跡 山原遺跡—』加茂市教育委員会
- ウ 宇野隆夫 1991 『律令社会の考古学的研究 北陸を舞台として』桂書房
- 宇野隆夫 1992 『食器計量の意義と方法』『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
- 宇野隆夫 2001 『在園の考古学』シリーズ 日本史のなかの考古学 青木書店
- エ 江口友子<sup>12a)</sup> 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第100集 北陸自動車道黒埼パーキングエリア改良工事関係発掘調査報告書 釈迦堂遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- オ 岡安光彦・大谷祐司<sup>12a)</sup> 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第143集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書VII 六斗苜遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小田由美子<sup>12a)</sup> 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第149集 上越自動車道関係発掘調査報告書XVI 滝寺古窯群 大貫古窯群』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

- 小山正忠・竹原秀雄 1997 『新版標準土色帖』 農林水産省農林水産技術会議事務局監修
- カ 春日真実 1991 『古代佐渡小泊室における須恵器の生産と流通』『新潟考古学談話会報』第8号 新潟考古学談話会
- 春日真実 1994 『第VI章まとめ 3. 古墳時代前期の土器』『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書IV 一之口遺跡東地区』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1995 『古代集落の展開—越後を事例として—』『研究紀要』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1999 『第4章—第2節 土器編年と地域性』『新潟県の考古学』高志書院
- 春日真実 2000 『第5章まとめ』『吉田町史』資料編1 考古・古代・中世 吉田町
- 春日真実 2001 『第VI章まとめ 2. 相島・出雲崎地域における7世紀末から10世紀の土器の変遷』『新潟県埋蔵文化財調査報告書第104集 国道116号埋蔵文化財発掘調査報告書 梯子谷窯跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2003a 『新潟県における古墳時代中・後期の土器様相—川村浩司氏の編年案の検討と資料の集成を中心に—』『第169回新潟県考古学談話会発表資料』
- 春日真実 2003b 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第123集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 神ノ羽遺跡Ⅲ(C地区)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2003c 『消費遺跡出土佐渡小泊室須恵器のクロ回転方向—越後出土の資料を中心に—』『研究紀要』第4号 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2005 『越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について—「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三敷編年」の検討を中心に—』『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 春日真実 2006 『新潟市釈迦堂遺跡出土土器について—越後における平安時代土器編年に関する予察—』『吉岡康輔先生古希記念論集 陶磁器の社会史』桂書房
- 春日真実 2007 『越後における古代の煮炊具について』『新潟考古』第18号 新潟県考古学会
- 春日真実 2008 『越後における古墳時代～中世の柱材について』『新潟考古』第19号 新潟県考古学会
- 春日真実ほか 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第104集 国道116号埋蔵文化財発掘調査報告書 梯子谷窯跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第202集 一般国道8号糸魚川東バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 六反田南遺跡 前波南遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学ほか 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第128集 北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅱ 仲田遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鐘方正樹 2003 『ものが語る歴史シリーズ』井戸の考古学』同成社
- 金子拓男 1983 『前原部の古代』『三条市史』上巻 三条市
- 金子正典 1998 『三条市文化財調査報告書第9号 来迎寺遺跡Ⅱ 農道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』三条市教育委員会
- 金子正典・田村浩司 1997 『三条市文化財調査報告書第8号 来迎寺遺跡 布施谷河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』三条市教育委員会
- 金子正典・田村浩司ほか 2000 『遺跡発掘調査速報展 発掘された三条の遺跡』三条市歴史民俗産業資料館
- 加茂市 2009 『加茂市のすがた 平成20年版』
- 川上貞雄 1995 『新津市文化財調査報告 舟戸遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 川村浩司 2000 『上越市の古墳時代の土器様相—関川右岸を中心に—』『上越市史研究』第5号 上越市
- 川村 尚ほか 2005 『小泊室跡群1』佐渡市教育委員会
- 栢森秀之 1997 『田上町文化財調査報告書第9集 向田遺跡 泉宮ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』田上町教育委員会
- キ 北野博司 1999 『須恵器貯蔵具の器種分類案』『須恵器貯蔵具を考える1 つぼとかめ 北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
- 鬼頭清明 1985 『古代の村』古代日本を発掘する6 岩波書店
- 木村宗文 1986 『越後国延喜式内社の所存をめぐって』『政治社会史論叢』近藤出版社
- 木村宗文 1988 『古代前原部の郷と式内社』『研究年報』No.35 新潟県立新潟中央高等学校
- 木村宗文 1991 『日本史教材としての八幡林遺跡出土木簡と高志君大虫の居住地に關して』『研究年報』No.38 新潟県立新潟中央高等学校
- ク 桑原正史 1985 『前原部人三宅達空雄麻呂の困窮者救済と北陸地方におけるミヤケ史料の分布』『巻町史研究』第1号 巻町
- 桑原正史 2005 『第1章 青海郷から青海往へ』『加茂市史』資料編1 古代・中世 加茂市
- コ 小池邦明・藤塚 明 1993 『新潟市の場遺跡 的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間杜吉 1995 『新潟市小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 駒見和夫 1992 『井戸をめぐる祭祀—地域的事例の検討から—』『考古学雑誌』第77巻 第4号 日本考古学会
- 小西昌志 2003 『北陸在園と墨書土器—横江庄の調査成果から—』『古代官衙・集落と墨書土器—墨書土器

- の機能と性格をめぐって— 独立行政法人 奈良文化財研究所  
 小西昌志・出越茂和<sup>126)</sup> 1993 『金沢市文化財要 106 東大寺領横江江推定地 上 上原遺跡(二) 奈良・平安時代(1)』 金沢市教育委員会
- サ 坂井秀弥 1984 『第VI章考察 1 今池遺跡群における奈良・平安時代の土器』『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 上 新バイパス関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ 今池遺跡・下 新町遺跡・子安遺跡』新潟県教育委員会
- 坂井秀弥 1989a 『第VII章まとめ 1 古墳時代の土器と遺跡』『新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥 1989b 『第VIII章まとめ 2 奈良・平安時代の土器』『新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥 1993 『古代越後の環境・生産力・特性』『新潟考古学談話会会報』第12号 新潟考古学談話会  
 坂井秀弥 1994 『加茂市青海神社遺跡の土器』『新潟考古学談話会会報』第14号 新潟考古学談話会  
 坂井秀弥 1996 『水辺の古代官衙遺跡—越後平野の内水面・舟運・漁業—』『越と古代の北陸 古代王権と交流3』名著出版
- 坂井秀弥 1999 『第4章—第1節 総論』『新潟県の考古学』高志書院  
 坂井秀弥<sup>127)</sup> 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 上 新バイパス関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ 今池遺跡・下 新町遺跡・子安遺跡』新潟県教育委員会  
 坂井秀弥<sup>128)</sup> 1989 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥・鶴岡正昭・春日真実 1991 『佐渡の須恵器』『新潟考古』第2号 新潟県考古学会  
 坂上有紀 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第118集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 笹澤正史 1998 『Ⅷ.付編 高田平野における平安時代前期の食膳具について』『保坂遺跡発掘調査報告書』上越市教育委員会
- 笹澤正史 2002 『3. 上越地方最大の須恵器窯跡群—末野・日向窯跡群—』『三和村史 自然・考古編』三和村
- 笹澤正史 2003 『29 滝寺・大貫古窯跡群』『上越市史 資料編2 考古』上越市
- 三条市教育委員会 2003 『藤ノ木遺跡発掘調査現地説明会資料』  
 三条市歴史民俗産業資料館 2004 『遺跡発掘調査速報展 2004』  
 三条市歴史民俗産業資料館 2005 『遺跡発掘調査速報展 2005』  
 三条市歴史民俗産業資料館 2007 『遺跡発掘調査速報展 2007—大地に刻まれた三条の歴史—』
- シ 品田高志 1992 『越後における古墳時代土器の変遷Ⅱ—前期土器編年の現状と編年試案—』『柏崎市立博物館報』No.6 柏崎市立博物館
- ス 鈴木郁夫 1984 『1 地形分類』『新潟県中越地域土地分類基本調査 加茂』新潟県  
 鈴木俊成・春日真実<sup>129)</sup> 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- セ 関 正平 1986 『福島の小古墳群について』『加茂郷土誌』第11号 加茂郷土調査研究会
- タ 高橋 保<sup>130)</sup> 1993 『和島村埋蔵文化財調査報告書第2集 八幡林遺跡』和島村教育委員会  
 高橋保雄<sup>131)</sup> 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第182集 北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅵ 岩ノ原遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田嶋明人 1986 『Ⅳ 考察—漆町遺跡出土土器の編年の考察—』『漆町遺跡』Ⅰ 石川県立埋蔵文化財センター
- 田中忠津子<sup>132)</sup> 2006 『三条市文化財調査報告書第15号 西古津川遺跡・白山B遺跡・府敬遺跡—県営ほ場整備事業古津川地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』三条市教育委員会
- 田中広明 2003 『地方の豪族と古代の官人—考古学が解く古代社会の権力構造—』KASHIWA 学術ライブラリー-01 柏書房
- 田中 靖 2003 『和島村埋蔵文化財調査報告書第14集 下ノ西遺跡Ⅳ—県営圃場整備事業(桐島側原地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』和島村教育委員会
- 田中 靖 2005 『和島村埋蔵文化財調査報告書第16集 八幡林遺跡Ⅳ—一般国道116号和島バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』和島村教育委員会
- 田中 靖・桑原陽一 1992 『和島村埋蔵文化財調査報告書第1集 遺跡発掘事前総合調査に係る埋蔵文化財調査報告書 八幡林遺跡』和島村教育委員会  
 田中 靖・桑原陽一<sup>133)</sup> 1994 『和島村埋蔵文化財調査報告書第3集 八幡林遺跡』和島村教育委員会
- 田畑 弘 1994 『田上町埋蔵文化財調査報告書第4集 大正川筋小規模河川改修事業及び道路新設事業埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 道下・白地遺跡』田上町教育委員会
- 田畑 弘 1997 『田上町文化財調査報告書第10集 新潟県営高生産性大区事業(田上郷地区)埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 大坪遺跡』田上町教育委員会
- 田村 裕 1993 『第三章 荘・保と武士の世』『新津市史 通史編・上巻』新津市

- 田村浩司 2004 『三条市吉津川遺跡・藤ノ木遺跡の調査概要』『新潟県考古学会第16回大会研究発表発表要旨』新潟県考古学会
- ツ 立木宏明<sup>12a</sup> 1999 『新津市埋蔵文化財発掘調査報告書 中谷内遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会  
立木宏明<sup>12a</sup> 2003 『新津市埋蔵文化財発掘調査報告書 結七島遺跡発掘調査報告書1』新津市教育委員会  
立木宏明<sup>12a</sup> 2008 『新津市埋蔵文化財発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅳ 第15次調査—県営圃場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8時発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 立木（土橋）由理子<sup>12b</sup> 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第91集 国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 牛道遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鶴巻康志・若林知美<sup>12c</sup> 2003 『新発田市埋蔵文化財調査報告書第27巻 桑ノ口遺跡 県営ほ場整備事業（新発田北部地区）に伴う埋蔵文化財調査報告書』新発田市教育委員会
- テ 寺崎裕助・佐藤優一<sup>12d</sup> 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第135集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅵ 反貫目遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 出越茂和 1993 『第7章考察 第2節北陸初期在圃の考古学的分析』『金沢市文化財紀要106 東大寺領横江荘推定地上瓦屋遺跡（二） 奈良・平安時代（1）』金沢市教育委員会
- 出越茂和 1998 『古代墨書土器の諸問題』『古代北陸と出土文字資料』（社）石川県埋蔵文化財保存協会
- 出越茂和 2006 『古代に伴う方位墨書土器—北陸を中心に—』『吉岡康暢先生古希記念論集 陶磁器の社会史』桂書房
- ナ 永井久美男<sup>12e</sup> 1994 『中世の出土銭—出土銭の調査と分類—』兵庫埋蔵銭調査会  
長澤展生<sup>12e</sup> 2004 『五泉市文化財報告（13） 能代川関係発掘調査報告書Ⅵ 中田遺跡』五泉市教育委員会・株式会社みくに考古学研究所
- 中島榮一 1981a 『7 石川遺跡』『三条市史 資料編第1巻 考古・文化』三条市  
中島榮一 1981b 『Ⅳ その他の主要遺跡』『三条市史 資料編第1巻 考古・文化』三条市
- 中島榮一・駒形敏朗・八戸枝茂 1973 『加茂市文化財調査報告（1） 千刈遺跡調査略報』加茂市教育委員会  
中森茂明・布尾幸忠・宮川彩子・春田幸忠 1998 『石川県出土墨書土器の基礎的検討』『古代北陸と出土文字資料』（社）石川県埋蔵文化財保存協会
- 長沼吉嗣 2008 『第Ⅷ章5 木製祭祀具について』『新潟県埋蔵文化財調査報告書第201集 一般国道253号上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅵ 延命寺遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 奈良国立文化財研究所 1985 『奈良国立文化財研究所史料第27冊 木器集成因縁 近畿古代編』奈良国立文化財研究所
- ニ 新潟古代土器研究会 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』  
新潟墨書土器検討会 2005 『第10回 新潟墨書土器検討会資料』
- ヒ 平川 南 2000 『墨書土器の研究』吉川弘文館  
廣野耕造 1994 『三斗・堂の下遺跡—県営ほ場整備事業（神林地第4地区）に伴う発掘調査報告書—』村上市教育委員会
- フ 布施智也・平岡和夫 2000 『吉田町文化財調査報告書第7集 江添E遺跡—吉田町米納津地内営排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』吉田町教育委員会・山武考古学研究所
- ホ 星野信明<sup>12f</sup> 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第80集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅱ（B地区）』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 細野高伯<sup>12g</sup> 2002 『新津市埋蔵文化財発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- ミ 水澤幸一 2005 『湯街道の遺跡群』『環日本歴史民俗学叢書12 古代の越後と佐渡』高志書院  
水澤幸一 2008 『越後国の律令祭祀—木製祭祀具を中心に—』『石川県埋蔵文化財情報』第19号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 水澤幸一<sup>12h</sup> 2001 『中条町埋蔵文化財調査報告書第22集 船戸坂田遺跡2次—主要地方道中条紫雲寺線改築工事に伴う発掘調査報告書1—』中条町教育委員会
- 水澤幸一<sup>12h</sup> 2002 『中条町埋蔵文化財調査報告書第24集 船戸川崎遺跡4次—主要地方道中条紫雲寺線改築工事に伴う発掘調査報告書Ⅱ—』中条町教育委員会
- 水澤幸一<sup>12h</sup> 2003 『中条町埋蔵文化財調査報告書第25集 船戸坂田遺跡4・5次 船戸川崎遺跡6次—県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅳ—』中条町教育委員会
- 水澤幸一・吉村光彦 2004 『中条町埋蔵文化財調査報告書第31集 屋敷遺跡2次—県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅷ—』中条町教育委員会
- モ 望月精司 1998 『古代の硯と墨書土器—石川県内の消費地資料における硯と墨書土器の出土傾向—』『古代北陸と出土文字資料』（社）石川県埋蔵文化財保存協会
- ヤ 山崎忠良<sup>12i</sup> 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第201集 一般国道253号上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅵ 延命寺遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ヨ 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館  
吉岡康暢<sup>12j</sup> 1983 『東大寺領横江庄遺跡』石川県松任市教育委員会・石川考古学研究会  
吉岡康暢<sup>12j</sup> 1996 『東大寺領横江庄遺跡Ⅱ』石川県松任市教育委員会  
西柳嘉章 2006 『ものとの人間の文化史131-1 漆1』法政大学出版局
- ワ 渡邊美穂子・田中耕作 2001 『新発田市埋蔵文化財調査報告書第23-2 坂ノ沢C遺跡Ⅱ（平安時代編） 県営広域営農団地農道整備事業（北陸原東部地区）関係発掘調査報告書』新発田市教育委員会  
渡邊忠雄 2006 『三条市水戸川遺跡採集の器台』『越佐補遺些』第11号 越佐補遺些の会

別表1 遺構観察表

発見遺構名	種類	間隔	写真枚数	位置	規模 (cm)			発見高さ (cm)	主軸方位	形状		葺土	柱距 (cm)		出土遺物	備考
					長さ	幅	深さ			平面形	断面形		長さ	幅		
SD1	溝	2・3	3	A3-5・10、R3-1	(186)	128～440	10	5.18	N43°W	低伏	レンズ状				底面粘土層、土層無白粉・土層	
SD2	溝	2・3	3	A3-10・15、R3-6・11	(164)	190～128	49	4.80～5.07	N56°W	低伏	レンズ状				六土土層高小溝、底面無白粉・黄	
SD3	溝	2・3	3	H7-5・10・14・15・19・20	(274)	116～132	11	4.07～5.06	N22°W	低伏	単層					
SD4	溝	2	2	H7-25,86、6C7-21	(206)	122～32	9	5.10	N36°W	低伏	単層					
SD6	溝	2・3	3	B9-10C8-6・11	(172)	120～28	8	5.11	N60°E	低伏	単層					
SD6	溝	2・3	3	B5-13・17・18・23	(154)	158	9	4.89	N53°W	低伏	単層					古式土層無溝
SP1	ピット	2	2	H7-9	(181)	110	8	5.07			単層					古式土層無溝
SP2	ピット	2	2	H7-9・10	22	17	6	5.08		横内形	単層					
SP3	ピット	2	2	H7-4	23	18	13	4.96		横内形	単層					
SP4	ピット	2	2	H7-4	26	16	6	5.00		横内形	単層					
SP5	ピット	2	2	H7-4・5	20	14	13	5.01		横内形	単層					
SP6	ピット	2	2	H7-4	23	18	8	5.05		横内形	単層					
SP7	ピット	2	2	H7-9	17	16	8	5.04		円形	単層					
SP8	ピット	2	2	H7-9	26	20	7	5.01		横内形	単層					
SP9	ピット	2	2	H7-25	17	16	3	5.17		円形	単層					
SP10	ピット	2	2	B4-22	22	16	10	4.76		横内形						
SP11	ピット	2	2	B5-2	(18)	(12)	8	4.81								
SP12	ピット	2	2	B5-2	28	22	8	4.84		横内形						
SP11	3X1	自然沈積	2・4	3・4	B3-21・22、B4-1・2・9・7・9・12・16・17	(166)	(184)	28	4.65～4.80	N56°W	低伏	斜位				古式土層高小溝・低伏・小形溝・有瓦片、木製品 (板状・棒状)
SP12	3X2				(124)	(474)	30～42	4.34～3.60	N68°W	低伏	レンズ状					
SP13	3X3	自然沈積	2・3	4	B5-23・24、B6-9・4・8・9・13・14・15・19	(168)	(556)	10～18	4.81～4.87	N53°W	低伏	単層				

発見遺構名	種類	間隔	写真枚数	位置	規模 (cm)			発見高さ (cm)	主軸方位	形状		葺土	柱距 (cm)		出土遺物	備考
					長さ	幅	深さ			平面形	断面形		長さ	幅		
SK1	土坑	5	5	K3-7・8	(137)	(18)	23	5.20		低伏	レンズ状					底面粘土層
SK2	土坑	5	5	G2-20・25、H2-16・21	(211)	(70)	12	5.06	N79°W (不整形)	低伏	レンズ状					底面粘土層、土層無白粉・土層・小溝
SK3	土坑	5	5	K3-5	(55)	(28)	15	5.14	N75°E (方形)	低伏	水平					底面粘土層、土層無白粉・小溝
SK4	土坑	5	5	D3-14・15	(55)	(24)	7	4.93	(円形)	低伏	単層					底面無白粉・土層粘土層
SK5	土坑	5	5	F3-2	(48)	(50)	14	5.08	N15°E (横内形)	低伏	単層					土層無白粉・土層・小溝、底面土層無白粉
SD1	溝	5・6	6	G2-22	(116)	150～65	10	5.20	N3°E	低伏	単層					
SD2	溝	5・6	6	G2-21・22	(114)	110～130	16	5.10	N11°E	自然状	単層					底面無白粉・溝、土層無白粉・長溝・小溝、底面土層無白粉
SD3	溝	5・6	6	J2-7・8	(113)	193～100	19	5.00	N6°E	自然状	単層					底面有白粉・横内形・溝、土層無白粉・長溝・土層無白粉
SD4	溝	5・6	6	J2-3・4・8・9	(113)	126～135	14	4.72	N2°W	自然状	単層					縁面無白粉・底面無白粉・小穴、土層無白粉・横内形・土層無白粉・長溝・小溝、底面土層有白粉、無白粉・土層有白粉・(底面)、木製品 (板状)、柴切 (ウツ)
SD5	溝	5	6	J2-4・5・9・10	(114)	108～124	23	4.66	N22°E	自然状	単層					底面無白粉・溝、土層無白粉・長溝・小溝、底面土層無白粉
SD6	溝	5	5	H2-13・14・18・19	(100)	120～130	26	4.80	N14°E		単層					底面無白粉・土層無白粉・長溝・小溝、木製品 (棒状)
SD7	溝	5	5	G2-23・24	(211)	120～46	13	5.12	N88°W		単層					底面無白粉・土層無白粉・底面土層無白粉
SD8	溝	5	5	G2-18・23・24	(66)	(23)	6	5.14	N15°E		単層					土層無小溝
SD9	溝	5	5	F2-23・24・25、F3-2・3・4、G2-21	(788)	(23)	17	5.00～5.15	N77°W		単層					底面無溝、土層無白粉・長溝・小溝、底面土層無白粉
SD10	溝	5	5	F2-25、F3-4・5、G3-1	(270)	(18～35)	9	5.10～5.14	N84°W		単層					土層無白粉・長溝、底面土層無白粉
SD11	溝	5	5	F3-3	(96)	(18)			N7°E		単層					底面無白粉・土層無白粉・小溝
SD12	溝	5・6	6	K3-4・5・9・10	(198)	(70～100)	17	4.95～5.21	N65°E	低伏	レンズ状					底面無白粉・溝、土層無白粉・長溝・小溝、底面土層無白粉、木製品 (棒・板状)
SD13	溝	5	5	G2-30、H2-16・17	(485)	(28～70)	8	5.10	N87°W		単層					底面有白粉・土層無白粉
SD14	溝	5	5	F2-25、G2-21、G3-1	(260)	(20～40)	16	5.11	N89°W		単層					底面無白粉・土層無白粉・長溝・小溝、底面土層無白粉

報告書番号	地質調査番号	種類	間隔	写真撮影	位置	規模 (cm)			成層高さ (m)	主軸方位	形態		層土	柱径 (cm)		出土遺物	備考	
						長さ	幅	深さ			平面形	断面形		長さ	幅			
SD15	溝	5			E3-0,3,1+2 (253)	19	28	12	5.10	N45°W		単層				土層割白粉		
SD16	溝	5			F3-1-6 (116)	15	6	5.19	N7°E			単層				土層割白粉・小礫		
SD17	溝	5			D3-10-15, E3-6-11 (146)	32	14	4.89	N47°E			単層				土層割白粉		
SD18	溝	5・7	6		C3-14-15・19-20 (120)	226	20	5.18	N4°E		孤立	単層				灰土層割白粉・礫 土層割白粉・瓦礫 中世土層割		
SD19	溝	5			F3-2 (51)	14	10	5.12	N43°W			単層				礫土層割白粉		
SD20	溝	5			G2-22 (84)	53	8	5.16	N41°W			単層				灰土層割白粉・土層割白粉・小礫・礫 褐色土層割白粉		
SD21	溝	5			C3-15・20, D3-11・16 (105)	29	44	12	5.15	N9°E		単層						
SD22	溝	5			J2-7 (113)	32	19	4.89	N2°W		半円状	単層						
SD23	溝	5			E3-7-8 (98)	136	8	5.10	N21°E			単層						
SD24	溝	5			F3-2-3 (26)	15	7	5.19	N43°W			単層						
SD25	溝	5			F3-4-5 (50)	60	13	5.08	N9°E			単層						
SD26	溝	5			G2-24・25, H2-16・17・18 (708)	14	26	15	5.03	N79°W		単層						
SD27	溝	5			H2-17-18 (288)	18	30	12	5.04	N42°W		単層						
SD28	溝	5			H2-16 (25)	66	9	5.00	N13°E			単層						
SP1	ピット	5			G2-22 (38)	33	12	5.12			円形	単層				土層割白粉		
SP2	ピット	5			G2-21 (37)	28	22	5.05			円形	単層				土層割白粉・長縄・小礫・褐色土層割白粉		
SP3	ピット	5			G2-23 (17)	22	9	5.14			単層							
SP4	ピット	5・7	7		F3-3 (25)	24	20	4.97			楕円形	U字状	柱状	24	12		柱状(クワ)・磁器(クワ)	
SP5	ピット	5			D3-10-15 (56)	44	18	4.82			円形	単層				土層割白粉・小礫		
SP6	ピット	5	7		D3-13-14 (30)	30	47	4.59			方形	U字状		30	10		柱状(ヤナギ)	
SP7	ピット	5			D3-12 (42)	32	33	4.90			長方形					土層割白粉・褐色土層割白粉		
SP8	ピット	5			D3-11-16 (40)	23	43	4.84			長方形							
SP9	ピット	5			D3-11 (27)	22	11	5.16			楕円形							
SP10	ピット	5			D3-11 (27)	22	33	4.90			楕円形							
SP11	ピット	5			D3-12 (35)	22	21	4.99			長方形							
SP12	ピット	5			D3-10 (21)	16	11	4.87			楕円形							
SP13	ピット	5			F3-5 (33)	28	6	5.22										
SP14	ピット	5			F3-5-10 (47)	28	22	5.06										
SP15	ピット	5			E3-5 (38)	10												
SP16	ピット	5			E3-10, F3-1-6 (35)	19	8	5.20			(方形)							
SP17	ピット	5			F3-2 (34)	30	14	5.08			円形							
SP18	ピット	5			F3-3 (23)	18	5	5.18			楕円形							
SP19	ピット	5			F2-25 (32)	22					楕円形							
SP20	ピット	5			G2-24 (14)	12	12	5.06			方形							
SP21	ピット	5			G2-19 (19)	18	21	4.97			円形							
SP22	ピット	5			J2-6 (29)	28	12	4.92			円形							
SP23	ピット	5			J2-7 (18)	23	8	4.96										
SP24	ピット	5			J2-7 (22)	14	6	4.96			楕円形							
SP25	ピット	5			G2-24 (24)	24	4	5.15										
SP26	ピット	5			H2-16 (46)	20	12	5.04										
SP1	SG1	自然露頭	5・7	7	H2-14-15・19-20, I2-8-9・10・11・15・13・14・15・16, J2-6-11 (110)	1174	20	4.63	N17°E		孤立	単層				灰土層割白粉・無白粉・瓦礫・土層割白粉・長縄・小礫・褐色土層割白粉・瓦礫・木製品(工具・用途不明)・磁器(クワ)		

## C区(2005年)上層部

報告書番号	地質調査番号	種類	間隔	写真撮影	位置	規模 (cm)			成層高さ (m)	主軸方位	形態		層土	柱径 (cm)		出土遺物	備考
						長さ	幅	深さ			平面形	断面形		長さ	幅		
SK1	SK9	戸形	8・9	10	B3-23,24, B4-3,4 (149)	66	97	4.58	N78°W	(方形)	白粉状					黒河内磁器	
SK2	SK3	戸形	8・9	10	C3-21 (97)	81	82	4.78	N73°W	方形	レンズ状					黒河内磁器・木製品(漆器)	
SK3	SK13	戸形	8・9	10・11	C3-17 (82)	82	91	4.52	N20°E	方形	孤立	水平				中世土層割・木製品(木製・漆・下駄・漆器・骨製・付17木製・板状)	
SK4	SK4	戸形	8・9	11	C3-19 (72)	72	115	4.56			円形	孤立	水平			木製品(漆器・漆器・板状・板状)	
SK5	SK5	戸形	8・10	11・12	C3-19 (77)	74	116	4.80			円形	孤立	水平			磁器(漆器・中世土層割・木製品(漆器・漆器・板状・板状))	
SK6	SK8	戸形	8・10	12	D3-16,17 (96)	74	119	4.62	N17°W	(楕円形)	孤立					土層割白粉・長縄・黒河内磁器・漆・瓦礫(瓦)	
SK1	SK2	土坑	8		B3-23,24 (101)	60	10	5.48	N77°E	(楕円形)		単層					
SK2	SK2	土坑	8		B3-24,25 (115)	80	19	4.77	N23°E	(楕円形)	孤立	レンズ状				黒河内磁器	
SK3	SK7	土坑	8・11	12	C3-20, D3-16 (220)	103	19	5.72	N79°W	(不規則)	孤立	レンズ状					
SK4	SK12	土坑	8・11		D3-10 (94)	49	37	5.40	N78°E	(不規則)	孤立	レンズ状				黒河内磁器	
SK5	SK10	土坑	8		D3-12,13 (116)	104	21	5.60			円形	単層				青白磁合子・石製品(磁石)	
SK6		土坑	8		E3-6 (74)	41	11	5.48	N55°E	(楕円形)		単層					

別 表

報告書番号	実施年度	種類	時期	写真回数	位置	規模 (cm)			底辺長さ (m)	主軸方位	形態	層土	柱径 (cm)		出土遺物	備考
						長さ	幅	深さ					長さ	幅		
SK1		土坑 (部々)	8-11	12・13	C3-17,18, 22,23	(220)	(170)	15	5.08 ~ 5.60	N 40° W	(長方形)	円形坑	斜位			
SD1		溝	8	13	D3-20,25 C3-16,21	(204)	(36 ~ 50)	11	5.06 ~ 5.60	N 40° W		円形坑	斜位			瓦片類有付録・遺土調査報告書
SD2	SD6	溝	8-11		D3-11,12,11	307	52 ~ 64	12	5.70	N 80° E		板状	斜位			
SD3	SD2	溝	8-11	13	D3-8,9,13,14, 15	(268)	(40 ~ 50)	30	5.53	N 44° E		円筒状	水平			
SD4	SD3	溝	8-11	13	D3-9,4,15	(282)	(40 ~ 50)	24	5.49 ~ 5.57	N 50° E		板状	傾斜状			土器類多数、珠洲段跡
SD5		溝	8		E3-10	141	45	12 ~ 15	5.46	N 88° E		円筒状	斜位			
SD6	SD4	溝	8-12	13	F3-1,2,6,7	(214)	(103 ~ 150)	25	5.35 ~ 5.36	N 68° E		円筒状	傾斜状			珠洲段跡、石製品(磁石)
SD7		溝	8		D3-16	(66)	(38 ~ 48)	27	5.50	N 10° E						
SP1		ピット	8-12		C3-18	42	38	30	5.38			円形	U字状	ブロック状		
SP2		ピット	8		C3-18	(38)	(32)	19	5.55			(横内側)	斜位			
SP3		ピット	8-12		C3-18	37	30	30	5.14			(横内側)	V字状	斜位		
SP4		ピット	8		C3-14,19	26	26	11	5.59							
SP5		ピット	8		C3-15	33	32	39	5.43							
SP6		ピット	8		D3-11,16	22	16	10	5.72							
SP7		ピット	8		C3-20 E3-16	55	48	19	5.40							
SP8		ピット	8		C3-15,20	(23)	(10)	8	5.74							
SP9		ピット	8		C3-15,20	(53)	(40)	18	5.64			(横内側)	斜位			
SP10		ピット	8		C3-14,15,19	(40)	(22)	27	5.55			(横内側)	斜位			
SP11		ピット	8		C3-14,13,19, 20	30	18	50	5.32							
SP12		ピット	8		C3-20	68	50	44	5.37							
SP13		ピット	8		E3-19	14	13	8	5.54							
SP14		ピット	8		E3-23	(38)	(26)	10	5.46			(横内側)	斜位			
SP15		ピット	8		E3-19	(37)	(17)	27	5.35							
SP16		ピット	8		E3-19	(22)	(12)	7	5.55							
SP17		ピット	8		C3-18	(30)	(22)	41	5.31			(横内側)	U字状			
SP18		ピット	8		C3-20	23	23	64	5.19							
SP19		ピット	8-12	13	D3-10	33	34	7	5.45 ~ 5.55			円形	板状	斜位		土器 (陶器片)
SP20		ピット	8		D3-11	(27)	(22)	15	5.66			(横内側)	斜位			
SP21		ピット	8		D3-10	37	21	23	5.36			(横内側)	斜位			
SP22		ピット	8		D3-10	30	21	9	5.49			(横内側)	斜位			
SP23		ピット	8		D3-10,15	30	22	22	5.35			(横内側)	斜位			
SP24		ピット	8		D3-15	39	28	24	5.33			(横内側)	斜位			
SP25		ピット	8		E3-11	26	18	22	5.35			(横内側)	斜位			
SP26		ピット	8		E3-6	32	26	33	5.25			(横内側)	斜位			
SP27		ピット	8		D3-10	26	18	7	5.50			(横内側)	斜位			
SP28		ピット	8		E3-11	(32)	(26)	14	5.44			(横内側)	斜位			
SP29		ピット	8		E3-11	(25)	(25)	10	5.45			(横内側)	斜位			
SP30		ピット	8		E3-6,11	31	24	10	5.48			(横内側)	斜位			
SP31		ピット	8		E3-6	34	28	34	5.24							
SP32		ピット	8		E3-9,10	33	26	45	5.13			長方形	斜位			
SP33		ピット	8		F3-6	50	38	21	5.35			(横内側)	斜位			
SP34		ピット	8		E3-5	31	26	27	5.31			(横内側)	斜位			
SP35		ピット	8		F3-1	23	22	18	5.39							
SP36		ピット	8		C3-17,22	26	25	46	5.24							
SP37		ピット	8		C3-17	(22)	(20)	41	5.29			(横内側)	斜位			
SP38		ピット	8		C3-16,17,21	(38)	(37)	39	5.31							
SP39		ピット	8		F3-6	21	19	10	5.41							
SP40		ピット	8		E3-5,10	22	20	10	5.46							
SP41		ピット	8		F3-6 F3-1	23	11	12	5.46							
SP42		ピット	8		C3-20	26	21	22	5.59			長方形	斜位			
SP43		ピット	8		C3-14,19	28	24	25	5.57							
SP44		ピット	8		C3-14	19	16	25	5.57							
SP45		ピット	8		C3-19	26	24	22	5.56							
SP46		ピット	8		C3-18	34	31	20	5.51							
SP47		ピット	8		C3-18,23	(28)	(26)	21	5.50			(横内側)	斜位			
SP48		ピット	8		C3-13,18	26	25	21	5.54							
SP49		ピット	8		C3-18	26	24	20	5.55							
SP50		ピット	8		E3-6	(22)	(14)	14	5.45			(方形)	斜位			
SP51		ピット	8		D3-12	20	20	16	5.65							
SP52		ピット	8		F3-6	22	17	10	5.49			(横内側)	斜位			
SP53		ピット	8		D3-15	18	18	19	5.39							
SP54		ピット	8		D3-15	32	30	15	5.40			(横内側)	斜位			
SP55		ピット	8		C3-23	(37)	(32)	36	5.36			(円形)	斜位			
SP56		ピット	8		D3-8,13	26	24	27	5.51							
SP57		ピット	8		C3-21,22	26	24	20	5.42							
SP58		ピット	8		C3-21	29	20	21	5.45			(横内側)	斜位			
SP59		ピット	8		C3-21	(28)	(22)	14	5.52			(横内側)	斜位			
SP60		ピット	8		C3-21	(24)	(20)	30	5.20			(横内側)	斜位			
SP61		ピット	8		C3-16,21	22	20	10	5.27							
SP62		ピット	8		C3-21	24	22	19	5.49							
SP63		ピット	8		C3-21	(30)	(19)	20	5.46							
SP64		ピット	8		C3-22	(34)	(12)	8	5.60			(横内側)	斜位			
SP65		ピット	8		C3-22	26	22									
SP66		ピット	8		C3-20	33	20	4	5.79			(横内側)	斜位			

報告書 番号	地質 調査 番号	種類	採取 回数	写真 掲載	位置	規模 (cm)			底面標高 (m)	主軸方位	形態		層土 種類	粒径 (cm)		出土遺物	備考
						長さ	幅	厚さ			平面形	断面形		長さ	幅		
SP67		ビュート	8		D0-11		14	12				単層					
SP68		ビュート	8		D0-11		15	10				横内形	単層				
SP69		ビュート	8		D0-11		18	14				横内形	単層				
SP70		ビュート	8		D0-11		22	20	36	5.47		横内形	単層				
SP71		ビュート	8	13	D0-11		24	24	17	5.64		円形	単層			石製品(磁石)	
SP72		ビュート	8		D0-11		28	22	8	5.73		横内形	単層				
SP73		ビュート	8		D0-13		30	20	11	5.70		横内形					
SP74		ビュート	8		D0-16		26	18	14	5.67		円形	単層			灰土層	
SP75		ビュート	8		D0-16		27	25	39	5.42		円形	単層				
SP76		ビュート	8		D0-14	(43)	(24)	30	6.48			横内形	単層				
SP77		ビュート	8		C9-15		20	17	9	5.73		円形	単層				
SP78		ビュート	8		D0-14		24	20	6	5.64		円形	単層				
SP79		ビュート	8		D0-9,14		22	28	1	5.63		円形	単層				
SP80		ビュート	8		C9-20		33	24				横内形	単層				
SP81		ビュート	8		C9-17	(32)	(26)	15	5.57			横内形	単層				
SP82		ビュート	8		E3-6	(12)	(8)					横内形	単層				
SP83		ビュート	8		E3-6,7	(34)	(34)	24	5.55			横内形	単層	17	14	粒層(トネリコ類・土等)	
SP84		ビュート	8		D0-11,12	(42)	(34)	23	5.59		(長方形)	単層	26	8	粒層(ヤナギ葉)		
SP85		ビュート	8		E0-25	(22)	(12)										
SP86		ビュート	8		C9-21	(42)	(10)										
SP87		ビュート	8		C9-17,22	(30)	(6)										
SP88		ビュート	8		C9-18	16	12	6	5.55			横内形					
SP89		ビュート	8		C9-18	14	14	12	5.48			円形					
SP90		ビュート	8		C9-18	20	14	8	5.53			長方形					
SP91		ビュート	8		C9-18,23	20	14					横内形					
SP92		ビュート	8		C9-18	28	26					円形					
SP93		ビュート	8		C9-19	(22)	(16)					横内形					
SP94		ビュート	8		C9-19	16	14	4	5.77			円形					
SP95		ビュート	8		C9-19,20	(46)	(26)					横内形					
SP96		ビュート	8		C9-19	24	24	14	5.69			円形					
SP97		ビュート	8		C9-19	18	16	13	5.68			円形					
SP98		ビュート	8		C9-19	(20)	(16)					横内形					
SP99		ビュート	8		C9-19,20	22	12					横内形					
SP100		ビュート	8		C9-19,20	(26)	(12)	25	5.56			円形					
SP101		ビュート	8		C9-15	26	14	4	5.78			横内形					
SP102		ビュート	8		C9-15	14	14	3	5.79			円形					
SP103		ビュート	8		C9-15	10	10	4	5.78			円形					
SP104		ビュート	8		C9-15	(24)	(20)					横内形					
SP105		ビュート	8		C9-15	(38)	(28)	6	5.76			横内形					
SP106		ビュート	8		C9-15	18	14	15	5.67			横内形					
SP107		ビュート	8		C9-20	(16)	(14)					横内形					
SP108		ビュート	8		C9-20	14	12	4	5.79			円形					
SP109		ビュート	8		C9-20	18	12	11	5.72			横内形					珠洲赤陶器
SP110		ビュート	8		C9-20	18	14	14	5.69			横内形					
SP111		ビュート	8		C9-20	20	14	10	5.73			横内形					
SP112		ビュート	8		C9-20	16	14					円形					
SP113		ビュート	8		C9-20	(20)	(14)	11	5.72			円形					
SP114		ビュート	8		C9-20	12	12					円形					
SP115		ビュート	8		C9-20	14	12	8	5.75			円形					
SP116		ビュート	8		C9-15,20	14	10					横内形					
SP117		ビュート	8		C9-15	16	14	6	5.76			円形					
SP118		ビュート	8		C9-15	12	12	4	5.78			円形					
SP119		ビュート	8		C9-15	18	16	6	5.76			円形					
SP120		ビュート	8		C9-15 D0-11	18	16	9	5.73			円形					
SP121		ビュート	8		C9-15 D0-11	(12)	(10)					横内形					
SP122		ビュート	8		C9-15 D0-11	12	10	6	5.76			円形					
SP123		ビュート	8		C9-15	12	10	9	5.73			円形					
SP124		ビュート	8		D0-11	18	14					横内形					
SP125		ビュート	8		D0-11	(42)	(22)	12	5.69			横内形					
SP126		ビュート	8		D0-11	32	24	20	5.62			横内形					
SP127		ビュート	8		D0-11,16	(20)	(20)	8	5.74			円形					
SP128		ビュート	8		D0-16	(30)	(20)	33	5.44			横内形					
SP129		ビュート	8		D0-11	16	12	10	5.72			横内形					
SP130		ビュート	8		D0-11	14	14	12	5.70			円形					
SP131		ビュート	8		D0-11	16	14	15	5.67			円形					
SP132		ビュート	8		D0-11	16	14	16	5.66			方形					
SP133		ビュート	8		D0-11	16	16	9	5.73			方形					
SP134		ビュート	8		D0-11,16	22	14	10	5.71			横内形					
SP135		ビュート	8		D0-11	(14)	(12)	6	5.75			横内形					
SP136		ビュート	8		D0-11,16	16	16	6	5.75			円形					
SP137		ビュート	8		D0-16	20	28	14	5.67			円形					
SP138		ビュート	8		D0-16	(32)	(26)	25	5.56			横内形					
SP139		ビュート	8		D0-12	(26)	(20)	26	5.56			横内形					
SP140		ビュート	8		D0-11,12	8	8					円形					
SP141		ビュート	8		D0-11	10	10					円形					
SP142		ビュート	8		D0-12	(14)	(12)					横内形					
SP143		ビュート	8		D0-12	(14)	(12)					横内形					
SP144		ビュート	8		D0-13	12	12	20	5.60			円形					
SP145		ビュート	8		D0-13	14	12	21	5.59			円形					
SP146		ビュート	8		D0-13	22	18	19	5.64			横内形					
SP147		ビュート	8		D0-13	32	28	10	5.70			方形					
SP148		ビュート	8		D0-13	18	14	17	5.64			横内形					

別 表

報告書番号	地質調査番号	種類	四角	写真照像	位置	規模 (cm)			成層高さ (m)	主軸方位	形態		柱状 (cm)		出土遺物	備考
						長さ	幅	深さ			平面形	断面形	長さ	幅		
SP149	ビット	8	00-13			12	12	17	5.64							
SP150	ビット	8	00-13			24	24	18	5.63							
SP151	ビット	8	00-8,13			18	18									
SP152	ビット	8	00-8,13			110	18									
SP153	ビット	8	00-13			16	8	14	5.66							
SP154	ビット	8	00-13			18	14	21	5.59							
SP155	ビット	8	00-13			16	14	12	5.68							
SP156	ビット	8	00-13			12	12	13	5.67							
SP157	ビット	8	00-13			14	14	12	5.66							
SP158	ビット	8	00-13			18	12	10	5.68							
SP159	ビット	8	00-13			12	12	10	5.66							
SP160	ビット	8	00-14			18	14	12	5.66							
SP161	ビット	8	00-8			22	18	12	5.66							
SP162	ビット	8	00-14		(14)	18										
SP163	ビット	8	00-13,14		(14)	110	9	5.69								
SP164	ビット	8	00-13,14		16	14	9	5.69								
SP165	ビット	8	00-13		16	12	18	5.62								
SP166	ビット	8	00-13		18	12	14	5.66								
SP167	ビット	8	00-14		26	14										
SP168	ビット	8	00-14		(14)	110	8	5.70								
SP169	ビット	8	00-14		(26)	118	8	5.70								
SP170	ビット	8	00-14		(22)	118	8	5.70								
SP171	ビット	8	00-14		18	18	9	5.69								
SP172	ビット	8	00-14		(10)	18	9	5.69								
SP173	ビット	8	00-14		(12)	110	8	5.70								
SP174	ビット	8	00-14		18	12	8	5.70								
SP175	ビット	8	03-6		(14)	114										
SP176	ビット	8	03-6		(16)	112										
SP177	ビット	8	03-6		18	14										
SP178	ビット	8	03-6		12	12										
SP179	ビット	8	00-10 03-6		(38)	118	9	5.48								
SP180	ビット	8	03-6		(30)	130	16	5.43								
SP181	ビット	8	03-6		(26)	124										
SP182	ビット	8	00-10		14	12	7	5.51								
SP183	ビット	8	00-14		90	30	32	5.41								
附1	SG1	四角	8-12	13	04-1,2	(218)	(332)	89	5.01	N 14° W	台形状	レンズ状				底辺部僅、薄肉状部

## C区(2005年)下層部

報告書番号	地質調査番号	種類	四角	写真照像	位置	規模 (cm)			成層高さ (m)	主軸方位	形態		柱状 (cm)		出土遺物	備考
						長さ	幅	深さ			平面形	断面形	長さ	幅		
SK1	土坑	13-14	15	12-8,13		(92)	(64)	100	4.30	N 81° W	楕円形					底辺部僅、土層部無 片断、黒色土層部
SK2	土坑	13-14	15	12-11,12,14,17		70	54	18	5.12	N 84° W	楕円形	袋状	レンズ状			底辺部僅、土層部無 片断、小塊
SK3	土坑	13-14	15	12-16		(70)	(70)	14	5.17	N 3° W	楕円形	袋状	レンズ状			底辺部僅、土層部無 片断、土質、小塊、赤 褐色土層部、石 製品(磁石)
SK4	土坑	13-14	15	12-12,13		78	60	25	5.12	N 82° W	楕円形	半円状	レンズ状			土層部片断
SK5	土坑	13		02-21,22	(104)	(48)		5.27	N 81° W	楕円形						土層部片断
SK6	土坑	13-14	15	02-15 12-11	(70)	(50)	36			N 85° W	半円状	レンズ状				土層部片断、片断
SK7	SK7	円形	13-14	15	F3-4	(140)	(70)	76	4.44	N 28° W	楕円形	半円状	レンズ状			底辺部片断、土 層部片断、土 層部片断、土層 部片断、土層部 片断、土層部片 断、土層部片断
SK8	土坑	13-16	16	G2-23 G3-3	(92)	(76)	32	4.86	N 5° E	楕円形	台形状	レンズ状				土層部片断、片断、 小塊、両辺部土層 部片断、土層部 片断、土層部片 断、土層部片断
SK9	土坑	13		02-16	(36)	(22)					楕円形					底辺部片断、土層 部片断
S01	溝	13	16	K-2,16,7	(304)	(76 ~ 118)		9 ~ 15	5.07 ~ 5.13	N 1° W						土層部片断
S02	溝	13-15	16	22-5,9,10	(302)	(28)	26	5.20	N 18° W		台形状	レンズ状				
S03	溝	13	16	22-4,5,8,9,10	(400)	(30 ~ 30)	6 ~ 9	5.19 ~ 5.24	N 77° W							
S04	溝	13-15	16	22-4,9	(196)	(32 ~ 28)	15	5.20	N 16° W		半円状	水平				土層部片断
S05	溝	13-15	16	22-4,8,9	(198)	(30 ~ 34)	17	5.18	N 17° W		台形状	水平				
S06	溝	13-15	16	22-3,8	(184)	(30 ~ 42)	12	5.20	N 6° W		台形状	傘形				
S07	溝	13-15	16	22-3,8	(186)	(30 ~ 40)	13	5.18	N 5° W		袋状	水平				
S08	溝	13-15	16	22-7,8,12	(146)	(30 ~ 38)	15	5.18	N 10° W		袋状	傘形				
S09	溝	13-15	16	22-7,12	(200)	(30 ~ 60)	19	5.10	N 7° W		半円状	水平				土層部片断
S010	溝	13-15	16	22-6,7,11,12	(210)	(36 ~ 60)	15	5.16	N 11° W		袋状	傘形				土層部片断
S011	溝	13		12-10,23-6,11	(204)	(42 ~ 58)	12	5.10	N 1° W							土層部片断
S012	溝	13-15	16	12-10,15	(300)	(32 ~ 44)	19	5.02	N 2° E		半円状	レンズ状				
S013	溝	13-15	16	12-10,15	(210)	(24 ~ 46)	12	5.11	N 9° W		袋状	傘形				
S014	溝	13-15	16	12-10,15	(194)	(36 ~ 50)	9	5.10	N 4° E		袋状	斜位				土層部片断
S015	溝	13-15	16	12-9,10,14,15	(194)	(32 ~ 60)	10	5.09	N 4° E		袋状	レンズ状				

報告書番号	地層名称	種類	階級	写真階級	位置	規模 (cm)			成層高さ (m)	主軸方位	形態		層土	柱状 (cm)		出土遺物	備考
						長さ	幅	厚さ			平面形	断面形		長さ	幅		
SD16		溝	13		H2-9,14	(192)	(28)	16	5.08	N1°E						土層長巻	
SD17		溝	13・15		H2-13,18	(194)	(30~50)	30	5.09	N3°W		半円状	華形			底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉・長巻 小巻	
SD18		溝	13・15		H2-12,17	(196)	(44~80)	15	5.20	N2°W		弧状	華形			底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉・長巻 小巻	
SD19		溝	13・14・15		H2-15,20 H2-11,16	(176)	(30~92)	25	4.81~ 4.88	N6°E		台形状	華形			底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉・長巻 小巻	
SD20		溝	13・15		H2-15,20	(194)	(34~46)	24	5.05	N2°W		台形状	華形			底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉・長巻 小巻	
SD21		溝	13・15		H2-18,19,20	418	(44~70)	32	4.88~ 5.05	N81°W		半円状	レンズ状			底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉・長巻 小巻	
SD22		溝	13・15・16		H2-14,19	(188)	(56~80)	21	4.88~ 4.94	N7°E		弧状	レンズ状			底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉・長巻 小巻	
SD23		溝	13・15		H2-13,18,23	(180)	(80~118)	47	4.74~ 4.80	N10°E		半円状	レンズ状			底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉・長巻 小巻	
SD24		溝	13・15・16		H2-17,22	(208)	(110~130)	21	4.98~ 5.09	N2°E		弧状	華形			底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉・長巻 小巻	
SD25		溝	13・16		H2-16,21	(210)	(10~60)	32	5.04~ 5.19	N6°W		弧状	ブロック状			土層無白粉・長巻・ 小巻、銅、木製品(板)	
SD26		溝	13		H2-16,21	(202)	(22~54)	11	4.93	N3°E		弧状	ブロック状			土層無白粉・小巻	
SD27		溝	13		G2-20,25	(204)	(20~40)	11	4.92	N2°E						土層長巻	
SD28		溝	13		G2-20,25	(192)	(18~32)	12	4.91	N8°E						土層長巻	
SD29		溝	13・14・15		H2-11,16	(194)	(16~38)	11	5.20	N6°E		弧状	華形			土層無小巻・板	
SD30		溝	13		H2-9,14	(192)	(28~46)	18	5.04	N4°E						土層無白粉・長巻・ 小巻、土層無白粉 土層長巻	
SD31		溝	13		J2-6,11	(166)	(50)	11	5.13	N9°E						土層長巻・土層 無白粉	
SD32		溝	13		G2-19,24	(186)	(22~40)	12	4.91	N7°E						底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉	
SD33		溝	13		G2-24,25	(112)	(36~90)	(8)	4.95~ 5.21	N8°E						底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉	
SD34		溝	13・16・16		G2-18,23,24	(184)	(44~80)	23	4.85	N6°E		半円状	レンズ状			土層無白粉・長巻・ 銅、土層無白粉 土層長巻	
SD35		溝	13・16		G2-22 G3-1,2	(200)	(26~44)	30	4.85	N32°W		台形状	レンズ状			土層無白粉・小巻	
SD36		溝	13・16		F2-25 F3-4,5	(240)	(24~32)	24	4.88	N29°W		台形状	レンズ状			土層無白粉・長巻・ 小巻	
SD37		溝	13・15		H2-13,14,18, 19,20	(434)	(26~60)	14	4.97~ 5.10	N80°E		弧状	レンズ状			底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉・長巻 小巻	
SD38		溝	13・16		G2-21 F3-5 G3-1	(224)	(20~24)	10	4.90	N24°W		弧状	華形			底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉・長巻 小巻	
SD39		溝	13・16		G2-21 F3-5 G3-1	(240)	(14~28)	15	4.81	N39°W		台形状	華形			土層無白粉・小巻	
SD40		溝	13		G2-23	(122)	(24~62)	12	4.96	N23°E						土層長巻	
SD41		溝	13・16・16		G2-22,23 G3-2	(204)	(58~102)	27	4.76~ 4.79	N30°E		台形状	ブロック状			底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉・長巻 小巻	
SD42		溝	13・16		F2-24,25 F3-4,5	(238)	(24~30)	19	4.91	N29°W		台形状	レンズ状			底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉	
SD43		溝	13・16		F2-24 F3-3,4,8	(260)	(18~30)	21	4.80	N33°W		U字状	水平			土層長巻	
SD44		溝	13・16		G2-21,22 G3-1	(224)	(30~38)	22	4.84	N38°W		台形状	レンズ状			底土部、土層無 白粉・長巻・小巻 土層無白粉・長巻 小巻	
SD45		溝	13		G2-19,24	(184)	(36~56)	15	4.90	N12°E						底土部、土層無 白粉	
SD46		溝	13		G2-20,25 H2-16,21	(194)	(14~28)	14	4.89	N9°E						土層無白粉・長巻	
SD47		溝	13		I2-8,9,13,14	(190)	(26~34)	13	5.09	N4°E						土層無白粉・長巻	
SD48		溝	13・16		F2-24 F3-4	(252)	(20~28)	26	4.80	N33°W		台形状	華形			土層長巻・小巻	
SD49		溝	13		I2-12	(148)	(30~60)	38	4.83	N5°E						土層無白粉	
SD50		溝	13		H2-18	(48)	(48)	23	4.99	N2°E						土層無白粉	
SD51		溝	13		H2-18	(46)	(42)	19	5.03	N3°E						底土部、土層無 白粉・小巻、木製品 (漆器)	
SD52		溝	13		I2-13	(124)	(30~38)	10	5.03	N3°E		弧状	華形			土層長巻	
SD53		溝	13・15		I2-13	(190)	(38~52)	20	5.10	N4°E		台形状	華形			土層無白粉	
SD54		溝	13・16		I2-11,16	(126)	(60~70)	23	5.00	N2°W		弧状	レンズ状			土層無白粉	
SD55		溝	13		I2-13	(145)	(32~32)	5	4.99	N15°W						土層長巻	局下層
SD56		溝	13		I2-13,18	(194)	(20~28)	6	5.00	N5°W						土層長巻	局下層
SD57		溝	13		I2-12,17	(193)	(35~42)	10	4.98	N1°E						土層長巻	局下層
SD58		溝	13		I2-12,17	(193)	(47~53)	18	4.95	N2°E						土層長巻	局下層

別表

報告遺跡名	発掘遺跡名	種類	開削	写真回数	位置	規模 (cm)			高さ (m)	主軸方位	形態		層土	柱形 (cm)		出土遺物	備考	
						長さ	幅	深さ			平面形	断面形		長さ	幅			
SD59	溝	13			H2-11,16 (193)	132 ~ 60	18	4.92	N-3°-E									
SD60	溝	13			H2-15,20 H2-11,15 (194)	170 ~ 126	18	4.85	N-4°-E									地下層
SD61	溝	13			H2-14,19 (186)	159 ~ 75	19	4.79	N-9°-E									地下層
SD62	溝	13			H2-13,18 (195)	122 ~ 37	14	4.84	N-2°-E									地下層
SD63	溝	13			H2-17,18,22 (203)	126 ~ 29	13	4.91	N-1°-E									原形遺構
SD64	溝	13			H2-16,17,21,22 (207)	127 ~ 36	12	4.94	N-1°-E									土器部小段
SD65	溝	13			G2-22,23 (186)	136 ~ 43	20	4.88	N-13°-E									
SD66	溝	13			G2-20 (65)	(52)												
SD67	溝	13			G2-25 H2-21 (230)	144 ~ 52	9 ~ 10	4.93 ~ 4.94	N-9°-W									
SD68	溝	13・15			H2-13,13,17 (206)	116 ~ 43	18	5.16 ~ 5.18	N-79°-W									台形状
SD69	溝	13			H2-13,14 (206)	112 ~ 24	13 ~ 15	5.09 ~ 5.16	N-77°-W									
SD70	溝	13			H2-14,15 (62)	(33)	12	5.01	N-9°-E									
SD71	溝	13・16			G2-22 G3-2 (110)	123 ~ 32	26	4.88	N-14°-W									平円状
SP1	ピット	13			J2-4,9 (34)	24	15	5.14										
SP2	ピット	13			I3-13 (22)	16	14	5.14										
SP3	ピット	13・16	16		G2-20 (30)	(28)	64	4.45										柱形 (ハンプラ年鑑6 シ/ノ年鑑)
SP4	ピット	13			H2-20 (32)	(26)	9	5.17										土器部無自輪
SP5	ピット	13			H2-15,20 (12)	10	30	5.02										土器部無自輪・小段
SP6	ピット	13			J2-5 (30)	(30)	12	5.09										柱形 (ヤナ年鑑)
SP7	ピット	13			I2-12,13 (28)	34	6	5.24										
SP8	ピット	13			I2-16 (30)	(22)	7 ~ 18	5.12 ~ 5.23										
SP9	ピット	13			H2-17 (20)	20	22	4.81										
SP10	ピット	13			H2-16 (32)	(26)	18	5.01										
SP11	ピット	13			H2-19 (46)	18 ~ 22		4.68 ~ 4.85										
SP12	ピット	13			G2-23,24 (10)	10	4	5.02										

## C区 (2006年) 下層面

報告遺跡名	発掘遺跡名 (No.)	種類	開削	写真回数	位置	規模 (cm)			高さ (m)	主軸方位	形態		層土	柱形 (cm)		出土遺物	備考	
						長さ	幅	深さ			平面形	断面形		長さ	幅			
SD1	1	溝	13		E3-5,9,10 (154)	132 ~ 46	13	4.82	N-40°-W									原形遺構・長段・小段
SD2	2	溝	13		E3-4,5,9,10 (160)	138 ~ 56	9	4.88	N-11°-W									土器部無自輪
SD3	3	溝	13		E3-4,9 (160)	130 ~ 36	12	4.87	N-14°-W									土器部無自輪・小段
SD4	4	溝	13		E3-3,4,8 (170)	142 ~ 54	17	4.78	N-15°-W									土器部無自輪・長段・黒色土器部無自輪
SD5	5	溝	13・17	19	E3-7,12 (190)	130 ~ 36	26	4.76	N-13°-W									原形遺構・土器部無自輪・土器部小段・土器部
SD6	6	溝	13		E3-7,12 (194)	128 ~ 68	8	4.82	N-14°-W									土器部無自輪・長段・小段・鋸
SD7	7	溝	13		E3-7,12 (190)	116 ~ 22	8	4.82	N-12°-W									土器部長段・小段
SD8	8	溝	13		E3-6,7,11,12 (198)	118 ~ 48	9	4.81	N-16°-W									土器部長段
SD9	9	溝	13・17	19	E3-6,11 (194)	114 ~ 30	16	4.82	N-15°-W									土器部長段
SD10	10	溝	13・17	19	E3-6,11 (198)	124 ~ 34	17	4.83	N-14°-W									土器部無自輪
SD11	11	溝	13・17	19	D3-15 E3-6,11 (202)	118 ~ 28	16	4.84	N-15°-W									原形遺構・土器部長段・小段
SD12	12	溝	13		D3-10,15 (202)	120 ~ 46	12	4.75	N-16°-W									原形遺構・土器部長段
SD13	13	溝	13		F3-2 (98)	(26)	6	4.64	N-36°-W									土器部長段
SE14	14	井戸	13・17	19	E3-9,F3-1,6 (200)	(98)	95	4.40	N-85°-W									原形遺構・土器部長段・土器部小段・土器部(木製・貯り遺構・棒状)
SD15	15	溝	13		E3-8 (174)	130 ~ 32	15	4.78	N-11°-W									土器部無自輪・長段
SD16	16	溝	13		D3-9,10,14,15 (188)	112 ~ 28	11	4.69	N-7°-W									土器部無自輪
SD17	17	溝	13		C3-15,20 (162)	(14)	13	4.72	N-25°-E									
SD18	18	土坑	13・17	19	D3-12 (78)	62	38	4.54	N-43°-E									原形遺構・平円状・赤土
SD19	19	溝	13		D3-12,17 (204)	126 ~ 38	34	4.79 ~ 4.78	N-17°-W									平円状
SD20	20	溝	13		C3-15,20 (192)	126 ~ 34	17	4.68	N-2°-W									
SK21	21	土坑	13・17	19	D3-9,9,13,14 (62)	(46)	28	4.64	N-80°-E									平円状
SP22	22	ピット	13・17	19	F3-6 (34)	(32)	31	4.32										平円状
河川23	23	河川	13		A3-24,25 R3-16,18,20, 21,22,23,24 A4-4,5 B4-1,2,6,7,11, 12,17,18,23 (128)	(818)	(62)	(4.33 ~ 4.75)	N-19°-W									原形遺構・土器部長段・土器部小段・土器部(木製・貯り遺構・棒状)
SP24	24	ピット	13		C3-17 (22)	16	18	4.66										
SP25	25	ピット	13		C3-17 (28)	24	19	4.64										
SP26	26	ピット	13		E3-9 (28)	(14)	8	4.90										
SP27	27	ピット	13		E3-8 (34)	26	11	4.84										

## D区

報告 番号	種別 (No.)	種類	距離	写真 枚数	位置	規模 (cm)			設置 高 (m)	主観方位	形態		高さ	柱間 長さ (cm)	出た遺物	備考	
						長さ	幅	深さ			平面形	断面形					
SD1	1	溝	18・19	23	M1-4,5,10	(160)	130~160		32	4.76	N10° W						
SD2	2	溝	18・19		M1-9	(138)	112~180		19	4.93	N3° E						
SK3	3	土坑	18・19		M1-8,9	(54)	380		31	4.83							
SP4	4	ピット	18・19		M1-8	(40)	1120		23	4.89		楕円形	半円状				
SD5	5	溝	18		M1-7,8	(284)	420~280		4~14	4.84~4.91	N70° E						
SD6	6	溝	18		M1-7,12	(160)	134~420		13	4.85	N22° W						
SK7	7	土坑	18		L1-10 M1-6	(190)	440		25	4.70~4.78	N78° W	(長方形)					
SD8	8	溝	18		M1-6,7	(130)	120~90		11~17	4.90~4.96	N49° E						
SD9	9	溝	18		L1-10,15 M1-11	(120)	134~54		7	4.89	N47° E						
SD10	10	溝	18		M1-6,11	(138)	122~300		8	4.87	N24° W						
SK11	11	土坑	18		M1-6,7,1,12	(164)	320		6	4.84	N90° W	(長方形)					
SD12	12	溝	18		L1-10,14,15	(140)	120~300		8	4.83	N23° W						
SD13	13	溝	18		L1-13,14	(120)	120~420		13	4.72	N15° W						
SD14	14	溝	18		L1-12	(78)	112~44		5~9	4.77	N11° E						
SK15	15	土坑	18		L1-11,16	54	26		4	4.77	N12° E	楕円形					
SP16	16	ピット	18		L1-11,16	30	26		7	4.77		円形					
SP17	17	ピット	18		K1-15,20 L1-11,16	(42)	(20)		6	4.78		(方形)					
SP18	18	ピット	18		L1-16	(28)	(20)		12	4.72		楕円形					
SD19	19	溝	18		K1-20 L1-16	(60)	114~160		5	4.79	N6° E						
SD20	20	溝	18		K1-20	(100)	380		5	4.80	N60° E						
SP21	21	ピット	18		K1-20	(14)	(14)		4	4.81							
SP22	22	ピット	18		K1-19	20	14		5	4.77		楕円形					
SP23	23	ピット	18		K1-18	20	20		7	4.78		円形					
SP24	24	ピット	18		K1-18	20	16		5	4.81		楕円形					
SP25	25	ピット	18		K1-18	16	12		6	4.80		楕円形					
SP26	26	ピット	18		K1-17	28	20		8	4.75		楕円形					
SD27	27	溝	18・19		K1-16,21	(110)	160~94		13	4.69~4.66	N6° E						
SD28	28	溝	18		M1-5,10	(140)	126~300		6	4.84	N10° W						
SP29	29	ピット	18・20		N1-1	(20)	(12)		17	4.79		楕円形	半円状	準縄	14	12	柱石(ヤナギ)
SP30	30	ピット	18		N1-6	(34)	(26)		12	4.80		楕円形					
SP31	31	ピット	18		L1-13	22	20		5	4.80		円形					
SP32	32	ピット	18		L1-13	38	30		10	4.77		楕円形					
SK33	33	土坑	18		L1-13	(68)	(99)		9	4.78	N81° W	(楕円形)					
SD35	35	溝	18		H2-6,7,1	(136)	112~200		4~9	4.89~4.84	N77° W						
SP36	36	ピット	18		H2-6	28	12		4	4.94		楕円形					
SP37	37	ピット	18		H2-6	24	22		12	4.86		方形					
SD38	38	溝	18		H2-6	(122)	104~300		6	4.97	N7° E						
SD39	39	溝	18		H2-4	(122)	112~180		11	4.98	N13° E						
SD40	40	溝	18		H2-1,2,6,7	(112)	144~460		11	4.95	N10° E						
SK41	41	土坑	18・19		H1-25	(94)	(40)		18	4.66	N78° W	(方形)	右射状	レンズ状			
SP42	42	ピット	18		H1-23	12	16		12	4.65		円形					
SP43	43	ピット	18		H1-23	14	16		8	4.69		楕円形					
SP44	44	ピット	18		H1-23	12	12		13	4.65		円形					
SD45	45	溝	18		H2-9	(126)	120~400		15	5.00	N4° E						
SD46	46	溝	18		H2-8,13	(122)	126~380		11	5.01	N3° E						
SD47	47	溝	18		H2-7,12	(116)	140~440		15	4.94	N2° W						
SP48	48	ピット	18		L1-15	40	32		7	4.89		長方形					
SD49	49	溝	18		H2-6,7,1,12	(116)	134~460		27	4.79	N4° E						
SD50	50	溝	18		H2-6,11	(120)	134~380		10	4.95	N1° E						
SD51	51	溝	18		H2-6,11	(108)	110~180		9	4.97	N2° E						
SD52	52	溝	18		H2-11	(130)	130~210		11	4.97	N4° W						
SD53	53	溝	18・19	23	G2-15	(140)	132~360		23	4.79	N8° W		半円状	レンズ状			
SD54	54	溝	18・19	23	G2-14	(130)	128~340		12	5.02	N3° W						
SD55	55	溝	18		G2-14	(128)	122~260		4	5.03	N9° W						
SD56	56	溝	18		H2-9	(120)	122~210		10	5.06	N5° W						
SD57	57	溝	18		G2-12,17	(118)	128~440		14	4.87	N7° E						
SP58	58	ピット	18		G2-15	36	34		32	4.86		方形	半円状	レンズ状			
SP59	59	ピット	18		G2-14	16	16		14	4.90		方形					

別 表

報告書番号	観測点 (No.)	種類	時期	写真 回数	位置	規模 (cm)			北高 向 (m)	主軸方位	形質		層土	柱長 (cm)		出土遺物	備考
						長さ	幅	高さ			平面形	断面形		長さ	幅		
SD60	60	溝	18・19	23	G2-15	(130)	130	50	18	4.91	N4°E	平直状	単層			土溝延長・小溝	
SD61	61	溝	18		F2-19,20	(64)	130	22	4	4.98	N70°E	溝内傾				底面敷瓦片群	
SD62	62	ビット	18		F2-19	26	22	9	4.93		円形					底面敷瓦片群	
SD63	63	溝	18		F2-19	(104)	120	26	7	4.92	N10°E						
SD64	64	溝	18		I2-3,8	(116)	118	26	7	5.02	N15°E						
SD65	65	ビット	18		I2-3,8	12	12	7	5.01		円形						
SD69	69	溝	18		L1-14	(134)	132	38	9	4.76	N15°W						
SD70	70	溝	18		L1-14	(140)	120	26	12	4.73	N22°W						
SP71	71	ビット	18		L1-13	20	18	5	4.80		円形						
SP72	72	ビット	18		L1-13	28	12	9	4.76		楕円形						
SP73	73	ビット	18		L1-13	18	14	16	4.69		楕円形						
SP74	74	ビット	18		L1-13	18	18	6	4.81		円形						
SP75	75	ビット	18		L1-13	(20)	114	18	10	4.77	(楕円形)						
SP76	76	ビット	18		L1-13	12	18	7	4.79		円形						
SD77	77	溝	18・19	23	M1-4,5,9,10	(150)	148	86	47	4.56	N14°W	台形状	レンズ状	25	14	土溝敷瓦片・長條 瓦片(スギ)、棒状 土製品	
SD78	78	溝	18		G2-12,17	(120)	124	42	11	4.91	N19°W					土溝延長・小溝	
SD79	79	溝	18		F2-20	(110)	136	42	12	4.89	N8°W					土溝延長	
SK80	80	土坑	18・19	23	C3-10 K3-6	(164)	124	56	4.75	N40°W	(楕円形)	平円状	レンズ状			底面敷瓦片・敷瓦 片・瓦片類、土溝敷 瓦片類・瓦片・小瓶 土製品(磁)、金 銅製品(鉄管)	
SD81	81	溝	18		C3-8,13	(128)	128	34	12	4.95	N11°W						
SD82	82	溝	18		C3-7,11,12	(138)	146	56	14	4.87	N17°W						
SD83	83	溝	18		K3-14,15	(84)	128	38	15	4.98	N12°W					土溝延長	
SD84	84	溝	18		K3-13,18	(134)	166	64	28	4.86	N4°W						
SD85	85	溝	18・20	23	K3-11,12,16, 17	(134)	134	150	24	4.95	N9°E	台形状	レンズ状			土溝小溝	
SD86	86	溝	18・20	23	A3-20 K3-16	(132)	164	134	20	4.98	N4°E	台形状	レンズ状				
SP87	87	ビット	18		K2-24	36	38	19	4.78		長方形						
SD88	88	溝	18		F2-22,23,24	(286)	134	40	6~7	4.85	N78°W						
SD89	89	溝	18・20		K2-23 K3-3	(94)	120	34	10	4.85	N5°W		板状	単層			
SP90	90	ビット	18		C3-8	28	14	5	5.03		楕円形						
SK91	91	土坑	18		C3-7,8	(90)	124	30	8	5.01	N78°E						
SP92	92	ビット	18		C3-12	22	20	7	5.03		円形						
SP93	93	ビット	18		C3-11	26	24	14	4.95		円形						
SP94	94	ビット	18		C3-11	24	20	17	4.93		円形						
SP95	95	ビット	18		K3-14	30	28	6	5.00		方形						
SP96	96	ビット	18		K3-14	34	28	12	5.03		長方形						
SD97	97	溝	18		K3-14,19	(80)	124	40	6	5.09	N3°W						
SD98	98	溝	18・20		K2-23 K3-3	(100)	128	30	10	4.91	N1°W		板状	単層			
SP99	99	ビット	18		I0-3	36	16	6	4.88		長方形						
SK100	100	土坑	18		I0-2,3,7,8	80	32	6	4.91	N45°W	(楕円形)						
SD101	101	溝	18		K3-13	(94)	120	34	3	5.08	N40°W						
SD103	103	溝	18		I0-3,8	(114)	120	34	10	4.86	N12°E						
SD104	104	溝	18		F2-20 G2-16	(110)	116	28	18	4.88	N15°W					土溝延長・小溝	
SD106	106	溝	18		G2-11,16	(104)	122	36	15	4.88	N3°W					底面敷瓦	
SD106	106	溝	18・20		K2-22,23 K3-2	(122)	120	34	9	4.80	N25°W		板状	単層		底面敷瓦片群・溝	
SP107	107	ビット	18		L1-15	(48)	140	28	4.67		(方形)						
SP108	108	ビット	18		L1-15	(30)	(26)	21	4.74		(楕円形)						
SP109	109	ビット	18		L1-15	30	28	26	4.69		円形						
SD110	110	溝	18		H2-7,12	(118)	122	33	35	4.84	N4°W						
SP111	111	ビット	18		H2-12	(40)	(28)	22	4.84		(方形)						
SP112	112	ビット	18・19	23	N1-2	(70)	142	60	56	4.31	(平形)	U字状	単層	54	12	底面敷瓦、板瓦(コ ラ)瓦、コラ瓦、コ ラ瓦片	
SP113	113	ビット	18		N1-1,3	34	22	14	4.73		楕円形						

※ 24, 66, 67, 68, 102 は欠番

## E 区上層面

報告 番号 (No.)	種類	回別	写真 回数	位置	規模 (cm)			掘削高さ (m)	主軸方位	形跡		土層 (cm)	出土遺物	備考	
					長さ	幅	高さ			平面形	断面形				層土 長さ
SD1	1	溝	21	24	E8-11,12	(136)	(50~ 60)	17	5.09	N68°-E	溝底	レンズ状			
SP2	2	ピット	21		E8-6		26	26	42	5.27		方形			
SP3	3	ピット	21		E8-6		28	28	49	5.16		方形			
SP4	4	ピット	21		E8-6		28	26	27	5.38		方形	U字状	レンズ状	
SP5	5	ピット	21		E8-6		30	24	26	5.40		長方形			
SP6	6	ピット	21		D8-10 E8-6	(320)	(18)	24	5.41		(横内形)				
SP7	7	ピット	21		E8-1		34	24	40	5.27		横内形			
SP8	8	ピット	21		D8-5		40	18	28	5.37		長方形			
SP9	9	ピット	21	25	D8-5	(38)	(22)	20	5.14		(長方形)	U字状	単層		
SP10	10	ピット	21		D7-25		28	28	33	5.35		方形			
SD11	11	溝	21		D7-19,20,24	(204)	(14~ 26)	5	5.61	N81°-W					
SD12	12	溝	21		D7-18,19	(110)	(22~ 40)	4~7	5.62~ 5.64	N84°-W					
SP13	13	ピット	21		D7-7	(32~ 58)		32	53	5.10		円形	U字状	覆輪?	
SP14	14	ピット	21		D6-21		36	34	44	5.09		方形			
SP15	15	井戸	21	24	C6-20 D6-16		74	74	85	4.27		円形	覆輪	レンズ状	溝・土器(磁石)、柱礎、溝
SP16	16	ピット	21		C6-20		36	28	50	5.00		横内形			
SP17	17	ピット	21		C6-20		30	28	31	5.18		方形			
SP18	18	ピット	21		C6-14		30	26	20	5.31		方形			
SP19	19	ピット	21		D6-16,21		25	20	24	5.25		円形			
SP20	20	ピット	21		C6-25		34	30	22	5.28		円形			
SP21	21	ピット	21		D7-1		20	18	20	5.35		円形			
SP22	22	ピット	21		D7-19	(40)	(30)	30	6.00						
SP23	23	ピット	21		D7-25 D6-5		48	40	9	5.58		横内形			
SP24	24	ピット	21		D8-5 E8-1		18	14	22	5.40		横内形			
SP25	25	ピット	21		D8-5		44	30	18	5.48		横内形			
SP26	26	ピット	21		E8-1		26	20	32	5.34		長方形			
SP27	27	ピット	21		C6-20		22	18	32	5.19		横内形			
SP28	28	ピット	21		D7-19	(34)	(20)	31	5.39						
SP29	29	ピット	21		D7-19	(28)	(16)	22	5.48						
SP30	30	ピット	21		D7-18		34	34	5	5.63		方形			
SP31	31	ピット	21		D6-21		16	12	11	5.30		横内形			

## E 区下層面

報告 番号 (No.)	種類	回別	写真 回数	位置	規模 (cm)			掘削高さ (m)	主軸方位	形跡		土層 (cm)	出土遺物	備考		
					長さ	幅	高さ			平面形	断面形				層土 長さ	幅
SD1	1	溝	22		E8-18	(92)	(29~ 24)	11	4.86	N66°-W						
SD2	2	溝	22	23	25	E8-23,24	(80)	(44~ 62)	19	4.97	N55°-W	右斜壁	単層			
SK3	3	土坑	22		E8-24	(70)	(68)	4	4.99	N20°-W						
SK4	4	土坑	22	23	25	E8-24 E9-4	(112)	(84)	30	4.79	N41°-E	高低	レンズ状			
SK5	5	土坑	22		E9-10	(86)	(20)	9	4.77	N28°-E						
SK6	6	土坑	22		E9-10		62	44	79	4.12	N42°-E	長方形				
SD7	7	溝	22	23	C6-20,25 D6-16,21	(116)	(92~ 150)	26	4.89~ 4.70	N41°-W	高低	単層				
SK8	8	土坑	22		E8-7	(60)	(30)	5	4.89	N33°-E	(横内形)					
SD9	9	溝	22		E8-1,8	(70)	(28)	46	4.51	N3°-E						
SP10	10	ピット	22		E8-1		40	30	7	4.90		横内形				
SD11	11	溝	22		D7-25 E8-5	(200)	(24~ 46)	6~11	4.84~ 4.89	N2°-W						
SD12	12	溝	22		D6-21	(110)	(18~ 30)	11~ 12	4.82~ 4.83	N80°-W						
SK13	13	土坑	22		D7-1,2,7	(172)	(50)	7~9	4.85~ 4.87	N37°-E	(横内形)					
SK14	14	土坑	22		D6-5	(58)	(30)	5	4.88	N39°-E	(横内形)					
SD15	15	溝	22		D7-19	(108)	(20)	45	4.51	N28°-W						
SP16	16	ピット	22	24	25	D7-2,7		28	21	4.84		横内形	半円形	レンズ状		
SD17	17	溝	22		D7-1,2,7	(156)	(48~ 72)	11~ 12	4.82~ 4.82	N21°-W						
SD18	18	溝	22	24	25	D7-7,8,12,13	(178)	(150~ 250)	15	4.90	N38°-E	高低	単層			
SD19	19	溝	22		D7-18,20,24, 25	(170)	(66~ 72)	4~7	4.93~ 4.96	N63°-E						
SD20	20	溝	22		D7-19,24	(144)	(28~ 38)	4~9	4.90~ 4.96	N22°-W						
SP21	21	ピット	22		D6-21		30	26	23	4.71		円形				
SP22	22	井戸	13													C区下層 同一

## F 区

報告 番号 (No.)	種類	回別	写真 回数	位置	規模 (cm)			掘削高さ (m)	主軸方位	形跡		土層 (cm)	出土遺物	備考		
					長さ	幅	高さ			平面形	断面形				層土 長さ	幅
SD1	1	溝	25		V6-19,20	(124)	(28)	3~4	5.40	N80°-E						
SK2	2	土坑	25		V6-19	(68)	(74)	8	5.45		(横内形)					
SD3	3	溝	25		V6-18,19,20	(326)	(32~ 50)	5~25	5.45	N67°-E						
SD4	4	溝	25		V6-18,19	(250)	(40)	4~26	5.27~ 5.49	N62°-E						
SD5	5	溝	25	27	27	U6-15,20 V6-11,16,17,18	(480)	(70~ 114)	20	5.43	N65°-E	半円形	単層			

別 表

報告書番号	観測時刻 (No.)	種類	回次	写真枚数	位置	規模 (cm)			北高 (m)	主方位	初期		経度 (cm)	出土遺物	備考
						長さ	幅	高さ			平面形	断面形			
SP6	6	ビット	25		V6-16	18	14	9	5.50						
SD7	7	溝	25		U6-15,20 V6-16	(152)	(60 ~ 82)	11 ~ 12	5.45 ~ 5.47	N56° E					土葬跡見舞
SK8	8	土坑	25		V6-11,12,16, 17	(124)	(46 ~ 82)	10	5.47	N83° E					
SD9	9	溝	25・27	27	X6-22,23 X7-1,2,3	(196)	(118 ~ 146)	44	5.20 ~ 5.21	N65° W	溝状	レンズ状			底面敷石陶器・土 土葬跡見舞・土葬 跡見舞
SD10	10	溝	25・27	27	W6-18,19,20, 23,24,25 X6-16,21	(164)	(440)	40	5.24 ~ 5.30	N4° W	自然形	レンズ状			木製品 (漆・漆状)
SK11	11	土坑	25・27	27	X6-21	(128)	(88)	80	4.48	N52° E	(横内形)	U字状	レンズ状		
SD12	12	溝	25		V6-20	(56)	(38)	13	5.20	N5° E					
SD14	14	溝	25・27	26	U6-12,13,18, 19	(380)	(20 ~ 38)	27	5.00 ~ 5.08	N60° E	平円状	ブロック状			珠洲焼土
SP15	15	ビット	25		U6-14	28	20	11	5.11						
SP16	16	ビット	25		U6-13	32	30	8	5.13						
SP17	17	ビット	25		R5-1	36	30	17	4.70						
SP18	18	ビット	25		R5-1	18	14	11	4.78						
河田20	20	河田	25・26	28	M3-12,13,14, 15,18,19,20 N3-11,16,17, 18,19,20,23, 24,25 O3-16,17,21, 22,23,24,25 P3-21 O4-52 P4-1,2,3,7,8,9, 10,14,15 Q4-11,12,16, 17,18,19,23, 24,25 Q5-6	(1910)		(75)	(4.28 ~ 4.50)	N71° E					土葬跡見舞・木製品 (溝状)
SD23	23	溝	25		T6-10,15 U6-11	(308)	(26 ~ 96)	6 ~ 11	4.98 ~ 5.03	N46° E					
SK24	24	土坑	25		T6-15 U6-11	(82)	(44)	13	4.95	N74° E	(横内形)				
SK25	25	土坑	26		L3-3	62	18	6	5.27	N63° W	横内形				
SD26	26	溝	26		L2-23 L3-2,3	(170)	(20 ~ 24)	4 ~ 13	5.28	N50° W					
SP27	27	ビット	26		K3-1	32	18	15	5.24						
SP28	28	ビット	26		K3-1	38	30	16	5.24						
SP29	29	ビット	26		K3-1	32	18	14	5.07						
SD30	30	溝	26		J2-25 K2-21 J3-5 K3-1	(42)	(24)	14	5.23	N82° W	溝状	溝状			底面敷石陶器・小形 土葬跡見舞・土葬 跡見舞
SD31	31	溝	26・28	28	J2-25 J3-5	(164)	(79 ~ 84)	23	5.23 ~ 5.25	N4° E					
SP32	32	ビット	26・29	29	J3-5	24	22	11	5.25						
SD33	33	溝	26		J3-5	(34)	(30)	20	5.27	N7° E	(長方形)	溝状	溝状		
SP34	34	ビット	26・29	29	J3-4	40	34	16	5.11						
SP35	35	ビット	26		J3-4	38	38	8	5.30						
SP36	36	ビット	26		J3-3	32	24	17	5.12						
SD37	37	溝	26		J3-1,6	(148)	(30 ~ 32)	6 ~ 11	5.13 ~ 5.16	N9° E					
SD38	38	溝	26		E3-9,10	(150)	(28 ~ 30)	9 ~ 11	5.29 ~ 5.31	N11° E					
SD39	39	溝	26・28	28	E3-6,11	(146)	(30 ~ 40)	26	5.17 ~ 5.18	N14° E	平円状	溝状			
SP40	40	ビット	26		J3-5	28	28	14	5.23						
SD41	41	溝	25		U6-18	(76)	(22)	10	5.04	N87° E					
SP42	42	ビット	25		U6-13	(34)	(16)	14	5.02		(横内形)				
SP43	43	ビット	25		U6-13,18	18	18	6	5.08						
SK44	44	土坑	25		U6-12,13,17, 18	(146)	(26 ~ 54)	5 ~ 6	5.06 ~ 5.07	N87° E	(平断面)				
SD45	45	溝	26		K2-24,25 K3-5	(204)	(42 ~ 46)	7 ~ 8	5.29 ~ 5.30	N42° W					底面敷石陶器・土葬 跡見舞
SD46	46	溝	26		E3-1,9	(54)	(24)	8	5.30	N45° E					
SP47	47	ビット	26		E3-7	28	22	11	5.05						
SP48	48	ビット	26・29	28	E3-6,7	30	16	39	4.99		(横内形)	U字状	溝状	19 11	石版 (カワラ)
SP49	49	ビット	26		E3-7,12	28	24	10	5.22						
SP50	50	ビット	26		H3-15 E3-11	38	28	14	5.19						
SK51	51	土坑	26・28	28	H3-15 E3-11	(44)	(32)	16	5.14	N77° W	溝状	溝状			土葬跡見舞
SD52	52	溝	26・28	28	H3-15	(138)	(20 ~ 30)	18	5.23 ~ 5.27	N4° E	平円状	溝状			
SP53	53	ビット	26		H3-15	(30)	(24)	7	5.27		(横内形)				
SD54	54	溝	26・28	28	H3-15	(134)	(20 ~ 30)	19	5.21 ~ 5.22	N7° E	平円状	溝状			
SD55	55	溝	26・28	28	H3-14,15	(154)	(26 ~ 38)	45	5.20 ~ 5.22	N10° E					
SK56	56	土坑	26		H3-13,14	(234)	(34 ~ 62)	12 ~ 20	5.14 ~ 5.19	N71° W					
SD57	57	溝	26		H3-14,19	(90)	(38 ~ 42)	8 ~ 12	5.23 ~ 5.25	N11° E					
SD58	58	溝	26		H3-14,19	(96)	(32 ~ 34)	11	5.30	N8° E					
SD59	59	溝	25		H3-14,19	(110)	(36 ~ 40)	12 ~ 13	5.18 ~ 5.19	N4° E					
SD60	60	溝	26		H3-13,18	(140)	(20 ~ 30)	7 ~ 12	4.98 ~ 5.03	N6° E					
SD61	61	溝	26		H3-17	(144)	(18 ~ 22)	16	4.94	N7° E					
SP62	62	ビット	25		U6-11	46	36	7	5.03	N78° E	平断面				
SP63	63	ビット	25		U6-12	28	22	5	5.07						
SP64	64	ビット	26・29	28	J3-3	30	30	13	5.15		方形	平円状	溝状		
SP65	65	ビット	26		J3-7	28	18	19	5.10			(横内形)			
SK66	66	土坑	26		G4-2,6,7	(200)	(78)	6 ~ 9	4.87 ~ 4.89	N62° W					土葬跡見舞・小形 土葬跡見舞



## 別 表

報告 書番号	観測時刻 (No.)	種類	回数	写真 回数	位置	規模 (cm)			観測高さ (m)	主軸方位	形跡		覆土	柱間 (cm)		出土遺物	備考
						長さ	幅	厚さ			平面形	断面形		長さ	幅		
SD20	20	溝	30		I2-21.22	(78)	(34)	8	4.94	N 5° E							
SD21	21	溝	30 ~ 32	30	D3-20.25 E2-16.21	(170)	(42 ~ 100)	27	4.56	N 10° W	溝状	溝壁					
SD22	22	溝	30		B4-4.8,1.0	(120)	(10 ~ 20)	2 ~ 3	5.12 ~ 5.13	N 48° E							
SD23	23	溝	30		B4-6.9	(74)	(48)	12	5.11	N 17° E							
SD24	24	溝	30		B4-8	(78)	(26)	10 ~ 13	5.09 ~ 5.12	N 15° E							
SD25	25	溝	30		B4-6	(70)	(28)	14	5.07	N 18° E							
河川 26	26	河川	30 ~ 32	30	D3-18.19,20, 22,24,25 E3-16.17,18,21	(146)	(88)	48	4.63 ~ 4.84	N 14° E	溝状	トンズ状					
SP25	25	ピット	30		B4-9.19	(20)	(18)	3	5.12		円形						

※ 27 は欠番

## H 区

報告 書番号	観測時刻 (No.)	種類	回数	写真 回数	位置	規模 (cm)			観測高さ (m)	主軸方位	形跡		覆土	柱間 (cm)		出土遺物	備考
						長さ	幅	厚さ			平面形	断面形		長さ	幅		
河川 1	1	河川	33 ~ 34	31	G2-24.25 H3-21.22 H4-1	(164)	(280)	138	4.57 ~ 4.75	N 45° E		平円状	レンズ状			土器類多数	
河川 2	2	河川	33 ~ 34	31	F4-10.13 F4-3,4,6,7,8,9	(116)	(814)	90 ~ 88	4.56 ~ 4.65	N 8° E (長方形)	溝状	レンズ状				古式土器類高林、漆 器多数、土器類多数、 木製品 (漆器)	
SD3	3	溝	33 ~ 34	31	D4-13,14,18, 19	(106)	(104)	20	4.70	N 3° E	自然形	溝壁					
SK4	4	土坑	33		C4-20 D4-16	(94)	(46)	10 ~ 12	5.03 ~ 4.65	N 86° W (長方形)							
河川 5	5	河川	33 ~ 34	31	A5-13,14,15, 17,18,19,20, 22,23,24	(262)	(470)	30	4.62 ~ 4.78	N 85° E	溝状	溝壁					
SD6	6	溝	33		E4-12	(140)	(26 ~ 38)	10 ~ 14	4.89 ~ 4.93	N 3° E							
SK7	7	土坑	33		E4-12	(42)	(34)	11	4.94	N 77° W (楕円形)							
SP8	8	ピット	33		E4-12	16	16	9	4.94		円形						
SK9	9	土坑	33		E4-11,12	124	44	6 ~ 9	4.81 ~ 4.94	N 74° W	楕円形						
SK10	10	土坑	33		D4-15 E4-11	44	40	14	4.76		方形						土器類無内輪
SK11	11	土坑	33		B4-25	54	34	8	4.97	N 89° W	楕円形						
SK12	12	土坑	33 ~ 34	31	H3-21	(138)	(108)	46	4.15	N 85° E (楕円形)	溝状	レンズ状					
SK14	14	土坑	33		E4-11	(124)	(82)	13	4.87	N 83° W							
SD13	13	溝	33		E4-11	(56)	(20)	10	4.86	N 5° E							
SD16	16	溝	33		E4-11,12	(64)	(22)	4	4.92	N 6° E (楕円形)							
SK17	17	土坑	33 ~ 34		E4-10 F4-6	(124)	(94)	40	4.32	N 77° W (長方形)	溝状	水平					

## I 区

報告 書番号	観測時刻 (No.)	種類	回数	写真 回数	位置	規模 (cm)			観測高さ (m)	主軸方位	形跡		覆土	柱間 (cm)		出土遺物	備考	
						長さ	幅	厚さ			平面形	断面形		長さ	幅			
SD1	1	溝	35		P7-6,7,11	(188)	(34 ~ 80)	11 ~ 17	4.82 ~ 4.89	N 28° W								
SK2	2	土坑	35		O7-10	36	48	15	4.87		方形						土器類無内輪	
SP3	3	ピット	35 ~ 37		O7-4	46	42	36	4.54 ~ 4.74		方形	掘削状	ブロック 状					
SP4	4	ピット	35		O7-3	34	32	8	4.87		円形						前面部狭	
SK5	5	土坑	35		O6-23 O7-3	64	50	13	4.81	N 66° E	楕円形							
SP6	6	ピット	35		O7-2	24	20	6	4.87		円形							
SP7	7	ピット	35		O7-9	22	18	14	4.80		楕円形							
SD8	8	溝	35		P7-6,11	(90)	(28)	9	4.91	N 12° W (楕円形)								
SK9	9	土坑	35		P7-6	66	36	17	4.83	N 55° E	楕円形						土器類小壺	
SD10	10	溝	35		P7-6	(70)	(32)	16	4.84	N 8° E							土器類無内輪	
SD11	11	溝	35		N9-18,23	(76)	(30 ~ 28)	25	4.45 ~ 4.67	N 14° W								
SD12	12	溝	35		M6-16,20	(208)	(22 ~ 30)	9 ~ 12	4.89 ~ 4.91	N 19° W								
SP13	13	ピット	35		M6-20	30	16	5	4.95		楕円形							
SK14	14	土坑	35 ~ 37		M6-19,20	70	54	27	4.78	N 89° W	楕円形	自然形	レンズ状					
SP15	15	ピット	35		16-20	42	30	9	4.96		楕円形							
SK16	16	土坑	35		16-14,15,19	(122)	(118)	21 ~ 24	4.85 ~ 4.85	N 10° W							前面部狭内輪	
SD17	17	溝	35		16-13,14,19	(152)	(48 ~ 60)	8 ~ 13	4.93 ~ 4.98	N 3° E							土器類長蓋、小壺	
SP18	18	ピット	35		16-17	34	32	2	4.95		方形							
SK19	19	土坑	35		16-17	66	34	5	4.92	N 3° E	楕円形							
SK20	20	土坑	35		P7-7	(78)	(46)	3 ~ 13	4.87 ~ 4.97	N 62° E (楕円形)								
SP21	21	ピット	35		P7-7	(32)	(14)	9	4.92		(円形)							
SD22	22	溝	36		P7-7,12	(104)	(39 ~ 44)	4 ~ 10	4.91 ~ 4.97	N 56° W								
SK23	23	土坑	35		P7-6	(50)	(26)	12	4.88		(楕円形)							土器類長蓋
SK24	24	土坑	35		O7-10	(60)	(36)	13	4.89	N 68° E (長方形)								
SK25	25	土坑	35		P7-6	(44)	(26)	9	4.91	N 4° E (楕円形)							土器類無内輪、黒白 陶、小壺	
SP26	26	ピット	35		P7-6	42	36	23	4.77		方形							
SK27	27	土坑	35		P7-6	(44)	(28)	21	4.79	N 21° W (楕円形)							土器類小壺	
SP28	28	ピット	35		O7-10	34	30	31	4.70		円形							
SP29 (附: 土)	29	ピット	35 ~ 38	33	26-24,27-4	70	102	3.88	N 85° W (円形)	U字状	柱状	柱頭	99 ~ 55, 22 9)	22	土器類小壺、片断 (ク リ)	SR1		



別 表

報告書番号	観測時刻 (No.)	種類	国産	写真採取	位置	規模 (cm)			北緯 (°)	東経 (°)	主軸方位	初期		長さ (cm)	出土遺物	備考
						長さ	幅	厚さ				平面形	断面形			
SD20	20	溝	38-39-41	37	Q5-Q5.10 R5-6.11,12,17,18	(842)	(52-64)	22	4.83-4.87	N52° E	中円状	レンズ状			土層無自輪、黒白粉、小巻、黒色土層無自輪、土製品(かまぼこ)	
SD21	21	溝	38-39		R6-9.10	(1320)	(22-40)	6	5.01	N43° W						
SD22	22	溝	38-39		Q5-10.13 R5-6.11	(78)	(46)	22	4.92	N50° W					土層無自輪、小巻	
SK23	23	土坑	38-39		R5-6	(70)	(32)	29	4.83	N47° E					土層無自輪	
SD24	24	溝	38-39		Q5-10	(64)	(48)	23	4.91	N52° W					土層無自輪、黒白粉、小巻	
SD25	25	溝	38-39		Q5-Q5.10 R5-6	(250)	(18-28)	7	5.08	N61° E					土層無自輪、黒白粉、小巻	
SP26	26	ピット	38-39		Q5-5	32	30	29	4.88		円形				土層無自輪	
SD27	27	溝	38-39		Q5-4.5	(142)	(20-46)	19	4.88-5.00	N85° E					土層無自輪、巻、土層無自輪、黒白粉、小巻	
SP28	28	ピット	38-39		Q5-5	30	28	23	4.97		円形				土層無自輪、黒白粉、小巻	
SK29	29	土坑	38-40	37	Q4-24 Q5-4.5	82	72	15	4.97	N76° E	円形	楕円状	レンズ状		巻、土層無自輪、黒白粉、土層無自輪、黒白粉、小巻、黒色土層無自輪、黒色土層無自輪	
SD30	30	溝	38-39		Q4-24 Q5-4	(228)	(29-38)	24	4.90	N10° W					土層無自輪、土層無自輪、黒白粉、小巻	
SD31	31	溝	38-39		Q4-18,24.25 Q5-9 R5-1.6	(720)	(14-36)	8-13	5.00-5.06	N36° E					巻、土層無自輪、黒白粉、巻、土層無自輪、黒白粉、小巻、黒色土層無自輪	
SD32	32	溝	38-39		Q4-18,23.24	(318)	(16-36)	5	5.00-5.08	N63° E					巻、土層無自輪、有自輪、土層無自輪、黒白粉、小巻、黒色土層無自輪	
SD33	33	溝	38-39		Q4-18,19,23,24	(286)	(26-40)	37	4.79-4.96	N2° W					巻、土層無自輪、土層無自輪、黒白粉、小巻	
SD34	34	溝	38-39-41	37	Q4-13,18,23	(296)	(40-52)	26	4.83	N2° W	中円状	レンズ状			土層無自輪、黒白粉、小巻	
SD35	35	溝	38-39		Q4-13,18	(310)	(20-42)	15	5.01	N2° W					土層無自輪、黒白粉、小巻	
SD36	36	溝	38-39		Q4-7,12,13	(220)	(32-46)	7-8	5.07-5.10	N47° E					土層無自輪	
SD37	37	溝	38-39		56-17,21,22	(212)	(42-54)	15	4.58	N64° W					土層無自輪	
SD38	38	溝	38-39		Q4-12,13	(94)	(20)	11	5.04	N82° E					土層無自輪	
SK39	39	土坑	38-39		Q4-12,17	(144)	(46)	15	4.89	N40° E	(楕円形)				土層無自輪、黒白粉、小巻	
SP41	41	ピット	38-39		Q4-7	42	42	7	5.08		円形				土層無自輪	
SD42	42	溝	38-39		Q4-7,12	(270)	(42-56)	22	4.93	N2° W					土層無自輪、黒白粉、小巻	
SD43	43	溝	38-39		Q4-7,12	(228)	(12-26)	7	5.05	N2° E					土層無自輪、小巻	
SD44	44	溝	38-39		Q4-2,7	(68)	(18)	10	5.05	N2° E					土層無自輪	
SP45	45	ピット	38-39		Q4-6,7	36	26	21	4.92		円形				土層無自輪	
SD46	46	溝	38-39		Q4-16,7	(264)	(26-42)	15-20	4.96-5.00	N62° E					土層無自輪、黒白粉、小巻	
SK47	47	土坑	38-39		Q4-1,2	(56)	(20)	15	4.99	N37° E	(楕円形)				土層無自輪、黒白粉、小巻	
SD48	48	溝	38-39		Q4-1,6	(328)	(40-60)	18-26	4.93	N1° W					巻、土層無自輪、土層無自輪、黒白粉、小巻、黒色土層無自輪	
SD50	50	溝	38-39		Q4-6	(68)	(56)	16	4.95	N60° W					土層無自輪	
SK51	51	土坑	38-39		Q4-1	(52)	(44)	14	5.02	N21° E	(円形)				土層無自輪、小巻	
SD52	52	溝	38-39		Q3-21 Q4-1	(132)	(38)	9	5.06	N24° W					土層無自輪	
SP53	53	ピット	38-39		Q4-1	(24)	(18)	20	4.96	N42° E					土層無自輪	
SD55	55	溝	38-39		P3-25 Q3-21 P4-5 Q4-1,6	(246)	(12-32)	6	5.00	N2° E					土層無自輪	
SD56	56	溝	38-39		P3-20,25 P4-6	(300)	(30-48)	16-19	4.94-4.97	N2° E					土層無自輪、小巻	
SD57	57	溝	38-39		P3-15,20,25	(296)	(32-72)	18	4.87-4.99	N9° W					土層無自輪、小巻	
SK58	58	土坑	38-39		P3-20	(72)	(38)	11	5.00	N48° E	(楕円形)				土層無自輪、黒白粉、小巻	
SP59	59	ピット	38-39		P3-19	33	33	9	4.97		円形				土層無自輪、黒白粉、小巻	
SP60	60	ピット	38-39		P3-19	22	20	8	4.98		円形				土層無自輪	
SD61	61	ピット	38-39		P3-19	32	22	7	5.01		円形				土層無自輪	
SD62	62	溝	38-39		P3-14,19	(74)	(24)	6	5.03	N23° W					土層無自輪、黒白粉、小巻	
SD63	63	溝	38-39		P3-14,19	(256)	(36-56)	14	4.94	N19° W					土層無自輪、黒白粉、土製品	
SD65	65	溝	38-39		P3-14,18,19	(198)	(34-50)	11	4.93	N15° W					土層無自輪	
SD66	66	溝	38-39		P3-13,14,18	(166)	(34-46)	9	4.91	N17° W					土層無自輪	
SD67	67	溝	38-39-41	37	P3-1,2,3,7,8 R3,12,13,14	(218)	(458-585)	57-62	4.33-4.84	N74° W		楕円状	レンズ状		巻、土層無自輪、土層無自輪、黒白粉、小巻、黒色土層無自輪、土製品(刀子、木製品(漆器・土器))	
SD68	68	溝	38-39		P2-16,21 P3-1	(324)	(12-68)	9	4.97	N11° W					土層無自輪	
SK69	69	土坑	38-39		P2-21 P3-1	(68)	(34)	25	4.77	N36° E					土層無自輪	
SK70	70	土坑	38-39		P2-21	(34)	(20)	11	4.91	N58° W	(楕円形)				巻、土層無自輪、土層無自輪、黒白粉、小巻、黒色土層無自輪	
SD71	71	溝	38-39-42	37	Q2-9,10,14	(242)	(74-126)	26	4.75-4.81	N21° W		楕円状	レンズ状		巻、土層無自輪、土層無自輪、黒白粉、小巻、黒色土層無自輪	
SD72	72	溝	38-39		R5-6,7,11	(230)	(28-50)	21	4.92	N51° W					土層無自輪	

報告書番号	観測点 (No.)	種類	国版	写真 採取	位置	規模 (cm)			成層高 (m)	主観方位	形態		覆土	柱形 (cm)		出土遺物	備考
						長さ	幅	高さ			平面形	断面形		長さ	幅		
SD73	73	溝	38-39		R5-11.16	(100)	(40)	15	4.94	N49°W							
SK74	74	土坑	38-39		O2-3.4	(66)	(32)	13	4.94	N38°E (長方形)							
SD75	75	溝	38-39		Q5-5.10	(276)	(30~30)	8~20	5.00~5.06	N4°E							底面敷石・土層敷石白陶・土器・小灰・褐色土層敷石
SD76	76	溝	38-39		P3-14.15,19.20	(110)	(42)	11	4.98	N3°W							
SK77	77	土坑	38-39		P2-1.2	(70)	(50)	16	4.73	N43°W (楕円形)							
SK78	78	土坑	38-39		P2-1.2	(98)	(56)			N50°W							
SK79	79	土坑	38-39		P2-2.1		60	40	10	4.87	N61°E						
SD80	80	溝	38-39		O2-10.15	(178)	(16~30)	11	4.92	N19°E							
SD81	81	溝	38-39		S6-16.17	(210)	(32~40)	17	4.88	N50°W							
SP82	82	ピット	38-39+42		O1-22.23 O2-2.2		50	40	27	4.78	N9°W	楕円形	V字状	単層			
SD83	83	溝	38-39		O1-17.22	(98)	(36)	8	4.95	N15°W							
SP84	84	ピット	38-39+42		O1-22		46	34	20	4.84	N62°E	長方形	平円状	単層			
SP85	85	ピット	38-39+42	38	O1-17.22		58	36	27	4.78	N82°E	楕円形	楕円	柱状			
SD86	86	溝	38-39+42	38	O1-11.12,16,17,21,22	(326)	(26~36)	27	4.86~4.90	N8°W		平円形	レンズ状				底面敷石白陶・土層敷石白陶・土器・小灰・褐色土層敷石
SK87	87	井戸	38-39+42	36	N1-4.9,10	(228)	(144)	111	3.91	N37°E (楕円形)	V字状	レンズ状					底面敷石白陶・土層敷石白陶・木製品 (漆器・鉄釘)
SK88	88	土坑	38-39		O1-16	(68)	(54)	18	4.84	N84°E	長方形						
SK89	89	土坑	38-39+41	37	N1-20.25 O1-16	(220)	(190)	9	4.83	N39°E		楕円	単層				
SK90	90	土坑	38-39+41	37	N1-15.20	108	68	14	4.87	N52°W	楕円形	楕円	単層				土層敷石白陶
SD91	91	溝	38-39		N1-4.9,13,14	(440)	(24~48)	6~15	4.77~4.86	N22°W							
SD92	92	溝	38-39+42		O1-11	(144)	(80)	12	4.88	N53°W	長方形	楕円	レンズ状				
SP93	93	ピット	38-39		N1-15.O1-11	(38)	(24)	8	4.93	N45°W	長方形						
SP94	94	ピット	38-39		R0-9		18	18	14	4.95		円形					
SK95	95	土坑	38-39		R0-9	(48)	(44)	11	4.98		方形						
SP96	96	ピット	38-39		S7-15		40	30	21	4.61	N61°W	楕円形					
SD97	97	溝	38-39		S7-20	(96)	(24)	11~29	4.72	N4°E							
SD98	98	溝	38-39		S7-19	(60)	(30)	6~12	4.76~4.82	N42°E							
SP99	99-1	ピット	38-39		S6-23		22	18	13	4.65	N35°W	楕円形					
SD99	99-2	溝	38-39		R0-4.5	(42)	(18)	12	4.96	N66°W							
SP100	100	ピット	38-39+42		O2-3	(28)	(28)	53	5.22		(円形)			71	9	柱形 (タリ)	
SP101	101	ピット	38-39+42	38	O1-22	(30)	(22)	68	5.38	N52°E	(楕円形)			100	12	柱形 (タリ)	底面敷石白陶・土層敷石白陶・土器・小灰・褐色土層敷石
SP102	102	ピット	38-39+42		O2-2	(32)	(22)	35	4.83	N37°E (不規則)	U字状	単層					土層敷石白陶・柱形
SP103	103	ピット	38-39+42	38	O1-17	(20)	(14)	41	4.64	N24°W	(楕円形)	U字状	単層	62	11	柱形 (タリ)	
SD104	104	溝	38-39		R0-15.20 S6-11.16	(130)	(40)	15	4.90	N48°W							
SD105	105	溝	38-39		R0-10.15	(120)	(28~58)	17	4.91	N21°W							
SD106	106	溝	38-39+42		N1-14.19	(126)	(36)	29	4.90	N21°W		平円形	レンズ状				
SK107	107	土坑	38-39+41		N1-14.19	(136)	(120)	30	4.43	N34°E		台形状	レンズ状				土層敷石白陶
SP108	108	ピット	38-39		O2-20		12	12	7~21	4.76~4.90		円形					
SD109	109	溝	38-39		N1-4.9,14	(434)	(24~30)	7~21	4.76~4.90	N23°W							
SK110	110	土坑	38-39		N1-4.5	(80)	(48)	8~11	4.81~4.85	N35°E	(楕円形)						
SP111	111	ピット	38-39		S7-2.3		14	14	13	4.61		円形					
SP112	112	ピット	38-39		S7-2		18	18	14	4.60		円形					
SK113	113	土坑	38-39		P2-1.2	(86)	(60)	30	4.60	N78°W	(楕円形)	平円形	単層				
SD114	114	溝	38-39+42		O1-11.16,21	(356)	(10~30)	22	4.83	N8°W							
SP115	115	ピット	38-39		P3-19		28	22	31	4.63	N29°W	楕円形					

※ 40, 49, 54, 64 は文書

## K 区

報告書番号	観測点 (No.)	種類	国版	写真 採取	位置	規模 (cm)			成層高 (m)	主観方位	形態		覆土	柱形 (cm)		出土遺物	備考
						長さ	幅	高さ			平面形	断面形		長さ	幅		
SK1	1	土坑	43-44	42	M11-9	(56)	(42)	12	4.92	N47°E	(楕円形)	台形状					
SK2	2	土坑	43-44		L10-5.10 M10-1.6	148	132	16	4.58		円形	楕円					
SD3	3	溝	43		N11-3.9 N1-3.6,4.8	(448)	(30~90)	11	4.72~4.81	N19°W		楕円	単層				底面敷石白陶・土層敷石白陶・土器・小灰・褐色土層敷石
SK4	4	土坑	43		N11-22	82	54	12	4.80		円形						
SD5	5	溝	43		N11-17,18,22	(204)	(18~38)	12~16	4.75~4.78	N28°W							
SP6	6	ピット	43		N11-16		40	32	15	4.77		楕円形					
SD7	7	溝	43		N11-14,17,18	(416)	(36~72)	17~23	4.69~4.75	N79°E							
SP8	8	ピット	43		N11-11		34	24	16	4.80		方形					

別 表

報告書番号	観測点名 (No.)	種類	国別	写真 採取	位置	規模 (cm)			底面 径 (m)	主軸方位	傾斜		傾斜 向き	経緯 (°)		出土遺物	備考
						長さ	幅	高さ			平面形	横断面		長さ	幅		
SP9	9	ピット	43		N11-11	28	20	11	4.85							土曜無自輪・小遺	
SP10	10	ピット	43		N11-11	38	28	32	4.66							底面無自輪・土曜 無自輪・瓦・小 遺	
SP11	11	ピット	43		N11-6.11	40	36	38	4.60							土曜無自輪・瓦・小 遺	
SK12	12	土坑	43		M11-15	(90)	(46)	15	4.81	N45°E							
SD13	13	溝	43		M11-6.10.15 N11-6.11	(226)	(30~ 44)	22	4.78~ 4.79	N68°W						土曜無自輪	
SD14	14	溝	43		N11-12.17	(180)	(52~ 96)	11	4.75	N11°W						土曜無自輪・小遺	
SD15	15	溝	43		M11-5.10.15	(206)	(42~ 78)	22	4.72~ 4.74	N9°W						土曜無自輪・小遺	
SP18	18	ピット	43		M11-5.10	30	18	16	4.80							土曜無自輪	
SP17	17	ピット	43		M11-10.15	(22)	(12)	6	4.77							土曜無自輪	
SD18	18	溝	43		M11-5.10	(262)	(22~ 48)	11	4.75~ 4.85	N6°W						土曜無自輪	
SK19	19	土坑	43・44	42	M10-23	90	86	13	4.83							底面無自輪・土曜 無自輪・瓦・小 遺・木製品(板状)	
SP20	20	ピット	43・47		M10-24	44	32	34	4.90							土曜 (カマ)	
SD21	21	溝	43		M10-23/M11-3	(116)	(38~ 52)	6~10	4.83~ 4.87	N10°E						底面無自輪・土曜 無自輪・瓦・小 遺	
SD22	22	溝	43		M10-18.23	(128)	(48)	11	4.77	N9°W						底面無自輪・土曜 無自輪・瓦・小遺	
SD23	23	溝	43		M10-17.18.22	(166)	(24~ 36)	12	4.70	N19°W						土曜無自輪・小遺	
SK25	25	土坑	43・44		M10-17	(84)	(72)	19	4.65	N34°E							
SD26	26	溝	43		M10-12.17	122	32	7	4.73	N72°E						土曜無自輪・小遺	
SK27	27	土坑	43		M10-11	82	44	16	4.67	N34°W						土曜無自輪・小遺	
SD28	28	溝	43		M10-13.18.23 M11-3.4	(618)	(180)	26	4.62~ 4.66	N13°E						土曜無自輪・小遺	
SK29	29	土坑	43		L10-10 M10-4.11	(142)	(52)	8	4.73	N39°E							
SP30	30	ピット	43		M10-1	30	26	4	4.77								
SD31	31	溝	43		L9-18.14.18.19	(166)	(22~ 40)	14	4.69	N7°W							
SP32	32	ピット	47	43	M10-24/M11-4	(48)	(34)	64	4.39	N60°W						土曜 (タリ)	
SD33	33	溝	43・46		L10-2.25 L10-4.5	(348)	(64~ 150)	19	4.87~ 4.83	N13°W						土曜無自輪・小遺	
SK34	34	土坑	43		D.N1-2.3	(86)	(32)	17	4.72	N22°W						土曜無自輪・小遺	
SD35	35	溝	43		N11-17	(28)	(26)	6	4.85	N32°E						土曜無自輪	
SK36	36	土坑	43		D.N11-6.7.11, 12	(206)	(22~ 80)	23	4.71~ 4.76	N35°E						土曜無自輪・土曜 無自輪・瓦・小遺	
SK37	37	土坑	43		N11-16	(68)	(38)	17	4.70	N55°W						土曜無自輪・小遺	
SK38	38	土坑	43		N11-11	35	46	21	4.75	N19°W						土曜無自輪・小遺	
SP39	39	ピット	43		N11-13	24	24	8	4.81								
SP40	40	ピット	43		N11-16	22	16	13	4.83	N50°E							
SD41	41	溝	43		N11-6.11.16	(374)	(30~ 78)	1~27	4.72~ 4.98	N4°E						土曜無自輪	
SD42	42	溝	43		N11-6.11.16	(346)	(28~ 70)	30~ 23	4.73~ 4.76	N6°W						土曜無自輪・瓦・ 小遺	
SP43	43	ピット	43・47		M11-10	(18)	(12)	25	4.72							土曜無自輪	
SD44	44	溝	43		N11-16.17	(244)	(34~ 48)	7~13	4.80	N87°E						土曜無自輪	
SD45	45	溝	43		D.N1-3	(190)	(56)	11	4.81	N17°W							
SD46	46	溝	43・46		N11-18.23.24 D.N1-3.8	(430)	(50~ 70)	27	4.64~ 4.68	N22°W						土曜無自輪・瓦・ 土曜無自輪・瓦・ 小遺	
SD47	47	溝	43・46		N11-18.23 D.N1-2.3	(458)	(38~ 92)	29	4.72~ 4.75	N20°W						土曜無自輪・瓦・ 土曜無自輪・瓦・ 小遺	
SP49	49	ピット	43		J7-2.7	46	42	28	4.76								
SP50	50	ピット	43		J7-2	48	48	11	4.91								
SD51	51	溝	43・46	43	J6-6.11.12.16, 17, 21.22 J7-1.2	(614)	(156~ 259)	21	4.78~ 4.89	N7°W						土曜無自輪・瓦・ 土曜無自輪・瓦・ 小遺	
SP52	52	ピット	43		M11-9.10	26	26	23	4.76								
SP53	53	ピット	43		M11-5	28	26	22	4.77								
SP54	54	ピット	43		N11-18	36	28	37	4.56							土曜無自輪・土曜 無自輪	
SP56	56	ピット	43		R-10.15	28	20	9	4.97								
SP57	57	ピット	43・47		N11-6.11	(36)	(12)	36	4.56								
SP58	58	ピット	43		M11-10	40	38	20	4.75								
SP59	59	ピット	43		M11-10	28	18	15	4.80								
SD60	60	溝	43・46														SD58 土 同
SP61	61	ピット	43・47	43	M11-4	(36)	(16)	50	4.22								
SP62	62	ピット	43・47	43	M11-4	60	32	64	4.40	N64°W							
SD63	63	溝	43		M11-4.5	(130)	(40)	22	4.77	N74°E						土曜無自輪	
SD64	64	溝	43		M11-4.5.9	(318)	(28~ 42)	14~ 21	4.78~ 4.85	N11°W							
SD65	65	溝	43		M10-11.12.16, 17	(50)	(42)	9	4.72	N42°W							
SK66	66	土坑	43		J6-17.18.22.23	62	44	17	4.79	N4°W						土曜無自輪・瓦・ 小遺	
SD67	67	溝	43		R-16.15.20	(336)	(64~ 74)			N5°E							
SP68	68	ピット	43		M11-4	14	12	23	4.78								
SP69	69	ピット	43		J7-5.10	44	34	16	4.77	N23°E						土曜無自輪	
SK70	70	土坑	43		IS-18	76	58	21	4.70	N82°W						土曜無自輪・瓦・ 土曜無自輪・瓦・ 小遺	

報告書番号	観測点番号 (No.)	種類	国版	写真枚数	位置	規模 (cm)			底面径 (m)	主軸方位	初期		経緯 (cm)		出土遺物	備考		
						長さ	幅	高さ			平面形	断面形	長さ	幅				
SD71	71	溝	43		IS-18,22,23 (176)	20	9	11	4.79	4.81	N33°W							
SK72	72	土坑	43		IS-17,18,22,23	76	72	15	4.75		方形							
SD73	73	溝	43		IS-17,18,23 (174)	8	43	8~13	4.76	4.81	N37°W							
SK74	74	土坑	43-44	42	H5-20 H5-16,17,21,22 (202)	70	64	4.22	4.77	E (楕円形)	円筒状	レンズ状		底面無釉白陶、黒土層無釉白陶、黒白磁、長條、小鍔、木製品 (骨角器・漆器)				
SK75	75	土坑	43-44		H4-17,18,22,23 (254)	102	19	4.73	4.79	N48°E	溝状	車輪		底面無釉白陶、長條磁、黒土層無釉白陶、長條、小鍔、黒色土層無釉白陶				
SD76	76	溝	44-46		H4-2,7,12,16,17 (712)	50	86	45	4.32	4.49	N9°W	円筒状	レンズ状		底面無釉白陶、土層無釉白陶、土層小鍔、黒色土層無釉白陶、土製品 (土器片等類)、石製品 (礫石)			
SK77	77	土坑	44-45	43	G4-5	152	144	25	4.51	4.56	N55°W	円形	溝状	レンズ状		底面無釉白陶、黒白磁、長條、土層無釉白陶、土製品		
SP78	78	ピット	44		G3-25	18	18	20	4.56									
SK79	79	土坑	43-45		H4-13	86	80	53	4.35		円形	円筒状	レンズ状		底面無釉白陶、黒土層無釉白陶、土層小鍔、黒色土層無釉白陶、土製品			
SP80	80	ピット	44		G3-25	44	22	15	4.58									
SK81	81	土坑	44		G3-24,25	88	60	23	4.52		N10°W	楕円形			底面無釉白陶、土層無釉白陶、土層小鍔、黒色土層無釉白陶、土製品			
SK82	82	土坑	44		G3-8	62	40	12	4.47		N2°E	楕円形			底面無釉白陶、土層無釉白陶、土層小鍔、黒色土層無釉白陶、土製品			
SK83	83	土坑	44		G3-7,12 (82)	46	12	4.49			N40°W	(楕円形)			土層無釉白陶、小鍔			
SK84	84	土坑	43		IS-18,19,23,24 (126)	36	44	7	4.73	4.79					土層無釉白陶	SK232と同一小		
SK85	85	土坑	43		IS-1,2,6,7 (312)	120	148	14	4.73	4.76	N44°E				底面無釉白陶、黒土層無釉白陶、長條、小鍔			
SD86	86	溝	44		H4-1,6	232	42	50	4.54	4.62	N16°W	楕円形			底面無釉白陶、土層無釉白陶、小鍔			
SD87	87	溝	43-44		H4-22,23,24 (428)	32	98	27	4.57	4.73	N42°E		円筒状	レンズ状		底面無釉白陶、土層無釉白陶、土層小鍔、黒色土層無釉白陶、土製品 (石製品、磁石)		
SK88	88	土坑	44-45		G3-23,24 (118)	118	15	4.64			N36°E	(楕円形)	溝状	レンズ状		底面無釉白陶、土層無釉白陶、小鍔		
SK89	89	土坑	44		G3-12,13,17,18 (164)	74	4	11	4.56	4.60	N37°E	(楕円形)			土層無釉白陶、小鍔			
SD90	90	溝	44-46		G3-8,13,18 (262)	20	60	17	4.45	4.53	N12°W		円筒状	レンズ状		底面無釉白陶、土層無釉白陶、長條、小鍔、黒色土層無釉白陶、土製品		
SD91	91	溝	43		H4-22,23,24,25 (504)	26	54	14	4.76	4.81	N44°W				底面無釉白陶、土層無釉白陶、土層小鍔、黒色土層無釉白陶、土製品			
SD92	92	溝	43-46		H4-25,14,21 (126)	34	15	4.59			N44°E	(不整形)	溝状	レンズ状		底面無釉白陶、土層無釉白陶、土層小鍔、黒色土層無釉白陶、土製品 (漆器)		
SD93	93	溝	44		G3-13,14,18,19 (194)	40	80	10	4.56	4.66	N23°E	(長方形)			底面無釉白陶、黒土層無釉白陶、土層小鍔、木製品 (漆器)			
SK94	94	土坑	44		G3-13,14,19 (130)	30	54	13	4.57	4.68	N34°E	(楕円形)			土層無釉白陶			
SD95	95	溝	44		G4-10,15 H4-6,11 (224)	64	30	18	4.59	4.63	N25°W				土層無釉白陶、小鍔			
SP96	96	ピット	44		G4-10,H4-6	32	32	1	4.59			円形						
SP97	97	ピット	44		G3-24	30	18	8	4.70			円形				底面無釉白陶		
SD98	98	溝	44-46	43	G3-20,25 G4-5,10 (706)	122	44	11	4.52	4.70	N2°W	台形状	水平		土層無釉白陶、石製品 (磁石)			
SD99	99	溝	44												底面無釉白陶、土層無釉白陶	SD96と同一		
SK100	100	土坑	44		G3-14	52	52	11	4.56			円形			土層無釉白陶			
SK101	101	土坑	43		IS-6,7	78	68	11	4.81			円形			底面無釉白陶			
SD102	102	溝	44		G3-15,20 (72)	26	9	15	4.59	4.65	N15°W				底面無釉白陶			
SD103	103	溝	44		G3-20 (126)	22	38	12	4.55	4.60	N70°W				底面無釉白陶、土層無釉白陶、小鍔			
SD104	104	溝	43		H4-23,24,25 (306)	40	32	19	4.74	4.77	N42°E				土層無釉白陶、小鍔			
SD105	105	溝	43		H4-19,20,24,25 (322)	48	90	10	4.74	4.81	N48°W				底面無釉白陶、土層無釉白陶			
SP106	106	ピット	43		H4-25 (38)	24	8	4.80							土層無釉白陶、小鍔			
SK107	107	土坑	43		IS-11	74	74	11	4.76			円形						
SD108	108	溝	44		H4-7,4,12,13 (90)	26	32	7	4.66	4.72	N43°E							
SP109	109	ピット	44		H4-8,13	14	14	9	4.72			円形						
SK110	110	土坑	44		H4-8 (92)	58	17	4.55			N75°E	(長方形)			底面無釉白陶、土層無釉白陶、土層小鍔、黒色土層無釉白陶			
SD111	111	溝	43		H4-14,19,20 (206)	40	48	15	4.74	4.78	N56°W				底面無釉白陶、土層無釉白陶、土層小鍔、黒色土層無釉白陶			
SD112	112	溝	43		H4-13,18,19 (232)	36	54	10	4.79	4.87	N14°E	溝状	車輪					
SK113	113	土坑	44-45		G3-15,20 H3-16 (136)	46	14	4.56			N37°E	(楕円形)	溝状	レンズ状		土層無釉白陶、小鍔		
SD114	114	溝	44-46		G2-23 G3-2,3,7,8,12 (548)	22	46	60	4.35	4.52	N13°W	円筒状	レンズ状		底面無釉白陶、土層無釉白陶、長條、小鍔			
SD115	115	溝	44-46		H4-7,8 (157)	40	46	21	4.56	4.64	N74°E	台形状	レンズ状		底面無釉白陶、土層無釉白陶、土層小鍔、黒色土層無釉白陶			
SK116	116	土坑	44-45		G3-3,4,8,9 (206)	154	18	4.33	4.36	N39°E	溝状	レンズ状		底面無釉白陶、黒白磁、長條、土層無釉白陶、土製品				
SK117	117	土坑	44		G3-20,25 H3-16,21 (102)	24	42	6	4.56	4.63	N42°E	(不整形)			底面無釉白陶、土層無釉白陶、土層小鍔、黒色土層無釉白陶			
SK118	118	土坑	43		H5-10,15,16 (80)	36	36	4.56			N71°W	(楕円形)			土層無釉白陶			

## 別 表

報告書番号	編制年 (No.)	種類	国産	写真 採取	位置	規模 (cm)			底面標 高 (m)	主方位	初期		備考		
						長さ	幅	高さ			平面形	断面形		経路 (cm)	
														長さ	幅
SK119	119	土塊	44		H3-16.21	(116)	(36)	6	4.57	N40°E			底面無自礫、土塊 部小塊		
SK120	120	土塊	44		G2-21.22		50	32	11	4.41	N87°E	積り部		底面無自礫、有自礫 散り付、土塊部、底 土塊無自礫、土塊 小塊	
SK121	121	土塊	44		G3-7		72	26	10	4.51	N6°W	積り部			
SK122	122	土塊	44		H3-21 H4-1		150	120	8 ~ 13	4.58 ~ 4.63	N24°E	積り部		底面無自礫、土塊部 散り付、土塊部、底 土塊無自礫、土塊 小塊、黄色土塊部 散り付	
SD123	123	溝	43		H4-12.13.14. 17.18	(390)	(22 ~ 44)	7 ~ 15	4.66 ~ 4.73	N60°W				底面無自礫、土塊部 散り付、土塊部、底 土塊無自礫、土塊 小塊	
SD124	124	溝	43		H4-9.12.13.14	(358)	(16 ~ 38)	3 ~ 9	4.58 ~ 4.74	N60°W				底面無自礫、土塊部 散り付、土塊部、底 土塊無自礫、土塊 小塊	
SK125	125	土塊	44		H4-1.2		64	28	12	4.58	N80°W	長方形		底面無自礫	
SK126	126	土塊	43 ~ 45		H4-19.20	(120)	(96)	40	4.35	N58°W	積り部	扇状	レンズ状	底面無自礫、土塊 部散り付、土塊 部小塊	
SK127	127	土塊	44		F2-15 G2-11		80	32	7	4.22	N43°E	積り部		底面無自礫、土塊 部散り付、土塊 部小塊	
SP128	128	ビット	44		G3-20	(36)	(22)	4	4.66	N78°W	方角			底面無自礫、土塊 部散り付、土塊 部小塊	
SK129	129	ビット	44		G3-8.13		64	50	11	4.47	N31°W	積り部		土塊無自礫、土塊 部小塊	
SP130	130	ビット	44		G3-7		36	24	3	4.32	N68°W	積り部		土塊部小塊、本品 品(濃茶)	
SK131	131	土塊	44		G3-2	(74)	(52)	9	4.46	N82°E	積り部			土塊無自礫	
SP132	132	ビット	44		G3-1		40	40	11	4.44	方角			底面無自礫、土塊 部散り付、土塊 部小塊	
SP133	133	ビット	44		G2-21.22		24	24	12	4.39	円形				
SP134	134	ビット	44		G2-16		48	36	9	4.32	N84°E	積り部			
SP135	135	ビット	44		F2-20		48	28	10	4.27	N60°E	積り部		底面無自礫、土塊 部散り付、土塊部 散り付、土塊部、底 土塊無自礫、土塊 部小塊	
SK136	136	土塊	44		G2-23 G3-3	(134)	(72)	4	4.42	N39°E					
SP137	137	ビット	44		G3-20 H3-16		40	36	11 ~ 21	4.46 ~ 4.56	方角				
SK138	138	土塊	44		H3-16	(42)	(30)	15	4.48	N35°E	長方形			土塊部小塊	
SK139	139	土塊	44		G3-15	(40)	(20)	21	4.51	N63°E				土塊部長塊	
SP140	140	ビット	44		H3-16.21		26	22	19	4.47	円形				
SD141	141	溝	44		G3-20	(54)	(18)	7	4.94	N13°W					
SD142	142	溝	44		G3-15.20	(122)	(20 ~ 28)	9 ~ 11	4.61 ~ 4.65	N78°E					
G3-13	143	溝	44		G3-15	(36)	(14)	10	4.62	N43°W					
SP144	144	ビット	43		H4-14.19		34	26	5	4.67	積り部				
SP145	145	ビット	43		H4-12.13		32	30	29	4.47	円形				
SP146	146	ビット	43		H3-4		38	20	14	4.72	積り部			土塊部小塊	
SP147	147	ビット	43		H3-4		18	18	14	4.75	円形				
SP148	148	ビット	43		H3-5.4		34	26	23	4.65	積り部				
SP149	149	ビット	43		H3-4		26	26	16	4.71	円形				
SK150	150	土塊	44		G3-25	(56)	(34)	21	4.53	N44°W	積り部				
SK151	151	土塊	43		H4-24 H5-4	(82)	(40)	23	4.64	N6°W	積り部			土塊無自礫	
SP152	152	ビット	43		H4-24 H5-4		20	18	8	4.76	円形				
SK155	155	土塊	43		H4-18	(58)	(44)	22	4.63	N89°W	積り部			土塊部小塊	
SP156	156	ビット	43		H4-18		34	26	24	4.66	積り部			底面無自礫、土塊 部散り付、土塊 部小塊	
SP157	157	ビット	44		G3-19		30	30	10	4.68	円形				
SP158	158	ビット	44		G3-19		28	24	7	4.71	積り部			土塊部小塊	
SP159	159	ビット	44		G3-18.19		30	18	8	4.69	積り部				
SP160	160	ビット	44		G3-18.19		22	18	7	4.70	積り部				
SP161	161	ビット	44		G3-18		24	30	8	4.66	円形				
SK162	162	土塊	44		G3-12		80	50	6	4.49	N19°W	積り部		土塊無自礫、土塊 部小塊	
SK163	163	土塊	44		G3-12.13	(56)	(30)	6	4.51	N37°W	長方形			土塊部長塊	
SK164	164	土塊	44		G3-12	(48)	(30)	6	4.52	N13°W	円形			土塊部長塊	
SP165	165	ビット	44		G3-6		24	22	5	4.53	円形				
SK166	166	土塊	44		G3-1.6		74	68	9	4.47	N75°W	方角		底面無自礫、土塊 部小塊	
SK167	167	土塊	44		F2-4.5	(114)	(106)	6	4.20	N42°W	積り部				
SK168	168	土塊	44		G3-1.2		66	60	12	4.29	円形			底面無自礫、土塊 部散り付、土塊 部小塊	
SK170	170	土塊	44 ~ 45		G3-4.8.10	(190)	(106)	15	4.47	N38°E	扇状	レンズ状		底面無自礫	
SP171	171	ビット	43		H4-18		20	20	13	4.70	円形				
SD172	172	溝	43		H4-18.23	(120)	(22 ~ 28)	23 ~ 25	4.68 ~ 4.70	N47°W				土塊無自礫、土塊 部小塊	
SK173	173	土塊	44 ~ 46		H4.6.7.11.12	(170)	(140)	27	4.50	N46°W	長方形	扇状	レンズ状	底面無自礫、土塊 部散り付、土塊部 散り付、土塊部、底 土塊無自礫	
SK174	174	土塊	44		G3-2		60	40	16	4.46	N61°W	積り部		底面無自礫、土塊 部小塊	
SP175	175	ビット	44		G3-2		38	30	7	4.47	積り部			底面無自礫、土塊 部小塊	
SP176	176	ビット	44		G3-3	(36)	(18)	8	4.43	積り部					
SK177	177	土塊	44		G2-22		174	28 ~ 90	7 ~ 11	4.35 ~ 4.37	N28°E	不整形		底面無自礫、土塊 部散り付、土塊 部小塊	
SD178	178	溝	43		H5-4.5	(202)	(20 ~ 30)	16	4.67	N76°E					
SK179	179	土塊	44		G2-22.23	(84)	(36)	14	4.31	N89°E				底面無自礫、土塊 部小塊	
SK180	180	土塊	44		H2-17.22	(94)	(32)	7	4.33	N40°E					
SK181	181	土塊	44 ~ 46		H4-7.11.12.17	(212)	(66)	28	4.52	N18°W	扇状	レンズ状		底面無自礫、土塊 部散り付、土塊部 散り付、土塊部、底 土塊無自礫	
SP182	182	ビット	44		G3-1		28	22	5	4.48	N41°E	積り部		底面無自礫	
SK183	183	土塊	44		G2-22	(76)	(40)	14	4.35	N20°W				底面無自礫、土塊 部散り付、土塊 部小塊	

報告書番号	編制年次(No.)	種類	国版	写真採取	位置	規模 (cm)			底面傾斜 (‰)	主軸方位	初期		経路 (cm)	出土遺物	備考
						長さ	幅	高さ			平面形	断面形			
SK185	185	土坑	44		G2-16.17	(62)	(26)	9	4.32	N30°E					
SD186	186	溝	44		G2-22.23	(90)	(70)	9	4.35	N3°W					
SP187	187	ピット	44		G3-1	34	22	9	4.46		横内形				
SD188	188	溝	43		G5-23	(88)	(32)	4	4.82	N20°W					
SD189	189	溝	44		G4-5.10	(110)	(40~52)	12	4.68	N41°W					
SK190	190	土坑	44-46	43	G3-1	86	70	6	4.43	N24°E	不整形				
SD191	191	溝	44		F2-05,F3-6 G2-21 G3-1	(350)	(34~42)	7~10	4.38~4.45	N45°W					
SP192	192	ピット	44		G3-24	(28)	(22)	13	4.62	N23°E	横内形				
SD193	193	溝	44-47	43	G3-9,14,15	(218)	(32~32)	12~15	4.50~4.53	N4°W					
SK194	194	土坑	44		G3-1	60	36	11	4.41	N52°W	横内形				
SP195	195	ピット	43		H4-18	26	26	10	4.79		方形				
SD196	196	溝	44		G3-7	(70)	(30)	6	4.49	N31°E	(不整形)				
SK197	197	土坑	44		G3-23	(70)	(28)	5	4.47	N14°W					
SK198	198	土坑	44		F2-15,20 G2-11	62	58	8	4.26		円形				
SK199	199	土坑	44		G3-7,12	62	32	12	4.49	N20°E	横内形				
SK200	200	土坑	44-46		H4-11,12	90	72	38	4.16	N89°E	横内形	半円状	レンガ状		
SK201	201	土坑	44		H4-2,7	(64)	(40)	22	4.43	N3°E	(横内形)				
SD202	202	溝	44		G3-3	(60)	(36)	14	4.43	N50°E					
SK203	203	土坑	44		G4-10	(58)	(28)	15	4.54	N7°W					
SK204	204	土坑	44		F2-15	54	44	12	4.20	N97°E					
SP205	205	ピット	44		H3-16,21	(48)	(38)	4	4.62		(横内形)				
SP206	206	ピット	43		H5-5,10	26	26	15	4.74		円形				
SP207	207	ピット	43		H5-5	24	24	10	4.74		円形				
SP208	208	ピット	43		H4-24,25 H5-4,5	30	30	14	4.72		円形				
SP209	209	ピット	43		H4-13,14	(46)	(30)	25	4.43	N32°W	(横内形)				
SP210	210	ピット	44		G3-20	22	22	2	4.66		円形				
SP211	211	ピット	44		G3-9	42	28	12	4.50		横内形				
SP212	212	ピット	44		G3-9	30	30	13	4.50		円形				
SP213	213	ピット	44		G3-8,9	48	28	11	4.52		横内形				
SD214	214	溝	43		H3-24,25 H3-5,6,13	(660)	(18~30)	9	4.82~4.96	N25°W					
SD215	215	溝	43		H5-23,24,16,3,7	(430)	(20~34)	5~6	4.88~4.92	N33°W					
SD216	216	溝	43												SD214と同一
SP217	217	ピット	43		H5-24	48	48	6	4.88		円形				
SP218	218	ピット	43		H5-14	26	26	17	4.89		円形				
SP219	219	ピット	43		H5-15	20	18	28	4.75		円形				
SP220	220	ピット	43		H5-15	22	18	12	4.87		横内形				
SD222	222	溝	43		H5-10,15	(194)	(20~30)	7~10	4.82~4.90	N21°W					
SD223	223	溝	43		H5-10,15,20	(328)	(20~30)	7~8	4.89~5.01	N13°W					
SP224	224	ピット	43		H5-10,15	28	22	14	4.79		横内形				
SP225	225	ピット	43		H5-10	24	18	14	4.79		長方形				
SP226	226	ピット	43		H5-10	18	18	17	4.79		円形				
SD227	227	溝	43		H5-22,16,2	(88)	(38~40)	8~10	4.82~4.94	N33°W					
SD228	228	溝	43		H5-22,23,16,3	(132)	(18~22)	8~9	4.91~4.95	N68°E					
SD229	229	溝	43		H5-22,16,2	(152)	(22)	7~8	4.97~4.98	N38°W					
SD230	230	溝	43		H5-23,16,3	(200)	(18~20)	7~13	4.83~4.92	N24°W					
SP231	231	ピット	43		H5-24	20	20	20	4.77		円形				
SK232	232	土坑	43		H5-24	(100)	(40)	9	4.82	N75°W	(横内形)				
SD233	233	溝	43		H5-19,20,24,25	(144)	(22~64)	9~10	4.80~4.81	N79°E					
SD234	234	溝	43		H5-24,25,16,4	(178)	(18~30)	7~10	4.81~4.84	N20°W	(横内形)				
SP235	235	ピット	43		H5-14	20	18	8	4.99		方形				
SD236	236	溝	43		H4-1,3	(88)	(20)	5	5.00	N42°W					
SP237	237	ピット	43		H5-9	40	34	16	4.79		円形				
SK238	238	土坑	43		H5-24	(50)	(28)	7	4.90	N60°E	横内形				
SD239	239	溝	43		H5-24,25,16,4	184	20~32	7~11	4.79~4.82	N33°W	(横内形)				
SP240	240	ピット	43		H5-16,5	40	26	16	4.72	N2°E	横内形				
SK241	241	土坑	43		H5-18	72	34	25	4.58	N30°W	横内形				
SP242	242	ピット	43		H5-5	30	20	12	4.72		円形				
SK243	243	土坑	44		H4-6	(82)	(32)	6~7	4.70~4.71	N21°E	(不整形)				
SK244	244	土坑	44		G3-7	50	34	6	4.51	N16°E	横内形				
SP245	245	ピット	43		H4-23,105-3	22	22	25	5.54		円形				
SD246	246	溝	43		H4-23,24 H5-3,4	(202)	(30~42)	10~14	4.79~4.83	N68°W					
SP247	247	ピット	44		H4-6	44	44	45	4.32		円形				
SP248	248	ピット	43		H5-1	32	30	21	4.54		円形				
SP249	249	ピット	44		G2-21	46	24	13	4.39	N87°E	横内形				
SD250	250	溝	43		D,N1-3,8	(150)	(54~72)	29	4.54	N24°W					

※ 24, 48, 55, 153, 154, 160, 184, 221 は欠番

別表2 主要構造出土工事費構成率

No.	品名	100%												No.			
		10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	95%	98%	100%				
1	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
2	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%
3	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%
4	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%
5	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%
6	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	75%
7	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%
8	65%	65%	65%	65%	65%	65%	65%	65%	65%	65%	65%	65%	65%	65%	65%	65%	65%
9	60%	60%	60%	60%	60%	60%	60%	60%	60%	60%	60%	60%	60%	60%	60%	60%	60%
10	55%	55%	55%	55%	55%	55%	55%	55%	55%	55%	55%	55%	55%	55%	55%	55%	55%
11	50%	50%	50%	50%	50%	50%	50%	50%	50%	50%	50%	50%	50%	50%	50%	50%	50%
12	45%	45%	45%	45%	45%	45%	45%	45%	45%	45%	45%	45%	45%	45%	45%	45%	45%
13	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%
14	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%
15	30%	30%	30%	30%	30%	30%	30%	30%	30%	30%	30%	30%	30%	30%	30%	30%	30%
16	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%
17	20%	20%	20%	20%	20%	20%	20%	20%	20%	20%	20%	20%	20%	20%	20%	20%	20%
18	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%
19	10%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	10%
20	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%
21	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%











E 区

No.	種別	区分	用途	ゾーニング	順位	種別	用途	法定容積率	法定高さ (m)	幅員	幅員率	線形	最低	敷地	敷地面積	敷地面積率	構造	構造	色調	用途	用途	種別	備考
50	251	E-5011			下部	居住用途	居住用途	10.8	4.6	3.5	32	43	4.36	21.26				N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	252	E-5012			下部	商業用途	商業用途	10.8	4.6	3.5	32	43	4.36	21.26				N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	253	E-5013			下部	商業用途	商業用途	13.2	6.6	4.9	40	47.96	6.26	23.92				N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	254	E-5014			下部	商業用途	商業用途	13.2	6.6	4.9	40	47.96	6.26	23.92				N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	255	E-5015			下部	商業用途	商業用途	13.2	6.6	4.9	40	47.96	6.26	23.92				N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	256	E-5016			下部	商業用途	商業用途	13.2	6.6	4.9	40	47.96	6.26	23.92				N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	257	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	258	E-5019			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	259	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	260	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	261	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	262	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	263	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	264	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	265	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	266	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	267	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	268	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	269	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	270	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	271	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	272	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	273	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	274	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	275	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	276	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	277	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	278	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	279	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)
50	280	E-5018			下部	商業用途	商業用途	14.4	7.0	5.0	35	27.71	30.26					N系系	N系系	107.11.12.16	107.10.9	高層	底層商業(口)













製品番号	製品区分	品名	規格	単位	質量 (mm)		構成率	成分率	色調	色調		用途	備考	
					目録	実測				外色	内色			外色
72-1557	12.2	A	1.9995 鋼	34.0	1.14	2.26		1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	
72-1558	12.2	B	1.9995 鋼	34.0	1.14	2.26		1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	
72-1559	12.2	B	1.9995 鋼	24.0	1.14	6.26		1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	
72-1560	12.2	B	1.9995 鋼	40.4	1.14	2.26		1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	
72-1561	12.2	B	1.9995 鋼	40.4	1.14	6.26		1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	
72-1562	12.2	B	1.9995 鋼	13.4	1.14	4.2	5.26	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	
72-1563	12.2	B	1.9995 鋼	13.4	1.14	4.1	3.1	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	
72-1564	12.2	B	1.9995 鋼	13.4	1.14	4.26	4.26	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	
72-1565	12.2	B	1.9995 鋼	13.4	1.14	2.26	3.26	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	
72-1566	12.2	B	1.9995 鋼	13.4	1.14	2.26	3.26	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	1076B.2.3.1.0	

別表4 土製品規格表

製品番号	製品区分	品名	規格	単位	質量 (mm)		構成率	成分率	色調	色調	用途	備考				
					目録	実測							外色	内色	外色	内色
73-1	K	193.15	1.9911	1.9911	24.2	1.87	1.2	14.07	193.15	193.15	193.15	193.15				
73-2	K	193.15	1.9911	1.9911	24.2	1.87	1.2	14.07	193.15	193.15	193.15	193.15				
73-3	B	193.15	1.9911	1.9911	24.2	1.87	1.2	14.07	193.15	193.15	193.15	193.15				
73-4	B	193.15	1.9911	1.9911	24.2	1.87	1.2	14.07	193.15	193.15	193.15	193.15				
73-5	B	193.15	1.9911	1.9911	24.2	1.87	1.2	14.07	193.15	193.15	193.15	193.15				
73-6	B	193.15	1.9911	1.9911	24.2	1.87	1.2	14.07	193.15	193.15	193.15	193.15				
73-7	B	193.15	1.9911	1.9911	24.2	1.87	1.2	14.07	193.15	193.15	193.15	193.15				
73-8	B	193.15	1.9911	1.9911	24.2	1.87	1.2	14.07	193.15	193.15	193.15	193.15				
73-9	B	193.15	1.9911	1.9911	24.2	1.87	1.2	14.07	193.15	193.15	193.15	193.15				
73-10	B	193.15	1.9911	1.9911	24.2	1.87	1.2	14.07	193.15	193.15	193.15	193.15				
73-11	B	193.15	1.9911	1.9911	24.2	1.87	1.2	14.07	193.15	193.15	193.15	193.15				
73-12	B	193.15	1.9911	1.9911	24.2	1.87	1.2	14.07	193.15	193.15	193.15	193.15				
73-13	B	193.15	1.9911	1.9911	24.2	1.87	1.2	14.07	193.15	193.15	193.15	193.15				
73-14	B	193.15	1.9911	1.9911	24.2	1.87	1.2	14.07	193.15	193.15	193.15	193.15				
73-15	D	SK80	鋼	鋼	13.7	8.3	2.9	782.70	13.7	8.3	2.9	782.70	13.7	8.3	2.9	782.70
73-16	B	GS21	鋼	鋼	3.3	1.3	1.2	4.43	3.3	1.3	1.2	4.43	3.3	1.3	1.2	4.43
73-17	J	SK50	鋼	鋼	2.4	5.0		38.56	2.4	5.0		38.56	2.4	5.0		38.56



例規No	施行期	出土位置		部位	種類	形状	法量 (cm)			本取	割種	備考	
		区	連絡				グリッド	長さ	幅				厚み
78	42	C	上層	SR4	6層	本製品	管状	19.9	0.7	0.6	板目		
78	43	C	上層	SR4	6層	本製品	管状	19.5	0.7	0.5	板目		
78	44	C	上層	SR4	6層	本製品	管状	19.9	0.6	0.4	板目		
78	45	C	上層	SR4	6層	本製品	管状	16.2	0.5	0.5	板目		
78	46	C	上層	SR4	6層	本製品	管状	14.5	0.6	0.4	板目		
78	47	C	PEH 23		本製品	管状	(18.8)	0.8	0.5	板目			
78	48	C	PEH 23		本製品	管状	(13.3)	0.6	0.5	板目			
79	49	E	PEH 23		本製品	管状	(15.2)	1.2	0.6	板目			
79	50	E	PEH 23		本製品	管状	(13.3)	0.7	0.4	板目			
79	51	E	PEH 23		本製品	管状	(8.4)	0.9	0.5	板目			
79	52	F	PEH 20		本製品	管状	(10.7)	0.6	0.4	板目			
79	53	J	SR37		本製品	管状	22.8	2.1	0.8	板目			
79	54	J	SR37		本製品	管状	(24.2)	2.6	0.3	板目			
79	55	J	SR37		7層	本製品	管状	(17.6)	2.05	0.6	板目		
79	56	J	SR37		最下層	本製品	管状	14.6	1.1	0.4	板目		
79	57	J	SR37		最下層	本製品	管状	(11.6)	1.4	0.3	板目		
79	58	J	SK15			本製品	管状	11.0	1.3	0.4	板目		
79	59	C	下層	SR14		本製品	管状	(14.2)	2.8	0.2	板目		
79	60	K	SR33			本製品	管状	(12.2)	2.6	0.2	板目		
79	61	C	下層	SR8		本製品	鋼筋付*	(12.3)	5.3	3.6	平置	トホコフ属	
79	62	C	上層	SR3		本製品	付付木	8.5	2.3	1.3	芯取閉り出し	下部硬化、中層	
79	63	C	上層	SR3		本製品	付付木	10.1	4.3	2.5	ミカン割り	上下硬化、中層	
79	64	B	SP4			本製品	縦板	18.4	14.2	7.5	芯取ミカン割り		
79	65	B	SP4			本製品	縦板	19.4	15.1	7.9	芯取ミカン割り		
80	66	B	SP4			本製品	縦板	22.4	11.7	3.8	芯取閉り出し	タリ	
例規No	施行期	出土位置		部位	種類	形状	法量 (cm)			本取	割種	備考	
		区	連絡				グリッド	長さ	幅				厚み
80	67	B	SP4			本製品	柱	24.0	11.9		芯取丸木	タリ	
80	68	B	SP4			本製品	柱	18.5	10.3		芯取ミカン割り		
80	69	B	SP6			本製品	柱	30.1	9.7		芯取丸木	ヤナ平置	
80	70	C	上層	SR3		本製品	柱	17.4	13.0		芯取ミカン割り	トホコフ属 中層	
80	71	C	上層	SR3		本製品	柱	17.0	14.2		芯取閉り出し	タリ 中層	
80	72	C	上層	SR4		本製品	柱	25.5	8.0		芯取丸木	板目、中層	
81	73	C	下層	SP9		本製品	柱	69.2	15.6		芯取丸木	パンノ年輪(ハンノ)年輪	
81	74	C	下層	SP6		本製品	柱	14.5	9.5		芯取丸木	ヤナ平置	
81	75	C	下層	SP22		本製品	柱	63.9	18.9		芯取丸木	ヤナ平置	
81	76	C		下層	SP2		本製品	柱	69.9	18.0		芯取ミカン割り	タリ
81	77	D	SP29			本製品	柱	14.1	11.8		芯取平置	ヤナ平置	
81	78	D	SR77			本製品	柱	24.7	13.7		芯取閉り出し	タリ	
81	79	D	SR112			本製品	柱	53.6	11.6		芯取丸木	コナノキ年輪(コナノキ)年輪	
81	80	E	上層	SK15			本製品	柱	28.2	7.8		芯取丸木	
81	81	F	SP48			本製品	柱	19.1	10.5		芯取丸木	タリ	
82	82	I	SP29			本製品	柱	68.6	22.4		芯取閉り出し	タリ SR1	
82	83	I	SP29			本製品	柱	55.4	19.6		芯取閉り出し	タリ SR1	
82	84	I	SP30			本製品	柱	144.5	21.0		芯取閉り出し	タリ SR1	
82	85	I	SP50			本製品	柱	141.5	22.5		芯取丸木	タリ SR1	
82	86	J	SP100			本製品	柱	71.1	9.0		芯取閉り出し	タリ	
82	87	J	SP101			本製品	柱	100.4	12.4		芯取閉り出し	タリ	
82	88	J	SP103			本製品	柱	82.1	10.8		芯取閉り出し	タリ	
82	89	K	SP20			本製品	柱	35.8	8.6		芯取閉り出し	タリ	
82	90	K	SP22			本製品	柱	119.2	18.8		芯取閉り出し	タリ	
82	91	K	SP61			本製品	柱	72.4	12.1		芯取閉り出し	タリ	
82	92	K	SP62			本製品	柱	56.6	9.0		芯取丸木	ヤナ平置	
82	93	空				本製品	柱	48.4	16.0		芯取平置	表面一部硬化	
82	94	C	上層	SR5		本製品	組立不備	(20.6)	11.8	1.2	板目	タリ 中層	
82	95	C	上層	SR6		本製品	組立不備	21.5	7.2	3.1	板目	中層	
82	96	C	上層	SR6		本製品	組立不備	28.4	19.0	4.6	板目	タリ 中層	
82	97	C	上層	SR6		本製品	組立不備	36.4	16.2	8.9	板目	タリ 中層	
84	98	B	SD19			本製品	組立不備	67.2	17.8	2.5	板目		
84	99	B	SD4			本製品	組立不備	(27.8)	6.7	1.9	板目		
84	100	B			84-12	本製品	組立不備	(102.4)	12.4	1.0	板目		
84	101	C	下層	SR25		本製品	組立不備	(24.4)	4.5	2.8	板目	タリ 中層	
84	102	C	上層	SR4		本製品	組立不備	(27.2)	2.6	0.5	板目	中層	
84	103	A	PEH 1, 2			本製品	組立不備	112.4	16.8	7.5	板目	表面一部硬化、古層中層	
85	104	B	PEH 1			本製品	組立不備	(14.8)	3.5	3.5	芯取閉り出し		
85	105	C	下層	SR7		本製品	組立不備	(22.5)	5.8	1.2	板目	コナノキ年輪(コナノキ)年輪	
85	106	J	SR37			本製品	組立不備	(49.1)	4.6	0.3	板目		
85	107	C	上層	SR3		本製品	組立不備	10.1	2.8	0.4	板目	下部硬化、中層	
85	108	C	上層	SR5		本製品	組立不備	(12.6)	1.7	1.3	板目	下部硬化、中層	
85	109	K	SK19			本製品	組立不備	49.4	5.2	2.0	板目		
85	110	K			OG-21	本製品	組立不備	44.6	1.8	1.6	板目		
85	111	A	PEH 2			本製品	組立不備	39.1	2.0	1.7	板目	タリ 中層	
85	112	B	SR6			本製品	組立不備	(21.0)	2.0	1.9	板目		
85	113	F	SR6			本製品	組立不備	31.3	2.0	1.9	板目		
85	114	F	SD10			本製品	組立不備	15.9	7.4	3.1	芯取丸木	表面、上下硬化、中層	
85	115	F	SD10			本製品	組立不備	37.2	5.2	4.0	芯取平置	中層	
85	116	C	下層	SR14		本製品	組立不備	(16.8)	0.8	0.75	板目		
85	117	C	下層	SR14		本製品	組立不備	(12.5)	1.4	1.0	板目		

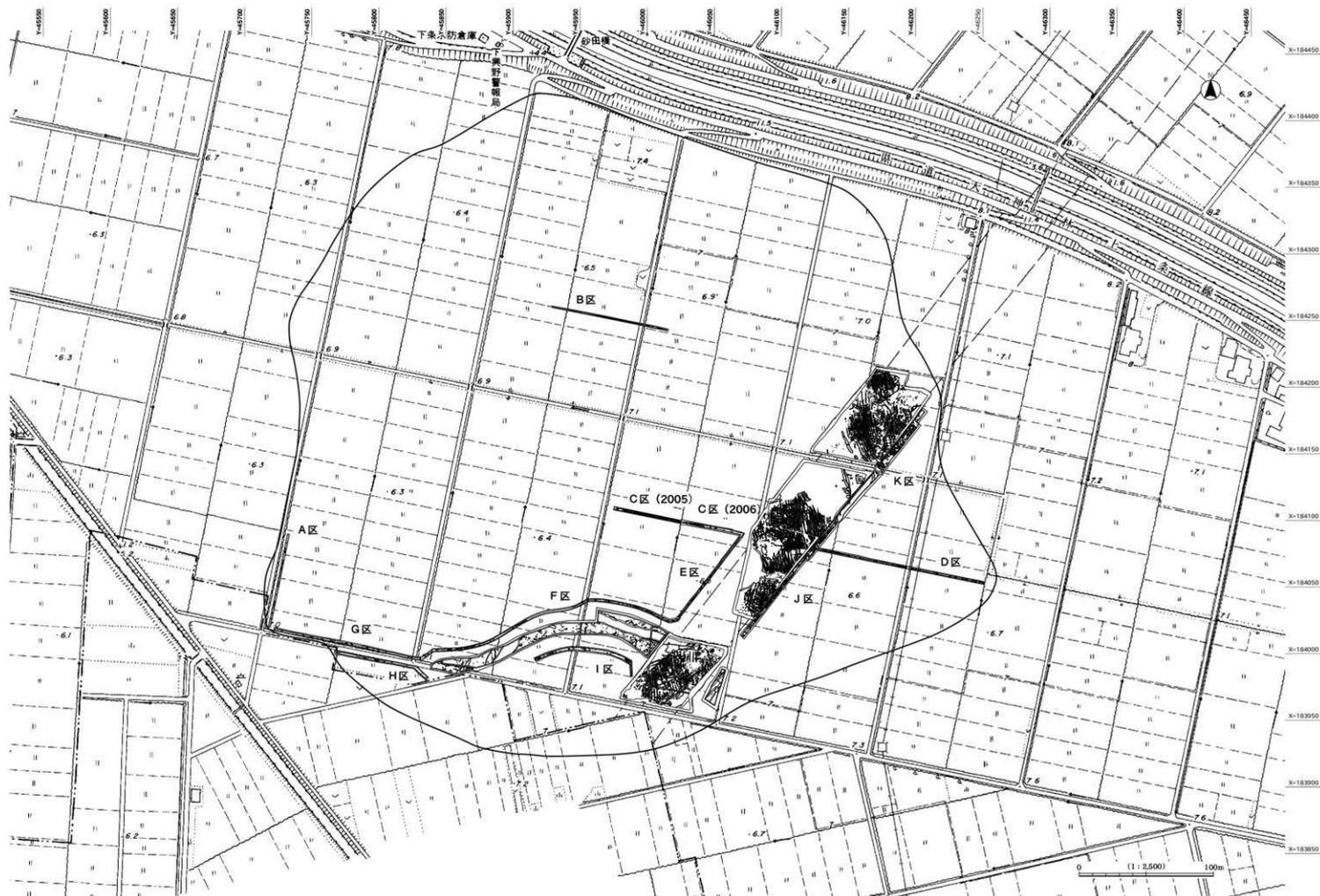
## 図 版

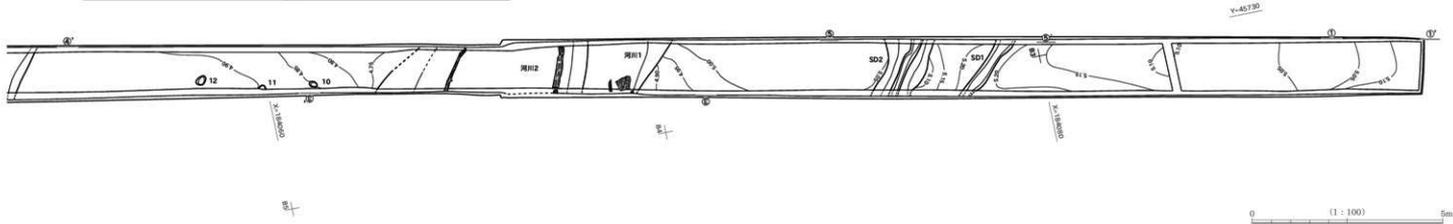
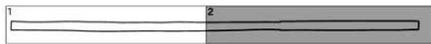
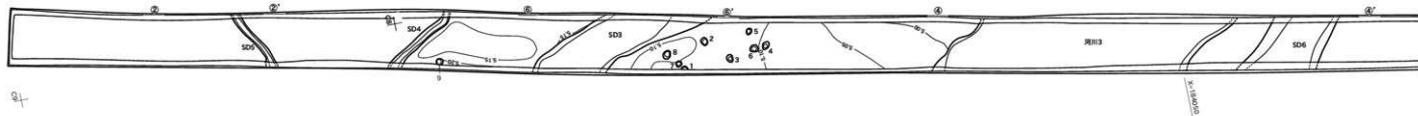
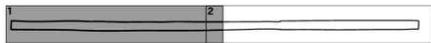
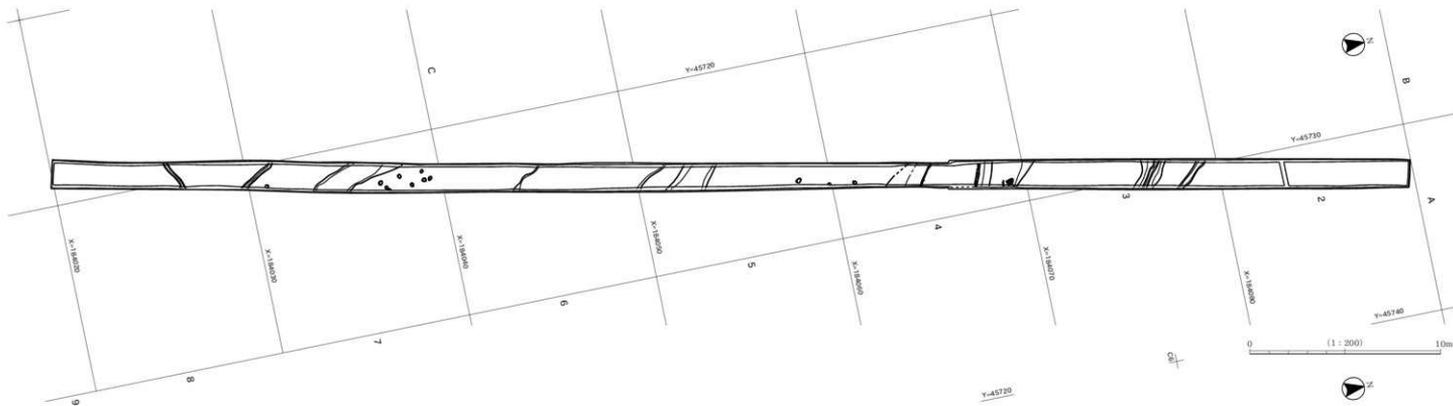
### 凡 例

- 1 遺構個別図における遺物実測図は、土器が1:10、1:12、土・金属・石製品が1:4、1:6、1:10、木製品が1:6、1:10、1:20、1:30、1:40、1:50である。
- 2 土器の口縁部実線を中心線両端で切っている場合は、残存率が低い破片から、口径を推定復元したものである。
- 3 木製品の木目は木取りを表示したものであり、実際の年輪幅とは異なる。
- 4 遺物の種別等は図面図版中、実測図にトーンで以下のように表示した。

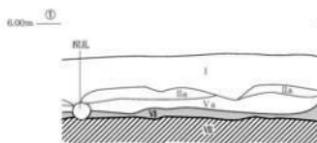
	断面黒塗り	須恵器
	断面網掛け	灰軸陶器
	断面網掛け	緑軸陶器
	内面網掛け	黒色土器
	断面白抜き	上記以外の土器
	煤・タール	
	墨痕	
	黒漆	
	赤彩	
	磨面	
	付着物	
	溶解物	

- 5 遺物写真図版の番号及び縮尺は、図面図版と同じである。





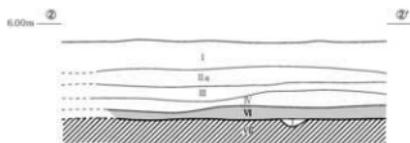
A区 基本土層 1



基本土層 1 - 2 断面図上・雲状図

- I. 礫石土  
 II. 7.5V4/1 灰色粘質土: φ1~3mm大の炭化物粒子多量に含む。しまりあり 粘状あり  
 III. 7.5V4/1 灰色粘質土: III層に同じだが、炭化物粒が少ない。しまりあり 粘状あり  
 IV. 7.5V4/1 灰色粘質土: 炭化物粒が少量含む。炭粒物少量含む。しまりあり 粘状あり  
 Va. 7.5V3/1 オリーブ黒色土: φ1~3mm大の炭化物粒子少量含む。炭粒物多量に含む。しまりあり 粘状ややあり  
 VI. 7.5V3/1 オリーブ黒色土: 灰色粘土ブロック少量含む。炭粒物少量含む。しまりあり 粘状あり (遺物包含層)  
 VII. 10V5/1 灰オリーブ砂質土: 炭粒物少量含む。灰色粘土ブロック少量含む。しまりあり 粘状ややあり (遺物包含層、埋)

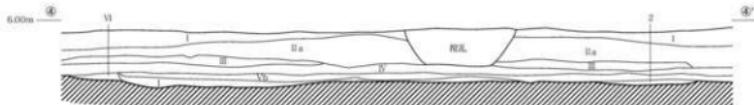
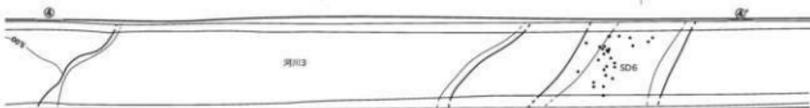
A区 基本土層 2・SD5

SD5  
 1. 7.5V3/1 オリーブ黒色土: 灰色砂質土少量含む。しまりあり 粘状ややあり

0 (1:40) 2m



A区 河川3・SD6

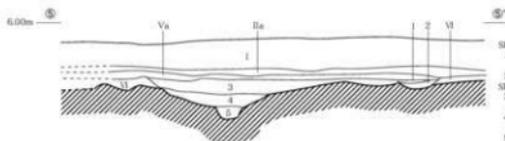


河川3・SD6

- 河川3  
 1. 7.5V4/1 灰色粘質土: 炭粒物、炭化物少量含む。しまりあり 粘状あり  
 SD6  
 2. 7.5V3/1 オリーブ黒色土: 灰色粘土ブロック少量含む。炭化物少量含む。しまりややあり 粘状ややあり

0 (1:80) 4m

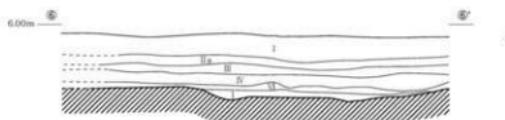
A区 SD1・SD2



SD1

1. 7.5V3/1 オリーブ黒色土: 炭粒物少量含む。砂質土含む。しまりややあり 粘状ややあり  
 2. 7.5V4/1 灰色粘質土: 砂質土含む。しまりややあり 粘状ややあり  
 SD2  
 3. 7.5V3/1 オリーブ黒色土: 炭粒物、炭化物少量含む。濃灰オリーブ色砂質土。濃灰状に含む。しまりややあり 粘状ややあり  
 4. 7.5V3/1 オリーブ黒色土: 炭粒物、炭化物少量含む。濃灰オリーブ色砂質土。濃灰状に含む。しまりあり 粘状あり  
 5. 4層に同じ。炭粒物をやや多く含む。しまりあり 粘状あり

A区 SD3

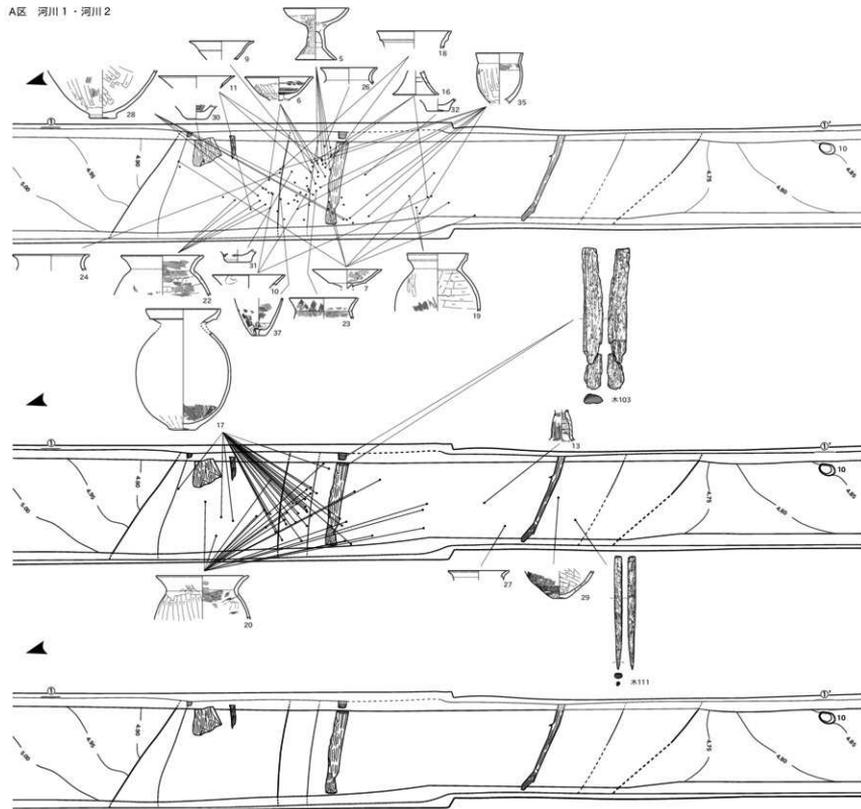


SD3

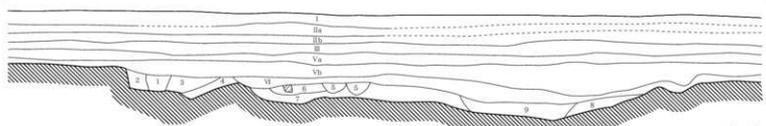
1. 10V5/1 灰オリーブ色粘質土: 炭粒物少量含む。砂質土含む。しまりややあり 粘状ややあり

0 (1:60) 3m

A区 河川1・河川2

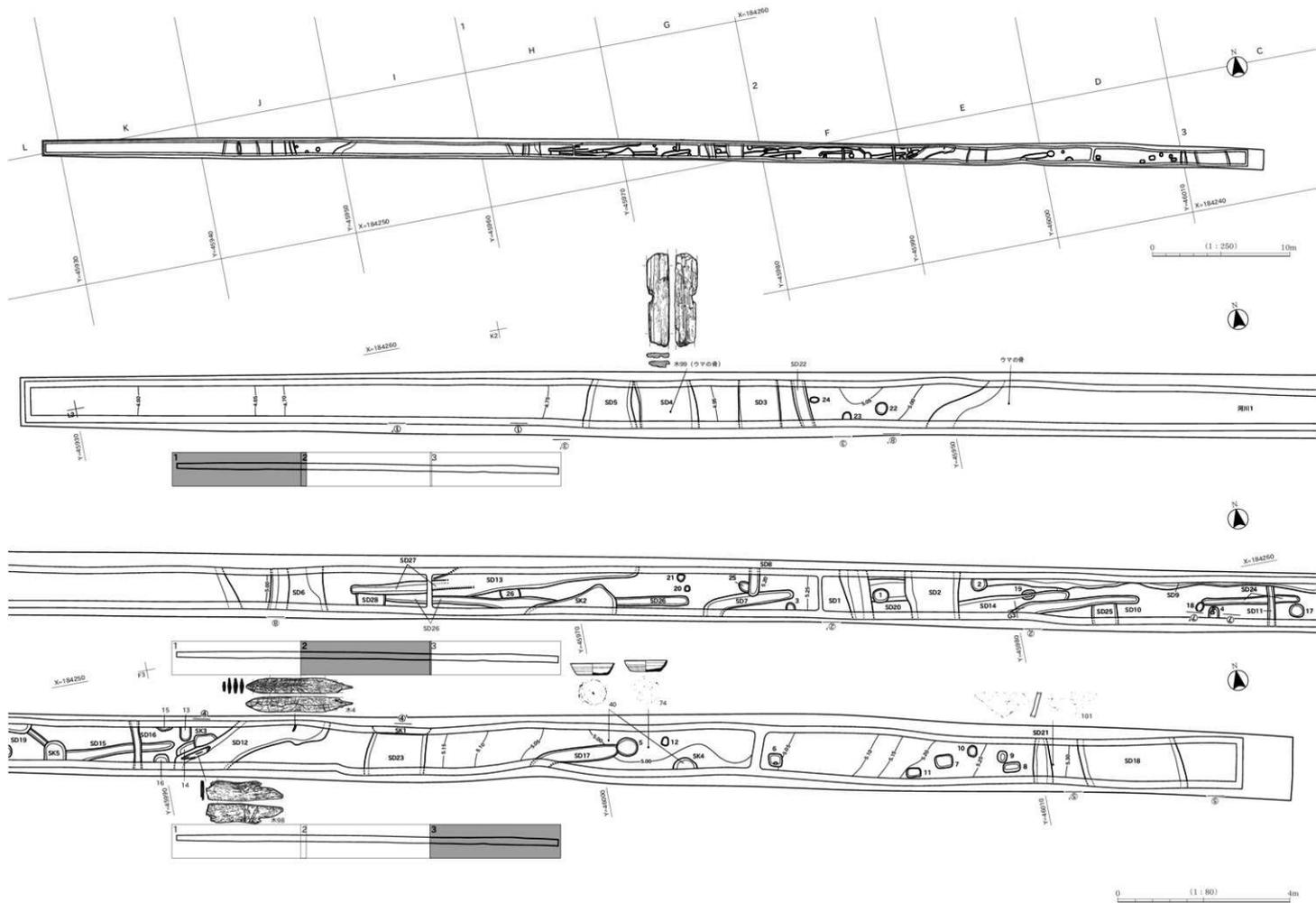


6.00m ㊦

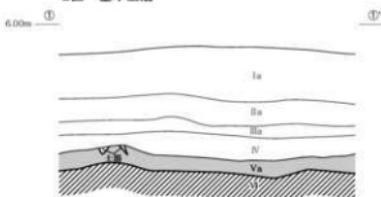


0 (1:50) 2m

- 河川1・河川2  
 1a. 7.5X1.1 灰色粘質土 磁器片や中埋石あり、しまりあり 粘土あり  
 1b. 7.5X1.2 灰赤り〜紫粘質土 灰化跡少量あり、砂鉄土あり、粘土や中あり  
 河川1  
 1. 河床  
 2. 7.5X1.1 灰色粘質土 0.1~20mm未満の磁器片少量あり、しまりあり、粘土あり  
 3. 5Y4/3 灰赤り〜紫粘質土 磁器物少量にあり、しまりや中あり、粘土あり  
 4. 5Y4/3 磁赤り〜紫粘質土 灰化跡少量あり、しまりあり、粘土あり  
 河川2  
 5. 7.5X1.1 オリーブ黒色土 灰化跡1プロット少量あり、磁器物少量にあり、しまりあり、粘土あり  
 6. 7.5X1.1 オリーブ黒色土 灰化跡1プロット少量あり、しまりあり、粘土や中あり  
 7. 7.5X1.2 灰赤り〜紫粘質土 磁器物、磁化跡少量あり、しまりあり、粘土あり  
 8. 7.5X4.1 灰色粘質土 灰化跡少量あり、しまりあり、粘土あり  
 9. 7.5X1.2 オリーブ黒色土 磁器物、灰化跡少量あり、しまりあり、粘土や中あり



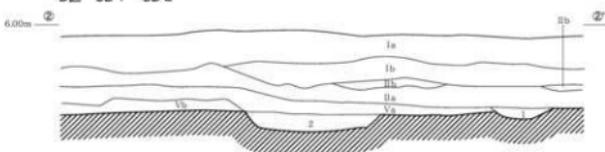
## B区 基本土層



## 基本土層

- Ia. 耕作土  
 IIa. 2.5V3/4 暗オリーブ褐色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性中～あり  
 IIIa. 7.5V3/1 オリーブ褐色土 腐植物多量に含む しまり中～あり 粘性中～あり  
 IV. 7.5V3/1 3層に増加するが色濃く～含む しまり中～あり 粘性中～あり  
 Va. 5V2/2 オリーブ褐色粘質土 腐植物 炭化物少量含む しまり中～あり 粘性中～あり (遺跡埋込層)  
 VI. 10V5/2 オリーブ灰色砂質土 しまりあり 粘性中～あり (遺構埋込層、地山)

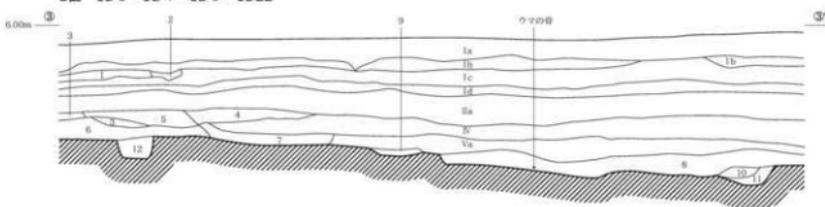
## B区 SD1・SD2



## SD1・SD2

- Ia. 5V3/2 オリーブ褐色シルト質土 鉄分(緑色)含む しまりあり 粘性中～あり  
 IIb. 2.5V3/4 暗オリーブ褐色粘質土 灰オリーブ粘土ブロック、炭化物含む しまりあり 粘性あり  
 Va. 5V2/2 オリーブ粘質土 しまり中～あり 粘性中～あり  
 SD1  
 1. 2.5G3/1 暗オリーブ灰色シルト質土 灰オリーブ粘土ブロック、炭化物含む しまり中～あり 粘性あり  
 SD2  
 2. 7.5V2/2 オリーブ褐色シルト質土 腐植物・炭化物含む しまり中～あり 粘性あり

## B区 SD3・SD4・SD5・SD22



## SD3・SD4・SD5・SD22

- Ic. 2.5V3/2 炭黒粘質土 腐植物、炭化物少量含む しまり中～あり 粘性中～あり  
 1d. 2.5V3/2 暗オリーブ褐色シルト質土 しまり中～あり 粘性あり  
 1. 7.5V3/1 炭黒シルト質土 腐植物少量含む しまり中～あり 粘性中～あり  
 2. 5V4/1 灰色シルト質土 しまりあり 粘性中～あり  
 3. 5V4/2 灰オリーブ粘質土 しまりあり 粘性中～あり  
 4. 10V4/3 炭黒シルト質土 炭化物少量含む しまり中～あり 粘性中～あり  
 5. 7.5V2/2 オリーブ褐色シルト質土 炭化物少量含む しまり中～あり 粘性中～あり  
 6. 10V4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまり中～あり 粘性中～あり

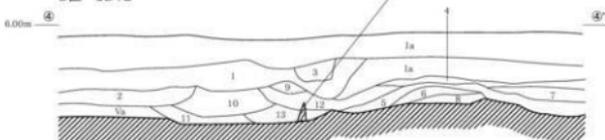
## SD3

7. 5V4/1 灰色シルト質土 しまり中～あり 粘性中～あり  
 SD4・SD5  
 8. 5V3/1 オリーブ褐色シルト質土 腐植物少量含む しまり中～あり 粘性中～あり  
 9. 5V2/2 オリーブ粘質土 しまりあり 粘性中～あり  
 10. 5V4/2 灰オリーブ粘質土 炭化物少量含む しまり中～あり 粘性中～あり  
 11. 5V4/2 灰オリーブ粘質土 灰オリーブ粘土ブロック含む しまり中～あり 粘性中～あり

## SD22

12. 7.5V2/2 オリーブ褐色粘質土 しまり中～あり 粘性中～あり

## B区 SD12



## SD12

1. 2.5V3/1 炭黒粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性中～あり  
 1a. 2.5V3/1 炭黒シルト質土 黄灰色粘土ブロック、炭化物少量含む しまりあり 粘性中～あり  
 2. 2.5V3/2 炭黒シルト質土 黄灰色粘土ブロック含む しまりあり 粘性中～あり  
 3. 2.5V4/2 暗炭色シルト質土 しまりあり 粘性中～あり  
 4. 2.5V3/1 炭黒シルト質土 炭化物多量に含む しまり中～あり 粘性中～あり  
 5. 2.5V3/1 炭化物層  
 6. 2.5V3/1 炭黒シルト質土 黄灰色粘土ブロック含む しまりあり 粘性中～あり  
 7. 7.5V2/1 濃色シルト質土 炭化物多量に含む しまり中～あり 粘性中～あり  
 8. 5V2/1 濃色土 しまり中～あり 粘性中～あり

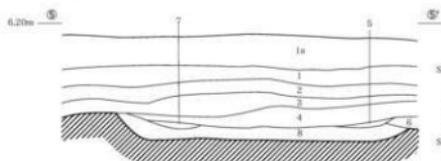
## SD12

9. 2.5V3/1 炭黒粘質土 しまり中～あり 粘性あり  
 10. 7.5V4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性中～あり  
 11. 7.5V3/1 オリーブ褐色粘質土 しまり中～あり 粘性あり  
 12. 5V2/1 オリーブ褐色粘質土 炭化物少量含む しまり中～あり 粘性あり  
 13. 2.5V3/3 暗オリーブ褐色シルト質土 炭化物少量含む しまり中～あり 粘性あり



0 (1:40) 2m

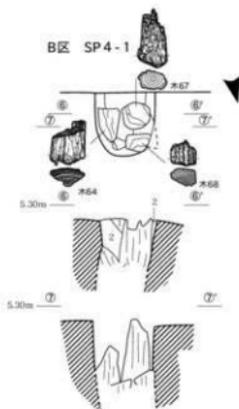
## B区 SD18



SD18

1. 5V4/3 褐オリーブ色シルト質土。しまりややあり 粘粒ややあり
2. 5V4/2 褐オリーブ色粘質土。しまりややあり 粘粒ややあり
3. 5V3/2 オリーブ黒色粘質土。しまりややあり 粘粒ややあり
4. 5V2/2 オリーブ黒色粘質土。炭化物少量含む。しまりややあり 粘粒ややあり
5. 2.5V1/1 炭化物層
6. 7.5V2/2 オリーブ黒色粘質土。炭化物少量含む。しまりややあり 粘粒ややあり
7. 10V3/1 オリーブ黒色粘質土。しまりややあり 粘粒ややあり
8. 10V3/1 オリーブ黒色シルト質土。炭化物少量含む。しまりややあり 粘粒ややあり

## B区 SP4-1



## B区 SP4-2

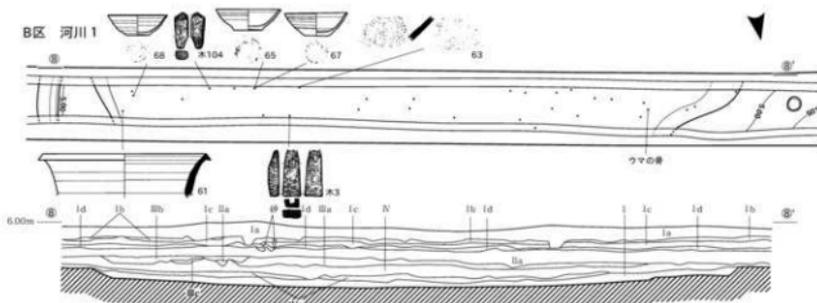


SP4

1. 10V3/2 オリーブ黒色シルト質土。灰色シルト質土も多量に含む。しまりややあり 粘粒ややあり
2. 10V4/3 灰色シルト質土。しまりややあり 粘粒ややあり

0 (1:40) 2m

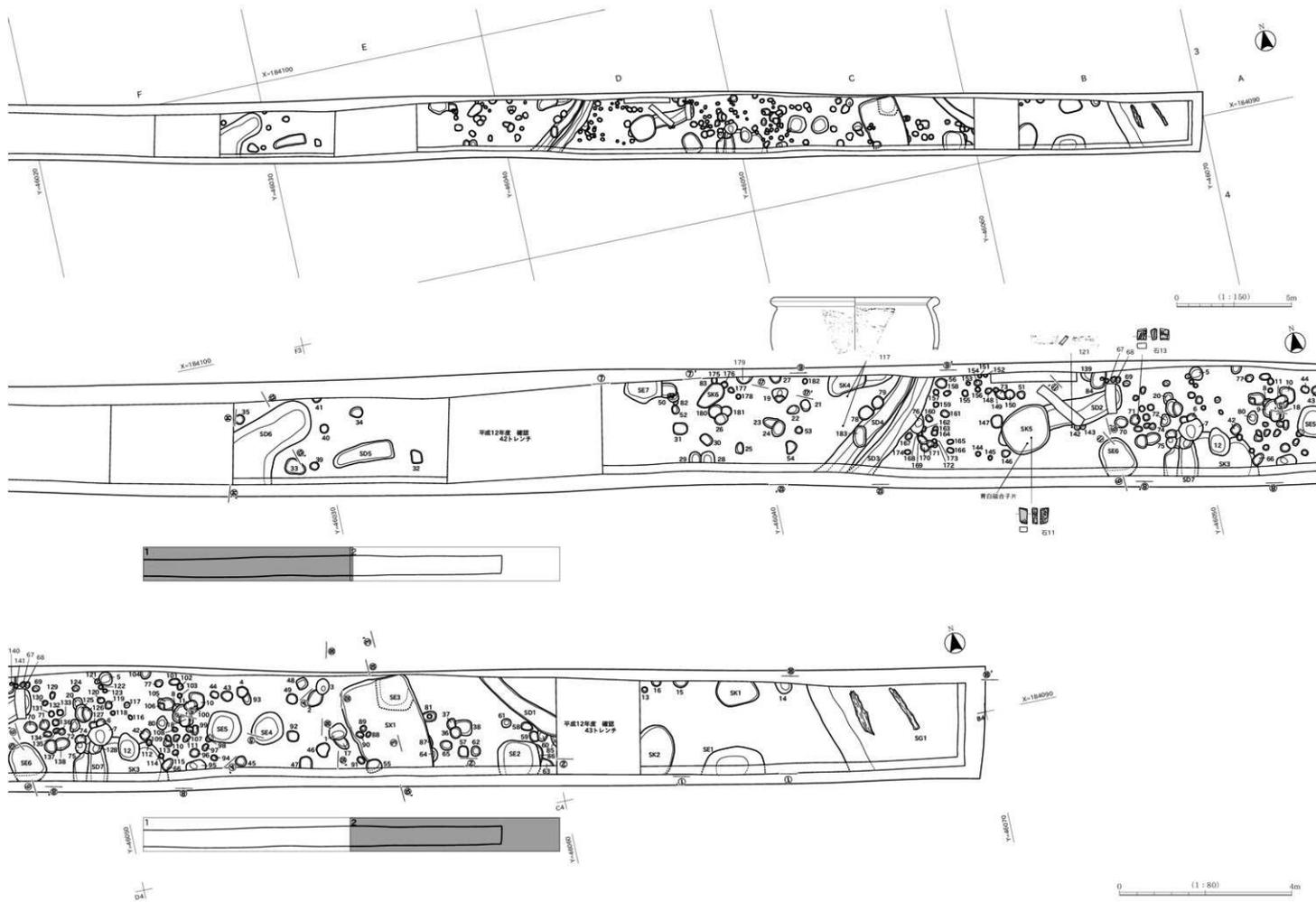
## B区 河川1

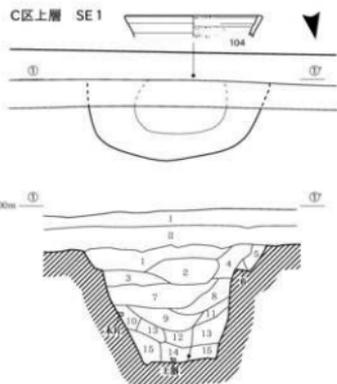


河川1

- 1a 2.5V3/2 淡褐色粘質土層 1a群に比し明るい。しまりややあり 粘粒ややあり  
 1b 2.5V2/1 濃色シルト質土 腐植物、炭化物含む。しまりややあり 粘粒ややあり  
 河川1  
 1. 7.5V4/1 灰色粘質土。しまりややあり 粘粒あり

0 (1:100) 5m

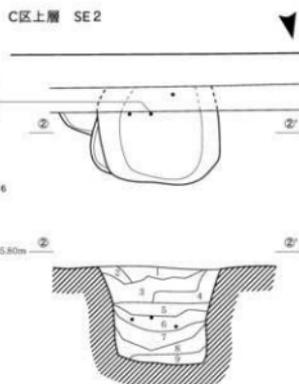




## 基本土層

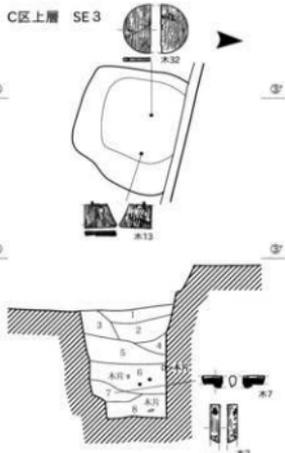
## I. 耕作土

- II. 7.5V1/1 灰土粘質土 灰白色粘土ブロック (φ1~2cm) 多量に含む 炭化物少量含む しまりあり 粘軟あり  
 SK1  
 1. 7.5V2/2 オリーブ黒色土 φ1~2cm程度の粘土ブロック (灰白) 多量に含む 炭化物少量含む しまりあり 粘軟やや中あり  
 2. 7.5V3/2 オリーブ黒色土 1層に類似する しまりや中あり 粘軟やや中あり  
 3. 7.5V4/1 灰土 しまりあり 粘軟あり  
 4. 7.5V4/1 灰土 灰白色粘土塊状に含む φ25mm程度の炭化物含む しまりや中あり 粘軟やや中あり  
 5. 7.5V4/1 灰土 灰白色粘土 (φ2~3mm) ブロック少量含む しまりあり 粘軟あり  
 6. 7.5V4/1 灰土 灰白色粘土少量含む 5層に類似する しまりあり 粘軟あり  
 7. 7.5V4/1 灰土 灰白色粘土 (φ2~3mm) ブロック多量に含む しまりや中あり 粘軟あり  
 8. 7.5V4/1 灰土 7層に類似する しまりや中あり 粘軟やや中あり  
 9. 7.5V4/1 灰土 腐植物多量に含む しまりや中あり 粘軟やや中あり  
 10. 7.5V4/1 灰土 腐植物、炭化物多量に含む しまりや中あり 粘軟やや中あり  
 11. 7.5V4/1 灰土 腐植物多量に含む しまりや中あり 粘軟やや中あり  
 12. 7.5V4/1 灰土 腐植物、炭化物多量に含む しまりや中あり 粘軟あり  
 13. 7.5V4/1 灰土 腐植物多量に含む しまりや中あり 粘軟あり  
 14. 7.5V4/1 灰土 腐植物、炭化物多量に含む しまりや中あり 粘軟あり  
 15. 7.5V4/1 灰土 腐植物多量に含む しまりや中あり 粘軟あり



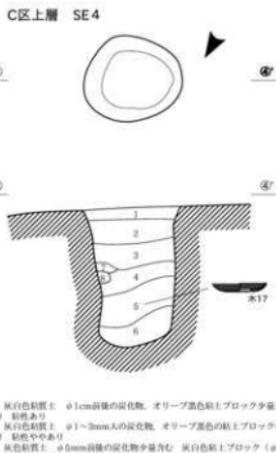
## SE2

1. 7.5V5/1 灰土粘質土 灰白色粘土ブロック (φ3cm) 含む しまりあり 粘軟あり  
 2. 7.5V5/1 灰土粘質土 1層に類似するが灰白色粘土ブロック少量含む しまりあり 粘軟あり  
 3. 7.5V4/1 灰土粘質土 灰白色粘土 (φ2~3mm) ブロック、炭化物少量含む しまりあり 粘軟あり  
 4. 7.5V5/1 灰土粘質土 灰白色粘土 (φ2~3mm) ブロック多量に含む しまりあり 粘軟あり  
 5. 7.5V2/2 オリーブ黒色土 多量の炭化物を炭粒状に含む 灰白色粘土ブロック少量含む しまりや中あり 粘軟やや中あり  
 6. 7.5V4/1 灰土粘質土 腐植物多量に含む しまりや中あり 粘軟やや中あり  
 7. 7.5V4/1 灰土粘質土 炭化物多量に含む しまりや中あり 粘軟やや中あり  
 8. 7.5V2/2 灰白色粘土 しまりあり 粘軟あり  
 9. 7.5V4/1 灰土粘質土 腐植物、炭化物多量に含む 灰土粘質土を炭粒状に含む しまりや中あり 粘軟やや中あり



## SK3

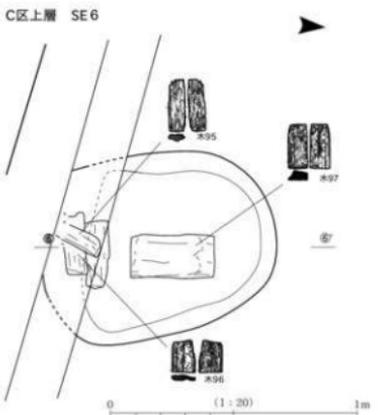
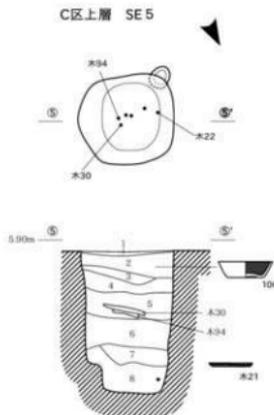
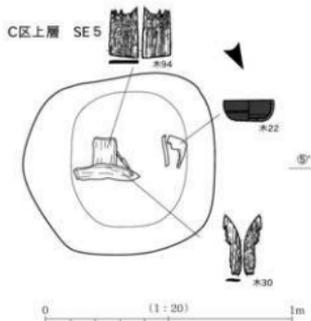
1. 7.5V7/2 灰白色粘質土 灰土粘土を炭粒状に含む しまりあり 粘軟あり  
 2. 7.5V6/1 灰土粘質土 灰白色粘土 (φ1~3mm) ブロック多量に含む しまりあり 粘軟あり  
 3. 7.5V4/1 灰土粘質土 灰白色粘土 (φ4~5mm) ブロック、炭化物少量含む しまりあり 粘軟あり  
 4. 7.5V4/1 灰土粘質土 灰白色粘土 (φ4~5mm) ブロック含む しまりあり 粘軟あり  
 5. 7.5V2/2 オリーブ黒色土 灰白色粘土 (φ2~3mm) ブロック、炭化物少量含む しまりや中あり 粘軟やや中あり  
 6. 7.5V2/2 オリーブ黒色土 腐植物多量に含む 灰白色粘土ブロック (φ3cm) 少量含む 炭化物、粘土含む しまりや中あり 粘軟やや中あり  
 7. 7.5V2/2 オリーブ黒色土 6層に類似するが、やや色濃いため しまりや中あり 粘軟あり  
 8. 7.5V2/2 オリーブ黒色土 腐植物多量 しまりなし 粘軟あり



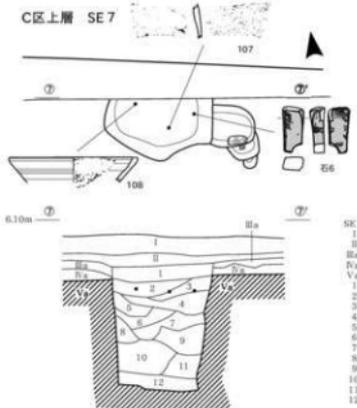
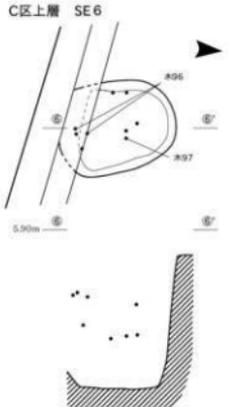
## SE4

1. 7.5V7/2 灰白色粘質土 φ1cm前後の炭化物、オリーブ黒色粘土ブロック少量含む しまりあり 粘軟あり  
 2. 7.5V7/2 灰白色粘質土 φ1~3mm程度の炭化物、オリーブ黒色粘土ブロック少量含む しまりあり 粘軟やや中あり  
 3. 7.5V4/1 灰土粘質土 φ5mm前後の炭化物少量含む 灰白色粘土ブロック (φ2~3cm) 多量に含む しまりあり 粘軟やや中あり  
 4. 7.5V2/1 灰土粘質土 φ5mm前後の炭化物少量含む しまりや中あり 粘軟やや中あり  
 5. 7.5V2/2 オリーブ黒色土 腐植物多量に含む しまりあり 粘軟やや中あり  
 6. 7.5V2/2 オリーブ黒色土 腐植物多量、オリーブ灰土粘土ブロック多量に含む しまりや中あり 粘軟やや中あり  
 7. 7.5V2/2 オリーブ黒色粘質土 腐植物多量に含む しまりあり 粘軟やや中あり  
 8. 7.5V7/2 灰白色粘質土ブロック しまりあり 粘軟やや中あり

0 (1:40) 2m

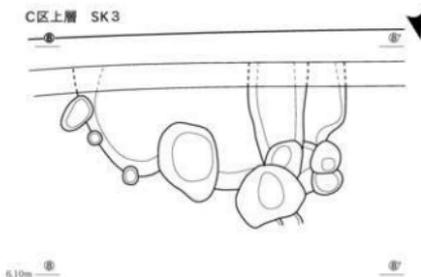


- SR5
1. 7.5V4/1 灰色粘質土: φ2~5mm程度の炭化物多量を含む しまりあり 粘質ややあり
  2. N2/ 黒色土: 炭化物 灰白色粘土ブロック (φ2~3cm) 多量を含む しまりややあり 腐植ややあり
  3. 7.5V7/2 灰白色粘質土: 黒色土ブロック少量含む しまりややあり 粘質あり
  4. 7.5V7/2 灰白色粘質土: φ3~5mm程度の炭化物少量含む 灰オリーブ色粘土層凝状を含む しまりあり 粘質あり
  5. 7.5V5/2 灰オリーブ色粘質土: φ3~5mm程度の炭化物を含む 灰白色粘土ブロック (φ1~3cm) 多量を含む しまりあり 粘質あり
  6. 2.5GV5/1 オリーブ灰白色土: 径5mm程度の炭化物 腐植物多量を含む しまりあり 粘質あり
  7. 2.5GV5/1 オリーブ灰白色粘土: しまりあり 粘質あり
  8. 2.5V4/4 オリーブ黒色土: 腐植物 しまりなし 粘質あり

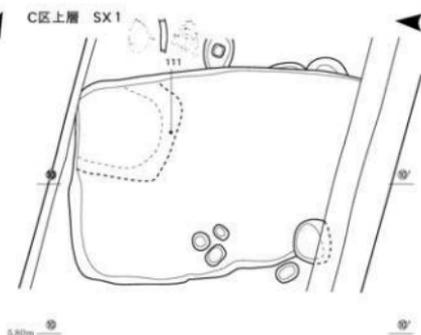


- SR7
1. 耕作土
  - II. 7.5V3/1 灰白色粘質土: 灰白色粘土ブロック (φ1~3cm) 多量を含む 炭化物少量含む しまりあり 粘質あり
  - IIIa. 7.5V6/1 灰白色粘質土: 炭化物少量含む 灰白色粘土も凝状を含む しまりあり 粘質あり
  - IIIb. 7.5V7/2 灰白色粘質土: しまりあり 粘質あり
  - Va. 灰白色土: 凝状凝結層一帯
  1. 7.5V4/1 灰白色粘質土: 炭化物 灰白色粘質土 (φ5mm前後) 少量含む しまりあり 粘質あり
  2. 7.5V5/1 灰白色粘質土: 炭化物少量含む 灰白色粘土ブロック (φ1~2cm) 多量を含む しまりあり 粘質あり
  3. 7.5V6/1 灰白色粘質土: 炭化物少量含む しまりあり 粘質あり
  4. 7.5V5/1 灰白色粘質土: 炭化物少量含む 灰白色粘土ブロック (φ3~5cm) 多量を含む しまりあり 粘質あり
  5. 7.5V5/1 灰白色粘質土: 4層に凝結するが炭化物減少する しまりあり 粘質あり
  6. 7.5V2/2 オリーブ黒色土: 腐植物 灰白色粘土ブロック少量含む しまりあり 粘質あり
  7. 7.5V7/2 灰白色粘質土: しまりあり 粘質あり
  8. 7.5V2/2 オリーブ黒色土: 腐植物多量を含む しまりややあり 粘質あり
  9. 7.5V7/2 灰白色粘質土: 層に凝結するが炭化物多い しまりややあり 粘質ややあり
  10. 7.5V2/2 オリーブ黒色土: 腐植物 灰白色粘土ブロック含む しまりなし 粘質ややあり
  11. 7.5V2/2 オリーブ黒色土: 10層に凝結するが、新土ブロックやや多く含む しまりなし 粘質ややあり
  12. 7.5V2/1 オリーブ黒色土: 腐植物多量を含む しまりややあり 粘質ややあり

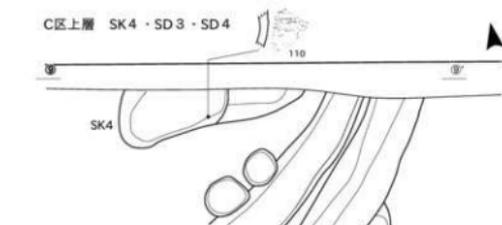




- SK3
- 7.5V3/1 オリーブ黒色土 灰白色粘土ブロック(φ5mm)多量に含む  
しまりあり 粘粒あり
  - 7.5V2/2 オリーブ黒色土 しまりあり 粘粒あり
  - 7.5V4/1 灰色土 炭化物少量含む しまり中やあり 粘粒中やあり
  - 7.5V2/1 オリーブ黒色土 炭化物少量含む 灰白色粘土ブロック(φ2~3cm)  
多量に含む しまり中やあり 粘粒中やあり
  - 7.5V3/1 オリーブ黒色土 5割に埋入するが、炭化物含まない しまりあり  
粘粒中やあり
  - N2 黒色土 繊維物多量に含む しまり中やあり 粘粒中やあり



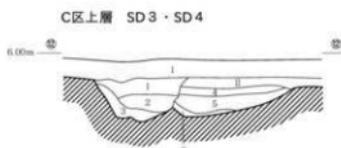
- SX1
- 7.5V3/1 オリーブ黒色土 しまりあり 粘粒あり
  - 7.5V3/1 オリーブ黒色土 炭化物少量含む 灰白色粘土ブロック(φ2~3cm)  
少量含む しまりあり 粘粒あり
  - 7.5V7/2 灰白色粘土 黒色土を埋入層に含む しまりあり 粘粒あり
  - 7.5V7/2 灰白色粘土 5割に埋入するが、黒色土や多く含む しまりあり  
粘粒あり
  - 7.5V3/1 オリーブ黒色土 灰白色粘土ブロック少量含む しまりあり 粘粒あり



- SK4
- 7.5V4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む 灰白色粘土多量に含む しまりあり 粘粒中やあり
  - 7.5V7/2 灰白色粘土 しまりあり 粘粒あり
  - 7.5V4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒あり
  - 7.5V3/2 オリーブ黒色土 炭化物多量に含む しまりあり 粘粒あり
  - 7.5V3/1 灰色粘質土 オリーブ黒色粘土ブロック多量に含む しまり中やあり 粘粒あり
  - 7.5V5/1 灰色粘質土 炭化物多量に含む 灰白色粘土ブロック(φ5mm)多量に含む しまり中やあり 粘粒中やあり
  - 7.5V3/1 オリーブ黒色土 炭化物多量に含む しまりあり 粘粒中やあり
  - 7.5V3/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒あり
- SD3
- 7.5V5/1 灰色粘質土 炭化物少量含む 灰白色粘土ブロック(φ1~2cm)少量含む しまりあり 粘粒中やあり
  - 7.5V5/1 灰色粘質土 炭化物多量に含む しまりあり 粘粒あり
- SD4
- 7.5V4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒中やあり
  - 7.5V4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む 灰白色粘土ブロック(φ1~2cm)少量含む しまりあり 粘粒あり



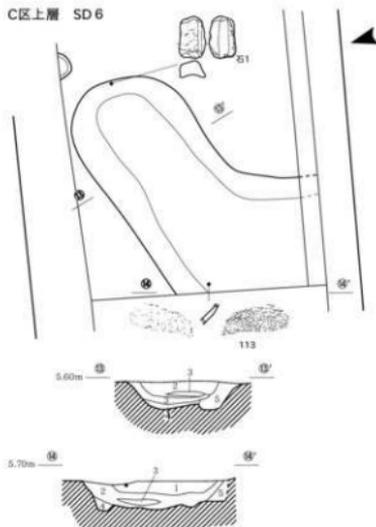
- SD2
- 7.5V7/2 灰白色粘土 オリーブ黒色粘土ブロック  
多量に含む しまりあり 粘粒中やあり



- SD3
- 7.5V5/1 灰色粘質土 炭化物少量含む 灰白色粘土ブロック(φ1~2cm)少量含む しまりあり 粘粒中やあり
  - 7.5V5/1 灰色粘質土 1割に埋入するが炭化物や多く含む しまりあり 粘粒あり
  - 7.5V5/1 灰色粘質土 1割に埋入するが粘土や中や少ない しまりあり 粘粒あり
- SD4
- 7.5V5/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒あり
  - 7.5V4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む 炭化物(φ10mm)多量に含む しまり中やあり 粘粒あり
  - 7.5V3/1 灰色粘質土 5割に埋入する しまり中やあり 粘粒あり

0 (1:40) 2m

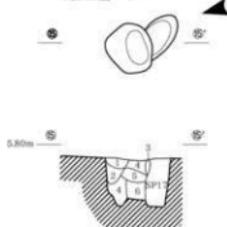
C区上層 SD6



SD6

1. 7.0V5/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒あり
2. 7.0V4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒あり
3. N2/ 黒色土 炭化物 炭粒物少量含む しまりあり 粘粒あり
4. 7.0V3/1 オリーブ黒色土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒あり
5. 7.0V6/1 灰色粘質土 しまりあり 粘粒あり

C区上層 SP1



SP1

1. 7.0V3/1 オリーブ黒色土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒中やあり
2. 7.0V2/1 オリーブ黒色土 1層に類似する 灰白色粘土ブロック少量含む しまりや中やあり 粘粒中やあり
3. 7.0V4/2 灰オリーブ色土 炭化物 灰白色粘土ブロック少量含む しまりあり 粘粒あり
4. 7.0V3/1 オリーブ黒色土 灰白色粘土少量含む しまりあり 粘粒あり
5. 7.0V3/1 オリーブ黒色土 縦に類似するが、より粘土割合多い しまりあり 粘粒あり
6. 7.0V6/2 オリーブ黒色土 しまりあり 粘粒あり

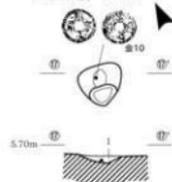
C区上層 SP3



SP3

1. 7.0V3/1 オリーブ黒色土 灰白色粘土ブロック含む しまりあり 粘粒あり
2. 7.0V7/2 灰白色粘質土 オリーブ黒色粘土ブロック含む しまりあり 粘粒あり
3. 7.0V3/1 オリーブ黒色土 縦に類似するが、粘土割合中やあり しまりあり 粘粒あり
4. 7.0V3/1 オリーブ黒色土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒あり

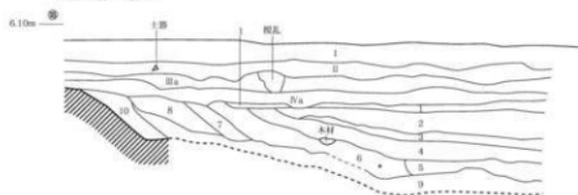
C区上層 SP19



SP19

1. 7.0V4/1 灰色粘質土 しまりあり 粘粒あり

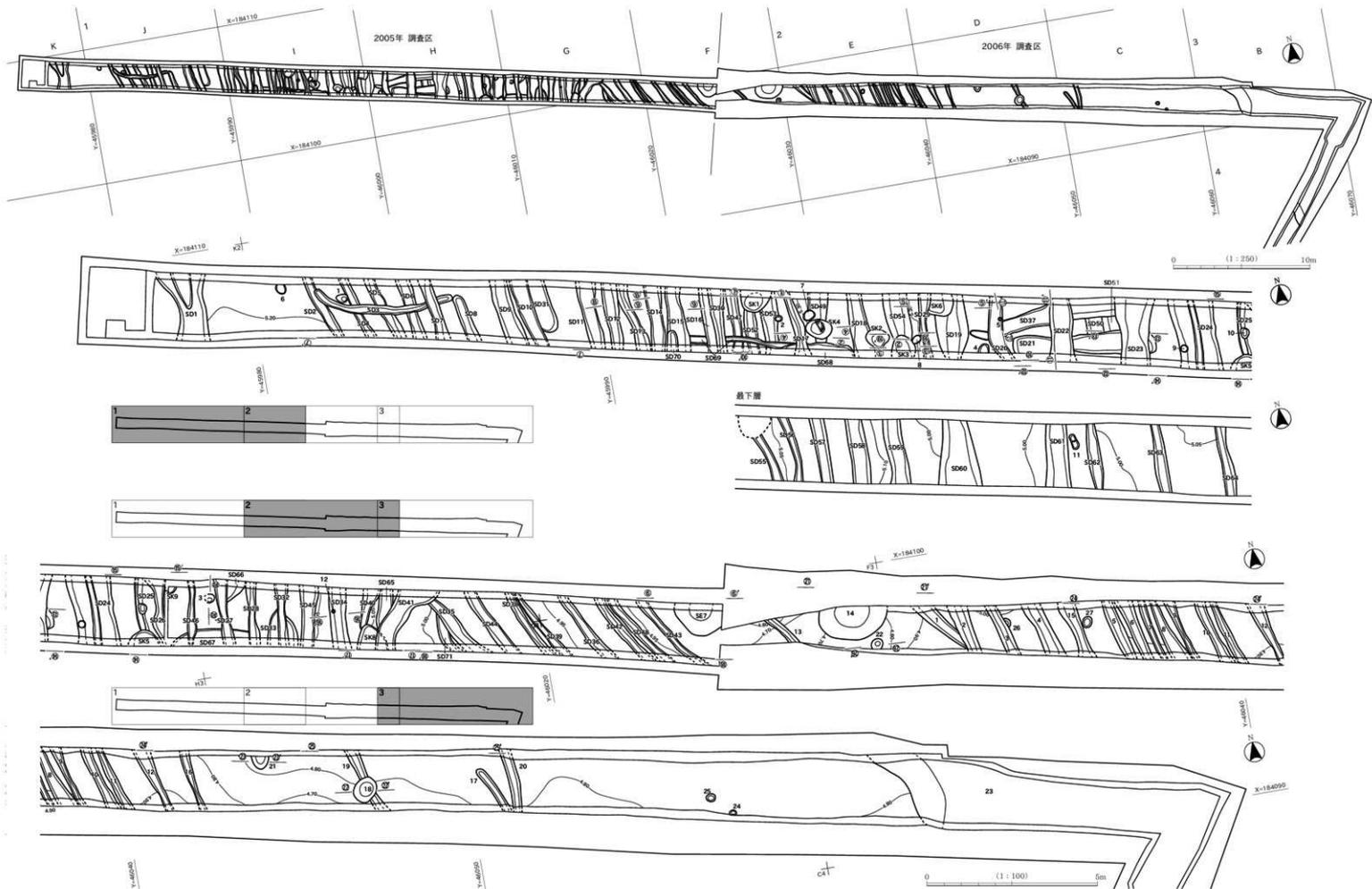
C区上層 河川1



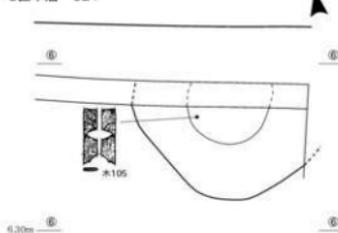
河川1

1. 7.0V3/2 オリーブ黒色土 炭化物少量含む 灰白色粘質土を縦紋状に含む しまりあり 粘粒中やあり
2. 7.0V4/1 灰色粘質土 直径1cm程度の玉石(砂質でもよい)少量含む しまりや中やあり 粘粒中やあり
3. 5G/4/1 暗オリーブ灰色砂質土 緑灰色の小石を含む しまりや中やあり 粘粒中やあり
4. N2/ 黒色土 炭化物 炭粒物少量含む 粘粒割合粘土を縦紋状に含む しまりや中やあり 粘粒中やあり
5. 7.0V4/2 灰オリーブ色土 炭化物少量含む しまりや中やあり 粘粒中やあり
6. 7.0V3/1 緑灰色土 縦紋状 木片など多量に含む しまりや中やあり 粘粒中やあり
7. 7.0V3/1 緑灰色粘質土 灰色粘質土を縦紋状に含む しまりや中やあり 粘粒中やあり
8. 7.0V3/1 緑灰色砂質土 砂子の粗い緑灰色の砂を中心に構成され、灰色土を縦紋状に含む しまりや中やあり 粘粒中やあり
9. 7.0V3/1 緑灰色粘質土 黒灰色粘質土を縦紋状に含む しまりあり 粘粒中やあり
10. 7.0V3/1 緑灰色粘質土 粘粒少量含む しまりや中やあり 粘粒中やあり
11. 7.0V3/1 緑灰色砂質土 川の粗い砂質である しまりあり 粘粒中やあり

0 (1:40) 2m



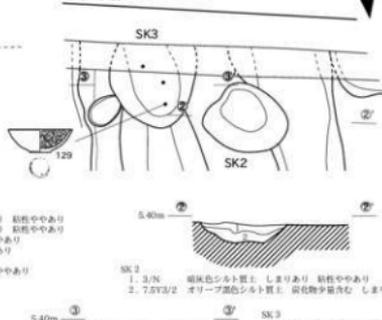
C区下層 SE7



基本土層

1. 黒砂土
2. 7.5Y7/1 灰色粘質土 灰白色粘土ブロック (φ1~3cm) 多数に含む 炭化物少量含む しまりあり 粘粒あり
3. 7.5Y6/1 灰色粘質土 炭化物少量含む 灰白色粘質土を塊状に含む しまりあり 粘粒あり
4. 7.5Y4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒あり
5. 7.5Y7/2 灰白色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒あり
6. 灰色 10Y8/4 2 灰黄褐色粘土 しまりあり 粘粒あり
7. 灰色 10Y8/4 2 灰黄褐色粘土 しまりあり 粘粒あり
8. 7.5Y5/1 灰黄色シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒中やあり (中伊達橋津波前・地山)
9. 7.5Y5/1 灰黄色シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒中やあり
10. 7.5Y5/1 灰黄色シルト質土 しまりあり 粘粒中やあり
11. 7.5Y5/1 灰黄色シルト質土 腐葉土をマザーズ状に含む しまりあり 粘粒中やあり
12. 7.5Y5/1 灰黄色シルト質土 しまりあり 粘粒中やあり
13. 7.5Y5/2 灰黄色シルト質土 しまりあり 粘粒中やあり
14. 7.5Y5/1 灰黄色シルト質土 炭化物 腐葉物を少量含む しまりあり 粘粒中やあり (古代遺物を含む)
15. 7.5Y5/2 灰黄色シルト質土 腐葉土を少量含む しまりあり 粘粒中やあり
16. 2.5Y2/1 黒色土 腐葉物を少量含む しまりあり 粘粒中やあり
17. 10Y8/5 1 黒黄色シルト質土 地山をブロック状に含む しまりあり 粘粒中やあり
18. 10Y8/5 1 黒黄色シルト質土 黒色土を少量含む しまりあり 粘粒中やあり

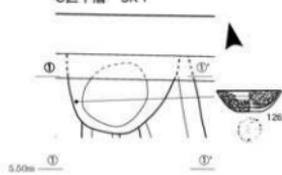
C区下層 SK2・SK3



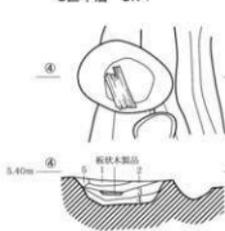
SE7

1. 5Y4/1 灰黄色シルト質土 しまりなし 粘粒中やあり
2. 10Y2/2 1 腐葉シルト質土 腐葉物を多量に含む 炭化物を含む しまりあり 粘粒中やあり
3. 5G3/1 腐葉シルト質土 腐葉物を多量に含む 炭化物を含む しまりあり 粘粒中やあり
4. 10G3/1 腐葉シルト質土 腐葉物を多量に含む しまりあり 粘粒中やあり
5. 2.N 黒色シルト質土 腐葉物を多量に含む しまりあり 粘粒中やあり
6. 2.5Y 黒色シルト質土 しまりなし 粘粒中やあり
7. 5Y2/1 オリーブ黒色シルト質土 腐葉物を多量に含む しまりなし 粘粒中やあり
8. 2.N 黒色シルト質土 炭化物を少量含む しまりあり 粘粒中やあり
9. 5G5/1 オリーブ黒色シルト質土 しまりあり 粘粒中やあり
10. 10Y5/1 オリーブ黒色シルト質土 炭化物を少量含む しまりなし 粘粒中やあり
11. 10Y8/5 1 黒黄色シルト質土 しまりあり 粘粒中やあり

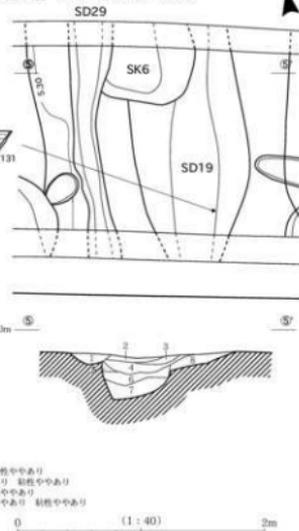
C区下層 SK1



C区下層 SK4



C区下層 SK6・SD29・SD19



SD29

1. 7.5Y2/1 黒色土 灰白色粘土ブロック (φ3cm) 含む 灰白色粘土 (φ1mm) を多量に含む しまりあり 粘粒中やあり

SK6

2. 7.5Y2/1 黒色土 灰白色粘土ブロック (φ1~3mm) 含む しまりあり 粘粒中やあり
3. 7.5Y2/1 黒色土 2層に敷設するが明確い しまりあり 粘粒中やあり
4. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 灰白色粘土ブロック (φ5mm) 含む しまりあり 粘粒あり
5. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 4層に敷設する 灰白色粘土ブロックを多量に含む しまりあり 粘粒あり
6. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 5層より中層に 灰白色粘土ブロック (φ5mm) 含む しまりあり 粘粒あり
7. 7.5Y2/1 黒色土 オリーブ黒色土を層状に含む 腐葉物 灰白色粘土ブロック (φ5mm) 少量含む しまりあり 粘粒中やあり

SD19

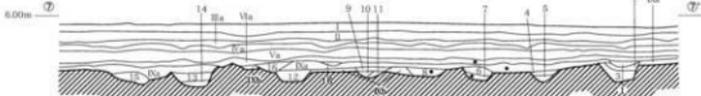
8. 7.5Y2/1 黒色土 灰白色粘土ブロック (φ5mm~1cm) 含む しまりあり 粘粒中やあり

SK4

1. 5B4/1 腐葉シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒中やあり
2. 7.5Y5/2 灰オリーブ黒色シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒中やあり
3. 5Y4/1 灰黄色シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒中やあり
4. 4.N 灰黄色シルト質土 中層に炭化物を少量含む しまりあり 粘粒中やあり
5. 5B4/1 腐葉シルト質土 1層に同じく炭化物を少量含む しまりあり 粘粒中やあり

0 (1:40) 2m

C区下層 SD2・SD4~10



- SD2  
 1. 3N4/1 堀形シルト質土 炭化物多量含む しまりやあり 粘軟ややあり  
 2. 5/N 灰赤シルト質土 炭化物多量含む 炭化シルトブロックを含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 3. 4/N 灰赤シルト質土 堀形炭化土をままだらに含む しまりややあり 粘軟ややあり
- SD4  
 4. 5/N 灰赤シルト質土 堀形炭化土をままだらに含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 5. 4/N 灰赤シルト質土 炭化物少量含む 炭化シルトブロックを含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 6. 5/N 灰赤シルト質土 炭化物少量含む 炭化シルトブロックを含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 7. 4/N 灰赤シルト質土 堀形炭化土をままだらに含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 8. 4/N 灰赤シルト質土 堀形炭化土をままだらに含む しまりややあり 粘軟ややあり
- SD7  
 9. 4/N 灰赤シルト質土 堀土をブロック状に含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 10. 4/N 灰赤シルト質土 堀形炭化土をままだらに含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 11. 5N6G5/1 霞灰色シルト質土 しまりなし 粘軟あり

- SD8  
 12. 4/N 灰赤シルト質土 堀形炭化土をままだらに含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 13. 4/N 灰赤シルト質土 炭化物 (φ2-6mm) を含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 14. 3/N 堀形炭化土 炭化物 (φ3mm) 多量含む しまりなし 粘軟あり  
 15. 4/N 灰赤シルト質土 炭化物 (φ2-6mm) を含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 16. 7.5V3/2 オリーブ黒色粘土 炭化物を含む しまりあり 粘軟ややあり

※ 分析用土壌サンプリング地点



C区下層 SD12・SD13



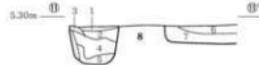
- SD12  
 1. 3V74/1 堀形アーク灰赤シルト質土 炭化物を多量に含む しまりあり 粘軟ややあり  
 2. 3V74/1 堀形アーク灰赤シルト質土 しまりややあり 粘軟ややあり  
 3. 10V6/1 灰粘土 しまりややあり 粘軟ややあり  
 4. 10V4/1 灰粘土 しまりややあり 粘軟ややあり
- SD13  
 1. 3V74/1 堀形アーク灰赤シルト質土 炭化物を多量に含む しまりあり 粘軟ややあり

C区下層 SD14・SD15

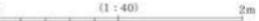


- SD14  
 1. 7.5V4/1 灰赤粘土 しまりややあり 粘軟ややあり  
 2. 10V4/1 灰赤粘土 しまりややあり 粘軟ややあり  
 3. 10V4/1 灰赤粘土 しまりなし 粘軟ややあり
- SD15  
 1. 4/N 灰赤シルト質土 しまりあり  
 2. 4/N 灰赤シルト質土 しまりややあり 粘軟ややあり

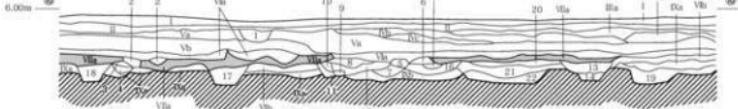
C区下層 SD21・SD37



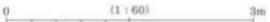
- SD21  
 1. N2/0 黒色粘土 炭赤粘土ブロック (φ1.5cm) を含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 2. N2/0 黒色シルト質土 炭赤粘土ブロック (φ1.5cm) を含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 3. 2.5V3/1 黒褐色シルト質土 しまりややあり 粘軟ややあり  
 4. 7.5V2/1 黒色土 小礫 (φ0.5cm) 多量含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 5. 5V2/2 オリーブ黒色粘土 炭赤粘土ブロックを含む しまりややあり 粘軟ややあり
- SD37  
 6. 10V3/1 オリーブ黒色粘土 しまりややあり 粘軟ややあり  
 7. 9V2/1 黒色土 しまりややあり 粘軟ややあり  
 8. N3/0 灰赤粘土 しまりややあり 粘軟ややあり



C区下層 SK3・SD17~SD20・SD53・SD68



- SK3・SD17~20・SD53・SD68  
 1. 2.5V4/4 オリーブ黒色粘土 しまりややあり 粘軟ややあり  
 2. 2.5V2/2 黒褐色シルト質土 炭化物含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 3. 2.5V2/1 黒色土 しまりややあり 粘軟ややあり  
 4. 2.5V2/1 黒色土 炭化シルト質土をブロック状に含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 5. 2.5V2/1 黒褐色シルト質土 炭化物含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 6. 2.5V2/1 黒褐色土 しまりややあり 粘軟ややあり  
 7. 2.5V2/1 黒褐色土 炭化物含む しまりややあり 粘軟ややあり
- SD17  
 13. 7.5V5/1 灰赤粘土 しまりややあり 粘軟ややあり  
 14. 5G5/1 灰赤粘土 炭化物含む しまりややあり 粘軟ややあり
- SD18  
 15. 5V3/1 オリーブ黒色粘土 しまりややあり 粘軟ややあり  
 16. 9V2/1 オリーブ黒色粘土 炭化物 混在 (赤色) 含む しまりややあり 粘軟ややあり
- SD19  
 17. N1.5/0 黒色土 炭化物多量に含む しまりややあり 粘軟ややあり
- SD20  
 18. 7.5V5/1 灰赤シルト質土 炭化物含む しまりややあり 粘軟ややあり
- SD53  
 19. 10V5/1 灰赤粘土 炭化物含む しまりややあり 粘軟ややあり
- 他遺構  
 20. 5V2/2 オリーブ黒色粘土 炭化物 混在 (褐色) 含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 21. 9V2/2 オリーブ黒色粘土 しまりややあり 粘軟ややあり  
 22. 5G5/1 オリーブ黒色粘土 炭化物含む しまりややあり 粘軟ややあり



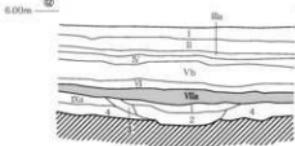
C区下層 SD23



- SD23  
 1. 3/N 堀形シルト質土 しまりあり 粘軟ややあり  
 2. 7.5V2/1 黒色シルト質土 炭化物多量に含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 3. 7.5V2/2 オリーブ黒色シルト質土 下層部に細粒をブロック状に含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 4. 7.5V2/1 灰赤粘土 しまりなし 粘軟あり  
 5. 7.5V4/1 灰赤シルト質土 しまりあり 粘軟ややあり  
 6. 7.5V4/1 灰赤シルト質土 5層目に同じ粒がさらしまり懸いしまりあり 粘軟ややあり

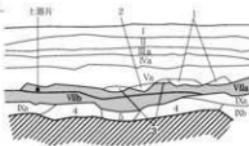


C区下層 SD22



- SD22  
 1. 3/N 堀形シルト質土 しまりややあり 粘軟ややあり  
 2. 7.5V4/1 灰赤シルト質土 しまりなし 粘軟あり  
 3. 7.5V5/1 灰赤粘土 しまりなし 粘軟あり  
 4. 4/N 灰赤粘土 しまりややあり 粘軟あり

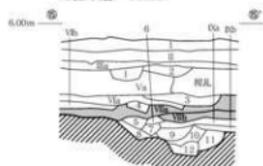
C区下層 SD24



- SD24  
 1. 5V5/1 灰赤シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘軟ややあり  
 2. 5V5/2 灰赤シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘軟ややあり  
 3. 3/N 灰赤シルト質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘軟ややあり
- SD24補  
 4. 7.5V5/2 灰赤シルト質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘軟ややあり  
 5. 7.5V4/1 灰赤シルト質土 しまりなし 粘軟ややあり



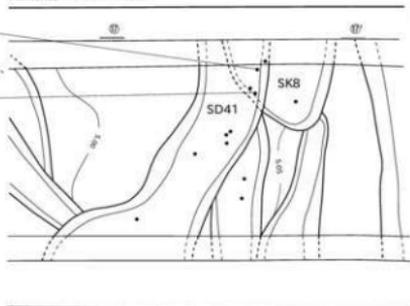
C区下層 SD25



SD25

1. 5Y5/1 灰色シルト質土 しまりあり 粘れややあり
2. 7.5Y4/1 灰褐色シルト質土 炭化物多量含む しまりあり 粘れややあり
3. 5GY/1 オリーブ灰色シルト質土 しまりややあり 粘れややあり
4. 5GY/1 オリーブ灰色シルト質土 灰褐色を含む しまりややあり 粘れややあり SD25層土
5. 7.5Y3/1 オリーブ褐色土 灰褐色を多量含む しまりあり 粘れややあり
6. 10B6/1 黄褐色シルト質土 腐植物を多量含む しまりあり 粘れややあり
7. 10B2/1 黄褐色シルト質土 灰土をブロック状を含む しまりあり 粘れややあり
8. 2.5GY/1 オリーブ灰色粘質土 しまりややあり 粘れあり
9. 7.5Y5/1 灰褐色質土 炭化物多量を含む しまりなし 粘れあり
10. 7.5Y5/1 灰褐色粘質土 炭化物を含む しまりややあり 粘れあり
11. 2.5GY/1 オリーブ灰色粘質土 しまりなし 粘れあり
12. 5GY/1 オリーブ灰色粘質土 炭化物を含む しまりなし 粘れあり

C区下層 SD41・SK8



SD41

1. 3/N 灰褐色シルト質土 炭化物を含む しまりややあり 粘れややあり
  2. 3/N 灰褐色シルト質土 灰土を多量含む しまりややあり 粘れややあり
  3. 3/N 灰褐色シルト質土 灰土を多量含む しまりややあり 粘れややあり
- SK8
4. 7.5Y3/1 灰褐色シルト質土 しまりややあり 粘れややあり
  5. 2.5GY/1 オリーブ灰色粘質土 しまりなし 粘れあり
  6. 3/N 灰褐色シルト質土 灰土をブロック状を含む しまりややあり 粘れややあり

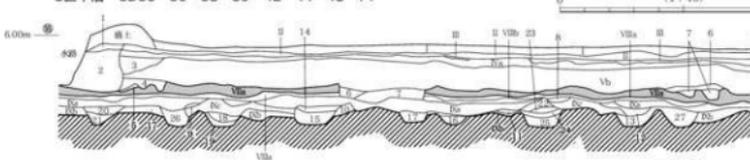
C区下層 SD34



SD34

1. 7.5Y3/1 オリーブ褐色粘質土 φ10mm以下の炭化物粒を含む しまりあり 粘れあり
2. 7.5Y3/2 オリーブ褐色粘質土 灰白色のブロック (約1~2cm×1) 炭化物粒が少量含む しまりあり 粘れあり
3. 7.5Y6/2 灰オリーブ色粘質土 オリーブ灰色土と混雑している 炭化物粒が少量含む しまりあり 粘れあり

C区下層 SD35・36・38・39・42~44・48・71



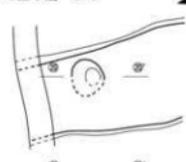
SD35・36・38・39・42~44・48・71

1. 2.5Y4/1 灰褐色粘質土 炭土 (暗色) 含む しまりあり 粘れややあり
  2. 2.5Y3/1 灰褐色粘質土 炭土 (暗色) 含む しまりあり 粘れややあり
  3. 5Y4/2 灰オリーブ粘質土 しまりややあり 粘れややあり
  4. 2.5Y4/2 灰褐色粘土 しまりややあり 粘れややあり
  5. 5Y4/2 灰褐色粘土 灰褐色土との混雑を含む しまりややあり 粘れややあり
  6. 10Y5/1 灰土 灰褐色土ブロック (1~2cm) 含む しまりややあり 粘れややあり
  7. 10Y5/1 灰土 灰褐色土ブロック (3cm) 含む しまりややあり 粘れややあり
  8. 7.5Y5/1 灰褐色粘質土 炭化物を含む しまりややあり 粘れややあり
  9. 5Y2/1 灰土 しまりややあり 粘れあり
  10. 10Y4/1 灰褐色粘質土 灰褐色土を含む しまりややあり 粘れあり
  11. 5Y4/1 灰褐色粘質土 しまりややあり 粘れあり
  12. 7.5Y4/2 灰オリーブ粘質土 灰褐色粘質土 炭化物を含む しまりややあり 粘れあり
- SD35・71
13. 7.5Y2/1 灰土 細粒砂 炭化物を含む しまりややあり 粘れあり
- SD36
14. 7.5Y2/2 オリーブ灰色土 細粒砂を含む しまりややあり 粘れあり
  15. 10Y4/1 灰褐色粘土 細粒砂を含む しまりややあり 粘れあり
- SD38
16. 10Y4/1 灰褐色粘土 細粒砂を含む しまりややあり 粘れあり
- SD39
17. 10Y4/1 灰褐色粘土 細粒砂を含む しまりややあり 粘れあり
- SD42
18. 7.5Y3/2 オリーブ灰色土 しまりややあり 粘れあり
  19. 7.5Y4/1 灰褐色粘土 細粒砂を含む しまりややあり 粘れあり

SD43

20. 7.5Y2/2 オリーブ灰色土 細粒砂を含む しまりややあり 粘れあり
  21. 7.5Y4/1 灰褐色粘土 細粒砂を含む しまりややあり 粘れあり
- SD44
22. 10Y4/1 灰褐色粘土 炭化物を含む しまりややあり 粘れあり
  23. 10Y5/1 灰褐色粘土 細粒砂を含む しまりややあり 粘れあり
  24. 5Y3/1 オリーブ灰色土 細粒砂を含む しまりややあり 粘れあり
  25. 10Y4/1 灰褐色粘土 細粒砂を含む しまりややあり 粘れあり
- SD48
26. 7.5Y3/2 オリーブ灰色土 細粒砂を含む しまりややあり 粘れあり

C区下層 SP3



SP3

1. 7.5Y3/2 オリーブ灰色シルト質土 しまりややあり 粘れややあり
2. 3Y3/1 オリーブ褐色粘質土 腐植物を含む しまりややあり 粘れあり

C区下層 SD54



SD54

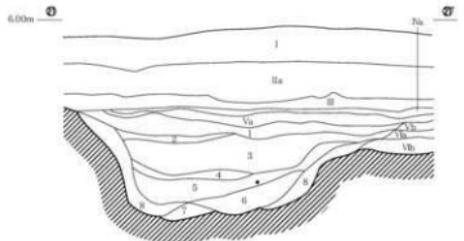
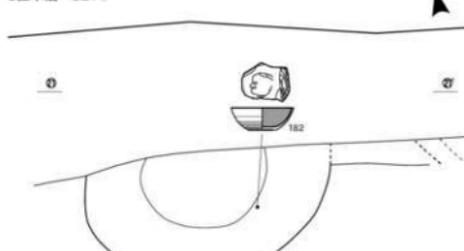
1. 7.5Y3/1 灰褐色粘質土 しまりややあり 粘れあり
2. 7.5Y3/1 灰褐色粘土 灰土を少量含む しまりあり 粘れあり
3. 7.5Y3/1 灰褐色粘質土 灰土を少量含む しまりあり 粘れあり
4. 7.5Y3/1 灰土 しまりややあり 粘れなし

0

(1:40)

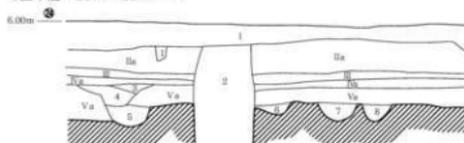
2m

C区下層 SE14



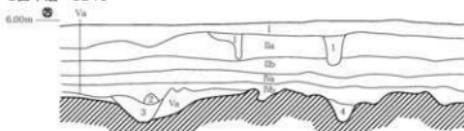
- SE14
- 2.5V81.7/1 黒色粘質土 磁輪物多量に含む。しまりや中あり 粘粒中や中あり
  - 2.5V81.7/1 黒色粘質土 灰色砂質土との混合層。しまりや中あり 粘粒あり
  - 2.5V81.7/1 黒色粘質土 白色砂質土 (1mm) を少量含む。しまりや中あり 粘粒中や中あり
  - 2.5V81.7/1 黒色粘質土 灰色砂質土ブロックが散在。しまりや中あり 粘粒中や中あり
  - 2.5V2/1 オリーブ黒色粘質土 灰色砂質土ブロックが少量含む。しまりや中あり 粘粒あり
  - 2.5V7/1 灰白色粘質土 磁輪物多量に含む。しまりや中あり 粘粒あり
  - 2.5V7/1 灰白色粘質土 6割に比べややそばそばする。磁輪物多量に含む。しまりや中や中あり
  - 2.5V7/1 灰白色粘質土 黒褐色土ブロック含む。しまりあり 粘粒あり

C区下層 SD5・SD9～11



- SD5・SD9～11
- 2.5V4/1 黒灰色粘質土。しまりあり 粘粒あり 中穴ビット
  - 中穴の残片
  - 2.5V3/2 黒褐色粘質土 磁輪物含む。しまりあり 粘粒あり
  - 2.5V2/1 黒色粘質土 磁輪物 炭化物含む。しまりや中あり 粘粒あり
- SD5
- 2.5V86/1 黒灰色粘質土。しまりあり 粘粒あり
- SD9
- 2.5V86/1 黒灰色粘質土。しまりあり 粘粒あり
- SD10
- 2.5GV6/1 黒灰色粘質土。しまりあり 粘粒あり
- SD11
- 2.5GV6/1 黒灰色粘質土。しまりあり 粘粒あり

C区下層 SD19

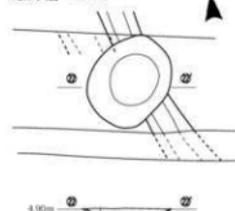


- SD19
- 2.5V4/1 黒灰色粘質土。しまりあり 粘粒あり 中穴ビット
  - 2.5V7/1 灰色粘質土。しまりあり 粘粒あり
- SD19壁
- 2.5V5/1 黒灰色粘質土 磁輪物多量に含む。しまりあり 粘粒あり
- 階層線
- 2.5V3/1 黒灰色粘質土 磁輪物多量に含む。しまりあり 粘粒あり

0 SD5・SD9～11・SD19 (1:60) 3m

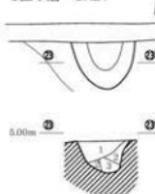
- 基本土層
- 砂質土
  - 2.5V7/2 黒灰色粘質土。しまりあり 粘粒あり
  - 2.5V7/2 黒灰色粘質土。中穴層より中や中あり。しまりあり 粘粒あり
  - 2.5V82/1 黒褐色粘質土。しまりあり 粘粒あり
  - 2.5V83/1 黒褐色粘質土。しまりや中あり 粘粒中や中あり
  - 2.5V2/1 黒色粘質土 磁輪物含む。しまりや中や中あり 粘粒あり
  - 2.5V82/1 黒色粘質土 灰色砂質土ブロックを少量含む。しまりや中や中あり 粘粒あり
  - 2.5V4/1 黒灰色粘質土。しまりあり 粘粒あり
  - 2.5V7/1 灰白色粘質土 黒褐色土との混合層。しまりあり 粘粒あり
  - 2.5V7/1 灰白色粘質土 黒褐色土ブロック含む。しまりあり 粘粒あり

C区下層 SK18



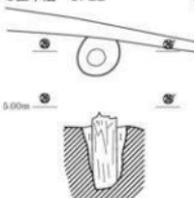
- SK18
- 2.5V5/1 黒灰色粘質土。しまりあり 粘粒あり
  - 2.5V2/1 黒褐色粘質土 磁輪物多量に含む。灰色粘土ブロックが少量含む。しまりや中あり 粘粒あり
  - 2.5V3/1 黒褐色粘質土 灰白色粘質土との混合層。しまりあり 粘粒あり
  - 2.5V3/1 黒褐色粘質土 灰白色粘質土との混合層。3割に同じだが、しまり、粘粒ともに強い。しまりあり 粘粒あり
  - 2.5V3/1 黒色粘質土。しまりや中あり 粘粒中や中あり

C区下層 SK21



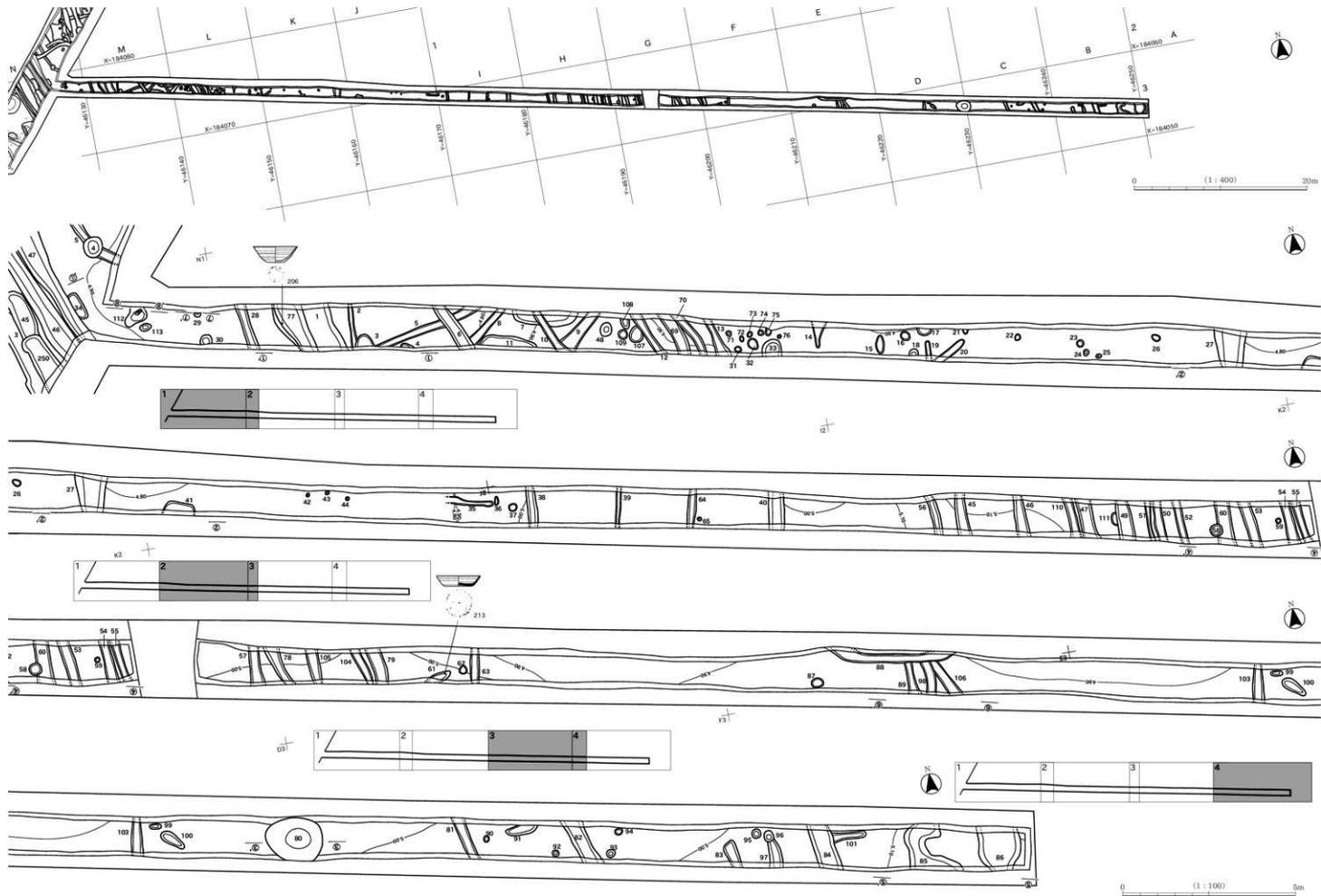
- SK21
- 2.5V4/1 黒灰色粘質土。しまりあり 粘粒あり
  - 2.5V6/1 黒灰色粘質土。しまりや中あり 粘粒中や中あり
  - 2.5V4/1 黒灰色粘質土 2割にブロック状に入る。しまりあり 粘粒あり

C区下層 SP22

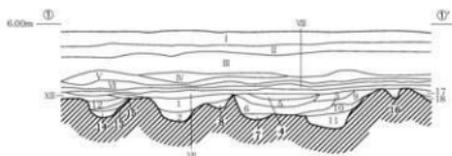


- SP22
- 2.5V5/1 黒灰色粘質土 砂質強い。しまりあり 粘粒中や中あり

0 (1:40) 2m



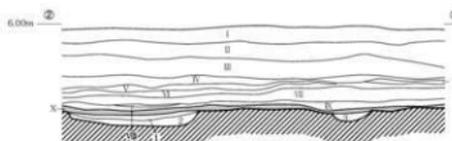
## D区 SK3・SD1・SD2・SD77・SP4



## 基本土層

1. 基土上
- II. 10YR4/1 褐色土 しまりあり 粘姓ややあり
- III. 5GY7/1 黄オリーブ灰色土 しまりあり 粘姓ややあり
- IV. 5GY7/1 黄オリーブ灰色土 褐色土に多量に含む しまりあり 粘姓ややあり
- V. 10YR2/1 褐色土 しまりあり 粘姓ややあり
- VI. 10YR2/1 褐色土 黄褐色土に少量含む しまりややあり 粘姓ややあり
- VII. 2.5Y5/2 暗灰褐色土 炭化物少量含む しまりあり 粘姓ややあり
- VIII. 2.5Y5/1 暗灰褐色土 褐色土に含む しまりあり 粘姓ややあり
- IX. 2.5Y3/1 暗褐色土 炭化物少量含む しまりあり 粘姓ややあり
- X. 2.5Y3/1 暗褐色土 炭化物少量含む しまりあり 粘姓ややあり (遺物を含む)
- XI. 10YR4/1 褐色土 腐植質、炭化物を多量に含む しまりややあり 粘姓ややあり
- XII. 2N3/0 灰色土 地山ブロック、炭化物を含む しまりあり 粘姓ややあり (遺物を含む)
- XIII. 2N3/0 灰色土 炭化物多量を含む しまりあり 粘姓ややあり

## D区 SK41・SD27

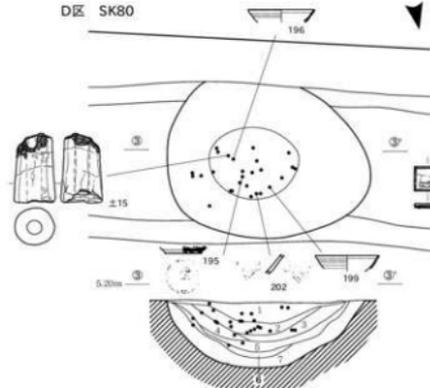


- SK41
1. 2N6/0 灰色土 褐色土にブロック状を含む しまりややあり 粘姓ややあり
  2. 2N6/0 灰色土 炭化物少量含む しまりややあり 粘姓ややあり
- SD27
3. 2N3/0 褐色土 炭化物少量含む しまりややあり 粘姓ややあり

0 (1:60) 3m

- SD1
3. 2N6/0 灰色土 地山をブロック状に少量含む しまりあり 粘姓ややあり
  4. 2N3/0 褐色土 炭化物多量を含む しまりややあり 粘姓ややあり
  5. 2N3/0 褐色土 しまりあり 粘姓ややあり
  6. 2N3/0 褐色土 地山をブロック状に少量含む しまりあり 粘姓ややあり
  7. 2N6/0 灰色土 地山ブロック多量を含む しまりあり 粘姓ややあり
- SD2
8. 2N6/0 灰色土と地山の混合土 しまりあり 粘姓ややあり
- SD77
9. 2N6/0 灰色土 地山ブロック多量を含む しまりあり 粘姓ややあり
  10. 2N6/0 灰色土 炭化物少量含む しまりややあり 粘姓ややあり
  11. 2N3/0 褐色土 地山ブロック、炭化物を含む しまりあり 粘姓ややあり

## D区 SK80

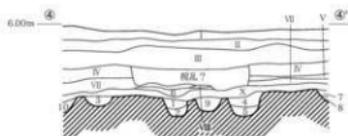


## SK80

1. 2N3/0 褐色土 灰色土にブロック状を含む しまりややあり 粘姓ややあり
2. 2N6/0 灰色土 褐色土と褐色土の混合土 炭化物少量含む しまりややあり 粘姓ややあり
3. 2N6/0 灰色土 炭化物を含む しまりややあり 粘姓ややあり
4. 2N6/0 灰色土 地山をブロック状に少量含む しまりあり 粘姓ややあり
5. 2.5Y3/1 暗褐色土 しまりあり 粘姓ややあり
6. 10YR2/1 褐色土 しまりなし、粘姓あり
7. 2N6/0 灰色土 炭化物少量含む しまりあり 粘姓あり

0 (1:40) 2m

## D区 SD53・SD54・SD60



## SD53

1. 2N6/0 灰色土 地山ブロック多量を含む しまりあり 粘姓ややあり
2. 2N6/0 灰色土 しまりあり 粘姓ややあり

## SD54

3. 2N6/0 灰色土 地山ブロック多量を含む しまりあり 粘姓ややあり

## SD60

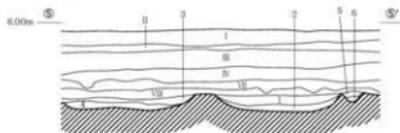
4. 2N6/0 灰色土 地山ブロック多量を含む しまりあり 粘姓ややあり
5. 2N6/0 灰色土 地山ブロック少量含む しまりあり 粘姓ややあり

## 他遺構

6. 7.5Y2/1 褐色土 炭化物を含む しまりややあり 粘姓ややあり
7. 2N6/0 灰色土 地山ブロック多量を含む しまりあり 粘姓ややあり
8. 2N6/0 灰色土 地山ブロック少量含む しまりあり 粘姓ややあり
9. 2N6/0 灰色土 地山ブロック多量を含む しまりあり 粘姓ややあり
10. 2N6/0 灰色土 地山ブロック多量を含む しまりあり 粘姓ややあり

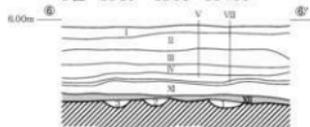
0 (1:60) 3m

## D区 SD85・SD86



- SD85  
 1. 1OYB4/2 灰黄褐色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘姓ややあり  
 2. N6/0 灰色粘質土と地山の混合土 しまりあり 粘姓ややあり
- SD86  
 3. 1OYB4/2 灰黄褐色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘姓ややあり  
 4. N6/0 灰色粘質土と地山の混合土 しまりあり 粘姓ややあり  
 5. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック状に少量含む しまりあり 粘姓ややあり  
 6. N6/0 灰色粘質土と地山の混合土 しまりあり 粘姓ややあり

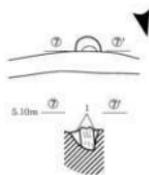
## D区 SD89・SD98・SD106



- SD89  
 1. N3/0 暗灰色粘質土と地山の混合土 しまりあり 粘姓ややあり
- SD98  
 2. N3/0 暗灰色粘質土と地山の混合土 しまりあり 粘姓ややあり
- SD106  
 3. N6/0 灰色粘質土と地山の混合土 しまりあり 粘姓ややあり

0 (1:60) 3m

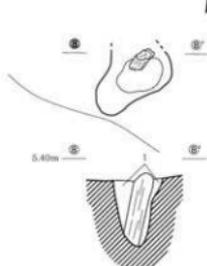
## D区 SP29



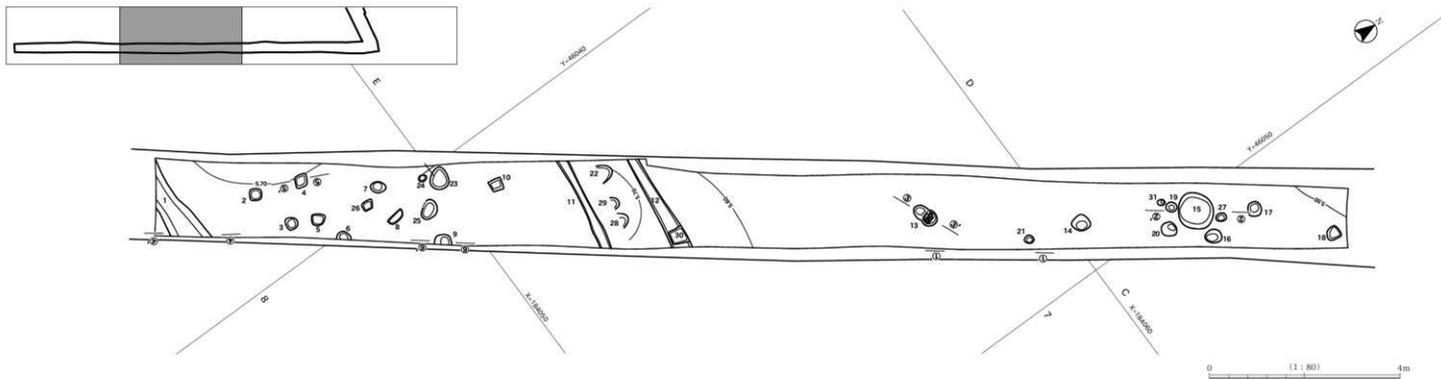
- SP29  
 1. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック状に少量含む しまりあり 粘姓ややあり

0 (1:40) 2m

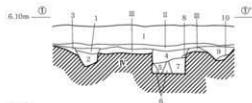
## D区 SP112



- SP112  
 1. 2SY3/1 黄褐色粘質土 しまりあり 粘姓ややあり

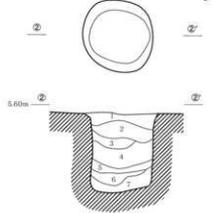


E区上層 基本土層



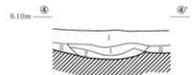
- 基本土層
- 1. 耕土
  - 2. 2.5V/2 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 3. 2.5V/3 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 4. 2.5V/4 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 5. 2.5V/5 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 6. 2.5V/6 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 7. 2.5V/7 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 8. 2.5V/8 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 9. 2.5V/9 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 10. 2.5V/10 灰黄色粘質土 地山土含む しまりあり 粘粒中～中あり
- 編年層
- 1. 2.5V/1 灰黄色粘質土 2層より若干締り込む しまりあり 粘粒中～中あり
  - 2. 2.5V/2 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 3. 2.5V/3 灰黄色粘質土 地山土が少量含む しまりあり 粘粒中～中あり
  - 4. 2.5V/4 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 5. 2.5V/5 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 6. 2.5V/6 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 7. 2.5V/7 灰黄色粘質土 地山土含む しまりあり 粘粒中～中あり
  - 8. 2.5V/8 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 9. 2.5V/9 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 10. 2.5V/10 灰黄色粘質土 地山土含む しまりあり 粘粒中～中あり

E区上層 SE15



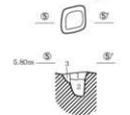
- SE15
- 1. 2.5V/1 灰黄色粘質土 褐色含む しまりあり 粘粒あり
  - 2. 2.5V/2 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒あり
  - 3. 2.5V/3 灰黄色粘質土 膠泥に含む しまりあり 粘粒あり
  - 4. 2.5V/4 灰黄色粘質土 土中灰黄色土の混入あり しまりあり 粘粒あり
  - 5. 2.5V/5 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒あり
  - 6. 2.5V/6 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒あり
  - 7. 2.5V/7 灰黄色粘質土 凝結物多量に含む しまりなし 粘粒あり

E区上層 SD1



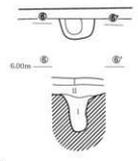
- SD1
- 1. 2.5V/1 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり
  - 2. 2.5V/2 灰黄色粘質土 地山土含む しまりあり 粘粒中～中あり

E区上層 SP4



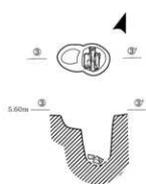
- SP4
- 1. 2.5V/4/1 凝結物多量に含む しまりあり 粘粒中～中あり
  - 2. 2.5V/4/2 凝結物多量に含む しまりあり 粘粒中～中あり
  - 3. 2.5V/7/1 灰黄色粘質土に膠泥の混入あり しまりあり 粘粒中～中あり

E区上層 SP9



- SP9
- 1. 2.5V/1 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり

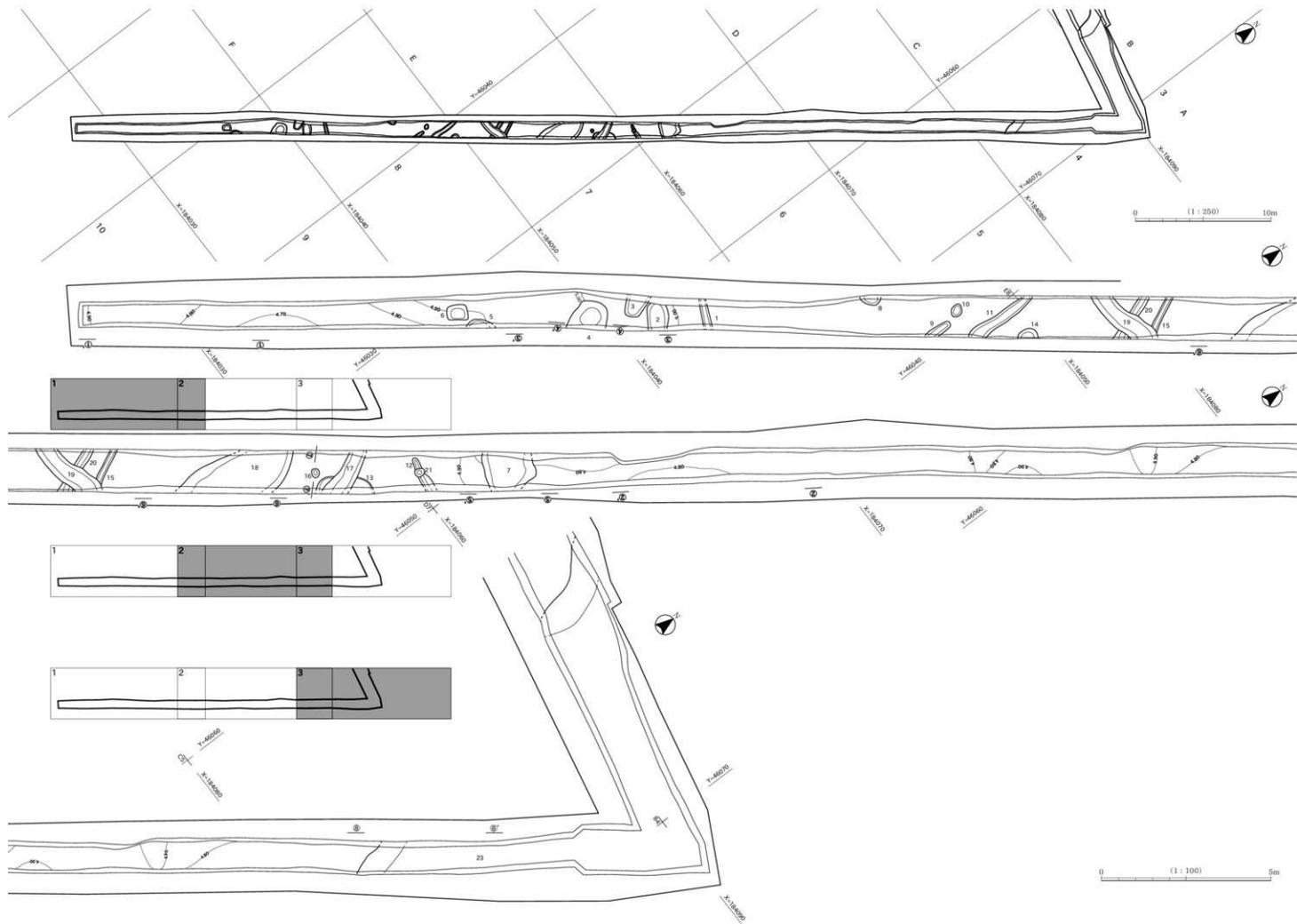
E区上層 SP13



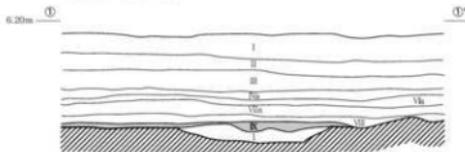
- SP13
- 1. 2.5V/1 灰黄色粘質土 しまりあり 粘粒中～中あり

0 (1:80) 4m

0 (1:40) 2m



E区下層 基本土層 1



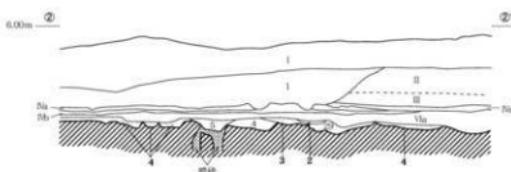
基本土層:

1. 耕作土
2. 2.5YR/4 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒あり
3. 2.5YR/2 灰黄色粘質土 日露より粘粒多量い しまりあり 粘粒あり
4. 7.5YR/1 灰黄色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘粒中やあり
5. 2.5YR/2 黄褐色粘質土 しまりあり 粘粒中やあり
6. 2.5YR/1 黄褐色粘質土 しまりや中あり 粘粒中やあり
7. 2.5YR/3 黄褐色粘質土 腐植物多量に含む しまりあり 粘粒中やあり
8. 7.5YR/2 黄褐色粘質土 しまりあり 粘粒中やあり
9. 7.5YR/4 灰黄色粘質土 腐植物多量に含む しまりあり 粘粒中やあり
10. 7.5YR/2 黄褐色粘質土 しまりや中あり 粘粒中やあり
11. 2.5YR/2 黄褐色粘質土 粘粒物を含む しまりや中あり 粘粒中やあり
12. 2.5YR/1 黄褐色粘質土 灰黄色粘質土ブロック少量含む しまりあり 粘粒中やあり

遺構:

1. 2.5YR/1 黄褐色粘質土と灰黄色粘質土の混合層 しまりあり 粘粒中やあり (溝の層上)

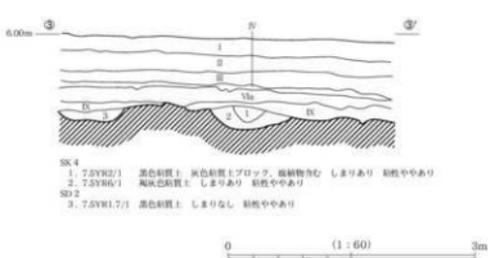
E区下層 基本土層 2



基本土層 2:

1. 7.5YR/1 黄褐色粘質土 しまりあり 粘粒や中あり (中層以降の自然露出の層土か)
2. 7.5YR/3 黄褐色粘質土 しまりや中あり 粘粒や中あり (遺構層上)
3. 7.5YR/2 黄褐色粘質土 灰黄色粘質土との混合層 しまりあり 粘粒中や中あり (遺構層上)
4. 2.5YR/1 黄褐色粘質土 しまりあり 粘粒中や中あり (遺構層上)
5. 7.5YR/3 黄褐色粘質土 しまりあり 粘粒や中あり (遺構層上)

E区下層 SK 4・SD 2



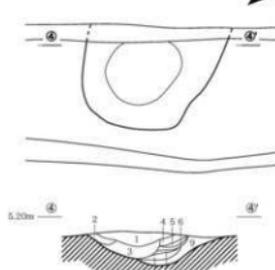
SK 4:

1. 7.5YR/2 黄褐色粘質土 灰黄色粘質土ブロック、腐植物含む しまりあり 粘粒中やあり
2. 7.5YR/6 黄褐色粘質土 しまりあり 粘粒中やあり

SD 2:

3. 7.5YR/1 黄褐色粘質土 しまりなし 粘粒中やあり

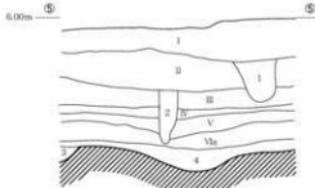
E区下層 SK 4



SK 4:

1. 2.5YR/1 黄褐色粘質土 しまりあり 粘粒中やあり
2. 2.5Y/2 黄褐色粘質土 灰黄色粘質土との混合層 しまりや中やあり 粘粒中やあり
3. 2.5Y/1 黄褐色粘質土 灰黄色粘質土ブロック含む しまりあり 粘粒中やあり
4. 2.5Y/2 黄褐色粘質土と灰黄色粘質土ブロックの混合層 しまりあり 粘粒中やあり
5. 2.5Y/1 黄褐色粘質土 灰黄色粘質土との混合層 しまりや中やあり 粘粒中やあり
6. 2.5Y/1 灰白色粘質土 しまりあり 粘粒中やあり
7. 2.5Y/2 黄褐色粘質土 しまりや中やあり 粘粒中やあり
8. 2.5Y/2 黄褐色粘質土と灰黄色粘質土ブロックの混合層 しまりあり 粘粒中やあり
9. 2.5Y/2 黄褐色粘質土 しまりあり 粘粒中やあり

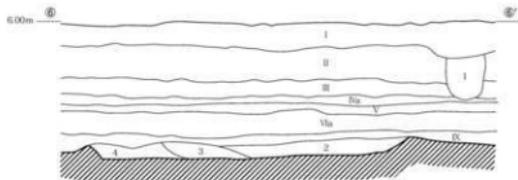
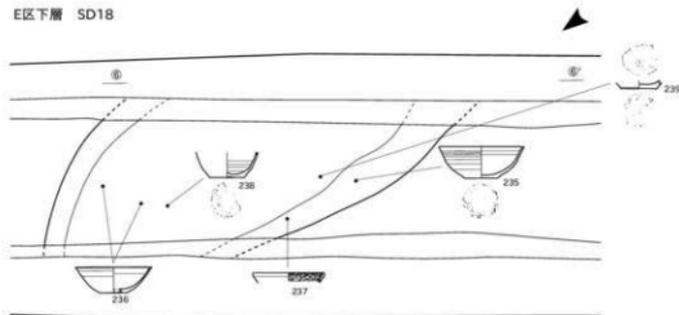
E区下層 SD 7



SD 7:

1. 2.5YR/2 黄褐色粘質土 しまりあり 粘粒中やあり (中層の遺構層上)
2. 2.5YR/3 灰色粘質土 しまりあり 粘粒中や中やあり (中層の遺構層上)
3. 7.5YR/3 黄褐色粘質土 腐植物少量含む しまりや中やあり 粘粒中やあり
4. 2.5Y/2 黄褐色粘質土 灰黄色粘質土ブロック含む しまりあり 粘粒中やあり (SD7層上)

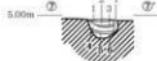
E区下層 SD18



SD18

- 1. 2.0V6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒ややあり (中伊の遺構層上)
- 2. 2.0V2/1 黄灰色粘質土 灰色粘土でラックを含む しまりあり 粘粒ややあり (SD18層上)
- 3. 2.0V5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒ややあり (SD18層上)
- 4. 7.0V6/1 灰色粘質土 黄褐色粘土少量含む しまりあり 粘粒ややあり (SD18層上)

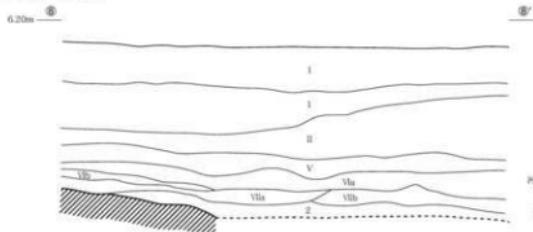
E区下層 SP16



SP16

- 1. 2.0V2/1 黄褐色粘質土と灰色粘土の混合層 しまりあり 粘粒ややあり
- 2. 2.0V4/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘粒ややあり
- 3. 2.0V2/1 紫色粘質土 灰層に近い 薄く凝状に入る しまりややあり 粘粒ややあり
- 4. 2.0V4/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘粒ややあり
- 5. 2.0V2/1 紫色粘質土 灰層に近い 薄く凝状に入る しまりややあり 粘粒ややあり
- 6. 2.0V5/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘粒ややあり
- 7. 2.0V6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒ややあり

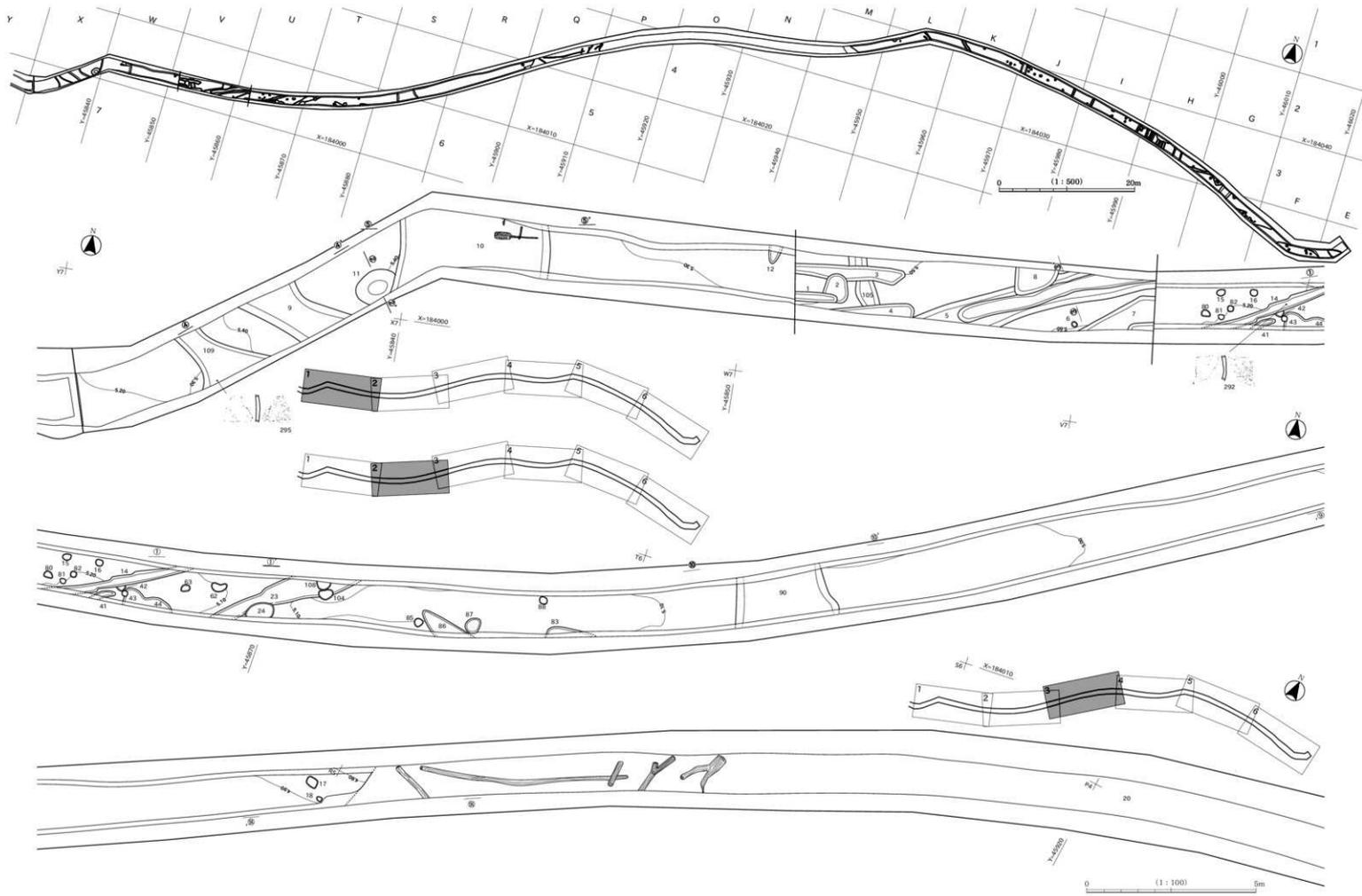
E区下層 河川23

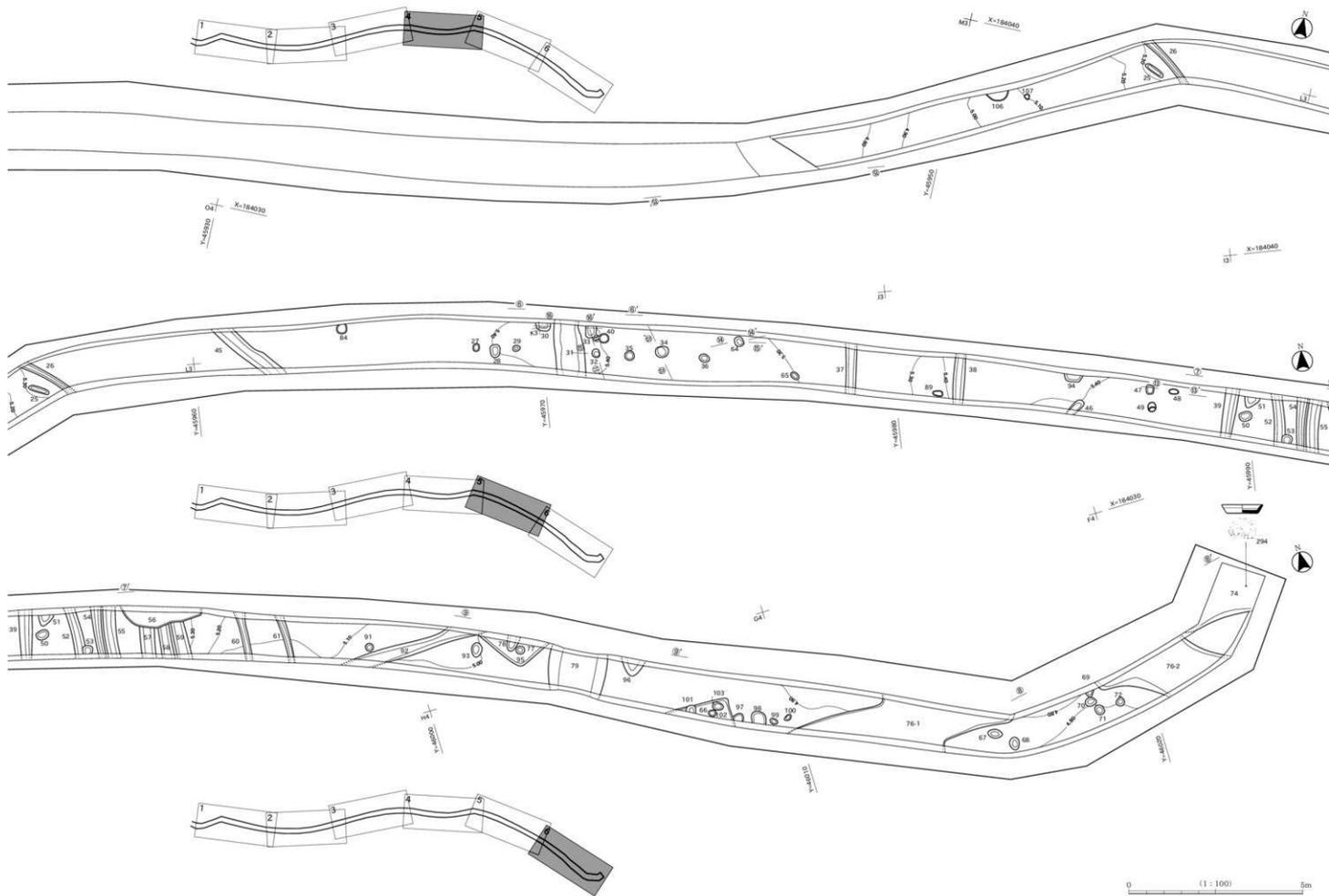


河川23

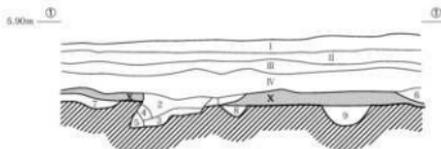
- 1. 7.0V6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒ややあり (中伊以降の河川遺構の層上から)
- 2. 2.0V4/1 黄褐色粘質土 凝状物多量を含む しまりなし 粘粒ややあり (河川23層上)







F区 基本土層・SD14



基本土層

- I. 腐植土
- II. 10YR5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性强や中あり
- III. 2.5Y5/2 黄灰黄粘質土 しまりあり 粘性强や中あり
- IV. 7.5YR3/1 黄褐色土 腐植物少量含む しまりや中あり 粘性强や中あり
- Va. 2.5GY/7 暗オリーブ灰色粘質土 しまりあり 粘性强や中あり
- Vb. 2.5Y5/2 黄灰黄粘質土 腐植物含む しまりや中あり 粘性强や中あり
- VI. N2/2 暗灰色腐植物 しまりや中あり 粘性强や中あり
- VII. 7.5YR3/1 黄褐色土 腐植物少量含む しまりや中あり 粘性强や中あり
- IX. 10YR6/2 黄褐色粘質土 しまりや中あり 粘性强や中あり
- X. 2.5Y5/1 黄灰粘質土 白色灰少量含む しまりあり 粘性强や中あり (遺物包含層)
- Xa. 2.5Y4/1 黄灰粘質土 白色灰 腐植物含む しまりや中あり 粘性强や中あり (遺物包含層)
- Xb. N6/2 黄灰色粘質土 白色灰少量含む しまりあり 粘性强や中あり
- Xc. N6/2 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性强や中あり

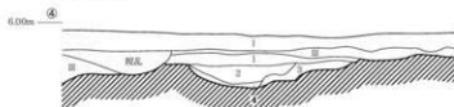
F区 SD5



SD5

1. 10YR4/1 黄灰色粘質土 腐植物少量含む しまりや中あり 粘性强や中あり
2. 10YR4/2 黄褐色粘質土 白色粘質土をブロック状に少量含む しまりや中あり 粘性强や中あり

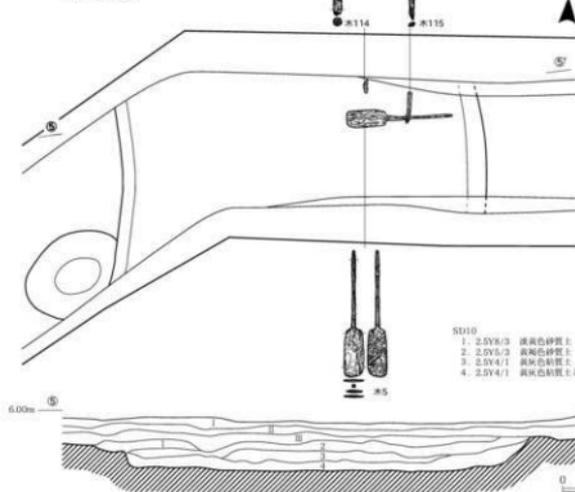
F区 SD9



SD9

1. N2/2 暗灰色腐植土 黄灰色粘質土 黄褐色粘質土の混合層 しまりや中あり 粘性强や中あり
2. 10YR3/2 黄褐色粘質土と黄灰色粘質土の混合層 しまりや中あり 粘性强や中あり
3. 10YR3/2 黄褐色粘質土と黄灰色粘質土の混合層 地山ブロック少量含む しまりや中あり 粘性强や中あり
4. 10YR3/2 黄褐色粘質土と黄灰色粘質土の混合層 しまりや中あり 粘性强や中あり

F区 SD10



SD10

1. 2.5Y8/3 黄褐色粘質土 暗黄褐色粘質土をブロック状に含む しまりや中あり 粘性强や中あり
2. 2.5Y5/2 黄褐色粘質土 1層が厚くなる しまりや中あり 粘性强や中あり
3. 2.5Y4/1 黄褐色粘質土 黄褐色粘質土をブロック状に含む しまりや中あり 粘性强や中あり
4. 2.5Y4/1 黄褐色粘質土 2層の混合層 しまりや中あり 粘性强や中あり

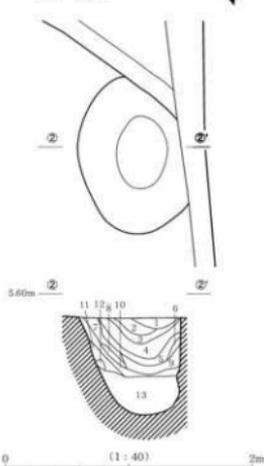
SD14

1. 7.5YR3/1 黄褐色土 しまりや中あり 粘性强や中あり
2. 7.5YR3/1 黄褐色土 腐植物 腐植物少量含む しまりや中あり 粘性强や中あり
3. 7.5YR3/1 黄褐色土 腐植物 腐植物少量含む しまりや中あり 粘性强や中あり
4. 2.5Y5/2 黄褐色粘質土 地山ブロック含む しまりあり 粘性强や中あり
5. 7.5YR3/1 黄褐色土 地山ブロック含む しまりや中あり 粘性强や中あり

他遺構

6. 7.5YR3/1 黄褐色土 しまりや中あり 粘性强や中あり
7. 2.5Y5/2 黄褐色粘質土 地山ブロック含む しまりあり 粘性强や中あり
8. 2.5Y5/2 黄褐色粘質土 しまりあり 粘性强や中あり
9. 2.5Y5/2 黄褐色粘質土 しまりあり 粘性强や中あり

F区 SK11



SK11

1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 黄褐色粘質土少量含む しまりあり 粘性强や中あり
2. 2.5Y3/1 黄褐色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性强や中あり
3. N2/2 黄灰色腐植 地山ブロック含む しまりなし 粘性强や中あり
4. 10YR4/2 黄褐色粘質土 腐植物少量含む しまりなし 粘性强や中あり
5. 2.5Y3/1 黄褐色粘質物 しみりなし 粘性强や中あり
6. 2.5Y7/2 黄褐色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性强や中あり
7. 1層と黄灰色土の混合層 しまりあり 粘性强や中あり
8. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 黄褐色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性强や中あり
9. N2/2 暗灰色腐植物 しみりなし 粘性强や中あり
10. 2.5Y3/1 黄褐色粘質土 腐植物 腐植物少量含む しまりなし 粘性强や中あり
11. N6/2 黄灰色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性强や中あり
12. N6/2 黄灰色粘質土 腐植物含む しまりや中あり 粘性强や中あり
13. 10YR1/1 黄褐色粘質土と黄褐色粘質土の混合層 しまりあり 粘性强や中あり

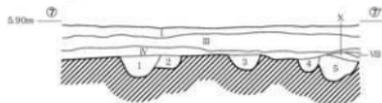
## F区 SD31



SD31

1. 2.5V4/1 黄灰色粘質土 地山ブロック多量に含む しまりややあり 粘粒ややあり
  2. 2.5V4/1 黄灰色粘質土 地山ブロックの割合増 地山ブロック多量に含む しまりややあり 粘粒ややあり
  3. 2.5V5/1 黄灰色粘質土 地山ブロック状に含む しまりややあり
- 他遺構
4. 2.5V4/1 黄灰色粘質土 地山ブロック多量に含む しまりややあり 粘粒ややあり
  5. 2.5V4/1 黄灰色粘質土 地山ブロック多量に含む しまりややあり 粘粒ややあり

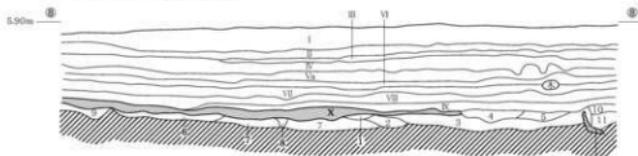
## F区 SD39・SK51・SD52・SD54・SD55



SD39

1. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒ややあり
- SK51
2. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 地山ブロック状に含む しまりあり 粘粒ややあり
- SD52
3. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 地山ブロック状に含む しまりややあり 粘粒ややあり
- SD54
4. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘粒ややあり
- SD55
5. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 地山ブロック状に含む しまりややあり 粘粒ややあり

## F区 SD74・SD76・SP69



SD74

1. 2.5V5/1 黄灰色粘質土 地山含む しまりあり 粘粒ややあり
2. 2.5V5/1 黄灰色粘質土 炭化物含む しまりあり 粘粒ややあり
3. 2.5V5/1 黄灰色粘質土 地山含む しまりあり 粘粒ややあり
4. 2.5V5/1 黄灰色粘質土 炭化物、砂質土含む しまりあり 粘粒ややあり
5. 2.5V5/1 黄灰色粘質土 白色砂含む しまりあり 粘粒ややあり

SD76

6. 2.5V4/1 黄灰色粘質土 白色砂、炭化物含む しまりややあり 粘粒ややあり
7. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒ややあり
8. 2.5V4/1 黄灰色粘質土 地山ブロック含む しまりあり 粘粒ややあり

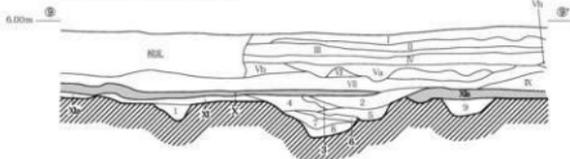
SP69

9. 2.5V4/1 黄灰色粘質土 白色砂、炭化物含む しまりややあり 粘粒ややあり

他遺構

10. 2.5V4/1 黄灰色粘質土 白色砂少量含む しまりややあり 粘粒ややあり
11. 2.5V4/1 黄灰色粘質土 白色砂、地山土多量に含む しまりややあり 粘粒ややあり

## F区 SD78・SD79・SD96



SD78

1. 2.5V5/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘粒ややあり

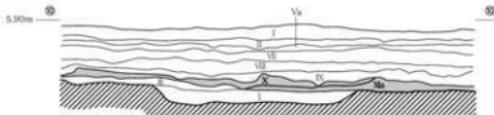
SD79

2. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘粒ややあり
3. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 地山土をブロック状に含む しまりややあり 粘粒ややあり
4. 2.5V4/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘粒ややあり
5. 2.5V6/2 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒ややあり
6. 2.5V5/2 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒ややあり
7. 2.5V7/1 灰白色粘質土 しまりあり 粘粒ややあり
8. 2.5V5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒ややあり

SD96

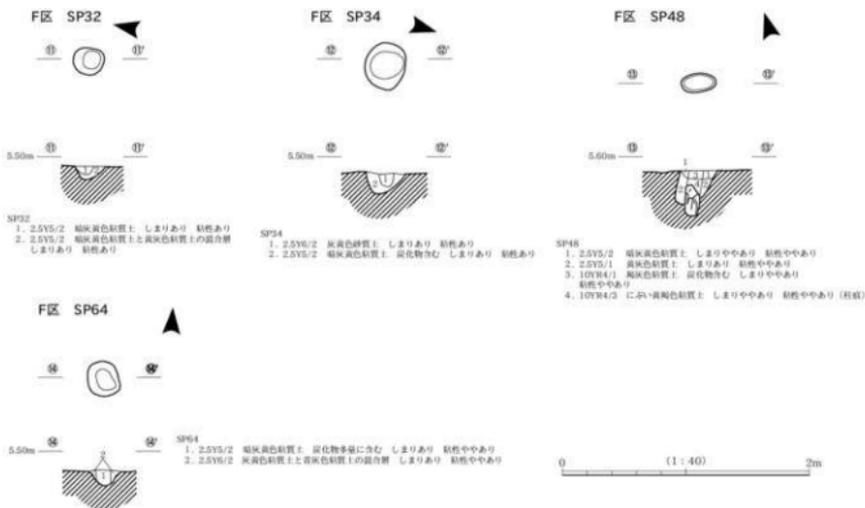
9. 2.5V5/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘粒ややあり

## F区 SD90

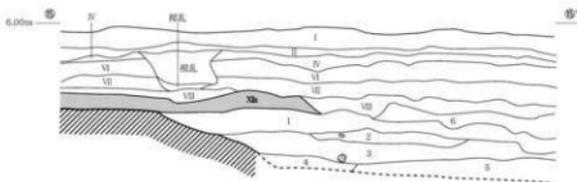


SD90

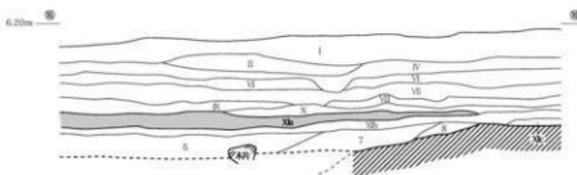
1. 6GV6/1 オリーブ灰色粘質土 しまりあり 粘粒ややあり



F区 河川20-1



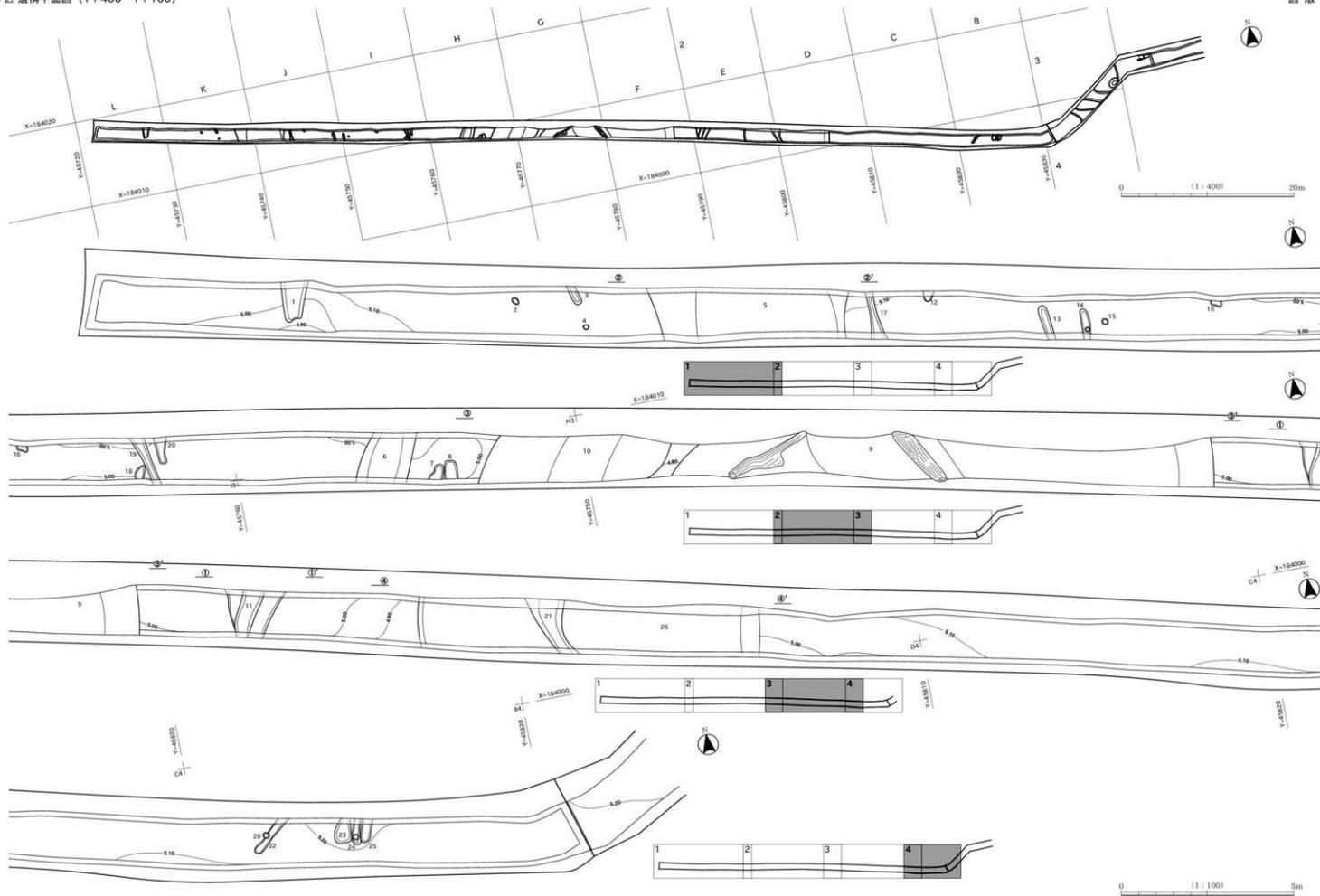
F区 河川20-2



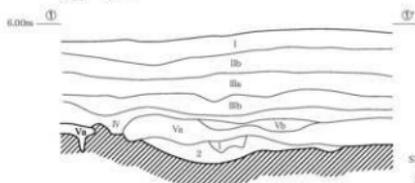
河川20

1. 2.5Y4/1 黒灰色粘質土、炭化物多量に含む、しまりややあり 粘粒ややあり
2. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土、炭化物多量に含む、しまりややあり 粘粒ややあり
3. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土、炭化物多量に含む、しまりややあり 粘粒ややあり
4. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土、炭化物多量に含む、しまりややあり 粘粒ややあり
5. 2.5V5/1 黒灰色粘質土、炭化物少量含む、しまりややあり 粘粒ややあり
6. 2.5V7/1 赤山色粘質土、炭化物少量含む、しまりややあり 粘粒ややあり
7. 2.5V5/1 黒灰色粘質土、炭化物少量含む、しまりあり 粘粒ややあり
8. Nk/ 灰色粘質土、しまりあり 粘粒ややあり

0 (1:60) 3m



G区 SD11

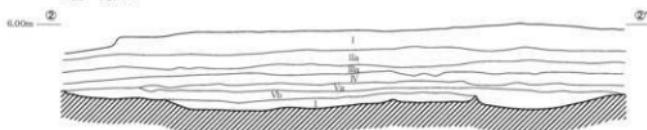


SD11

1. 10YB4/2 灰黄褐色粘質土 しまりややあり 粘粒ややあり  
2. DB6/1 黄灰色粘質土と黄灰色粘質土の混合層 しまりあり 粘粒ややあり

0 (1:40) 2m

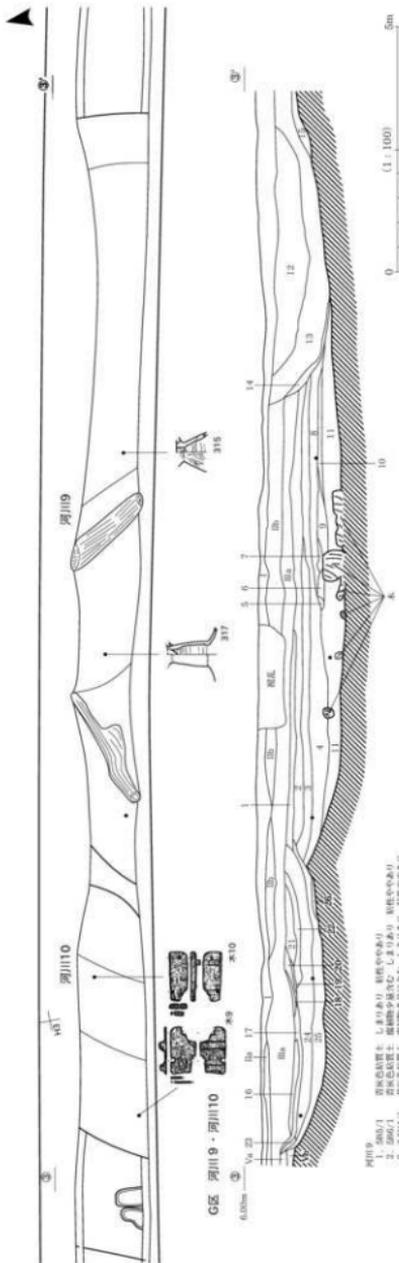
G区 河川5



基本土層

- I. 礫層土  
IIa. N7/1 灰白色粘質土 凝結物少量含む しまりややあり 粘粒ややあり  
IIIa. 23Y4/1 黄灰色粘質土と地山の混合層 黄灰色粘質土をブロック状に含む しまりややあり 粘粒ややあり  
IIIb. 10YB6/2 灰黄褐色粘質土 凝結物少量をブロック状に含む しまりあり 粘粒ややあり  
IIIc. 10YB6/1 黄灰色粘質土 凝結物多量を含む しまりあり 粘粒ややあり  
IV. 10YB2/1 濃褐色粘質土 凝結物少量含む しまりややあり 粘粒ややあり  
Va. 10YB6/2 灰黄褐色粘質土 しまりややあり 粘粒ややあり  
Vb. 23Y6/1 黄灰色粘質土 明褐色粘質土ブロック、凝結物少量含む しまりあり 粘粒ややあり  
河川5  
1. 10YB6/1 黄灰色粘質土 地山、凝結物少量含む しまりあり 粘粒ややあり

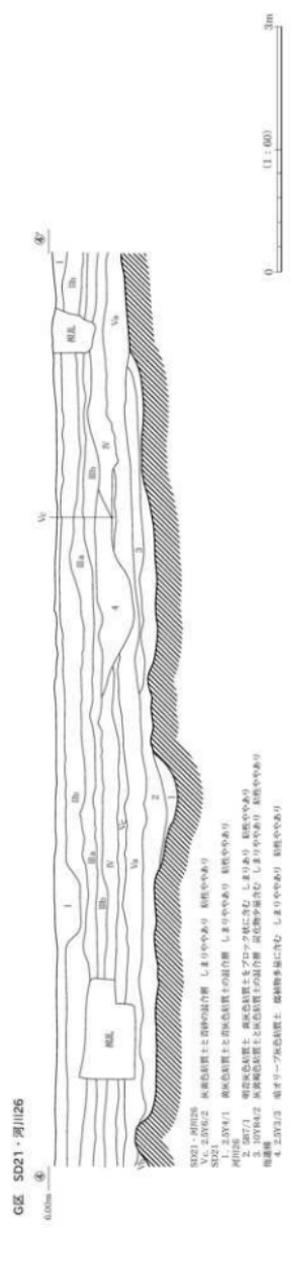
0 (1:60) 3m



G区 SD21・河川10

- 河川9
1. 300/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑中へあり、縦坑中へあり
  2. 25/4/1 黒色粘質土、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  3. 25/7/2 黒色粘質土、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  4. 25/7/2 黒色粘質土、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  5. 25/7/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  6. 25/7/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  7. 25/7/2 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  8. 25/7/2 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  9. 25/7/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  10. 25/7/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  11. 25/7/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  12. 307/1 黒色粘質土、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  13. 307/1 黒色粘質土、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  14. 307/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  15. 107/6/1 黒色粘質土と地山の混合層、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり

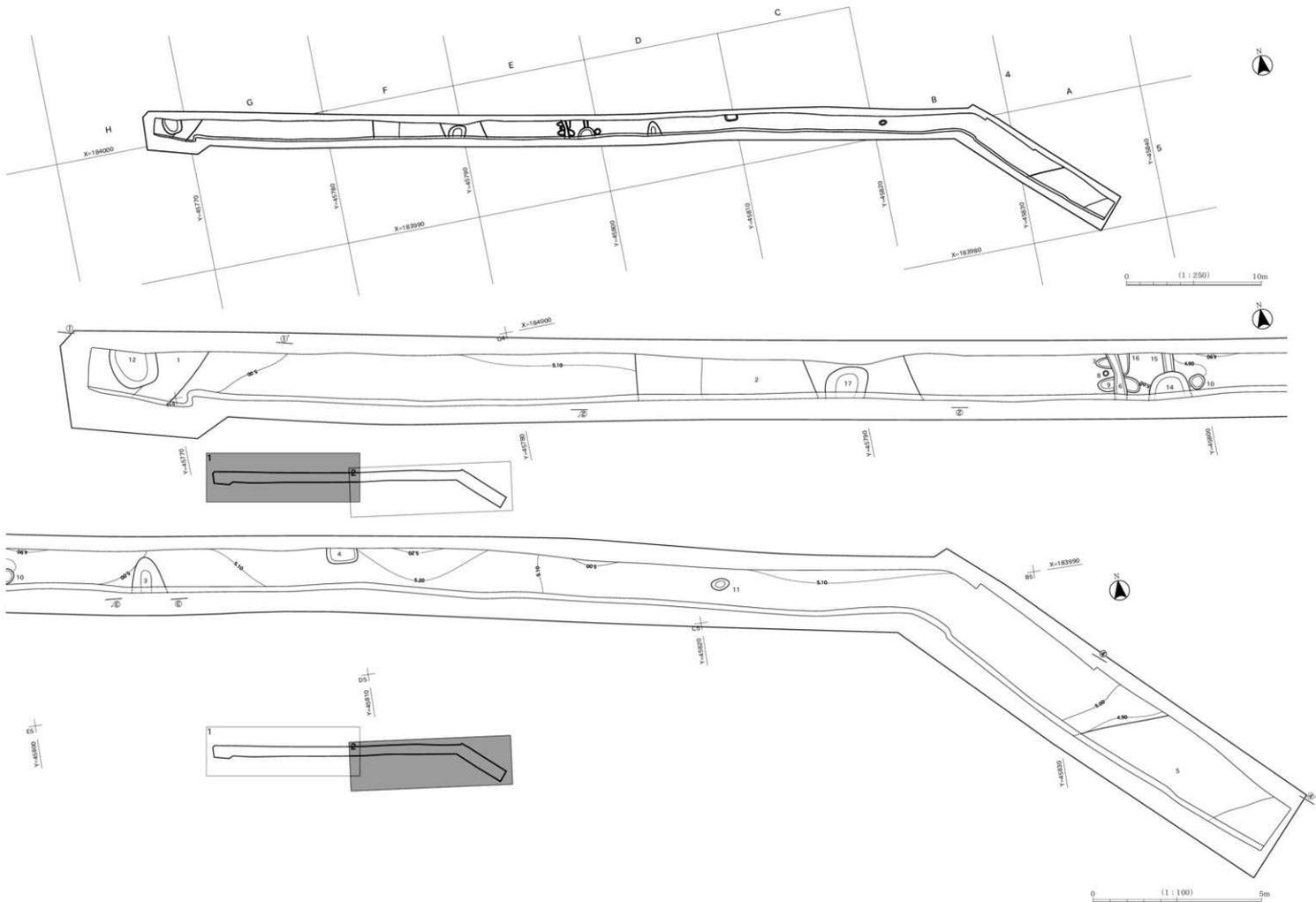
- 河川10
16. 506/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑中へあり
  17. 107/6/1 黒色粘質土、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  18. 512/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  19. 512/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  20. 250/7/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  21. 250/7/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  22. 262/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  23. 262/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  24. 262/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  25. 262/1 黒色粘質土と地山の混合層、土層あり、縦坑中へあり



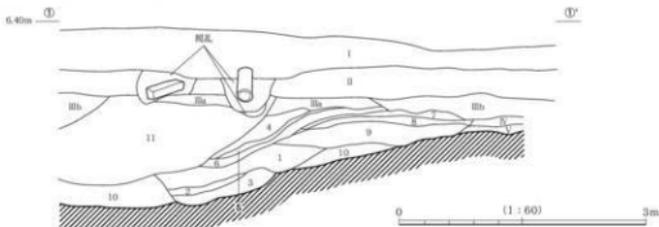
G区 SD21・河川126

- 河川126
1. 307/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  2. 307/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  3. 307/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  4. 307/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  5. 307/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  6. 307/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり

- 河川126
1. 307/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  2. 307/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  3. 307/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり
  4. 307/1 黒色粘質土、土層あり、縦坑跡多量に存在、土層あり、縦坑中へあり



## H区 SK12・河川1



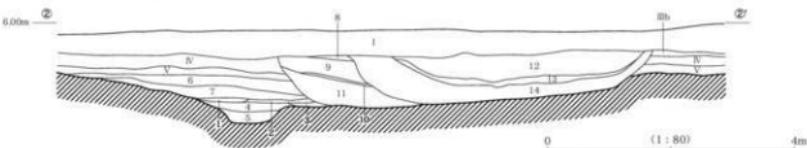
## 基本土層

- I 雑草土・埋瓦  
 II N7/I 灰白色粘質土 砂粒含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 IIIa SB6/I 黄灰色粘質土 凝結物少量含む・しりりややあり 粘粒ややあり  
 IIIb SB6/I 黄灰色粘質土 黄灰色粘質土をブロッツ状に含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 IV N5 灰白色粘質土 黄灰色粘質土を少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 V IOYR4/4 凝結物粘土 埋瓦をブロッツ状に含む・しりりややあり 粘粒ややあり  
 VI N2 黄灰色粘質土と黄灰色粘質土の混合層 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 VII IOYR2/I 黄灰色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 VIII 土質不明  
 IX 土質不明  
 X 土質不明  
 XI 黄灰色粘質土 白色砂、埋瓦をブロッツ状に含む・しりりややあり 粘粒ややあり

## SK12

1. IOYR4/I 黄灰色粘質土 埋瓦を少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 2. IOYR4/2 灰黒色粘質土 黄灰色粘質土を含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 3. IOYR4/I 黄灰色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 埋瓦  
 4. SB4/I 黄灰色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 5. SB4/I 黄灰色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 6. SB6/I 黄灰色粘質土 黄灰色粘質土をブロッツ状に含む・凝結物少量含む 粘粒ややあり  
 7. SB4/I 黄灰色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 8. N5/I 灰白色粘質土 黄灰色粘質土を少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 9. IOYR4/2 灰黒色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 10. IOYR4/2 灰黒色粘質土 凝結物少量含む 埋瓦を含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 11. 2.5Y4/I 黄灰色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり

## H区 SK17・河川2



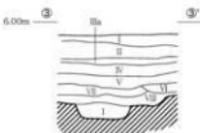
## SK17

1. 2.5Y4/I 黄灰色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 2. IOYR4/2 灰黒色粘質土 凝結物少量含む 埋瓦を含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 3. IOYR4/2 灰黒色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 4. IOYR5/I 黄灰色粘質土 黄灰色粘質土を含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 5. IOYR5/I 黄灰色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり

## RH12

6. 2.5Y4/I 黄灰色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 7. 2.5Y2/I 黄灰色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 8. SB6/I 黄灰色粘質土 黄灰色粘質土をブロッツ状に含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 9. N5/I 灰白色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 10. N5/I 灰白色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 11. IOYR4/2 灰黒色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 12. SB7/I 黄灰色粘質土 黄灰色粘質土をブロッツ状に少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 13. SB3/I 黄灰色粘質土 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり  
 14. IOYR4/I 黄灰色粘質土 埋瓦を少量含む・しりりあり 粘粒ややあり

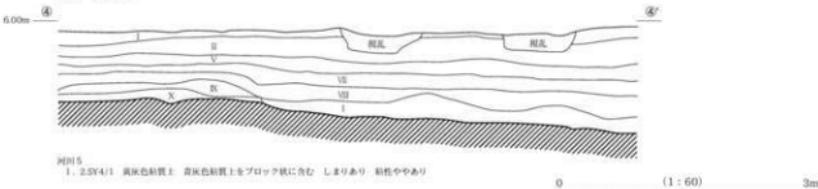
## H区 SD3



## SD3

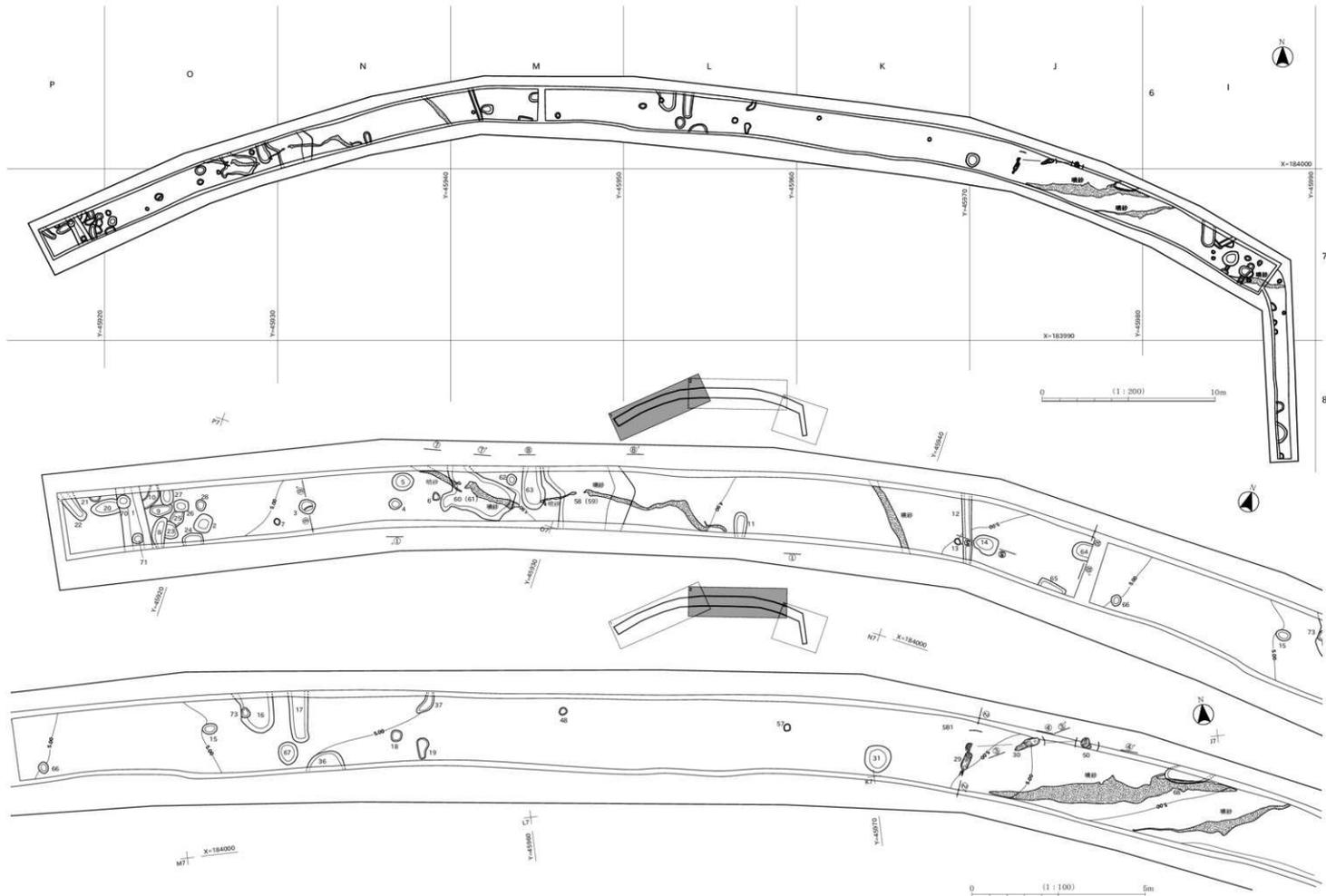
1. 2.5Y4/I 黄灰色粘質土と黄灰色粘質土の混合層 凝結物少量含む・しりりあり 粘粒ややあり

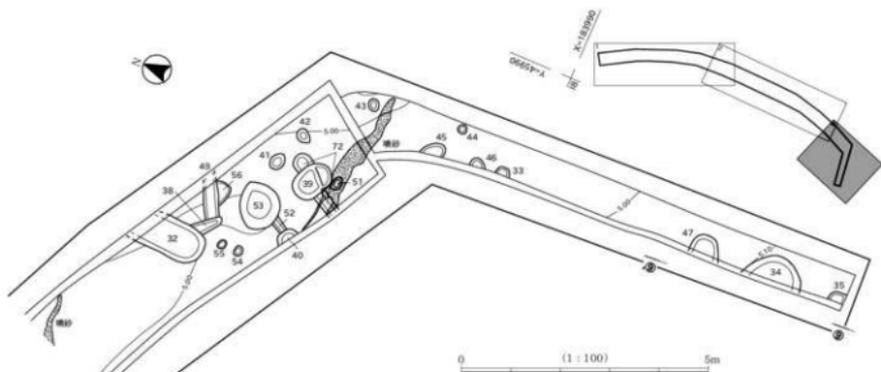
## H区 河川5



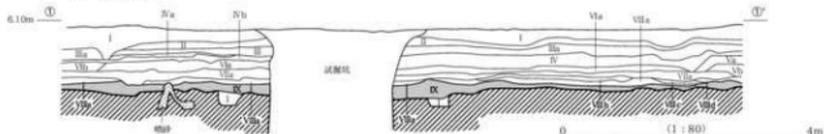
## 河川5

1. 2.5Y4/I 黄灰色粘質土 黄灰色粘質土をブロッツ状に含む・しりりあり 粘粒ややあり





## I区 基本土層

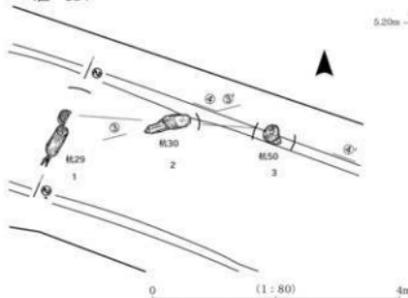


## 基本土層

- I. 耕作土  
 II. 2.5V16/6 褐色粘質土 しまりあり 粘粒中～多あり  
 IIIa. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 しまり中～多あり 粘粒中～多あり  
 IIIb. N4/0 灰黄色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒中～多あり  
 IIIc. 2.5V5/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまりなし 粘粒中～多あり  
 IVa. 2.5V6/2 灰黄色粘質土 しまり中～多あり 粘粒中～多あり  
 IVb. 10YR3/2 暗褐色粘質土 炭化物少量含む しまり中～多あり 粘粒中～多あり  
 Va. 2.5V3/1 黒灰色粘質土 炭化物少量含む しまり中～多あり 粘粒中～多あり  
 Vb. 2.5V4/2 暗灰黄色粘質土 炭化物少量含む しまり中～多あり 粘粒中～多あり  
 VIa. 2.5V3/1 黒褐色粘結物層 しまり中～多あり 粘粒中～多あり  
 VIb. 2.5V4/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまりなし 粘粒中～多あり

- VIIa. 10YR3/4 暗褐色粘質土 しまりなし 粘粒中～多あり  
 VIIb. 2.5V7/1 暗グレー～灰黄色粘土 炭黄褐色炭化物少量含む しまり中～多あり 粘粒中～多あり  
 VIIc. 2.5V6/2 黄灰色粘質土 しまり中～多あり 粘粒中～多あり  
 VIId. 10YR3/4 暗褐色粘質土 炭化物少量含む しまり中～多あり 粘粒中～多あり  
 VIIe. 10YR3/4 暗褐色粘質土 炭化物少量含む しまり中～多あり 粘粒中～多あり  
 VIIf. 10YR3/4 暗褐色粘質土 炭化物少量含む しまり中～多あり 粘粒中～多あり  
 VIII. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒中～多あり (遺物包含層)  
 1. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまり中～多あり 粘粒中～多あり

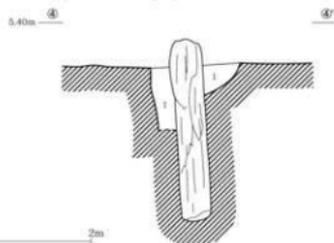
## I区 SB1



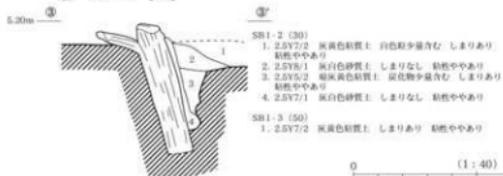
## I区 SB1-1 (29)



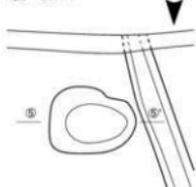
## I区 SB1-3 (50)



## I区 SB1-2 (30)



I区 SK14



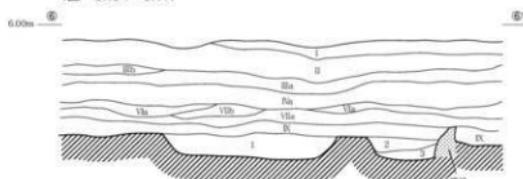
5.20m



SK14

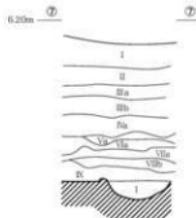
1. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘粒ややあり
2. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 黄灰色粘土ブロック含む しまりややあり 粘粒ややあり
3. 6B6/1 黄灰色粘質土 2層少量含む しまりややあり 粘粒ややあり

I区 SK34・SK47



- 6.00m
- SK34  
1. 5B7/1 明青灰色粘質土 黄灰色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘粒ややあり
- SK47  
2. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 地山ブロック、炭化物含む しまりあり 粘粒ややあり
3. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 地山ブロック、炭化物含む(2層より多い) しまりあり 粘粒ややあり

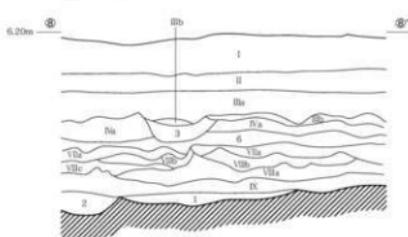
I区 SX60



SX60

1. 2.5V6/2 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘粒ややあり

I区 SD58・SD63



- 6.00m
- SD58  
1. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 地山土を混に含む しまりややあり 粘粒ややあり
- SD63  
2. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘粒ややあり
- 他遺構  
3. 2.9J2/1 黒褐色粘質土 炭化物多量に含む しまりややあり 粘粒ややあり

I区 SP3



5.20m



SP3

1. 5P36/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒ややあり
2. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘粒ややあり
3. 5P36/1 黄灰色粘質土と地山の混合層 しまりあり 粘粒ややあり

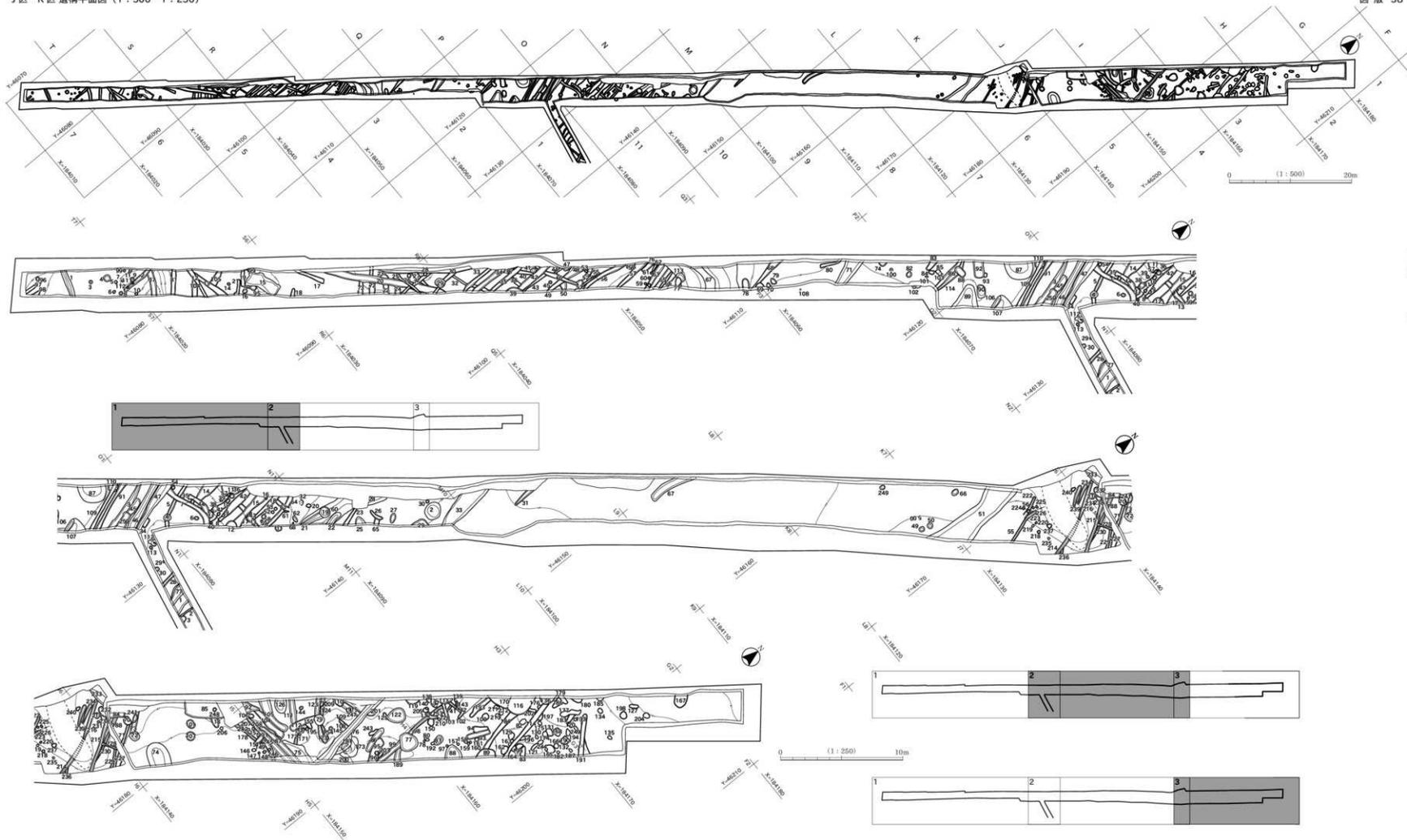
I区 SP64



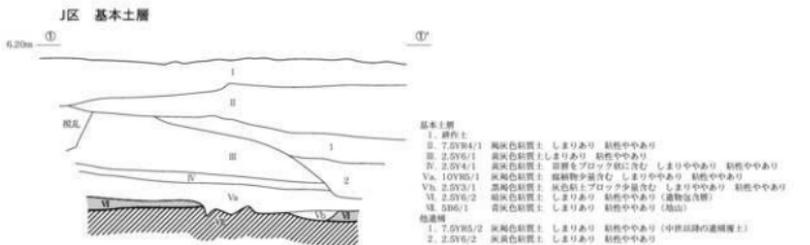
SP64

1. 2.5V6/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘粒ややあり
2. 2.5V3/1 黄灰色粘質土 1層より多い しまりあり 粘粒ややあり
3. 2.5V3/1 黄灰色粘質土 地山をブロック状に含む しまりあり 粘粒ややあり

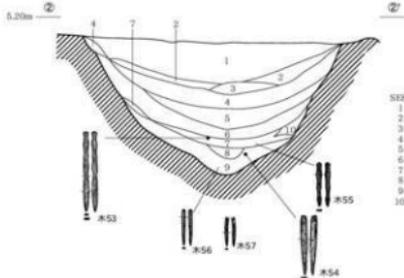
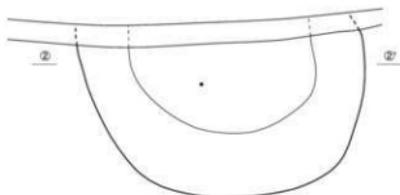
0 (1:40) 2m



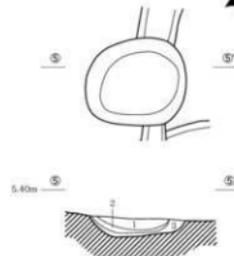




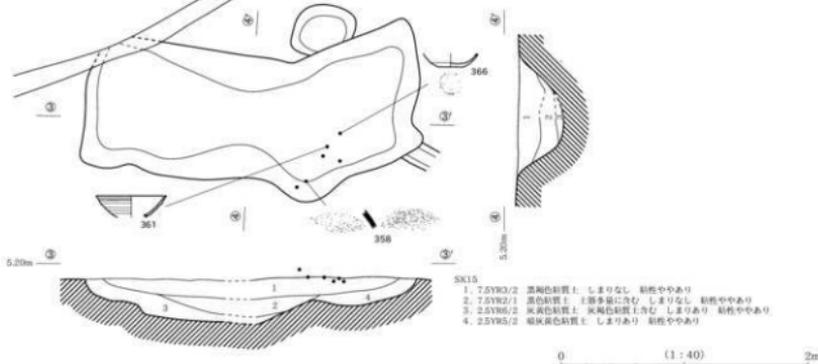
J区 SE87



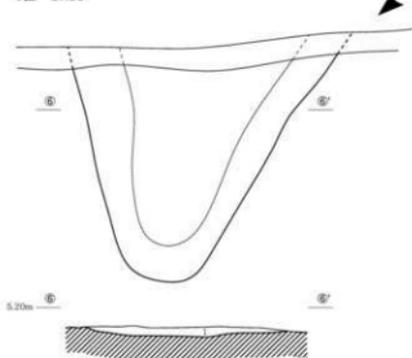
J区 SK29



J区 SK15

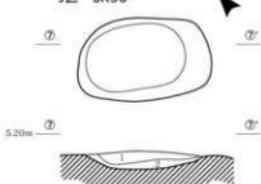


J区 SK89



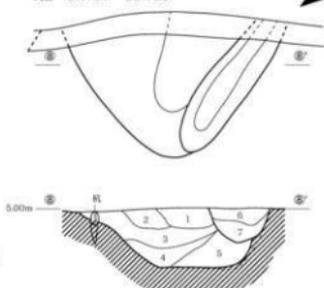
SK89  
1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土：しまりややあり 粘性强やあり

J区 SK90



SK90  
1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土：磁鉄物少量含む：しまりややあり 粘性强やあり  
2. 2.5Y6/1 灰黄色粘質土：しまりあり 粘性强

J区 SK107・SD106



SK107  
1. 2.5YR6/1 灰黄色粘質土：磁鉄物少量含む：しまりなし 粘性强やあり  
2. 2.5YR7/1 灰白色粘質土：しまりあり 粘性强やあり  
3. NS/0 灰粘質土：砂質、しまりあり 粘性强やあり  
4. 5G6/1 緑灰色粘質土と灰黄色粘質土の混合層：しまりややあり 粘性强やあり  
5. 5G5/1 緑灰色粘質土：灰黄色粘質土をブロック状に含む：しまりややあり 粘性强やあり  
SD106  
6. 2.5YR5/1 灰黄色粘質土：磁鉄物少量含む：しまりあり 粘性强やあり  
7. 2.5YR3/1 灰褐色粘質土：灰黄色粘質土：しまりあり 粘性强やあり

J区 SD20



SD20  
1. 2.5Y5/1 灰黄色粘質土：しまりあり 粘性强やあり  
2. 2.5Y4/1 灰黄色粘質土：しまりあり 粘性强やあり  
3. 2.5Y4/1 灰黄色粘質土と黒山の混合層：しまりあり 粘性强やあり

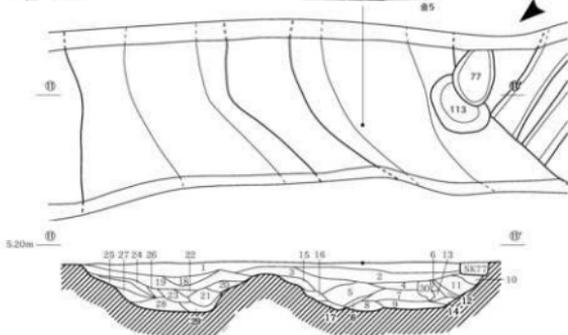
J区 SD34



SD34  
1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土：しまりややあり 粘性强やあり  
2. 2.5Y6/1 灰黄色粘質土：しまりあり 粘性强やあり

0 1:40 2m

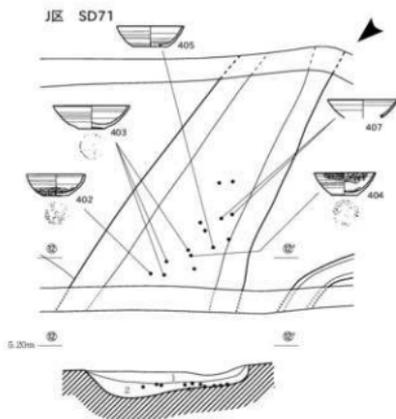
J区 SD67



SD67  
1. NS/0 灰粘質土：磁鉄物少量含む：しまりあり 粘性强やあり  
2. 10YR6/1 灰黄色粘質土：しまりあり 粘性强やあり  
3. 10YR6/1 灰黄色粘質土：木片、磁鉄物少量含む：しまりあり 粘性强やあり  
4. NS/0 磁鉄物粘質土：磁鉄物少量含む：しまりあり 粘性强やあり  
5. 10YR6/1 灰黄色粘質土と灰黄色粘質土の混合層：しまりあり 粘性强やあり  
6. NS/0 磁鉄物粘質土：しまりあり 粘性强やあり  
7. NS/0 磁鉄物粘質土：灰黄色粘質土をブロック状に含む：しまりあり 粘性强やあり  
8. 10YR5/1 灰黄色粘質土：灰黄色粘質土をブロック状に含む：しまりあり 粘性强やあり  
9. 10YR5/1 灰黄色粘質土：磁鉄物少量含む：しまりあり 粘性强やあり  
10. 2.5Y7/1 灰黄色粘質土：灰黄色粘質土をブロック状に含む：しまりややあり 粘性强やあり  
11. 10YR4/2 灰黄色粘質土：磁鉄物少量含む：灰黄色粘質土をブロック状に含む：しまりややあり 粘性强やあり  
12. NS/0 磁鉄物粘質土：しまりややあり 粘性强やあり  
13. 5G6/7/1 暗青灰色粘質土：磁鉄物粘質土をブロック状に含む：しまりややあり 粘性强やあり  
14. NS/0 灰粘質土：黄砂含む：しまりややあり 粘性强やあり  
15. 10YR5/1 灰黄色粘質土：暗青灰色粘質土をブロック状に含む：しまりややあり 粘性强やあり

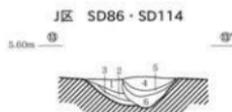
16. 10YR5/2 灰黄色粘質土：磁鉄物少量含む：しまりややあり 粘性强やあり  
17. 10YR5/2 灰黄色粘質土：磁鉄物少量含む：しまりややあり 粘性强やあり  
18. 2.5YR5/2 磁鉄物粘質土：しまりややあり 粘性强やあり  
19. 2.5YR5/2 磁鉄物粘質土：磁鉄物粘質土をブロック状に含む：しまりややあり 粘性强やあり  
20. NS/0 磁鉄物粘質土と暗青灰色粘質土の混合層：しまりややあり 粘性强やあり  
21. NS/0 灰粘質土：磁鉄物少量含む：しまりややあり 粘性强やあり  
22. 2.5Y3/2 灰黄色粘質土：しまりややあり 粘性强やあり  
23. 2.5YR5/2 磁鉄物粘質土と灰黄色粘質土の混合層：しまりややあり 粘性强やあり  
24. NS/0 灰粘質土：しまりややあり 粘性强やあり  
25. 5G6/7/1 暗青灰色粘質土：灰黄色粘質土を含む：しまりややあり 粘性强やあり  
26. 2.5Y6/1 灰黄色粘質土：灰黄色粘質土をブロック状に含む：しまりややあり 粘性强やあり  
27. 2.5Y6/1 灰黄色粘質土：灰黄色粘質土をブロック状に含む：しまりややあり 粘性强やあり  
28. 2.5Y6/1 灰黄色粘質土：しまりややあり 粘性强やあり  
29. NS/0 灰粘質土：灰黄色粘質土をブロック状に含む：しまりややあり 粘性强やあり  
30. 2.5YR5/2 磁鉄物粘質土と黒褐色粘質土の混合層：しまりややあり 粘性强やあり

0 1:60 3m



SD71

- 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 腐植物少量含む しまりや中あり 粘粒や中あり
- 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 遺物多量に含む しまりあり 粘粒や中あり

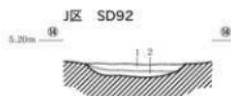


SD86

- 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒や中あり
- 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりなし 粘粒や中あり
- 2.5Y6/2 黄灰色粘質土と灰色粘質土の混合層 しまりあり 粘粒や中あり

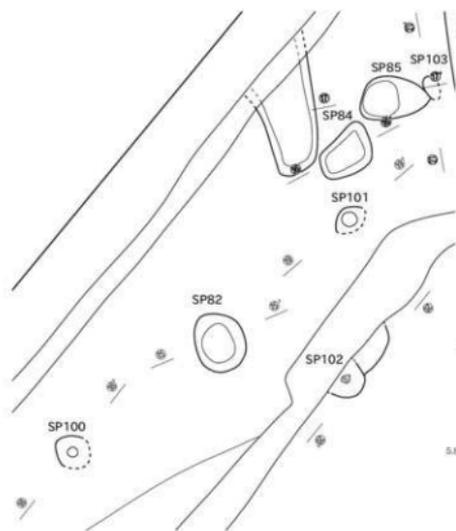
SD114

- 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりあり 粘粒や中あり
- 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりなし 粘粒や中あり
- 2.5Y6/2 黄灰色粘質土と灰色粘質土の混合層 しまりあり 粘粒や中あり



SD92

- 2.5YK3/1 黒褐色粘質土 腐植物少量含む しまりや中あり 粘粒や中あり
- 2.5Y6/1 黄灰色粘質土

**J区 SP82**

5.40m



SP82

- 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒あり

**J区 SP84**

5.40m

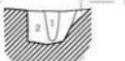


SP84

- 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒あり

**J区 SP85**

5.40m



SP85

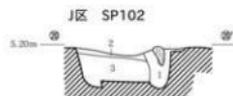
- 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒あり
- 2.5Y4/1 黄灰色粘質土と地山との混合層 しまりあり 粘粒あり
- 2.5Y7/1 灰白色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘粒あり

**J区 SP100**

5.50m

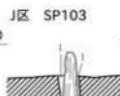
**J区 SP101**

5.80m



SP102

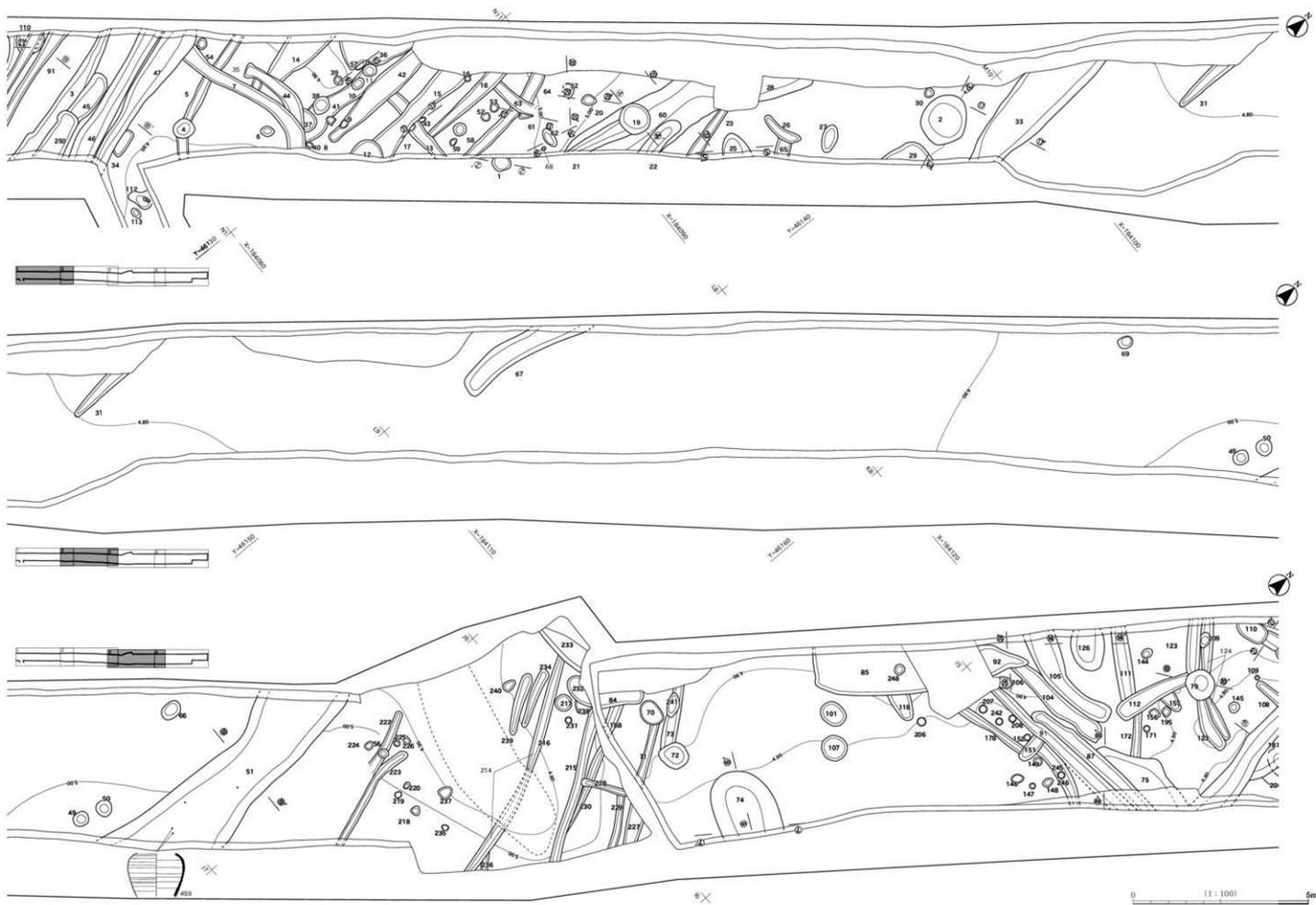
- 2.5Y6/2 黄灰色粘質土 しまりあり 粘粒や中あり
- 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 腐植物多量に含む しまりあり 粘粒や中あり
- 2.5Y7/2 黄灰色粘質土 土器物多量に含む しまりあり 粘粒や中あり



SP103

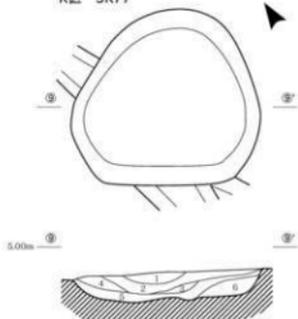
- 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりあり 粘粒あり

0 (1:40) 2m





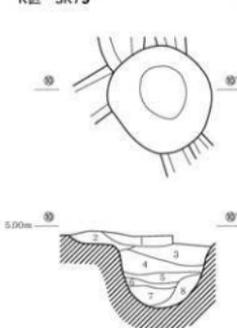
K区 SK77



SK77

1. 2.SV3/1 黒褐色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性强やあり
2. N3/ 黒褐色粘質土 炭化物粘質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性强やあり
3. N6/ 灰白色粘質土 炭化物粘質土を少量含む しまりややあり 粘性强やあり
4. N5/ 灰白色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性强やあり
5. N3/ 黒褐色粘質土 しまりややあり 粘性强やあり
6. SBG7/1 明褐色粘質土 炭化物多量に含む しまりややあり 粘性强やあり

K区 SK79

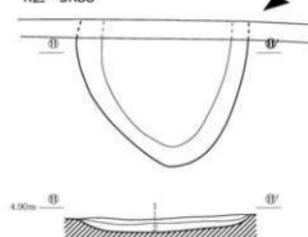


SK79

1. 10YR4/1 黒褐色粘質土 黄灰色粘質土を含む しまりややあり 粘性强やあり
2. 10YR2/1 黒色粘質土 炭化物多量に含む しまりややあり 粘性强やあり
3. N3/ 黒褐色粘質土 炭化物、地山ブロックを含む しまりややあり 粘性强やあり
4. 2.SV3/1 黒褐色粘質土 炭化物、地山ブロックを含む しまりややあり 粘性强やあり
5. 2.SV3/1 黒褐色粘質土 4層に同じだが、地山ブロック大きい しまりややあり 粘性强やあり
6. 10YR2/1 炭化物、しまりややあり 粘性强やあり
7. 2.SV4/1 黄灰色粘質土 炭化物、地山ブロックを含む しまりややあり 粘性强やあり
8. SB7/1 明褐色粘質土 黄灰色粘質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性强やあり

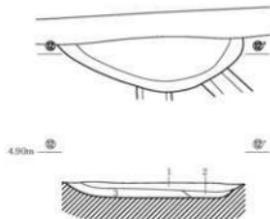
K区 SK113

K区 SK88



SK88

1. N3/ 黒褐色粘質土 しまりややあり 粘性强やあり
2. SBG7/1 明褐色粘質土 炭化物、炭色粘質土を含む しまりややあり 粘性强やあり

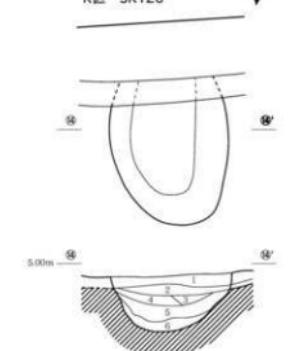


SK113

1. 2.SV4/1 黄灰色粘質土 灰黒褐色粘質土少量含む しまりあり 粘性强やあり
2. 2.SV4/1 黄灰色粘質土 地山ブロック状に含む しまりあり 粘性强やあり
3. SBG7/1 明褐色粘質土 炭色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性强やあり

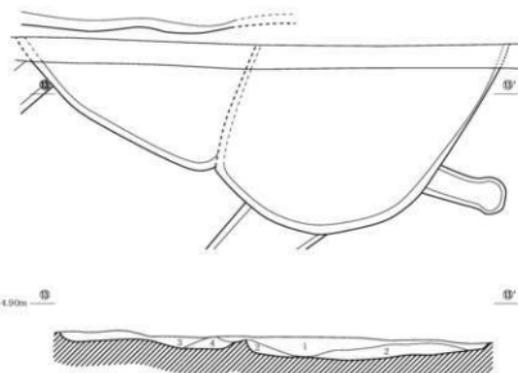
K区 SK116・SK170

K区 SK126



SK126

1. 2.SV4/2 黄褐色粘質土 炭色粘質土、黒色土を含む しまりあり 粘性强
2. 2.SV6/1 黄褐色粘質土 しまりあり 粘性强
3. 2.SV4/2 紅褐色粘質土 しまりあり 粘性强
4. 2.SV4/2 紅褐色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性强
5. 2.SV7/2 黄褐色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性强
6. 2.SV5/1 黄褐色粘質土 しまりあり 粘性强



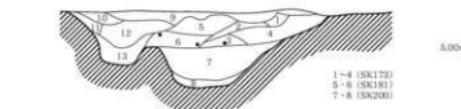
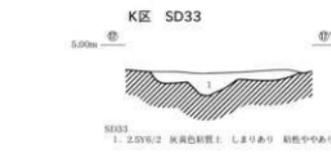
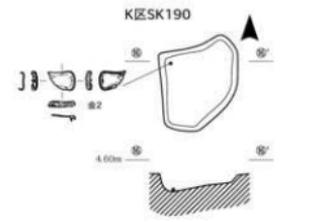
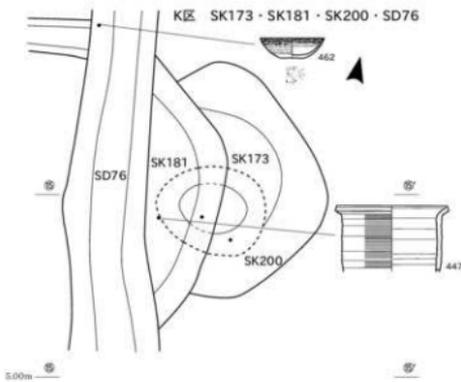
SK116

1. 10YR4/2 灰黒褐色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性强やあり
2. SBG7/1 明褐色粘質土と炭色粘質土の混合層 しまりあり 粘性强やあり

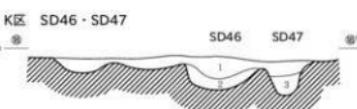
SK170

3. N6/ 炭色粘質土 灰黒褐色粘質土を含む しまりあり 粘性强やあり
4. SBG7/1 明褐色粘質土と炭色粘質土の混合層 しまりあり 粘性强やあり

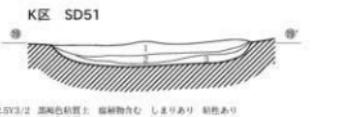
0 (1:40) 2m



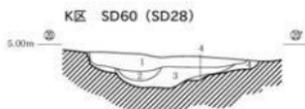
- SK173**  
 1. 2.5V3/1 濃褐色粘質土、黄灰色粘質土多量に含む、しまり中やあり 粘粒中やあり  
 2. 2.5V2/1 黄灰色粘質土、地山ブロック多量に含む、しまり中やあり 粘粒中やあり  
 3. N6/ 灰色粘質土と地山の混合層、しまりあり 粘粒あり  
 4. 2.5V5/1 黄灰色粘質土、灰化物少量含む、しまり中やあり 粘粒中やあり
- SK181**  
 5. N3/ 褐色粘質土、灰化物少量含む、しまりあり 粘粒中やあり  
 6. N6/ 褐色粘質土と地山の混合層、しまり中やあり 粘粒中やあり
- SK200**  
 7. N3/ 褐色粘質土、地山多量に含む、しまり中やあり 粘粒中やあり  
 8. 10YR5/2 灰褐色粘質土、しまり中やあり 粘粒中やあり
- SD76**  
 9. 2.5V3/1 濃褐色粘質土、灰化物多量に含む、しまり中やあり 粘粒中やあり  
 10. N3/ 褐色粘質土、しまりあり 粘粒中やあり  
 11. 5B7/1 明褐色粘質土、褐色粘質土を含む、しまりあり 粘粒中やあり  
 12. 2.5V4/1 黄灰色粘質土、灰化物少量含む、褐色粘質土少量含む、しまりあり 粘粒中やあり  
 13. N6/ 灰色粘質土、灰化物少量含む、褐色粘質土多量に含む、しまりあり 粘粒中やあり



- SD46・SD47**  
 1. 2.5V4/1 黄灰色粘質土、しまりあり 粘粒あり  
 2. 2.5V2/2 黄灰色粘質土、しまりなし、粘粒なし (SD46層上)  
 3. 2.5V6/2 黄灰色粘質土、しまりあり 粘粒あり (SD47層上)



- SD51**  
 1. 2.5V3/2 濃褐色粘質土、腐植物含む、しまりあり 粘粒あり  
 2. 2.5V6/1 黄灰色粘質土、しまりあり 粘粒あり  
 3. 2.5V7/2 黄灰色粘質土、灰粘質土ブロック少量含む、しまりあり 粘粒あり



- SD60**  
 1. 2.5V5/2 黄褐色粘質土、しまりあり 粘粒あり  
 2. 5B5/1 黄褐色粘質土、しまり中やあり 粘粒なし  
 3. 2.5V2/2 黄褐色粘質土、しまりあり 粘粒あり  
 4. 2.5V6/1 黄灰色粘質土、しまりなし、粘粒なし



- SD76**  
 1. 2.5V3/1 濃褐色粘質土、灰化物多量に含む、しまり中やあり 粘粒中やあり  
 2. N3/ 褐色粘質土、しまりあり 粘粒中やあり  
 3. 5B7/1 明褐色粘質土、褐色粘質土含む、しまりあり 粘粒中やあり  
 4. 2.5V4/1 黄灰色粘質土、灰化物多量に含む、褐色粘質土ブロック少量含む、しまりあり 粘粒中やあり  
 5. 5B7/1 明褐色粘質土、3層に同じだが褐色粘質土をより多く含む、しまりあり 粘粒中やあり  
 6. 2.5V4/1 黄灰色粘質土、しまりあり 粘粒中やあり  
 7. 2.5V4/1 黄灰色粘質土、地山ブロック含む、しまりあり 粘粒中やあり  
 8. 2.5V4/1 黄灰色粘質土、灰化物少量含む、しまりあり 粘粒中やあり



- SD90**  
 1. 2.5V4/1 黄灰色粘質土、しまりあり 粘粒中やあり  
 2. 5B7/1 明褐色粘質土、黄褐色粘質土をブロック状に含む、しまりあり 粘粒中やあり



- SD92**  
 1. 2.5V4/1 黄灰色粘質土、灰化物少量含む、しまりあり 粘粒中やあり  
 2. 5B7/1 明褐色粘質土、黄褐色粘質土をブロック状に含む、しまりあり 粘粒中やあり



- SD98**  
 1. 2.5V4/1 黄灰色粘質土、しまりあり 粘粒中やあり  
 2. 5B7/1 明褐色粘質土、黄褐色粘質土をブロック状に含む、しまりあり 粘粒中やあり



- SD114**  
 1. 2.5V4/1 黄灰色粘質土、灰化物少量含む、しまりあり 粘粒中やあり



- SD115**  
 1. 2.5V4/1 黄灰色粘質土、地山ブロック含む、しまりあり 粘粒中やあり  
 2. 5B7/1 明褐色粘質土、黄褐色粘質土をブロック状に含む、しまりあり 粘粒中やあり



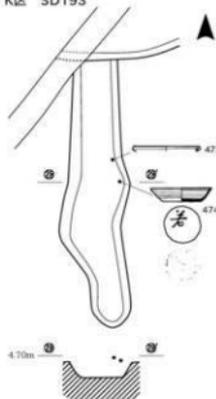
- SD114**  
 1. 2.5V4/1 黄灰色粘質土、灰化物少量含む、しまりあり 粘粒中やあり



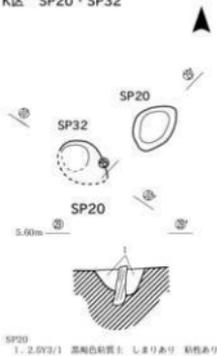
- SD115**  
 1. 2.5V4/1 黄灰色粘質土、地山ブロック含む、しまりあり 粘粒中やあり  
 2. 5B7/1 明褐色粘質土、黄褐色粘質土をブロック状に含む、しまりあり 粘粒中やあり



K区 SD193



K区 SP20・SP32



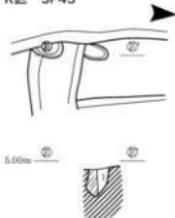
SP32



SP32  
1. 2.5Y3/1 黄褐色粘質土、しまりあり 粘粒あり

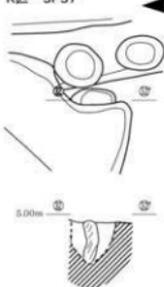
SP20  
1. 2.5Y3/1 黄褐色粘質土、しまりあり 粘粒あり

K区 SP43

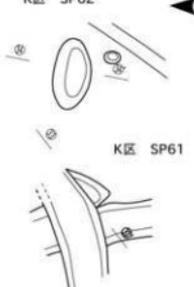


SP43  
1. 2.5Y3/1 黄褐色粘質土、しまりあり 粘粒あり

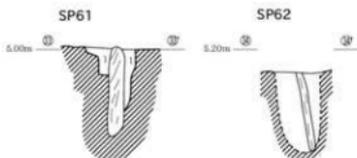
K区 SP57



K区 SP62

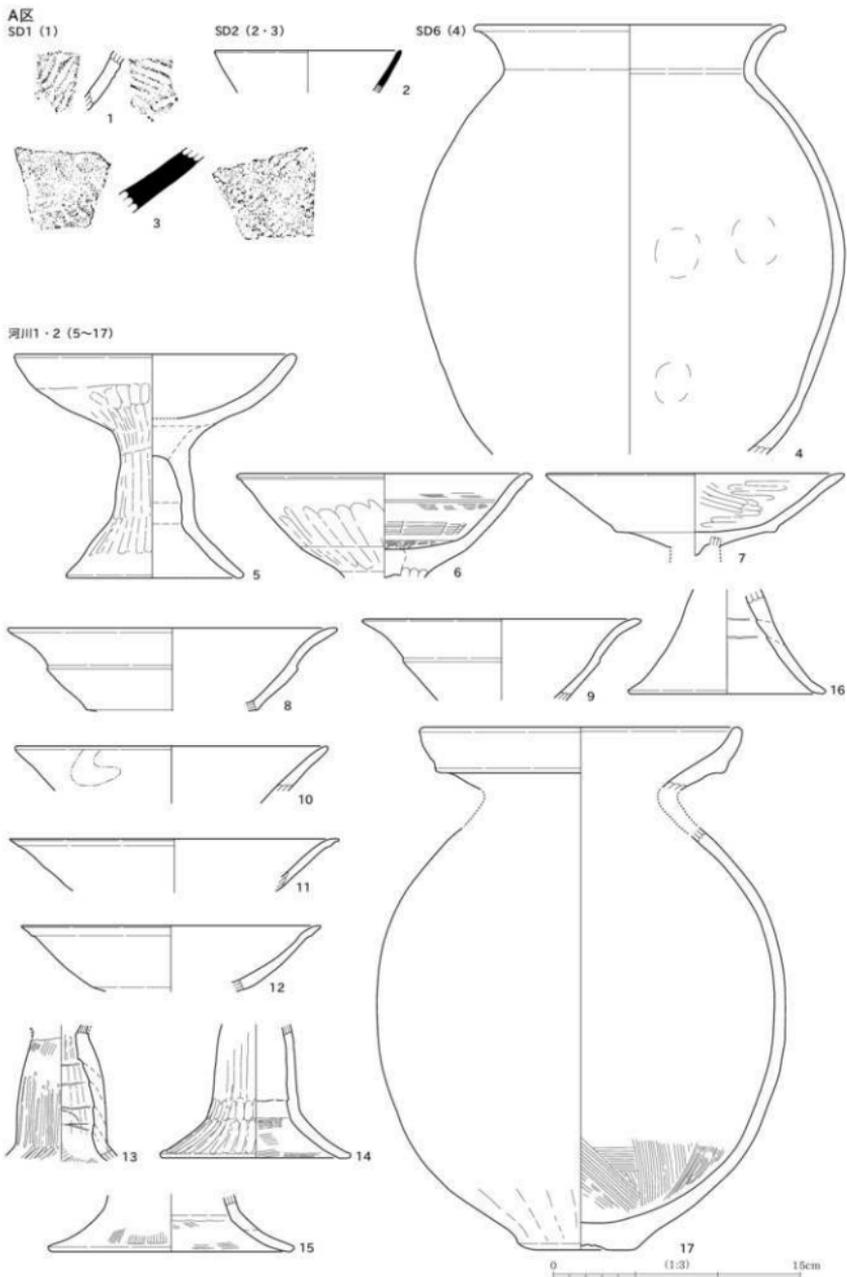


K区 SP61



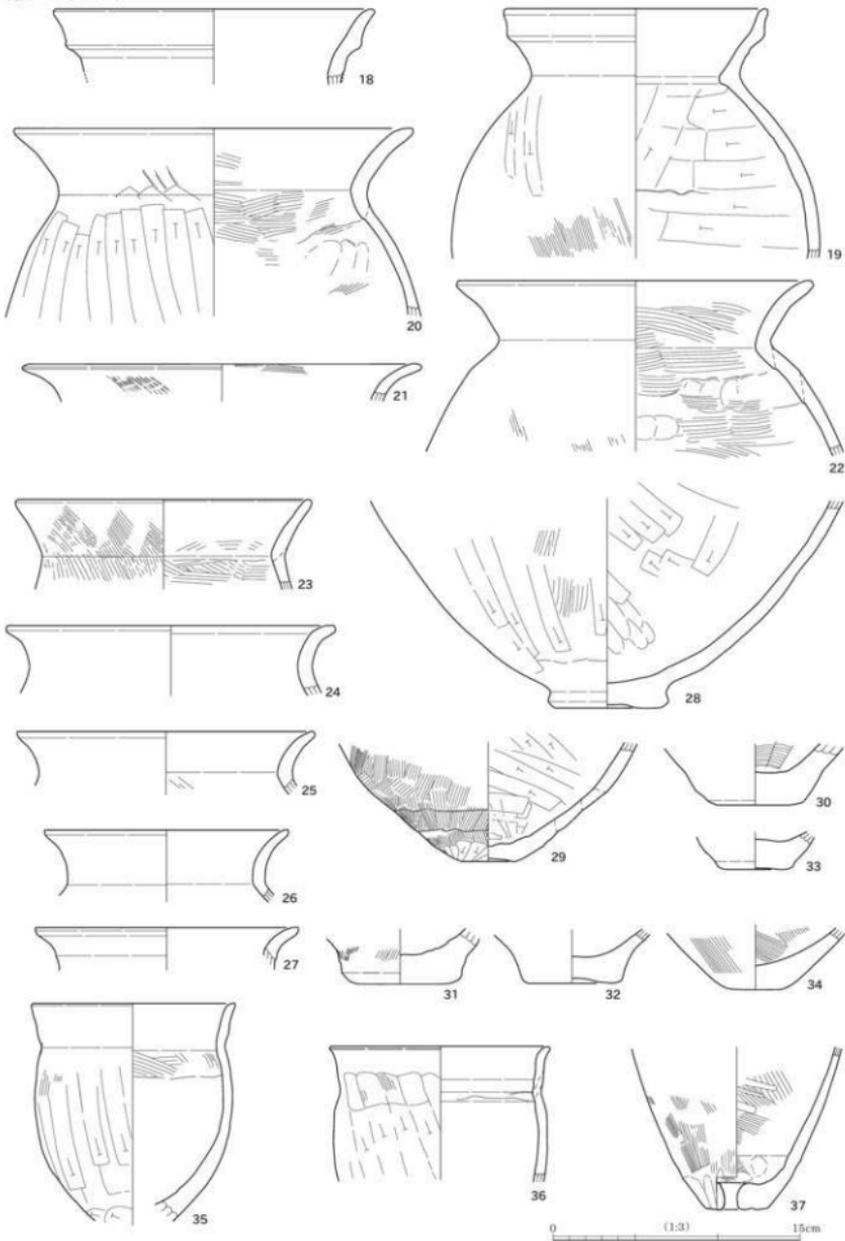
SP61  
1. 2.5Y3/1 黄褐色粘質土、しまりあり 粘粒あり

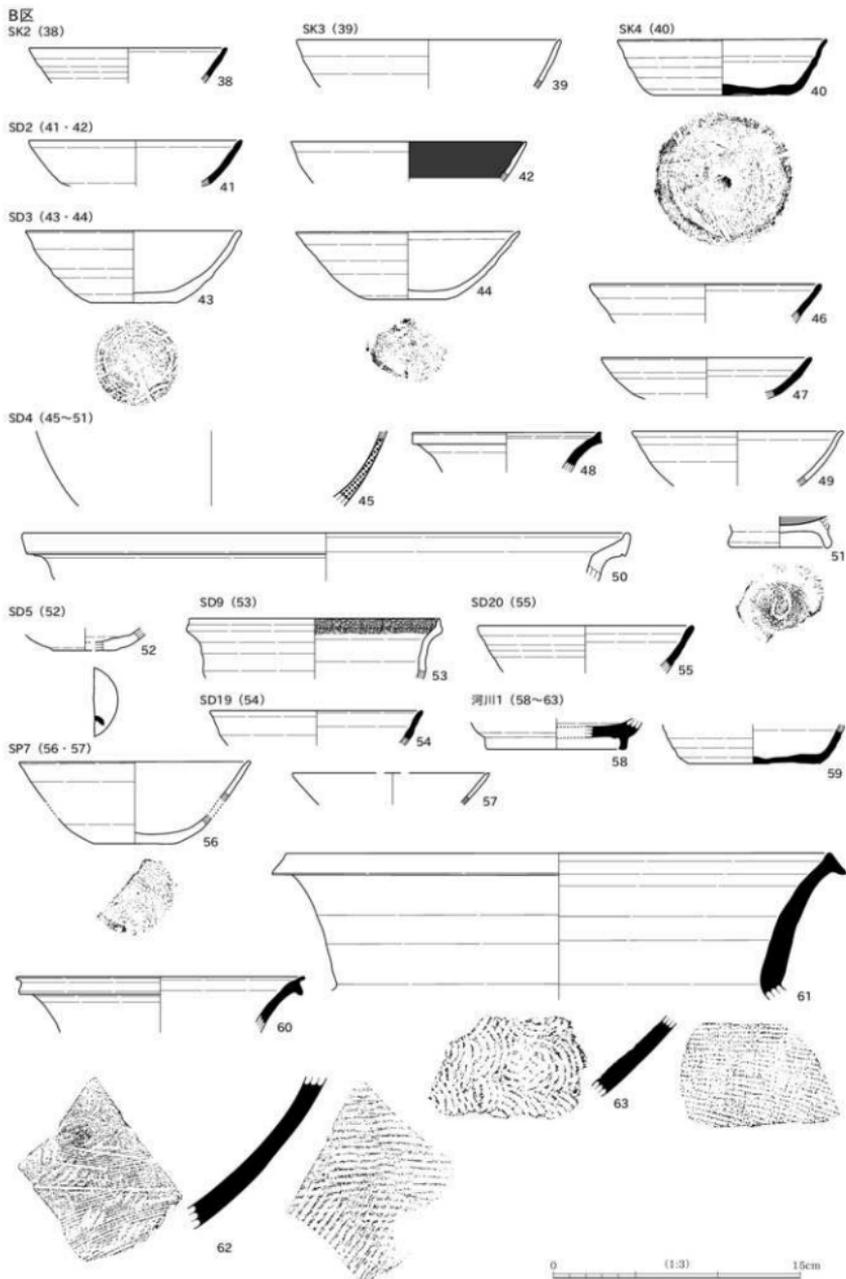
0 (1:40) 2m



A区

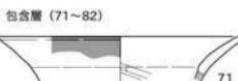
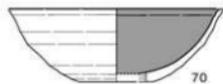
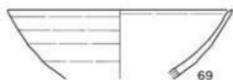
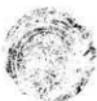
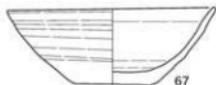
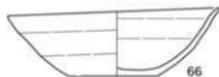
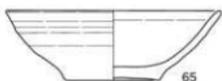
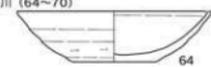
河川1・2 (18~37)



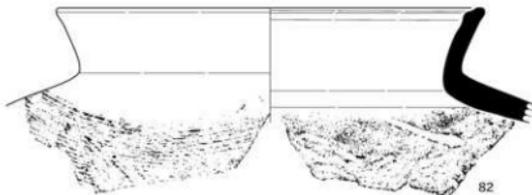
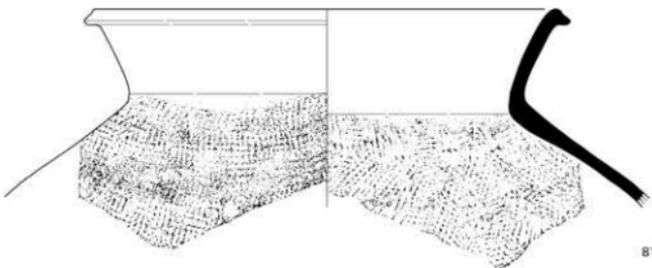
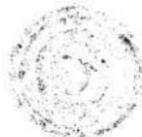
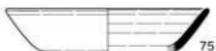


B区

河川 (64~70)

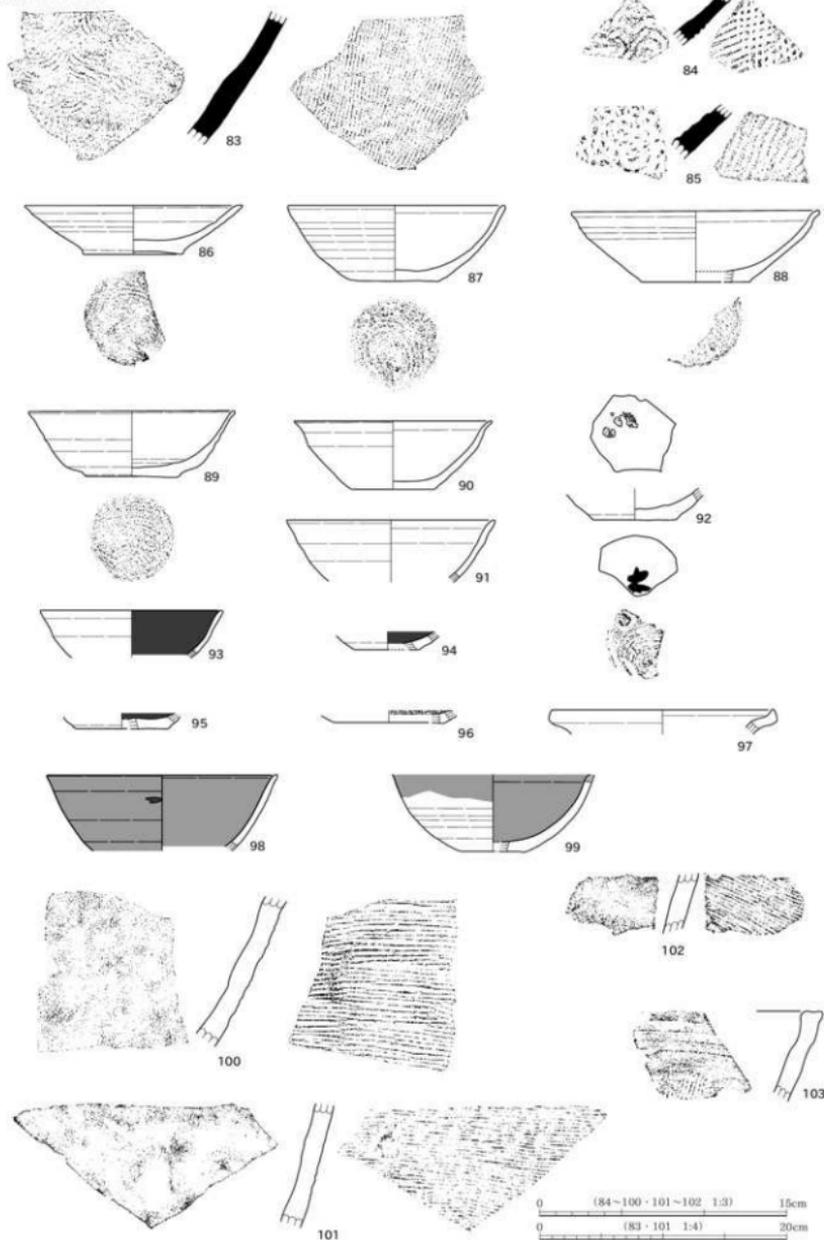


包含層 (71~82)



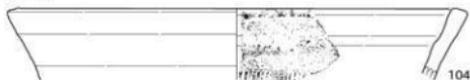
0 (64~79・81・82 1:3) 15cm  
0 (80 1:4) 20cm

B区  
包含層 (83~103)

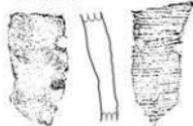


## C区 (2005年) 上層

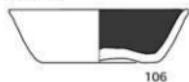
SE1 (104)



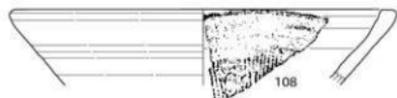
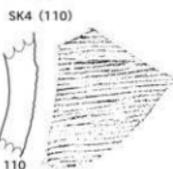
SE2 (105)



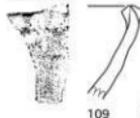
SE5 (106)



SE7 (107·108)



SK2 (109)



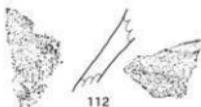
河川1 (114·115)



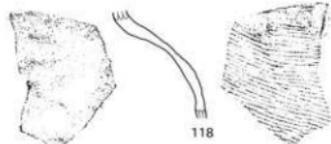
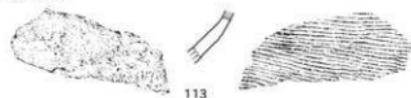
SX1 (111)



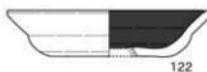
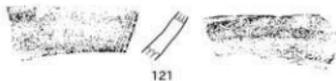
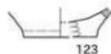
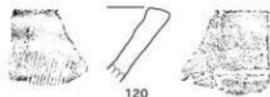
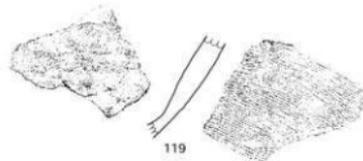
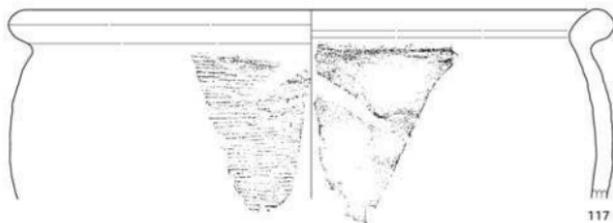
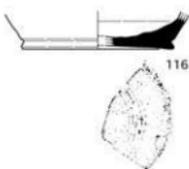
SD4 (112)



SD6 (113)

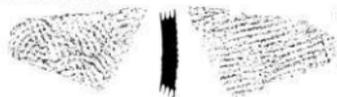


包含層 (116~123)



(104~106·109~112·114~116·120~123 1:3)  
0 15cm  
(107·108·113·117~119 1:4) 20cm

C区 (2005年) 下層  
SE7 (124・125)



124



125



128

SK1 (126~128)



126



127

SK3 (129)



129



SK8 (130)

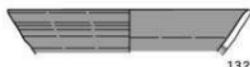


130

SD19 (131 - 132)

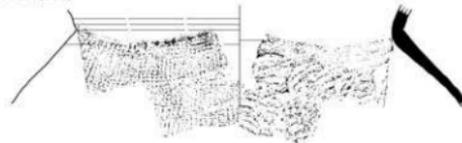


131



132

SD20 (133)



133

SD22 (137 - 138)

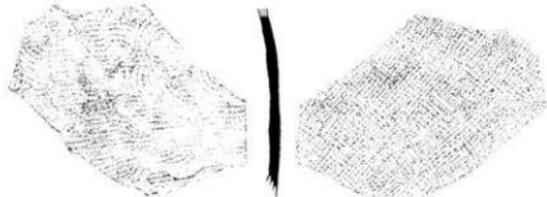


137



138

SD21 (134~136)



134

SD24 (139~143)



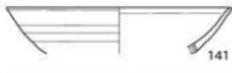
139



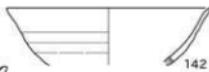
140



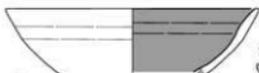
135



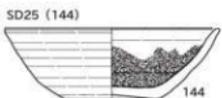
141



142



143

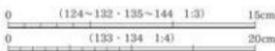


144

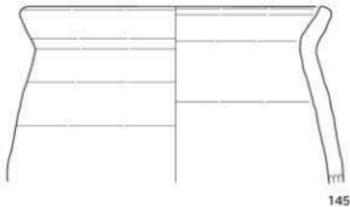
SD25 (144)



136

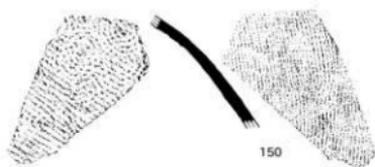


C区(2005年)下層  
SD37 (145)



145

SD63 (150)



150

SD44 (149)

SD41 (146~148)



146

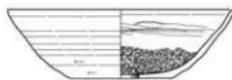


149

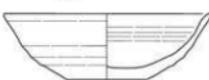
SD64 (151)



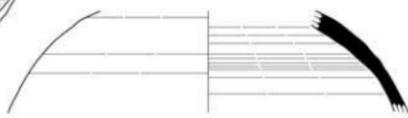
151



147



148



154

遺構間接合 (152~162)



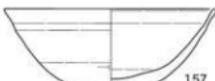
152



153



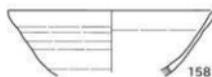
156



157



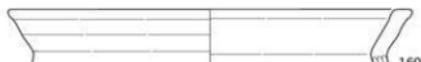
155



158



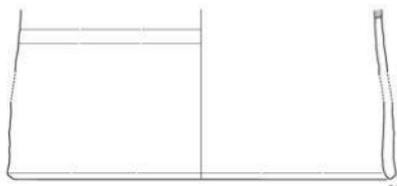
159



160



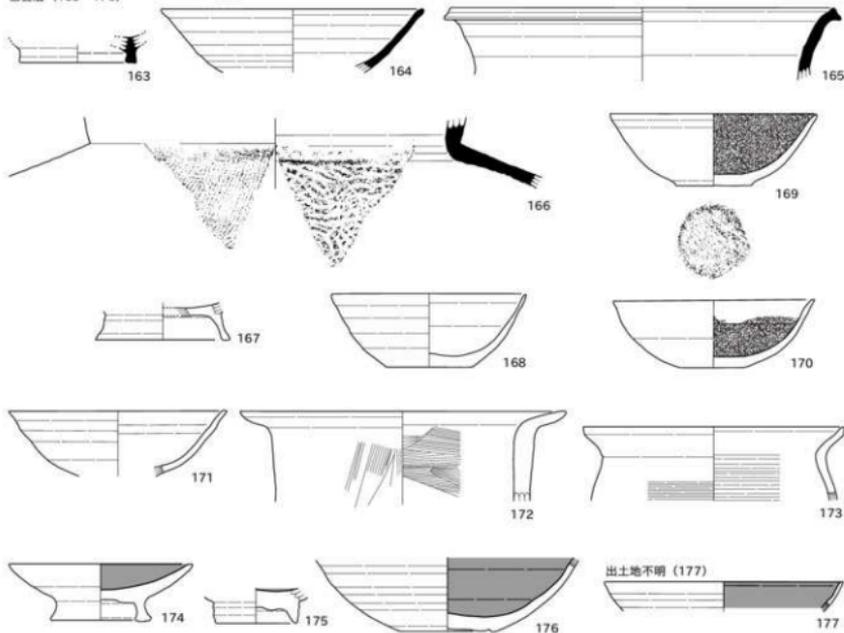
161



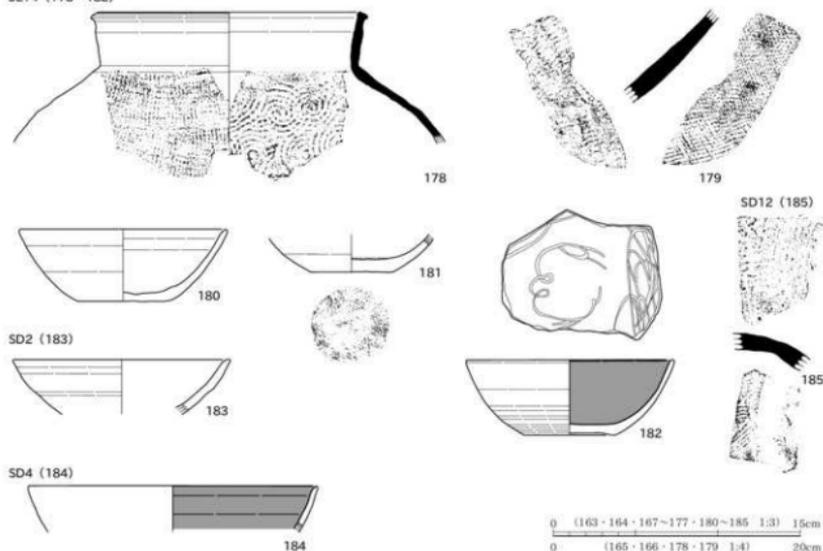
162

0 (145・147~149・151~162 1:3) 15cm  
0 (146・150 1:4) 20cm

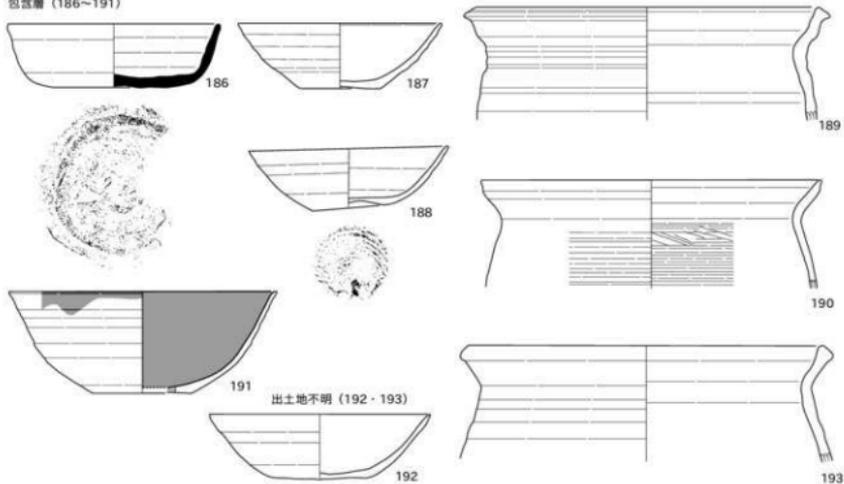
C区(2005年)下層  
包含層(163~176)



C区(2006年)下層  
SE14(178~182)



0 (163・164・167~177・180~185 1:3) 15cm  
0 (165・166・178・179 1:4) 20cm

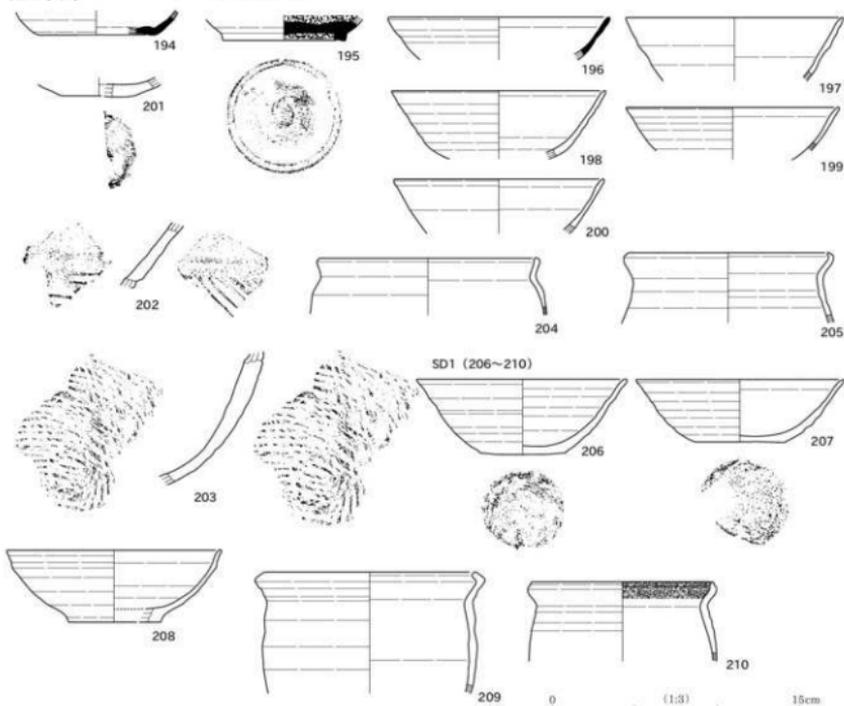
C区(2006年)下層  
包含層(186~191)

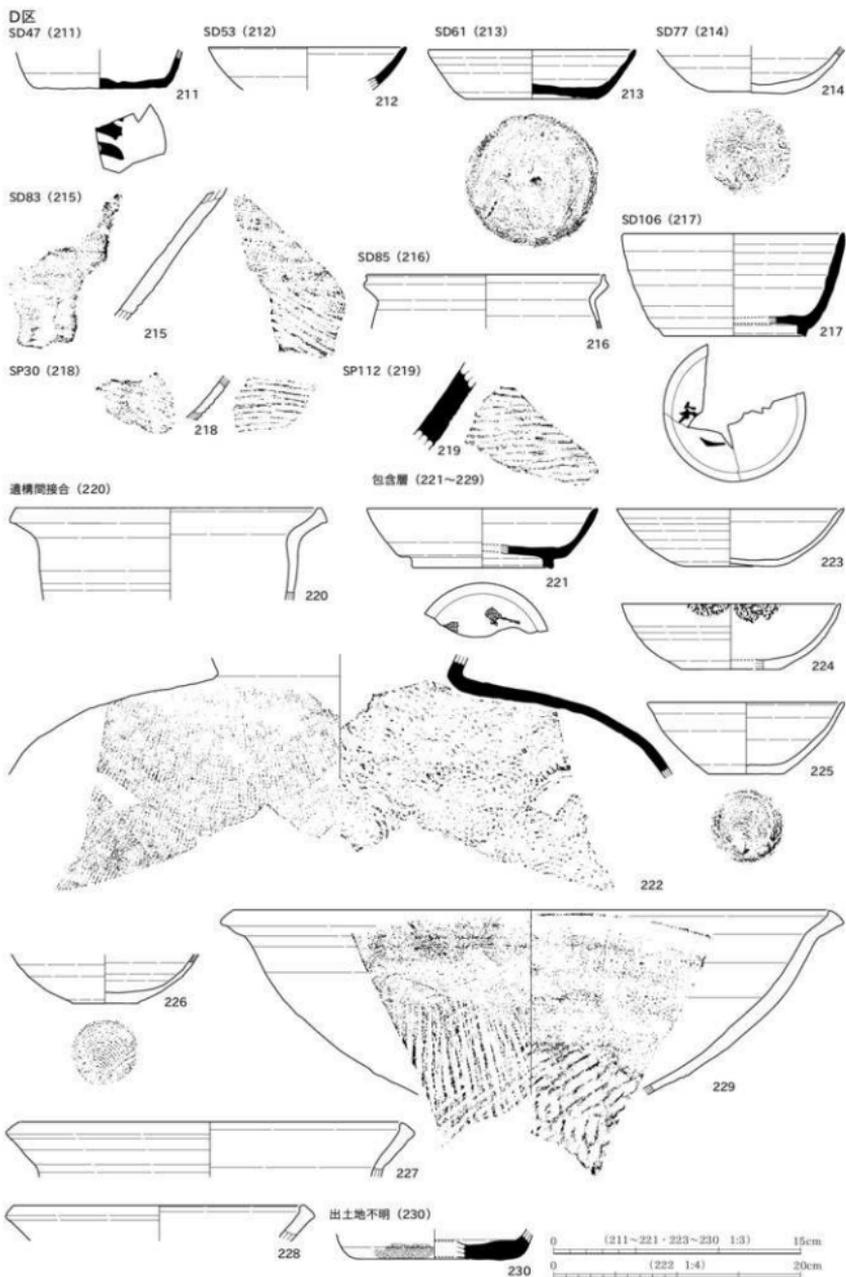
## D区

SK11 (194)

SK80 (195~205)

SD1 (206~210)



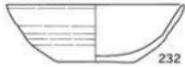


E区下層

SD1 (231)



SD2 (232)



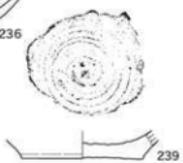
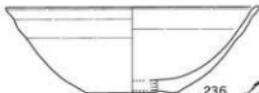
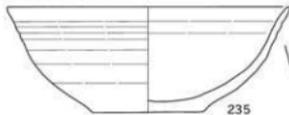
SD7 (233)



SD11 (234)



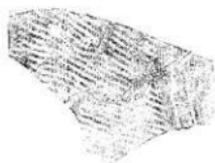
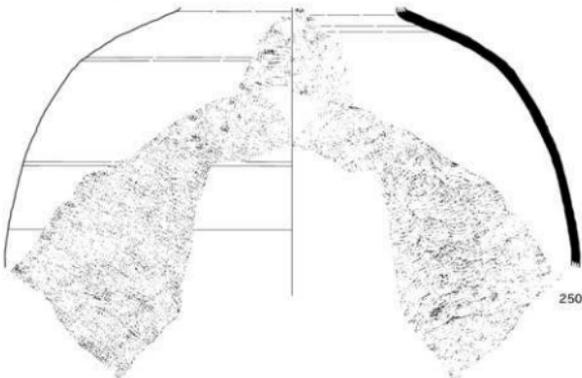
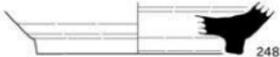
SD18 (235~239)



包含層 (242~250)

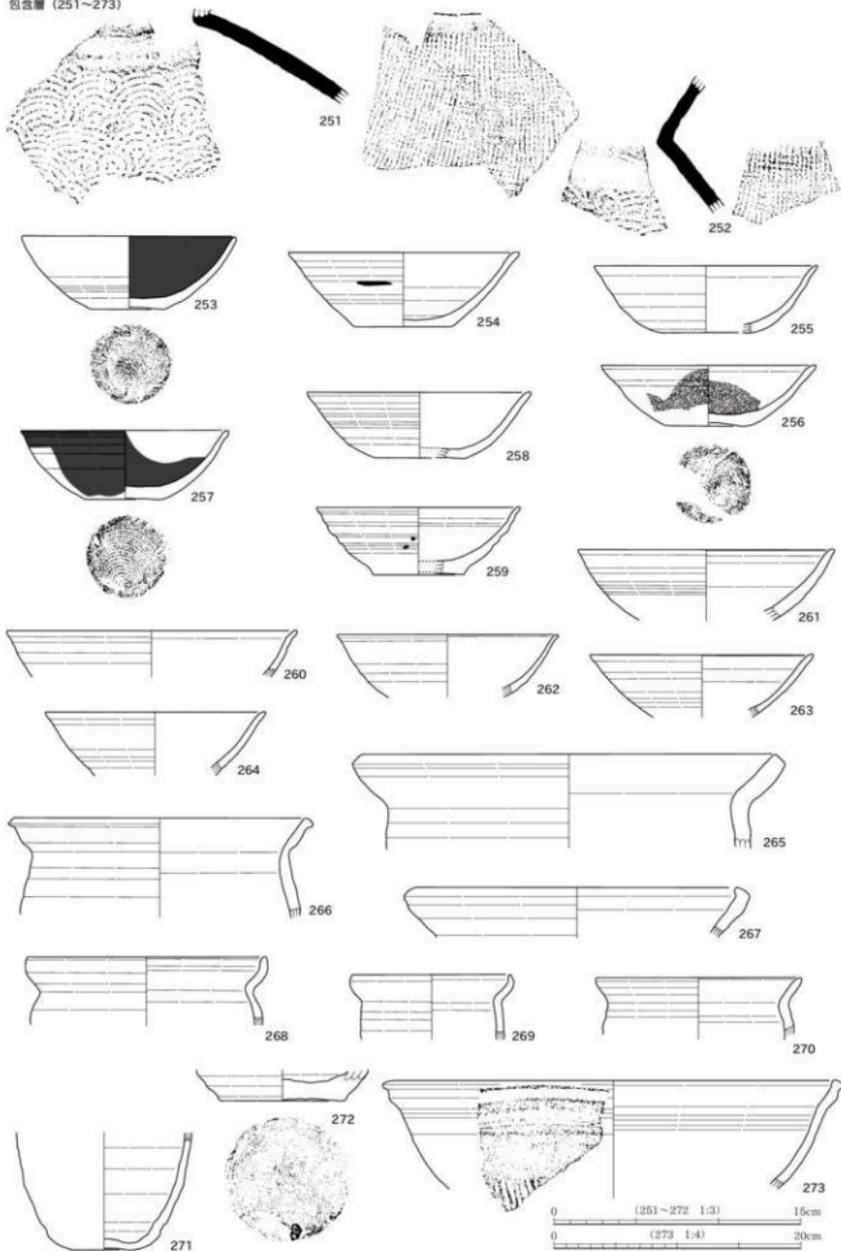


河川23 (240~241)



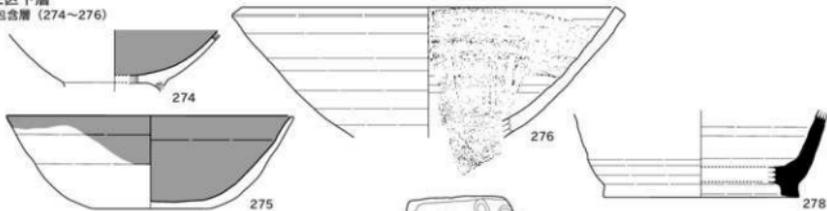
0 (231~249 1:3) 15cm

0 (250 1:6) 30cm

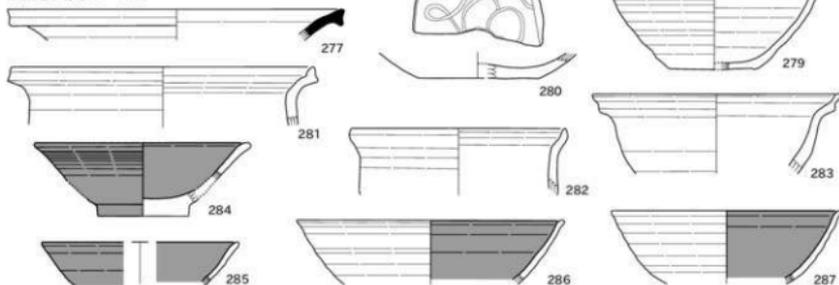
E区下層  
包盒蓋 (251~273)

E区下層

包含層 (274~276)



出土地不明 (277~287)

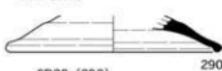


F区

SD1 (288)



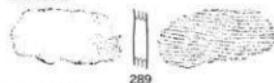
SD5 (290)



SD9 (291)



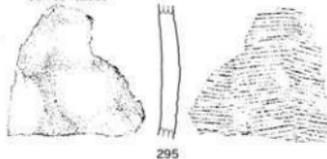
SD3 (289)



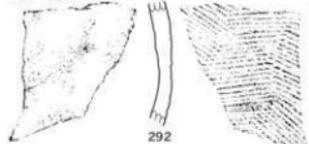
SD30 (293)



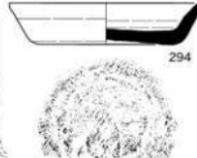
SD109 (295)



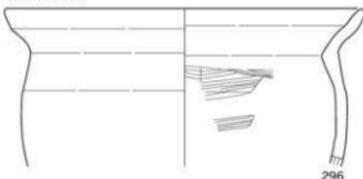
SD14 (292)



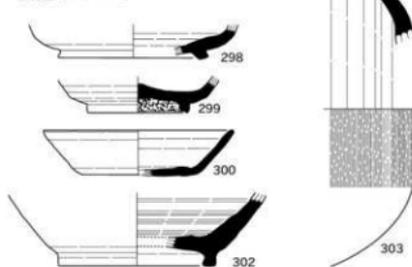
SD74 (294)



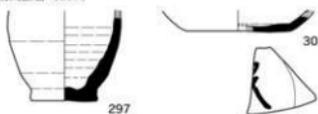
河川20 (296)



包含層 (298~303)

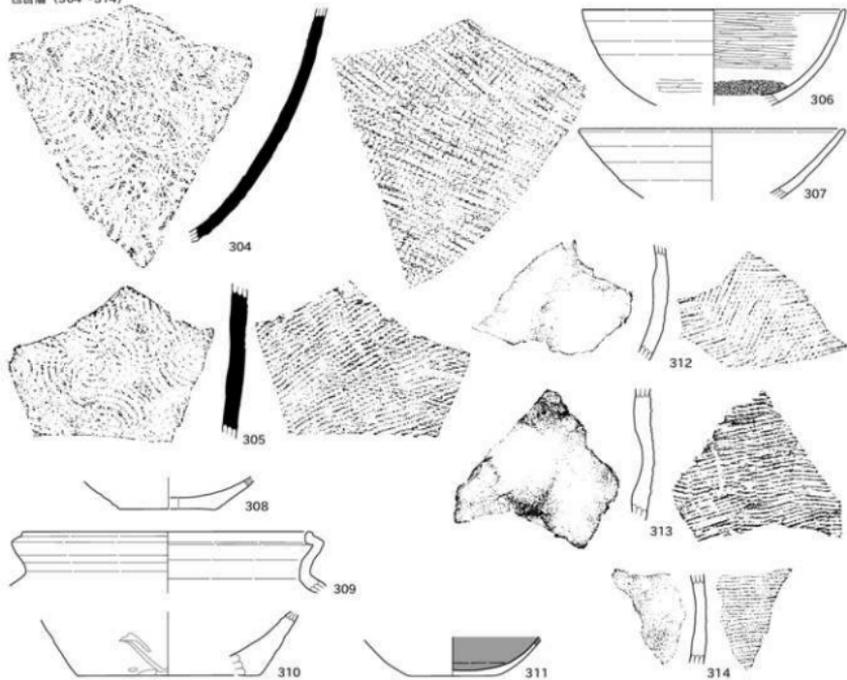


遺構間接合 (297)

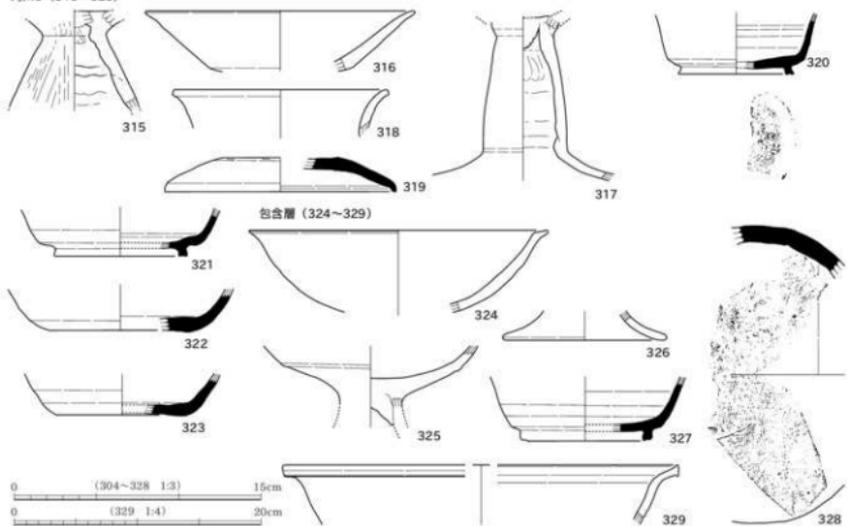


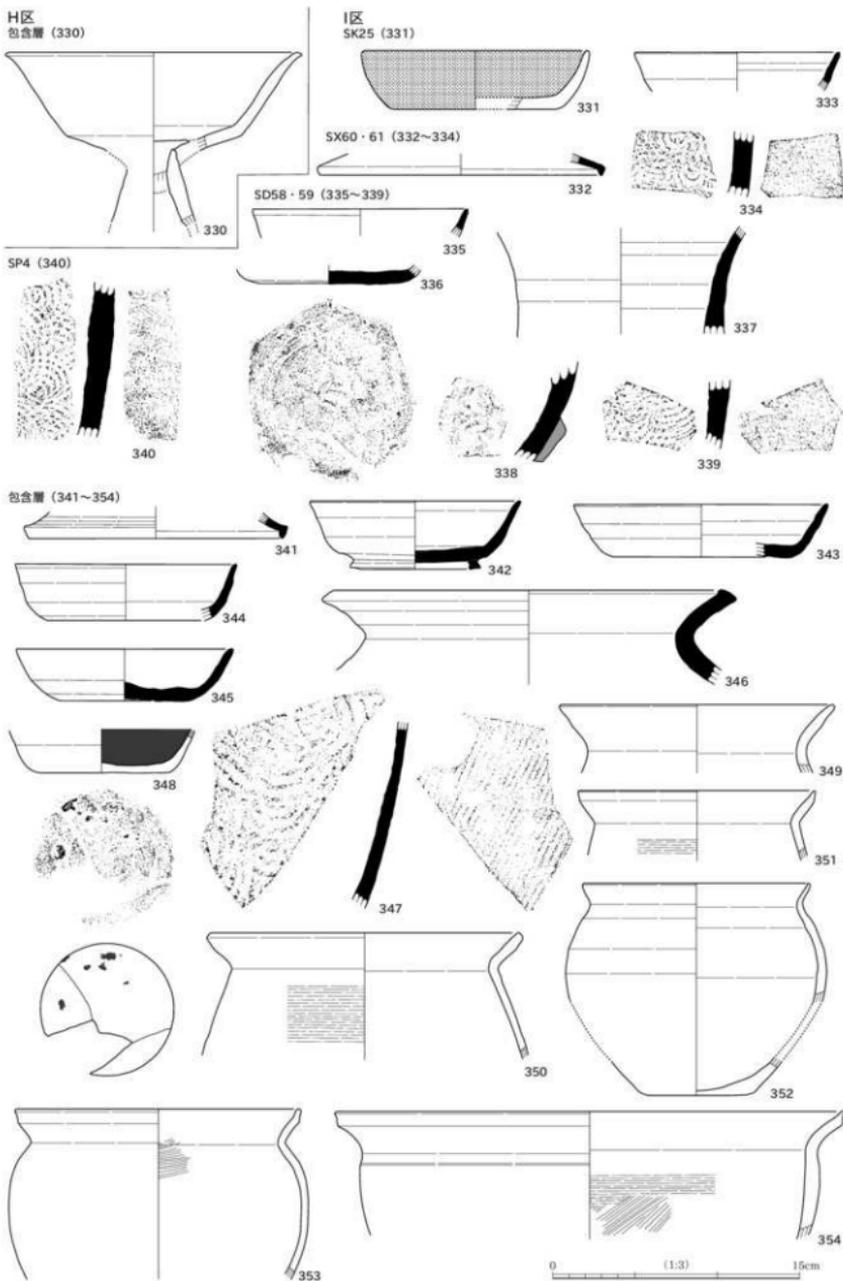
0 (274・275・277~303 1:3) 15cm 0 (276 1:4) 30cm

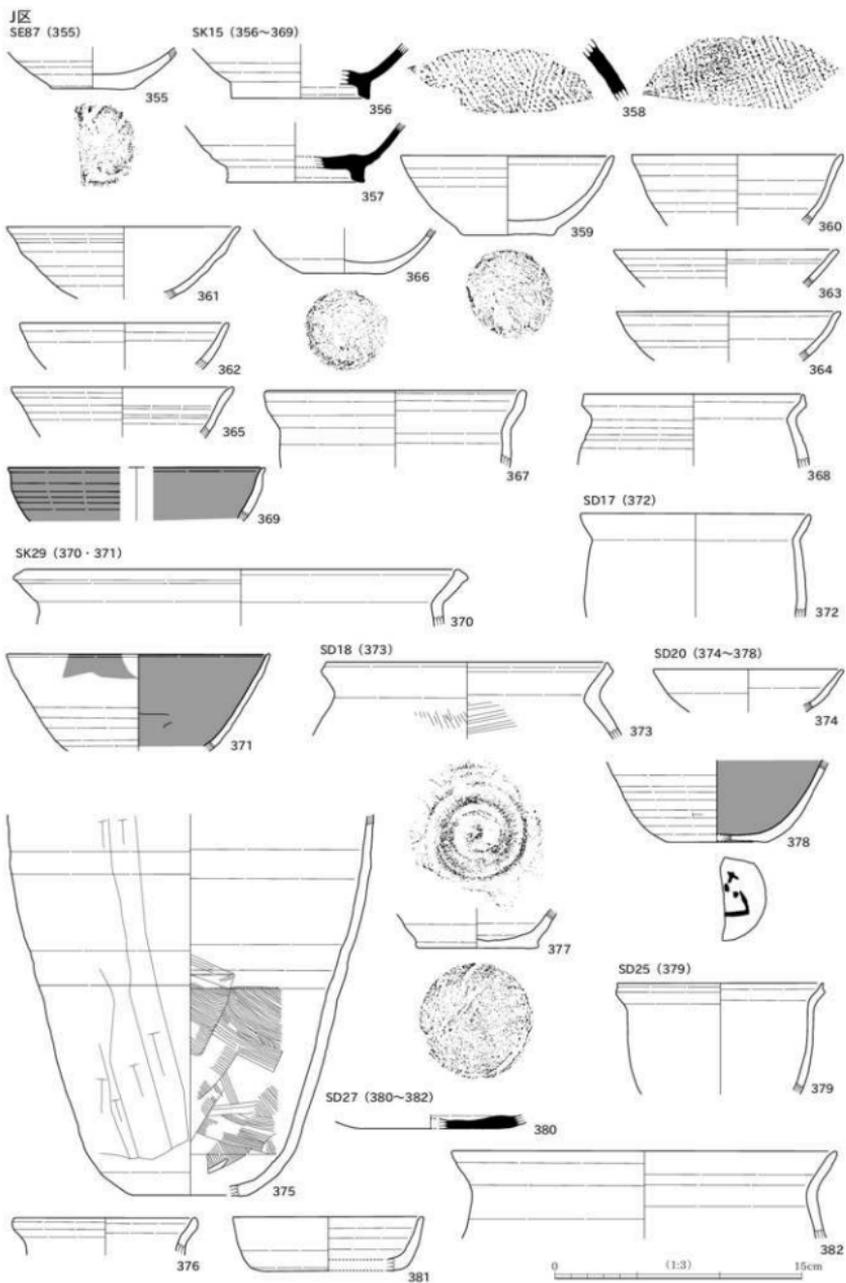
F区  
包含层 (304~314)



G区  
河川9 (315~323)

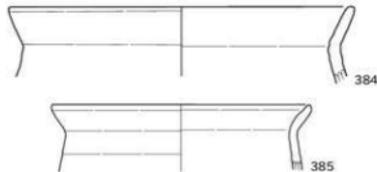




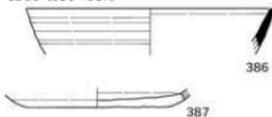


J区

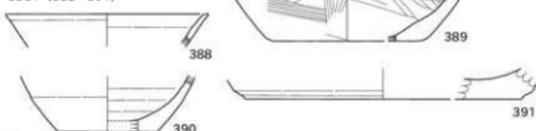
SD27 (383~385)



SD30 (386~387)



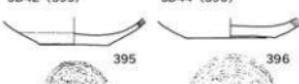
SD31 (388~391)



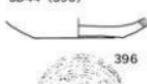
SD32 (392~393)



SD42 (395)



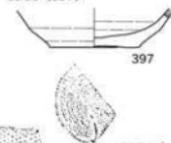
SD44 (396)



SD35 (394)



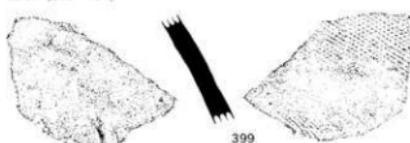
SD56 (397)



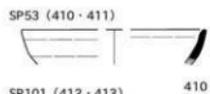
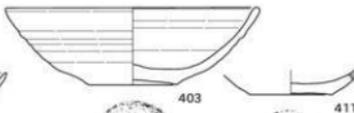
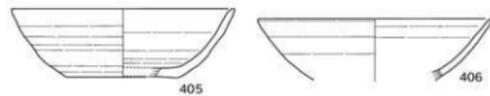
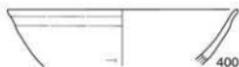
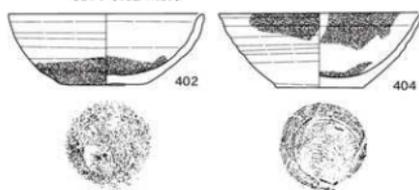
SD63 (398)



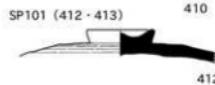
SD67 (399~401)



SD71 (402~407)



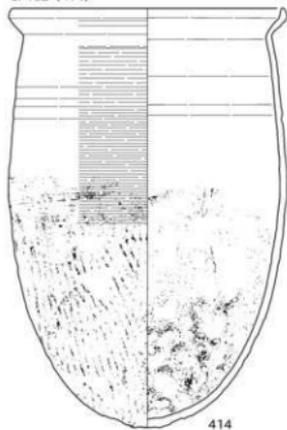
SD86 (408~409)



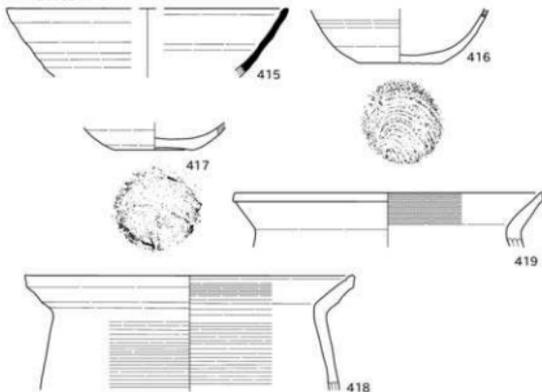
0 (383~398・400~413 1:3) 15cm

0 (399 1:4) 20cm

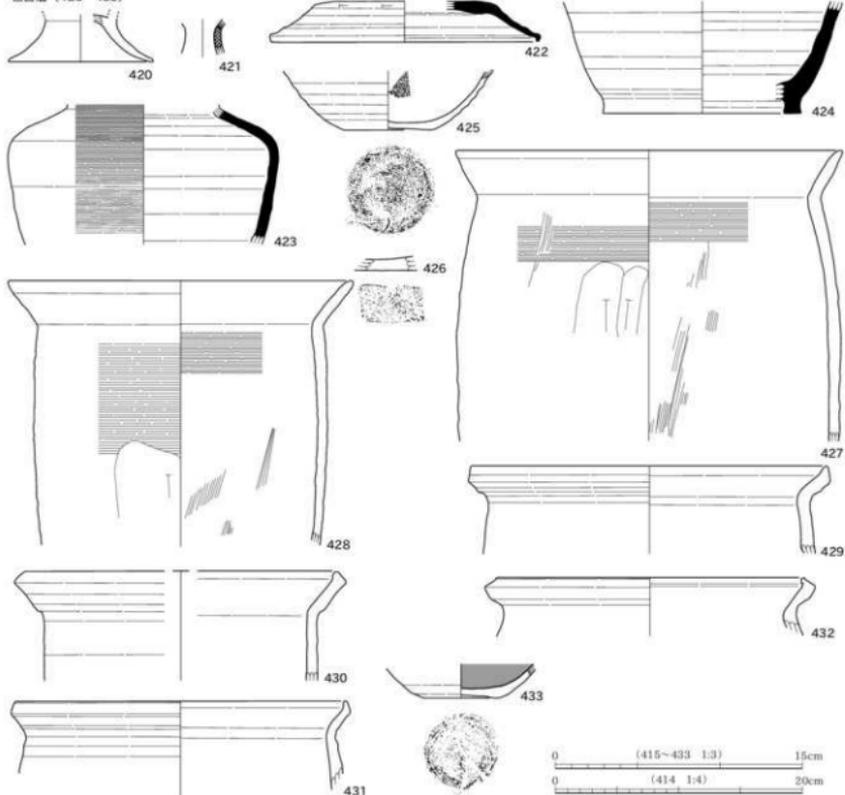
J区  
SP102 (414)



遺構間接合 (415~419)

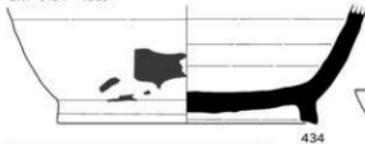


包含層 (420~433)

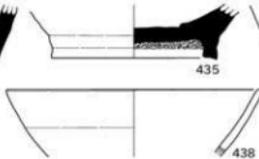


K区

SK1 (434・435)

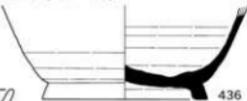


434



435

SK19 (436~439)



436



437

SK74 (440・441)



440



441

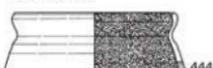
SK77 (442)



442



SK110 (444)



444

SK116 (445)



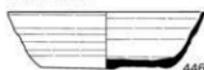
445

SK81 (443)



443

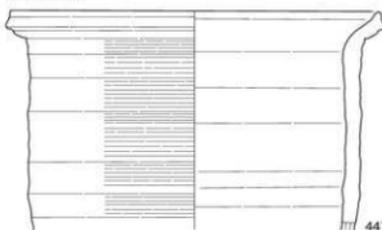
SK126 (446)



446



SK181 (447)



447

SK185 (448)



448

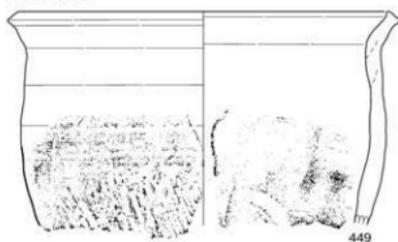


SK241 (450)



450

SK204 (449)



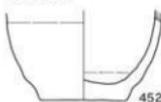
449

SD3 (451)



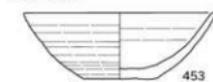
451

SD7 (452)



452

SD21 (453)



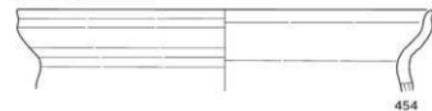
453

SD41 (456)



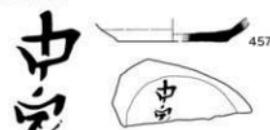
456

SD22 (454)



454

SD47 (457)



457

SD23 (455)

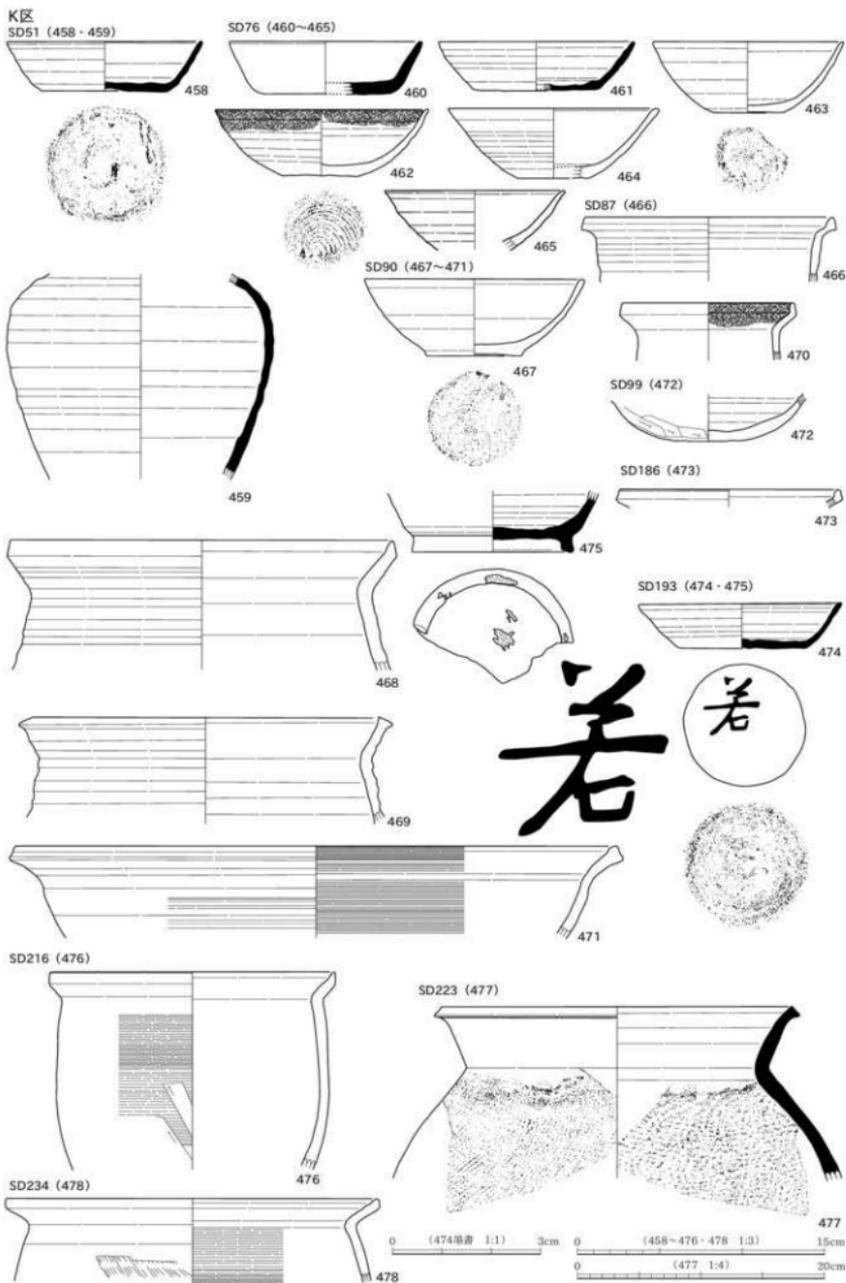


455



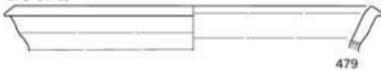
(1:3)

15cm



K区

SPB (479)



479

SP135 (480)



480

遺構間接合 (481~490)



481



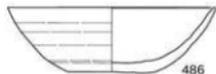
482



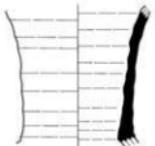
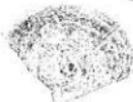
483



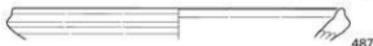
484



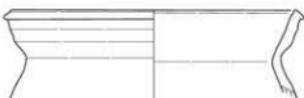
486



485



487



488

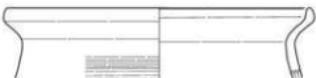


490

包含層 (491~505)



491



489



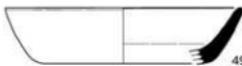
492



493



494



495



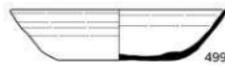
496



497



498



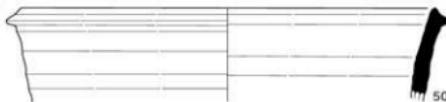
499



501



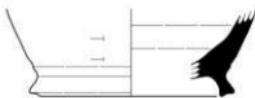
502



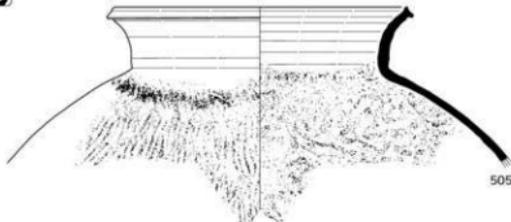
504



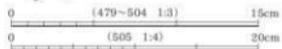
500



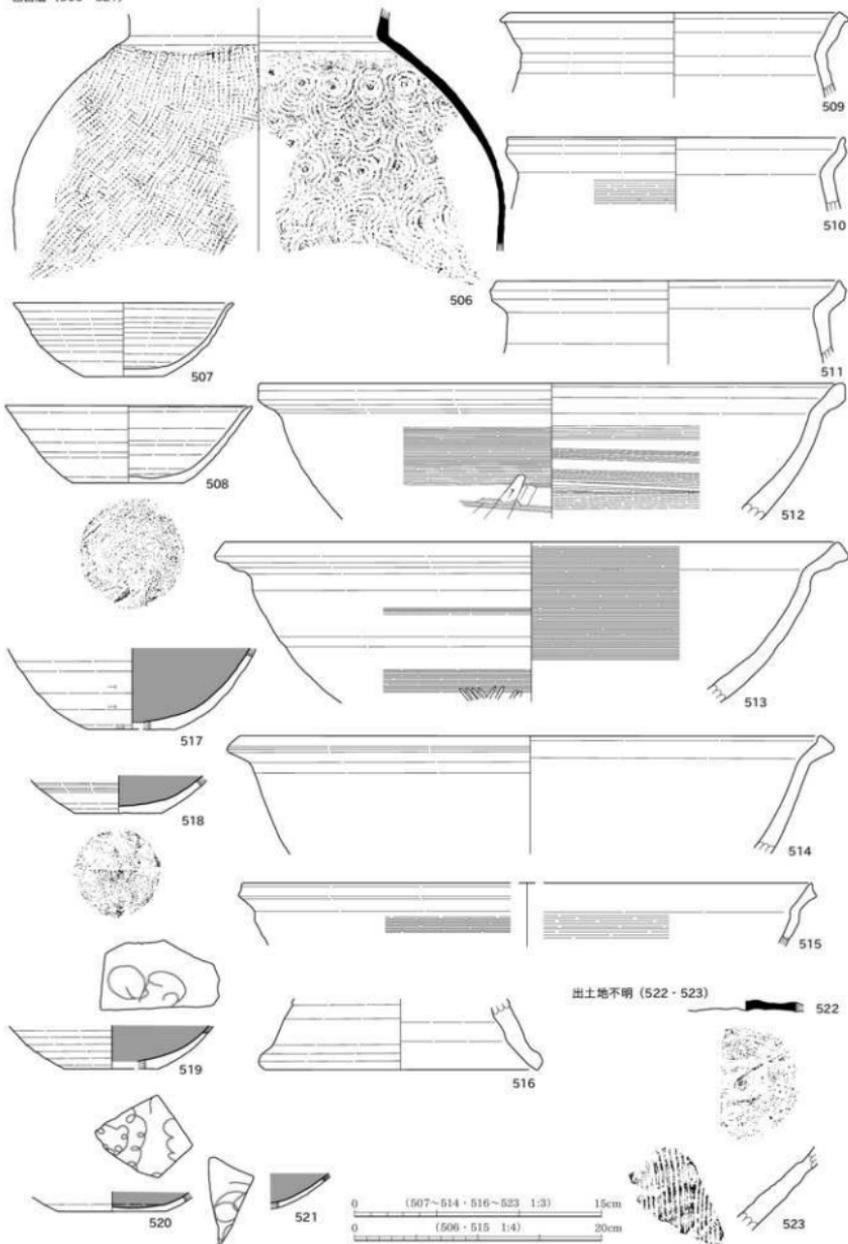
503



505



K区  
包含層 (506~521)



出土地不明 (522 - 523)

522

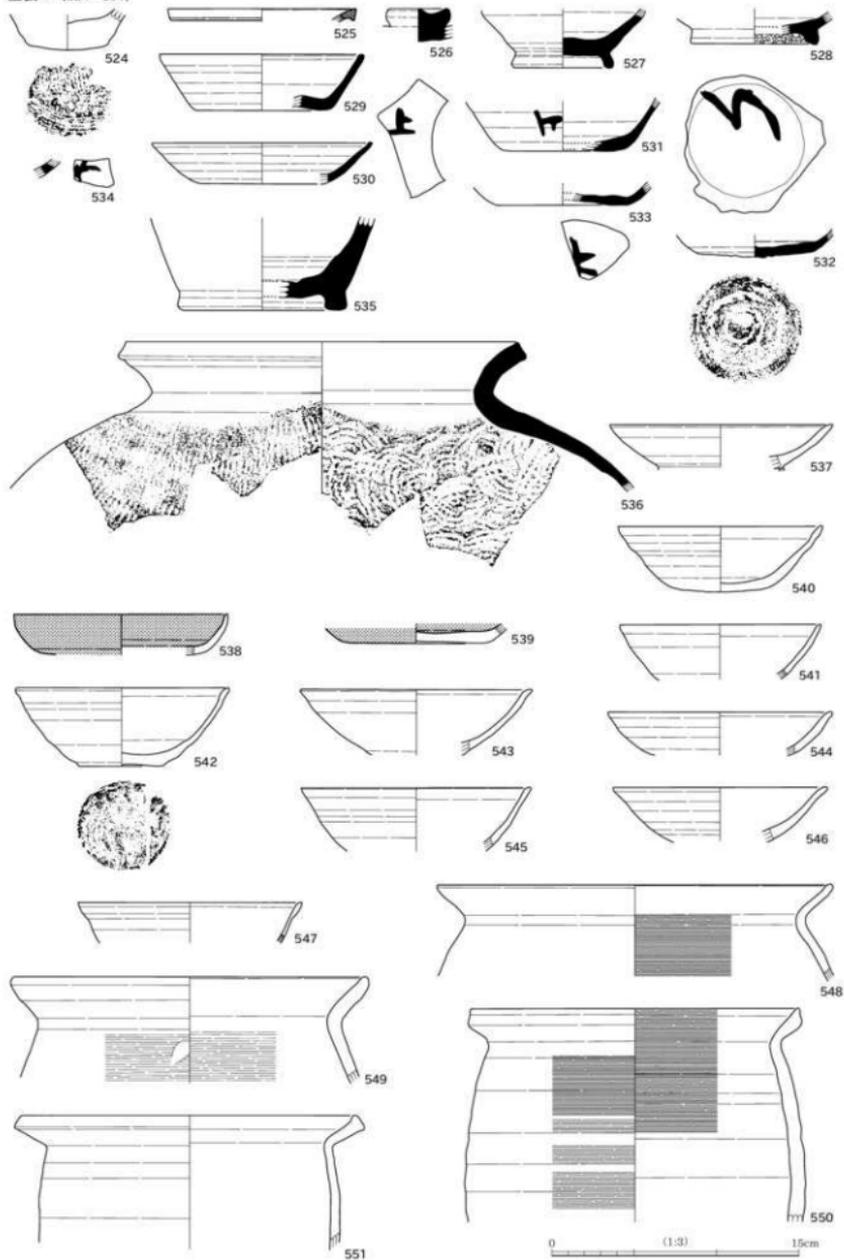
516

520

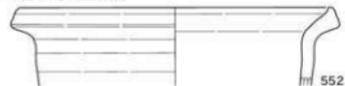
521

523

立会い (524~551)



立会い (552~568)



552



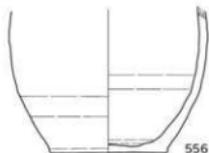
553



554



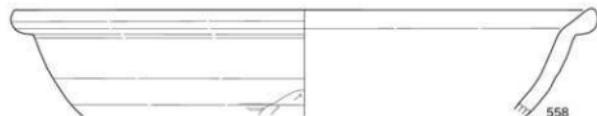
555



556



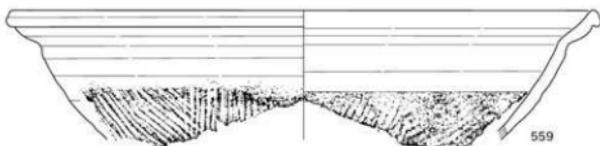
557



558



561



559



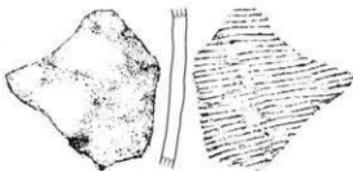
562



560



565



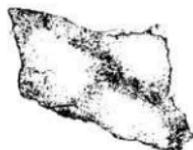
566



563



564



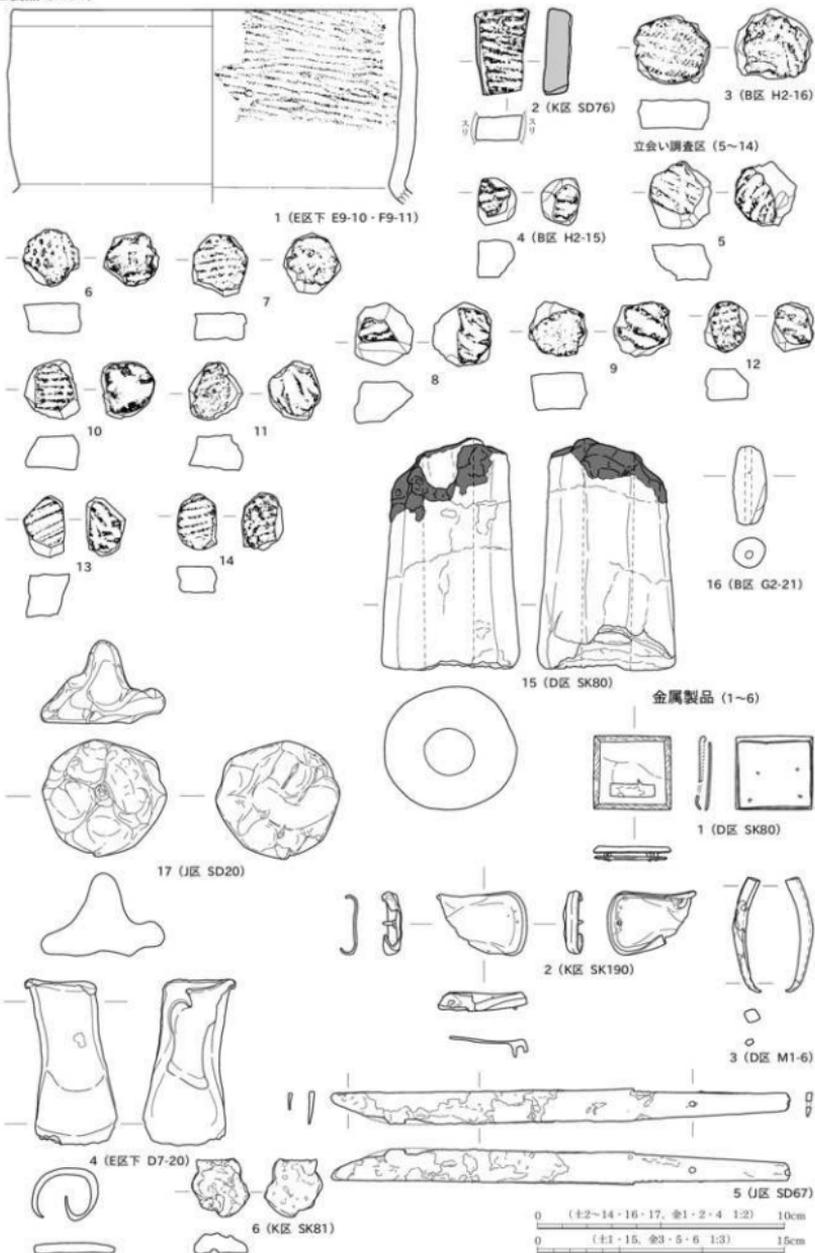
567



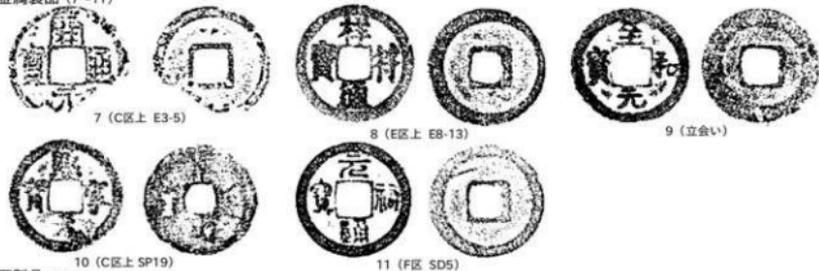
568

0 (1:3) 15cm

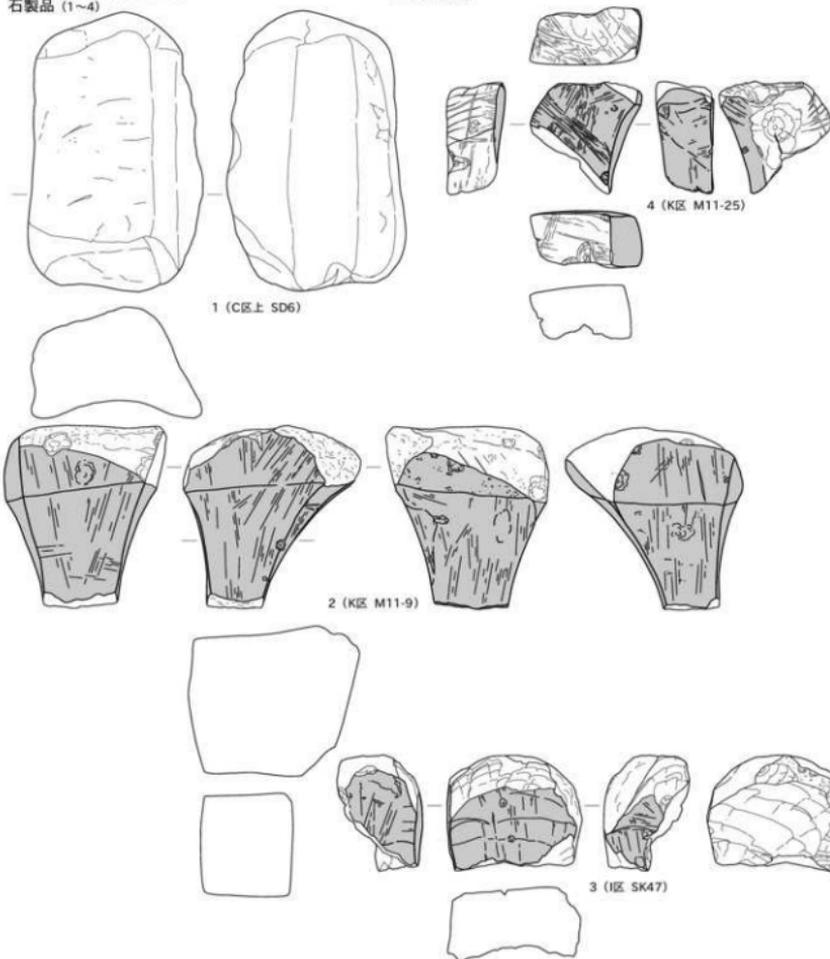
土製品 (1~17)



金属製品 (7~11)



石製品 (1~4)

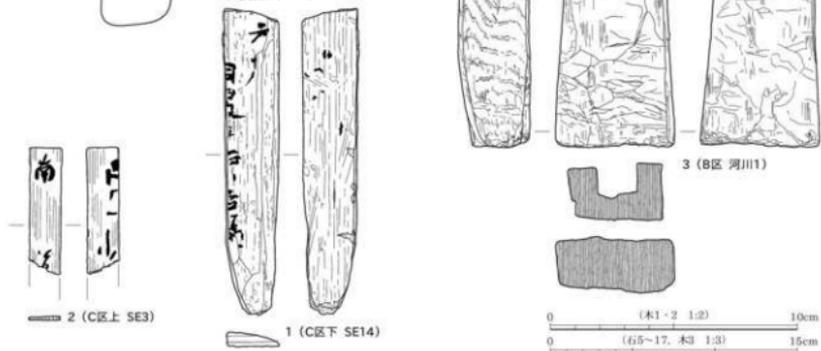


0 (φ7~11 1:1) 3cm 0 (φ1~4 1:3) 15cm

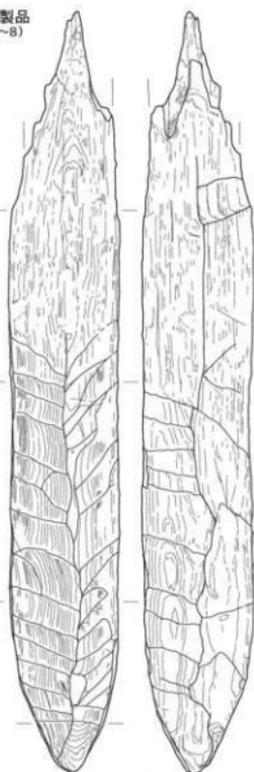
石製品 (5~17)



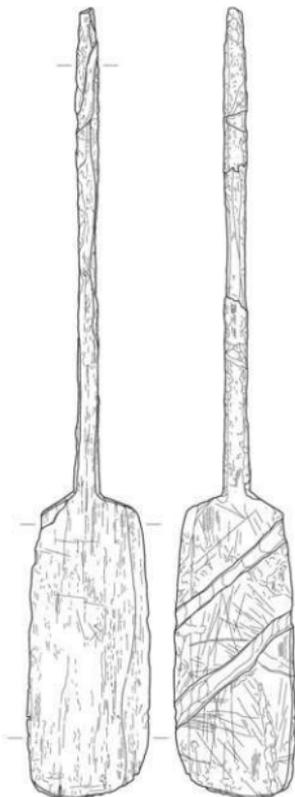
木製品 (1~3)



木製品  
(4-8)



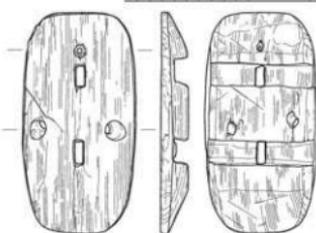
4 (B区 SD12)



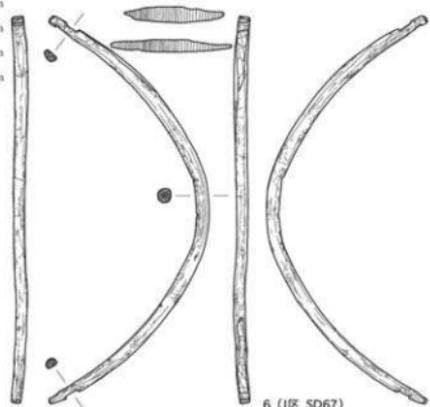
5 (E区 SD10)



7 (C区上 SE3)



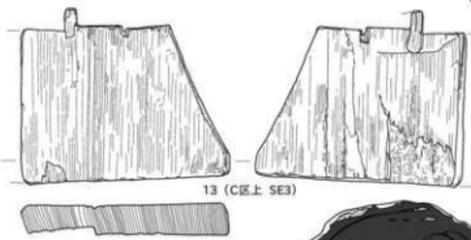
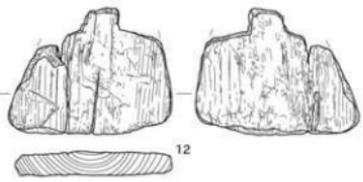
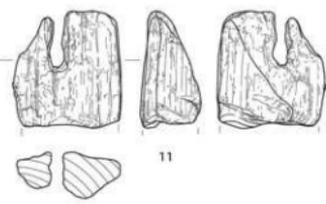
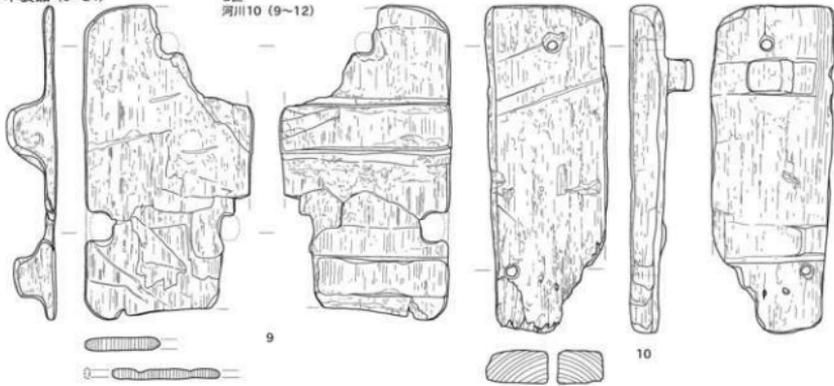
8 (C区下 河川23)



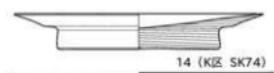
6 (J区 SD67)

木製品 (9~24)

G区  
河川10 (9~12)



C区上  
SE5 (21・22)



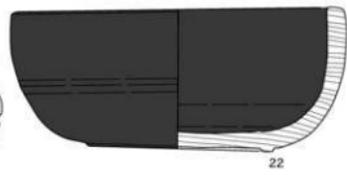
14 (K区 SK74)



15 (C区下 SD51)



16 (C区上 SE2)



22



23 (H区 河川2)



17 (C区上 SE4)

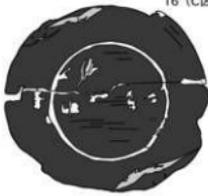


18 (J区 90トレ)

J区  
SD67 (19・20)

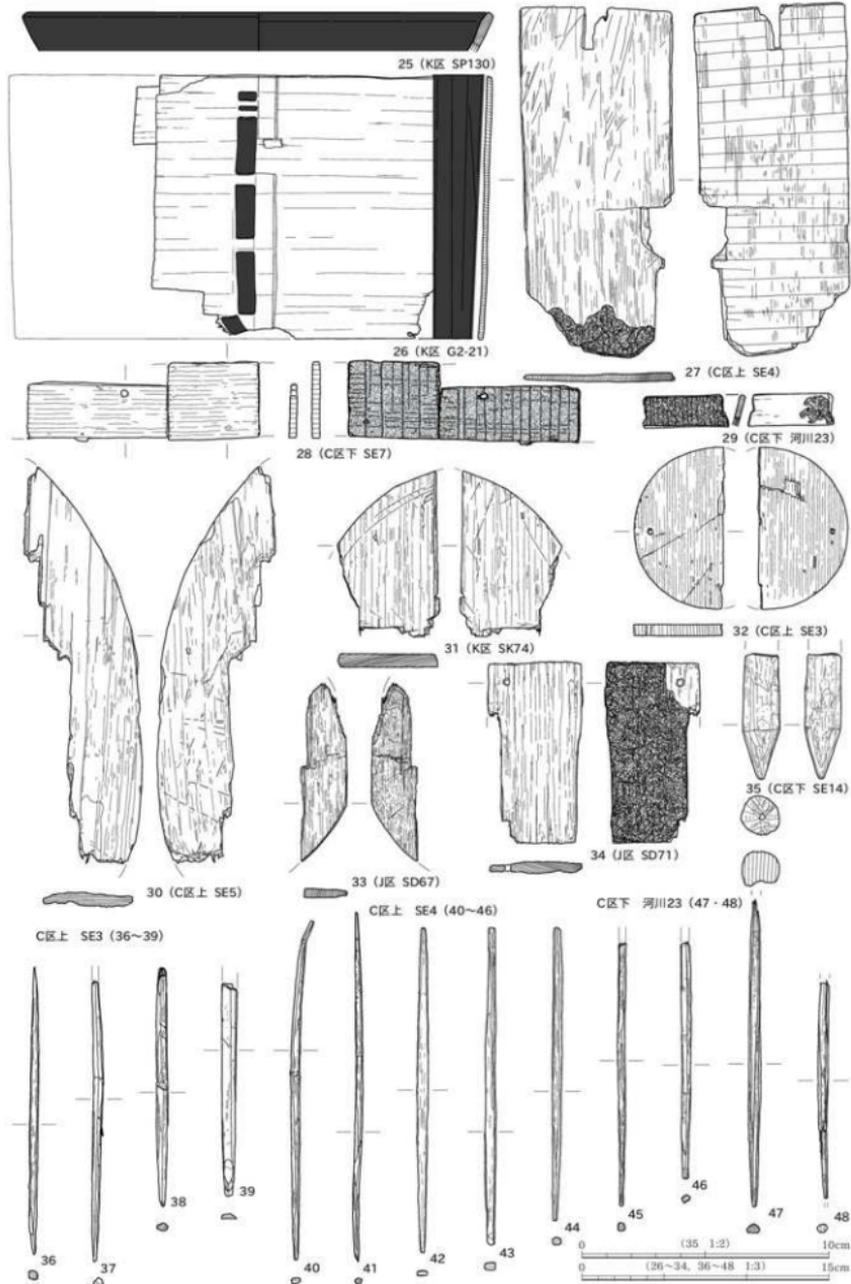


19

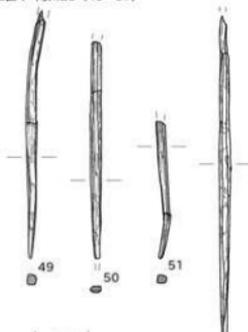


24 (立会い)

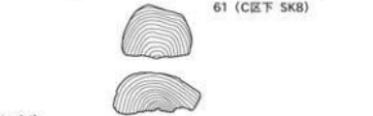
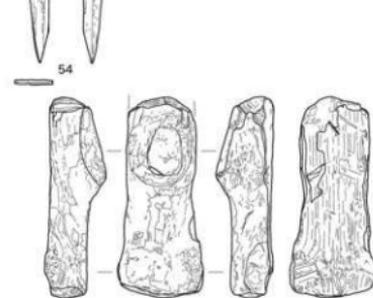
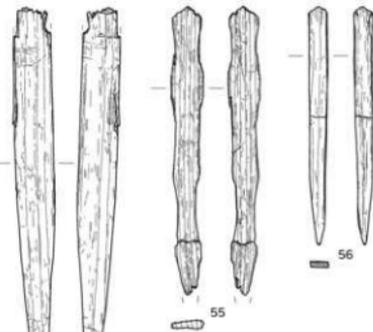
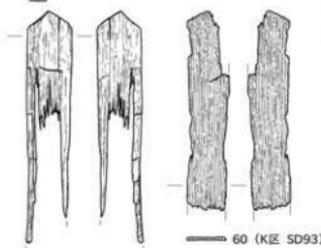
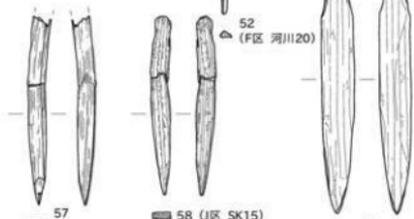




E区下 河川23 (49~51)

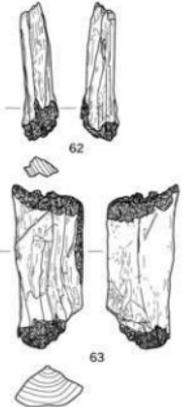


J区 SE87 (53~57)



59 (C区下 SE14)

C区上 SE3 (62·63)



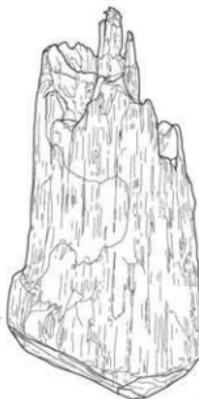
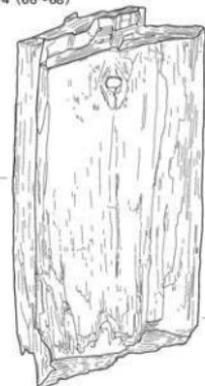
B区 SP4 (64·64)



0 (1:3) 15cm

木製品 (66~72)

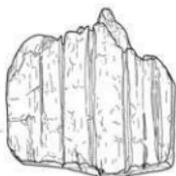
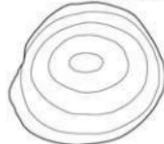
B区 SP4 (66~68)



66

67

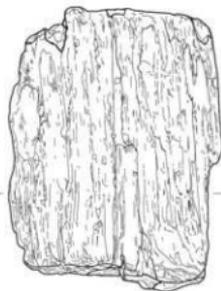
69 (B区 SP6)



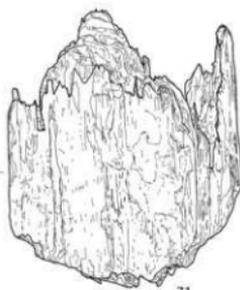
68



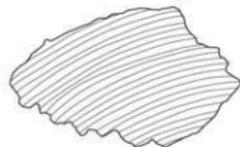
C区上 SP83 (70・71)



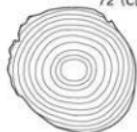
70



71



72 (C区上 SP84)



木製品 (73~81)



73 (C区下 SP3)



74 (C区下 SP5)



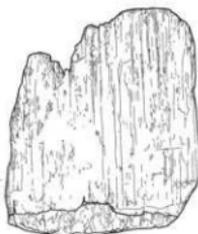
75 (C区下 SP22)



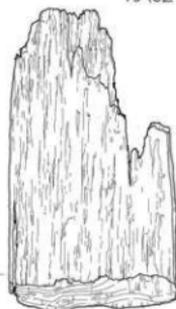
79 (D区 SP112)



76 (C区下 F3-2)



77 (D区 SP29)



78 (D区 SD77)



80 (E区上 SE15)



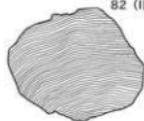
81 (F区 SP48)



木製品 (82~87) 1区 SB1 (82~85)



82 (1区 SP29)



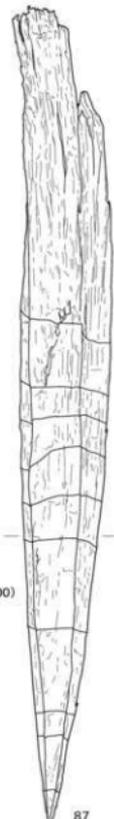
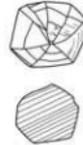
84 (1区 SP30)



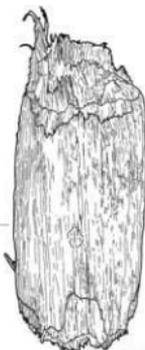
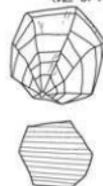
85 (1区 SP50)



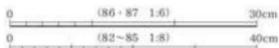
86  
(1区 SP100)



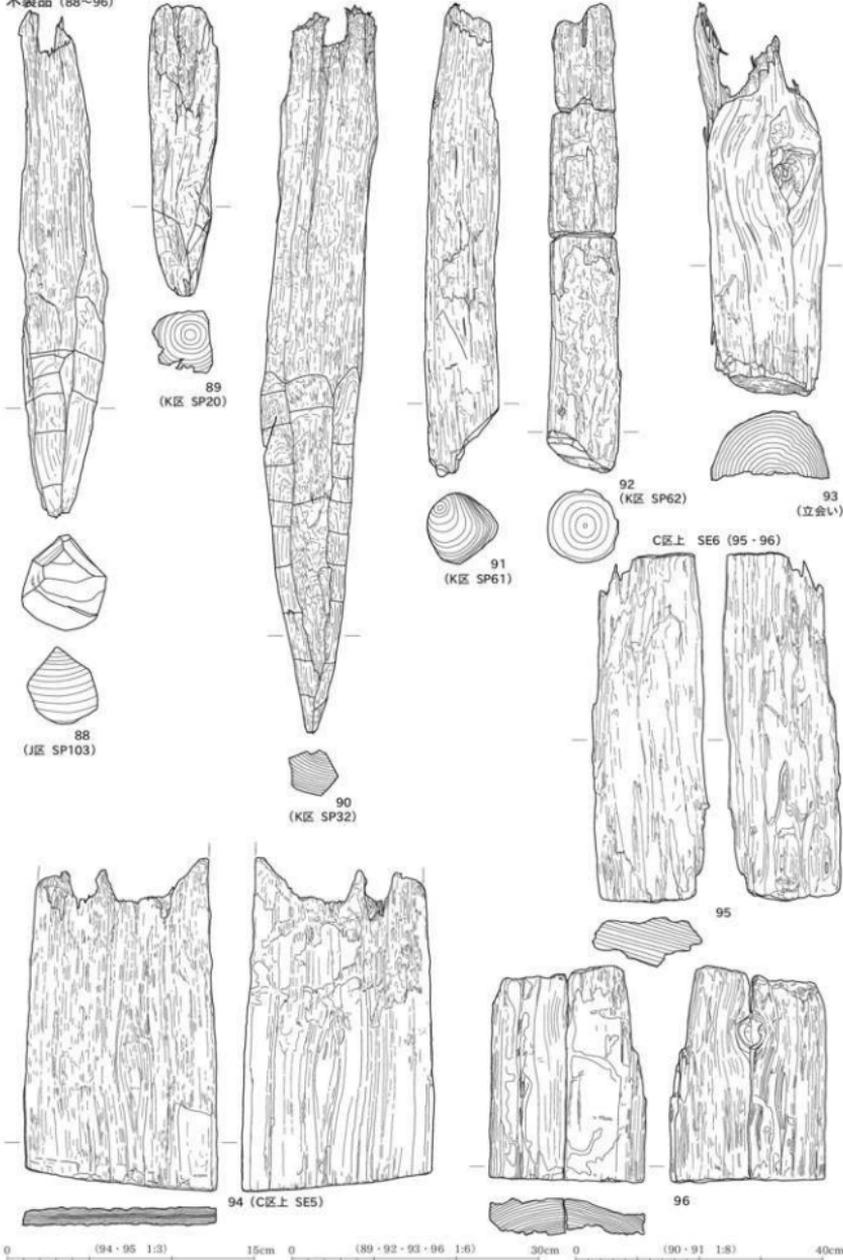
87  
(1区 SP101)



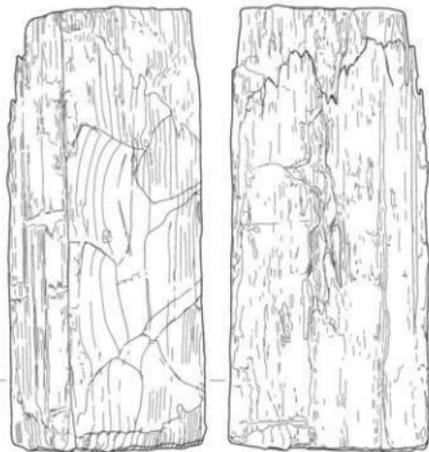
83 (1区 SP29)



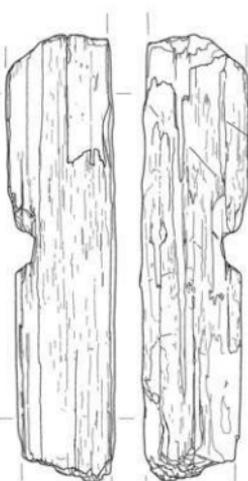
木製品 (88~96)



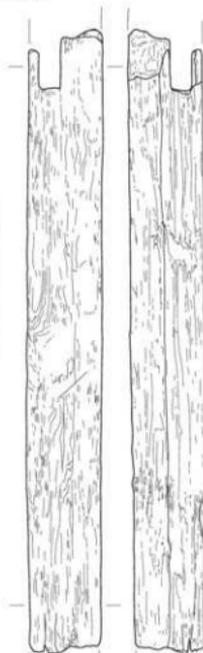
木製品 (97~102)



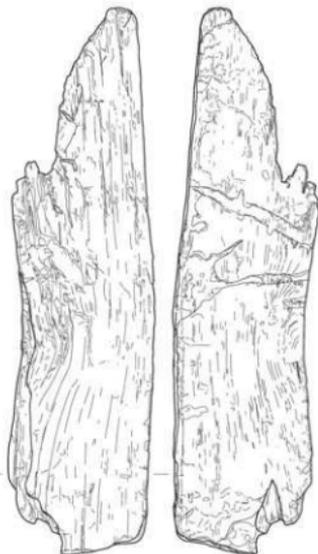
97 (C区上 SE6)



99 (B区 SD4)



100 (B区 B4-12)



98 (B区 SD12)



101 (C区下 SD25)

102 (C区上 SE4)



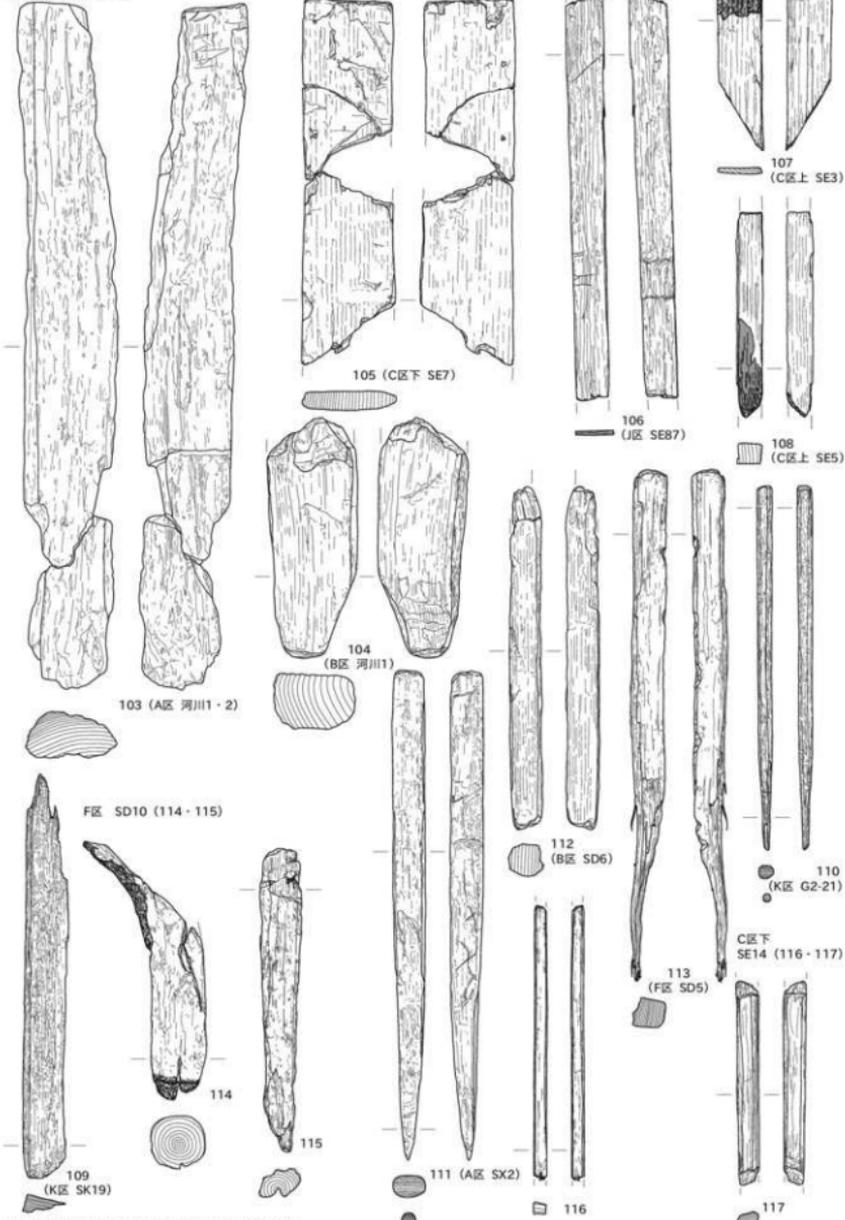
0 (100 1:8) 40cm

0 (99・101・102 1:3) 15cm

0 (97 1:4) 30cm

0 (98 1:6) 30cm

木製品 (103~117)

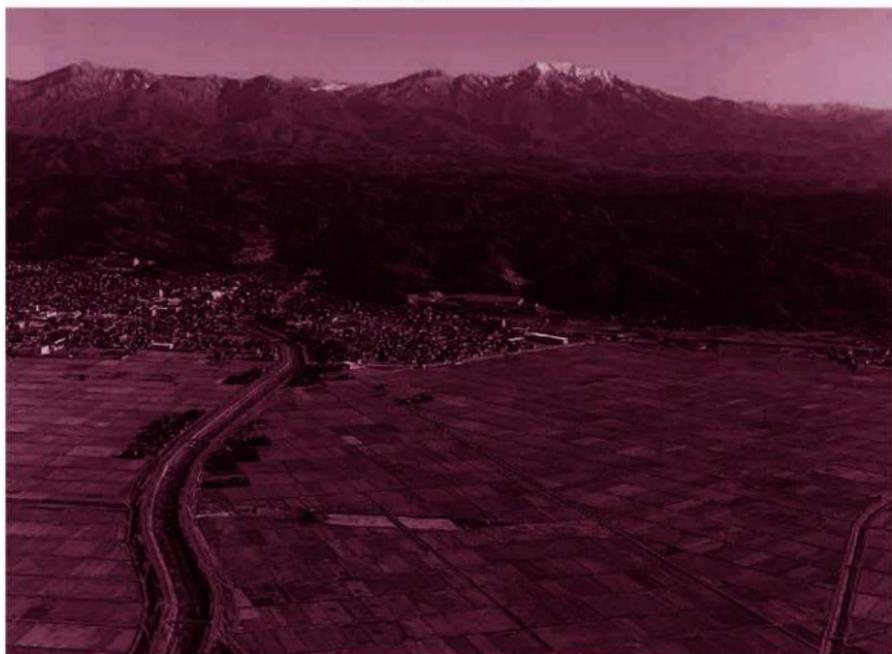


(104・105・107・108・111・112・114・116・117 1:3) 0 15cm 0 (106・109・110・113・115 1:6) 30cm 0 (103 1:8) 40cm

## 写真図版



馬越遺跡周辺の空中写真（上が北）



馬越遺跡周辺の空中写真（北西から）



A区 近景 (南から)



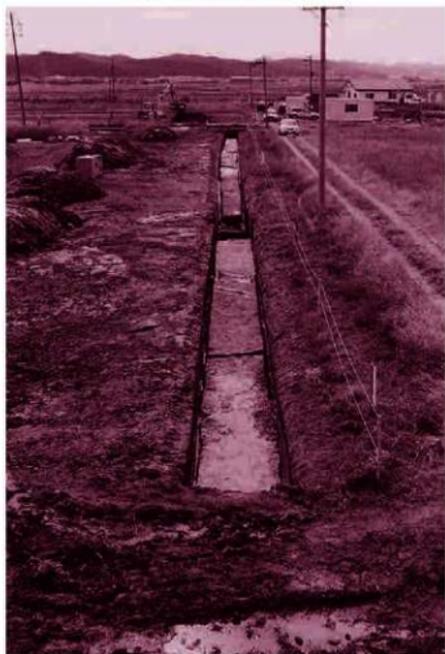
A区 表土掘削作業 (南から)



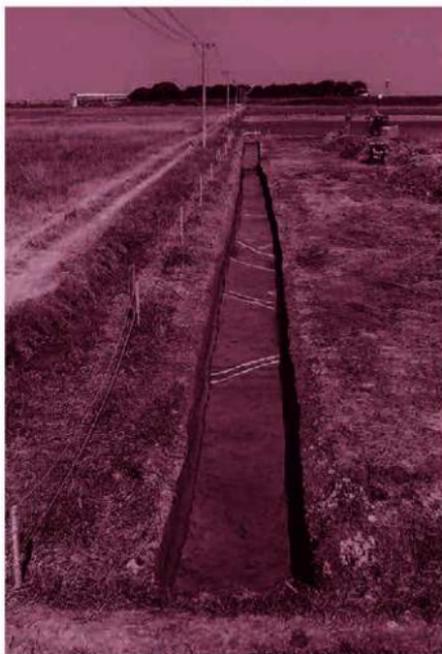
A区 遺構発掘作業 (南から)



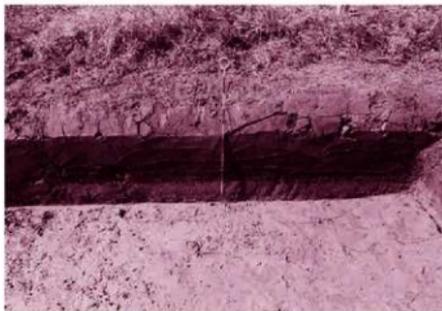
A区 遺構発掘作業 (北から)



A区 全景 (北から)



A区 全景 (南から)



A区 基本土層 断面1 (東から)



A区 SD1・SD2 断面 (東から)



A区 SD1 断面 (東から)



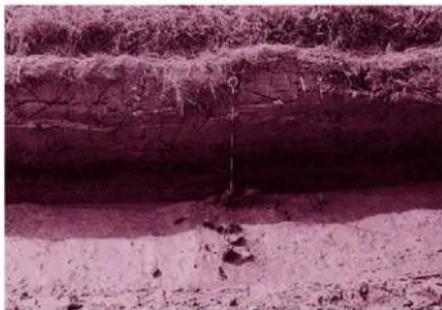
A区 SD2 断面 (東から)



A区 SD3 断面 (東から)



A区 SD5 断面 (東から)



A区 SD6 4 出土状況 (東から)



A区 河川1・2 断面 (北から)



A区 河川1・2 断面(東から)



A区 河川1・2 遺物出土状況(東から)



A区 河川1・2 遺物出土状況(南から)



A区 河川1・2 完掘(北から)



A区 河川3 断面(東から)



B区 近景（西から）



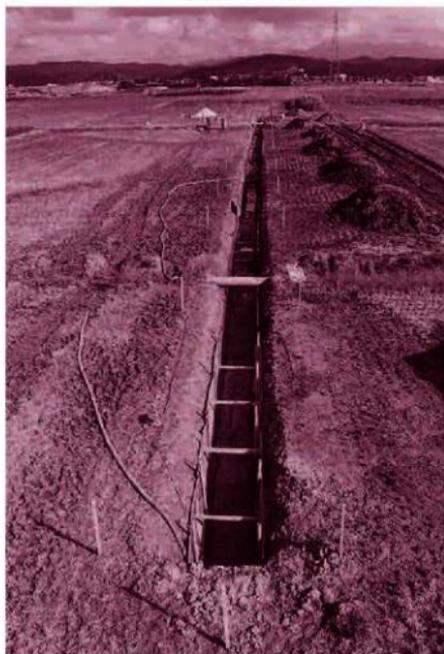
B区 表土掘削作業（西から）



B区 遺構発掘作業（西から）



B区 遺構発掘作業（東から）



B区 全景（西から）



B区 全景（東から）



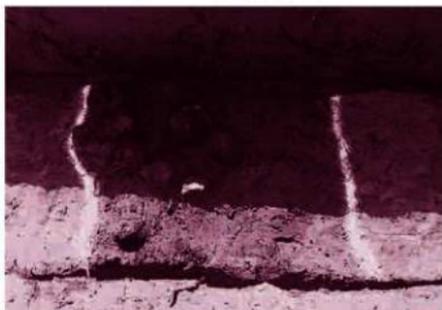
B区 基本土層 断面1 (北から)



B区 40・74 出土状況 (南から)



B区 SD1・SD2 断面 (北東から)



B区 SD3 遺物出土状況 (北から)



B区 SD4・SD5 断面 (北東から)



B区 SD12 断面 (南西から)



B区 SD12 木98 出土状況 (南から)



B区 SD18 断面 (北から)



B区 SP4 断面(北から)



B区 SP4 礎板(南から)



B区 SP6 断面(北から)



B区 河川1 断面(北東から)



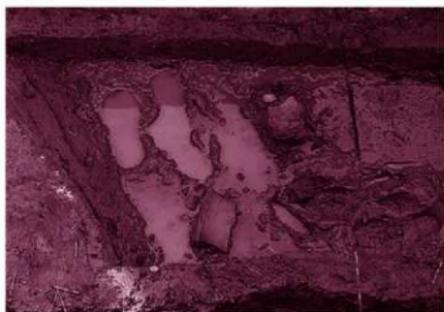
B区 河川1 断面(北から)



B区 河川1 断面(北から)



B区 河川1 断面(北から)



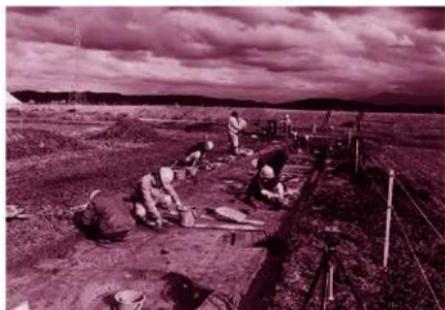
B区 河川1 遺物出土状況(北から)



C区 近景(東から)



C区 表土掘削作業(東から)



C区上層 遺構発掘作業(西から)



C区下層 遺構発掘作業(西から)



C区下層 遺構断面実測(東から)



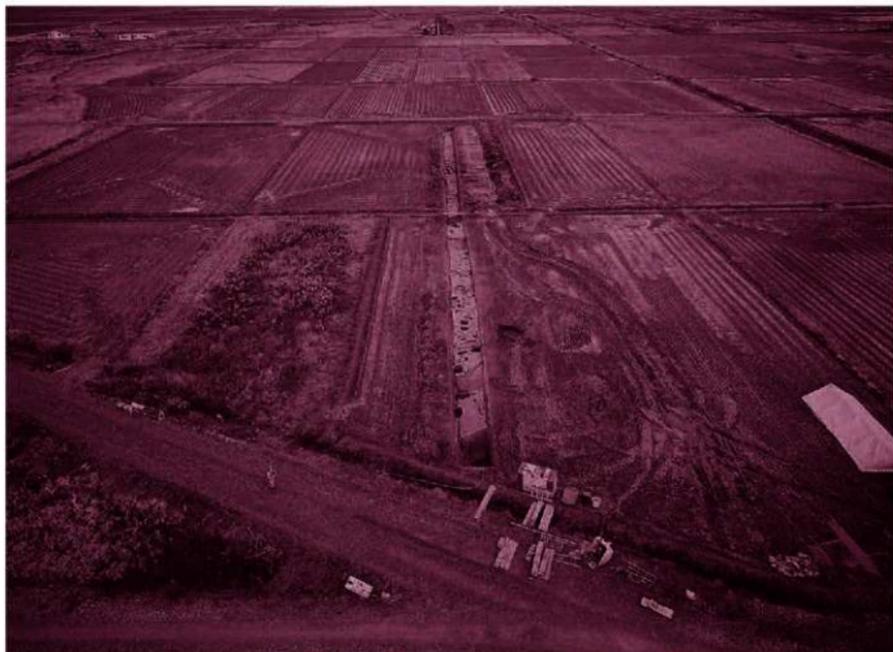
C区下層 遺構平面実測(北西から)



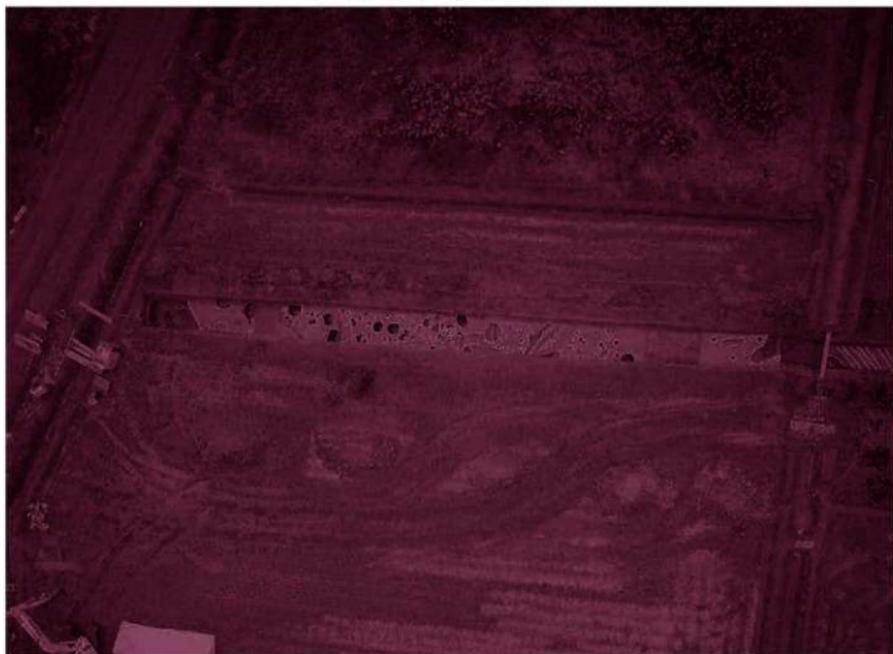
C区 空中写真撮影(南東から)



2005年 調査スタッフ



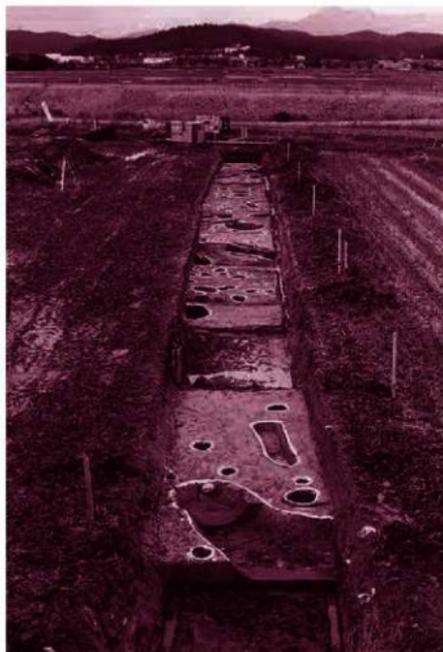
C区 (2005年) 上層 全景 空中写真 (東から)



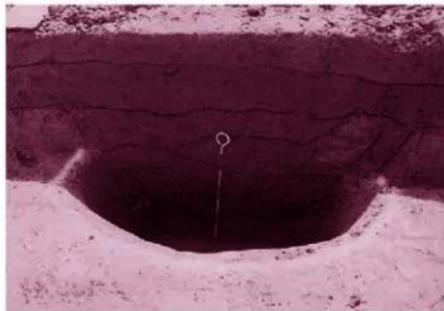
C区 (2005年) 上層 全景 空中写真 (北から)



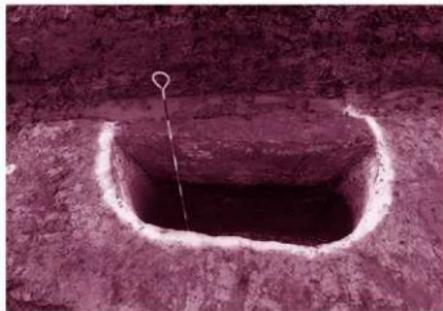
C区(2005年)上層 全景(東から)



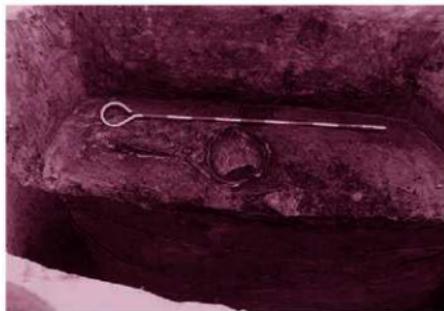
C区(2005年)上層 全景(西から)



C区上層 SE1 断面(北から)



C区上層 SE2 断面(北から)



C区上層 SE2 木16出土状況(北から)



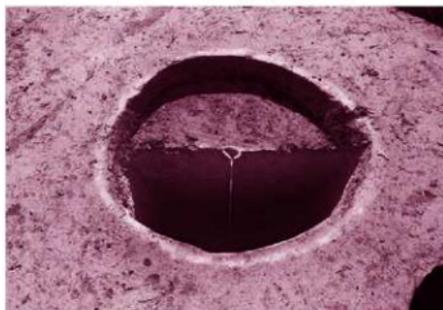
C区上層 SE3 断面(東から)



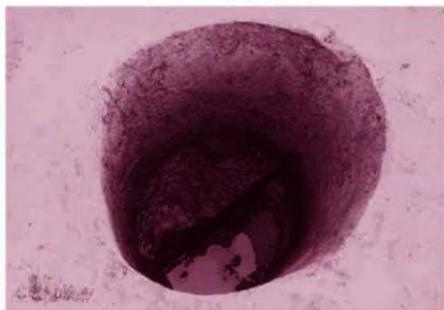
C区上層 SE3 木32出土状況(東から)



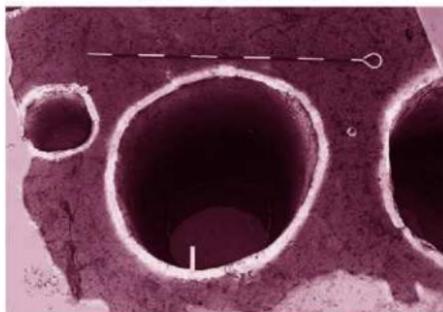
C区上層 SE3 完掘(北から)



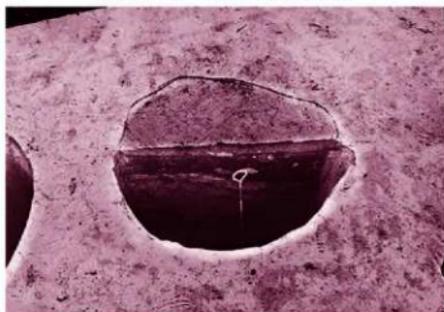
C区上層 SE4 断面(北から)



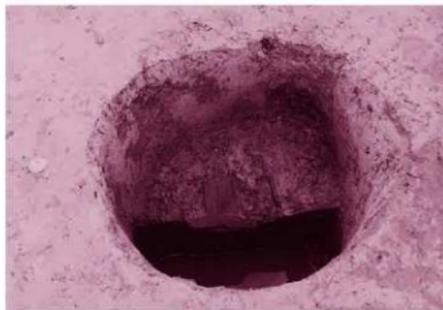
C区上層 SE4 木17出土状況(北から)



C区上層 SE4 完掘(北から)



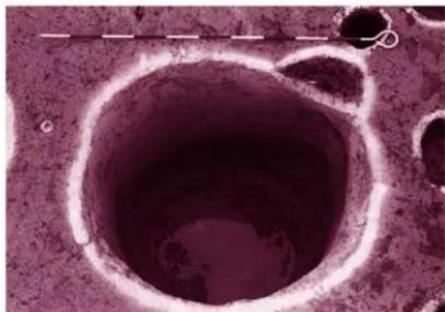
C区上層 SE5 断面(北から)



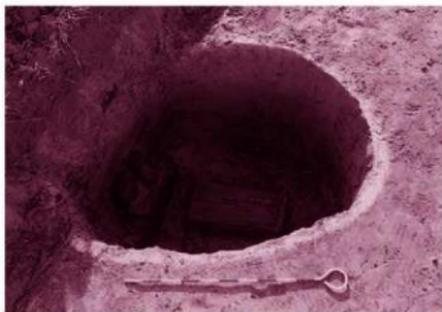
C区上層 SE5 木30など出土状況(北から)



C区上層 SE5 木22出土状況(西から)



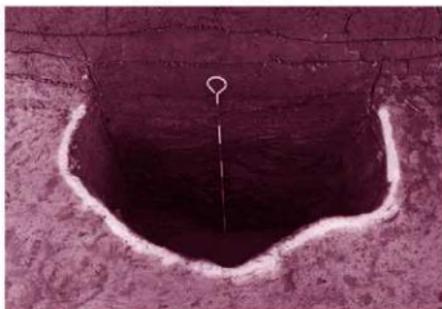
C区上層 SE5 完掘(北から)



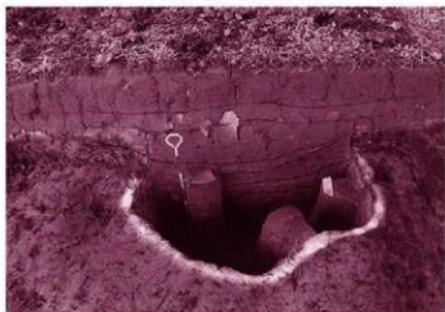
C区上層 SE6 出土状況(東から)



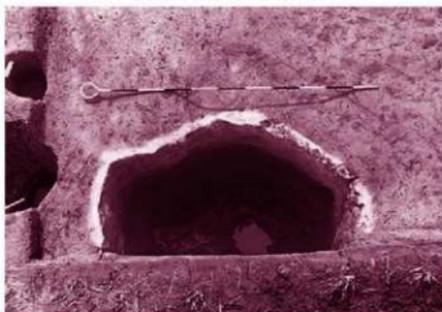
C区上層 SE6 完掘(南から)



C区上層 SE7 断面(南から)



C区上層 SE7 遺物出土状況(南から)



C区上層 SE7 完掘(北から)



C区上層 SK3 断面(北から)



C区上層 SX1 断面(西から)



C区上層 SX1 完掘 (南から)



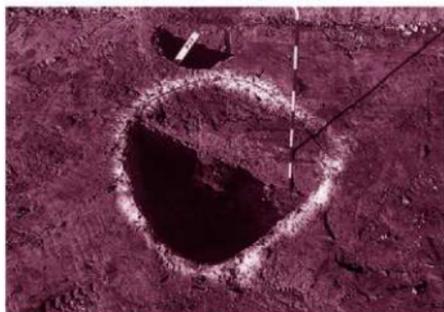
C区上層 SD1 断面 (南から)



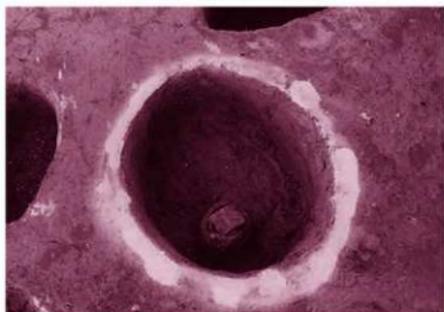
C区上層 SD3・SD4 断面 (南から)



C区上層 SD6 断面 (西から)



C区上層 SP19 断面・金10出土状況 (南から)



C区上層 SP71 石13出土状況 (東から)



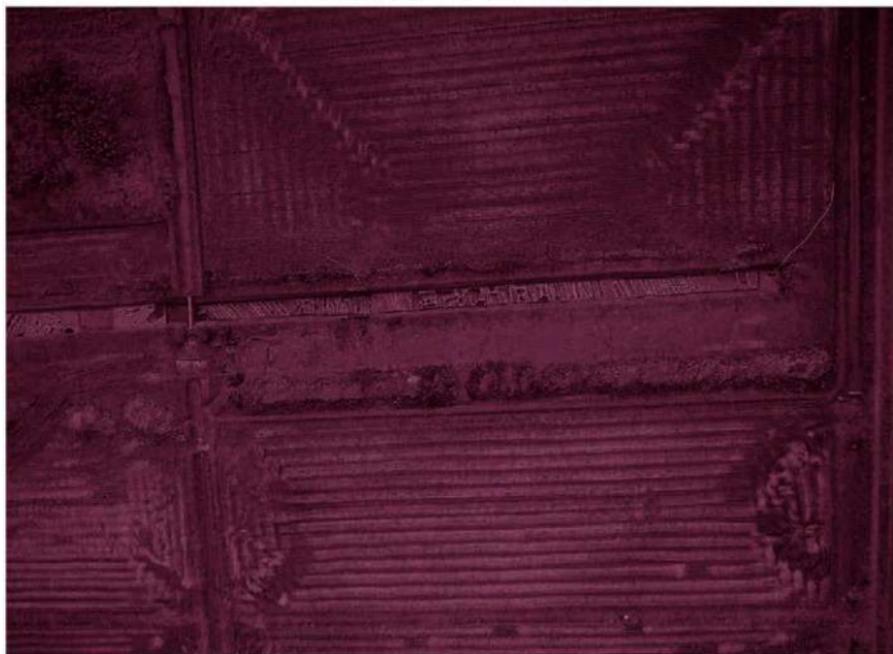
C区上層 河川1 断面 (南から)



C区上層 河川1 断面 (南西から)



C区(2005年)下層 全景 空中写真(西から)



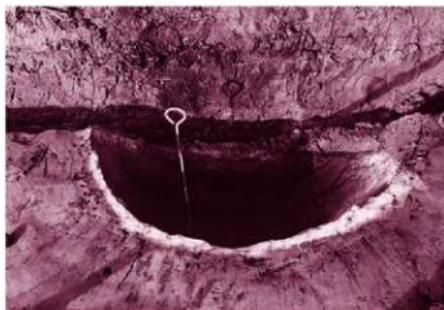
C区(2005年)下層 全景 空中写真(北から)



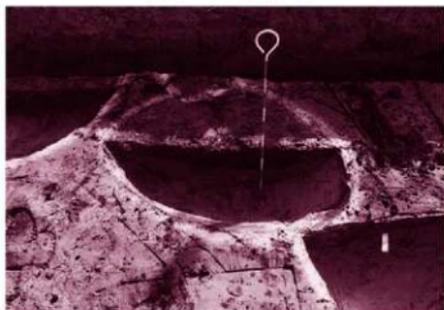
C区下層 SE7 検出状況 (南から)



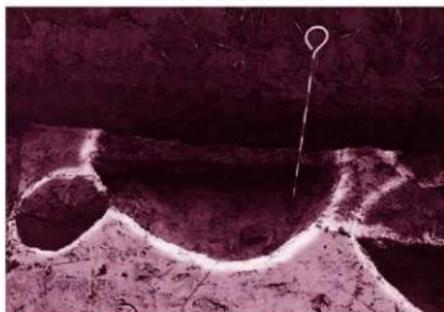
C区下層 SE7 断面 (南から)



C区下層 SK1 断面 (南から)



C区下層 SK2 断面 (北から)



C区下層 SK3 断面 (北から)



C区下層 SK4 板材出土状況 (東から)



C区下層 SK6・SD29 断面 (南から)



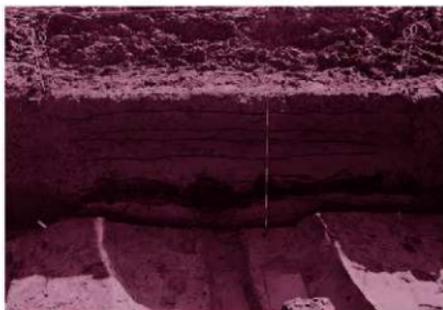
C区下層 SK8 木61出土状況 (北から)



C区下層 SD1~6 断面(北西から)



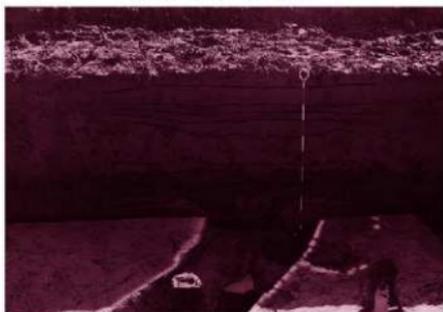
C区下層 SD22 断面(北から)



C区下層 SD24 断面(北から)



C区下層 SD34 断面(北から)



C区下層 SD41 断面(北から)



C区下層 断面(北西から)



C区下層 断面(北から)



C区下層 SP3 断面(西から)



C区 表土掘削作業(西から)



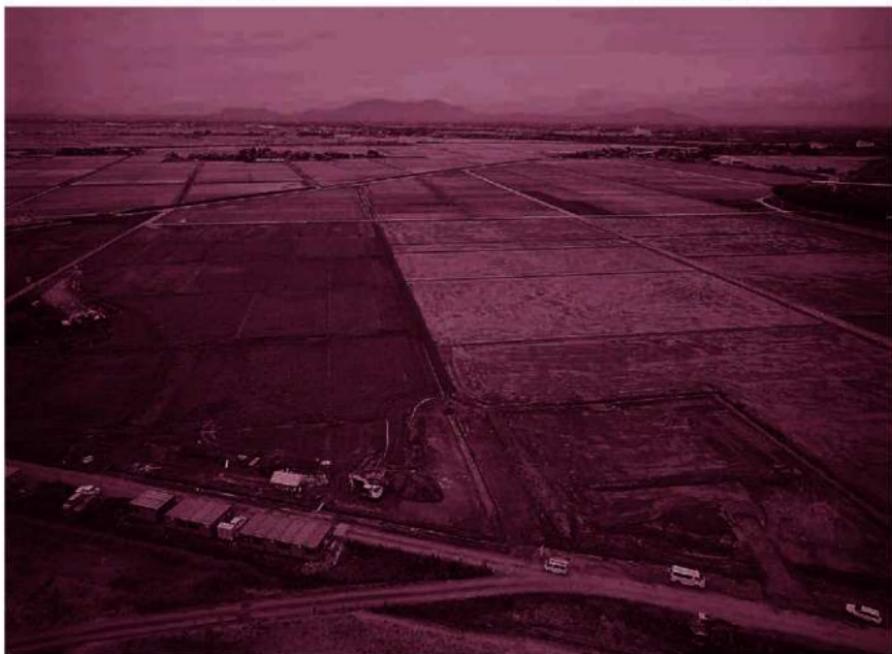
C区下層 遺構発掘作業(西から)



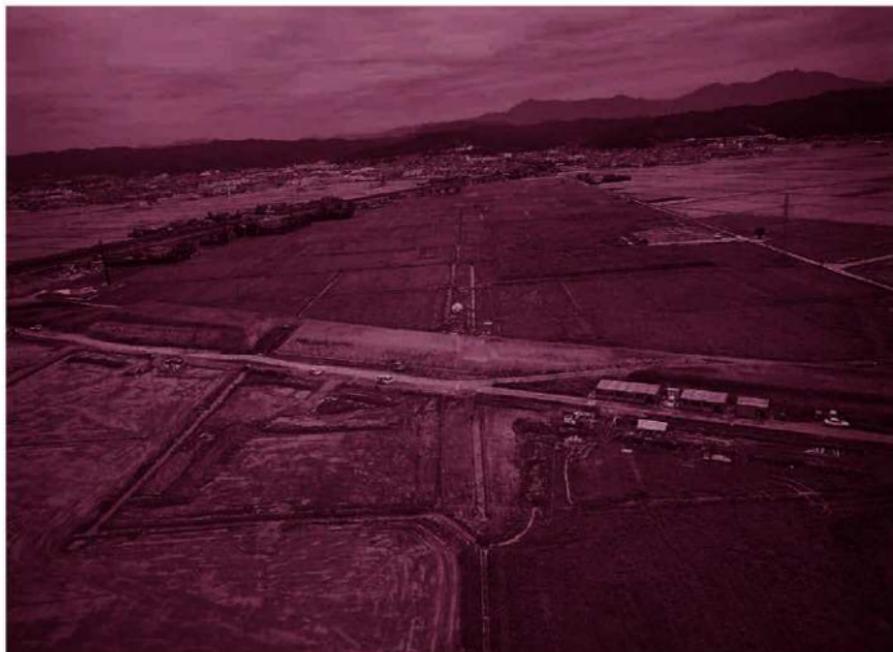
C区下層 遺構発掘作業(東から)



C区下層 遺構断面実測作業(南東から)



C区(2006年)下層 全景 空中写真(東から)



C区(2006年)下層 全景 空中写真(西から)



C区(2006年)下層 全景 空中写真(北から)



C区 (2005年・2006年) 下層 全景 空中写真(合成) (南から)



C区下層 SE14 断面 (南から)



C区下層 SD5・9~11 断面 (南から)



C区下層 SD19 断面 (南から)



C区下層 SP22 断面 (北から)



D区 近景(北西から)



D区 表土掘削作業(西から)



D区 遺構発掘作業(北東から)



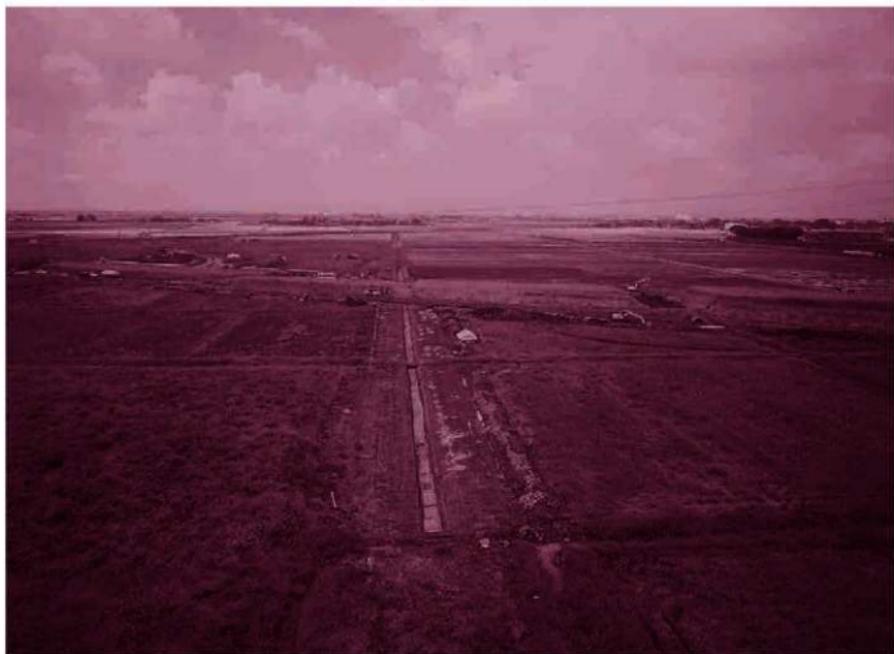
D区 空中写真撮影(東から)



D区 全景 空中写真(合成)(南から)



D区 全景 空中写真(西から)



D区 全景 空中写真(東から)



D区 全景 空中写真(北東から)



D区 空中写真(部分)(北から)



D区 空中写真(部分)(北から)



D区 空中写真(部分)(北から)



D区 SK80 断面(北から)



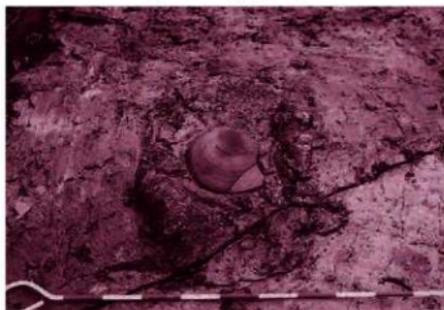
D区 SK80 遺物出土状況(北から)



D区 SK80 完掘(東から)



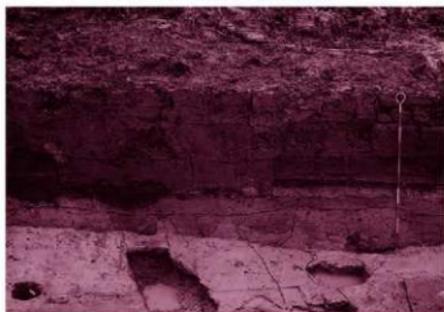
D区 SD1・SD77 断面(北から)



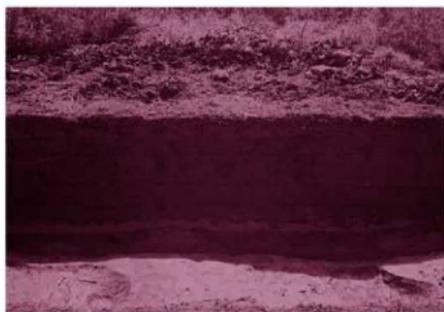
D区 SD1 206出土状況(西から)



D区 SD77 遺物出土状況(北から)



D区 SD53・SD54・SD60 断面(北から)



D区 SD85・SD86 断面(北から)



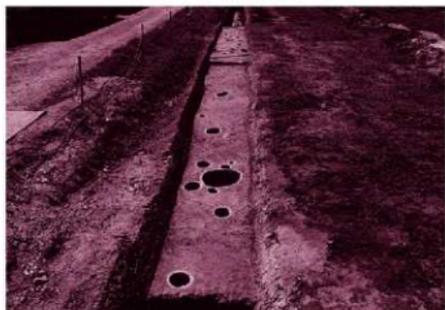
D区 SP112 断面(南から)



E区上層 表土掘削作業（北東から）



E区上層 遺構発掘作業（南から）



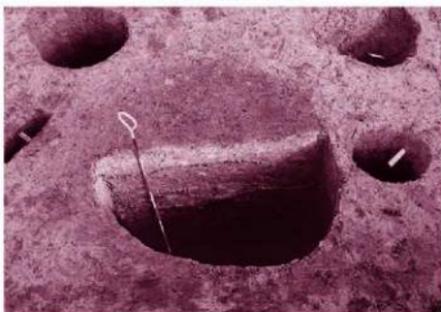
E区上層 全景（北から）



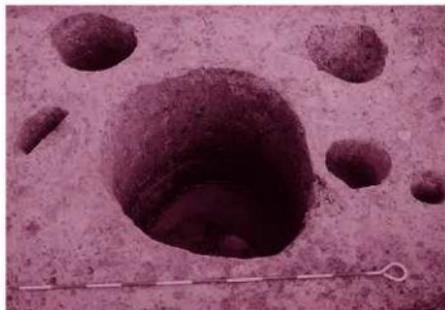
E区上層 全景（南から）



E区上層 基本土層 断面（西から）



E区上層 SE15 断面（西から）



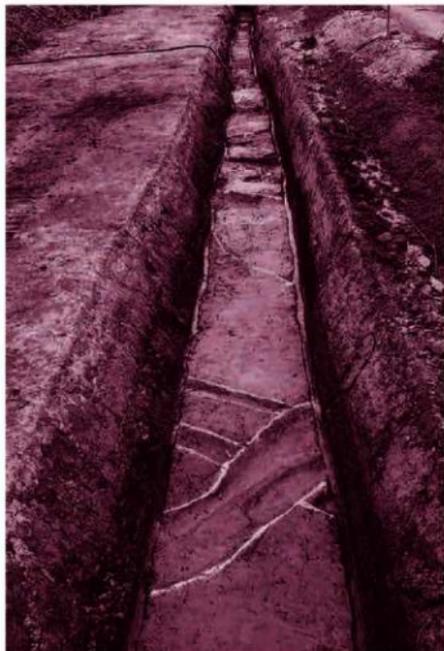
E区上層 SE15 完掘（西から）



E区上層 SD1 断面（西から）



E区上層 SP9 断面(西から)



E区下層 全景(南から)



E区下層 基本土層1 断面(北から)



E区下層 SK4・SD2 断面(西から)



E区下層 SD18 断面(西から)



E区下層 SD18 断面(北西から)



E区下層 SP16 断面(南から)



F区 近景 (西から)



F区 遺構発掘作業 (東から)



F区 全景 (東から)



F区 全景 (西から)



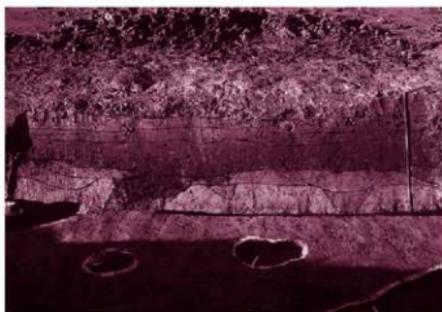
F区 全景 (東から)



F区 全景 (西から)



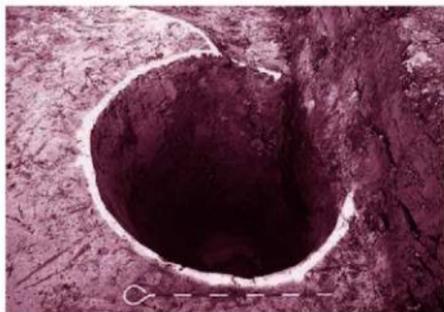
F区上層 全景 (東から)



F区 基本土層・SD14 断面 (南から)



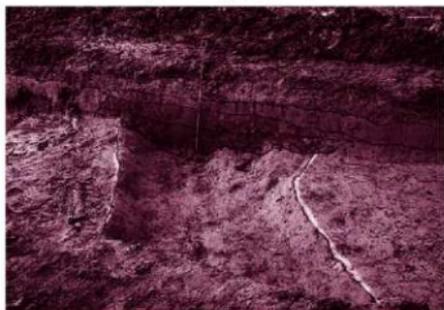
F区 SK11 断面 (南から)



F区 SK11 完掘 (南西から)



F区 SD5 断面 (北東から)



F区 SD9 断面 (南東から)



F区 SD10 断面 (南西から)



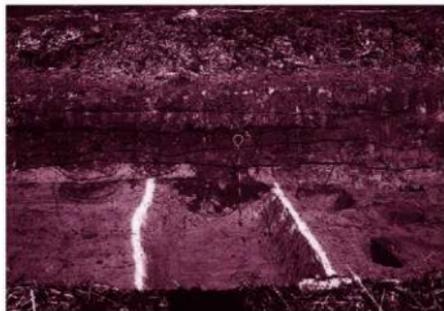
F区 SD10 木5出土状況 (南から)



F区 SD10 木5出土状況 (西から)



F区 SD10 木5出土状況 (北から)



F区 SD31 断面 (南から)



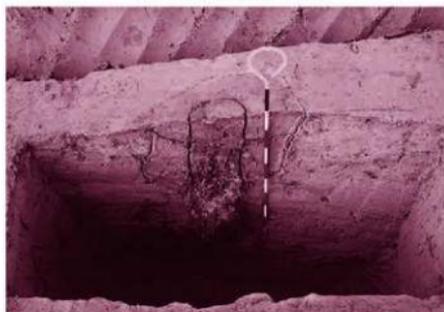
F区 SD74・SD76 断面 (南東から)



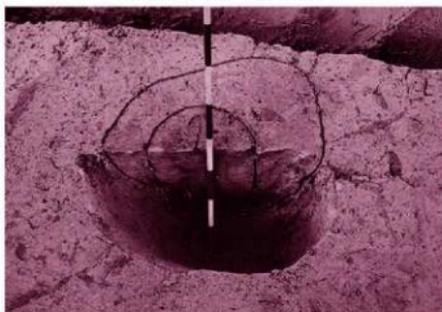
F区 SD79 断面 (南西から)



F区 SD90 断面 (南西から)



F区 SP48 断面 (南から)



F区 SP64 断面 (南から)



F区 河川 20 断面 (北西から)



F区 河川 20 断面 (北西から)



G区 近景(東から)



G区 表土掘削作業(西から)



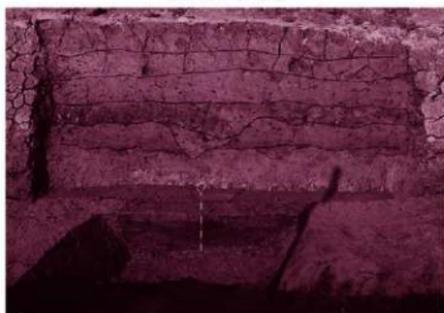
G区 遺構発掘作業(東から)



G区 全景(西から)



G区 全景(東から)



G区 SD6 断面(南から)



G区 SD11 断面(南から)



G区 河川5 断面(南東から)



G区 河川5 全景(南東から)



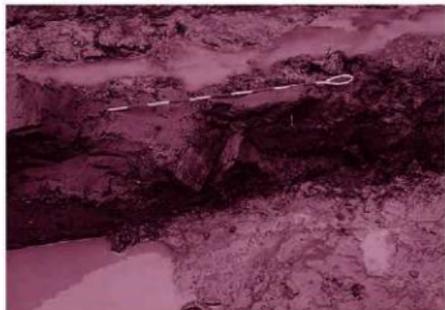
G区 河川9・河川10 断面(南西から)



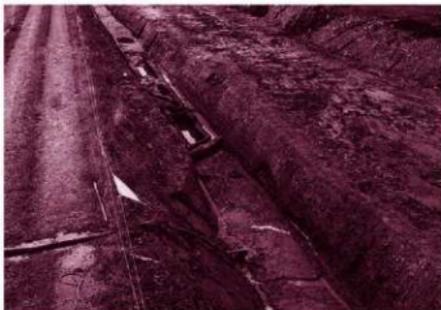
G区 河川9・河川10 断面(南東から)



G区 河川10 木9出土状況(北西から)



G区 河川10 木10出土状況(南から)



G区 河川9・河川10 全景(南東から)



G区 SD21・河川26 断面(南東から)



G区 SD21・河川26 断面(部分)(南から)



H区 近景 (西から)



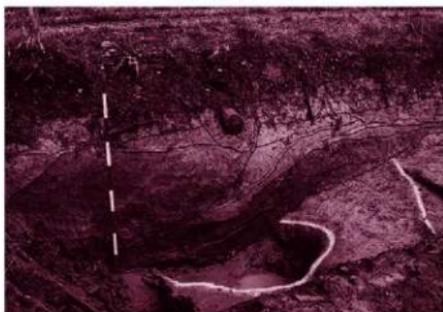
H区 遺構発掘作業 (東から)



H区 全景 (西から)



H区 全景 (東から)



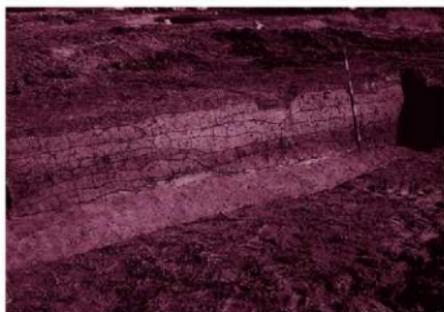
H区 SK12・河川1 断面 (南から)



H区 SD3 断面 (北から)



H区 河川2 断面 (北から)



H区 河川5 断面 (南西から)



1区 近景 (南東から)



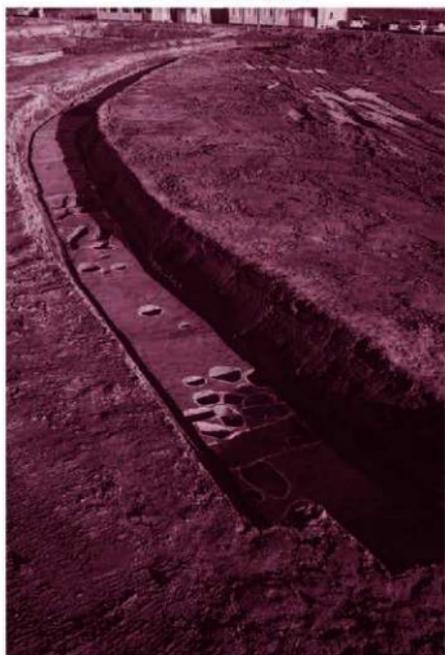
1区 表土掘削作業 (西から)



1区 遺構発掘作業 (西から)



1区 遺構断面実測 (南西から)



1区 全景 (西から)



1区 全景 (部分) (東から)



1区 全景 (部分) (北から)



I区 基本土層 断面(北東から)



I区 SB1 全景(西から)



I区 SB1-1 (SP29) 断面(西から)



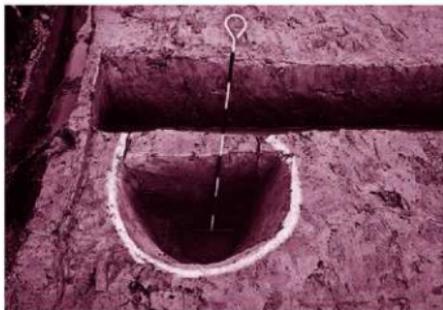
I区 SB1-2 (SP30) 断面(南から)



I区 SB1-3 (SP50) 断面(南から)



I区 SK34・SK47 断面(北東から)



I区 SP64 断面(西から)



I区 SB1 周辺噴砂確認状況(東から)



J区 近景(南から)



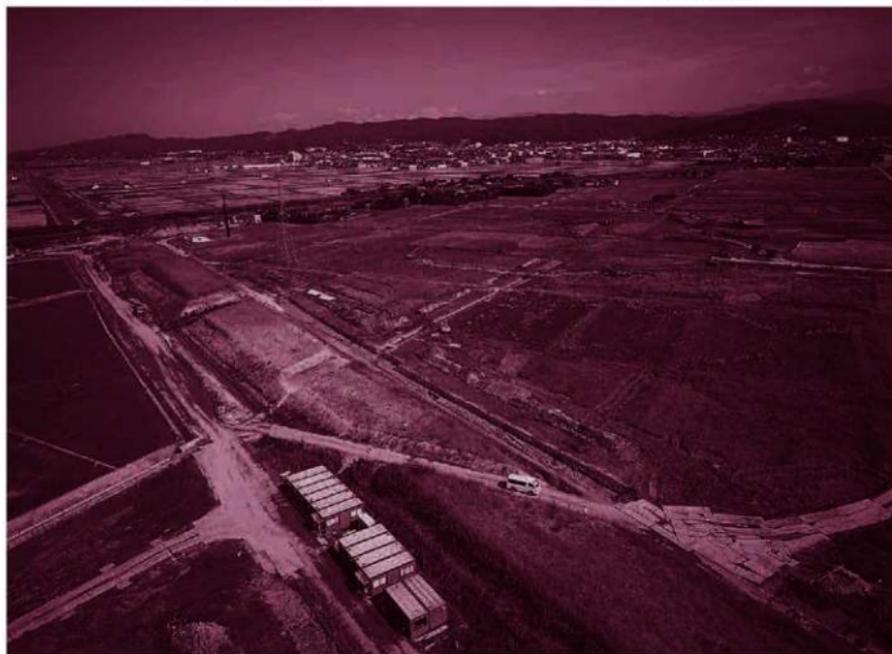
J区 表土掘削作業(南西から)



J区 遺構発掘作業(南西から)



J区 遺構発掘作業(南から)



J・K区 全景 空中写真(南西から)



J・K区 全景 空中写真 (北から)



J・K区 全景 空中写真 (西から)



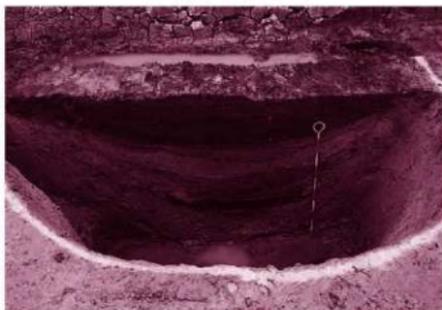
J区 全景(南から)



J区 南端部 全景(北から)



J区 基本土層 断面(北東から)



J区 SE87 断面(東から)



J区 SE87 木53出土状況(東から)



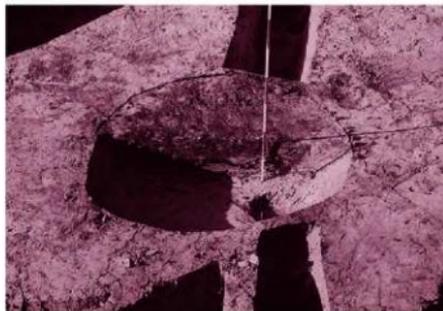
J区 SK15 断面③(北から)



J区 SK15 断面④(西から)



J区 SK15 完掘(北西から)



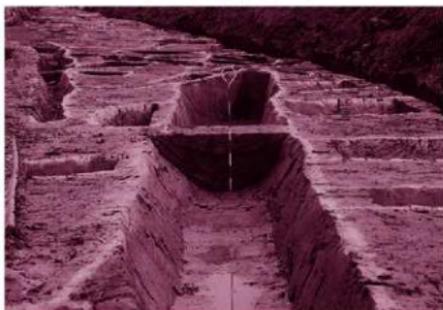
J区 SK29 断面(南から)



J区 SK89 断面(北西から)



J区 SK90 断面(南から)



J区 SD20 断面(南から)



J区 SD34 断面(南東から)



J区 SD67 断面(西から)



J区 SD67 木6出土状況(西から)



J区 SD71 遺物出土状況(南東から)



J区 SD86 断面(南から)



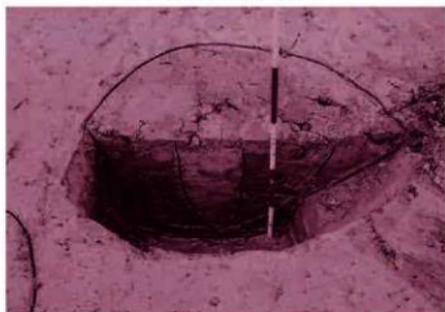
J区 SD20周辺 完掘(南西から)



J区 SD42周辺 完掘(北から)



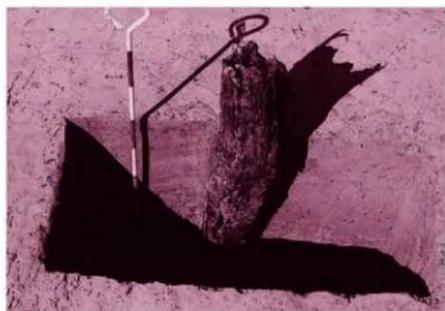
J区 SD47周辺 完掘(北西から)



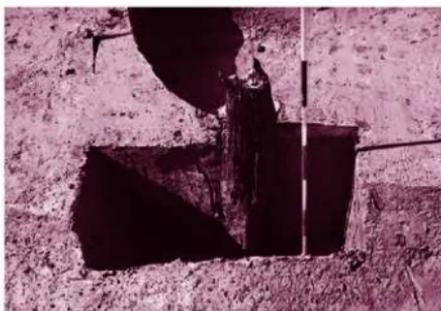
J区 SP85 断面(南から)



J区 SP100 断面(東から)



J区 SP101 断面(東から)



J区 SP103 断面(北東から)



K区 遺構発掘作業（南から）



K区 遺構発掘作業（北から）



K区 遺構発掘作業（南から）



K区 遺構発掘作業（南から）



K区 遺構発掘作業（南西から）



K区 遺構発掘作業（南から）



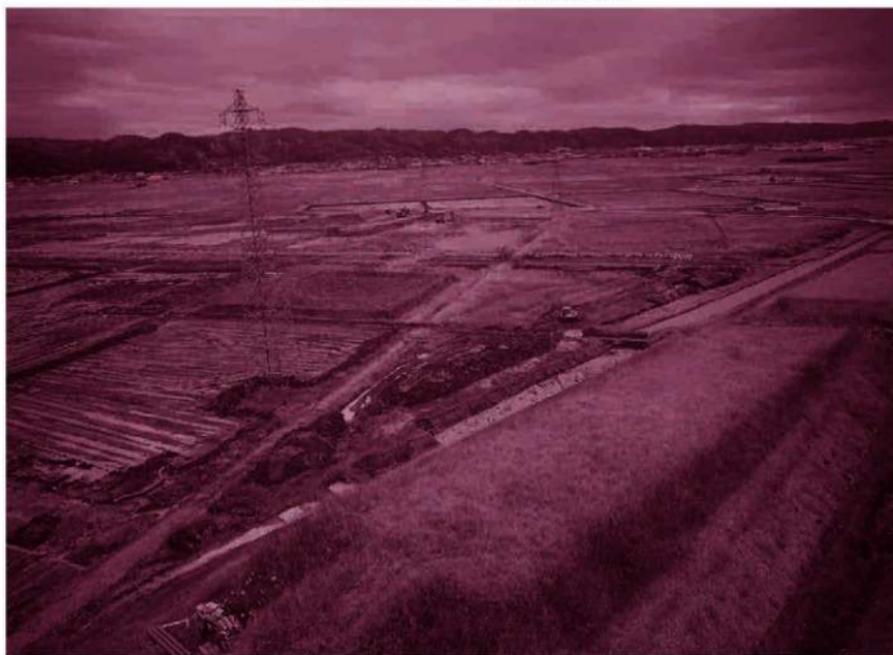
K区 空中写真撮影（北東から）



2006年 調査スタッフ



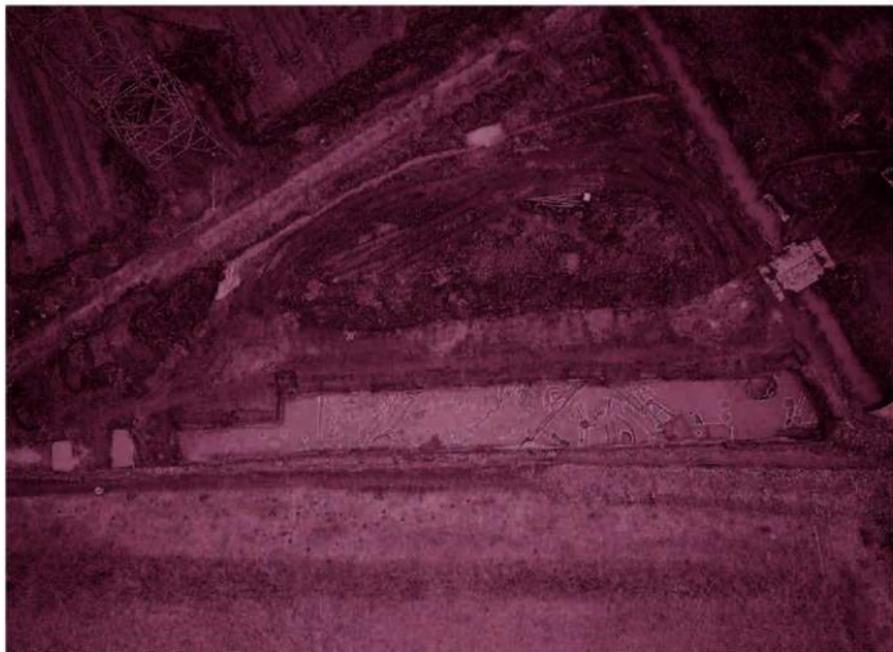
K区 全景 空中写真 (D区・J区・K区の合成) (南東から)



K区 全景 空中写真 (北から)



K区 全景 空中写真 (北東から)



K区 全景 空中写真 (北西から)



K区 G3～H4グリッド 全景(南西から)



K区 I6グリッド 全景(北から)



K区 基本土層 断面(南東から)



K区 木26出土状況(南から)



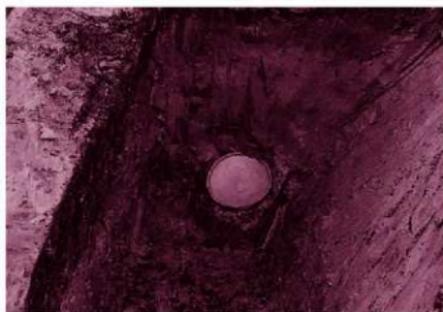
K区 SK1 434出土状況(北西から)



K区 SK19 遺物出土状況(南から)



K区 SK74 断面(西から)



K区 SK74 441出土状況(西から)



K区 SK77 断面 (南から)



K区 SK190 金2出土状況 (東から)



K区 SD51 断面 (南から)



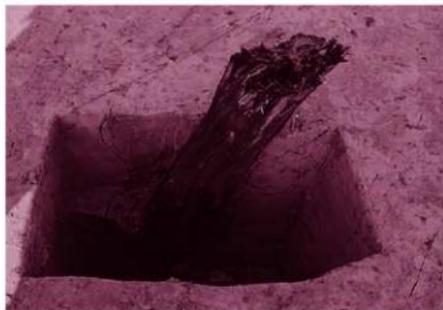
K区 SD98 遺物出土状況 (南から)



K区 SD193 断面 (南から)



K区 SD193 474・475 出土状況 (東から)



K区 SP32 断面 (南から)



K区 SP61 断面 (北西から)

SD1 (1)



1

SD2 (2・3)

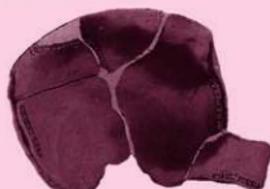


2



3

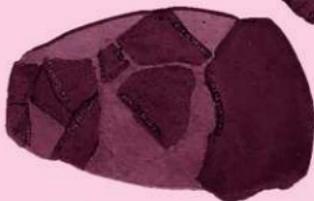
河川1・2 (5~16・18)



6



5



10



8



11



14



15



15



13



18



16



18



12



9



10



8



11



16

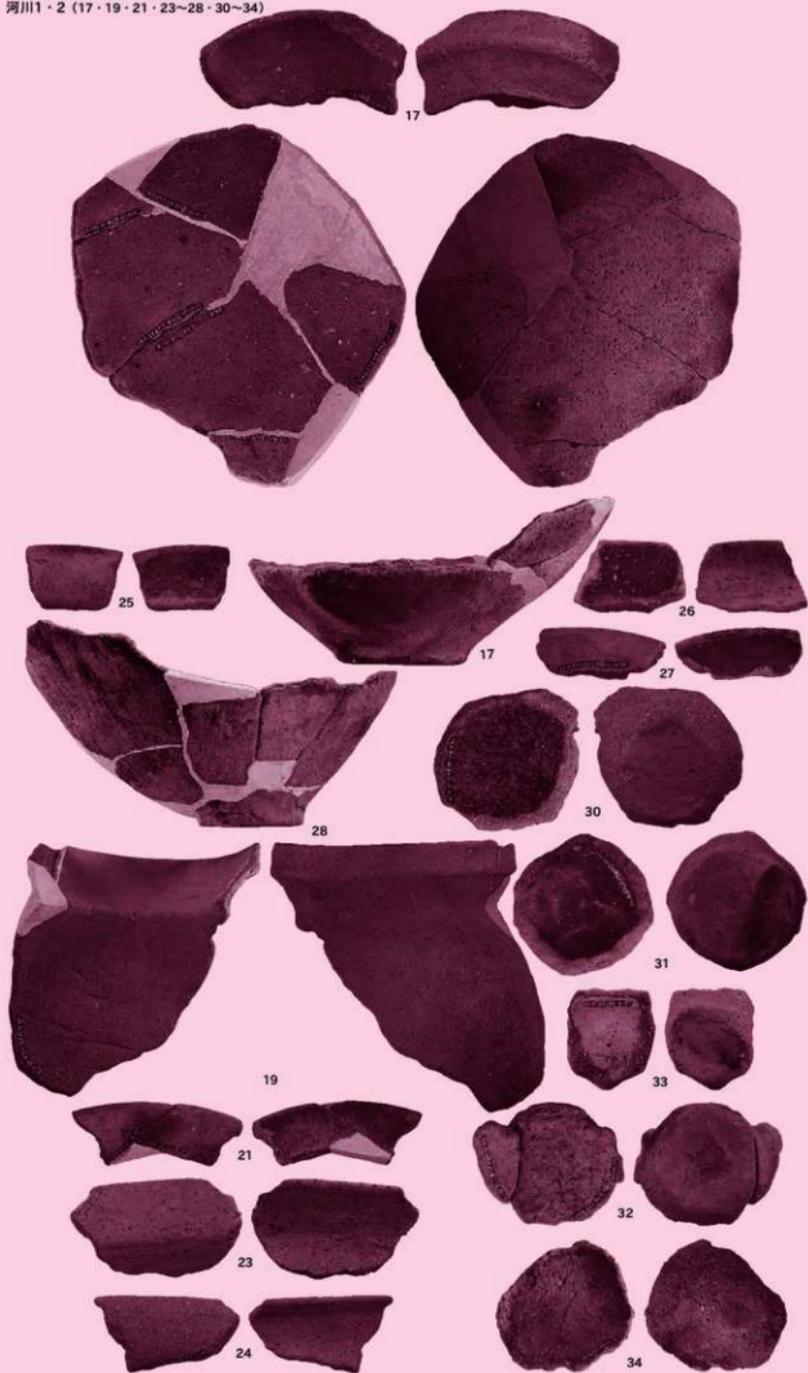
SD6 (4)



4

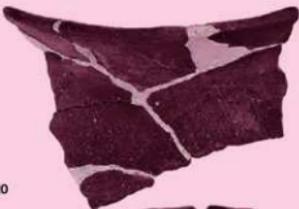
河川1・2 (17・19・21・23~28・30~34)

A区  
出土土器(2)





20



22



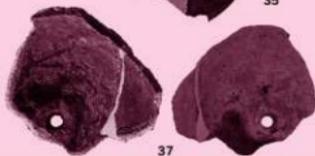
29



35



36



37

SK2 (38)



38

SK3 (39)



39

SD3 (43・44)

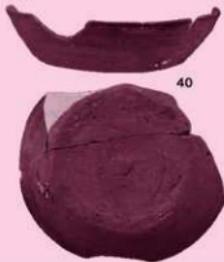


43



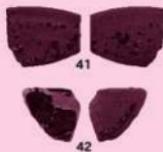
44

SK4 (40)



40

SD2 (41・42)



41



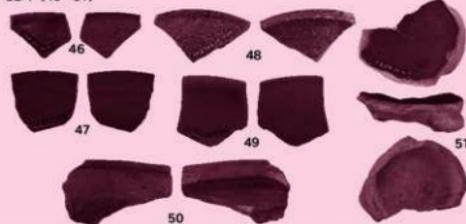
42

SD4 (45)



45

SD4 (46~51)



SD5 (52)



SD19 (54)



SD9 (53)



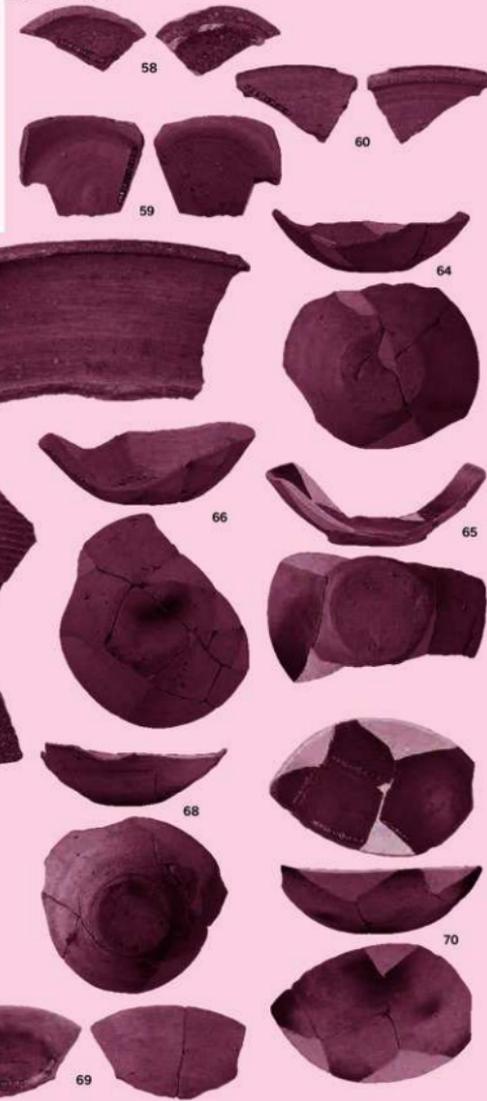
SD20 (55)

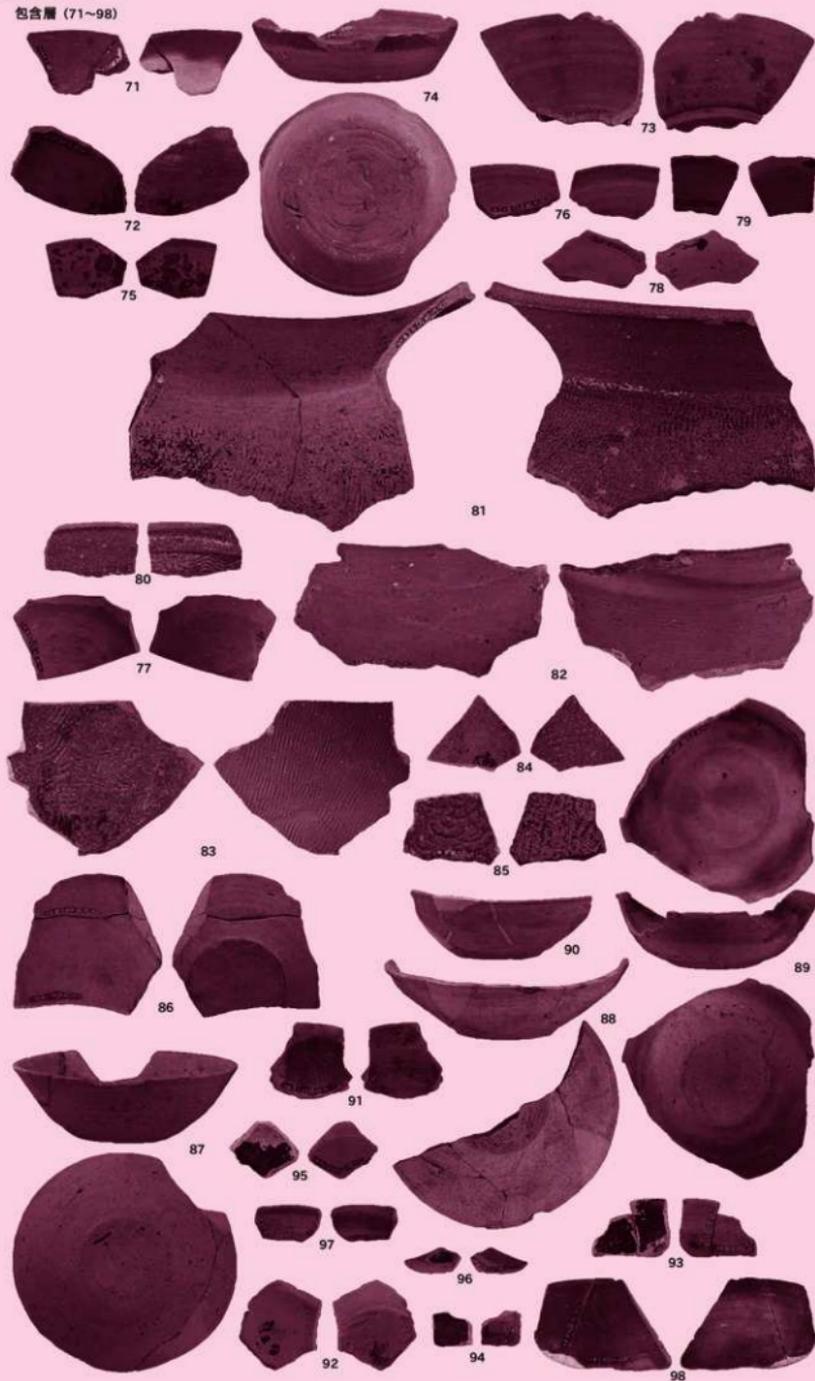


SP7 (56・57)



河川11 (58~70)





出土遺物5  
80・83  
(S=1:4)  
他  
(S=1:3)

B区  
出土土器 (3)

## 出土遺物6

101・107

108・113

117~119

(S=1:4)

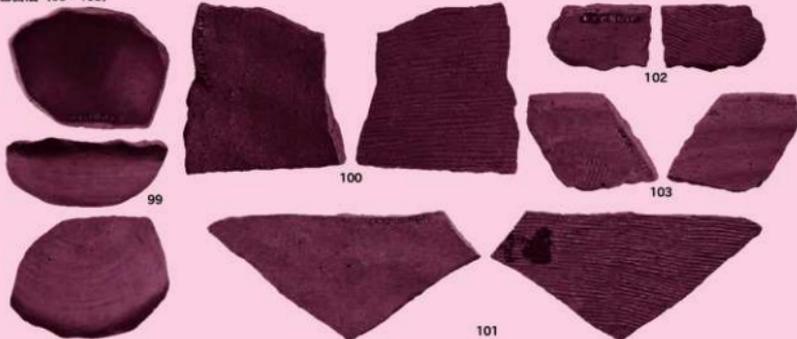
他

(S=1:3)

## B区

出土土器 (4)

## 包含層 (99~103)



## C区上層

出土土器

## SE1 (104)



104

## SE2 (105)



105

## SE5 (106)



106

## SK2 (109)



109

## SE7 (107・108)



107



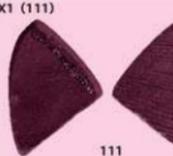
108

## SK4 (110)



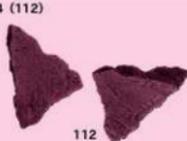
110

## SK1 (111)



111

## SD4 (112)



112

## SD6 (113)



113

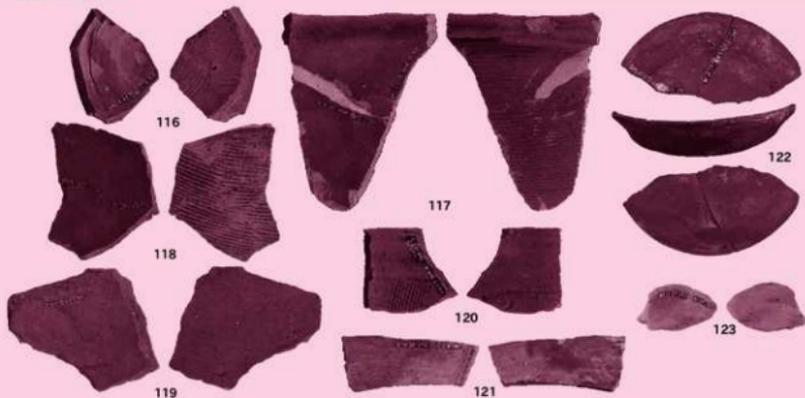
## 河川 (114・115)



114

115

## 包含層 (116~123)



116

117

118

120

119

121

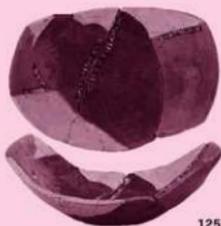
122

123

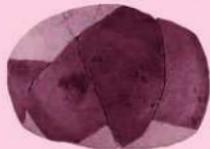
SE7 (124・125)



124



125



SK1 (126~128)



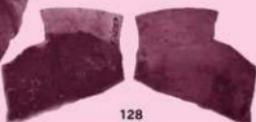
126



127



128



SK8 (130)



130



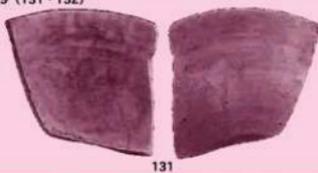
SK3 (129)



129



SD19 (131・132)

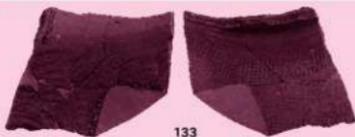


131



132

SD20 (133)



133

SD21 (134~136)



134



135



SD22 (137・138)



137

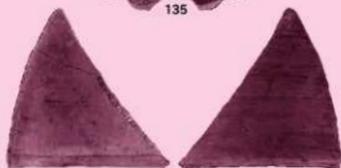


138

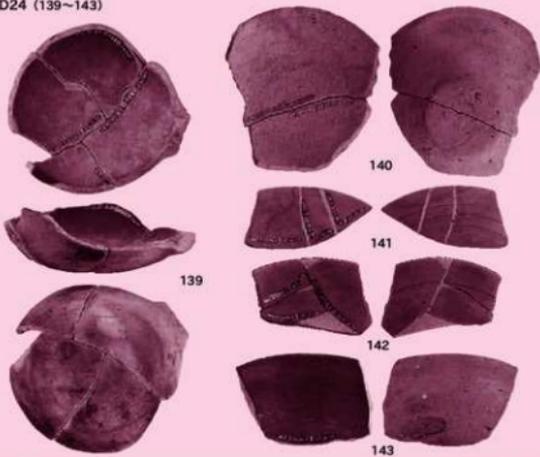
出土遺物7  
133・134  
(S=1:4)  
他  
(S=1:3)

C区下層  
出土土器 (1)

136



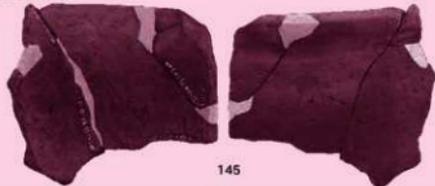
SD24 (139~143)



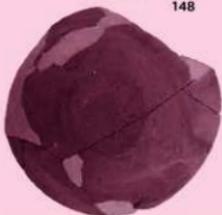
SD25 (144)



SD37 (145)



SD41 (146~148)



SD44 (149)



SD64 (151)



SD63 (150)



連携間接合 (153・154・158)

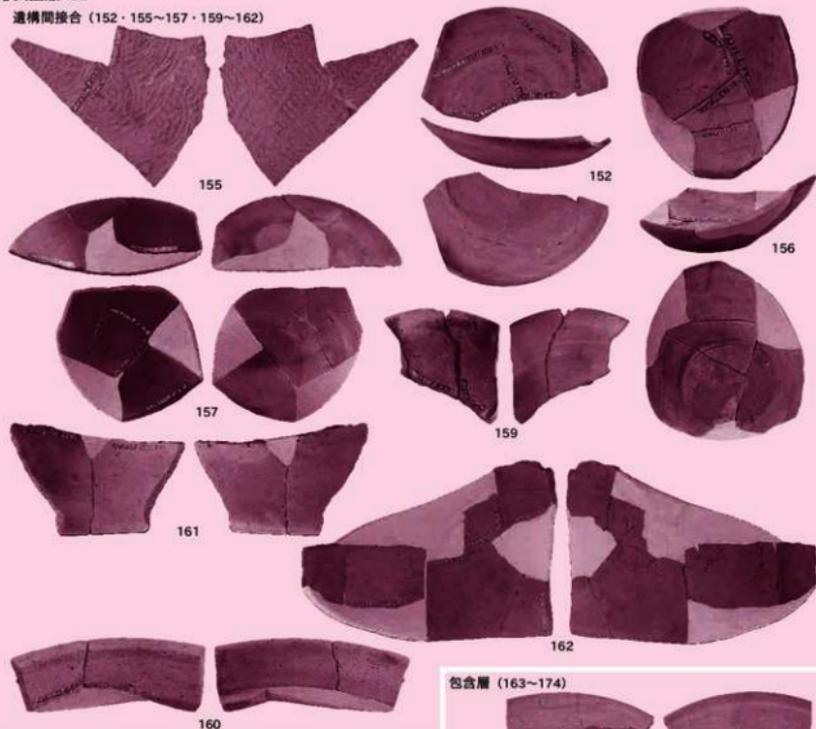


154

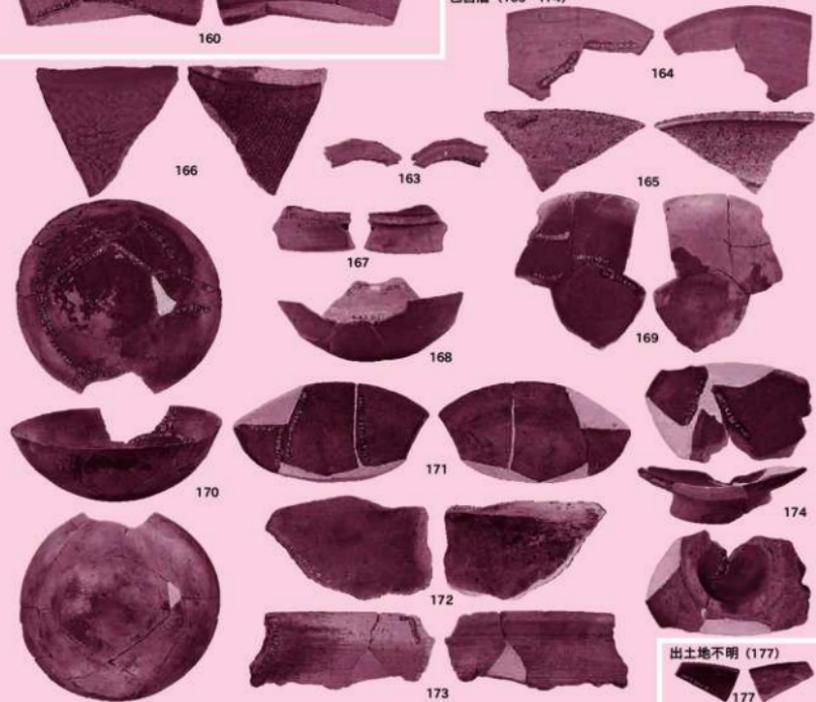
153

158

遺構間接合 (152・155~157・159~162)



包含層 (163~174)

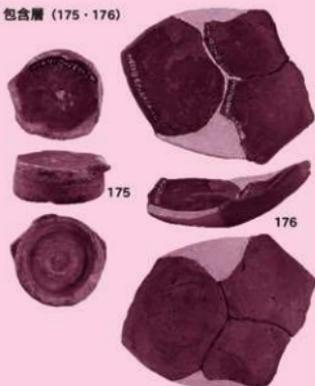


出土地不明 (177)

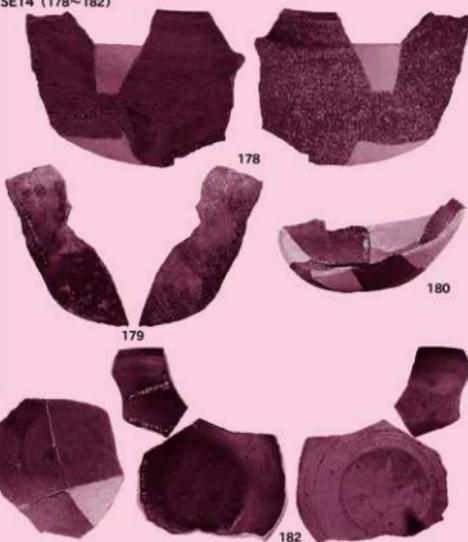
出土遺物10  
178・179  
(S=1:4)  
他  
(S=1:3)

C区下層  
出土土器 (4)

包含層 (175・176)



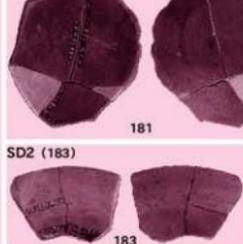
SE14 (178~182)



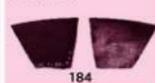
SD12 (185)



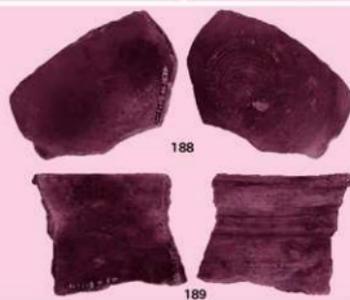
SD2 (183)



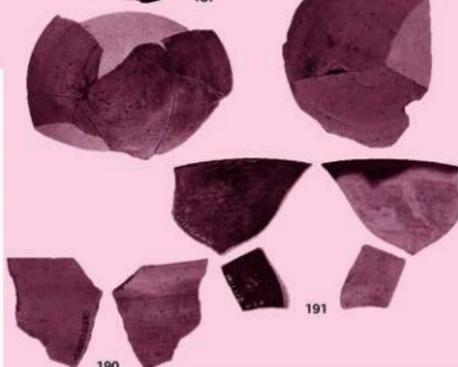
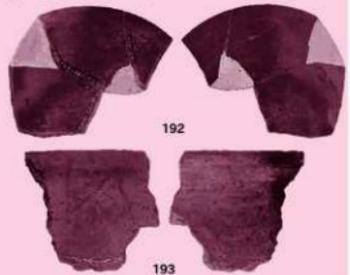
SD4 (184)



包含層 (186~191)



出土地不明 (192・193)



D区  
出土土器 (1)

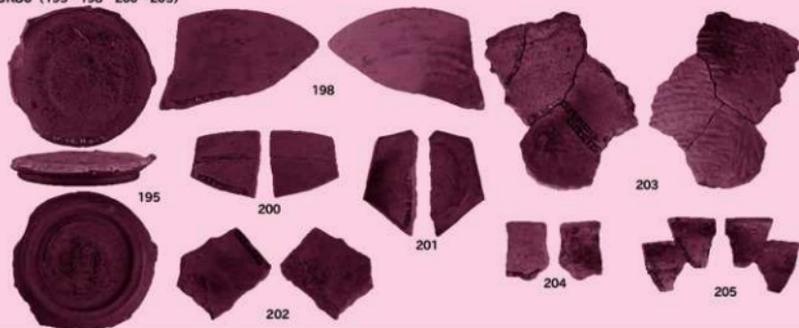
SK11 (194)



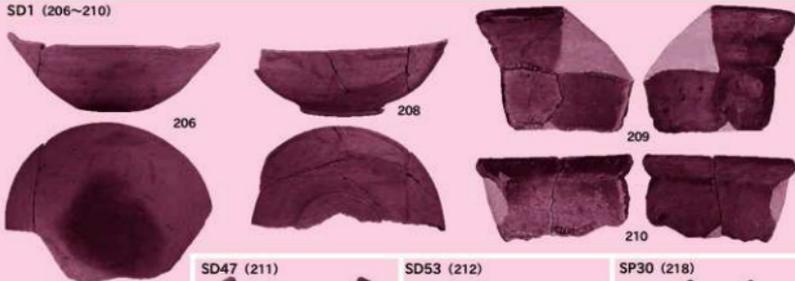
SK80 (196・197・199)



SK80 (195・198・200~205)



SD1 (206~210)



SD47 (211)



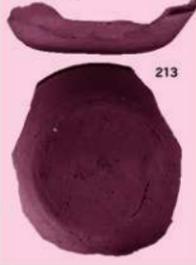
SD53 (212)



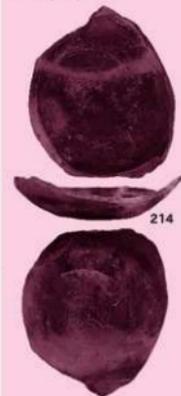
SP30 (218)



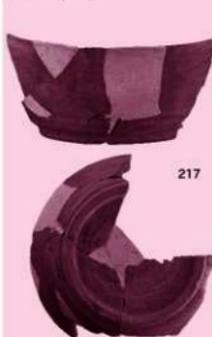
SD61 (213)



SD77 (214)



SD106 (217)



SD83 (215)



SD85 (216)



SP112 (219)



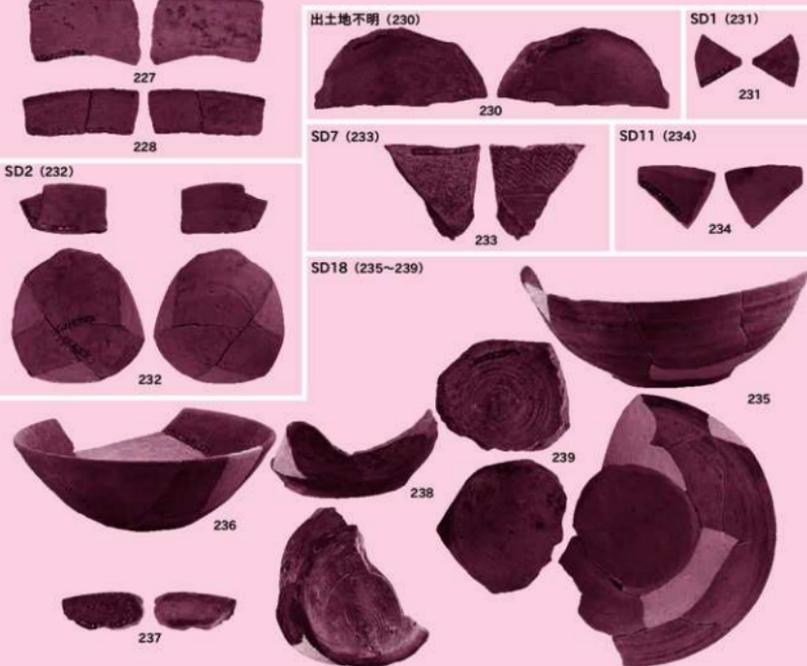
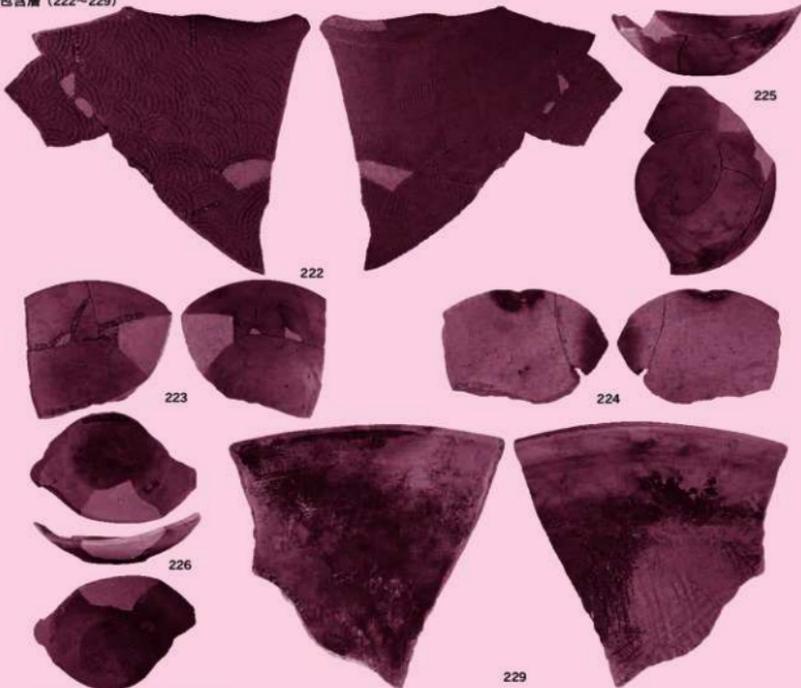
包含層 (221)

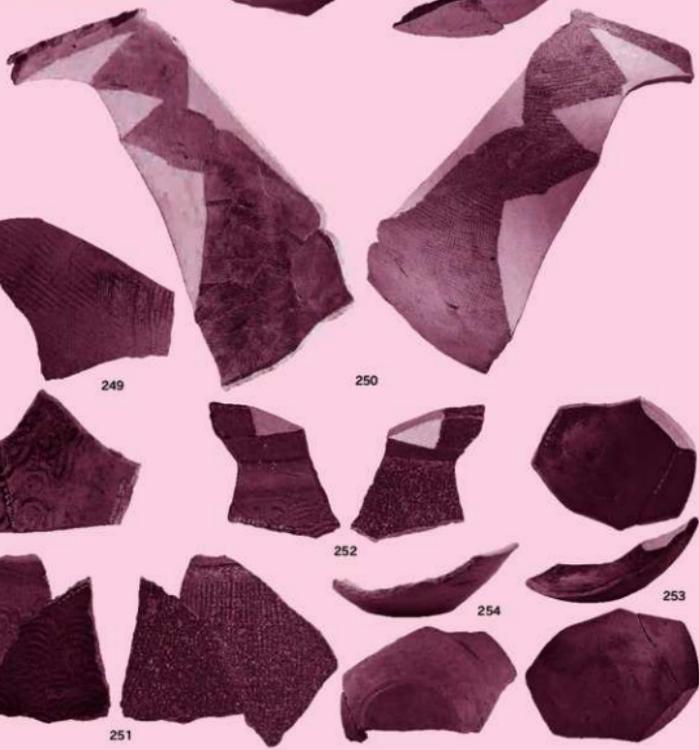
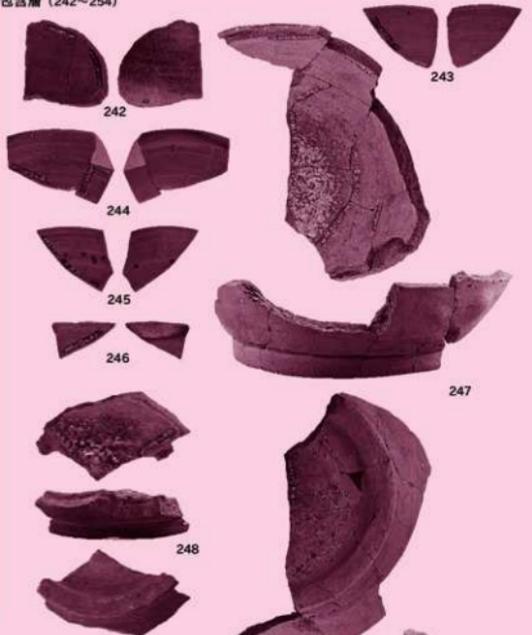


遺構間接合 (220)



包含層 (222~229)





249

250

252

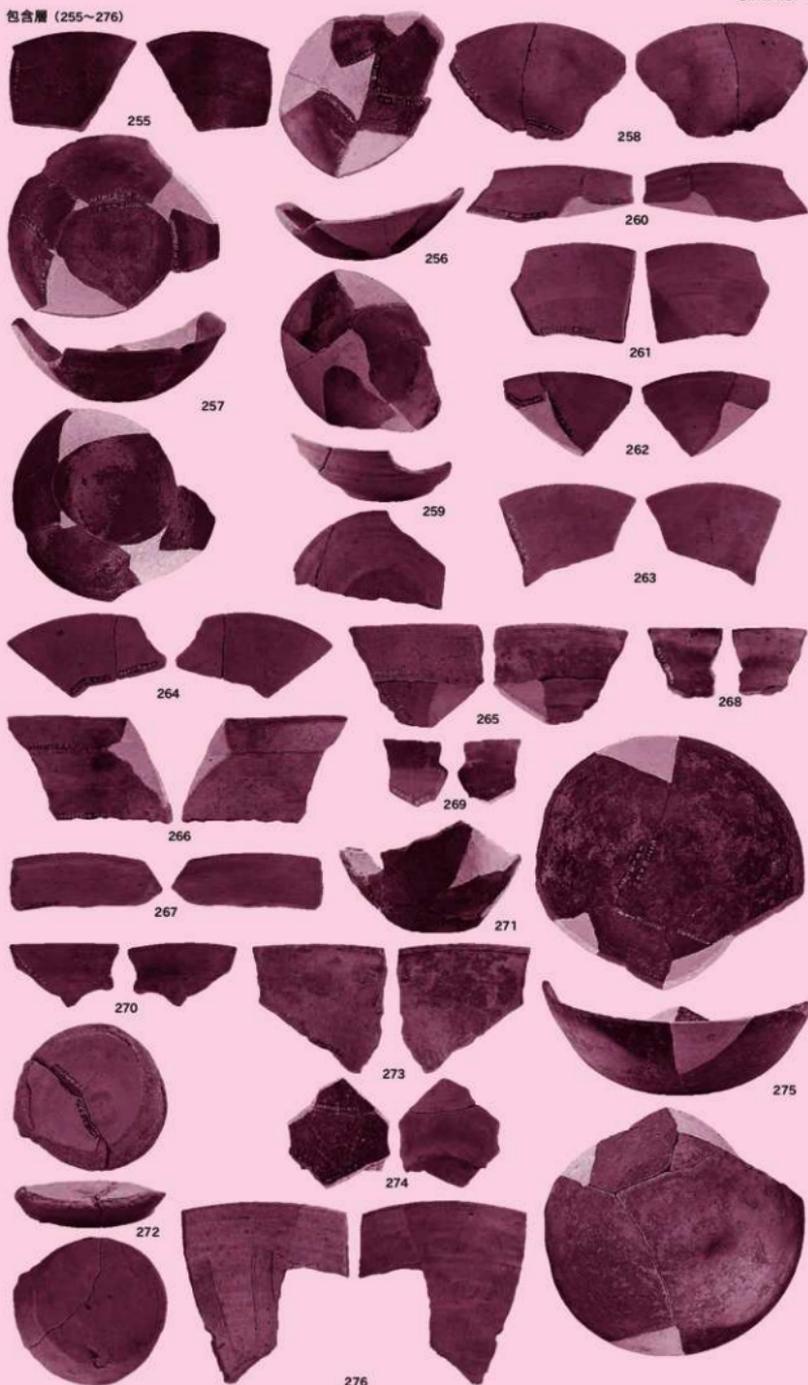
254

253

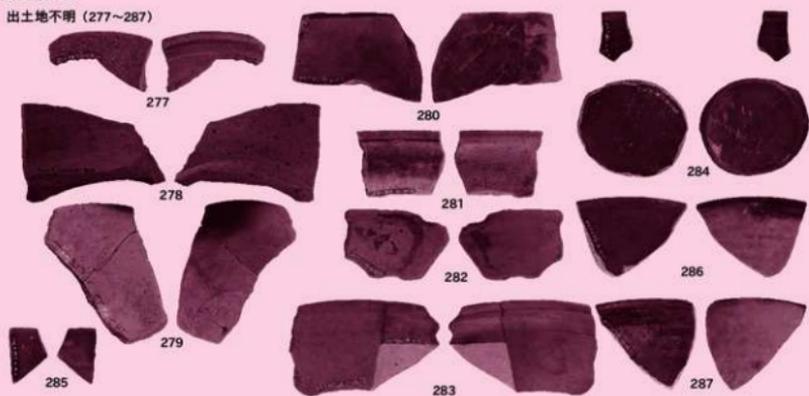
251

包含層 (255~276)

E区  
出土土器 (3)



出土地不明 (277~287)



SD1 (288)



SD3 (289)



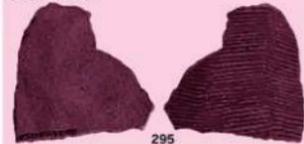
SD5 (290)



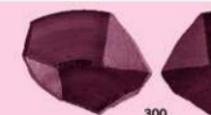
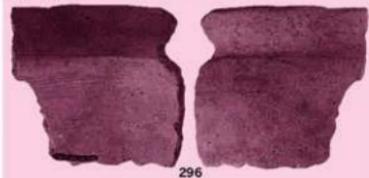
SD74 (294)



SD109 (295)



河川120 (296)



300



302



301



307



306



308

SD14 (292)



SD30 (293)



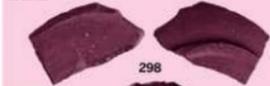
293

遺構間接合 (297)



297

包含層 (298~303・306~308)



298



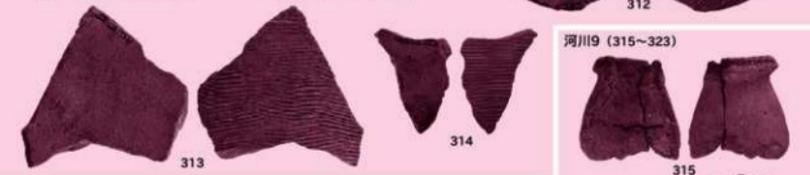
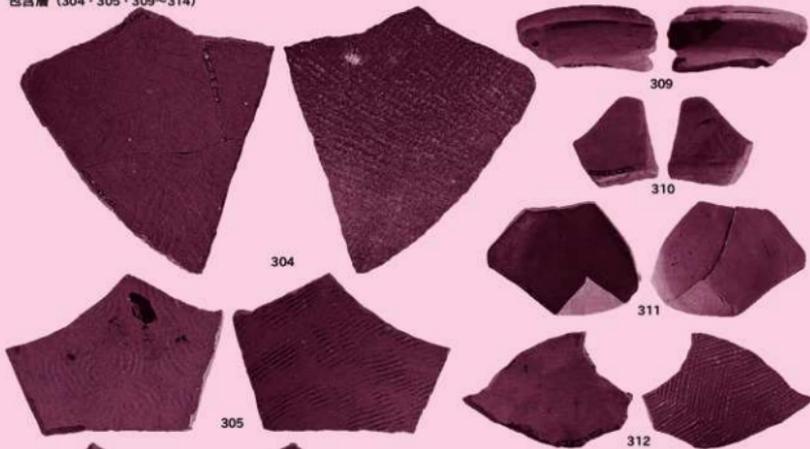
299



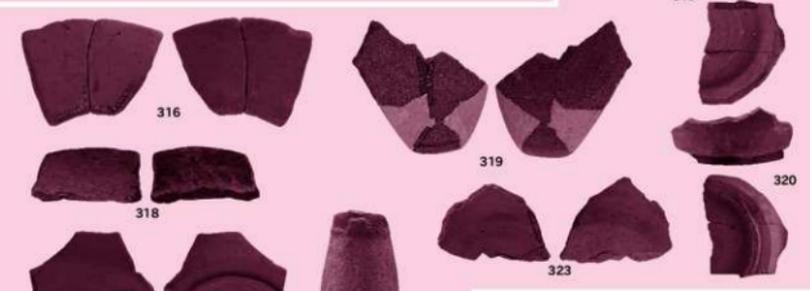
303

出土遺物15  
(S=1:3)E区  
出土土器 (4)F区  
出土土器 (1)

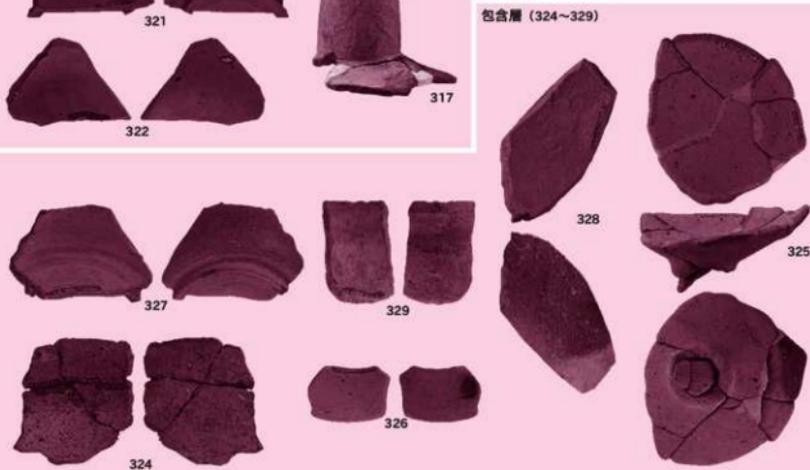
包含層 (304・305・309~314)

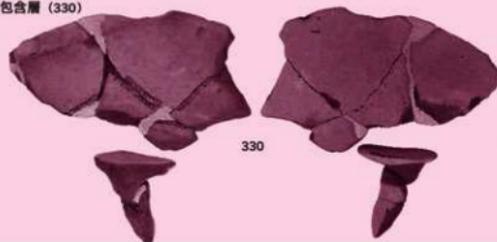


河川9 (315~323)



包含層 (324~329)





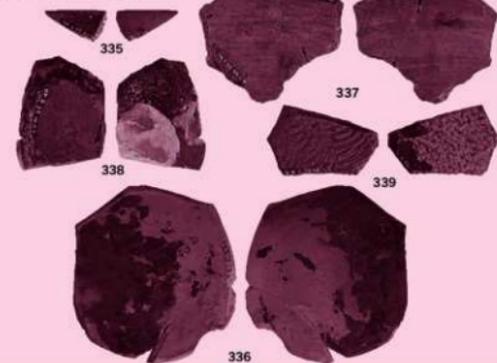
330

SK25 (331)



331

SD58・59 (335~339)



335

337

338

339

336

SX60・61 (332~334)



332

333

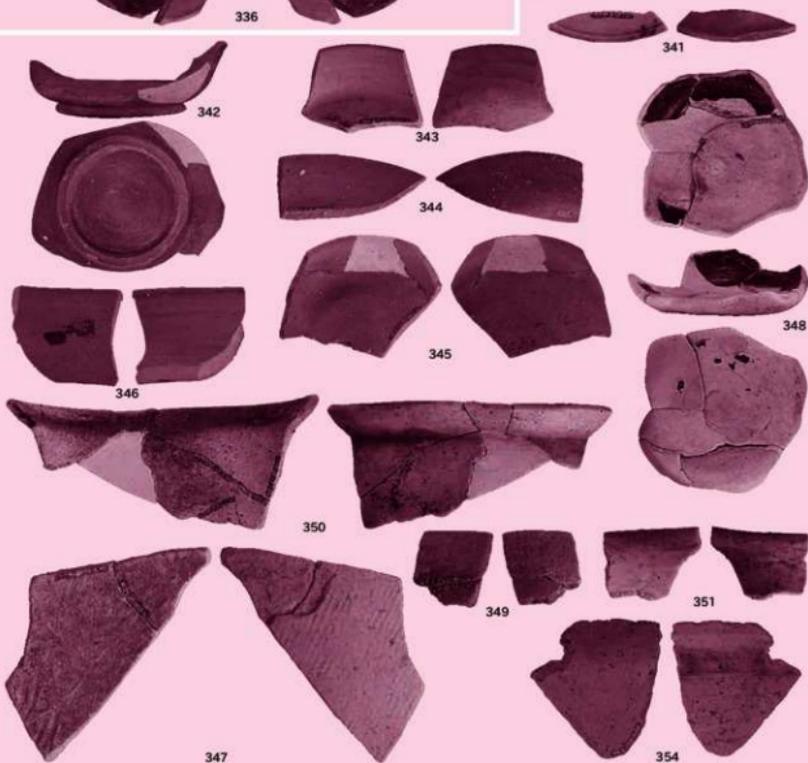
334

SP4 (340)



340

包含層 (341~351・354)



342

343

341

344

348

346

345

350

349

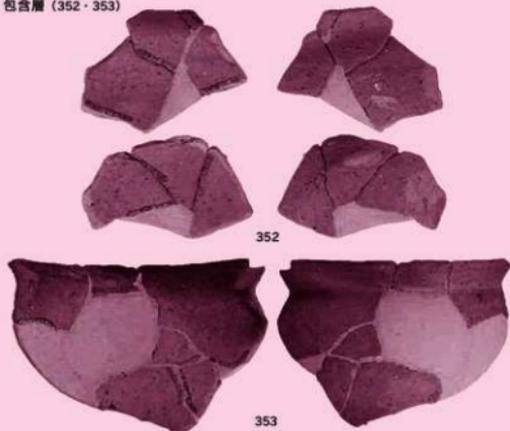
351

347

354

I区  
出土土器 (2)  
J区  
出土土器 (1)

包含層 (352 - 353)



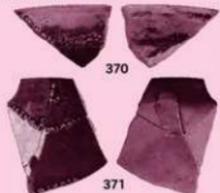
SE87 (355)



SK15 (356~369)



SK29 (370 - 371)



SD17 (372)



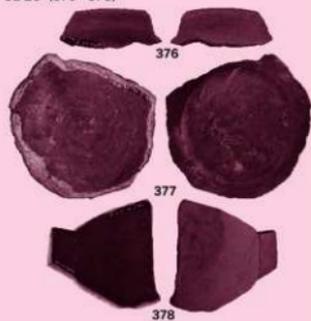
SD18 (373)



SD20 (374 - 375)



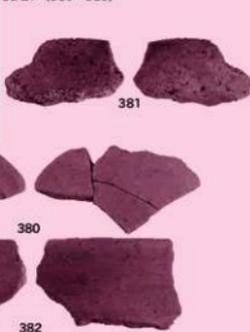
SD20 (376~378)



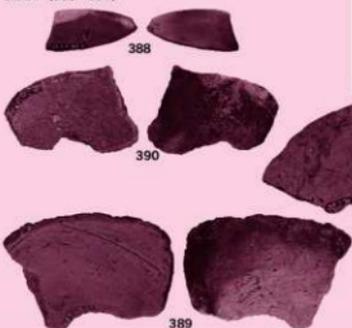
SD25 (379)



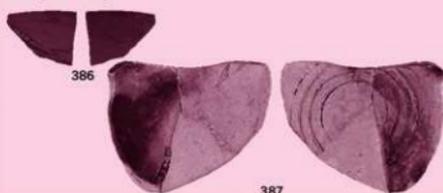
SD27 (380~385)



SD31 (388~391)



SD30 (386・387)



SD35 (394)



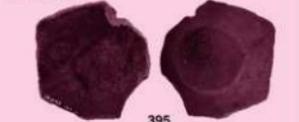
SD56 (397)



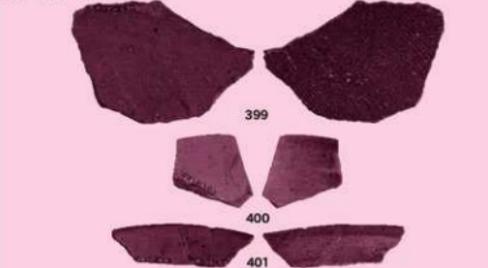
SD63 (398)



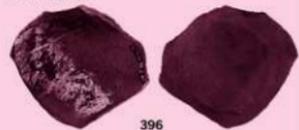
SD42 (395)



SD67 (399~401)



SD44 (396)



SD71 (402~407)



402



403



404



405



406



407

SD86 (408・409)



408



409

SP53 (410・411)



410



411

SP102 (414)



414

SP101 (412・413)

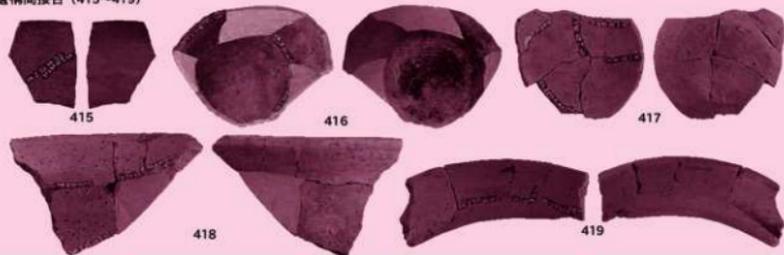


412

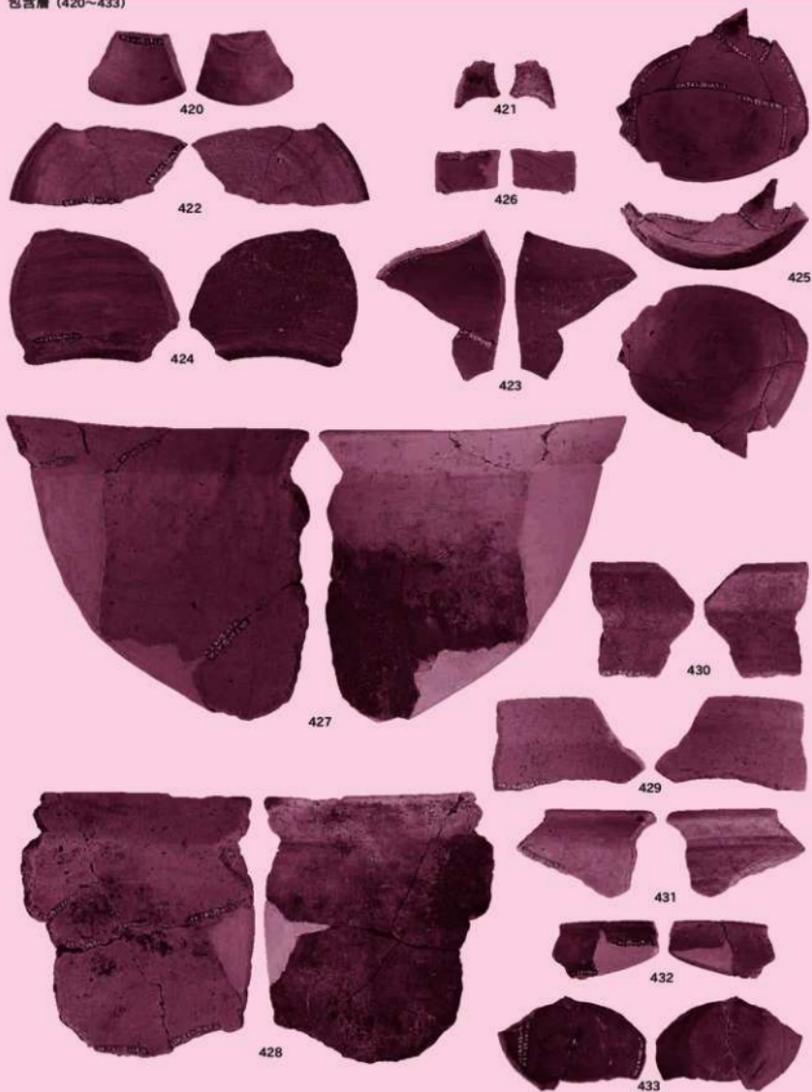


413

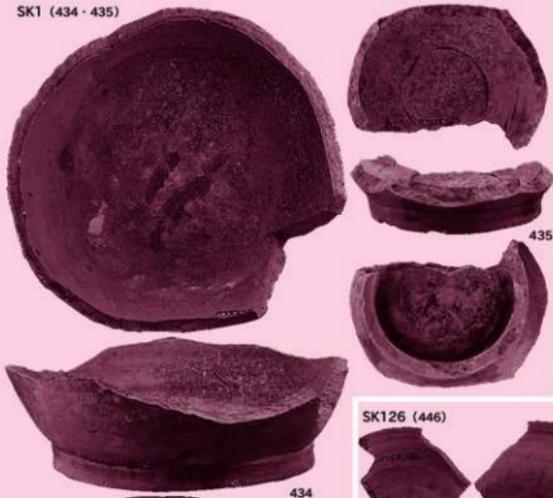
遺構間接合 (415~419)



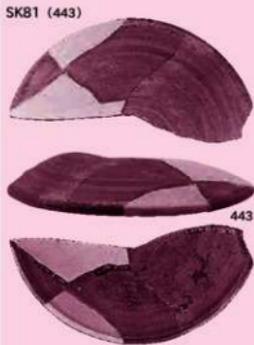
包含層 (420~433)



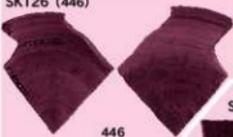
SK1 (434・435)



SK81 (443)



SK126 (446)



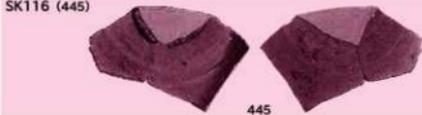
SK110 (444)



SK77 (442)



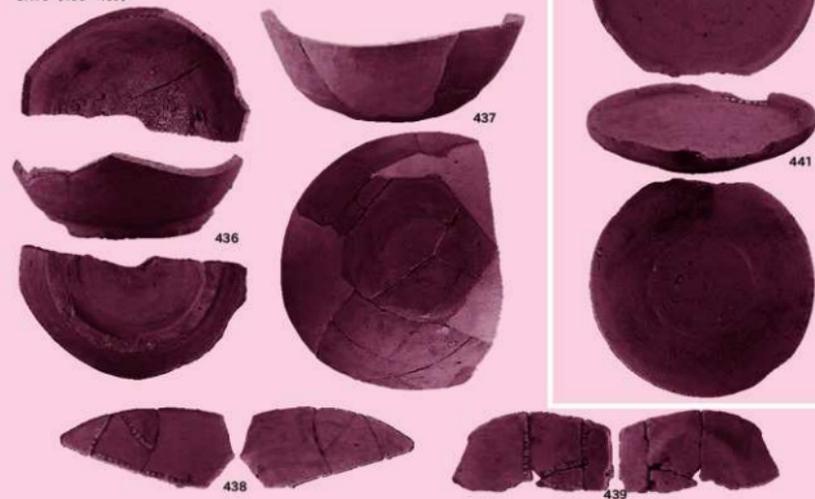
SK116 (445)

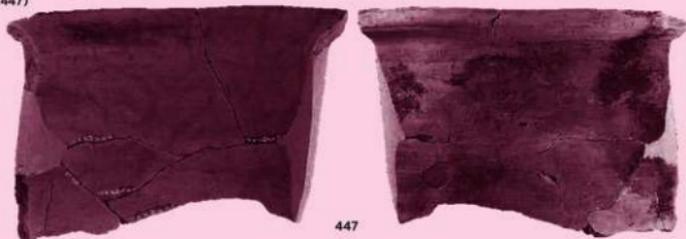


SK74 (440・441)



SK19 (436~439)





447

SK185 (448)



448

SK241 (450)



450

SD3 (451)



451

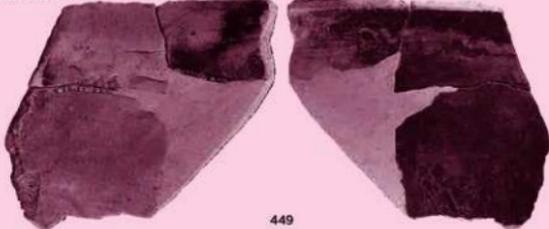
SD51 (458・459)



458



SK204 (449)



449

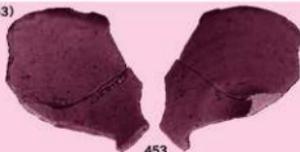
SD7 (452)



452



SD21 (453)



453

SD22 (454)



454

SD23 (455)



455

SD47 (457)



457

SD41 (456)

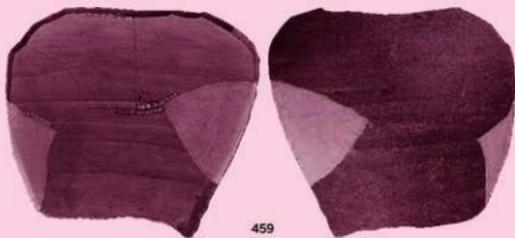


456

SD76 (460・461)



460

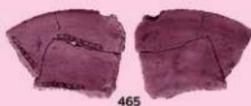


459

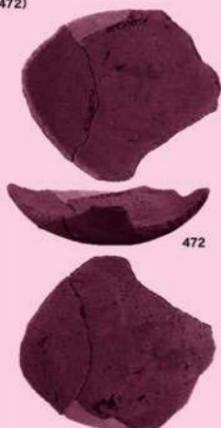


461

SD76 (462~465)



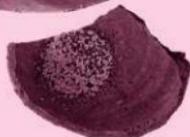
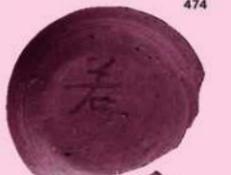
SD99 (472)



SD87 (466)



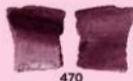
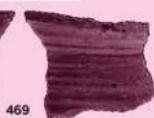
SD193 (474·475)



SD90 (467~471)



SD186 (473)



470

469

468

471

463

462

466

474

475

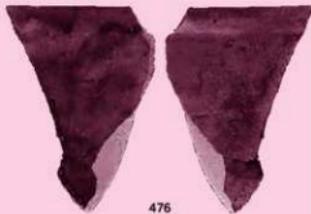
472

467

464

465

SD216 (476)



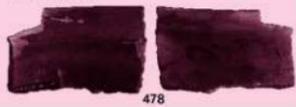
476

SD223 (477)



477

SD234 (478)



478

SPB (479)



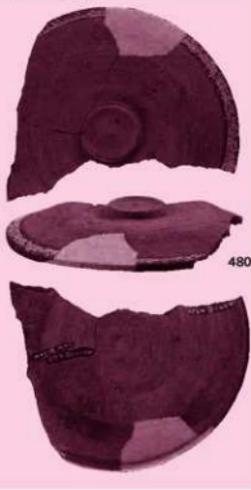
479

遺構間接合 (481~490)



481

SP135 (480)



480



482



483



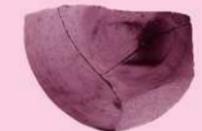
484



490



485



486



489



487



488

包含層 (491・492・494・495・497・500・501)



491



494



497



492



495



500

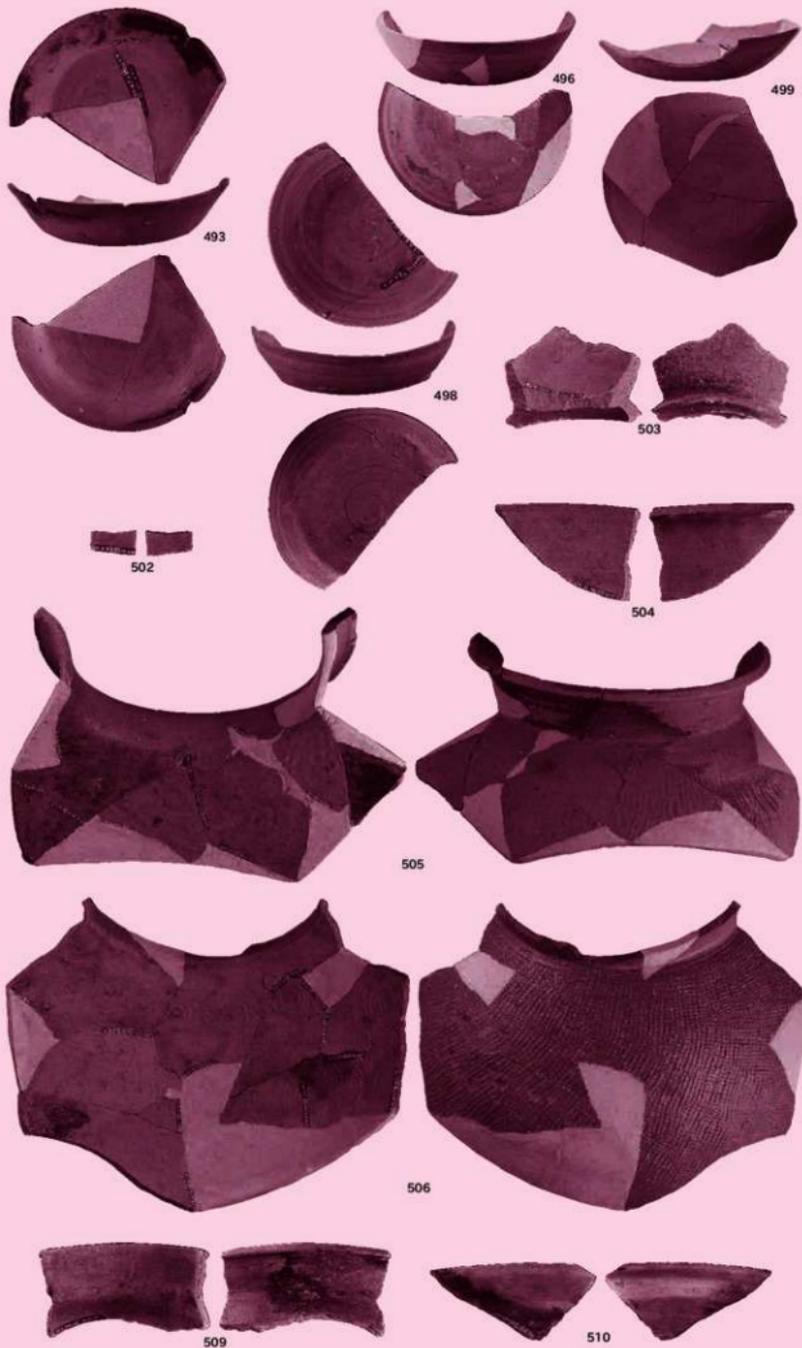


501

出土遺物25  
477  
(S=1:4)  
他  
(S=1:3)

K区  
出土土器 (4)

K区  
出土土器 (5)



包含層 (507・508・511~521)



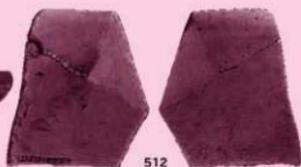
507



508



511



512



513



514



515



517



520



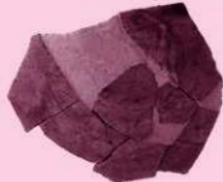
516



521



518



519

立会い (524~535)



525



526

出土地不明 (522・523)



522



524



527



523



528



532



529



530



531



533



534



535

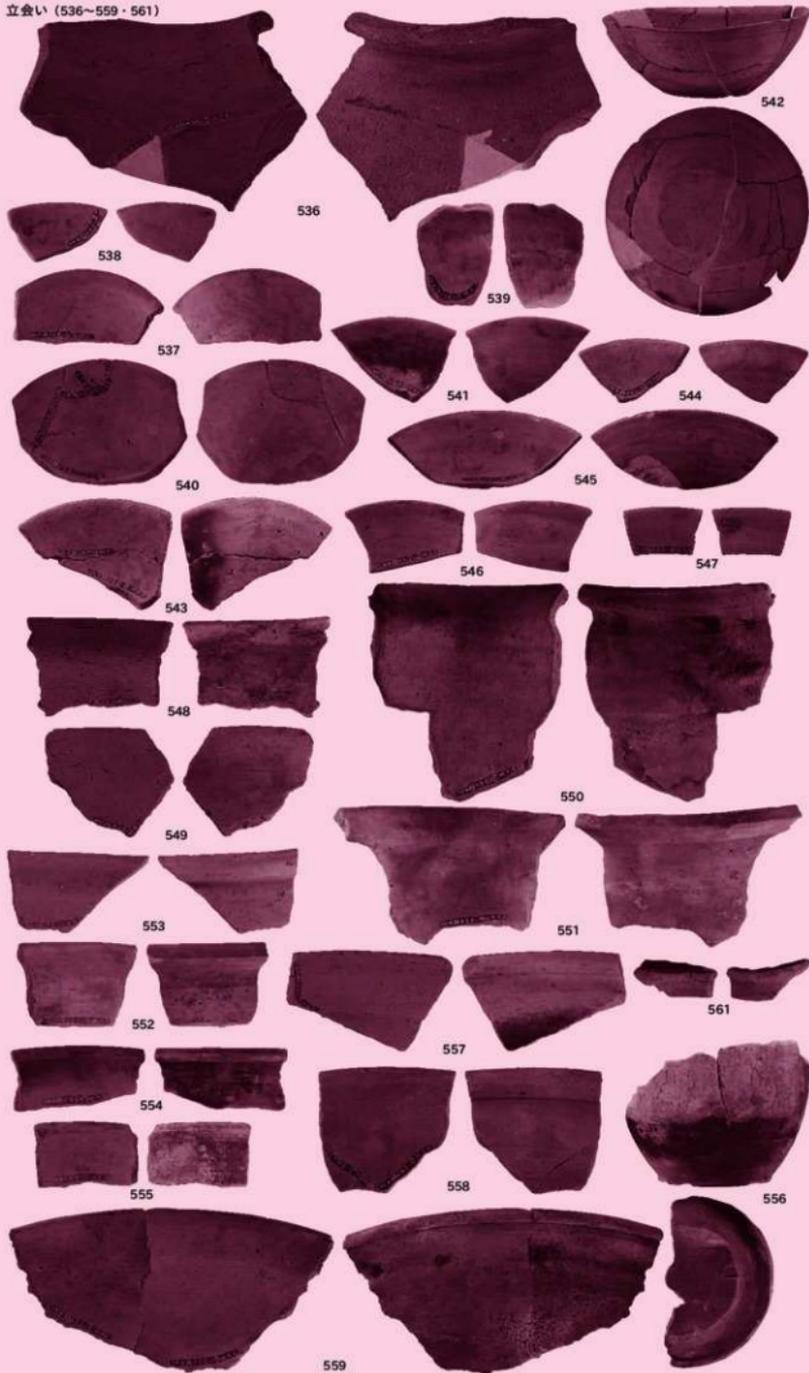
出土遺物27  
515  
(S=1:4)  
他  
(S=1:3)

K区  
出土土器 (6)

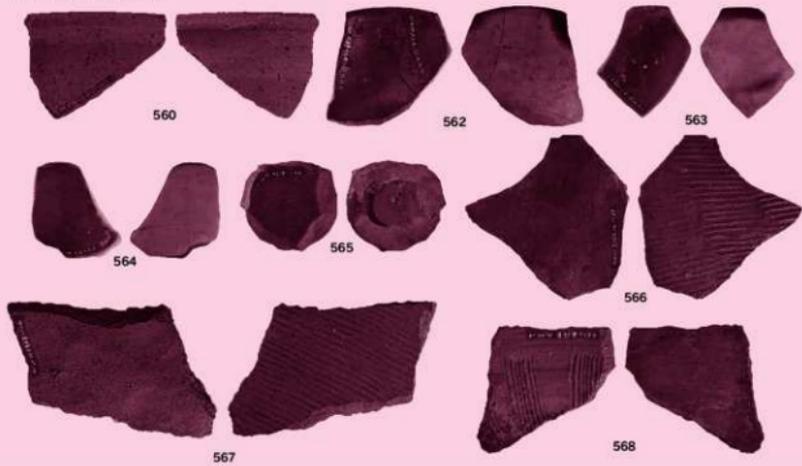
立会い  
出土土器 (1)

立会い  
出土土器 (2)

立会い (536~559・561)

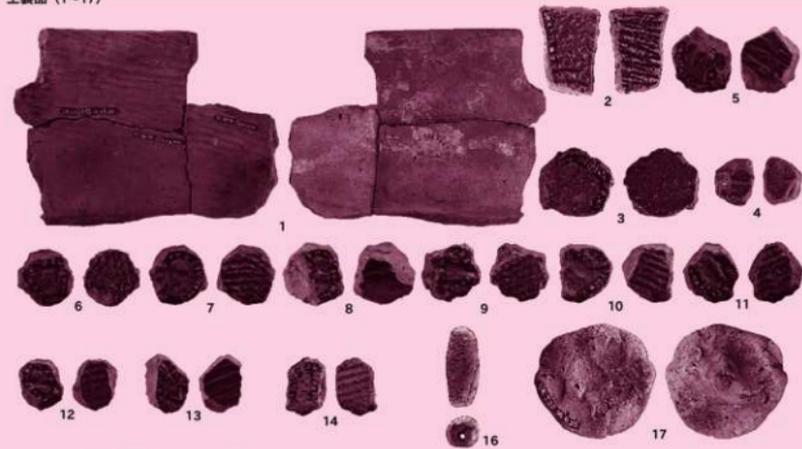


立食い (560・562~568)



出土遺物29  
土製品2~14・  
16・17  
金属製品1・2・  
4  
(S=1:2)  
他  
(S=1:3)  
立食い  
出土土器 (3)

土製品 (1~17)



土製品



金属製品 (1~4・6)

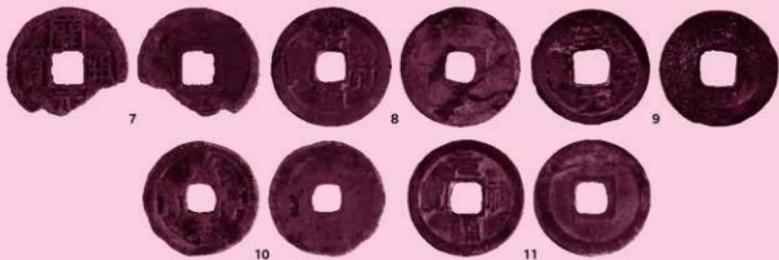


金属製品 (1)

金屬製品 (5・7~11)



金屬製品 (2)



石製品 (1)

石製品 (1~4)



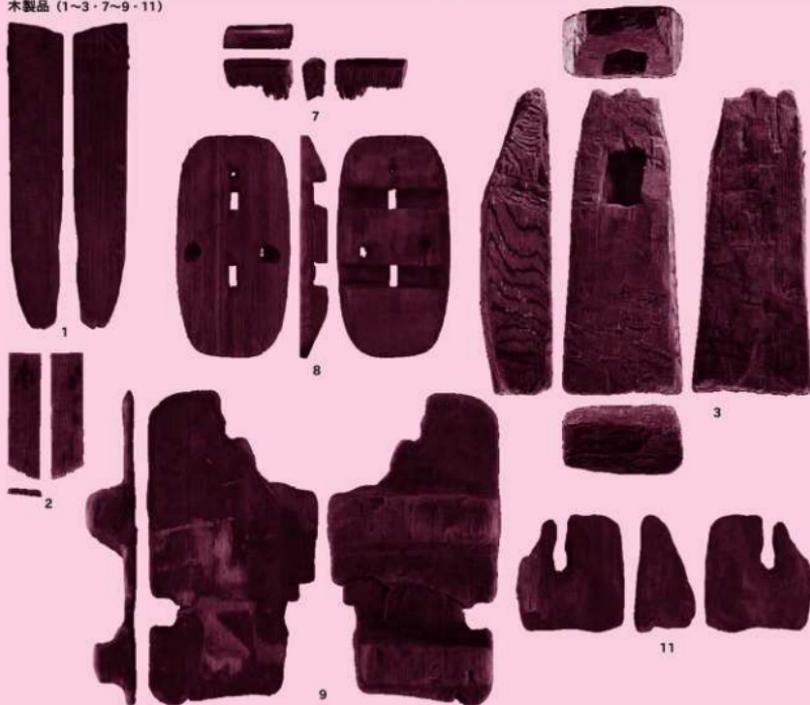
石製品 (5~17)



出土遺物31  
木製品1・2・7  
(S=1:2)  
他  
(S=1:3)

石製品 (2)

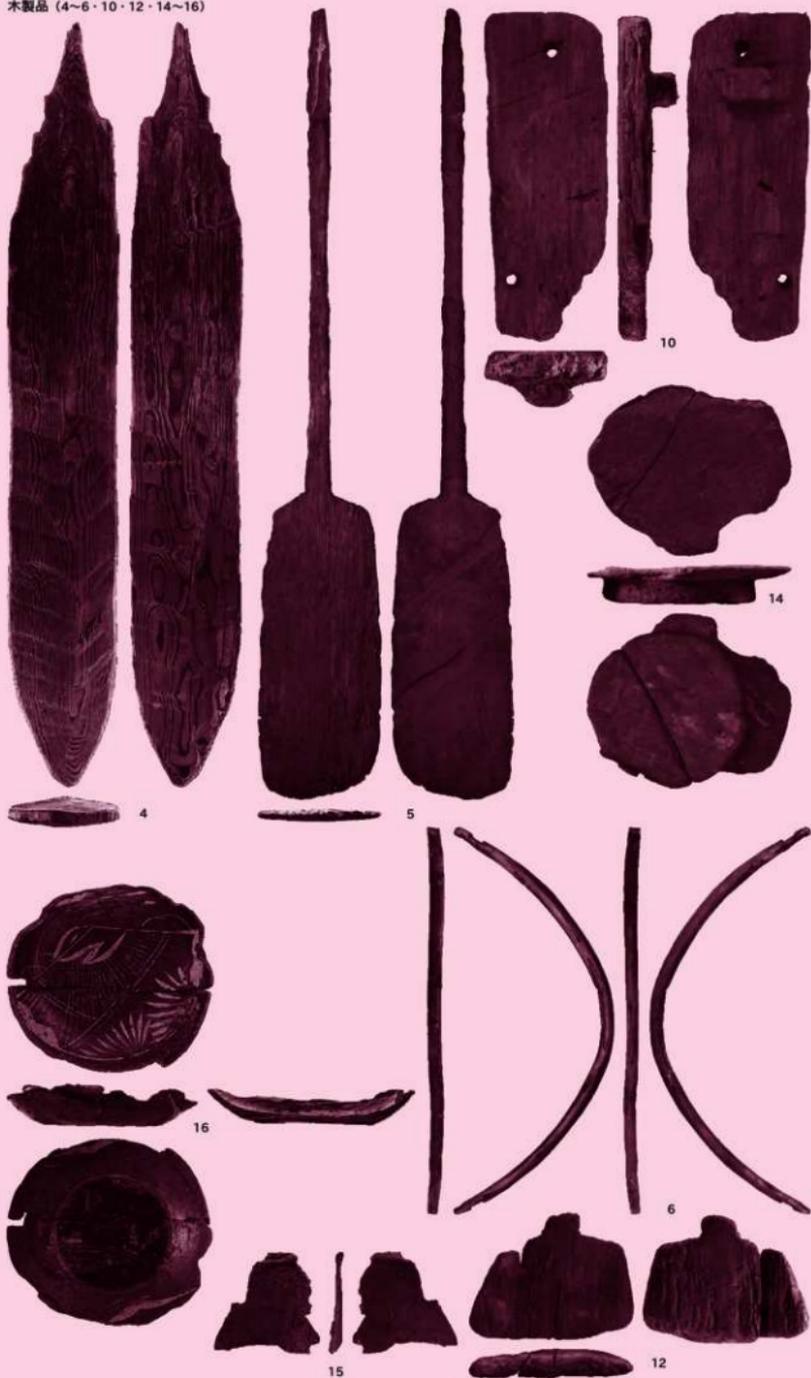
木製品 (1~3・7~9・11)



木製品 (1)

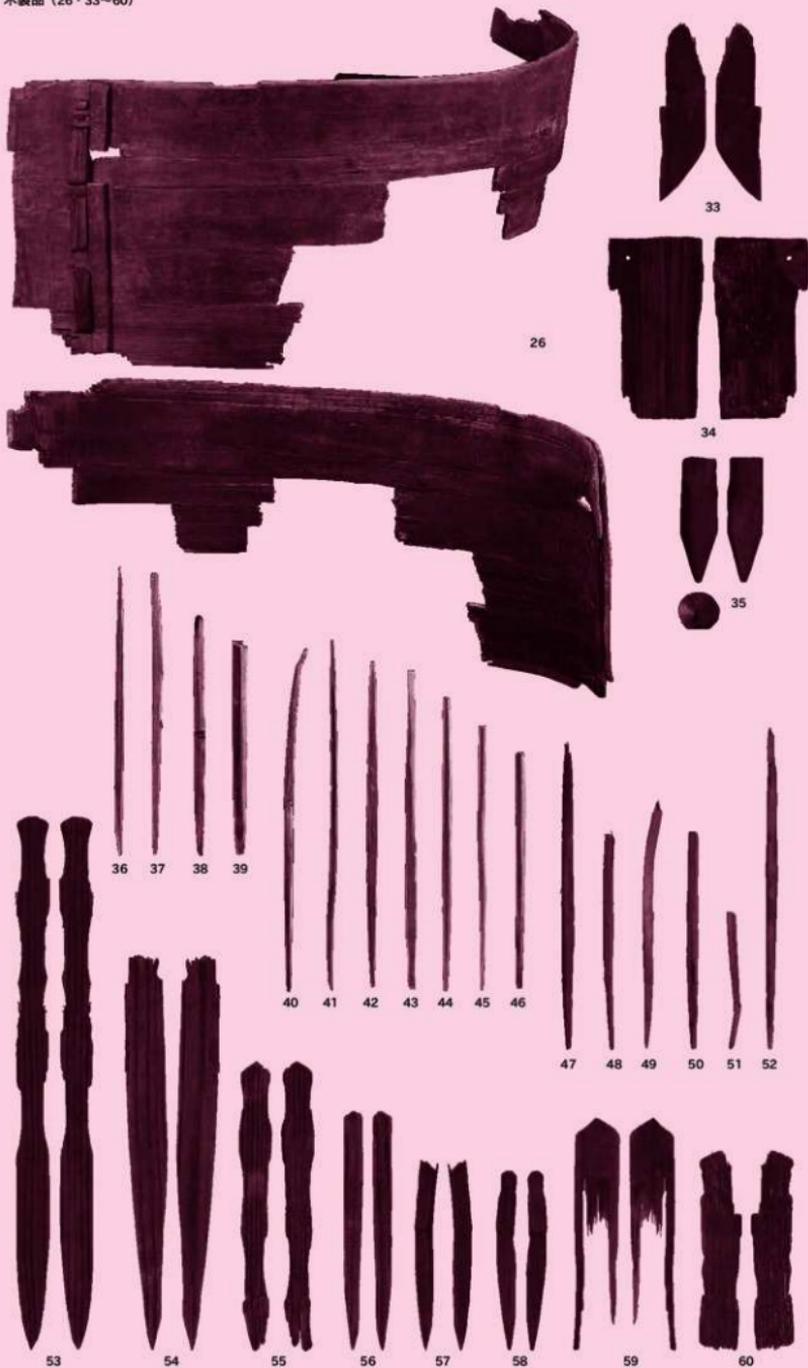
木製品 (4~6・10・12・14~16)

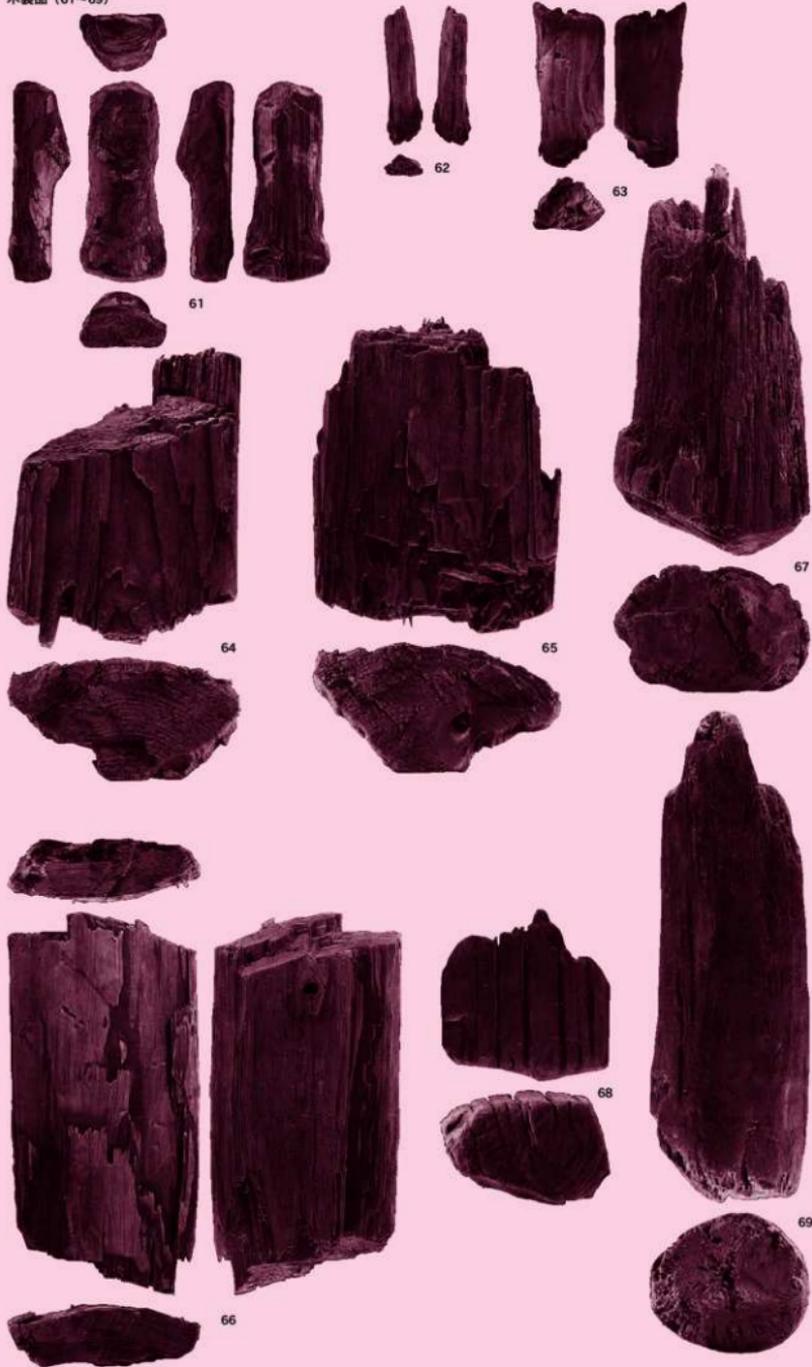
木製品 (2)





木製品 (26・33~60)





木製品 (70~81)



70



71



74



75



76



77



78



83



84



85



86



88



89





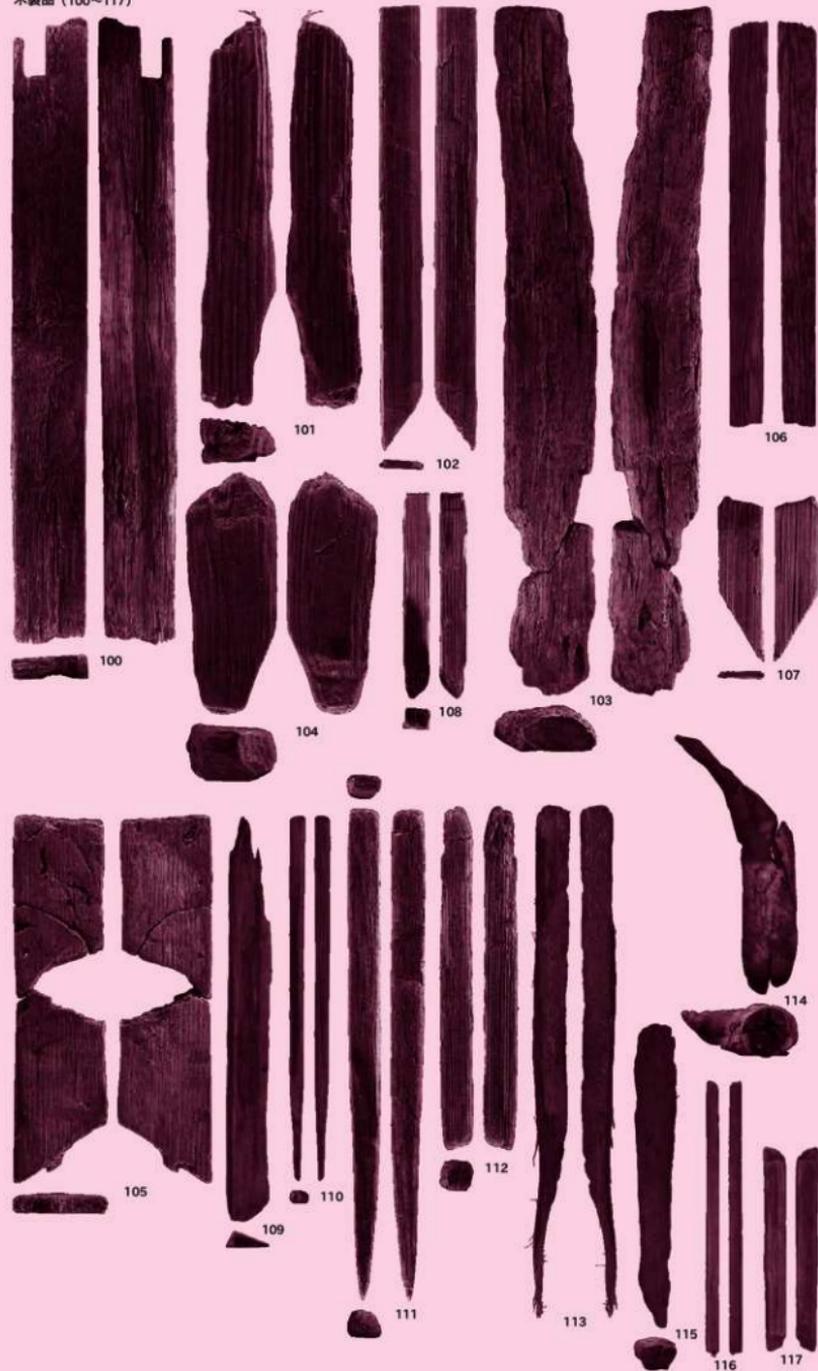
出土遺物37  
82~85・90・  
91  
(S=1:8)  
94  
(S=1:3)  
86~89  
(S=1:6)

木製品 (7)

木製品 (92・93・95~99)

木製品 (8)





出土遺物39  
106・109・  
110・113・  
115  
(S=1:6)  
100・103  
(S=1:8)  
他  
(S=1:3)  
木製品 (9)

## 出土遺物40

金属製品

1・2・4

(S=1:2)

3・5

(S=1:3)

木簡・墨書土器

(S=1:1)

金属製品X線写真

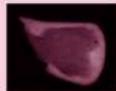
木簡赤外線写真

墨書土器

## 金属製品X線写真 (1~5)



1



2



3

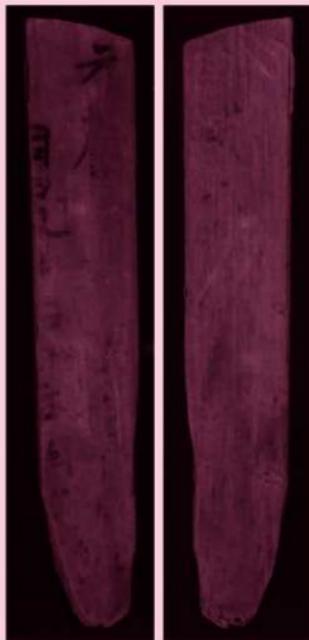


4



5

## 木簡赤外線写真 (1・2)

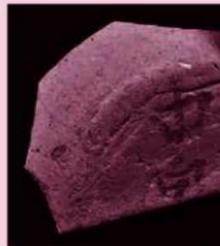


1



2

## 墨書土器



457



474

## 報告書抄録

ふりがな	うまこしいせき はつくつちようさほうこくしょ さん							
書名	馬越遺跡発掘調査報告書 Ⅲ							
副書名	泉宮吉津川地区ほ場整備事業及び送ガス管移設工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	Ⅲ							
シリーズ名	加茂市文化財調査報告(19)							
編著者名	伊藤秀和							
編集機関	加茂市教育委員会 社会教育課							
所在地	〒959-1313 新潟県加茂市幸町2丁目3番5号 TEL. 0256 (52) 0080							
発行年月日	西暦 2010年3月10日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
馬越遺跡	加茂市加茂が原 加茂市大字下条 字馬越甲1763ほか	15209	117	37度 39分 28秒	139度 01分 17秒	20050929～ 20051114 20060807～ 20061117	3,615	泉宮吉津川地区 ほ場整備事業及 び送ガス管移設 工事
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
馬越遺跡	集落跡	古墳時代中期 奈良・平安時代 鎌倉時代	掘立柱建物跡1棟 井戸11基 土坑183基 不明遺構1基 溝410条 ビット516基 河川・自然流路13条		古式土師器・施軸陶器 須恵器・土師器・黒色土器 珠洲焼・土製品・石製品・ 金属製品・木製品		古墳中期古式土師器の 一括出土 木簡・「中家」墨書土器・ 帯金具などが出土 鎌倉時代の井戸跡から 多様な木製品が出土	

### 加茂市文化財調査報告(19)

### 馬越遺跡 Ⅲ

—泉宮吉津川地区ほ場整備事業及び送ガス管移設工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

印刷月日 平成22年3月1日

発行月日 平成22年3月10日

発行・編集者 加茂市教育委員会

〒959-1313 新潟県加茂市幸町2丁目3番5号

TEL. 0256 (52) 0080

印刷所 有限会社いとう印刷

〒959-1378 新潟県加茂市駅前4番4号

TEL. 0256 (52) 0696